



Cisco CallManager アドミニストレーション ガイド

Release 4.2(1)



このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。見当たらない場合には、代理店にご連絡ください。

シスコが採用している TCP ヘッダー圧縮機能は、UNIX オペレーティングシステムの UCB (University of California, Berkeley) パブリックドメインバージョンとして、UCB が開発したプログラムを最適化したものです。All rights reserved.Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、すべてのマニュアルおよび上記各社のソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよび上記各社は、商品性や特定の目的への適合性、権利を侵害しないことに関する、または取り扱い、使用、または取り引きによって発生する、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその代理店は、このマニュアルの使用またはこのマニュアルを使用できないことによって起こる制約、利益の損失、データの損傷など間接的で偶発的に起こる特殊な損害のあらゆる可能性がシスコまたは代理店に知らされていても、それらに対する責任を一切負いかねます。

CCSP、CCVP、Cisco Square Bridge のロゴ、Follow Me Browsing、および StackWise は、Cisco Systems, Inc. の商標です。Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn および iQuick Study は、Cisco Systems, Inc. のサービスマークです。Access Registrar、Aironet、ASIST、BPX、Catalyst、CCDA、CCDP、CCIE、CCIP、CCNA、CCNP、Cisco、Cisco Certified Internetwork Expert のロゴ、Cisco IOS、Cisco Press、Cisco Systems、Cisco Systems Capital、Cisco Systems のロゴ、Cisco Unity、Empowering the Internet Generation、Enterprise/Solver、EtherChannel、EtherFast、EtherSwitch、Fast Step、FormShare、GigaDrive、GigaStack、HomeLink、Internet Quotient、IOS、IP/TV、iQ Expertise、iQ のロゴ、iQ Net Readiness Scorecard、LightStream、Linksys、MeetingPlace、MGX、Networkers のロゴ、Networking Academy、Network Registrar、Packet、PIX、Post-Routing、Pre-Routing、ProConnect、RateMUX、ScriptShare、SlideCast、SMARTnet、StrataView Plus、TeleRouter、The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient、および TransPath は、米国および一部の国における Cisco Systems, Inc. とその関連会社の登録商標です。

このマニュアルまたは Web サイトで言及されているその他の商標はすべて、それぞれの所有者のもので、「パートナー」という語の使用は、シスコと他社の提携関係を意味するものではありません。(0502R)

Cisco CallManager アドミニストレーションガイド

Copyright © 2006 Cisco Systems, Inc.

All rights reserved.



このマニュアルについて	xxvii
目的	xxviii
対象読者	xxviii
マニュアルの構成	xxix
関連マニュアル	xxx
表記法	xxxi
技術情報の入手方法	xxxiii
Cisco.com	xxxiii
Documentation DVD (英語版)	xxxiii
マニュアルの発注方法 (英語版)	xxxiii
シスコシステムズマニュアルセンター	xxxiv
シスコ製品のセキュリティの概要	xxxv
シスコ製品のセキュリティ問題の報告	xxxvi
テクニカル サポート	xxxvii
Cisco Technical Support & Documentation Web サイト	xxxvii
Japan TAC Web サイト	xxxviii
サービス リクエストの発行	xxxviii
サービス リクエストのシビラティの定義	xxxix
その他の資料および情報の入手方法	xi

PART 1

Cisco CallManager の概要

CHAPTER 1

概要 1-1

主な機能と利点 1-2

Cisco CallManager Administration の参照 1-3

Web ブラウザ 1-3

Java ランタイム環境 1-4

Secure Sockets Layer 上のハイパーテキスト転送プロトコル (HTTPS) 1-5

Cisco CallManager Administration での Internet Explorer および HTTPS の使用方法 1-6

Cisco CallManager Administration での Netscape および HTTPS の使用方法 1-8

参考情報 1-10

PART 2

システムの設定

CHAPTER 2

サーバの設定 2-1

サーバの検索 2-2

サーバの追加 2-4

サーバの更新 2-6

サーバの削除 2-7

サーバ設定値 2-9

CHAPTER 3

Cisco CallManager の設定 3-1

Cisco CallManager の検索 3-2

Cisco CallManager の追加 3-5

Cisco CallManager の更新 3-7

Cisco CallManager の削除	3-8
Cisco CallManager の設定値	3-10
Cisco CallManager コンポーネントのバージョンの表示	3-14
Cisco CallManager サービスのアクティブ化および非アクティブ化	3-16

CHAPTER 4

Cisco CallManager グループの設定	4-1
Cisco CallManager グループの検索	4-3
Cisco CallManager グループの追加	4-5
Cisco CallManager グループの更新	4-6
Cisco CallManager グループのコピー	4-8
Cisco CallManager グループの削除	4-9
Cisco CallManager グループの設定値	4-11

CHAPTER 5

日付 / 時間グループの設定	5-1
日付 / 時間グループの検索	5-3
日付 / 時間グループの追加	5-5
日付 / 時間グループの更新	5-7
日付 / 時間グループの削除	5-8
日付 / 時間グループの設定値	5-10

CHAPTER 6

デバイス デフォルトの設定	6-1
デバイス デフォルトの更新	6-2
デバイス デフォルトの設定値	6-4
デフォルト以外のファームウェア ロードを使用するデバイスの検索	6-5

CHAPTER 7

リージョンの設定 7-1

- リージョンの検索 7-2
- リージョンの追加 7-4
- リージョンの更新 7-7
- リージョンの削除 7-8
- リージョンの設定値 7-10

CHAPTER 8

デバイス プールの設定 8-1

- デバイス プールの検索 8-2
- デバイス プールの追加 8-5
- デバイス プールの更新 8-7
- デバイス プールの削除 8-8
- デバイス プールの設定値 8-9

CHAPTER 9

エンタープライズ パラメータの設定 9-1

CHAPTER 10

ロケーションの設定 10-1

- ロケーションの検索 10-3
- ロケーションの追加 10-5
- ロケーションの更新 10-7
- ロケーションの削除 10-8
- ロケーションの帯域幅の再同期化 10-10
- ロケーションの設定値 10-11

CHAPTER 11

自動登録の設定 11-1

- 自動登録の使用可能化 11-2
- 自動登録の使用不可 11-5

自動登録の設定値	11-6
自動登録番号の再使用	11-9

CHAPTER 12

物理ロケーションの設定 12-1

物理ロケーションの検索	12-2
物理ロケーションの追加	12-3
物理ロケーションの更新	12-4
物理ロケーションのコピー	12-5
物理ロケーションの削除	12-6
物理ロケーションの設定値	12-7

CHAPTER 13

Survivable Remote Site Telephony の設定 13-1

SRST リファレンスの検索	13-2
SRST リファレンスの追加	13-4
SRST リファレンスの更新	13-5
SRST リファレンスのコピー	13-6
SRST リファレンスの削除	13-7
SRST リファレンスの設定値	13-9

PART 3

ルートの設定

CHAPTER 14

自動代替ルーティングのグループ設定 14-1

AAR グループの検索	14-3
AAR グループの追加	14-5
AAR グループの更新	14-6
AAR グループの削除	14-7
AAR グループの設定値	14-9

CHAPTER 15

アプリケーションのダイヤル規則設定	15-1
ダイヤル規則の追加	15-2
ダイヤル規則の変更	15-3
ダイヤル規則の更新	15-3
ダイヤル規則の削除	15-4
ダイヤル規則の優先順位の変更	15-5

CHAPTER 16

ルートフィルタの設定	16-1
ルートフィルタの特定	16-3
ルートフィルタの追加	16-5
ルートフィルタの更新	16-6
ルートフィルタのコピー	16-7
ルートフィルタの設定値	16-9
ルートフィルタ クローズの追加	16-10
ルートフィルタ クローズの削除	16-12
ルートフィルタの削除	16-14
ルートフィルタ タグの説明	16-16

CHAPTER 17

時間帯 (Time Period) の設定	17-1
時間帯の検索	17-2
時間帯の追加	17-4
時間帯の更新	17-5
時間帯のコピー	17-6
時間帯の削除	17-7
時間帯の設定値	17-9

CHAPTER 18

タイム スケジュールの設定	18-1
タイム スケジュールの検索	18-2
タイム スケジュールの追加	18-4
タイム スケジュールの更新	18-5
タイム スケジュールのコピー	18-6
タイム スケジュールの削除	18-8
タイム スケジュールの設定値	18-10

CHAPTER 19

パーティションの設定	19-1
パーティションの特定	19-2
パーティションの追加	19-4
パーティションの更新	19-5
パーティションの削除	19-6
パーティションの設定値	19-8
パーティションの検索	19-12

CHAPTER 20

コーリング サーチ スペースの設定	20-1
コーリング サーチ スペースの検索	20-2
コーリング サーチ スペースの追加	20-4
コーリング サーチ スペースの更新	20-5
コーリング サーチ スペースのコピー	20-6
コーリング サーチ スペースの削除	20-8
コーリング サーチ スペースの設定値	20-10

CHAPTER 21

ルート グループの設定	21-1
ルート グループの検索	21-2
ルート グループの追加	21-4

ルート グループへのデバイスの追加	21-6
ルート グループからのデバイスの削除	21-8
ルート グループの更新	21-9
ルート グループの削除	21-10
ルート グループの設定値	21-12

CHAPTER 22

ルート リストの設定 22-1

ルート リストの検索	22-2
ルート リストの追加	22-5
ルート リストへのルート グループの追加	22-8
ルート リストからのルート グループの削除	22-11
ルート リスト内のルート グループの順位の変更	22-13
ルート リストの削除	22-15

CHAPTER 23

ルート パターンの設定 23-1

ルート パターンの検索	23-2
ルート パターンの追加	23-5
ルート パターンの更新	23-7
ルート パターンのコピー	23-8
ルート パターンの削除	23-10
ルート パターンの設定値	23-11

CHAPTER 24

回線グループの設定 24-1

回線グループの検索	24-2
回線グループの追加	24-4
回線グループへのメンバーの追加	24-6
回線グループからのメンバーの削除	24-8

回線グループの更新	24-9
回線グループの削除	24-10
回線グループの設定値	24-12

CHAPTER 25

ハン ト リ ス ト の 設 定	25-1
ハン ト リ ス ト の 検 索	25-2
ハン ト リ ス ト の 追 加	25-5
ハン ト リ ス ト へ の 回 線 グ ル ー プ の 追 加	25-8
ハン ト リ ス ト か ら の 回 線 グ ル ー プ の 削 除	25-10
ハン ト リ ス ト 内 の 回 線 グ ル ー プ の 順 位 の 変 更	25-12
ハン ト リ ス ト の 削 除	25-13

CHAPTER 26

ハン ト パ イ ロ ッ ト の 設 定	26-1
ハン ト パ イ ロ ッ ト の 検 索	26-2
ハン ト パ イ ロ ッ ト の 追 加	26-5
ハン ト パ イ ロ ッ ト の 更 新	26-7
ハン ト パ イ ロ ッ ト の コ ピ ー	26-8
ハン ト パ イ ロ ッ ト の 削 除	26-10
ハン ト パ イ ロ ッ ト の 設 定 値	26-11

CHAPTER 27

変 換 パ タ ー ン の 設 定	27-1
変 換 パ タ ー ン の 検 索	27-2
変 換 パ タ ー ン の 追 加	27-5
変 換 パ タ ー ン の 更 新	27-6
変 換 パ タ ー ン の コ ピ ー	27-7
変 換 パ タ ー ン の 削 除	27-8
変 換 パ タ ー ン の 設 定 値	27-10

CHAPTER 28

外部ルート プラン ウィザード	28-1
外部ルート プランの作成	28-2
ルーティング オプションの設定	28-3
テナント情報の指定	28-5
ロケーション情報の入力	28-6
ゲートウェイの選択	28-8
ゲートウェイ情報の指定	28-9
外部ルート プランの生成	28-11
外部ルート プランの確認	28-12
外部ルート プランの完成	28-13
外部ルート プランの削除	28-14

CHAPTER 29

ルート プラン レポート	29-1
ルート プラン レコードの表示	29-2
割り当てられていない電話番号の削除	29-5
割り当てられていない電話番号の更新	29-6
ファイル内のルート プラン レポートの表示	29-8

PART 4

サービスの設定

CHAPTER 30

Cisco IPMA Configuration Wizard	30-1
--	-------------

CHAPTER 31

Cisco CallManager Attendant Console の設定	31-1
--	-------------

CHAPTER 32

Annunciator の設定	32-1
始める前に	32-2
Annunciator の検索	32-3

Annunciator の追加	32-5
Annunciator の更新	32-7
Annunciator のコピー	32-8
Annunciator のリセット	32-9
Annunciator の削除	32-10
Annunciator の設定値	32-12
アナウンスのカスタマイズ	32-13

CHAPTER 33

Conference Bridge の設定	33-1
Conference Bridge の検索	33-3
ソフトウェア コンファレンス デバイスの追加	33-6
ソフトウェア Conference Bridge の設定値	33-8
ハードウェア コンファレンス デバイスの追加	33-10
ハードウェア Conference Bridge の設定値	33-12
Cisco IOS Conference Bridge デバイスの追加	33-14
Cisco IOS Conference Bridge の設定値	33-16
Cisco Video Conference Bridge デバイスの追加	33-17
Cisco Video Conference Bridge の設定値	33-19
Cisco Conference Bridge (WS-SVC-CMM) デバイスの追加	33-21
Cisco Conference Bridge (WS-SVC-CMM) の設定値	33-23
コンファレンス デバイスの更新	33-25
コンファレンス デバイスの削除	33-27
Conference Bridge のパラメータの更新	33-29

CHAPTER 34

メディア ターミネーション ポイントの設定	34-1
メディア ターミネーション ポイントの検索	34-3

メディア ターミネーション ポイントの追加	34-6
メディア ターミネーション ポイントの更新	34-8
メディア ターミネーション ポイントの削除	34-10
ソフトウェア メディア ターミネーション ポイントの設定値	34-12
Cisco IOS MTP の設定値	34-13

CHAPTER 35

Music On Hold オーディオ ソースの設定	35-1
-----------------------------------	-------------

CHAPTER 36

Music On Hold サーバの設定	36-1
-----------------------------	-------------

CHAPTER 37

トランスコーダの設定	37-1
トランスコーダの特定	37-2
トランスコーダの設定	37-5
トランスコーダの更新	37-6
トランスコーダのコピー	37-7
トランスコーダのリセット	37-8
トランスコーダの削除	37-9
トランスコーダの設定値	37-11

CHAPTER 38

メディア リソース グループの設定	38-1
メディア リソース グループの検索	38-3
メディア リソース グループの追加	38-6
メディア リソース グループの更新	38-8
メディア リソース グループのコピー	38-10
メディア リソース グループの削除	38-12
メディア リソース グループの設定値	38-14

CHAPTER 39

メディア リソース グループ リストの設定	39-1
メディア リソース グループ リストの検索	39-2
メディア リソース グループ リストの追加	39-5
メディア リソース グループ リストの更新	39-7
メディア リソース グループ リストのコピー	39-9
メディア リソース グループ リストの削除	39-11
メディア リソース グループ リストの設定値	39-13

CHAPTER 40

サービス パラメータの設定	40-1
サーバ上のサービスに対するサービス パラメータの設定	40-3
サービス用のパラメータの表示	40-5

PART 5

機能の設定

CHAPTER 41

コール パーク	41-1
----------------	-------------

CHAPTER 42

ディレクトッド コール パーク	42-1
------------------------	-------------

CHAPTER 43

コール ピックアップ グループの設定	43-1
コール ピックアップ グループ番号の検索	43-3
コール ピックアップ グループの追加	43-6
コール ピックアップ グループのコピー	43-7
コール ピックアップ グループの更新	43-8
コール ピックアップ グループの削除	43-9
他グループ コール ピックアップに関するピックアップ グループ の定義	43-10
コール ピックアップ グループの設定値	43-12
コール ピックアップ グループの電話番号への割り当て	43-17

CHAPTER 44

Cisco IP Phone サービスの設定	44-1
Cisco IP Phone サービスの検索	44-3
Cisco IP Phone サービスの追加	44-6
Cisco IP Phone サービスの更新	44-7
Cisco IP Phone サービスの削除	44-9
Cisco IP Phone サービスの設定値	44-11
Cisco IP Phone サービス パラメータの追加	44-12
Cisco IP Phone サービス パラメータの更新	44-14
Cisco IP Phone サービス パラメータの削除	44-16
Cisco IP Phone サービス パラメータの設定値	44-18
Cisco IP Phone サービスの電話ボタンへの追加	44-19

CHAPTER 45

クライアント マターコード (CMC)	45-1
----------------------------	-------------

CHAPTER 46

Forced Authorization Code (FAC)	46-1
--	-------------

CHAPTER 47

Meet-Me Number/Pattern の設定	47-1
Meet-Me Number/Pattern の検索	47-2
Meet-Me Number/Pattern のコピー	47-4
Meet-Me Number/Pattern の追加	47-6
Meet-Me Number/Pattern の更新	47-7
Meet-Me Number/Pattern の削除	47-9
Meet-Me Number/Pattern の設定値	47-10

CHAPTER 48

デバイス モビリティ グループの設定	48-1
デバイス モビリティ グループの検索	48-2
デバイス モビリティ グループの追加	48-3

デバイス モビリティ グループの更新	48-4
デバイス モビリティ グループのコピー	48-5
デバイス モビリティ グループの削除	48-6
デバイス モビリティ グループの設定値	48-7

CHAPTER 49

デバイス モビリティ 情報の設定	49-1
デバイス モビリティ 情報の検索	49-2
デバイス モビリティ 情報の追加	49-3
デバイス モビリティ 情報の更新	49-4
デバイス モビリティ 情報のコピー	49-5
デバイス モビリティ 情報の削除	49-6
デバイス モビリティ 情報の設定値	49-7

CHAPTER 50

Cisco ボイスメール ポートの設定	50-1
Cisco ボイスメール ポートの検索	50-2
Cisco ボイスメール ポートの追加	50-5
Cisco ボイスメール ポートの削除	50-6
Cisco ボイスメール ポートの更新	50-8
既存の Cisco ボイスメール ポートのコピー	50-9
Cisco ボイスメール ポートの設定値	50-11

CHAPTER 51

Cisco ボイスメール ポート ウィザード	51-1
新規の Cisco ボイスメール サーバとポートの追加	51-2
既存の Cisco ボイスメール サーバへのポートの追加	51-9
既存の Cisco ボイスメール サーバからのポートの削除	51-12

CHAPTER 52

メッセージ受信の設定 52-1

メッセージ受信番号の検索 52-2

メッセージ受信の設定 52-5

メッセージ受信の設定値 52-6

CHAPTER 53

Cisco ボイスメールパイロットの設定 53-1

Cisco ボイスメールパイロットの検索 53-2

ボイスメールパイロット番号の設定 53-5

ボイスメールパイロット番号の削除 53-6

ボイスメールパイロットの設定値 53-8

CHAPTER 54

ボイスメールプロファイルの設定 54-1

ボイスメールプロファイルの検索 54-2

ボイスメールプロファイルのコピー 54-3

ボイスメールプロファイルの削除 54-4

ボイスメールプロファイルの設定 54-6

ボイスメールプロファイルの設定値 54-7

PART 6

デバイスの設定

CHAPTER 55

デバイスの設定 55-1

Cisco CallManager へのデバイスの追加 55-2

デバイスの再起動またはリセット 55-2

CHAPTER 56

CTI ルートポイントの設定 56-1

CTI ルートポイントの追加 56-2

CTI ルートポイントの変更 56-4

CTI ルート ポイントの削除	56-5
CTI ルート ポイントの検索	56-7
CTI ルート ポイントのリセット	56-9
CTI ルート ポイントの設定値	56-11

CHAPTER 57

共通プロファイルの設定 57-1

共通プロファイルの検索	57-2
共通プロファイルの追加	57-3
共通プロファイルの更新	57-4
共通プロファイルのコピー	57-5
共通プロファイルの削除	57-6
共通プロファイルの設定値	57-8

CHAPTER 58

デバイス プロファイルの設定 58-1

デバイス プロファイルの検索	58-3
新規ユーザ デバイス プロファイルの追加	58-5
ユーザ デバイス プロファイルの更新	58-10
ユーザ デバイス プロファイルの削除	58-11
自動生成されたデバイス プロファイルの更新	58-13
自動生成デバイス プロファイル用の新規電話番号の設定	58-15

CHAPTER 59

デバイス プロファイル デフォルトの設定 59-1

新規デバイス プロファイル デフォルトの追加	59-3
デバイス プロファイル デフォルトの更新	59-5
デバイス プロファイル デフォルトの削除	59-6
サービスのデバイス プロファイル デフォルトへの登録	59-7
デバイス プロファイル デフォルトの設定値	59-8

CHAPTER 60

ゲートキーパーの設定 60-1

ゲートキーパーの検索	60-3
ゲートキーパーの追加	60-6
ゲートキーパーの削除	60-7
ゲートキーパーの変更	60-9
ゲートキーパーのリセット	60-10
ゲートキーパーの設定値	60-12

CHAPTER 61

ゲートウェイの設定 61-1

Cisco CallManager へのゲートウェイの追加	61-2
Cisco IOS MGCP ゲートウェイの追加	61-4
MGCP ゲートウェイへのポートの追加	61-8
MGCP ゲートウェイへの FXS ポートの追加	61-8
MGCP ゲートウェイへの FXO ポートの追加	61-10
MGCP ゲートウェイへの T1-CAS ポートの追加	61-12
MGCP ゲートウェイへの T1 PRI または E1 PRI デバイスの追加	61-13
MGCP ゲートウェイへの BRI ポートの追加	61-14
Cisco IOS SCCP ゲートウェイの追加	61-15
IOS 以外の MGCP ゲートウェイの追加	61-17
Cisco IOS H.323 ゲートウェイの追加	61-19
Analog Access ゲートウェイとポートの追加	61-20
Cisco VG248 Analog Phone Gateway の追加	61-22
ゲートウェイの設定値	61-25
MGCP ゲートウェイの設定値	61-26
FXS/FXO ゲートウェイの設定値	61-30
E1/T1 PRI ゲートウェイの設定値	61-36

BRI ゲートウェイの設定値	61-57
T1-CAS ゲートウェイの設定値	61-70
H.323 ゲートウェイの設定値	61-77
Analog Access ゲートウェイの設定値	61-90
Cisco VG248 Gateway の設定値	61-94
Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値	61-96
ポートの設定値	61-101
POTS ポートの設定値	61-101
ループ スタート ポートの設定値	61-104
グラウンド スタート ポートの設定値	61-106
E & M ポートの設定値	61-108
特定のゲートウェイの検索	61-110
デバイス名による検索	61-110
説明による検索	61-112
電話番号およびルート パターンによる検索	61-114
コーリング サーチ スペースによる検索	61-116
デバイス プールによる検索	61-118
ルート グループによる検索	61-120
デバイス タイプによる検索	61-122
ゲートウェイとポートの変更	61-124
Dependency Records の使用方法	61-124
ゲートウェイの削除	61-124
ゲートウェイのリセットと再起動	61-126
ゲートウェイとポートの更新	61-127

電話機の MAC アドレスの表示	62-4
電話機の追加	62-5
既存の電話機のコピー	62-8
電話機のリセット	62-10
電話機の更新	62-12
電話機の削除	62-13
電話機の設定値	62-15
ユーザ ID の検索	62-37
短縮ダイヤル ボタンの設定	62-38
短縮ダイヤルの設定値	62-39
ディレクテッド コール パークの Busy Lamp Field 設定値の設定	62-40
BLF の設定値	62-41
Cisco IP Phone サービスの設定	62-43
サービスへの加入	62-43
サービスの更新	62-45
サービスの加入解除	62-46
サービス URL ボタンの設定	62-47
サービス URL ボタンの追加	62-47
サービス URL ボタンの更新	62-49
電話機の検索	62-50
電話番号の設定	62-52
電話番号の追加	62-52
電話番号の更新	62-55
電話機からの電話番号の削除	62-56
Cisco Unity ボイスメールボックスの作成	62-58
電話番号の設定値	62-60

CHAPTER 63

トランクの設定	63-1
トランクの検索	63-2
トランクの追加	63-4
トランクの削除	63-5
トランクの変更	63-7
トランクのリセット	63-9
トランクの設定値	63-11

CHAPTER 64

電話ボタン テンプレートの設定	64-1
電話ボタン テンプレートの検索	64-3
電話ボタン テンプレートの追加	64-5
電話ボタンの設定値	64-7
電話ボタン テンプレートの変更	64-8
電話ボタン テンプレートの名前変更	64-8
電話ボタン テンプレートの削除	64-10
電話ボタン テンプレートの更新	64-12
Cisco IP Phone Expansion Module 7914 Phone ボタン テンプレートの設定	64-14

CHAPTER 65

ソフトキー テンプレートの設定	65-1
ソフトキー テンプレートの検索	65-2
非標準ソフトキー テンプレートの追加	65-5
非標準ソフトキー テンプレートへのアプリケーション ソフトキーの追加	65-7
非標準ソフトキー テンプレートにおけるソフトキーの位置の設定	65-9
ソフトキー テンプレートの変更	65-11
ソフトキー テンプレートの名前変更	65-11

ソフトキー テンプレートの削除	65-12
ソフトキー テンプレートの更新	65-14
IP Phone へのソフトキー テンプレートの割り当て	65-16
ソフトキーの英日対応表	65-17

CHAPTER 66

CAPF レポートの生成 66-1

PART 7

ユーザの設定

CHAPTER 67

新規ユーザの追加 67-1

ユーザの追加	67-2
Cisco Unity ボイスメールボックスの作成	67-3
ユーザの設定値	67-5
ユーザ パスワードの変更	67-10
PIN の変更	67-12
アプリケーション プロファイルの設定	67-13
ユーザとデバイスとの関連付け	67-13
自動アテンダント プロファイルの関連付け	67-15
Cisco CallManager エクステンション モビリティ プロファイルの関連付け	67-16
Cisco IP SoftPhone プロファイルの関連付け	67-17

CHAPTER 68

Global Directory の検索 68-1

基本検索の使用方法	68-2
詳細検索の使用方法	68-4

CHAPTER 69

Multilevel Administration の設定 69-1

MLA の使用可能化	69-3
------------	------

機能グループ	69-5
機能グループの追加	69-5
機能グループの更新	69-6
機能グループの削除	69-7
ユーザグループ	69-9
ユーザグループの追加	69-9
ユーザグループの削除	69-10
ユーザグループへのユーザの追加	69-11
ユーザグループからのユーザの削除	69-13
ユーザグループの特権	69-15
ユーザグループへの特権の割り当て	69-15
特権レポートの表示	69-16
ユーザの特権の表示	69-17
MLA のエンタープライズ パラメータの設定	69-18
MLA の終了	69-20

PART 8

アプリケーションの設定

CHAPTER 70

プラグインの設定 70-1

プラグインのインストール	70-2
プラグイン URL 更新	70-3
プラグイン URL 更新の設定値	70-4

PART 9

付録

APPENDIX A

Dependency Records A-1

Dependency Records の使用可能化	A-2
---------------------------	-----

Dependency Records の使用不可	A-3
Dependency Records へのアクセス	A-4
Dependency Records ボタン	A-6

APPENDIX B

Cisco CallManager からのサブスクリバ サーバの削除 B-1

SQL 複製情報の削除	B-2
パブリッシャの RemoveServerFromDB.bat スクリプトの実行	B-2
サブスクリバの RemoveSubscription.bat スクリプトの実行	B-3
冗長 DCD 複製許諾契約の削除	B-4
RemoveServerFromDB.bat スクリプト ファイルの内容	B-5
RemoveSubscription.bat スクリプト ファイルの内容	B-6

APPENDIX C

Cisco Unity ボイスメール ポートの調整 C-1

Cisco Unity ボイスメール ポートの変更	C-2
Cisco CallManager 4.0 以降のリリースへのアップグレード後の変更	C-2
Cisco CallManager 4.0 以降のリリースにアップグレードする前の作業	C-4
Cisco Unity フェールオーバー ボイスメール ポートのセットアップ	C-4

INDEX

索引



このマニュアルについて

ここでは、このマニュアルの目的、対象読者、構成、および表記法、そして関連資料の入手方法について説明します。



(注)

このマニュアルに記載されているシスコ製品の情報は、最新のものでない場合があります。次の URL からシスコの製品マニュアルのページにアクセスすることにより、最新資料を入手できます。

<http://www.cisco.com/univercd/home/home.htm>

ここでは、次の内容について説明します。

- [目的 \(P.xxviii \)](#)
- [対象読者 \(P.xxviii \)](#)
- [マニュアルの構成 \(P.xxix \)](#)
- [関連マニュアル \(P.xxx \)](#)
- [表記法 \(P.xxxi \)](#)
- [技術情報の入手方法 \(P.xxxiii \)](#)
- [シスコ製品のセキュリティの概要 \(P.xxxv \)](#)
- [テクニカル サポート \(P.xxxvii \)](#)
- [その他の資料および情報の入手方法 \(P.xl \)](#)

目的

『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』では、Cisco CallManager システムの管理に必要な手順を説明します。このマニュアルには、Cisco CallManager Administration を使用して行う作業手順の説明があります。さらに、『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』は Cisco CallManager を使用する際に役立つコマンドの解説も記述しています。このマニュアルは、『Cisco CallManager システムガイド』と併せてお読みください。システムガイドでは、Cisco CallManager Administration を使用して機能をセットアップする場合のヒントを提供しています。その他にも、Cisco CallManager とそのコンポーネントの概要について記述しています。

対象読者

『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』は、Cisco CallManager システムの管理を担当するネットワーク管理者を対象にしています。テレフォニーおよび IP ネットワーキングテクノロジーに関する知識が必要です。

マニュアルの構成

次の表に、このマニュアルの構成を示します。

各部構成	説明
第 1 部	「Cisco CallManager の概要」 Cisco CallManager の設定と動作に関する概要を全般的に説明しています。
第 2 部	「システムの設定」 Cisco CallManager が使用するシステム パラメータの設定方法を説明しています。
第 3 部	「ルートの設定」 Cisco CallManager でルート プランを設定する方法を説明しています。
第 4 部	「サービスの設定」 Cisco CallManager と連携して使用されるサービスを設定する方法を説明しています。
第 5 部	「機能の設定」 ユーザ機能を設定する方法を説明しています。
第 6 部	「デバイスの設定」 Cisco CallManager でデバイスを設定する方法を説明しています。
第 7 部	「ユーザの設定」 ユーザ情報とディレクトリ情報を設定する方法を説明しています。
第 8 部	「アプリケーションの設定」 プラグイン アプリケーションとアプリケーション インターフェイスを設定する方法を説明しています。
第 9 部	「付録」 Dependency Records を有効にして使用方法、サブスライバ サーバの取り外し方法、および Cisco Unity ボイスメール ポートの変更について説明しています。

関連マニュアル

Cisco IP テレフォニー関連のアプリケーションと製品の詳細については、次の資料を参照してください。

- *Cisco CallManager Release 4.2(1) インストレーション ガイド*
- *Cisco CallManager Release 4.2(1) アップグレード手順*
- *Cisco IP Telephony Backup and Restore System (BARS) Administration Guide*
- *Release Notes for Cisco CallManager Release 4.2(1)*
- *Cisco CallManager システム ガイド*
- *Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド*
- *Cisco CallManager Serviceability システム ガイド*
- *Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド*
- *Cisco CallManager トラブルシューティング ガイド*
- *Cisco IP Phone アドミニストレーション ガイド for Cisco CallManager*
- *Cisco CallManager Bulk Administration Tool ユーザ ガイド*

表記法

このマニュアルでは、次の表記法を使用しています。

表記法	説明
太字	コマンドおよびキーワードは、 太字 で示しています。
イタリック体	ユーザが値を指定する引数は、 <i>イタリック体</i> で示しています。
[]	角カッコの中の要素は、省略可能です。
{ x y z }	必ずどれか 1 つを選択しなければならない必須キーワードは、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
[x y z]	どれか 1 つを選択できる省略可能なキーワードは、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
ストリング	引用符を付けない一組の文字。ストリングの前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めてストリングとみなされます。
screen フォント	システムが表示する端末セッションおよび情報は、 <code>screen</code> フォントで示しています。
太字の screen フォント	ユーザが入力しなければならない情報は、 太字の screen フォントで示しています。
イタリック体の screen フォント	ユーザが値を指定する引数は、 <i>イタリック体の screen</i> フォントで示しています。
→	このポインタは、例文中の重要な行を強調表示します。
^	^ 記号は、Control キーを表します。たとえば、画面に表示される ^D というキーの組み合わせは、Control キーを押しながら D キーを押すことを意味します。
< >	パスワードのように出力されない文字は、山カッコで囲んで表します。

(注)は、次のように表しています。



(注) 「注釈」です。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。

ワンポイントアドバイスは、次のように表しています。



ワンポイント・アドバイス

時間を節約する方法です。ここに紹介している方法で作業を行うと、時間を短縮できます。

ヒントは、次のように表しています。



ヒント

便利なヒントです。

注意は、次のように表しています。



注意

「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

警告は、次のように表しています。



警告

「危険」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。機器の作業を行うときは、電気回路の危険性および一般的な事故防止対策に十分注意してください。

技術情報の入手方法

シスコの製品マニュアルやその他の資料は、Cisco.com でご利用いただけます。また、テクニカル サポートおよびその他のリソースを、さまざまな方法で入手することができます。ここでは、シスコ製品に関する技術情報を入手する方法について説明します。

Cisco.com

次の URL から、シスコ製品の最新資料を入手することができます。

<http://www.cisco.com/univercd/home/home.htm>

シスコの Web サイトには、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com>

また、シスコの Web サイトの各国語版には、次の URL からアクセスできます。

http://www.cisco.com/public/countries_languages.shtml

シスコ製品の最新資料の日本語版は、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/jp>

Documentation DVD (英語版)

シスコ製品のマニュアルおよびその他の資料は、製品に付属の Product Documentation DVD パッケージでご利用いただけます。Product Documentation DVD は定期的に更新されるので、印刷資料よりも新しい情報が得られます。

Product Documentation DVD は、技術情報を包含する製品マニュアルをポータブルなメディアに格納した、包括的なライブラリです。この DVD を使用することにより、シスコ製の各ハードウェアやソフトウェアのインストール、コンフィギュレーション、およびコマンドに関する複数のバージョンのマニュアルにアクセスし、技術情報を HTML で参照できます。また、この DVD を使用すると、シスコの Web サイトで参照できるのと同じマニュアルに、インターネットに接続せずにアクセスできます。一部の製品については、PDF 版のマニュアルもご利用いただけます。

Product Documentation DVD は、1 回単位で入手することも、または定期購読することもできます。Cisco.com 登録ユーザ (Cisco Direct Customers) の場合、次の URL で Cisco Marketplace から Product Documentation DVD (Product Number DOC-DOCDVD=) を発注できます。

<http://www.cisco.com/go/marketplace/>

マニュアルの発注方法 (英語版)

2005 年 6 月 30 日以降、Cisco.com 登録ユーザの場合、Cisco Marketplace の Product Documentation Store からシスコ製品の英文マニュアルを発注できるようになっています。次の URL にアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/marketplace/>

Cisco.com に登録されていない場合、製品を登録された代理店へお問い合わせください。

シスコシステムズマニュアルセンター

シスコシステムズマニュアルセンターでは、シスコ製品の日本語マニュアルの最新版を PDF 形式で公開しています。また、日本語マニュアル、および日本語マニュアル CD-ROM もオンラインで発注可能です。ご希望の方は、次の URL にアクセスしてください。

<http://www2.hipri.com/cisco/>

また、シスコシステムズマニュアルセンターでは、日本語マニュアル中の誤記、誤植に関するコメントをお受けしています。次の URL の「製品マニュアル内容不良報告」をクリックすると、コメント入力画面が表示されます。

<http://www2.hipri.com/cisco/>

なお、技術内容に関するお問い合わせは、この Web サイトではお受けできませんので、製品を購入された各代理店へお問い合わせください。

シスコ製品のセキュリティの概要

シスコでは、オンラインの Security Vulnerability Policy ポータル（英文のみ）を無料で提供しています。URL は次のとおりです。

http://www.cisco.com/en/US/products/products_security_vulnerability_policy.html

このサイトは、次の目的に利用できます。

- シスコ製品のセキュリティ脆弱性を報告する。
- シスコ製品に伴うセキュリティ事象についてサポートを受ける。
- シスコからセキュリティ情報を受け取るための登録をする。

シスコ製品に関するセキュリティ勧告および注意事項の最新のリストには、次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/go/psirt>

勧告および注意事項がアップデートされた時点でリアルタイムに確認する場合は、次の URL から Product Security Incident Response Team Really Simple Syndication (PSIRT RSS) フィードにアクセスしてください。

http://www.cisco.com/en/US/products/products_psirt_rss_feed.html

本製品には暗号化機能が備わっており、輸入、輸出、配布および使用に適用される米国および他の国での法律を順守するものとします。シスコの暗号化製品を譲渡された第三者は、その暗号化技術の輸入、輸出、配布、および使用を許可されたわけではありません。輸入業者、輸出業者、販売業者、およびユーザは、米国および他の国での法律を順守する責任があります。本製品を使用するにあたっては、関係法令の順守に同意する必要があります。米国および他の国の法律を順守できない場合は、本製品を至急送り返してください。

シスコの暗号化製品に適用される米国の法律の概要については、

<http://www.cisco.com/wwl/export/crypto/tool/stqrg.html> で参照できます。何かご不明な点があれば、export@cisco.com まで電子メールを送信してください。

シスコ製品のセキュリティ問題の報告

シスコでは、セキュアな製品を提供すべく全力を尽くしています。製品のリリース前には内部でテストを行い、すべての脆弱性を早急に修正するよう努力しています。万一、シスコ製品に脆弱性が見つかった場合は、PSIRT にご連絡ください。

- 緊急の場合: security-alert@cisco.com (英語のみ)
緊急とは、システムがアクティブな攻撃を受けている場合、または至急の対応を要する重大なセキュリティ上の脆弱性が報告されている場合を指します。これに該当しない場合はすべて、緊急でないと見なされます。
- 緊急でない場合: psirt@cisco.com (英語のみ)

緊急の場合は、電話で PSIRT に連絡することもできます。

- 1 877 228-7302 (英語のみ)
- 1 408 525-6532 (英語のみ)



ヒント

シスコに機密情報をお送りいただく際には、PGP (Pretty Good Privacy) または互換製品を使用して、暗号化することをお勧めします。PSIRT は、PGP バージョン 2.x から 8.x と互換性のある暗号化情報に対応しています。

無効になった、または有効期限が切れた暗号鍵は、絶対に使用しないでください。PSIRT に連絡する際に使用する正しい公開鍵には、Security Vulnerability Policy ページの Contact Summary セクションからリンクできます。次の URL にアクセスしてください。

http://www.cisco.com/en/US/products/products_security_vulnerability_policy.html

このページ上のリンクからは、現在使用されている最新の PGP 鍵の ID にアクセスできます。

テクニカル サポート

Cisco Technical Support では、24 時間テクニカル サポートを提供しています。Cisco.com の Cisco Technical Support & Documentation Web サイトでは、多数のサポート リソースをオンラインで提供しています。また、シスコと正式なサービス契約を交わしているお客様には、Cisco Technical Assistance Center (TAC) のエンジニアが電話でのサポートにも対応します。シスコと正式なサービス契約を交わしていない場合は、代理店にお問い合わせください。

Cisco Technical Support & Documentation Web サイト

Cisco Technical Support & Documentation Web サイトでは、シスコ製品やシスコの技術に関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、オンラインでマニュアルやツールを提供しています。この Web サイトは、24 時間、いつでも利用可能です。URL は次のとおりです。

<http://www.cisco.com/techsupport>

Cisco Technical Support & Documentation Web サイトのツールにアクセスするには、Cisco.com のユーザ ID とパスワードが必要です。サービス契約が有効で、ユーザ ID またはパスワードを取得していない場合は、次の URL にアクセスして登録手続きを行ってください。

<http://tools.cisco.com/RPF/register/register.do>



Web または電話でサービス リクエストを発行する前に、Cisco Product Identification (CPI) ツールを使用して製品のシリアル番号を確認してください。CPI ツールには、Cisco Technical Support & Documentation Web サイトから、Documentation & Tools の下の **Tools & Resources** リンクをクリックするとアクセスできます。アルファベット順の索引ドロップダウン リストから **Cisco Product Identification Tool** を選択するか、Alerts & RMAs の下の **Cisco Product Identification Tool** リンクをクリックします。CPI ツールには、3 つの検索オプションがあります。製品 ID またはモデル名による検索、ツリー表示による検索、show コマンド出力のコピー アンド ペーストによる特定製品の検索です。検索結果では、製品が図示され、シリアル番号ラベルの位置が強調表示されます。ご使用の製品でシリアル番号ラベルを確認し、その情報を記録してからサービスコールをかけてください。

Japan TAC Web サイト

Japan TAC Web サイトでは、利用頻度の高い TAC Web サイト (<http://www.cisco.com/tac>) のドキュメントを日本語で提供しています。Japan TAC Web サイトには、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/jp/go/tac>

サポート契約を結んでいない方は、「ゲスト」としてご登録いただくだけで、Japan TAC Web サイトのドキュメントにアクセスできます。Japan TAC Web サイトにアクセスするには、Cisco.com のログイン ID とパスワードが必要です。ログイン ID とパスワードを取得していない場合は、次の URL にアクセスして登録手続きを行ってください。

<http://www.cisco.com/jp/register>

サービス リクエストの発行

オンラインの TAC Service Request Tool を使用すると、S3 と S4 のサービス リクエストを短時間でオープンできます (S3 : ネットワークに軽微な障害が発生した、S4 : 製品情報が必要である)。状況を入力すると、その状況を解決するための推奨手段が検索されます。これらの推奨手段で問題を解決できない場合は、シスコのエンジニアが対応します。TAC Service Request Tool には、次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/techsupport/servicerequest>

S1 または S2 のサービス リクエストの場合、またはインターネットにアクセスできない場合は、Cisco TAC に電話でお問い合わせください (S1 : ネットワークがダウンした、S2 : ネットワークの機能が著しく低下した)。S1 および S2 のサービス リクエストには、シスコのエンジニアがすぐに割り当てられ、業務を円滑に継続できるようサポートします。

Cisco TAC の連絡先については、次の URL を参照してください。

<http://www.cisco.com/techsupport/contacts>

サービス リクエストのシビラティの定義

シスコでは、報告されるサービス リクエストを標準化するために、シビラティを定義しています。

シビラティ 1 (S1): ネットワークが「ダウン」した状態か、業務に致命的な損害が発生した場合。お客様およびシスコが、24 時間体制でこの問題を解決する必要があると判断した場合。

シビラティ 2 (S2): 既存のネットワーク動作が著しく低下したか、シスコ製品が十分に機能しないため、業務に重大な影響を及ぼした場合。お客様およびシスコが、通常の業務中の全時間を費やして、この問題を解決する必要があると判断した場合。

シビラティ 3 (S3): ネットワークの動作パフォーマンスが低下しているが、ほとんどの業務運用は継続できる場合。お客様およびシスコが、業務時間中にサービスを十分なレベルにまで復旧させる必要があると判断した場合。

シビラティ 4 (S4): シスコ製品の機能、インストレーション、コンフィギュレーションについて、情報または支援が必要な場合。業務の運用には、ほとんど影響がありません。

その他の資料および情報の入手方法

シスコの製品、テクノロジー、およびネットワーク ソリューションに関する情報について、さまざまな資料をオンラインおよび印刷物で入手できます。

- Cisco Marketplace では、シスコの書籍やリファレンス ガイド、マニュアル、ロゴ製品を数多く提供しています。購入を希望される場合は、次の URL にアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/marketplace/>

- Cisco Press では、ネットワーク全般、トレーニング、および認定資格に関する出版物を幅広く発行しています。これらの出版物は、初級者にも上級者にも役立ちます。Cisco Press の最新の出版物やその他の情報を調べるには、次の URL から Cisco Press にアクセスしてください。

<http://www.ciscopress.com>

- 『Packet』はシスコシステムズが発行する技術者向けの雑誌で、インターネットやネットワークへの投資を最大限に活用するために役立ちます。本誌は季刊誌として発行され、業界の最先端トレンド、最新テクノロジー、シスコ製品やソリューション情報が記載されています。また、ネットワーク構成およびトラブルシューティングに関するヒント、コンフィギュレーション例、カスタマー ケース スタディ、認定情報とトレーニング情報、および充実したオンライン サービスへのリンクの内容が含まれます。『Packet』には、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/packet>

日本語版『Packet』は、米国版『Packet』と日本版のオリジナル記事で構成されています。日本語版『Packet』には、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/japanese/warp/public/3/jp/news/packet/>

- 『iQ Magazine』はシスコシステムズの季刊誌で、成長企業が収益を上げ、業務を効率化し、サービスを拡大するためには技術をどのように利用したらよいかを学べるように構成されています。本誌では、事例とビジネス戦略を挙げて、成長企業が直面する問題とそれを解決するための技術を紹介し、読者が技術への投資に関して適切な決定を下せるよう配慮しています。『iQ Magazine』には、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/iqmagazine>

デジタル版には、次の URL からアクセスできます。

<http://ciscoiq.texterity.com/ciscoiq/sample/>

- 『*Internet Protocol Journal*』は、インターネットおよびイントラネットの設計、開発、運用を担当するエンジニア向けに、シスコが発行する季刊誌です。『*Internet Protocol Journal*』には、次の URL からアクセスしてください。
<http://www.cisco.com/ipj>
- シスコシステムズが提供するネットワーキング製品、および各種のカスタマー サポート サービスは、次の URL から入手できます。
<http://www.cisco.com/en/US/products/index.html>
- Networking Professionals Connection は対話形式の Web サイトです。このサイトでは、ネットワーキング製品やテクノロジーに関する質問、提案、および情報をネットワーキング担当者がシスコの専門家や他のネットワーキング担当者と共有できます。次の URL にアクセスしてディスカッションに参加してください。
<http://www.cisco.com/discuss/networking>
- シスコは、国際的なレベルのネットワーク関連トレーニングを実施しています。最新情報については、次の URL からアクセスしてください。
<http://www.cisco.com/en/US/learning/index.html>



PART 1

Cisco CallManager の概要





概要

Cisco CallManager は、Cisco Communications 製品ファミリのソフトウェアベースのコール処理コンポーネントです。Cisco Media Convergence Server は広範囲にわたり、Cisco CallManager のコール処理、サービス、およびアプリケーションに対して可用性の高いサーバプラットフォームを提供します。

Cisco CallManager システムは、企業のテレフォニー機能をパケットテレフォニーデバイスまで拡張して、たとえば、IP Phone、メディア処理デバイス、Voice-over-IP (VoIP) ゲートウェイ、マルチメディアアプリケーションなどを提供します。その他にも、統合メッセージング、マルチメディア会議、コラボレーション連絡センター、対話型マルチメディア応答システムなどで使用されるデータ、音声、ビデオの各サービスでは、オープン型の Cisco CallManager テレフォニー API を利用してサービス間の情報を交換することが可能になります。

Cisco CallManager は、Cisco 統合テレフォニー アプリケーションおよびサードパーティ アプリケーションに対して、シグナリングとコール制御のサービスを提供します。主な機能は、次のとおりです。

- コール処理
- シグナリングとデバイス制御
- ダイアルプランの管理
- 電話機能の管理
- ディレクトリサービス
- Operations, administration, management, and provisioning (OAM&P; 操作、アドミニストレーション、管理、およびプロビジョニング)

- Cisco SoftPhone、Cisco IP Interactive Voice Response (IP IVR)、Cisco Personal Assistant、Cisco CallManager Attendant Console などの外部音声処理アプリケーションに対するプログラミング インターフェイス

主な機能と利点

Cisco CallManager システムには、音声会議と WebAttendant 機能を利用するのに必要な一連の統合音声アプリケーションが組み込まれています。音声アプリケーションが組み込まれているため、音声処理用に特別のハードウェアは必要ありません。保留、任意転送、自動転送、会議、複数回線通話、自動ルート選択、スピードダイヤル、前回かけた番号のリダイヤルなどの補助的な拡張サービスが、IP Phone とゲートウェイに付加されます。Cisco CallManager はソフトウェアアプリケーションなので、実稼働環境で機能を拡張するには、サーバプラットフォーム上でソフトウェアをアップグレードするだけで済み、高価なハードウェアのアップグレード費用が不要になります。

Cisco CallManager は、すべての Cisco IP Phone、ゲートウェイ、アプリケーションと IP ネットワーク全体に配備が可能なため、分散型のバーチャルテレフォニネットワークを構築することができます。このアーキテクチャにより、システムのアベイラビリティとスケーラビリティが向上します。コールアドミッション制御により、帯域幅に制約のある WAN リンク内での音声 QoS が保証され、WAN 帯域幅が十分でないときには別の公衆電話交換網 (PSTN) にコールが自動転送されます。

Cisco CallManager の設定データベースへのインターフェイスは通常の Web ブラウザを使用しているため、リモートデバイスとリモートシステムの設定機能も提供しています。ユーザおよび管理者は、このインターフェイスを使用して HTML ベースのオンラインヘルプにアクセスすることができます。

Cisco CallManager Administration の参照

Cisco CallManager Administration プログラムには、Web サーバや Cisco CallManager プログラムがインストールされているマシンとは別の PC からアクセスすることを推奨します。

Web ブラウザ



注意

Web ブラウザは、リソース消費型アプリケーションであるため、システムメモリと CPU サイクルを大量に消費する場合があります。Web ブラウザが Cisco CallManager に必要なリソースまで消費すると、コール処理に悪影響を与えます。Web サーバや Cisco CallManager と同じマシンでブラウザを使用すると、ダイヤルトーンの遅延やコールの終了を引き起こす可能性があります。

Cisco CallManager Administration プログラムは、次の Microsoft Windows オペレーティングシステム ブラウザをサポートしています。

- Netscape Communicator 4.X
- Microsoft Internet Explorer 5 または 6

ネットワーク内の任意のユーザ PC から、Cisco CallManager Administration を実行しているサーバを参照し、管理特権でログインします。



(注)

多数のユーザが同時に Cisco CallManager Administration にログインすると、Web ページのパフォーマンスが低下する場合があります。同時にログインするユーザおよび管理者の数は制限してください。

手順

次の手順に従って、サーバを参照します。

ステップ 1 適当な Microsoft Windows オペレーティングシステム ブラウザを起動します。

ステップ 2 Web ブラウザのアドレスバーに次の URL を入力します。

`https://<CCM-server-name>/CCMAdmin/main.asp`

ただし、<CCM-server-name> はサーバの名前または IP アドレスです。

ステップ 3 割り当てられた管理特権でログインします。

Java ランタイム環境

Cisco CallManager では、Cisco CallManager Administration を参照しているローカル PC に Java ランタイム環境 (JRE) がインストールされ、設定されている必要があります。さらに、ブラウザ セキュリティは Java が使用可能になっている必要があります。

ローカル PC に JRE を取得するには、C:\utils\JRE ディレクトリからローカル PC に J2RE_Client.zip ファイルをコピーし、ファイルを解凍して実行可能ファイルを実行します。



上記のディレクトリ内の JRE を取得するには、Cisco CallManager サーバ上で Microsoft OS バージョン 2000.2.6 以降を実行する必要があります。

Microsoft Internet Explorer を使用する場合、ユーザ ID とパスワードをたずねるウィンドウが表示されます。IE で SUN JRE が使用されている場合は、JRE のユーザ名とパスワードを求める 2 番目のログイン ウィンドウが表示されます。常にそのパスワードを使用する場合は、Remember Password ボタンをクリックします。ただし、パスワードが常に有効であるため、セキュリティの問題が発生する可能性があります。パスワードの記憶を設定しない場合、このウィンドウが表示されるたびにパスワードを入力する必要があります。

Secure Sockets Layer 上のハイパーテキスト転送プロトコル (HTTPS)

ブラウザ クライアントと IIS サーバ間の通信を保護する Secure Sockets Layer (SSL) 上のハイパーテキスト転送プロトコルは、証明書およびインターネット上で転送されるデータを暗号化する公開鍵を使用します。また、HTTPS は、ユーザのログイン パスワードが Web 経由で安全に転送されるようにします。次の Cisco CallManager アプリケーションは、確実にサーバを識別する HTTPS をサポートしています。Cisco CallManager Administration、Cisco CallManager Serviceability、Cisco IP Phone User Option Pages、Bulk Administration Tool (BAT)、TAPS、Cisco CDR Analysis and Reporting (CAR)、Trace Collection Tool、および Real Time Monitoring Tool。

Cisco CallManager をインストールまたはアップグレードすると、HTTPS 自己署名証明書である `httpscert.cer` が、Cisco CallManager 仮想ディレクトリをサポートする IIS デフォルト Web サイトに自動的にインストールされます。Cisco CallManager 仮想ディレクトリには、CCMAdmin、CCMServices、CCMUser、AST、BAT、RTMReports、CCMTraceAnalysis、PktCap、ART、および CCMServicesTraceCollectionTool が含まれています。HTTPS 証明書は、`C:\Program Files\Cisco\Certificates` ディレクトリに保存されます。必要に応じて、認証局からサーバ認証証明書をインストールして、HTTPS 自己署名証明書の代わりに使用することができます。Cisco CallManager のインストールまたはアップグレード後に認証局の証明書を使用する場合は、自己署名証明書を削除する必要があります (『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照)。次に、認証局によって提供されたサーバ認証証明書をインストールします (認証局のマニュアルを参照)。



(注)

ホスト名を使用して Web アプリケーションにアクセスし、信頼できるフォルダ内の証明書をインストールしてから、ローカルホストまたは IP アドレスを使用してアプリケーションにアクセスしようとする、セキュリティ証明書の名前がサイトの名前と一致しないことを知らせる Security Alert ダイアログボックスが表示されます。

ローカルホスト、IP アドレス、または URL 内のホスト名を使用して HTTPS をサポートしているアプリケーションにアクセスする場合は、URL タイプごとに (ローカルホスト、IP アドレスなどとともに) 信頼できるフォルダ内に証明書を保存する必要があります。URL のタイプごとに証明書を保存しない場合、各タイプに対して Security Alert ダイアログボックスが表示されます。

Cisco CallManager Administration での Internet Explorer および HTTPS の使用方法

Web アプリケーションにアクセスするたびに Security Alert ダイアログボックスが表示されないように、信頼できるフォルダ内に CA ルート証明書を保存する手順は、次のとおりです。ブラウザクライアントから Cisco CallManager 4.1 をインストールまたはアップグレードした後に、システム管理者（またはユーザ）が最初に Cisco CallManager Administration または他の Cisco CallManager SSL が使用可能になっている仮想ディレクトリにアクセスするとき、サーバを信頼するかどうかをたずねる Security Alert ダイアログボックスが表示されます。ダイアログボックスが表示されたら、次の作業のいずれかを実行します。

- Yes をクリックして、現在の Web セッションに対してのみ証明書を信頼する。現在のセッションに対してのみ証明書を信頼すると、Security Alert ダイアログボックスは、信頼できるフォルダに証明書をインストールするまで、アプリケーションにアクセスするたびに表示されます。
- View Certificate > Install Certificate の順にクリックして証明書のインストールを実行し、その証明書を常に信頼する。信頼できるフォルダ内に証明書をインストールした場合、Web アプリケーションにアクセスするたびに Security Alert ダイアログボックスが表示されることはありません。
- No をクリックして、操作をキャンセルする。認証は行われず、Web アプリケーションにアクセスできません。Web アプリケーションにアクセスするには、Yes をクリックするか、View Certificate > Install Certificate オプションで証明書をインストールする必要があります。

Security Alert ダイアログボックスで実行できるその他の作業については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド 4.1』を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** IIS サーバ上のアプリケーションを参照します。
 - ステップ 2** Security Alert ダイアログボックスが表示されたら、**View Certificate** をクリックします。
 - ステップ 3** Certificate ペインで、**Install Certificate** をクリックします。
 - ステップ 4** **Next** をクリックします。

ステップ 5 Place all certificates in the following store オプション ボタンをクリックし、Browse をクリックします。

ステップ 6 Trusted Root Certification Authorities を参照します。

ステップ 7 Next をクリックします。

ステップ 8 Finish をクリックします。

ステップ 9 証明書をインストールするために、Yes をクリックします。

インポートが正常に行われたことを知らせるメッセージが表示されます。OK をクリックします。

ステップ 10 ダイアログボックスの右下にある OK をクリックします。

ステップ 11 証明書を信頼し、このダイアログボックスを再び表示しない場合は、Yes をクリックします。



(注) ローカルホスト、IP アドレス、または URL 内のホスト名を使用して HTTPS をサポートしているアプリケーションにアクセスする場合は、URL タイプごとに（ローカル ホスト、IP アドレスなどとともに）信頼できるフォルダ内に証明書を保存する必要があります。URL のタイプごとに証明書を保存しない場合、各タイプに対して Security Alert ダイアログボックスが表示されます。

関連項目

- [Cisco CallManager Administration での Internet Explorer および HTTPS の使用方法 \(P.1-6\)](#)
- [Secure Sockets Layer 上のハイパーテキスト転送プロトコル \(HTTPS\) \(P.1-5\)](#)
- [Cisco CallManager セキュリティ ガイド](#)

Cisco CallManager Administration での Netscape および HTTPS の使用方法

Netscape で HTTPS を使用する場合、証明書の資格情報を表示し、1 回のセッションに対して証明書を信頼する、期限が切れるまでその証明書を信頼する、または証明書を信頼しない、のいずれかを選択できます。



ヒント

1 回のセッションに対してのみ証明書を信頼する場合は、HTTPS がサポートされているアプリケーションにアクセスするたびに次の手順を繰り返す必要があります。証明書を信頼しない場合は、アプリケーションにアクセスできません。

次の手順を実行して、信頼できるフォルダに証明書を保存します。

手順

- ステップ 1** Netscape を使用して、アプリケーション（たとえば、Cisco CallManager Administration）にアクセスします。
- ステップ 2** New Site Certificate ウィンドウが表示された後、**Next** をクリックします。
- ステップ 3** 次の New Site Certificate ウィンドウが表示された後、**Next** をクリックします。



ヒント

Next をクリックする前に証明書の資格情報を表示する場合は、**More Info** をクリックします。資格情報を確認し、**OK** をクリックします。次に New Site Certificate ウィンドウで **Next** をクリックします。

- ステップ 4** 次のいずれかのオプション ボタンをクリックします。
 - Accept this certificate for this session
 - Do not accept this certificate and do not connect
 - Accept this certificate forever (until it expires)

ステップ 5 Next をクリックします。

ステップ 6 Do not accept this certificate... オプション ボタンをクリックした場合は、[ステップ 8](#) へ進みます。

ステップ 7 Netscape で他のサイトに情報を送信する前に警告を表示する場合は、**Warn me before I send information to this site** チェックボックスをオンにしてから、Next をクリックします。

ステップ 8 Finish をクリックします。

関連項目

- [Secure Sockets Layer 上のハイパーテキスト転送プロトコル \(HTTPS\) \(P.1-5\)](#)
- [Cisco CallManager Administration での Netscape および HTTPS の使用方法 \(P.1-8\)](#)
- [Cisco CallManager セキュリティ ガイド](#)

参考情報

- *Cisco CallManager システム ガイド*
- *Cisco IP テレフォニー ソリューション リファレンス ネットワーク デザイン ガイド*
- *Cisco CallManager インストレーション ガイド*
- *Cisco CallManager アップグレード手順*
- *Cisco CallManager セキュリティ ガイド 4.1*



PART 2

システムの設定





サーバの設定

サーバの設定では、Cisco CallManager がインストールされるサーバのアドレスを指定します。ご使用のネットワークでドメイン ネーム システム (DNS) サービスを使用している場合、サーバのホスト名を指定することができます。ネットワークで DNS サービスを使用していない場合は、サーバのインターネット プロトコル (IP) アドレスを使用する必要があります。



(注) 適切な Cisco CallManager 名とアドレス情報で、まず DNS サーバを更新した後、その情報を使用して、Cisco CallManager サーバを設定する必要があります。

Cisco CallManager データベースにサーバ アドレスを追加、更新、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- [サーバの検索 \(P.2-2\)](#)
- [サーバの追加 \(P.2-4\)](#)
- [サーバの更新 \(P.2-6\)](#)
- [サーバの削除 \(P.2-7\)](#)
- [サーバ設定値 \(P.2-9\)](#)

サーバの検索

ネットワーク内にはいくつかのサーバが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の条件を指定して、特定のサーバを見つけることができます。サーバを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、サーバの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、サーバの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 System > Server の順に選択します。

Find and List Servers ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リストボックスを使用して、サーバを検索します。

ステップ 2 最初の Find Servers where ドロップダウン リストボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- Name
- Description



(注)

このドロップダウン リストボックスで選択する条件によって、検索時に生成されるサーバ リストのソート方法が決まります。たとえば、Description を選択すると、Description 列が結果リストの左側の列に表示されます。

2 番目の Find Servers where ドロップダウン リストボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is not empty (非空白)
- is empty (空白)

ステップ3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、**Find** をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



ヒント データベースに登録されているサーバをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。

検出されたサーバのリストが、次の項目別に表示されます。

- Server icon
- Server name
- Description



(注) 該当するサーバの横にあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、Find and List Servers ウィンドウから複数のサーバを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのサーバを削除できます。

ステップ4 レコードのリストから、検索条件と一致する Server icon、Server name、または Description をクリックします。

選択したサーバがウィンドウに表示されます。

関連項目

- [サーバの追加 \(P.2-4\)](#)
- [サーバの更新 \(P.2-6\)](#)
- [サーバの削除 \(P.2-7\)](#)
- [サーバ設定値 \(P.2-9\)](#)

サーバの追加

Cisco CallManager データベースにサーバ アドレスを追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

『*Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド*』の説明に従って、Cisco CallManager サービスを有効にします。



各サーバは、Server Configuration ウィンドウで一度だけ追加するようにしてください。ホスト名を使用してサーバを追加し、その後同じサーバを IP アドレスを使用して追加すると、Cisco CallManager は、アップグレード後にサーバのコンポーネント バージョンを正しく判別できません。

Cisco CallManager Administration に同じサーバのエントリが2つある場合は、アップグレードする前にエントリのどちらかを削除します (P.2-7 の「[サーバの削除](#)」を参照)。

手順

ステップ 1 System > Server の順に選択します。

ステップ 2 ウィンドウの右上にある **Add a New Server** リンクをクリックします。

Server Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ3 適切な設定値を入力します ([表 2-1](#) を参照)。

ステップ4 **Insert** をクリックします。

サーバがデータベースに追加されます。

関連項目

- [Cisco CallManager の追加 \(P.3-5 \)](#)
- [サーバの検索 \(P.2-2 \)](#)
- [サーバの更新 \(P.2-6 \)](#)
- [サーバの削除 \(P.2-7 \)](#)
- [サーバ設定値 \(P.2-9 \)](#)

サーバの更新

Cisco CallManager データベース内のサーバ情報を更新する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [P.2-2 の「サーバの検索」](#)の手順を使用して、サーバを検索します。
- ステップ 2** 更新するサーバをクリックします。
- ステップ 3** 該当する設定値を更新します（[表 2-1](#) を参照）。
- ステップ 4** **Update** をクリックして、変更内容を保存します。

サーバ設定の変更を有効にするには、Cisco CallManager を再起動します。Cisco CallManager サービスの再起動については、『*Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド*』を参照してください。

関連項目

- [サーバの検索 \(P.2-2 \)](#)
- [サーバの追加 \(P.2-4 \)](#)
- [サーバの削除 \(P.2-7 \)](#)
- [サーバ設定値 \(P.2-9 \)](#)

サーバの削除

Cisco CallManager データベースからサーバを削除する手順は、次のとおりです。



ヒント

サーバを削除した後、SQL 複製情報および DCD 複製契約を削除する必要があります。P.2-8 の「次の手順」を参照してください。

始める前に

あるサーバ上で特定の Cisco CallManager が動作している場合は、そのサーバを削除することはできません。サーバを使用している Cisco CallManager を検索するには、Server Configuration ウィンドウの **Dependency Records** リンクをクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、P.A-4 の「[Dependency Records へのアクセス](#)」を参照してください。使用中のサーバを削除しようとすると、Cisco CallManager はエラー メッセージを表示します。現在使用中のサーバを削除する場合は、事前に、次の作業を実行しておく必要があります。

- 該当する Cisco CallManager の設定を更新して別のサーバに割り当てる、または削除対象のサーバに割り当てられている Cisco CallManager を削除する。P.3-7 の「[Cisco CallManager の更新](#)」および P.3-8 の「[Cisco CallManager の削除](#)」を参照してください。
- 削除対象のサーバを使用する Conference Bridge、メディア ターミネーションポイント、および MOH サーバを削除する。P.33-27 の「[コンファレンス デバイスの削除](#)」、P.34-10 の「[メディア ターミネーション ポイントの削除](#)」、および『*Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド*』の「[Music On Hold サーバの削除](#)」を参照してください。
- そのサーバ上で動作しているサービスを無効にする。『*Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド*』を参照してください。

手順

ステップ 1 P.2-2 の「[サーバの検索](#)」の手順を使用して、サーバを検索します。

ステップ 2 一致するレコードのリストから、削除するサーバを選択します。

ステップ 3 Delete をクリックします。

Cisco CallManager は、サーバが使用中でない場合、そのサーバを削除します。サーバが使用中である場合は、エラー メッセージを表示します。

サーバ設定の変更を有効にするには、Cisco CallManager を再起動します。

Cisco CallManager サービスの再起動については、『*Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド*』を参照してください。

次の手順

サーバを削除した後、SQL 複製情報および DCD 複製契約を削除する必要があります。[付録 B 「Cisco CallManager からのサブスクリバサーバの削除」](#)を参照してください。


関連項目

- [サーバの検索 \(P.2-2\)](#)
- [サーバの追加 \(P.2-4\)](#)
- [サーバの更新 \(P.2-6\)](#)
- [サーバ設定値 \(P.2-9\)](#)
- [SQL 複製情報の削除 \(P.B-2\)](#)
- [冗長 DCD 複製許諾契約の削除 \(P.B-4\)](#)

サーバ設定値

表 2-1 では、サーバ設定値について説明します。

表 2-1 サーバ設定値

フィールド	説明
Host Name/IP Address	<p>ネットワークで DNS サービスを使用している場合、Cisco CallManager サーバのホスト名を入力します。DNS サービスを使用していない場合は、サーバの完全な IP アドレスを入力する必要があります。</p> <p> (注) 適切な Cisco CallManager 名とアドレス情報で、まず DNS サーバを更新した後、この設定をする必要があります。</p>
MAC Address	<p>Cisco CallManager サーバにあるネットワーク インターフェイス カード (NIC) のメディア アクセス制御 (MAC) アドレスを入力します。MAC アドレスは、NIC のパーマネントハードウェアアドレスを示します。サーバをネットワーク上の別の場所に移動させることが多い場合は、MAC アドレスを入力して、そのサーバをネットワーク上の他のデバイスが常に識別できるようにする必要があります。サーバを移動する予定がない場合は、MAC アドレスは入力してもしなくてもかまいません。</p>
Description	<p>サーバの説明を入力します。</p>

関連項目

- [サーバの検索 \(P.2-2\)](#)
- [サーバの追加 \(P.2-4\)](#)
- [サーバの更新 \(P.2-6\)](#)
- [サーバの削除 \(P.2-7\)](#)

■ サーバ設定値



Cisco CallManager の設定

Cisco CallManager の設定では、同一クラスタ内にインストールされている Cisco CallManager それぞれに対して、ポートおよびその他のプロパティを指定します。クラスタは、同一データベースを共用する一群の Cisco CallManager から構成されます。

Cisco CallManager の設定を追加、更新、または削除したり、システム コンポーネントのバージョン情報を表示するには、次のトピックを参照してください。

- [Cisco CallManager の検索 \(P.3-2 \)](#)
- [Cisco CallManager の追加 \(P.3-5 \)](#)
- [Cisco CallManager の更新 \(P.3-7 \)](#)
- [Cisco CallManager の削除 \(P.3-8 \)](#)
- [Cisco CallManager の設定値 \(P.3-10 \)](#)
- [Cisco CallManager コンポーネントのバージョンの表示 \(P.3-14 \)](#)
- [Cisco CallManager サービスのアクティブ化および非アクティブ化 \(P.3-16 \)](#)

Cisco CallManager の検索

ネットワーク内にはいくつかの Cisco CallManager が存在することがあるので、Cisco CallManager Administration では、固有の条件を指定して、特定の Cisco CallManager を見つけることができます。Cisco CallManager を見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、Cisco CallManager の検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、Cisco CallManager の検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 System > Cisco CallManager の順に選択します。

Find and List Cisco CallManagers ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、Cisco CallManager を検索します。

ステップ 2 最初の Find Cisco CallManagers where ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- Name
- Description



(注)

このドロップダウン リスト ボックスで選択する条件によって、検索時に生成される Cisco CallManager リストのソート方法が決まります。たとえば、Description を選択すると、Description 列が結果リストの左側の列に表示されます。

2 番目の Find Cisco CallManagers where ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is not empty (非空白)
- is empty (空白)

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、**Find** をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。

**ヒント**

データベースに登録されている Cisco CallManager をすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。

検出された Cisco CallManager のリストが、次の項目別に表示されます。

- Cisco CallManager icon
- Cisco CallManager name
- Description



(注) 該当する Cisco CallManager の横にあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、Find and List Cisco CallManagers ウィンドウから複数の Cisco CallManager を削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべての Cisco CallManager を削除できます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致する Cisco CallManager icon、Cisco CallManager name、または Description をクリックします。

選択した Cisco CallManager がウィンドウに表示されます。

関連項目

- [Cisco CallManager の追加 \(P.3-5 \)](#)
- [Cisco CallManager の更新 \(P.3-7 \)](#)
- [Cisco CallManager の削除 \(P.3-8 \)](#)
- [Cisco CallManager の設定値 \(P.3-10 \)](#)
- [Cisco CallManager コンポーネントのバージョンの表示 \(P.3-14 \)](#)

Cisco CallManager の追加

新規の Cisco CallManager をデータベースに追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

新規の Cisco CallManager をデータベースに追加する場合は、事前に、次の作業を実行してください。

- この Cisco CallManager をインストールしているサーバのアドレスを設定する。P.2-4 の「サーバの追加」を参照してください。
- この Cisco CallManager に自動登録する電話番号に対して、パーティションを指定する場合は、そのパーティションを設定する。P.19-4 の「パーティションの追加」を参照してください。



(注)

誤って削除した場合を除き、Cisco CallManager を手動でデータベースに追加する必要はありません。Cisco CallManager サービスをアクティブにすると、Cisco CallManager エントリがデータベースに自動的に追加されます。

手順

ステップ 1 System > Cisco CallManager の順に選択します。

ステップ 2 Cisco CallManager を追加するには、次のどちらかの方法を使用します。

- 追加する Cisco CallManager の設定値とほぼ同じ設定値を持つ Cisco CallManager がすでに存在する場合は、その既存の Cisco CallManager を選択してその設定値を表示し、Copy をクリックする。その後、必要に応じて設定値を変更する。
- 既存の Cisco CallManager をコピーせずに Cisco CallManager を追加する場合は、[ステップ 3](#) に進む。

ステップ 3 ウィンドウの右上にある **Add a New Cisco CallManager** リンクをクリックします。

Cisco CallManager Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 適切な設定値を入力します (表 3-1 を参照)。

ステップ 5 **Insert** をクリックして、Cisco CallManager 設定をデータベースに保存します。

関連項目

- [Cisco CallManager の検索 \(P.3-2 \)](#)
- [Cisco CallManager グループの追加 \(P.4-5 \)](#)
- [Cisco CallManager の更新 \(P.3-7 \)](#)
- [Cisco CallManager の削除 \(P.3-8 \)](#)
- [Cisco CallManager の設定値 \(P.3-10 \)](#)
- [Cisco CallManager コンポーネントのバージョンの表示 \(P.3-14 \)](#)

Cisco CallManager の更新

Cisco CallManager の設定を更新する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** P.3-2 の「[Cisco CallManager の検索](#)」の手順を使用して、Cisco CallManager を検索します。
- ステップ 2** 更新する Cisco CallManager をクリックします。
- ステップ 3** 該当する設定値を更新します（[表 3-1](#) を参照）。
- ステップ 4** Update をクリックして、変更内容をデータベースに保存します。

自動登録パーティション、外部電話番号マスク、およびボイス メッセージ ボックス マスクの設定値に加えた変更を有効にするには、Cisco CallManager を再起動します。Cisco CallManager サービスの再起動については、『*Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド*』を参照してください。



注意

Reset Devices ボタンを押すと、この Cisco CallManager に登録されているデバイスがすべてシャットダウンされ、その後で再起動されます。その結果、これらのデバイスのコール処理が一時的に中断されます。このボタンを使用するときは、Cisco CallManager のほとんどのデバイスの設定を変更し、すべての装置を同時にリセットする場合に限定してください。比較的少数のデバイスのグループに設定の変更を加えた場合は、該当するデバイスだけをリセットしてください。デバイスのリセットはピーク時を避けてください。

関連項目

- [Cisco CallManager の検索](#) (P.3-2)
- [Cisco CallManager の追加](#) (P.3-5)

- [Cisco CallManager の削除 \(P.3-8 \)](#)
- [Cisco CallManager の設定値 \(P.3-10 \)](#)
- [Cisco CallManager コンポーネントのバージョンの表示 \(P.3-14 \)](#)

Cisco CallManager の削除

Cisco CallManager の設定をデータベースから削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

Cisco CallManager の動作中は、その Cisco CallManager を削除できません。Cisco CallManager を使用している Cisco CallManager グループまたは機能を検索するには、Cisco CallManager Configuration ウィンドウの **Dependency Records** リンクをクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。使用中の Cisco CallManager を削除しようとする、エラー メッセージが表示されます。現在使用中の Cisco CallManager を削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- Cisco CallManager グループを更新して、そのグループに削除する Cisco CallManager が含まれないようにする。[P.4-6 の「Cisco CallManager グループの更新」](#)を参照してください。
- 削除する Cisco CallManager が含まれている Cisco CallManager グループを削除する。[P.4-9 の「Cisco CallManager グループの削除」](#)を参照してください。



(注)

Cisco CallManager の設定をデータベースから削除しても、Cisco CallManager サービスは、サーバ上でバックグラウンドで動作し続けます。サービスを無効にするには、Cisco CallManager Serviceability を使用します。詳細については、『*Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド*』を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** P.3-2 の「[Cisco CallManager の検索](#)」の手順を使用して、Cisco CallManager を検索します。
- ステップ 2** Cisco CallManager リストから、削除する Cisco CallManager を選択します。
- ステップ 3** **Delete** をクリックします。
- ステップ 4** 削除操作を確認するように求められたら、**OK** をクリックして削除します。削除操作を取り消すには、**Cancel** をクリックします。
-

関連項目

- [Cisco CallManager の検索 \(P.3-2 \)](#)
- [Cisco CallManager の追加 \(P.3-5 \)](#)
- [Cisco CallManager の更新 \(P.3-7 \)](#)
- [Cisco CallManager の設定値 \(P.3-10 \)](#)
- [Cisco CallManager コンポーネントのバージョンの表示 \(P.3-14 \)](#)

Cisco CallManager の設定値

表 3-1 では、Cisco CallManager の設定値について説明します。

表 3-1 Cisco CallManager の設定値


フィールド	説明
Cisco CallManager Server	<p>この Cisco CallManager がインストールされているサーバを選択します。</p> <p> (注) 各 Cisco CallManager のサーバアドレスは、一度だけ割り当てます (Cisco CallManager はサーバあたり 1 つだけ割り当てます)。特定の Cisco CallManager にサーバアドレスを割り当てた後では、そのアドレスはリストに表示されなくなります。</p>
Cisco CallManager Name	この Cisco CallManager に割り当てる名前を入力します。
Description	Cisco CallManager の説明を入力します。
Starting Directory Number	デバイスの自動登録に使用する開始電話番号を入力します。
Ending Directory Number	<p>デバイスの自動登録に使用する終了電話番号を入力します。</p> <p>Starting Directory Number フィールドと Ending Directory Number フィールドで電話番号の有効な範囲を指定すると、自動登録が自動的に使用可能になります。</p> <p>Starting Directory Number と Ending Directory Number を同じ値に設定すると、自動登録が使用不可になります。</p>

表 3-1 Cisco CallManager の設定値 (続き)

フィールド	説明
Partition	<p>パーティションを使用しない場合は、<None> を選択します。</p> <p>パーティションを使用している場合は、自動登録された電話番号が属するパーティションをドロップダウン リスト ボックスから選択します。</p> <p>Partition、External Phone Number Mask、または Voice Message Box Mask を選択する前に、自動登録用の範囲を選択しておく必要があります。</p> <p>パーティションの数が 250 より多い場合は、ドロップダウン リスト ボックスの横に省略記号 (...) ボタンが表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Partition ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにパーティション名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるパーティションのリストで希望するパーティション名をクリックし、OK をクリックします。</p>
External Phone Number Mask	<p>自動登録されたデバイスから発信される外部 (発信) コールに対して、発信者 ID 情報をフォーマットするのに使用するマスクを指定します。このマスクには、最長 50 文字までを指定できます。発信者 ID 情報に表示する数字列を入力します。自動登録されるデバイスの電話番号を表すには、X を使用します。</p> <p>たとえば、マスク 972813XXXX を指定する場合、外部コールを行うのに使用されるルート パターンで Use External Phone Number Mask オプションがオンになっていれば、内線番号 1234 からの外部コールは、発信者 ID が 9728131234 と表示されます。</p> <p>代表番号を表すために、9728135000 のようなすべて数字列のマスクを指定する場合は、その番号 (9728135000) が、自動登録された任意のデバイスからの外部コールの発信者 ID として表示されます。</p>

表 3-1 Cisco CallManager の設定値 (続き)

フィールド	説明
Auto-registration Disabled on this Cisco CallManager	<p>Cisco CallManager は、ネットワークへの無許可の接続を防止するために、デフォルトでは自動登録が使用不可になっています。</p> <ul style="list-style-type: none"> この Cisco CallManager に対して自動登録を使用可能にするには、この Auto-registration Disabled チェックボックスをオフにします。 この Cisco CallManager に対して自動登録を使用不可にするには、この Auto-registration Disabled チェックボックスをオンにします。 <p>自動登録が使用不可の場合は、ネットワークに新しいデバイスを追加するたびに、電話番号を手動で設定する必要があります。</p> <p>Starting Directory Number と Ending Directory Number を同じ値に設定しても、自動登録が使用不可になります。</p> <p>このオプションをオンにして自動登録を使用不可にするときに、開始電話番号と終了電話番号が指定されている場合、Cisco CallManager は、開始電話番号と終了電話番号を同じ値に設定します。</p> <p>Cisco CallManager は、自動登録が使用不可になると、パーティションと外部電話マスク情報をリセットします。</p>
Ethernet Phone Port	<p>Cisco CallManager は、ネットワーク上の Cisco IP Phone との通信に、この TCP ポートを使用します。デフォルトのポート番号 2000 がシステム上ですでに使用中以外の場合は、このデフォルト ポートを受け入れてください。すべてのポート入力値は固有のものでなければなりません。有効なポート番号の範囲は、1024 ~ 49151 です。</p>
Digital Port	<p>Cisco CallManager は、ネットワーク上の Cisco Access Digital Trunk Gateway (たとえば、DT-24+ や DE-30+) との通信に、この TCP ポートを使用します。デフォルトのポート番号 2001 がシステム上ですでに使用中以外の場合は、このデフォルト ポートを受け入れてください。すべてのポート入力値は固有のものでなければなりません。有効なポート番号の範囲は、1024 ~ 49151 です。</p>

表 3-1 Cisco CallManager の設定値 (続き)

フィールド	説明
Analog Port	Cisco CallManager は、ネットワーク上の Cisco Access Analog Gateway (たとえば、WS-6624 FXS) との通信に、このポートを使用します。デフォルトのポート番号 2002 がシステム上ですでに使用中以外の場合は、このデフォルトポートを受け入れてください。すべてのポート入力値は固有のものでなければなりません。有効なポート番号の範囲は、1024 ~ 49151 です。
MGCP Listen Port	Cisco CallManager は、関連した MGCP ゲートウェイからメッセージを検出する場合に、この TCP ポートを使用します。デフォルトのポート番号 2427 がシステム上ですでに使用中以外の場合は、このデフォルトポートを受け入れてください。すべてのポート入力値は固有のものでなければなりません。有効なポート番号の範囲は、1024 ~ 49151 です。
MGCP Keep-alive Port	Cisco CallManager は、関連する MGCP ゲートウェイと、キープアライブメッセージを交換する場合に、この TCP ポートを使用します。デフォルトのポート番号 2428 がシステム上ですでに使用中以外の場合は、このデフォルトポートを受け入れてください。すべてのポート入力値は固有のものでなければなりません。有効なポート番号の範囲は、1024 ~ 49151 です。

関連項目

- [Cisco CallManager の検索 \(P.3-2 \)](#)
- [Cisco CallManager の追加 \(P.3-5 \)](#)
- [Cisco CallManager の更新 \(P.3-7 \)](#)
- [Cisco CallManager の削除 \(P.3-8 \)](#)
- [Cisco CallManager コンポーネントのバージョンの表示 \(P.3-14 \)](#)

Cisco CallManager コンポーネントのバージョンの表示

Cisco CallManager Administration の Cisco CallManager Component Versions ページは、任意の Cisco CallManager サーバの表示専用のソフトウェア コンポーネントのバージョン情報を表示します。また、同期していないソフトウェア コンポーネントがある、クラスタ内のサーバをリストします。さらに、クラスタ内のすべての Cisco CallManager サーバで、最後にインストールされたコンポーネントのバージョン情報を表示します。

システム ソフトウェア コンポーネントのバージョン情報を表示する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 Help > Component Versions の順に選択します。

ステップ 2 Servers リストからサーバを選択して、そのサーバのコンポーネント バージョン情報を表示します。

表示される情報には、コンポーネントの名前、コンポーネントのバージョン番号、およびそのコンポーネントをインストールしたプログラムのインストール ID があります。そのサーバに現在インストールされているコンポーネントによって、このリストの内容は変わります。

ステップ 3 Out of Sync をクリックし、クラスタ内の Cisco CallManager サーバにインストールされているシステム コンポーネントの中で、クラスタ内にインストールされているコンポーネントの最新バージョンと一致しないものをすべて見つけます。

ステップ 4 Latest Installed Version をクリックして、クラスタ内の全サーバの中で、各システム コンポーネントの一番最近（大きい番号）インストールされたバージョンをリストします。

関連項目

- [Cisco CallManager の検索 \(P.3-2 \)](#)
- [Cisco CallManager の追加 \(P.3-5 \)](#)
- [Cisco CallManager の更新 \(P.3-7 \)](#)
- [Cisco CallManager の削除 \(P.3-8 \)](#)
- [Cisco CallManager の設定値 \(P.3-10 \)](#)
- [Cisco CallManager グループの設定 \(P.4-1 \)](#)
- [デバイス プールの設定 \(P.8-1 \)](#)
- [デバイス デフォルトの設定 \(P.6-1 \)](#)

Cisco CallManager サービスのアクティブ化および非アクティブ化

Cisco CallManager サービスのアクティブ化および非アクティブ化には、次の要件が適用されます。

Cisco CallManager サービスのアクティブ化

新規の Cisco CallManager をデータベースに追加する場合は、事前に Cisco CallManager サービスをアクティブにしてください (『Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』を参照)。

Cisco CallManager Renamed After Restarting サービス

Cisco CallManager Serviceability で Cisco CallManager サービスを非アクティブにすると、サービスを非アクティブにされた Cisco CallManager は、データベースから削除されます。このため、その Cisco CallManager はグラフィカルユーザーインターフェイス (GUI) に表示されなくなり、設定操作のために Cisco CallManager Administration で選択できません。

Cisco CallManager で Cisco CallManager サービスを再びアクティブにすると、データベースで自動的に Cisco CallManager が作成され、サーバ名または IP アドレスに「CM_」のプレフィックスが付加されます。たとえば、Cisco CallManager サービスを 172.19.140.180 の IP アドレスを持つサーバ上で再びアクティブにした場合、Cisco CallManager Administration には CM_172.19.140.180 と表示されます。新しい Cisco CallManager を Cisco CallManager Administration で選択できます。

サービスのアクティブ化の詳細については、『Cisco CallManager Serviceability システムガイド』および『Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』を参照してください。

関連項目

- [Cisco CallManager の追加 \(P.3-5 \)](#)



Cisco CallManager グループの 設定

1 つの Cisco CallManager Group では、最高 3 つの Cisco CallManager の優先順位をリストで指定しています。リストの最初にある Cisco CallManager はそのグループのプライマリ Cisco CallManager となり、残りは、セカンダリおよびターティアリ（第三次 - バックアップ）Cisco CallManager となります。

各デバイス プールには、Cisco CallManager グループが 1 つずつ割り当てられています。デバイスが登録されると、そのデバイスは、デバイス プールに割り当てられているグループの中のプライマリ Cisco CallManager に接続しようとしません。プライマリ Cisco CallManager が使用できない場合、デバイスはそのグループにリストされている次の Cisco CallManager へと順次接続しようとしています。

Cisco CallManager グループは、システムに次の重要な機能を提供します。

- 冗長性：この機能により、グループごとにプライマリ Cisco CallManager とバックアップ Cisco CallManager を指定できる。
- コール処理のロード バランシング：この機能を使用すると、複数の Cisco CallManager にデバイスの制御を振り分けることができる。

ほとんどのシステムでは、負荷分散と冗長性を向上させるために、複数のグループを用意して 1 つの Cisco CallManager を複数のグループに割り当てる必要があります。

Cisco CallManager グループを追加、更新、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- [Cisco CallManager グループの検索 \(P.4-3\)](#)
- [Cisco CallManager グループの追加 \(P.4-5\)](#)
- [Cisco CallManager グループの更新 \(P.4-6\)](#)
- [Cisco CallManager グループのコピー \(P.4-8\)](#)
- [Cisco CallManager グループの削除 \(P.4-9\)](#)
- [Cisco CallManager グループの設定値 \(P.4-11\)](#)

Cisco CallManager グループの検索

ネットワーク内にはいくつかの Cisco CallManager グループが存在することがあるので、Cisco CallManager Administration では、固有の条件を指定して、特定の Cisco CallManager グループを見つけることができます。Cisco CallManager グループを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、Cisco CallManager グループの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、Cisco CallManager グループの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 System > Cisco CallManager Group の順に選択します。

Find and List Cisco CallManager Groups ウィンドウが表示されます。ドロップダウン リスト ボックスを使用して、Cisco CallManager グループを検索します。

ステップ 2 Find Cisco CallManager Groups where ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is not empty (非空白)
- is empty (空白)

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。

**ヒント**

データベースに登録されている Cisco CallManager グループをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。

検出された Cisco CallManager グループのリストが、次の項目別に表示されます。

- Cisco CallManager Group icon
- Cisco CallManager Group name
- Auto-registration Default

**(注)**

該当する Cisco CallManager グループの横にあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、Find and List Cisco CallManager Groups ウィンドウから複数の Cisco CallManager グループを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべての Cisco CallManager グループを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致する Cisco CallManager Group icon または Cisco CallManager Group name をクリックします。

選択した Cisco CallManager グループがウィンドウに表示されます。

関連項目

- [Cisco CallManager グループの追加 \(P.4-5\)](#)
- [Cisco CallManager グループの更新 \(P.4-6\)](#)
- [Cisco CallManager グループのコピー \(P.4-8\)](#)
- [Cisco CallManager グループの削除 \(P.4-9\)](#)
- [Cisco CallManager グループの設定値 \(P.4-11\)](#)

Cisco CallManager グループの追加

新規の Cisco CallManager グループの設定手順は、次のとおりです。既存のグループをコピーして、新規の Cisco CallManager グループを作成することもできます。詳細については、[P.4-8](#) の「[Cisco CallManager グループのコピー](#)」を参照してください。

始める前に

Cisco CallManager グループを設定する場合は、事前に、そのグループのメンバとして割り当てる Cisco CallManager を設定しておく必要があります。詳細については、[P.3-5](#) の「[Cisco CallManager の追加](#)」を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** System > Cisco CallManager Group の順に選択します。
 - ステップ 2** ウィンドウの右上にある **Add a New Cisco CallManager Group** リンクをクリックします。

Cisco CallManager Group Configuration ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 3** 適切な設定値を入力します ([表 4-1](#) を参照)。
 - ステップ 4** **Insert** をクリックして、Cisco CallManager グループをデータベースに保存します。

Cisco CallManager グループを設定した後、そのグループを使用してデバイス プールを設定できます。デバイスは、割り当てられているデバイス プールから、Cisco CallManager グループ リストの設定値を取得します。

関連項目

- [Cisco CallManager グループの検索 \(P.4-3 \)](#)
- [Cisco CallManager グループの更新 \(P.4-6 \)](#)
- [Cisco CallManager グループのコピー \(P.4-8 \)](#)
- [Cisco CallManager グループの削除 \(P.4-9 \)](#)
- [Cisco CallManager グループの設定値 \(P.4-11 \)](#)

Cisco CallManager グループの更新

既存の Cisco CallManager グループを更新する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [P.4-3 の「Cisco CallManager グループの検索」](#)の手順を使用して、Cisco CallManager グループを検索します。
- ステップ 2** 更新する Cisco CallManager グループをクリックします。
- ステップ 3** 該当する設定値を更新します ([表 4-1](#) を参照)。



(注) デフォルトの Auto-registration Cisco CallManager Group としてグループを指定するには、Auto-registration Cisco CallManager Group チェックボックスをオンにします。

現在選択されているグループがデフォルトの自動登録グループの場合、Auto-registration Cisco CallManager Group チェックボックスをオフにしても変更することはできません。別のデフォルト自動登録グループを選択する必要があります。別のグループを選択すると、Cisco CallManager は、現在選択されているデフォルトの自動登録グループを自動的に変更しません。

ステップ 4 Update をクリックして、変更内容をデータベースに保存します。

変更内容を適用するには、更新された Cisco CallManager グループを使用するデバイスをリセットする必要があります。この Cisco CallManager グループを使用するすべてのデバイスをリセットするには、**Reset Devices** をクリックしてください。

**ヒント**

Reset Devices ボタンは、デバイスをリセットするのに便利です。このボタンを使用すると、この Cisco CallManager グループを使用しているデバイス プール内のすべてのデバイスがリセットされます。

**注意**

デバイスをリセットすると、リセットされるデバイスで進行中のコールが欠落することがあります。

関連項目

- [Cisco CallManager グループの検索 \(P.4-3 \)](#)
- [Cisco CallManager グループの追加 \(P.4-5 \)](#)
- [Cisco CallManager グループのコピー \(P.4-8 \)](#)
- [Cisco CallManager グループの削除 \(P.4-9 \)](#)
- [Cisco CallManager グループの設定値 \(P.4-11 \)](#)

Cisco CallManager グループのコピー

既存のグループから設定値をコピーして、新規の Cisco CallManager グループを追加する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** P.4-3 の「Cisco CallManager グループの検索」の手順を使用して、Cisco CallManager グループを検索します。
 - ステップ 2** コピーする Cisco CallManager グループに対応する **Copy** アイコンをクリックします。
 - ステップ 3** Cisco CallManager Group フィールドに、新規のグループの名前を入力します。グループの名前は必ず変更してください。
 - ステップ 4** 変更するフィールドを編集します（表 4-1 を参照）。
 - ステップ 5** **Insert** をクリックして、変更を適用し、新規の Cisco CallManager グループをデータベースに追加します。
-

関連項目

- [Cisco CallManager グループの検索 \(P.4-3\)](#)
- [Cisco CallManager グループの追加 \(P.4-5\)](#)
- [Cisco CallManager グループの更新 \(P.4-6\)](#)
- [Cisco CallManager グループの削除 \(P.4-9\)](#)
- [Cisco CallManager グループの設定値 \(P.4-11\)](#)

Cisco CallManager グループの削除

Cisco CallManager グループをデータベースから削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

Cisco CallManager グループがデバイス プールあるいは MGCP ゲートウェイに割り当てられている場合、または Cisco CallManager グループがクラスタの現在の Auto-registration Cisco CallManager Group の場合は、そのグループを削除できません。Cisco CallManager グループを使用しているデバイスを検索するには、Cisco CallManager Group Configuration ウィンドウの **Dependency Records** リンクをクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。使用中の Cisco CallManager グループを削除しようとすると、エラー メッセージが表示されます。現在使用中の Cisco CallManager グループを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- この Cisco CallManager グループを現在使用しているデバイス プールまたは MGCP ゲートウェイに、別の Cisco CallManager グループを割り当てる。[P.6-2 の「デバイス デフォルトの更新」](#)を参照してください。
- Auto-registration Cisco CallManager Group にする別の Cisco CallManager グループを作成し、選択する。

手順

-
- ステップ 1** [P.4-3 の「Cisco CallManager グループの検索」](#)の手順を使用して、Cisco CallManager グループを検索します。
 - ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するグループを選択します。
 - ステップ 3** Delete をクリックします。

ステップ 4 削除操作を確認するように求められたら、**OK** をクリックします。削除操作を取り消す場合は、**Cancel** をクリックしてください。


関連項目

- [Cisco CallManager グループの検索 \(P.4-3\)](#)
- [Cisco CallManager グループの追加 \(P.4-5\)](#)
- [Cisco CallManager グループの更新 \(P.4-6\)](#)
- [Cisco CallManager グループのコピー \(P.4-8\)](#)
- [Cisco CallManager グループの設定値 \(P.4-11\)](#)

Cisco CallManager グループの設定値

表 4-1 では、Cisco CallManager グループの設定値について説明します。

表 4-1 Cisco CallManager グループの設定値

フィールド	説明
Cisco CallManager Group	新しいグループの名前を入力します。
Auto-registration Cisco CallManager Group	<p>自動登録が使用可能であるときに、この Cisco CallManager グループをデフォルト Cisco CallManager グループにする場合は、Auto-registration Cisco CallManager Group チェックボックスをオンにします。</p> <p>デバイスをこの Cisco CallManager グループに自動登録しない場合は、このチェックボックスをオフのままにしてください。</p> <p> (注) 各 Cisco CallManager クラスタには、1 つのデフォルト自動登録グループだけを指定できます。別の Cisco CallManager グループをデフォルト自動登録グループとして選択した場合は、以前に選択されていた自動登録グループが、そのクラスタのデフォルトではなくなります。</p>
Available Cisco CallManagers	<p>このフィールドは、Cisco CallManager グループに属していなくて、使用可能な Cisco CallManager をリストで表示します。</p> <p>Cisco CallManager の名前を選択し、左右の矢印を使用して、Cisco CallManager を <i>Selected</i> リストと <i>Available</i> リストの間で移動させます。</p>
Selected Cisco CallManagers	<p>このフィールドは、Cisco CallManager グループに属している Cisco CallManager を表示します。<i>Selected</i> リストには、最高 3 つの Cisco CallManager を入れることができます。Insert をクリックすると、<i>Selected</i> リスト内にある Cisco CallManager が、そのグループのメンバになります。</p> <p>Cisco CallManager の名前を選択し、左右の矢印を使用して、Cisco CallManager を <i>Selected</i> リストと <i>Available</i> リストの間で移動させます。上下の矢印を使用して、<i>Selected</i> リスト内のグループを、希望する順序に配列します。</p>

関連項目

- [Cisco CallManager グループの検索 \(P.4-3 \)](#)
- [Cisco CallManager グループの追加 \(P.4-5 \)](#)
- [Cisco CallManager グループの更新 \(P.4-6 \)](#)
- [Cisco CallManager グループのコピー \(P.4-8 \)](#)
- [Cisco CallManager グループの削除 \(P.4-9 \)](#)



日付 / 時間グループの設定

日付 / 時間グループの設定では、Cisco CallManager に接続されている各種デバイスに対して時間帯を設定します。各デバイスは、メンバとして1つのデバイスプールだけに属しています。そして、各デバイスプールには、1つの日付 / 時間グループだけが割り当てられています。

Cisco CallManager をインストールすると、CMLocal と呼ばれるデフォルトの日付 / 時間グループが自動的に設定されます。CMLocal は、Cisco CallManager がインストールされているサーバ上のオペレーティング システムで使用中の日付および時刻と同期します。Cisco CallManager のインストール後に、必要に応じて CMLocal の設定値を変更できます。通常、サーバの日付と時刻は、現地時間帯の日付と時刻に合わせて調整します。



(注)

Cisco CallManager を再起動するか、Cisco CallManager ソフトウェアを新しいリリースにアップグレードするたびに、CMLocal はオペレーティング システムの日付と時刻に置き換えられます。CMLocal の名前は変更しないでください。



ヒント

Cisco IP Phone を国際的に配備する場合は、24 の時間帯のそれぞれのグループに名前を付けた日付 / 時間グループを作成してください。

日付 / 時間グループを追加、更新、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- [日付 / 時間グループの検索 \(P.5-3 \)](#)
- [日付 / 時間グループの追加 \(P.5-5 \)](#)
- [日付 / 時間グループの更新 \(P.5-7 \)](#)
- [日付 / 時間グループの削除 \(P.5-8 \)](#)
- [日付 / 時間グループの設定値 \(P.5-10 \)](#)

日付 / 時間グループの検索

ネットワーク内にはいくつかの日付 / 時間グループが存在することがあるので、Cisco CallManager Administration では、固有の条件を指定して、特定の日付 / 時間グループを見つけることができます。日付 / 時間グループを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザセッションでの作業中は、日付 / 時間グループの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、日付 / 時間グループの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 System > Date/Time Group の順に選択します。

Find and List Date/Time Groups ウィンドウが表示されます。2つのドロップダウンリスト ボックスを使用して、日付 / 時間グループを検索します。

ステップ 2 最初の Find Date/Time Groups where ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- Group Name
- Time Zone



(注)

このドロップダウン リスト ボックスで選択する条件によって、検索時に生成される日付 / 時間グループリストのソート方法が決まります。たとえば、Time Zone を選択すると、Time Zone 列が結果リストの左側の列に表示されます。

2つ目の Find Date/Time Groups where ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

■ 日付/時間グループの検索

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is not empty (非空白)
- is empty (空白)

ステップ3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、**Find** をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



ヒント データベースに登録されている日付/時間グループをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。

検出された日付/時間グループのリストが、次の項目別に表示されます。

- Date/Time Group icon
- Group name
- Time Zone



(注) 該当する日付/時間グループの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Date/Time Groups ウィンドウから複数の日付/時間グループを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内の日付/時間グループをすべて削除できます。

ステップ4 レコードのリストから、検索条件と一致する Date/Time Group icon、Group name、または Time Zone をクリックします。

選択した日付/時間グループがウィンドウに表示されます。

関連項目

- [日付 / 時間グループの追加 \(P.5-5 \)](#)
- [日付 / 時間グループの更新 \(P.5-7 \)](#)
- [日付 / 時間グループの削除 \(P.5-8 \)](#)
- [日付 / 時間グループの設定値 \(P.5-10 \)](#)

日付 / 時間グループの追加

新規の日付 / 時間グループを Cisco CallManager データベースに追加する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 System > Date/Time Group の順に選択します。

ステップ 2 日付 / 時間グループを追加するには、次のどちらかの方法を使用します。

- 追加する日付 / 時間グループの設定値とほぼ同じ設定値を持つ日付 / 時間グループがすでに存在する場合は、その既存の日付 / 時間グループを選択してその設定値を表示し、Copy をクリックする。その後、必要に応じて設定値を変更する。
- 既存の日付 / 時間グループをコピーせずに日付 / 時間グループを追加する場合は、[ステップ 3](#) に進む。

ステップ 3 ウィンドウの右上にある Add a New Date/Time Group リンクをクリックします。

Date/Time Group Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 適切な設定値を入力または編集します ([表 5-1](#) を参照) 。

ステップ 5 Insert をクリックして、新しい日付 / 時間グループをデータベースに保存します。

■ 日付 / 時間グループの追加

次の手順

新しい日付 / 時間グループをデータベースに追加した後、そのグループをデバイス プールに割り当てて、そのデバイス プールの日付と時刻の情報を設定できます。詳細については、P.8-5 の「[デバイス プールの追加](#)」を参照してください。

関連項目

- [日付 / 時間グループの検索 \(P.5-3\)](#)
- [日付 / 時間グループの更新 \(P.5-7\)](#)
- [日付 / 時間グループの削除 \(P.5-8\)](#)
- [日付 / 時間グループの設定値 \(P.5-10\)](#)

日付 / 時間グループの更新

日付 / 時間グループを更新する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** P.5-3 の「[日付 / 時間グループの検索](#)」の手順を使用して、日付 / 時間グループを検索します。
 - ステップ 2** 一致するレコードのリストから、更新する日付 / 時間グループを選択します。
 - ステップ 3** 該当する設定値を更新します（[表 5-1](#) を参照）。
 - ステップ 4** Update をクリックして、変更内容をデータベースに保存します。
 - ステップ 5** Reset Devices ボタンを押して、変更内容を適用します。
-

関連項目

- [日付 / 時間グループの検索](#)（P.5-3）
- [日付 / 時間グループの追加](#)（P.5-5）
- [日付 / 時間グループの削除](#)（P.5-8）
- [日付 / 時間グループの設定値](#)（P.5-10）

日付/時間グループの削除

Cisco CallManager データベースから日付/時間グループを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

デバイス プールが使用している日付/時間グループは、削除することができません。日付/時間グループを使用しているデバイス プールを検索するには、Date/Time Group Configuration ウィンドウの **Dependency Records** リンクをクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。使用されている日付/時間グループを削除しようとすると、Cisco CallManager はエラー メッセージを表示します。現在使用されている日付/時間グループを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除する日付/時間グループを使用しているデバイス プールすべてに、別の日付/時間グループを割り当てる。[P.6-2 の「デバイス デフォルトの更新」](#)を参照してください。
- 削除する日付/時間グループを使用しているデバイス プールを削除する。[P.8-8 の「デバイス プールの削除」](#)を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** [P.5-3 の「日付/時間グループの検索」](#)の手順を使用して、日付/時間グループを検索します。
 - ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除する日付/時間グループを選択します。
 - ステップ 3** **Delete** をクリックします。
 - ステップ 4** 削除操作を確認するように求められたら、**OK** をクリックして削除します。削除操作を取り消す場合は、**Cancel** をクリックしてください。
-

関連項目

- [日付 / 時間グループの検索 \(P.5-3 \)](#)
- [日付 / 時間グループの追加 \(P.5-5 \)](#)
- [日付 / 時間グループの更新 \(P.5-7 \)](#)
- [日付 / 時間グループの設定値 \(P.5-10 \)](#)

日付 / 時間グループの設定値

表 5-1 では、日付 / 時間グループの設定値について説明します。

表 5-1 日付 / 時間グループの設定値

フィールド	説明
Group Name	新しい日付 / 時間グループに割り当てる名前を入力します。
Time Zone	追加するグループの時間帯を選択します。 Cisco CallManager の新規インストレーションのデフォルト設定は、(GMT) Monrovia, Casablanca です。 以前の Cisco CallManager リリースで「local time zone of Cisco CallManager」オプションを設定している場合、Cisco CallManager 4.1 データベースはパブリッシャ データベース サーバの時間帯を判別して、その時間帯を表示します。
Separator	日付フィールド間で使用する区切り文字を選択します。
Date Format	Cisco IP Phone に表示される日付の形式を選択します。
Time Format	12 時間制または 24 時間制を選択します。

関連項目

- [日付 / 時間グループの検索 \(P.5-3\)](#)
- [日付 / 時間グループの追加 \(P.5-5\)](#)
- [日付 / 時間グループの更新 \(P.5-7\)](#)
- [日付 / 時間グループの削除 \(P.5-8\)](#)



デバイス デフォルトの設定

デバイス デフォルトの設定では、Cisco CallManager に登録するデバイスの各タイプのデフォルト特性を設定します。デバイス タイプに対するデバイス デフォルトは、Cisco CallManager クラスタ内にあるそのタイプの自動登録デバイスすべてに適用されます。各デバイス タイプに適用される設定は、次のデバイス デフォルトで設定します。

- デバイス ロード
- Device pool (デバイス プール)
- 電話ボタン テンプレート

デバイスは、Cisco CallManager に自動登録されるときに、そのデバイス タイプに該当するデバイス デフォルト設定値を取得します。デバイスが登録された後で、個々のデバイスのコンフィギュレーションを更新して、そのデバイス設定を変更することもできます。

Cisco CallManager をインストールすると、デバイス デフォルトが自動的に設定されます。デバイス デフォルトの新規作成、または既存のデバイス デフォルトの削除はできませんが、次のトピックで説明する手順により、デバイス デフォルト設定値を変更することは可能です。

- [デバイス デフォルトの更新 \(P.6-2\)](#)
- [デバイス デフォルトの設定値 \(P.6-4\)](#)
- [デフォルト以外のファームウェア ロードを使用するデバイスの検索 \(P.6-5\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「デバイス ファームウェア ロード」

デバイス デフォルトの更新

Cisco CallManager 設定データベース内のデバイス デフォルトを変更する手順は、次のとおりです。

始める前に

デバイス デフォルトを更新する場合は、事前に、お使いのシステムに該当する次のいずれかの作業を行ってください。

- デバイス用の新しいファームウェア ファイルを TFTP サーバに追加する。使用可能なファームウェア ロードごとに、Cisco CallManager サーバ上の Program Files\Cisco\TFTPPath フォルダまたは設定可能な別のロケーションに、.bin ファイルがあります。
たとえば、ファームウェア ロード P002A0305556 の場合、Program Files\Cisco\TFTPPath フォルダに、名前が P002A0305556.bin のファイルがあります。
- ディレクトリ内に存在しないファームウェア ロードの割り当てにデバイス デフォルトを使用すると、それらのデバイスは割り当てられたファームウェアのロードに失敗します。
- 新しいデバイス プールを設定する。P.8-5 の「[デバイス プールの追加](#)」を参照してください。
- デバイスが電話機の場合は、新しい電話テンプレートを設定する。P.64-5 の「[電話ボタン テンプレートの追加](#)」を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** System > Device Defaults の順に選択します。
 - ステップ 2** 変更するデバイスに該当する設定値を更新します（[表 6-1](#) を参照）。
 - ステップ 3** Update をクリックして、変更内容を Cisco CallManager 設定データベースに保存します。
 - ステップ 4** デバイス名の左側にある Reset アイコンをクリックして、そのタイプのすべてのデバイスをリセットし、クラスタ内のすべての Cisco CallManager に新しいデフォルトをロードします。

そのタイプのデバイスすべてをリセットしない場合は、デバイス デフォルトの変更後に追加された新しいデバイスだけが、最新のデフォルトを受け取ります。

関連項目

- [デバイス デフォルトの設定値 \(P.6-4\)](#)
- [デフォルト以外のファームウェア ロードを使用するデバイスの検索 \(P.6-5\)](#)

デバイス デフォルトの設定値

表 6-1 では、デバイス デフォルトの設定値について説明します。

表 6-1 デバイス デフォルトの設定値

フィールド名	説明
Load Information	ハードウェア デバイスの特定のタイプで使用されるファームウェア ロードの ID 番号を入力します。アップグレード ロードまたはパッチ ロードをインストールする場合は、新しいロードを使用するデバイスのタイプごとに、ロード情報を更新する必要があります。
Device Pool	デバイスの各タイプに関連したデバイス プールを選択します。デバイス プールは、そのプール内のすべてのデバイスに対して、共通の特性を指定します。
Phone Template	Cisco IP Phone の各タイプが使用する電話ボタン テンプレートを選択します。このテンプレートは、電話機上のキーの機能を指定します。

関連項目

- [デバイス デフォルトの更新 \(P.6-2\)](#)
- [デフォルト以外のファームウェア ロードを使用するデバイスの検索 \(P.6-5\)](#)

デフォルト以外のファームウェア ロードを使用するデバイスの検索

Cisco CallManager Administration の Firmware Load Information ページを使用すると、デバイス タイプにデフォルトのファームウェア ロードを使用しないデバイスを、すばやく特定することができます。



(注) 各デバイスには、デフォルトを上書きするファームウェア ロードを個別に割り当てることができます。

デフォルトのファームウェア ロードを使用しないデバイスを特定する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 Device > Device Settings > Firmware Load Information の順に選択します。

ページが更新され、ファームウェア ロードを必要とするデバイス タイプのリストが表示されます。デバイス タイプごとに、Devices Not Using Default Load 列が、デフォルト以外のロードを使用するデバイスの設定値にリンクします。

ステップ 2 Devices Not Using Default Load 列の View Details をクリックして、デフォルト以外のデバイス ロードを使用する、そのタイプのデバイスのリストを表示します。

関連項目

- [デバイス デフォルトの更新 \(P.6-2\)](#)
- [デバイス デフォルトの設定 \(P.6-1\)](#)

■ デフォルト以外のファームウェア ロードを使用するデバイスの検索



リージョンの設定

リージョンの設定では、リージョン内または既存のリージョン間で、オーディオコールとビデオコールに使用される帯域幅を指定します。オーディオコーデックによって、圧縮のタイプ、およびオーディオコールあたりの使用帯域幅の最大値が決まります。ビデオコールの帯域幅は、オーディオ帯域幅およびビデオ帯域幅の合計で構成されますが、オーバーヘッドは含まれません。



(注) Cisco CallManager で処理されるすべてのコールには、デフォルトのオーディオコーデック G.711 が適用されます。デフォルトのオーディオコーデックだけを使用する場合は、リージョンを使用する必要はありません。



(注) Cisco CallManager では、最大 500 のリージョンを追加できます。

リージョンを追加、更新、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- [リージョンの検索 \(P.7-2\)](#)
- [リージョンの追加 \(P.7-4\)](#)
- [リージョンの更新 \(P.7-7\)](#)
- [リージョンの削除 \(P.7-8\)](#)
- [リージョンの設定値 \(P.7-10\)](#)

リージョンの設定とオーディオコーデックの選択の詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「リージョン」を参照してください。

リージョンの検索

ネットワーク内にはいくつかのリージョンが存在することがあるので、Cisco CallManager Administration では、固有の条件を指定して、特定のリージョンを見つけることができます。リージョンを見つける手順は、次のとおりです。



(注) Cisco CallManager Administration では、ブラウザセッションでの作業中は、リージョンの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、リージョンの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 System > Region の順に選択します。

Find and List Regions ウィンドウが表示されます。ドロップダウン リストボックスを使用して、リージョンを検索します。

ステップ 2 Find Regions where ドロップダウン リストボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)

- ステップ 3** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、**Find** をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。

**ヒント**

データベースに登録されているリージョンをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。

検出されたリージョンのリストが、次の項目別に表示されます。

- Region icon
- Region Name



(注) 該当するリージョンの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Regions ウィンドウから複数のリージョンを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのリージョンを削除できます。

- ステップ 4** レコードのリストから、検索条件と一致するリージョン アイコンまたはリージョン名をクリックします。

選択したリージョンがウィンドウに表示されます。

関連項目

- [リージョンの検索 \(P.7-2\)](#)
- [リージョンの追加 \(P.7-4\)](#)
- [リージョンの更新 \(P.7-7\)](#)
- [リージョンの削除 \(P.7-8\)](#)
- [リージョンの設定値 \(P.7-10\)](#)

リージョンの追加

新規リージョンを Cisco CallManager データベースに追加する手順は、次のとおりです。



(注)

リージョンの追加はマトリクス形式で実行されます。リージョン A、B、および C を追加すると、次に示すように、リージョン A、リージョン B、およびリージョン C を列および行とするマトリクスが作成されます。

	リージョン A	リージョン B	リージョン C
リージョン A			
リージョン B			
リージョン C			

20 のリージョンを割り当てると、データベースは 400 のエントリ (20 x 20) を追加します。多数のリージョンを割り当てると、パフォーマンスがいくらか制限されます。



(注)

Cisco CallManager では、最大 500 のリージョンを追加できます。

手順

ステップ 1 System > Region の順に選択します。

ステップ 2 ウィンドウの右上にある **Add a New Region** リンクをクリックします。

Region Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 Region Name フィールドに、新しいリージョンに割り当てる名前を入力します。

ステップ 4 ドロップダウン リスト ボックスから値を選択して、このリージョンと他のリージョン間で使用するデフォルトのコーデックを指定します。Insert をクリックします。

ステップ 5 Audio Codec 列でドロップダウン リスト ボックスを使用して、新規リージョン内、および新規リージョンと既存のリージョン間で、コールに使用するオーディオコーデックを選択します。オーディオコーデックによって、圧縮のタイプ、およびこれらのコールに割り当てられる帯域幅の最大値が決まります。

使用可能なコーデック タイプおよび帯域幅のサマリーについては、表 7-2 を参照してください。

ステップ 6 Video Call Bandwidth 列で、新規リージョン内、および新規リージョンと既存のリージョン間で、ビデオ コールに使用するビデオ帯域幅を指定します。None を指定すると、このリージョンと指定されたリージョン間のビデオ コールは許可されません。

ステップ 7 Update をクリックして、新しいリージョンをデータベースに保存します。



(注) Region Configuration ウィンドウに、Items per page ドロップダウン リスト ボックスが表示されます。このドロップダウン リスト ボックスを使用して、表示するリージョンの数 (10、20、50、100、または設定されたすべてのリージョン) を指定できます。100 以上のリージョンを表示するように選択した場合、Cisco CallManager の性能が低下する可能性があります。

次の手順

データベースに新しいリージョンを追加した後、そのリージョンを使用して、デバイス プールを設定できます。デバイスは、割り当てられたデバイス プールからリージョンの設定値を取得します。デバイス プールの設定については、P.8-5 の「デバイス プールの追加」を参照してください。

関連項目

- [リージョンの検索 \(P.7-2\)](#)
- [リージョンの更新 \(P.7-7\)](#)
- [リージョンの削除 \(P.7-8\)](#)
- [リージョンの設定値 \(P.7-10\)](#)
- [デバイス プールの追加 \(P.8-5\)](#)

リージョンの更新

リージョンの設定を更新する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 P.7-2 の「[リージョンの検索](#)」の手順を使用して、リージョンを検索します。

ステップ 2 一致するレコードのリストから、更新するリージョンを選択します。

リージョン内または他のリージョン間のコールで使用するオーディオコーデックおよびビデオ帯域幅の設定値を更新します。使用可能なオーディオコーデックタイプおよび帯域幅のサマリーについては、[表 7-2](#) を参照してください。

ステップ 3 **Update** をクリックして、データベース内の変更内容を保存します。

ステップ 4 **Restart Devices** をクリックして、更新されたリージョンを使用するすべてのデバイスに変更内容を適用します。



(注) Region Configuration ウィンドウに、Items per page ドロップダウン リストボックスが表示されます。このドロップダウン リストボックスを使用して、表示するリージョンの数（10、20、50、100、または設定されたすべてのリージョン）を指定できます。100 以上のリージョンを表示するように選択した場合、Cisco CallManager の性能が低下する可能性があります。

関連項目

- [リージョンの検索](#) (P.7-2)
- [リージョンの追加](#) (P.7-4)
- [リージョンの削除](#) (P.7-8)
- [リージョンの設定値](#) (P.7-10)

リージョンの削除

Cisco CallManager データベースからリージョンを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

デバイス プールが使用しているリージョンは削除できません。リージョンを使用しているデバイス プールを検索するには、Region Configuration ウィンドウの **Dependency Records** リンクをクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。使用中のリージョンを削除しようとする、Cisco CallManager にエラー メッセージが表示されます。現在使用中のリージョンを削除する場合は、事前に、次のどちらかまたは両方の作業を実行しておく必要があります。

- 別のリージョンを使用するように、デバイス プールを更新する。[P.8-7 の「デバイス プールの更新」](#)を参照してください。
- 削除するリージョンを使用しているデバイス プールを削除する。[P.8-8 の「デバイス プールの削除」](#)を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** [P.7-2 の「リージョンの検索」](#)の手順を使用して、リージョンを検索します。
 - ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するリージョンを選択します。
 - ステップ 3** Delete をクリックします。
-



(注) Region Configuration ウィンドウに、Items per page ドロップダウン リストボックスが表示されます。このドロップダウン リスト ボックスを使用して、表示するリージョンの数 (10、20、50、100、または設定されたすべてのリージョン) を指定できます。100 以上のリージョンを表示するように選択した場合、Cisco CallManager の性能が低下する可能性があります。

関連項目

- [リージョンの検索 \(P.7-2\)](#)
- [リージョンの追加 \(P.7-4\)](#)
- [リージョンの更新 \(P.7-7\)](#)
- [リージョンの設定値 \(P.7-10\)](#)

■ リージョンの設定値

リージョンの設定値

表 7-1 では、リージョンに対して指定することができるオーディオコーデック、およびビデオ帯域幅の設定値をまとめています。コール ストリームあたりの全使用帯域幅は、オーディオコーデックのタイプ、およびデータパケットのサイズとオーバーヘッド（パケットヘッダーサイズ）などの要素によって決まります。表 7-2 に表示されている帯域幅の数字は、30-ms データパケットに適用され、IP ヘッダーを含みます。各コールは、2 つのコール ストリームから構成されています。

表 7-1 リージョンの設定値

フィールド	説明
リージョン情報	
Region Name	このリージョンの一意な名前を入力します。この名前には、最長 30 文字まで指定できます。文字、数字、ダッシュ、ドット（ピリオド）、ブランク、および下線を指定できます。
Default Codec with Other Regions	ドロップダウン リスト ボックスから、このリージョンと他のリージョン間で使用するデフォルトのコーデックを選択します。リモートサイトの配置の大部分で帯域幅が制限されるため、新規リージョンと既存リージョン間で推奨されるデフォルトのコーデックの設定値は G.729 です。
コール情報	
Region	この列のエントリは、Default リージョン、設定しているリージョン、およびその他すべてのリージョンを含む、すべての既存リージョンを指定します。
オーディオコーデック	左側の列で指定された各リージョンに対して、この列の Corresponding ドロップダウン リスト ボックスをクリックして、このリージョンと左側で指定されたリージョン間のコールに使用されるオーディオコーデックを選択します。

表 7-1 リージョンの設定値（続き）

フィールド	説明
Video Call Bandwidth	<p>左側の列で指定された各リージョンに対して、次に示す、この列のオプション ボタンをいずれか 1 つクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> None：このリージョンと左側の列で指定したリージョン間に割り当てられたビデオ コール帯域幅がない場合は、このボタンをクリックします。 kbps：このリージョンと左側の列で指定したリージョン間にビデオ コール帯域幅を割り当てるには、このボタンをクリックします。これらの 2 つのリージョン間で各ビデオ コールに使用できる帯域幅を入力します。デフォルト値は、384 kbps です。有効値は 1 ~ 8128 です。

表 7-2 オーディオコーデックで使用する帯域幅

オーディオコーデック	30 ms データ バケットで各コールが消費する帯域幅 (IP ヘッダーを含む)	説明
G.711	80 kbps	Cisco CallManager 内のすべてのコールに対するデフォルト コーデック。
G.722	80 kbps	通常、ビデオ エンドポイントがこのコーデックを使用します。
G.723	24 kbps	旧 Cisco IP Phone モデル 12 SP Series および Cisco IP Phone モデル 30 VIP での使用に対してサポートされている低ビットレート コーデック。
G.728	16 kbps	この低ビットレート コーデックをサポートするビデオ エンドポイント。
G.729	24 kbps	Cisco IP Phone 7900 ファミリーのモデルに対してサポートされている低ビットレート コーデック。
Wideband	272 kbps	Cisco IP Phone 7900 ファミリー モデルによってサポートされている、IP Phone 間コール用の高品質、広帯域幅オーディオ コーデック。
GSM	29 kbps	Global System for Mobile Communications (GSM) コーデック。このコーデックを使用して、GSM ワイヤレス受話器用の MNET システムが Cisco CallManager と相互動作できるようになります。

関連項目

- [リージョンの検索 \(P.7-2\)](#)
- [リージョンの追加 \(P.7-4\)](#)
- [リージョンの更新 \(P.7-7\)](#)
- [リージョンの削除 \(P.7-8\)](#)



デバイス プールの設定

デバイス プールでは、複数のデバイスに共通の特性をまとめて指定します。デバイス プール構造では、ユーザ情報とロケーション情報の分離がサポートされています。現在、デバイス プールには、デバイスおよびロケーションの関連情報のみが格納されています。Common Profile ウィンドウに、すべてのユーザ指向情報が記録されます。各デバイスが、デバイス プールと、ユーザ指向情報の共通プロファイルに関連付けられていることを確認してください。

デバイス プールを設定するには、次のトピックを参照してください。

- [デバイス プールの検索 \(P.8-2\)](#)
- [デバイス プールの追加 \(P.8-5\)](#)
- [デバイス プールの更新 \(P.8-7\)](#)
- [デバイス プールの削除 \(P.8-8\)](#)
- [デバイス プールの設定値 \(P.8-9\)](#)

デバイス プール、およびデバイス プールを通じて割り当てられるデバイス設定値の詳細については、『*Cisco CallManager システム ガイド*』の「システム レベルのコンフィギュレーション設定」を参照してください。

デバイス モビリティ機能の詳細については、『*Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド*』の「Cisco CallManager デバイス モビリティ」を参照してください。

共通プロファイル パラメータの詳細については、[P.57-1](#) の「[共通プロファイルの設定](#)」を参照してください。

デバイス プールの検索

ネットワーク内にはいくつかのデバイス プールが存在することがあるので、Cisco CallManager Administration では、固有の条件を指定して、特定のデバイス プールを見つけることができます。デバイス プールを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザセッションでの作業中は、デバイス プールの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、デバイス プールの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 System > Device Pool の順に選択します。

Find and List Device Pools ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、デバイス プールを検索します。

ステップ 2 最初の Find Device Pools where ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- Device Pool Name
- Cisco CallManager Group
- Region



(注)

このドロップダウン リスト ボックスで選択する条件によって、検索時に生成されるデバイス プール リストのソート方法が決まります。たとえば、Region を選択すると、Region 列が結果リストの左側の列に表示されます。

2 番目の Find Device Pools where ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is not empty (非空白)
- is empty (空白)

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、**Find** をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。

**ヒント**

データベースに登録されているデバイス プールをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。

検出されたデバイス プールのリストが、次の項目別に表示されます。

- Device Pool icon
- Device Pool Name
- CallManager Group
- Region
- Date/Time Group

**(注)**

該当するデバイス プールの横にあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、Find and List Device Pools ウィンドウから複数のデバイス プールを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのデバイス プールを削除できます。

■ デバイス プールの検索

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致する Device Pool icon、Device Pool name、CallManager Group、Region、または Date/Time Group をクリックします。

選択したデバイス プールがウィンドウに表示されます。

関連項目

- [デバイス プールの追加 \(P.8-5\)](#)
- [デバイス プールの更新 \(P.8-7\)](#)
- [デバイス プールの削除 \(P.8-8\)](#)
- [デバイス プールの設定値 \(P.8-9\)](#)

デバイスプールの追加

この項では、新しいデバイスプールを Cisco CallManager データベースに追加する方法を説明します。新しいデバイスプールをデータベースに追加した後、そのデバイスプールを使用して、Cisco IP Phone、ゲートウェイ、Conference Bridge、トランスコーダ、メディアターミネーションポイント、ボイスメールポート、CTI ルートポイントなどのデバイスを設定できます。

始める前に

デバイスプールに対して次の項目を選択する場合は、デバイスプールを設定するとき、事前に、その項目を設定しておく必要があります。

- Cisco CallManager Group (必須)。P.4-5 の「Cisco CallManager グループの追加」を参照してください。
- 日付 / 時間グループ (必須)。P.5-5 の「日付 / 時間グループの追加」を参照してください。
- リージョン (必須)。P.7-4 の「リージョンの追加」を参照してください。
- SRST リファレンス (オプション)。P.13-4 の「SRST リファレンスの追加」を参照してください。
- メディアリソースグループリスト (オプション)。P.39-5 の「メディアリソースグループリストの追加」を参照してください。
- 自動登録用のコーリング検索スペース (オプション)。P.20-4 の「コーリング検索スペースの追加」を参照してください。
- デバイスモビリティグループ (オプション)。P.48-3 の「デバイスモビリティグループの追加」を参照してください。
- デバイスモビリティコーリング検索スペース。P.20-4 の「コーリング検索スペースの追加」を参照してください。
- 物理ロケーション (オプション)。P.12-3 の「物理ロケーションの追加」を参照してください。
- ロケーション。P.10-5 の「ロケーションの追加」を参照してください。
- AAR グループ。P.14-5 の「AAR グループの追加」を参照してください。
- AAR コーリング検索スペース。P.20-4 の「コーリング検索スペースの追加」を参照してください。

■ デバイス プールの追加

手順

ステップ 1 System > Device Pool の順に選択します。

ステップ 2 デバイス プールを追加するには、次のどちらかの方法を使用します。

- 追加するデバイス プールの設定値とほぼ同じ設定値を持つデバイス プールがすでに存在する場合は、その既存のデバイス プールを選択してその設定値を表示し、Copy をクリックする。その後、必要に応じて設定値を変更する。
- 既存のデバイス プールをコピーせずにデバイス プールを追加する場合は、[ステップ 3](#) に進む。

ステップ 3 ウィンドウの右上にある Add a New Device Pool リンクをクリックします。

Device Pool Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 該当するフィールドを編集または入力します ([P.8-9](#) の「[表 8-1 デバイス プールの設定値](#)」を参照)。

ステップ 5 Insert をクリックして、デバイス プール情報をデータベースに保存します。

関連項目

- [デバイス プールの検索 \(P.8-2 \)](#)
- [デバイス プールの更新 \(P.8-7 \)](#)
- [デバイス プールの削除 \(P.8-8 \)](#)
- [デバイス プールの設定値 \(P.8-9 \)](#)

デバイス プールの更新

既存のデバイス プールの設定を変更する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** P.8-2 の「[デバイス プールの検索](#)」の手順を使用して、デバイス プールを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、更新するデバイス プールを選択します。
- ステップ 3** 該当する設定値を更新します（[表 8-1](#) を参照）。
- ステップ 4** **Update** をクリックして、データベース内の変更内容を保存します。
- ステップ 5** デバイスをリセットして、変更内容を適用します。選択されたデバイス プール内のデバイスをすべてリセットするには、**Reset Devices** をクリックします。



ヒント

Restart Devices ボタンは、デバイスをリセットするのに便利です。このボタンを使用すると、選択されたデバイス プール内のデバイスがすべてリセットされます。



注意

デバイスをリセットすると、そのデバイスのコールが欠落することがあります。

関連項目

- [デバイス プールの検索 \(P.8-2\)](#)
- [デバイス プールの追加 \(P.8-5\)](#)
- [デバイス プールの削除 \(P.8-8\)](#)
- [デバイス プールの設定値 \(P.8-9\)](#)

デバイス プールの削除

Cisco CallManager データベースからデバイス プールを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

デバイスが割り当てられているデバイス プール、Device Defaults 設定に使用されるデバイス プール、またはデータベース内の唯一のデバイス プールは、削除できません。使用中のデバイス プールを削除しようとする、メッセージが表示されます。現在使用中のデバイス プールを削除する場合は、事前に、次のどちらかまたは両方の作業を実行しておく必要があります。

- デバイスを更新して別のデバイス プールに割り当てる。P.62-12 の「[電話機の更新](#)」を参照してください。
- 削除するデバイス プールに割り当てられているデバイスを削除する。P.62-13 の「[電話機の削除](#)」を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** P.8-2 の「[デバイス プールの検索](#)」の手順を使用して、デバイス プールを検索します。
 - ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するデバイス プールを選択します。
 - ステップ 3** Delete をクリックします。
 - ステップ 4** 削除操作を確認するように求められたら、OK をクリックして削除します。削除操作を取り消すには、Cancel をクリックします。
-

関連項目

- [デバイス プールの検索 \(P.8-2\)](#)
- [デバイス プールの追加 \(P.8-5\)](#)
- [デバイス プールの更新 \(P.8-7\)](#)
- [デバイス プールの設定値 \(P.8-9\)](#)

デバイス プールの設定値

表 8-1 では、デバイス プールの設定値を一覧表示し、説明します。

表 8-1 デバイス プールの設定値

フィールド名	説明
デバイス プールの設定値	
Device Pool Name	作成する新規デバイス プールの名前を入力します。
Cisco CallManager Group	このデバイス プール内のデバイスに割り当てる Cisco CallManager Group を選択します。1 つの Cisco CallManager Group では、最高 3 つの Cisco CallManager の優先順位をリストで指定しています。リスト内の最初の Cisco CallManager が、そのグループのプライマリ Cisco CallManager となり、残りは、冗長性を確保するためのバックアップ Cisco CallManager になります。
Date/Time Group	このデバイス プール内のデバイスに割り当てる日付 / 時間グループを選択します。日付 / 時間グループは、時間帯、および日付と時刻の表示形式を指定します。
Region	このデバイス プール内のデバイスに割り当てる Cisco CallManager リージョンを選択します。Cisco CallManager リージョンの設定値は、リージョン内および他のリージョン間でコールに使用できる音声コーデックを指定します。
SRST Reference	ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイス プール内のデバイスに割り当てる Survivable Remote Site Telephony (SRST) リファレンスを選択します。次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • Disable : このオプションを選択すると、このデバイス プール内のデバイスは SRST リファレンス ゲートウェイを使用できなくなります。 • Use Default Gateway : このオプションを選択すると、このデバイス プール内のデバイスはデフォルトの SRST ゲートウェイを使用します。 • Existing SRST references : ドロップダウン リストから SRST リファレンスを選択すると、このデバイス プール内のデバイスはこの SRST リファレンス ゲートウェイを使用します。

■ デバイス プールの設定値

表 8-1 デバイス プールの設定値 (続き)




フィールド名	説明
Media Resource Group List	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、メディア リソース グループ リストを選択します。メディア リソース グループ リストは、優先順位順に並べられたメディア リソース グループのリストを指定します。アプリケーションは、メディア リソース グループ リストに定義されている優先順位にしたがって、使用可能なメディア リソース グループから、必要なメディア リソース (たとえば、music on hold サーバ、トランスコーダ、Conference Bridge) を選択します。</p>
Network Locale	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、電話機とゲートウェイに関連したロケールを選択します。そのネットワーク ロケールは、特定地域にあるデバイス プールの電話機とゲートウェイが使用するトーンおよび断続周期の定義を含んでいます。このデバイス プールを使用する電話機とゲートウェイのすべてがサポートするネットワーク ロケールを選択してください。</p> <p> (注) ユーザがネットワーク ロケールを選択しない場合は、Cisco CallManager clusterwide パラメータでデフォルト ネットワーク ロケールとして指定されたロケールが適用されません。</p> <p> (注) 関連するデバイスによってサポートされているインストール済みのネットワーク ロケールのみを選択してください。このリストにはこの設定に使用できるネットワーク ロケールがすべて示されていますが、そのすべてがインストールされているわけではありません。デバイスは、ファームウェアにおいてサポートしていないネットワーク ロケールと関連付けられると、起動に失敗します。</p>
Device Mobility Group	<p>デバイス モビリティ グループは、ネットワーク内の最高レベルの地域エンティティで、デバイス モビリティ機能をサポートするために使用します。</p>

表 8-1 デバイス プールの設定値 (続き)

フィールド名	説明
Location	ロケーションは、コール アドミッション制御を中央集中型コール処理システムに実装する際に使用します。コール アドミッション制御では、ロケーション間のリンクを経由する際にオーディオ コールとビデオ コールで使用できる帯域幅を制限することにより、オーディオ品質とビデオの可用性を調整できます。
Physical Location	このデバイス プールの物理ロケーションを選択します。デバイス モビリティ機能の物理ロケーションを使用して、特定の地域ロケーションに関連したパラメータが識別されます。
Connection Monitor Duration	<p>この設定値は、IP Phone が SRST から登録解除され Cisco CallManager に再登録される前に、Cisco CallManager への接続を監視する時間を定義します。</p> <p>デフォルト値は 120 秒で、Connection Monitor Duration エンタープライズパラメータに属します。</p> <p>コネクション モニタを使用不可にする (値を 0 に変更する) 必要がある場合、またはコネクション モニタの時間を延長する場合は、この設定値を変更します。</p> <p> (注) Connection Monitor Duration の値を変更した場合、その値は更新されたデバイス プールだけに適用されます。それ以外のすべてのデバイスは、固有の Connection Monitor Duration フィールドの値またはエンタープライズパラメータで設定された値を使用します。</p> <p>詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「SRST リファレンス」を参照してください。</p>
Device Mobility Calling Search Space	デバイスがローミング中で、デバイス モビリティ グループが同じ場合に、デバイス コーリング サーチ スペースとして使用される適切なコーリング サーチ スペースを選択します。

■ デバイスプールの設定値

表 8-1 デバイスプールの設定値（続き）

フィールド名	説明
AAR Calling Search Space	自動代替ルーティング（AAR）の実行時にデバイスが使用するコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された（発信）番号をルーティングする方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。
AAR Group	このデバイスの自動代替ルーティング（AAR）グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を None にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。

関連項目

- [デバイスプールの検索（P.8-2）](#)
- [デバイスプールの追加（P.8-5）](#)
- [デバイスプールの更新（P.8-7）](#)
- [デバイスプールの削除（P.8-8）](#)



エンタープライズパラメータの設定

エンタープライズパラメータでは、同一クラスタ内のすべてのデバイスとサービスに適用されるデフォルトの設定値を指定します（クラスタは、同一データベースを共有する一群の Cisco CallManager から構成されます）。

Cisco CallManager を新規にインストールすると、Cisco CallManager は、エンタープライズパラメータを使用して、このデバイスデフォルトを初期値として設定します。デバイスのデフォルト設定の詳細については、[P.6-1 の「デバイスデフォルトの設定」](#)を参照してください。また、『Cisco CallManager システムガイド』の「システムレベルのコンフィギュレーション設定」も参照してください。

エンタープライズパラメータを追加したり、削除したりすることはできませんが、次の手順により既存のエンタープライズパラメータを更新することはできます。



(注)

エンタープライズパラメータに対しては、変更を加える必要がほとんどありません。システム管理者は、変更する機能を熟知している場合、あるいは Cisco TAC から特別な指示がある場合を除いて、エンタープライズパラメータを変更しないでください。

手順

ステップ 1 System > Enterprise Parameters の順に選択します。

ステップ 2 該当するパラメータ設定値を変更します。

特定のエンタープライズパラメータの説明を表示するには、そのパラメータ名をクリックします。すべてのエンタープライズパラメータの説明を表示するには、i ボタンをクリックします。

ステップ 3 Update をクリックして、変更内容をデータベースに保存します。



ロケーションの設定

ロケーションは、コール アドミッション制御を中央集中型コール処理システムに実装する際に使用します。コール アドミッション制御では、ロケーション間のリンクを経由する際にオーディオ コールとビデオ コールで使用できる帯域幅を制限することにより、オーディオ品質とビデオの Availability を調整できます。詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「コール アドミッション制御」を参照してください。



(注)

コール アドミッション制御を使用して IP WAN リンク上のオーディオ帯域幅またはビデオ帯域幅を制限しない場合、コール数の制限がなくなり、そのリンク上でコールが同時にアクティブになる可能性があります。この状態が発生すると、そのリンクがオーバーサブスクライブになるため、各オーディオ コールのオーディオ品質と、各ビデオ コールのビデオ品質が低下する場合があります。

中央集中型コール処理システムでは、1 つの Cisco CallManager クラスタが、IP テレフォニー ネットワーク上のすべてのロケーションにコール処理を提供します。その Cisco CallManager クラスタは、通常、電話機やゲートウェイなどの他のデバイスと共に、メイン（つまり中央）ロケーションに置かれています。リモート ロケーションには、追加のデバイスが置かれています。Cisco CallManager はありません。IP WAN リンクが、リモート ロケーションとメインロケーションとを接続します。

次のトピックでは、ロケーションについて詳しく説明しています。

- [ロケーションの検索 \(P.10-3\)](#)
- [ロケーションの追加 \(P.10-5\)](#)
- [ロケーションの更新 \(P.10-7\)](#)
- [ロケーションの削除 \(P.10-8\)](#)
- [ロケーションの帯域幅の再同期化 \(P.10-10\)](#)
- [ロケーションの設定値 \(P.10-11\)](#)

ロケーションの検索

ネットワーク内にはいくつかのロケーションが存在することがあるので、Cisco CallManager Administration では、固有の条件を指定して、特定のロケーションを見つけることができます。ロケーションを検索する手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザセッションでの作業中は、ロケーションの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ロケーションの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 System > Location の順に選択します。

Find and List Locations ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リストボックスを使用して、ロケーションを検索します。

ステップ 2 最初の Find locations where ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- Location
- Voice Bandwidth



(注)

このドロップダウン リスト ボックスで選択する条件によって、検索時に生成されるロケーション リストのソート方法が決まります。たとえば、Bandwidth を選択すると、Bandwidth 列が結果リストの左側の列に表示されます。

■ ロケーションの検索

2 番目の Find locations where ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、**Find** をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



ヒント データベースに登録されているロケーションをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。

検出されたロケーションのリストが、次の項目別に表示されます。

- Location icon
- Location Name
- Bandwidth



(注) 該当するロケーションの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Locations ウィンドウから複数のロケーションを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのロケーションを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致する Location icon、Location name、または Bandwidth をクリックします。

選択したロケーションがウィンドウに表示されます。

関連項目

- [ロケーションの追加 \(P.10-5 \)](#)
- [ロケーションの更新 \(P.10-7 \)](#)
- [ロケーションの削除 \(P.10-8 \)](#)
- [ロケーションの設定値 \(P.10-11 \)](#)
- [ロケーションの帯域幅の再同期化 \(P.10-10 \)](#)

ロケーションの追加

新規のロケーションを Cisco CallManager データベースに追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

ロケーションを設定する場合は、事前にクラスタを構成する Cisco CallManager を設定しておく必要があります。詳細については、[P.3-5](#) の「[Cisco CallManager の追加](#)」を参照してください。

手順

ステップ 1 System > Location の順に選択します。

ステップ 2 ロケーションを追加するには、次のどちらかの方法を使用します。

- 追加するロケーションの設定値とほぼ同じ設定値を持つロケーションがすでに存在する場合は、その既存のロケーションを選択してその設定値を表示し、Copy をクリックする。その後、必要に応じて設定値を変更する。
- 既存のロケーションをコピーせずにロケーションを追加する場合は、[ステップ 3](#) に進む。

ステップ 3 ウィンドウの右上にある Add a New Location リンクをクリックします。

Location Configuration ウィンドウが表示されます。

■ ロケーションの追加

ステップ 4 適切な設定値を入力します (表 10-1 を参照)。

ステップ 5 **Insert** をクリックして、ロケーション情報をデータベースに保存します。

次の手順

データベースに新規ロケーションを追加した後、そのロケーションにデバイスを割り当てることができます。たとえば、次の項を参照してください。

- [ゲートウェイの設定 \(P.61-1\)](#)
- [Cisco IP Phone の設定 \(P.62-1\)](#)
- [CTI ルート ポイントの設定 \(P.56-1\)](#)

関連項目

- [ロケーションの検索 \(P.10-3\)](#)
- [ロケーションの更新 \(P.10-7\)](#)
- [ロケーションの削除 \(P.10-8\)](#)
- [ロケーションの帯域幅の再同期化 \(P.10-10\)](#)
- [ロケーションの設定値 \(P.10-11\)](#)

ロケーションの更新

ロケーションの設定を変更する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1 [P.10-3](#) の「[ロケーションの検索](#)」の手順を使用して、ロケーションを検索します。
 - ステップ 2 一致するレコードのリストから、更新するロケーションを選択します。
 - ステップ 3 該当する設定値を更新します（[表 10-1](#) を参照）。
 - ステップ 4 **Update** をクリックして、データベース内の変更内容を保存します。
-

関連項目

- [ロケーションの検索](#)（[P.10-3](#)）
- [ロケーションの追加](#)（[P.10-5](#)）
- [ロケーションの削除](#)（[P.10-8](#)）
- [ロケーションの帯域幅の再同期化](#)（[P.10-10](#)）
- [ロケーションの設定値](#)（[P.10-11](#)）

ロケーションの削除

Cisco CallManager データベースからロケーションを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

デバイスが割り当てられたロケーションは削除できません。ロケーションを使用しているデバイスを検索するには、Location Configuration ウィンドウの **Dependency Records** リンクをクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。使用されているロケーションを削除しようとする、Cisco CallManager はエラーメッセージを表示します。現在使用されているロケーションを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- デバイスを更新して、別のロケーションに割り当てる。
- 削除するロケーションに割り当てられているデバイスを削除する。



ロケーションを削除すると、そのロケーションに接続されているリンクに帯域幅が無制限に割り当てられ、それらのリンク上のコール数も制限がなくなります。このためロケーションを削除すると、リンク上のオーディオ品質が低下する原因になります。

手順

- ステップ 1** [P.10-3 の「ロケーションの検索」](#)の手順を使用して、ロケーションを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するロケーションを選択します。
- ステップ 3** **Delete** をクリックします。

ステップ 4 削除操作を確認するように求められたら、**OK** をクリックして削除を確認します。削除操作を取り消す場合は、**Cancel** をクリックしてください。

関連項目

- [ロケーションの検索 \(P.10-3\)](#)
- [ロケーションの追加 \(P.10-5\)](#)
- [ロケーションの更新 \(P.10-7\)](#)
- [ロケーションの帯域幅の再同期化 \(P.10-10\)](#)
- [ロケーションの設定値 \(P.10-11\)](#)

ロケーションの帯域幅の再同期化

この項では、ロケーションの帯域幅を再同期化する手順について説明します。ロケーションへのリンクを使用したコールがブロックされる場合は、帯域幅が不足している、つまりロケーションに割り当てられた帯域幅が減少している可能性があります。Cisco CallManager サーバをリセットせずに、ロケーションの帯域幅を、このロケーションに割り当てられている最大値に再同期化することができます。詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「コールアドミッション制御」の章にある「帯域幅の計算」を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** P.10-3 の「[ロケーションの検索](#)」の手順を使用して、ロケーションを検索します。
 - ステップ 2** 一致するレコードのリストから、再同期化するロケーションを選択します。
 - ステップ 3** **ReSync Bandwidth** をクリックして、選択したロケーションの帯域幅を再同期化します。

次の警告メッセージが表示されます。「If calls are using the bandwidth for this location when the bandwidth is resynchronized, the bandwidth might be oversubscribed until all calls that are using the bandwidth for this location disconnect.」です。

- ステップ 4** **OK** をクリックして続行するか、**Cancel** をクリックします。
-


関連項目

- [ロケーションの検索 \(P.10-3\)](#)
- [ロケーションの追加 \(P.10-5\)](#)
- [ロケーションの更新 \(P.10-7\)](#)
- [ロケーションの削除 \(P.10-8\)](#)
- [ロケーションの設定値 \(P.10-11\)](#)

ロケーションの設定値

表 10-1 では、ロケーションの設定値について説明します。

表 10-1 ロケーションの設定値

フィールド	説明
ロケーション情報	
Location Name	作成する新規ロケーションの名前を入力します。
オーディオ コール情報	
Audio Bandwidth	<p>このロケーションと他のロケーション間のリンク上ですべてのオーディオ コールに使用可能なオーディオ帯域幅の最大値 (kbps 単位) を入力します。オーディオ コールの場合、オーディオ帯域幅はオーバーヘッドを含みます。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Unlimited bandwidth : Unlimited オプション ボタンをクリックします。 • Specified bandwidth : kbps ボックスの横にあるオプション ボタンをクリックし、既定の帯域幅を入力して、帯域幅を指定します。有効値は 1 ~ 2147483647 です。 <p>ロケーションの帯域幅の計算だけのために、各コール ストリームは次の帯域幅を使用するものと想定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • G.711 コールは 80 kbps を使用 • G.722 コールは 80 kbps を使用 • G.723 コールは 24 kbps を使用 • G.728 コールは 16 kbps を使用 • G.729 コールは 24 kbps を使用 • GSM コールは 29 kbps を使用 • Wideband コールは 272 kbps を使用 <p> (注) 各コールは、2 つのコール ストリームから構成されています。オーディオ品質を向上させるには、帯域幅設定値を上げて、このロケーションとのリンク上で許可されるアクティブ コール数を減らします。</p>

■ ロケーションの設定値

表 10-1 ロケーションの設定値 (続き)

フィールド	説明
ビデオ コール情報	
Video Bandwidth	<p>このロケーションと他のロケーション間のリンク上ですべてのビデオ コールに使用可能なビデオ帯域幅の最大値 (kbps 単位) を入力します。ビデオ コールの場合、ビデオ帯域幅はオーバーヘッドを含みません。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • None : ビデオ コールをこのロケーションと他のロケーション間で使用できません。ただし、このロケーション内でビデオ コールを行うことができます。 • Unlimited bandwidth : Unlimited オプション ボタンをクリックします。 • Specified bandwidth : kbps ボックスの横にあるオプション ボタンをクリックし、既定のビデオ帯域幅を入力して、ビデオ帯域幅を指定します。デフォルト値は、384 kbps です。

関連項目

- [ロケーションの検索 \(P.10-3 \)](#)
- [ロケーションの追加 \(P.10-5 \)](#)
- [ロケーションの更新 \(P.10-7 \)](#)
- [ロケーションの削除 \(P.10-8 \)](#)
- [ロケーションの帯域幅の再同期化 \(P.10-10 \)](#)



自動登録の設定

Cisco CallManager の自動登録機能を使用すると、新規の電話機を IP テレフォニー ネットワークに接続したときに、電話番号が自動的に割り当てられます。



(注)

ネットワークに追加する電話機が 100 に満たない場合は、自動登録機能を使用することを推奨します。100 以上の電話機をネットワークに追加する場合は、Bulk Administration Tool (BAT) を使用してください。

電話機が自動登録された後、システム管理者はその電話機を新しいロケーションに移動し、電話機の電話番号に影響を与えずに別のデバイス プールに割り当てることができます。

ここでは、次の内容について説明します。

- [自動登録の使用可能化 \(P.11-2\)](#)
- [自動登録の使用不可 \(P.11-5\)](#)
- [自動登録の設定値 \(P.11-6\)](#)
- [自動登録番号の再使用 \(P.11-9\)](#)

自動登録の使用可能化

新規デバイスの自動登録を使用可能にする手順は、次のとおりです。



自動登録は Cisco CallManager のデフォルトでは使用不可になっています。自動登録を使用可能にすると、不正な電話機が Cisco CallManager に自動的に登録されてしまうというセキュリティ上の危険が生じます。自動登録を使用可能にする場合は、電話機を一括して追加する場合に限定してください。

Cisco CTL Client で混合モードをクラスタワイドセキュリティに設定すると、自動登録がすぐに使用不可になります。セキュリティを設定済みで、自動登録を使用する場合、クラスタワイドセキュリティモードを Cisco CTL Client でノンセキュアに変更する必要があります。

手順

- ステップ 1** System > Cisco CallManager の順に選択します。
- ステップ 2** Cisco CallManager のリストから、自動登録を使用可能にする Cisco CallManager を選択します。
- ステップ 3** 適切な自動登録情報を入力します (表 11-1 を参照)。
- ステップ 4** Update をクリックして、すべての変更内容をデータベースに保存します。
- ステップ 5** 自動登録を使用可能にする Cisco CallManager ごとに、ステップ 2 ~ ステップ 4 を繰り返します。自動登録には 1 つのプライマリ Cisco CallManager だけを指定できますが、他の Cisco CallManager を自動登録のためのバックアップとして指定することもできます。『Cisco CallManager システム ガイド』の「冗長化」を参照してください。
- ステップ 6** System > Cisco CallManager Group の順に選択します。

- ステップ 7** Cisco CallManager グループのリストから、自動登録を使用可能にするグループを選択します（大部分のシステムでは、このグループの名前は「Default」です）。このグループは、自動登録されるデバイス用のデフォルトの Cisco CallManager グループとして使用できます。このグループの Selected リストに、[ステップ 2](#) で自動登録用に設定した Cisco CallManager が含まれていることを確認してください。Cisco CallManager は、Cisco CallManagers グループに表示されている順序で選択されます。
- ステップ 8** グループ設定に変更を加えた場合は、**Update** をクリックして、その変更内容をデータベースに保存します。
- ステップ 9** **System > Device Pool** の順に選択します。
- ステップ 10** デバイス プールのリストから、Device Defaults で割り当てられたデフォルトのデバイス プールの 1 つを選択します（[P.6-1](#) の「[デバイス デフォルトの設定](#)」を参照）。Cisco CallManager は、自動登録された各デバイスを、デバイス タイプに基づいてデフォルトのデバイス プールに自動的に割り当てます。
- ステップ 11** Cisco CallManager Group のドロップダウン リスト ボックスから、[ステップ 7](#) で自動登録用に設定した Cisco CallManager グループを選択します。このステップは、自動登録用のデフォルト Cisco CallManager グループに、デフォルト デバイス プールを割り当てます。
- ステップ 12** Calling Search Space for Auto-Registration のドロップダウン リスト ボックスから、Cisco CallManager に自動登録されるこのデバイス プール内のデバイスへ割り当て、コーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースでは、プール内のデバイスが使用するルート パーティションが指定されます。
- ステップ 13** **Update** をクリックして、デバイス プールの変更をデータベースに保存します。
- ステップ 14** Device Defaults にリストされている各デバイス プールに対して、[ステップ 10](#) ~ [ステップ 13](#) を繰り返します。

関連項目

- [自動登録の使用不可 \(P.11-5\)](#)
- [自動登録の設定値 \(P.11-6\)](#)
- [自動登録番号の再使用 \(P.11-9\)](#)

自動登録の使用不可

自動登録を使用不可にする手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** System > Cisco CallManager の順に選択します。
 - ステップ 2** Cisco CallManager のリストから、自動登録を使用不可にする Cisco CallManager を選択します。
 - ステップ 3** Auto-registration Disabled オプションをオンにして、この Cisco CallManager に対して自動登録を使用不可にします(このボックスにチェックマークが付いている場合は、自動登録が使用不可になっています)。



(注) Starting Directory Number と Ending Directory Number を同じ値に設定しても、自動登録は使用不可になります。

- ステップ 4** Update をクリックして、変更内容をデータベースに保存します。
 - ステップ 5** 自動登録を使用不可にする Cisco CallManager ごとに、[ステップ 2](#) ~ [ステップ 4](#) を繰り返します。
-

関連項目

- [自動登録の使用可能化 \(P.11-2\)](#)
- [自動登録の設定値 \(P.11-6\)](#)
- [自動登録番号の再使用 \(P.11-9\)](#)

自動登録の設定値

表 11-1 では、自動登録の設定値について説明します。

表 11-1 自動登録の設定値

フィールド名	説明
Starting Directory Number	<p>デバイスの自動登録に使用する開始電話番号を入力します。</p> <p>Starting Directory Number フィールドと Ending Directory Number フィールドで電話番号の範囲を指定すると、自動的に自動登録が使用可能になります。</p> <p>Starting Directory Number と Ending Directory Number を同じ値に設定すると、自動登録が使用不可になります。</p>
Ending Directory Number	<p>デバイスの自動登録に使用する終了電話番号を入力します。</p> <p>Starting Directory Number フィールドと Ending Directory Number フィールドで電話番号の範囲を指定すると、自動的に自動登録が使用可能になります。</p> <p>Starting Directory Number と Ending Directory Number を同じ値に設定すると、自動登録が使用不可になります。</p>
Partition	<p>自動登録された電話番号が属するパーティションを選択します。パーティションを使用しない場合は、<None> を選択します。</p> <p>パーティションと外部電話番号マスクを選択する前に、自動登録用の有効な電話番号の範囲を選択しておく必要があります。</p> <p>自動登録を使用不可にすると、Partition フィールドはリセットされます。</p> <p>パーティションの数が多い場合は、ドロップダウン リスト ボックスの横に省略記号 (...) ボタンが表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Partition ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにパーティション名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるパーティションのリストで希望するパーティション名をクリックし、OK をクリックします。</p>

表 11-1 自動登録の設定値（続き）

フィールド名	説明
External Phone Number Mask	<p>自動登録されたデバイスから発信される外部（発信）コールに対して、発信者 ID 情報をフォーマットするのに使用するマスクを指定します。このマスクには、最長 50 文字までを指定できます。発信者 ID 情報に表示する数字列を入力します。自動登録されるデバイスの電話番号を表すには、X を使用します。</p> <p>たとえば、マスク 972813XXXX を指定し、外部コールに使用されるルートパターンで Use External Phone Number Mask オプションを使用可能にする場合、内線番号 1234 からの外部コールでは、発信者 ID 9728131234 と表示されます。代表番号を表すのに、すべて数字列のマスク（たとえば、9728135000 など）を指定する場合、その番号が、任意の自動登録されたデバイスからの外部コールに表示される発信者 ID になります。</p>
Auto-registration Disabled on this Cisco CallManager	<p>Cisco CallManager は、無許可でネットワークへ接続するのを防止する目的で、デフォルトでは自動登録を使用不可にしています。自動登録が使用不可の場合は、ネットワークに新しいデバイスを追加するたびに、電話番号を手動で設定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • この Cisco CallManager に対して自動登録を使用可能にするには、この Auto-registration Disabled オプションをオフにします。 • この Cisco CallManager に対して自動登録を使用不可にするには、この Auto-registration Disabled オプションをオンにします。 <p>Starting Directory Number と Ending Directory Number を同じ値に設定すると、自動登録を使用不可にすることができます。</p> <p>このオプションをオンにして自動登録を使用不可にするときに、Starting Directory Number と Ending Directory Number が指定されている場合、Cisco CallManager は、Starting Directory Number と Ending Directory Number を同じ値に設定します。</p> <p>自動登録を使用不可にすると、パーティションと外部電話マスク情報フィールドもリセットされます。</p>

関連項目

- [自動登録の使用可能化 \(P.11-2 \)](#)
- [自動登録の使用不可 \(P.11-5 \)](#)
- [自動登録番号の再使用 \(P.11-9 \)](#)

自動登録番号の再使用

新しいデバイスがネットワークに接続されると、Cisco CallManager は、次に使用可能な（未使用の）自動登録電話番号をそのデバイスに割り当てます。手動で自動登録されたデバイスの電話番号を変更した場合や、そのデバイスをデータベースから削除した場合は、Cisco CallManager は、そのデバイスの自動登録されていた電話番号を再使用することができます。

デバイスの自動登録が開始されると、Cisco CallManager は、管理者が指定した自動登録番号の範囲を検索し、そのデバイスに割り当てるため、次に使用可能な電話番号の検出しようとします。Cisco CallManager は、最後に割り当てられた電話番号の次の番号から順に、検索を開始します。その範囲内の最後の電話番号に達すると、Cisco CallManager は、その範囲内の先頭の電話番号から、引き続き検索を行います。

自動登録電話番号の範囲をリセットし、Cisco CallManager がその範囲内の先頭の番号から検索するように設定する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** System > Cisco CallManager の順に選択します。
- ステップ 2** 自動登録をリセットする Cisco CallManager を選択します。
- ステップ 3** Starting Directory Number と Ending Directory Number フィールドの現在の設定値をメモします。
- ステップ 4** Auto-registration Disabled on this Cisco CallManager をクリックします。



注意

自動登録が使用不可になっている間は、新しい電話機は自動登録できません。

- ステップ 5** Update をクリックします。

■ 自動登録番号の再使用

ステップ 6 Starting Directory Number と Ending Directory Number をステップ 3 でメモした値 (または、必要に応じて別の値) に設定します。

ステップ 7 Update をクリックします。

関連項目

- [自動登録の使用可能化 \(P.11-2\)](#)
- [自動登録の使用不可 \(P.11-5\)](#)
- [自動登録の設定値 \(P.11-6\)](#)



物理ロケーションの設定

物理ロケーションは、デバイス モビリティ機能をサポートしています。物理ロケーションは、特定の地域ロケーションに関連するパラメータと他のパラメータを区別する手段を提供します。たとえば、メディア リソース サーバで企業内の特定のオフィスまたはキャンパスを取り扱うことができます。デバイスが別のオフィスまたはキャンパスをローミングして Cisco CallManager に再登録される際には、ローミング ロケーションのメディア リソース サーバがデバイスを取り扱うようにしてください。メディア サービスの可用性に応じて物理ロケーションを定義すると、デバイスを物理ロケーション間で移動させるときも、効率的で経済的なサービスの再配置を確実に行うことができます。ネットワーク構造とサービスの割り当てに従い、都市、企業のキャンパス、または建物に基づいて物理ロケーションを定義できます。

物理ロケーションを設定するには、次のトピックを参照してください。

- [物理ロケーションの検索 \(P.12-2\)](#)
- [物理ロケーションの追加 \(P.12-3\)](#)
- [物理ロケーションの更新 \(P.12-4\)](#)
- [物理ロケーションのコピー \(P.12-5\)](#)
- [物理ロケーションの削除 \(P.12-6\)](#)
- [物理ロケーションの設定値 \(P.12-7\)](#)

デバイス モビリティ機能の詳細については、『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「Cisco CallManager デバイス モビリティ」を参照してください。

物理ロケーションの検索

ネットワーク内にはいくつかの物理ロケーションが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の条件を指定して、特定の物理ロケーションを見つけることができます。物理ロケーションを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、物理ロケーションの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してこのメニュー項目に戻る場合、検索を変更するかブラウザを閉じるまで、Cisco CallManager Administration により物理ロケーションの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 Device > Device Settings > Physical Location の順に選択します。

Find and List Physical Locations ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 物理ロケーションの検索条件を選択して、**Find** をクリックします。使用可能な物理ロケーションをすべて一覧表示するには、検索条件を空白のままにして、**Find** をクリックします。

関連項目

- [物理ロケーションの追加 \(P.12-3\)](#)
- [物理ロケーションの更新 \(P.12-4\)](#)
- [物理ロケーションのコピー \(P.12-5\)](#)
- [物理ロケーションの削除 \(P.12-6\)](#)
- [物理ロケーションの設定値 \(P.12-7\)](#)

物理ロケーションの追加

デバイス プールの物理ロケーションを追加する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** 物理ロケーションを選択するか、**Add a New Physical Location** リンクをクリックします。
 - ステップ 2** 適切な設定値を設定します (表 12-1 を参照)。
 - ステップ 3** 新規物理ロケーションを追加するには、**Insert** をクリックします。既存の物理ロケーションの設定を更新するには、**Update** をクリックします。
-

関連項目

- [物理ロケーションの検索 \(P.12-2\)](#)
- [物理ロケーションの更新 \(P.12-4\)](#)
- [物理ロケーションのコピー \(P.12-5\)](#)
- [物理ロケーションの削除 \(P.12-6\)](#)
- [物理ロケーションの設定値 \(P.12-7\)](#)

物理ロケーションの更新

既存の物理ロケーションを更新する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1 コピーする物理ロケーションを見つけるには、[P.12-2](#) の「[物理ロケーションの検索](#)」の手順に従います。
 - ステップ 2 物理ロケーション設定値を更新します（[表 12-1](#) を参照）。
 - ステップ 3 Update をクリックします。
-

関連項目

- [物理ロケーションの検索](#)（[P.12-2](#)）
- [物理ロケーションの追加](#)（[P.12-3](#)）
- [物理ロケーションのコピー](#)（[P.12-5](#)）
- [物理ロケーションの削除](#)（[P.12-6](#)）
- [物理ロケーションの設定値](#)（[P.12-7](#)）

物理ロケーションのコピー

既存の物理ロケーションをコピーする手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** P.12-2 の「[物理ロケーションの検索](#)」の手順に従って、コピーする物理ロケーションを見つけます。
 - ステップ 2** コピーするプロファイルの横にあるコピー アイコンをクリックします。
 - ステップ 3** 物理ロケーション設定値を更新します（[表 12-1](#) を参照）。
 - ステップ 4** **Insert** をクリックします。
-

関連項目

- [物理ロケーションの検索](#) (P.12-2)
- [物理ロケーションの追加](#) (P.12-3)
- [物理ロケーションの更新](#) (P.12-4)
- [物理ロケーションの削除](#) (P.12-6)
- [物理ロケーションの設定値](#) (P.12-7)

物理ロケーションの削除

物理ロケーションが現在デバイス プールで使用中の場合は、削除できません。物理ロケーションを削除する場合は、まず Dependency Records から関連デバイス プールを検索して、その関連を解除してから、物理ロケーションを削除できます。

物理ロケーションを削除する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** P.12-2 の「物理ロケーションの検索」の手順に従って、削除する物理ロケーションを見つけます。
 - ステップ 2** 削除する物理ロケーションの横にあるチェックボックスをオンにします。ウィンドウ内のすべての物理ロケーションを選択するには、Matching Records タイトルバーのチェックボックスをオンにします。
 - ステップ 3** Delete Selected をクリックします。
 - ステップ 4** OK をクリックして、選択を確認します。
-

関連項目

- [物理ロケーションの検索 \(P.12-2\)](#)
- [物理ロケーションの追加 \(P.12-3\)](#)
- [物理ロケーションの更新 \(P.12-4\)](#)
- [物理ロケーションのコピー \(P.12-5\)](#)
- [物理ロケーションの設定値 \(P.12-7\)](#)

物理ロケーションの設定値

表 12-1 では、物理ロケーションの設定値について説明します。

表 12-1 物理ロケーションの設定値

フィールド	説明
Physical Location Name	物理ロケーションを識別する名前を入力します。
Description	物理ロケーションを説明するテキストを入力します。この説明には、最長 50 文字の英数字を使用することができ、スペース、ピリオド(.) ハイフン(-) および下線文字(_)を任意に組み合わせて使用することが可能です。

関連項目

- [物理ロケーションの検索 \(P.12-2\)](#)
- [物理ロケーションの追加 \(P.12-3\)](#)
- [物理ロケーションの更新 \(P.12-4\)](#)
- [物理ロケーションのコピー \(P.12-5\)](#)
- [物理ロケーションの削除 \(P.12-6\)](#)

■ 物理ロケーションの設定値



Survivable Remote Site Telephony の設定

Survivable Remote Site Telephony (SRST) リファレンスは、デバイス用の他のすべての Cisco CallManager サーバが到達不能になった場合に、限定された Cisco CallManager 機能を提供するゲートウェイを構成します。SRST リファレンスは通常、デバイス プールに割り当てられており、Cisco CallManager が到達不能になった場合に、コールを行うデバイスがコールを実行しようとして検索するゲートウェイを決定します。SRST リファレンスの詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「SRST リファレンス」を参照してください。

SRST リファレンスを追加、更新、コピー、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- [SRST リファレンスの検索 \(P.13-2\)](#)
- [SRST リファレンスの追加 \(P.13-4\)](#)
- [SRST リファレンスの更新 \(P.13-5\)](#)
- [SRST リファレンスのコピー \(P.13-6\)](#)
- [SRST リファレンスの削除 \(P.13-7\)](#)
- [SRST リファレンスの設定値 \(P.13-9\)](#)

SRST リファレンスの検索

ネットワーク内にはいくつかの SRST リファレンスが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の条件を指定して、特定の SRST リファレンスを見つけることができます。特定のユーザによって定義された SRST リファレンスを見つけるには、次の手順を実行します。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザセッションでの作業中は、SRST リファレンスの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、SRST リファレンスの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 System > SRST の順に選択します。

Find and List SRST References ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注)

データベースに登録されているユーザ定義の SRST リファレンスをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに Find をクリックしてください。

検出された SRST リファレンスのリストが、次の項目別に表示されます。

- SRST Reference Name
- IP Address
- Port



(注) 該当する SRST リファレンスの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List SRST References ウィンドウから複数の SRST リファレンスを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内の SRST リファレンスをすべて削除できません。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致する SRST リファレンスをクリックします。

ウィンドウに、選択した SRST リファレンスが表示されます。

関連項目

- [SRST リファレンスの追加 \(P.13-4\)](#)
- [SRST リファレンスの更新 \(P.13-5\)](#)
- [SRST リファレンスのコピー \(P.13-6\)](#)
- [SRST リファレンスの削除 \(P.13-7\)](#)
- [SRST リファレンスの設定値 \(P.13-9\)](#)

SRST リファレンスの追加

SRST リファレンスを追加する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 メニューバーで **System > SRST** の順に選択します。

ステップ 2 **Add a New SRST Reference** をクリックします。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 13-1 を参照)。

ステップ 4 **Insert** をクリックして、新規 SRST リファレンスを追加します。

「Status: Insert completed」というメッセージが表示されます。

ステップ 5 SRST リファレンスをさらに追加するには、**Add a New SRST Reference** をクリックしてこの手順を繰り返します。

関連項目

- [SRST リファレンスの検索 \(P.13-2\)](#)
- [SRST リファレンスの更新 \(P.13-5\)](#)
- [SRST リファレンスのコピー \(P.13-6\)](#)
- [SRST リファレンスの削除 \(P.13-7\)](#)
- [SRST リファレンスの設定値 \(P.13-9\)](#)

SRST リファレンスの更新

SRST リファレンスを更新する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1 メニューバーで **System > SRST** の順に選択します。
- ステップ 2 更新する SRST リファレンスを見つけます。P.13-2 の「SRST リファレンスの検索」を参照してください。
- ステップ 3 該当する設定値を更新します (表 13-1 を参照)。
- ステップ 4 **Update** をクリックします。

「Status: Update completed」というメッセージが表示されます。



(注) デバイスがこの SRST リファレンスに関連付けられている場合は、更新を有効にするためにデバイスをリセットする必要があるというメッセージが表示されます。ゲートウェイがリセットされると、Cisco CallManager によって、影響を受けるゲートウェイ上で進行中のコールが終了される可能性があります。

影響を受けるデバイスをリセットするには、更新が完了してから **Reset Devices** ボタンをクリックします。この時点でデバイスをリセットしたくない場合は、いつでもこの項目に戻って **Reset Devices** ボタンをクリックし、必要なデバイスリセットを実行することができます。

関連項目

- [SRST リファレンスの検索 \(P.13-2\)](#)
- [SRST リファレンスの追加 \(P.13-4\)](#)
- [SRST リファレンスのコピー \(P.13-6\)](#)
- [SRST リファレンスの削除 \(P.13-7\)](#)
- [SRST リファレンスの設定値 \(P.13-9\)](#)

SRST リファレンスのコピー

SRST リファレンスをコピーする手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** メニューバーで **System > SRST** の順に選択します。
- ステップ 2** コピーする SRST リファレンスを見つけます。P.13-2 の「[SRST リファレンスの検索](#)」を参照してください。
- ステップ 3** コピーする SRST リファレンスの名前をクリックします。
- ウィンドウに SRST リファレンスが表示されます。
- ステップ 4** **Copy** をクリックして SRST リファレンスをコピーします。
- ウィンドウに SRST リファレンスのコピーが表示されます。
- ステップ 5** 該当する設定値を更新します ([表 13-1](#) を参照) 。
- ステップ 6** **Insert** をクリックして、新規 SRST リファレンスを追加します。
-

関連項目

- [SRST リファレンスの検索 \(P.13-2 \)](#)
- [SRST リファレンスの追加 \(P.13-4 \)](#)
- [SRST リファレンスの更新 \(P.13-5 \)](#)
- [SRST リファレンスの削除 \(P.13-7 \)](#)
- [SRST リファレンスの設定値 \(P.13-9 \)](#)

SRST リファレンスの削除

SRST リファレンスを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

デバイス プールなどの項目が使用している SRST リファレンスは削除できません。SRST リファレンスを使用しているデバイス プールを検索するには、SRST Reference Configuration ウィンドウの **Dependency Records** リンクをクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。使用されている SRST リファレンスを削除しようとする、Cisco CallManager はエラー メッセージを表示します。現在使用されている SRST リファレンスを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除する SRST リファレンスを使用しているデバイス プールすべてに、別の SRST リファレンスを割り当てる。[P.8-7 の「デバイス プールの更新」](#)を参照してください。
- 削除する SRST リファレンスを使用しているデバイス プールを削除する。[P.8-8 の「デバイス プールの削除」](#)を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** メニューバーで **System > SRST** の順に選択します。
 - ステップ 2** 削除する SRST リファレンスを見つけます。[P.13-2 の「SRST リファレンスの検索」](#)を参照してください。
 - ステップ 3** 削除する SRST リファレンスのチェックボックスをオンにし、**Delete Selected** をクリックします。

この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。
 - ステップ 4** SRST リファレンスを削除するには、**OK** をクリックします。削除操作を取り消すには、**Cancel** をクリックします。

■ SRST リファレンスの削除

**注意**

SRST リファレンスを削除するときは、削除する SRST リファレンスが正しいか慎重に確認してください。削除した SRST リファレンスを元に戻すことはできません。誤って削除した場合は、その SRST リファレンスを作成し直す必要があります。

**ヒント**

SRST リファレンスの削除は、削除する SRST リファレンスを見つけて表示し、**Delete** をクリックすることによっても実行できます。



関連項目

- [SRST リファレンスの検索 \(P.13-2\)](#)
- [SRST リファレンスの追加 \(P.13-4\)](#)
- [SRST リファレンスの更新 \(P.13-5\)](#)
- [SRST リファレンスのコピー \(P.13-6\)](#)
- [SRST リファレンスの設定値 \(P.13-9\)](#)

SRST リファレンスの設定値

表 13-1 では、SRST リファレンスの設定値について説明します。

表 13-1 SRST リファレンスの設定値

フィールド	説明
SRST Reference Name	<p>名前を SRST Reference Name フィールドに入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、および下線文字 (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。SRST リファレンス名はそれぞれ固有の名前にしてください。</p> <p> (注) SRST リファレンスには、内容を表す簡潔な名前を使用してください。</p>
IP Address	<p>デバイス プール内のデバイス用に、SRST リファレンスとして使用するゲートウェイの IP アドレスを入力します。</p>
Port	<p>この SRST リファレンスのポート番号を入力します。デフォルト値は 2000 です。</p> <p> (注) この値を変更するのは、この値がゲートウェイのポート設定と一致しない場合のみにしてください。この値とゲートウェイのポート設定は一致している必要があります。</p>

■ SRST リファレンスの設定値

表 13-1 SRST リファレンスの設定値 (続き)




フィールド	説明
Is SRST Secure?	<p>SRST が使用可能になっているゲートウェイに、自己署名または認証局によって発行された証明書が含まれていることを確認した後、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>SRST を設定し、ゲートウェイと制御されている電話機をリセットした後、Cisco CTL Provider サービスは、SRST が使用可能になっているゲートウェイ上の Certificate Provider サービスから認証されます。Cisco CTL クライアントは、SRST が使用可能になっているゲートウェイから証明書を取得し、Cisco CallManager データベースに保存します。</p> <p> ヒント SRST の証明書をデータベースと電話機から削除するには、このチェックボックスをオフにして Update をクリックし、制御されている電話機をリセットします。</p>
SRST Certificate Provider Port	<p>このポートでは、SRST が使用可能になっているゲートウェイ上の Certificate Provider サービスに対する要求を監視します。Cisco CallManager は、このポートを使用して SRST が使用可能になっているゲートウェイから証明書を取得します。Cisco SRST Certificate Provider のデフォルトのポート番号は 2445 です。</p> <p>SRST が使用可能になっているゲートウェイでこのポートを設定した後、このフィールドにポート番号を入力します。</p> <p> ヒント このポートが現在使用されている場合、またはファイアウォールを使用してそのファイアウォール内でこのポートを使用できない場合は、別のポート番号の設定が必要になる場合があります。</p>

表 13-1 SRST リファレンスの設定値 (続き)

フィールド	説明
Update SRST Certificate	<div data-bbox="512 293 552 331" style="text-align: center;">  </div> <hr/> <p data-bbox="481 337 1241 391">ヒント このボタンは、既存のセキュアな SRST リファレンスに対してのみ表示されます。</p> <hr/> <p data-bbox="481 467 1241 641">このボタンをクリックした後、Cisco CTL クライアントによって Cisco CallManager データベースに保存されている既存の SRST 証明書が置き換えられます。制御されている電話機をリセットした後、TFTP サーバによって cnf.xml ファイルが (新しい SRST 証明書と共に) 電話機に送信されます。</p>

関連項目

- [SRST リファレンスの検索 \(P.13-2\)](#)
- [SRST リファレンスの追加 \(P.13-4\)](#)
- [SRST リファレンスの更新 \(P.13-5\)](#)
- [SRST リファレンスのコピー \(P.13-6\)](#)
- [SRST リファレンスの削除 \(P.13-7\)](#)

■ SRST リファレンスの設定値



PART 3

ルートの設定





自動代替ルーティングのグループ設定

Automated Alternate Routing (AAR; 自動代替ルーティング) は、ロケーションの帯域幅不足で Cisco CallManager がコールをブロックした場合に、代替番号を使用して PSTN またはその他のネットワーク経由でコールを再ルーティングするメカニズムを提供します。自動代替ルーティングを使用すると、発信者はいったん電話を切って着信側に再びダイヤルする必要がなくなります。AAR グループは、回線または電話番号 (DN)、Cisco ボイスメール ポート、およびゲートウェイが置かれているダイヤル区域を表わします。

各 AAR グループに対して、AAR グループ内の自動代替ルーティングに使用するプレフィックス番号、およびある AAR グループとその他の AAR グループの間の自動代替ルーティングに使用するプレフィックス番号を入力します。ゲートウェイ、電話機 (電話番号で)、およびトランクなどのデバイスが AAR グループに関連付けられます。コールの自動代替ルーティングが行われる場合、状況によってはデバイスを AAR コーリング サーチ スペースにも関連付ける必要があります。

AAR グループを検索、追加、更新、削除するには、次のトピックを参照してください。

- [AAR グループの検索 \(P.14-3\)](#)
- [AAR グループの追加 \(P.14-5\)](#)
- [AAR グループの更新 \(P.14-6\)](#)
- [AAR グループの削除 \(P.14-7\)](#)

- [AAR グループの設定値 \(P.14-9\)](#)



(注) AAR を機能させるには、クラスタ全体の Automated Alternate Routing Enable サービスパラメータが *True* に設定されていることを確認する必要があります (このサービスパラメータのデフォルト値は *False* です)。

自動代替ルーティンググループの詳細については、『Cisco CallManager システムガイド』の「ルートプランの概要」を参照してください。

AAR グループの検索

ネットワーク内にはいくつかの自動代替ルーティング (AAR) グループが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の条件を指定して、AAR グループを見つけることができます。AAR グループを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザセッションでの作業中は、AAR グループの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、AAR グループの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 Route Plan > AAR Group の順に選択します。

Find and List Automated Alternate Routing Groups ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注)

データベースに登録されている AAR グループをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに Find をクリックします。

検出された AAR グループのリストが、AAR グループ名別に表示されます。



(注) 該当する AAR グループの横にあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、Find and List Automated Alternate Routing Groups ウィンドウから複数の AAR グループを削除できます。AAR Group Name タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内の AAR グループをすべて削除できます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致する AAR グループをクリックします。

選択した AAR グループがウィンドウに表示されます。

関連項目

- [AAR グループの追加 \(P.14-5\)](#)
- [AAR グループの更新 \(P.14-6\)](#)
- [AAR グループの削除 \(P.14-7\)](#)

AAR グループの追加

AAR グループを追加する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** メニューバーで **Route Plan > AAR Group** の順に選択します。
 - ステップ 2** **Add a New AAR Group** をクリックします。
 - ステップ 3** **AAR Group Name** フィールドに名前を入力します。この名前には、最長 20 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-) および下線文字 (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。AAR グループ名はそれぞれ固有の名前にしてください。



ワンポイント・アドバイス

AAR グループには、内容を簡潔に表す名前を使用してください。通常、`CompanynameLocationGroup` の形式が、内容を簡潔に表し、AAR グループをすばやくかつ簡単に識別できる方式です。たとえば、`CiscoDallasAA1` は、Dallas にある Cisco オフィス用の Cisco Access Analog AAR グループを示します。

- ステップ 4** **Continue** をクリックします。
- ステップ 5** 適切な設定値を選択します (表 14-1 を参照)。
- ステップ 6** **Insert** をクリックして、この AAR グループを追加します。

関連項目

- [AAR グループの検索 \(P.14-3\)](#)
- [AAR グループの更新 \(P.14-6\)](#)
- [AAR グループの削除 \(P.14-7\)](#)
- [AAR グループの設定値 \(P.14-9\)](#)

AAR グループの更新

AAR グループを更新する手順は、次のとおりです。

始める前に

次の手順を実行する場合は、更新する AAR グループが事前に設定されていることを確認してください。

手順

-
- ステップ 1** メニューバーで **Route Plan > AAR Group** の順に選択します。
 - ステップ 2** 更新する AAR グループを見つけます。P.14-3 の「[AAR グループの検索](#)」を参照してください。
 - ステップ 3** 該当するフィールドを更新します（[表 14-1](#) を参照）。
 - ステップ 4** **Update** をクリックします。
-

関連項目

- [AAR グループの検索](#) (P.14-3)
- [AAR グループの追加](#) (P.14-5)
- [AAR グループの削除](#) (P.14-7)
- [AAR グループの設定値](#) (P.14-9)

AAR グループの削除

AAR グループを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

デバイスが 1 つでも参照している AAR グループは、削除できません。AAR グループを使用しているデバイスを検索するには、AAR Group Configuration ウィンドウの **Dependency Records** リンクをクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。AAR グループを削除する前に、その AAR グループが属しているデバイスすべてから、その AAR グループを削除しておく必要があります。

手順

- ステップ 1** メニューバーで **Route Plan > AAR Group** の順に選択します。
- ステップ 2** 削除する AAR グループを見つけます。[P.14-3 の「AAR グループの検索」](#)を参照してください。
- ステップ 3** 削除する AAR グループの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックします。

AAR グループの削除は取り消せないことを警告するダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 4** グループを削除するには、**OK** をクリックします。削除操作を取り消すには、**Cancel** をクリックします。**OK** をクリックした場合は、Cisco CallManager は、その AAR グループを AAR グループ リストから削除します。

■ AAR グループの削除

**(注)**

該当する AAR グループの横にあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、Find and List AAR groups ウィンドウから複数の AAR グループを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内の AAR グループをすべて削除できます。



関連項目

- [AAR グループの検索 \(P.14-3\)](#)
- [AAR グループの追加 \(P.14-5\)](#)
- [AAR グループの更新 \(P.14-6\)](#)

AAR グループの設定値

表 14-1 では、AAR グループの設定値について説明します。

表 14-1 AAR グループの設定値

フィールド	説明
AAR Group Name	新しい AAR グループに割り当てる名前を入力します。
このグループ内のプレフィックス番号	
Prefix Digits	AAR グループ内の自動代替ルーティングに使用するプレフィックス番号を入力します。 有効な入力値は、[、^、0、1、2、3、4、5、6、7、8、9、-、]、+、?、!、X、*、#、+ です。
このグループとその他の AAR グループ間のプレフィックス番号	
Prefix Digits (From this group)	このグループから別の AAR グループに属するデバイスにコールをルーティングするとき、自動代替ルーティングに使用するプレフィックス番号を入力します。 有効な入力値は、[、^、0、1、2、3、4、5、6、7、8、9、-、]、+、?、!、X、*、#、+ です。  (注) この発信 AAR グループ用フィールドに入力されたプレフィックス番号は、AAR 転送先グループの Prefix Digits (To this group) フィールドにも追加されます。
Prefix Digits (To this group)	別の AAR グループに属するデバイスからこのグループにコールをルーティングするとき、自動代替ルーティングに使用するプレフィックス番号を入力します。 有効な入力値は、[、^、0、1、2、3、4、5、6、7、8、9、-、]、+、?、!、X、*、#、+ です。  (注) この転送先 AAR グループ用フィールドに入力されたプレフィックス番号は、AAR 発信グループの Prefix Digits (From this group) フィールドにも追加されます。

関連項目

- [AAR グループの検索 \(P.14-3\)](#)
- [AAR グループの追加 \(P.14-5\)](#)
- [AAR グループの更新 \(P.14-6\)](#)
- [AAR グループの削除 \(P.14-7\)](#)



アプリケーションのダイヤル規則設定

管理者は、ダイヤル規則設定を使用して、ダイヤル規則の優先順位を追加およびソートできます。Cisco IPMA などのアプリケーションのダイヤル規則は、ユーザがダイヤルする電話番号から自動的に数字を除去したり、電話番号に数字を追加します。たとえば、7桁の電話番号の先頭に、外線発信用の数字9を自動的に追加します。

Cisco IPMA などのアプリケーションで、アシスタントは Assistant Console からディレクトリ検索を実行できます。ディレクトリ エントリを Assistant Console の My Calls パネルへドラッグ アンド ドロップできます。ドロップすると、エントリに含まれている番号宛にコールが発信されます。ダイヤル規則は、エントリに含まれる番号に対して、コールの発信前に適用されます。

次の各項では、ダイヤル規則設定について説明します。

- [ダイヤル規則の追加 \(P.15-2\)](#)
- [ダイヤル規則の更新 \(P.15-3\)](#)
- [ダイヤル規則の削除 \(P.15-4\)](#)
- [ダイヤル規則の優先順位の変更 \(P.15-5\)](#)

ダイヤル規則の追加

ダイヤル規則を追加する手順は、次のとおりです。ダイヤル規則の設計およびエラー チェックについては、『*Cisco CallManager システム ガイド*』の「ダイヤル規則設定のエラー チェック」を参照してください。

手順

ステップ 1 Cisco CallManager Administration から、**Route Plan > Application Dial Rules** の順に選択します。

Dial Rules Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 phone number begins with フィールドに、数字または記号 (+、*、#) を入力、またはブランクのままにします。

ステップ 3 number of digits is フィールドに数字を入力、またはブランクのままにします。

ステップ 4 remove digits フィールドに数字を入力、またはブランクのままにします。適切なダイヤル規則を適用します。

ステップ 5 prefix it with フィールドに、数字または記号 (+、*、#) を入力、またはブランクのままにします。適切なダイヤル規則を適用します。

ステップ 6 Insert ボタンをクリックします。

規則を有効にするには、Cisco Tomcat サービスを停止して、再起動します。『*Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド*』を参照してください。

関連項目

- [ダイヤル規則の更新 \(P.15-3\)](#)
- [ダイヤル規則の削除 \(P.15-4\)](#)
- [ダイヤル規則の優先順位の変更 \(P.15-5\)](#)

ダイヤル規則の変更

管理者は Dial Rules Configuration ウィンドウで、ダイヤル規則の更新、削除、または優先順位の変更を実行できます。

関連項目

- [ダイヤル規則の追加 \(P.15-2 \)](#)
- [ダイヤル規則の更新 \(P.15-3 \)](#)
- [ダイヤル規則の削除 \(P.15-4 \)](#)
- [ダイヤル規則の優先順位の変更 \(P.15-5 \)](#)

ダイヤル規則の更新

ダイヤル規則を更新する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** Cisco CallManager Administration から、**Route Plan > Application Dial Rules** の順に選択します。
 - ステップ 2** Dial Rules リストで、更新する規則を選択して、内容を更新します。
 - ステップ 3** Update ボタンをクリックします。

更新内容を有効にするには、Cisco Tomcat サービスを停止して、再起動します。
『Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』を参照してください。

関連項目

- [ダイヤル規則の追加 \(P.15-2 \)](#)
- [ダイヤル規則の削除 \(P.15-4 \)](#)
- [ダイヤル規則の優先順位の変更 \(P.15-5 \)](#)

ダイヤル規則の削除

ダイヤル規則を削除する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** Cisco CallManager Administration から、**Route Plan > Application Dial Rules** の順に選択します。
- ステップ 2** Dial Rules リストで、削除する規則の横にあるチェックボックスをオンにします。一度に複数の規則を削除することができます。
- ステップ 3** **Delete Selected** ボタンをクリックします。

削除を有効にするには、Cisco Tomcat サービスを停止して、再起動します。
『Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』を参照してください。

関連項目

- [ダイヤル規則の追加 \(P.15-2 \)](#)
- [ダイヤル規則の更新 \(P.15-3 \)](#)
- [ダイヤル規則の優先順位の変更 \(P.15-5 \)](#)

ダイヤル規則の優先順位の変更

ダイヤル規則の優先順位を変更する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** Cisco CallManager Administration から、**Route Plan > Application Dial Rules** の順に選択します。
- ステップ 2** Dial Rules リストで、移動する規則を選択します。
- ステップ 3** 上矢印と下矢印を使用して、Dial Rule リスト内で規則を上または下に移動します。
- ステップ 4** Update ボタンをクリックします。

新しい優先順位を有効にするには、Cisco Tomcat サービスを停止して、再起動します。『*Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド*』を参照してください。

関連項目

- [ダイヤル規則の追加 \(P.15-2 \)](#)
- [ダイヤル規則の更新 \(P.15-3 \)](#)
- [ダイヤル規則の削除 \(P.15-4 \)](#)

■ ダイヤル規則の変更



ルートフィルタの設定

ルートフィルタの設定では、ルートパターンまたはハントパイロットと連動して、ダイヤルされた数字列を使用し、コールの処理方法を決定します。ルートフィルタは、at記号(@)ワイルドカードを含むパターンを設定する場合にのみ適用されます。ルートパターンまたはハントパイロットが@ワイルドカードを含む場合、Cisco CallManagerは、Numbering Plan ドロップダウン リストボックスで指定された番号計画に従って、コールを転送します。Cisco CallManagerで表示されるルートフィルタウィンドウは、選択する番号計画によって異なります。

ルートフィルタを使用すると、システム管理者は、ユーザがダイヤルできるルートパターンまたはハントパイロット、たとえば、ユーザが長距離通信事業者を手動で選択する(101に通信事業者アクセスコードを加えてダイヤルして)ことができるかどうかを決定できます。

詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルート プランの概要」を参照してください。



ヒント

まずルートフィルタを追加し、その定義をしておいてから、その定義済みのルートフィルタをルートパターンまたはハントパイロットに追加してください。

ルート フィルタを追加、更新、コピー、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- [ルート フィルタの特定 \(P.16-3 \)](#)
- [ルート フィルタの追加 \(P.16-5 \)](#)
- [ルート フィルタの更新 \(P.16-6 \)](#)
- [ルート フィルタのコピー \(P.16-7 \)](#)
- [ルート フィルタ クローズの追加 \(P.16-10 \)](#)
- [ルート フィルタ クローズの削除 \(P.16-12 \)](#)
- [ルート フィルタの削除 \(P.16-14 \)](#)
- [ルート フィルタ タグの説明 \(P.16-16 \)](#)
- [ルート フィルタの設定値 \(P.16-9 \)](#)

ルート フィルタの特定

ネットワーク内にはいくつかのルート フィルタが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の条件を指定して、固有のルート フィルタを特定することができます。ルート フィルタを特定する手順は、次のとおりです。



(注) Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、ルート フィルタの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ルート フィルタの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 Route Plan > Route Filter の順に選択します。

Find and List Route Filters ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ドロップダウン リストボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注) データベースに登録されているルート フィルタをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに Find をクリックします。

■ ルートフィルタの特定

検出されたルート フィルタのリストが、次の項目別に表示されます。

- Route Filter Name
- Dial Plan
- Clause (クローズ)



(注) 該当するルート フィルタの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Route Filters ウィンドウから複数のルート フィルタを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のルート フィルタをすべて削除できます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致するルート フィルタをクリックします。

選択したルート フィルタがウィンドウに表示されます。

関連項目

- [ルート フィルタの追加 \(P.16-5 \)](#)
- [ルート フィルタの更新 \(P.16-6 \)](#)
- [ルート フィルタのコピー \(P.16-7 \)](#)
- [ルート フィルタ クローズの追加 \(P.16-10 \)](#)
- [ルート フィルタ クローズの削除 \(P.16-12 \)](#)
- [ルート フィルタの削除 \(P.16-14 \)](#)
- [ルート フィルタ タグの説明 \(P.16-16 \)](#)
- [ルート フィルタの設定値 \(P.16-9 \)](#)

ルート フィルタの追加

ルート フィルタを追加する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** Cisco CallManager Administration から、**Route Plan > Route Filter** の順に選択します。
 - ステップ 2** **Add a New Route Filter** をクリックします。
 - ステップ 3** 適切な設定値を入力します (表 16-1 を参照)。
 - ステップ 4** **Continue** をクリックします。
 - ステップ 5** このルート フィルタのクローズ (文節) を作成するには、必要に応じて、ルート フィルタのタグと演算子を選択し、データを入力します。



(注) ルート フィルタのタグと演算子のデータを入力する場合は、P.16-16 の「[ルートフィルタ タグの説明](#)」を参照してください。

- ステップ 6** **Insert** をクリックして、フィルタを追加します。
-

関連項目

- [ルート フィルタの特定 \(P.16-3\)](#)
- [ルート フィルタの更新 \(P.16-6\)](#)
- [ルート フィルタ タグの説明 \(P.16-16\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「[ルート プランの概要](#)」

ルート フィルタの更新

ルート フィルタを更新する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** Cisco CallManager Administration から、**Route Plan > Route Filter** の順に選択します。
 - ステップ 2** 更新するルート フィルタを見つけます。P.16-3 の「[ルート フィルタの特定](#)」を参照してください。
 - ステップ 3** Dial Plan ドロップダウン リスト ボックスで、更新する番号計画(たとえば、North American Numbering Plan) を選択します。
 - ステップ 4** 該当する設定値を更新します (表 16-1 を参照)。
 - ステップ 5** Update をクリックします。
 - ステップ 6** Reset Devices をクリックします。ルート フィルタに関連付けられたデバイスをリセットすると、該当ゲートウェイのコールが欠落します。
-

関連項目

- [ルート フィルタの特定 \(P.16-3 \)](#)
- [ルート フィルタの追加 \(P.16-5 \)](#)
- [ルート フィルタ クローズの追加 \(P.16-10 \)](#)
- [ルート フィルタのコピー \(P.16-7 \)](#)
- [ルート フィルタ タグの説明 \(P.16-16 \)](#)
- [ルート フィルタの設定値 \(P.16-9 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「[ルート プランの概要](#)」

ルート フィルタのコピー

ルート フィルタをコピーして追加する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** Cisco CallManager Administration から、**Route Plan > Route Filter** の順に選択し
ます。
- ステップ 2** コピーするルート フィルタを特定します。P.16-3 の「[ルート フィルタの特定](#)」
を参照してください。
- ステップ 3** コピーするルート フィルタの横にあるチェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** そのルート フィルタの Copy アイコンをクリックします。

ウィンドウに、そのルート フィルタのコピーが表示されます。
- ステップ 5** Route Filter Name フィールドに、このルート フィルタの名前を入力します。
- ステップ 6** 該当する設定値を更新します ([表 16-1](#) を参照)。



(注) ルート フィルタのタグと演算子のデータを入力する場合は、[P.16-16 の「ルート フィルタ タグの説明」](#)を参照してください。

- ステップ 7** Insert をクリックして、新規ルート フィルタを追加します。



ヒント

ルート フィルタのコピーは、コピーするルート フィルタを特定して表
示し、Copy をクリックすることによっても実行できます。この場合
は、コピーした後に、前述の[ステップ 5](#) および[ステップ 6](#) の手順を実
行してください。


関連項目

- [ルートフィルタの特定 \(P.16-3\)](#)
- [ルートフィルタの追加 \(P.16-5\)](#)
- [ルートフィルタ クローズの追加 \(P.16-10\)](#)
- [ルートフィルタ クローズの削除 \(P.16-12\)](#)
- [ルートフィルタ タグの説明 \(P.16-16\)](#)
- [ルートフィルタの設定値 \(P.16-9\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルート プランの概要」

ルートフィルタの設定値

表 16-1 では、ルートフィルタの設定値について説明します。

表 16-1 ルートフィルタの設定値

フィールド	説明
Dial Plan	ドロップダウン リストから、番号計画(たとえば、North American Numbering Plan) を選択します。
Route Filter Name	<p>Route Filter Name フィールドに名前を入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、および下線文字 (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。各ルートフィルタ名が、そのルート プランに固有の名前であることを確認してください。</p> <p> (注) ルートフィルタには、内容を簡潔に表す名前を使用してください。通常、CompanynameLocationCalltype の形式が、内容を簡潔に表し、ルートフィルタをすばやくかつ簡単に識別できる方式です。たとえば、CiscoDallasMetro は、Dallas の Cisco オフィスからの LATA (Local Access and Transport Area) 間の無料コール用のルート フィルタを特定します。</p>

関連項目

- [ルートフィルタの追加 \(P.16-5 \)](#)
- [ルートフィルタの更新 \(P.16-6 \)](#)

ルート フィルタ クローズの追加

ルート フィルタのクローズ（文節）を追加すると、論理 OR を使用して既存のタグに追加演算子と項目を組み込むことによって、既存のルート フィルタをさらに詳細に指定できます。ルート フィルタのクローズを追加できるのは、最初に新規のルート フィルタを追加するとき、または既存のルート フィルタを更新するときのどちらかです。既存のルート フィルタにルート フィルタ クローズを追加する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** Cisco CallManager Administration から、**Route Plan > Route Filter** の順に選択します。
- ステップ 2** ルート フィルタ クローズを追加する先のルート フィルタを特定します。
[P.16-3 の「ルート フィルタの特定」](#)を参照してください。
- ステップ 3** **Add Clause** をクリックして、新しいルート フィルタ クローズのデータ入力ウィンドウを表示します。この新しいクローズのすべての演算子フィールドには、NOT-SELECTED と表示されます。
- ステップ 4** このルート フィルタの追加クローズを作成するために、必要に応じて、ルート フィルタのタグと演算子を選択し、データを入力します。



(注) North American Numbering Plan のルート フィルタのタグと演算子のデータを入力する場合は、[P.16-16 の「ルート フィルタ タグの説明」](#)を参照してください。

- ステップ 5** **Insert** をクリックして、クローズを追加します。

新しいクローズは、ウィンドウ上の既存のクローズの下に表示されます（必要に応じて下方にスクロールして、新しい情報を表示してください）。

関連項目

- [ルートフィルタの特定 \(P.16-3\)](#)
- [ルートフィルタの追加 \(P.16-5\)](#)
- [ルートフィルタ クローズの削除 \(P.16-12\)](#)
- [ルートフィルタ タグの説明 \(P.16-16\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルート プランの概要」

ルート フィルタ クローズの削除

ルート フィルタのクローズ（文節）を削除できるのは、新規ルート フィルタのセットアップ時、または既存ルート フィルタの更新時のどちらかです。既存のルート フィルタからルート フィルタ クローズを削除する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** Cisco CallManager Administration から、**Route Plan > Route Filter** の順に選択します。
- ステップ 2** 削除するルート フィルタ クローズが含まれているルート フィルタを特定します。
- ステップ 3** 削除するクローズの先頭までスクロールダウンし、**Remove Clause** をクリックします。

このルート フィルタ クローズを削除すると取り消せないことを警告するダイアログボックスが表示されます。



注意

各 Remove Clause ボタンは、そのボタンのすぐ下にあるクローズに適用されます。クローズを削除するときは、削除するクローズが正しいか慎重に確認してください。削除したクローズを元に戻すことはできません。不用意に削除すると、削除したクローズを作成し直す必要があります。

- ステップ 4** クローズを削除するには、**OK** をクリックします。削除操作を取り消すには、**Cancel** をクリックします。**OK** をクリックすると、Cisco CallManager により、クローズがルート フィルタから削除されます。

関連項目

- [ルートフィルタの特定 \(P.16-3\)](#)
- [ルートフィルタの追加 \(P.16-5\)](#)
- [ルートフィルタの削除 \(P.16-14\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルート プランの概要」

ルート フィルタの削除

ルート フィルタを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

ルート パターンまたはハント パイロット、変換パターンなどの項目が使用しているルート フィルタは、削除することができません。ルート フィルタを使用しているルート パターンまたはハント パイロット、変換パターンなどの項目を検索するには、Route Filter Configuration ウィンドウの **Dependency Records** リンクをクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。使用されているルート フィルタを削除しようとすると、Cisco CallManager はエラー メッセージを表示します。現在使用されているルート フィルタを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するルート フィルタを使用しているルート パターンまたはハント パイロット、変換パターンなどの項目すべてに、別のルート フィルタを割り当てる。[P.23-7 の「ルート パターンの更新」](#)および [P.27-6 の「変換パターンの更新」](#)を参照してください。
- 削除するルート フィルタを使用しているルート パターンまたはハント パイロット、変換パターンなどの項目を削除する。[P.23-10 の「ルート パターンの削除」](#)および [P.27-8 の「変換パターンの削除」](#)を参照してください。

手順

- ステップ 1** Cisco CallManager Administration から、**Route Plan > Route Filter** の順に選択します。
- ステップ 2** 削除するルート パターンおよびハント パイロットを特定します。[P.16-3 の「ルート フィルタの特定」](#)を参照してください。
- ステップ 3** 削除するルート フィルタのチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックします。

この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。

**注意**

ルートフィルタを削除するときは、削除するルートフィルタが正しいか慎重に確認してください。削除したルートフィルタを元に戻すことはできません。不用意に削除すると、削除したルートフィルタを作成し直す必要があります。

- ステップ 4** ルートフィルタを削除するには、**OK** をクリックします。削除操作を取り消すには、**Cancel** をクリックします。

**ヒント**

ルートフィルタの削除は、削除するルートフィルタを特定して表示し、**Delete** をクリックすることによっても実行できます。

関連項目

- [ルートフィルタの特定 \(P.16-3\)](#)
- [ルートフィルタの追加 \(P.16-5\)](#)
- [ルートフィルタ クローズの追加 \(P.16-10\)](#)
- [ルートフィルタ クローズの削除 \(P.16-12\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルートプランの概要」

ルート フィルタ タグの説明

タグは、ルート フィルタのコア コンポーネントです。タグでは、ダイヤルされる数字列の一部に名前を適用しています。たとえば、NANP 番号 972-555-1234 は、LOCAL-AREA-CODE (972)、OFFICE-CODE (555)、および SUBSCRIBER (1234) ルート フィルタ タグで構成されています。

ルート フィルタ タグには、演算子が必要であり、フィルタに掛けるコールを決定するには、その他の値も必要な場合があります。

ルート フィルタ タグのフィールドの値には、ワイルドカード文字 X、*、#、[、]、-、^、および 0 ~ 9 の数字が使用できます (ワイルドカード文字の定義については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「特殊文字と設定値」の表 15-3 を参照してください)。表 16-2 の説明では、実際の数字を表すために [2-9] と XXXX という表記を使用しています。この表記では、[2-9] は、2 ~ 9 の範囲の任意の 1 桁の数字を表し、X は、0 ~ 9 の範囲の任意の 1 桁の数字を表します。したがって、「[2-9]XX の形式の 3 桁のエリア コード」という記述は、実際の数字 200 ~ 999、またはすべてのワイルドカード、または結果としてその範囲のパターンになる実際の数字とワイルドカードの任意の組み合わせを入力できるという意味です。

ルート フィルタ タグは、Route Filter Configuration ウィンドウの Numbering Plan ドロップダウン リスト ボックスで選択する番号計画によって異なります。表 16-2 では、North American Numbering Plan のルート フィルタ タグについて説明します。

表 16-2 ルートフィルタ タグ

タグ	説明
AREA-CODE	[2-9]XX の形式のこの 3 桁のエリア コードは、長距離コールのエリア コードを指定します。
COUNTRY CODE	この 1 桁、2 桁、または 3 桁のコードは、国際コールの宛先国を指定します。
END-OF-DIALING	この 1 文字は、ダイヤルされた数字列の末尾を指定します。NANP 内でダイヤルされる国際番号には、# 文字がダイヤル終了信号として使用されます。
INTERNATIONAL-ACCESS	この 2 桁のアクセス コードは、国際ダイヤルを指定します。米国内で発信されるコールでは、このコードに 01 を使用します。
INTERNATIONAL-DIRECT-DIAL	この 1 桁のコードは、直接ダイヤルされる国際コールを指定します。米国内で発信されるコールでは、このコードに 1 を使用します。
INTERNATIONAL-OPERATOR	この 1 桁のコードは、オペレータ経由の国際コールを指定します。米国で発信されるコールでは、このコードに 0 を指定します。
LOCAL-AREA-CODE	[2-9]XX の形式のこの 3 桁のローカル エリア コードは、10 桁のローカル コールのローカル エリア コードを指定します。
LOCAL-DIRECT-DIAL	この 1 桁のコードは、直接ダイヤルされるローカル コールを指定します。NANP コールでは、このコードに 1 を使用します。
LOCAL-OPERATOR	この 1 桁のコードは、オペレータ経由のローカル コールを指定します。NANP コールでは、このコードに 0 を使用します。
LONG-DISTANCE-DIRECT-DIAL	この 1 桁のコードは、直接ダイヤルされる長距離コールを指定します。NANP コールでは、このコードに 1 を使用します。
LONG-DISTANCE-OPERATOR	この 1 桁または 2 桁のコードは、NANP 内のオペレータ経由の長距離コールを指定します。オペレータ経由のコールでは、このコードに 0 を使用し、オペレータにアクセスするには 00 を使用します。

■ ルートフィルタ タグの説明

表 16-2 ルートフィルタ タグ (続き)

タグ	説明
NATIONAL-NUMBER	このタグは、国際コール用の数字列の中の、各国固有の部分を指定します。
OFFICE-CODE	このタグは、7桁の電話番号の最初の3桁 ([2-9]XX の形式) を指定します。
SATELLITE-SERVICE	この1桁のコードは、国際コール用の衛星接続にアクセスできるようにします。
SERVICE	この3桁のコードは、緊急用の911、修理サービス用の611、問い合わせ用の411を指定します。
SUBSCRIBER	このタグは、7桁の電話番号の最後の4桁 (XXXX の形式) を指定します。
TRANSIT-NETWORK	この4桁の値は、長距離通信事業者を識別します。 TRANSIT-NETWORK 値には、先行する101通信事業者アクセスコード接頭部を指定しないでください。詳細については、TRANSIT-NETWORK-ESCAPE を参照してください。
TRANSIT-NETWORK-ESCAPE	この3桁の値は、長距離通信事業者IDに先行します。このフィールドの値には101が指定されています。 TRANSIT-NETWORK-ESCAPE 値に、4桁の通信事業者識別コードを指定しないでください。詳細については、TRANSIT-NETWORK を参照してください。

ルート フィルタ タグの演算子は、そのタグに関連したダイヤル数字列の有無、さらに、場合によってはそのダイヤル数字列の内容に基づいて、コールがフィルタに掛けられるかどうかを決定します。演算子 EXISTS および DOES-NOT-EXIST は、ダイヤル数字列のその部分が存在するかどうかだけをチェックします。演算子 == は、実際にダイヤルされる数字を、指定された値またはパターンと突き合せます。表 16-3 では、ルート フィルタ タグで使用される演算子について説明します。

表 16-3 ルートフィルタの演算子

演算子	説明
NOT-SELECTED	<p>このタグに関連したダイヤル数字列に基づいて、コールをフィルタに掛けないことを指定します。</p> <p> (注) この演算子が関連付けられるタグの有無により、Cisco CallManager によるコールの転送が妨げられることはありません。</p>
EXISTS	<p>このタグに関連したダイヤル数字列が検出されたときに、コールをフィルタに掛けることを指定します。</p> <p> (注) Cisco CallManager がコールを転送またはブロックするのは、ダイヤルされた数字列に、このタグに関連付けられている数字列がある場合だけです。</p>
DOES-NOT-EXIST	<p>このタグに関連したダイヤル数字列が検出されないときに、コールをフィルタに掛けることを指定します。</p> <p> (注) Cisco CallManager がコールを転送またはブロックするのは、ダイヤルされた数字列に、このタグに関連付けられている数字列がない場合だけです。</p>
==	<p>このタグに関連したダイヤル数字列が、指定された値と一致するときに、コールをフィルタに掛けることを指定します。</p> <p> (注) Cisco CallManager がコールを転送またはブロックするのは、ダイヤルされた数字列に、このタグに関連付けられている数字列があり、その数字列が、付加されているフィールドで指定された番号の範囲内である場合だけです。</p>

**注意**

演算子 EXISTS、DOES-NOT-EXIST、または NOT-SELECTED を使用しているタグには、ルート フィルタ タグ値を入力しないでください。

例

例 1 : AREA-CODE と演算子 DOES-NOT-EXIST を使用するルート フィルタは、エリア コードを含まないすべてのダイヤル数字列を選択します。

例 2 : AREA-CODE、演算子 ==、および項目 515 を使用するルート フィルタは、エリア コード 515 を含むすべてのダイヤル数字列を選択します。

例 3 : AREA-CODE、演算子 ==、および項目 5[2-9]X を使用するルート フィルタは、520 ~ 599 の範囲のエリア コードを含むすべてのダイヤル数字列を選択します。

例 4 : TRANSIT-NETWORK、演算子 ==、および項目 0288 を使用するルート フィルタは、通信事業者アクセス コード 1010288 を持つすべてのダイヤル数字列を選択します。



時間帯（Time Period）の設定

時間帯は、開始時刻と終了時刻によって定義される時間範囲で構成されます。また、週の曜日や毎年の特定期日のいずれの繰り返し間隔も指定できます。管理者は時間帯を定義した後、時間帯をタイム スケジュールに関連付けます。次に、time-of-day コール ルーティングをセットアップするパーティションにタイム スケジュールを関連付けます。時間帯とタイム スケジュールの詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「Time-of-Day ルーティング」を参照してください。

時間帯を追加、更新、コピー、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- [時間帯の検索 \(P.17-2\)](#)
- [時間帯の追加 \(P.17-4\)](#)
- [時間帯の更新 \(P.17-5\)](#)
- [時間帯のコピー \(P.17-6\)](#)
- [時間帯の削除 \(P.17-7\)](#)
- [時間帯の設定値 \(P.17-9\)](#)

時間帯の検索

ネットワーク内にはいくつかの時間帯が存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の基準を指定して、特定の時間帯を見つけることができます。時間帯を特定する手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザセッションでの作業中は、時間帯の検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、時間帯の検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 Route Plan > Class of Control > Time Period の順に選択します。

Find and List Time Periods ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ドロップダウン リストボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注)

データベースに登録されている時間帯をすべて検索するには、検索テキストを入力せずに Find をクリックします。

検出された時間帯のリストが、次の項目別に表示されます。

- Time period icon
- Time period name



(注) 該当する時間帯の横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Time Periods ウィンドウから複数の時間帯を削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内の時間帯をすべて削除できます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致する時間帯をクリックします。

選択した時間帯がウィンドウに表示されます。

関連項目

- [時間帯の追加 \(P.17-4\)](#)
- [時間帯の更新 \(P.17-5\)](#)
- [時間帯のコピー \(P.17-6\)](#)
- [時間帯の削除 \(P.17-7\)](#)
- [時間帯の設定値 \(P.17-9\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Time-of-Day ルーティング」

時間帯の追加

時間帯を追加する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 メニューバーで **Route Plan > Class of Control > Time Period** の順に選択します。

ステップ 2 **Add a New Time Period** をクリックします。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 17-1 を参照)。

ステップ 4 **Insert** をクリックして、新規の時間帯を追加します。

「Status: Insert completed」というメッセージが表示されます。

ステップ 5 他の時間帯を追加するには、**Add a New Time Period** をクリックして、ステップ 3 からの手順を繰り返します。

関連項目

- [時間帯の検索 \(P.17-2\)](#)
- [時間帯の更新 \(P.17-5\)](#)
- [時間帯のコピー \(P.17-6\)](#)
- [時間帯の削除 \(P.17-7\)](#)
- [時間帯の設定値 \(P.17-9\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Time-of-Day ルーティング」

時間帯の更新

時間帯を更新する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1 メニューバーで **Route Plan > Class of Control > Time Period** の順に選択します。
 - ステップ 2 更新する時間帯を見つけます。P.17-2 の「[時間帯の検索](#)」を参照してください。
 - ステップ 3 該当する設定値を更新します (表 17-1 を参照)。
 - ステップ 4 **Update** をクリックします。
-

関連項目

- [時間帯の検索 \(P.17-2\)](#)
- [時間帯の追加 \(P.17-4\)](#)
- [時間帯のコピー \(P.17-6\)](#)
- [時間帯の削除 \(P.17-7\)](#)
- [時間帯の設定値 \(P.17-9\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「[Time-of-Day ルーティング](#)」

時間帯のコピー

時間帯をコピーする手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** メニューバーで **Route Plan > Class of Control > Time Period** の順に選択します。
- ステップ 2** コピーする時間帯を見つけます。P.17-2 の「[時間帯の検索](#)」を参照してください。
- ステップ 3** コピーする時間帯の横にあるチェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** その時間帯の **Copy** アイコンをクリックします。
ウィンドウに、その時間帯のコピーが表示されます。
- ステップ 5** Time Period Name で名前を変更します。
- ステップ 6** 該当する設定値を更新します ([表 17-1](#) を参照) 。
- ステップ 7** **Insert** をクリックして、新規の時間帯を追加します。



ヒント

時間帯のコピーは、コピーする時間帯を特定して表示し、**Copy** をクリックすることによっても実行できます。この場合は、コピーした後、前述の[ステップ 6](#) および[ステップ 7](#) の手順を実行してください。

関連項目

- [時間帯の検索 \(P.17-2 \)](#)
- [時間帯の追加 \(P.17-4 \)](#)
- [時間帯の更新 \(P.17-5 \)](#)
- [時間帯の削除 \(P.17-7 \)](#)
- [時間帯の設定値 \(P.17-9 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Time-of-Day ルーティング」

時間帯の削除

時間帯を削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

タイム スケジュールが使用している時間帯は削除できません。時間帯を使用しているタイム スケジュールなどの項目を検索するには、Time Period Configuration ウィンドウの **Dependency Records** リンクをクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。使用中の時間帯を削除しようとする、Cisco CallManager はエラー メッセージを表示します。現在使用されている時間帯を削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除する時間帯を使用しているタイム スケジュールすべてに、別の時間帯を割り当てる。[P.18-4 の「タイム スケジュールの追加」](#)を参照してください。
- 削除する時間帯を使用しているタイム スケジュールを削除する。[P.18-8 の「タイム スケジュールの削除」](#)を参照してください。

手順

- ステップ 1** メニューバーで **Route Plan > Class of Control > Time Period** の順に選択します。
- ステップ 2** 削除する時間帯を見つけます。[P.17-2 の「時間帯の検索」](#)を参照してください。
- ステップ 3** 削除する時間帯のチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックします。

この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。
- ステップ 4** 時間帯を削除するには、**OK** をクリックします。削除操作を取り消すには、**Cancel** をクリックします。

■ 時間帯の削除

**注意**

時間帯を削除するときは、削除する時間帯が正しいか慎重に確認してください。削除した時間帯を元に戻すことはできません。不用意に削除すると、削除した時間帯を作成し直す必要があります。

**ヒント**

時間帯の削除は、削除する時間帯を特定して表示し、**Delete** をクリックすることによっても実行できます。





関連項目

- [時間帯の検索 \(P.17-2\)](#)
- [時間帯の追加 \(P.17-4\)](#)
- [時間帯の更新 \(P.17-5\)](#)
- [時間帯のコピー \(P.17-6\)](#)
- [時間帯の設定値 \(P.17-9\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Time-of-Day ルーティング」

時間帯の設定値

表 17-1 では、時間帯の設定値について説明します。

表 17-1 時間帯の設定値

フィールド	説明
Time Period Name	<p>Time Period Name フィールドに名前を入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、および下線文字 (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。各時間帯名が、そのプランに固有の名前であることを確認してください。</p> <p></p> <p>(注) 時間帯には、内容を表す簡潔な名前を使用してください。通常、hours_or_days の形式が、内容を簡潔に表し、時間帯をすばやくかつ簡単に識別できる方式です。たとえば、office_M_to_F は、オフィスでの月曜日から金曜日の業務時間の時間帯を示します。</p>
Start Time	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、この時間帯が開始する時刻を選択します。リストされている使用可能な開始時刻は、24 時間の 15 分間隔で構成されています。</p> <p>デフォルト値は、No Office Hours です。</p> <p></p> <p>(注) 深夜に時間帯を開始するには、0:00 値を選択します。</p>
End Time	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、この時間帯が終了する時刻を選択します。リストされている使用可能な終了時刻は、24 時間の 15 分間隔で構成されています。</p> <p>デフォルト値は、No Office Hours です。</p> <p></p> <p>(注) End Time には、Start Time で選択する時刻よりも遅い時刻を選択する必要があります。</p> <p></p> <p>(注) 深夜に時間帯を終了するには、24:00 値を選択します。</p>

■ 時間帯の設定値

表 17-1 時間帯の設定値 (続き)

フィールド	説明
Repeat Every	<p>次のいずれかのオプション ボタンをクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> Week from : Week from オプション ボタンをクリックする場合は、<i>from</i> および <i>to</i> の横にあるドロップダウン リスト ボックスを使用して、この時間帯を適用する曜日を選択します。 <p>例 : 月曜日から金曜日に適用する時間帯を定義するには、<i>from</i> の値に月 (曜日) 、<i>to</i> の値に金 (曜日) を選択します。</p> <p>土曜日に適用する時間帯を定義するには、<i>from</i> の値に土 (曜日) 、<i>to</i> の値に土 (曜日) を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> Year on : Year on オプション ボタンをクリックする場合は、ドロップダウン リスト ボックスを使用して、1 年の内でこの時間帯を適用する月と日を選択します。 <p>例 : 毎年元旦に適用する時間帯を定義するには、月に 1、日に 1 を選択します。</p>

関連項目

- [時間帯の検索 \(P.17-2\)](#)
- [時間帯の追加 \(P.17-4\)](#)
- [時間帯の更新 \(P.17-5\)](#)
- [時間帯のコピー \(P.17-6\)](#)
- [時間帯の削除 \(P.17-7\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Time-of-Day ルーティング」



タイム スケジュールの設定

タイム スケジュールは、時間帯のグループで構成されます。タイム スケジュールはパーティションに割り当てられます。タイム スケジュールは、発信側デバイスが特定の時間帯にコールを完了しようとするときに検索するパーティションを決定します。タイム スケジュールの詳細については、『*Cisco CallManager システム ガイド*』の「Time-of-Day ルーティング」を参照してください。

タイム スケジュールを検索、追加、更新、コピー、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- [タイム スケジュールの検索 \(P.18-2\)](#)
- [タイム スケジュールの追加 \(P.18-4\)](#)
- [タイム スケジュールの更新 \(P.18-5\)](#)
- [タイム スケジュールのコピー \(P.18-6\)](#)
- [タイム スケジュールの削除 \(P.18-8\)](#)
- [タイム スケジュールの設定値 \(P.18-10\)](#)

タイム スケジュールの検索

ネットワーク内にはいくつかのタイム スケジュールが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の条件を指定して、特定のタイム スケジュールを見つけることができます。タイム スケジュールを特定する手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、タイム スケジュールの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、タイム スケジュールの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 Route Plan > Class of Control > Time Schedule の順に選択します。

Find and List Time Schedules ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注)

データベースに登録されているタイム スケジュールをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに Find をクリックします。

検出されたタイム スケジュールのリストが、次の項目別に表示されます。

- Time schedule icon
- Time schedule name



(注) 該当するタイム スケジュールの横にあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、Find and List Time Schedules ウィンドウから複数のタイム スケジュールを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のタイム スケジュールをすべて削除できません。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致するタイム スケジュールをクリックします。

選択したタイム スケジュールがウィンドウに表示されます。

関連項目

- [タイム スケジュールの追加 \(P.18-4\)](#)
- [タイム スケジュールの更新 \(P.18-5\)](#)
- [タイム スケジュールのコピー \(P.18-6\)](#)
- [タイム スケジュールの削除 \(P.18-8\)](#)
- [タイム スケジュールの設定値 \(P.18-10\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Time-of-Day ルーティング」

タイム スケジュールの追加

タイム スケジュールを追加する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** メニューバーで **Route Plan > Class of Control > Time Schedule** の順に選択します。
 - ステップ 2** **Add a New Time Schedule** をクリックします。
 - ステップ 3** 適切な設定値を入力します (表 18-1 を参照)。
 - ステップ 4** **Insert** をクリックして、新規タイム スケジュールを追加します。

「Status: Insert completed」というメッセージが表示されます。
 - ステップ 5** 他のタイム スケジュールを追加するには、**Add a New Time Schedule** をクリックして、ステップ 3 からの手順を繰り返します。
-

関連項目

- [タイム スケジュールの検索 \(P.18-2\)](#)
- [タイム スケジュールの更新 \(P.18-5\)](#)
- [タイム スケジュールのコピー \(P.18-6\)](#)
- [タイム スケジュールの削除 \(P.18-8\)](#)
- [タイム スケジュールの設定値 \(P.18-10\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Time-of-Day ルーティング」

タイム スケジュールの更新

タイム スケジュールを更新する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1 メニューバーで **Route Plan > Class of Control > Time Schedule** の順に選択します。
 - ステップ 2 更新するタイム スケジュールを見つけます。P.18-2 の「[タイム スケジュールの検索](#)」を参照してください。
 - ステップ 3 該当する設定値を更新します（[表 18-1](#) を参照）。
 - ステップ 4 **Update** をクリックします。
-

関連項目

- [タイム スケジュールの検索](#) (P.18-2)
- [タイム スケジュールの追加](#) (P.18-4)
- [タイム スケジュールのコピー](#) (P.18-6)
- [タイム スケジュールの削除](#) (P.18-8)
- [タイム スケジュールの設定値](#) (P.18-10)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「[Time-of-Day ルーティング](#)」

タイム スケジュールのコピー

タイム スケジュールをコピーする手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** メニューバーで **Route Plan > Class of Control > Time Schedule** の順に選択します。
- ステップ 2** コピーするタイム スケジュールを見つけます。P.18-2 の「[タイム スケジュールの検索](#)」を参照してください。
- ステップ 3** コピーするタイム スケジュールの横にあるチェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** そのタイム スケジュールの **Copy** アイコンをクリックします。

ウィンドウに、そのタイム スケジュールのコピーが表示されます。
- ステップ 5** **Time Schedule Name** で名前を変更します。
- ステップ 6** 該当する設定値を更新します ([表 18-1](#) を参照)。
- ステップ 7** **Insert** をクリックして、新規タイム スケジュールを追加します。



タイム スケジュールのコピーは、コピーするタイム スケジュールを特定して表示し、**Copy** をクリックすることによっても実行できます。この場合は、コピーした後に、前述の [ステップ 6](#) および [ステップ 7](#) の手順を実行してください。

関連項目

- [タイム スケジュールの検索 \(P.18-2\)](#)
- [タイム スケジュールの追加 \(P.18-4\)](#)
- [タイム スケジュールの更新 \(P.18-5\)](#)
- [タイム スケジュールの削除 \(P.18-8\)](#)
- [タイム スケジュールの設定値 \(P.18-10\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Time-of-Day ルーティング」

タイム スケジュールの削除

タイム スケジュールを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

パーティションが使用しているタイム スケジュールは削除できません。タイム スケジュールを使用している項目を検索するには、Time Schedule Configuration ウィンドウの **Dependency Records** リンクをクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。使用中のタイム スケジュールを削除しようとすると、Cisco CallManager はエラーメッセージを表示します。現在使用されているタイム スケジュールを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するタイム スケジュールを使用しているパーティションすべてに、別のタイム スケジュールを割り当てる。[P.19-4 の「パーティションの追加」](#)を参照してください。
- 削除するタイム スケジュールを使用しているパーティションを削除する。[P.19-1 の「パーティションの設定」](#)の章を参照してください。

手順

ステップ 1 メニューバーで **Route Plan > Class of Control > Time Schedule** の順に選択します。

ステップ 2 削除するタイム スケジュールを見つけます。[P.18-2 の「タイム スケジュールの検索」](#)を参照してください。

ステップ 3 削除するタイム スケジュールのチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックします。

この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。

ステップ 4 タイム スケジュールを削除するには、**OK** をクリックします。削除操作を取り消すには、**Cancel** をクリックします。

**注意**

タイムスケジュールを削除するときは、削除するタイムスケジュールが正しいか慎重に確認してください。削除したタイムスケジュールを元に戻すことはできません。不用意に削除すると、削除したタイムスケジュールを作成し直す必要があります。

**ヒント**

タイムスケジュールの削除は、削除するタイムスケジュールを特定して表示し、**Delete** をクリックすることによっても実行できます。

関連項目

- [タイムスケジュールの検索 \(P.18-2\)](#)
- [タイムスケジュールの追加 \(P.18-4\)](#)
- [タイムスケジュールの更新 \(P.18-5\)](#)
- [タイムスケジュールのコピー \(P.18-6\)](#)
- [タイムスケジュールの設定値 \(P.18-10\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Time-of-Day ルーティング」

■ タイム スケジュールの設定値

タイム スケジュールの設定値

表 18-1 では、タイム スケジュールの設定値について説明します。

表 18-1 タイム スケジュールの設定値




フィールド	説明
タイム スケジュール情報	
Time Schedule Name	<p>Time Schedule Name フィールドに名前を入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、および下線文字 (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。各タイム スケジュール名が、そのプランに固有の名前であることを確認してください。</p> <p> (注) タイム スケジュールには、内容を表す簡潔な名前を使用してください。</p>
このタイム スケジュールの時間帯	
Available Time Periods	<p>Available Time Periods リスト ボックスで時間帯を選択し、その時間帯を Selected Time Periods リスト ボックスに追加します。これには、この 2 つのリスト ボックス間にある下矢印ボタンをクリックします。</p> <p>ある範囲の時間帯を一度に追加するには、その範囲内の最初の時間帯をクリックし、Shift キーを押した状態でその範囲内の最後の時間帯をクリックします。2 つのリスト ボックス間にある下矢印ボタンをクリックして、その範囲の時間帯を追加します。</p> <p>連続していない複数の時間帯を追加するには、Control (Ctrl) キーを押した状態で複数の時間帯をクリックしていきます。2 つのリスト ボックス間にある下矢印ボタンをクリックして、選択した時間帯を追加します。</p>

表 18-1 タイムスケジュールの設定値 (続き)

フィールド	説明
Selected Time Periods	<p>このリスト ボックスには、このタイム スケジュール用に選択された時間帯が一覧表示されます。選択された時間帯のリストから時間帯を削除するには、削除する時間帯を選択して、2 つのリスト ボックス間にある上矢印をクリックします。</p> <p> (注) 1 つのタイム スケジュールに複数の時間帯が関連付けられ、時間帯が重複している場合、Day of Year 設定値を持つ時間帯が、Day of Week 設定値を持つ時間帯よりも優先されます。</p> <p>例：ある時間帯で 1 月 1 日に対して No Office Hours が設定され、別の時間帯では毎週の同じ曜日 (たとえば、日曜日 から土曜日) に対して 08:00 ~ 17:00 が設定されている場合、1 月 1 日の時間帯が使用されます。この例では、No Office Hours が優先されます。</p> <p> (注) 時間間隔の設定値は、毎年と同じ日、または毎週の同じ曜日に対する No Office Hour 設定値よりも優先されます。</p> <p>例：ある時間帯で土曜日に No Office Hours が指定されています。別の時間帯では土曜日に 08:00 ~ 12:00 の時間が指定されています。この例では、結果として時間間隔が土曜日の 08:00 ~ 12:00 に指定されます。</p>

関連項目

- [タイム スケジュールの検索 \(P.18-2\)](#)
- [タイム スケジュールの追加 \(P.18-4\)](#)
- [タイム スケジュールの更新 \(P.18-5\)](#)
- [タイム スケジュールのコピー \(P.18-6\)](#)
- [タイム スケジュールの削除 \(P.18-8\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Time-of-Day ルーティング」

■ タイム スケジュールの設定値



パーティションの設定

パーティションには、電話番号 (DN) およびルートパターンが登録されているルートパターンのリストが含まれています。パーティションは、編成、ロケーション、およびコールタイプに基づいて、ルートプランを複数の論理サブセットに分割することにより、コールルーティングを容易にするものです。パーティションの詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「パーティションおよびコール検索スペース」を参照してください。

ルートパーティションを検索、追加、更新、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- [パーティションの特定 \(P.19-2\)](#)
- [パーティションの追加 \(P.19-4\)](#)
- [パーティションの更新 \(P.19-5\)](#)
- [パーティションの削除 \(P.19-6\)](#)
- [パーティションの設定値 \(P.19-8\)](#)
- [パーティションの検索 \(P.19-12\)](#)

パーティションの特定

ネットワーク内にはいくつかのパーティションが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の条件を指定して、固有のパーティションを特定することができます。パーティションを特定する手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、パーティションの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、パーティションの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 Route Plan > Class of Control > Partition の順に選択します。

Find and List Partitions ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ドロップダウン リストボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注)

データベースに登録されているパーティションをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに Find をクリックします。

検出されたパーティションのリストが、次の項目別に表示されます。

- Partition name (パーティション名)
- Description



(注) 該当するパーティションの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Partitions ウィンドウから複数のパーティションを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのパーティションを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致するパーティションをクリックします。

ウィンドウに、選択したパーティションが表示されます。

関連項目

- [パーティションの追加 \(P.19-4\)](#)
- [パーティションの更新 \(P.19-5\)](#)
- [パーティションの削除 \(P.19-6\)](#)
- [パーティションの設定値 \(P.19-8\)](#)
- [パーティションの検索 \(P.19-12\)](#)

パーティションの追加

パーティションを追加する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1 メニューバーで **Route Plan > Class of Control > Partition** の順に選択します。
- ステップ 2 **Add a New Partition** をクリックします。
- ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 19-1 を参照)。
- ステップ 4 **Insert** をクリックして、新しいパーティションを追加します。



(注) 複数のパーティションを設定できます。複数のパーティションを入力するには、各パーティション エントリに対して 1 行を使用します。最大 75 のパーティションを入力できます。入力できる文字数は、それぞれの名前と説明を合計して 1475 文字までです。各行のパーティション名と説明はコンマ(,)で区切ってください。説明を入力しない場合、Cisco CallManager は、名前を説明として使用します。

関連項目

- [パーティションの特定 \(P.19-2\)](#)
- [パーティションの更新 \(P.19-5\)](#)
- [パーティションの削除 \(P.19-6\)](#)
- [パーティションの設定値 \(P.19-8\)](#)
- [パーティションの検索 \(P.19-12\)](#)

パーティションの更新

パーティションを更新する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** メニューバーで **Route Plan > Class of Control > Partition** の順に選択します。
 - ステップ 2** 更新するパーティションを見つけて表示します。P.19-2 の「[パーティションの特定](#)」を参照してください。
 - ステップ 3** パーティション名、説明、タイム スケジュール、または時間帯を変更し、**Update** をクリックします。
 - ステップ 4** **Restart Devices** をクリックします。そのパーティションに関連したデバイスを再起動すると、影響を受けるゲートウェイ上のコールがすべて欠落します。
-

関連項目

- [パーティションの特定 \(P.19-2\)](#)
- [パーティションの追加 \(P.19-4\)](#)
- [パーティションの削除 \(P.19-6\)](#)
- [パーティションの設定値 \(P.19-8\)](#)
- [パーティションの検索 \(P.19-12\)](#)

パーティションの削除

パーティションを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

パーティションがコーリング サーチ スペースなどの項目またはルートパターンに割り当てられている場合は、そのパーティションを削除できません。パーティションを使用しているコーリング サーチ スペースなどの項目を検索するには、Partition Configuration ウィンドウの **Dependency Records** リンクをクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。使用中のパーティションを削除しようとすると、Cisco CallManager はエラー メッセージを表示します。現在使用されているパーティションを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するパーティションを使用しているコーリング サーチ スペースやデバイスなどの項目すべてに、別のパーティションを割り当てる。
- 削除するパーティションを使用しているコーリング サーチ スペースやデバイスなどの項目を削除する。

手順

-
- ステップ 1** メニューバーで **Route Plan > Class of Control > Partition** の順に選択します。
 - ステップ 2** 削除するパーティションを見つけます。[P.19-2 の「パーティションの特定」](#)を参照してください。
 - ステップ 3** 削除するパーティションのチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックします。



ヒント

Matching Record(s) タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、リスト内のパーティションをすべて削除できます。

この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。

ステップ 4 パーティションを削除するには、**OK** をクリックします。削除操作を取り消すには、**Cancel** をクリックします。

**注意**

パーティションを削除するときは、削除するパーティションが正しいか慎重に確認してください。削除したパーティションを元に戻すことはできません。不用意に削除すると、削除したパーティションを作成し直す必要があります。

**ヒント**

パーティションの削除は、削除するパーティションを見つけて表示し、**Delete** をクリックすることによっても実行できます。

関連項目

- [パーティションの特定 \(P.19-2\)](#)
- [パーティションの追加 \(P.19-4\)](#)
- [パーティションの更新 \(P.19-5\)](#)
- [パーティションの設定値 \(P.19-8\)](#)
- [パーティションの検索 \(P.19-12\)](#)

■ パーティションの設定値

パーティションの設定値

表 19-1 では、パーティションの設定値について説明します。

表 19-1 パーティションの設定値


フィールド	説明
(Partition Name, Description)	<p>名前を partition name and description ボックスに入力します。各パーティション名が、そのルート プランに固有の名前であることを確認してください。パーティション名には、英数字、スペース、ハイフン (-)、およびアンダースコア (_) を使用できます。</p> <p> (注) パーティション名の長さによって、コーリング サーチ スペースに追加できるパーティションの最大数が制限されます。表 19-2 に、パーティション名が固定長である場合にコーリング サーチ スペースに追加できるパーティションの最大数の例を示します。</p> <p>パーティション名の後にコンマ (,) を入力してから、そのパーティション名と同じ行に説明を入力します。説明を入力しない場合は、Cisco CallManager が、自動的にこのフィールドにパーティション名を入力します。</p> <p>各パーティションおよび説明には新しい行を使用してください。</p>

表 19-1 パーティションの設定値（続き）

フィールド	説明
Time Schedule	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、このパーティションに関連付けるタイム スケジュールを選択します。関連付けられたタイム スケジュールは、パーティションがいつ着信コールを受信できるかを指定します。</p> <p>デフォルト値は <i>None</i> です。この値は、time-of-day ルーティングが有効ではなく、パーティションが常にアクティブであることを意味します。</p> <p>パーティションのタイム スケジュールとの関連は、次のフィールドにある Time Zone 値との組み合わせで、time-of-day ルーティング用のパーティションを設定します。指定されたタイム スケジュールに対して、このパーティションへの着信コールがチェックされます。</p>
Time Zone	<p>次のいずれかのオプションを選択し、パーティションを時間帯に関連付けます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Originating Device : このオプションを選択すると、発信側デバイスの時間帯に関連付けられたタイム スケジュールに対してパーティションがチェックされます。 • Specific Time Zone : このオプションを選択する場合は、ドロップダウン リスト ボックスから時間帯を選択します。この時間帯の中でパーティションが指定されたときに、関連付けられたタイム スケジュールに対してパーティションがチェックされます。 <p>これらのオプションはすべて Time Zone を指定します。着信コールがあると、Cisco CallManager 上の現在時刻は、オプションの 1 つを選択したときの特定の時間帯セットに変換されます。この特定の時間は、Time Schedule フィールドの値に対して検証されます。</p>

■ パーティションの設定値



ワンポイント・アドバイス

パーティションには、内容を表す簡潔な名前を使用してください。通常、`CompanynameLocationCalltype` の形式が、内容を簡潔に表し、パーティションをすばやくかつ簡単に識別できる方式です。たとえば、`CiscoDallasMetroPT` は、Dallas の Cisco オフィスからの、LATA (Local Access and Transport Area) 間の無料コール用のパーティションを特定できます。



ヒント

必要に応じて、Partition Name & Description テキストボックスに各パーティションの名前と説明を入力することにより、複数のパーティションを同時に入力できます。必ず、各パーティション エントリに対して 1 行を使用し、パーティション名と説明はコンマで区切ってください。

表 19-2 に、パーティション名が固定長である場合にコーリングサーチスペースに追加できるパーティションの最大数の例を示します。この最大数の計算方法の詳細については、『*Cisco CallManager システム ガイド*』の「パーティション名の制限」を参照してください。

表 19-2 コーリングサーチスペースのパーティション制限

パーティション名の長さ	パーティションの最大数
2 文字	170
3 文字	128
4 文字	102
5 文字	86
...	...
10 文字	46
15 文字	32

関連項目

- [パーティションの特定 \(P.19-2\)](#)
- [パーティションの追加 \(P.19-4\)](#)
- [パーティションの更新 \(P.19-5\)](#)
- [パーティションの削除 \(P.19-6\)](#)
- [パーティションの検索 \(P.19-12\)](#)

パーティションの検索

パーティションの数が 250 より多い場合は、該当する CallManager Administration ウィンドウの Partition ドロップダウン リスト ボックスの横に省略記号 (...) ボタンが表示されます。(...) ボタンをクリックすると、目的のパーティションを検索できます。パーティションを検索する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 Partition ドロップダウン リスト ボックスの横にある ... ボタンをクリックします。

Select Partition ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 List items where Name contains フィールドにパーティション名の一部を入力します。

ステップ 3 Select item to use ボックスに表示されるパーティションのリストで希望するパーティション名をクリックし、**OK** をクリックします。

関連項目

- [パーティションの特定 \(P.19-2 \)](#)
- [パーティションの追加 \(P.19-4 \)](#)
- [パーティションの更新 \(P.19-5 \)](#)
- [パーティションの削除 \(P.19-6 \)](#)
- [パーティションの設定値 \(P.19-8 \)](#)



コーリング サーチ スペースの 設定

コーリング サーチ スペースは、通常はデバイスに割り当てられているルートパーティションの順序リストで構成されます。コーリング サーチ スペースによって、発信側デバイスがコールを完了しようとするときに検索するパーティションが決まります。コーリング サーチ スペースとパーティションの詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「パーティションおよびコール検索スペース」を参照してください。

コーリング サーチ スペースを検索、追加、更新、コピー、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- [コーリング サーチ スペースの検索 \(P.20-2\)](#)
- [コーリング サーチ スペースの追加 \(P.20-4\)](#)
- [コーリング サーチ スペースの更新 \(P.20-5\)](#)
- [コーリング サーチ スペースのコピー \(P.20-6\)](#)
- [コーリング サーチ スペースの削除 \(P.20-8\)](#)
- [コーリング サーチ スペースの設定値 \(P.20-10\)](#)

コーリングサーチスペースの検索

ネットワーク内にはいくつかのコーリングサーチスペースが存在するので、Cisco CallManager では、固有の条件を指定して、特定のコーリングサーチスペースを見つけることができます。コーリングサーチスペースを特定する手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザセッションでの作業中は、コーリングサーチスペースの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、コーリングサーチスペースの検索設定は保持されません。

手順

ステップ 1 Route Plan > Class of Control > Calling Search Space の順に選択します。

Find and List Calling Search Spaces ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注)

データベースに登録されているコーリングサーチスペースをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに Find をクリックします。

検出されたコーリング サーチ スペースのリストが、次の項目別に表示されます。

- CSS name (CSS 名)
- Description



(注) 該当するコーリング サーチ スペースの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Calling Search Spaces ウィンドウから複数のコーリング サーチ スペースを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のコーリング サーチ スペースをすべて削除できます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致するコーリング サーチ スペースをクリックします。

選択したコーリング サーチ スペースがウィンドウに表示されます。

関連項目

- [コーリング サーチ スペースの追加 \(P.20-4\)](#)
- [コーリング サーチ スペースの更新 \(P.20-5\)](#)
- [コーリング サーチ スペースのコピー \(P.20-6\)](#)
- [コーリング サーチ スペースの削除 \(P.20-8\)](#)
- [コーリング サーチ スペースの設定値 \(P.20-10\)](#)

コーリングサーチスペースの追加

コーリングサーチスペースを追加する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** メニューバーで **Route Plan > Class of Control > Calling Search Space** の順に選択します。
 - ステップ 2** **Add a New Calling Search Space** をクリックします。
 - ステップ 3** 適切な設定値を入力します (表 20-1 を参照)。
 - ステップ 4** **Insert** をクリックして、新規コーリングサーチスペースを追加します。

「Status: Insert completed」というメッセージが表示されます。
 - ステップ 5** 他のコーリングサーチスペースを追加するには、**Add a New Calling Search Space** をクリックして、ステップ 3 からの手順を繰り返します。
-

関連項目

- [コーリングサーチスペースの検索 \(P.20-2\)](#)
- [コーリングサーチスペースの更新 \(P.20-5\)](#)
- [コーリングサーチスペースのコピー \(P.20-6\)](#)
- [コーリングサーチスペースの削除 \(P.20-8\)](#)

コーリング サーチ スペースの更新

コーリング サーチ スペースを更新する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** メニューバーで **Route Plan > Class of Control > Calling Search Space** の順に選択します。
 - ステップ 2** 更新するコーリング サーチ スペースを見つけます。P.20-2 の「[コーリング サーチ スペースの検索](#)」を参照してください。
 - ステップ 3** 該当する設定値を更新します ([表 20-1](#) を参照)。
 - ステップ 4** **Update** をクリックします。
-

関連項目

- [コーリング サーチ スペースの検索 \(P.20-2 \)](#)
- [コーリング サーチ スペースの追加 \(P.20-4 \)](#)
- [コーリング サーチ スペースのコピー \(P.20-6 \)](#)
- [コーリング サーチ スペースの削除 \(P.20-8 \)](#)
- [コーリング サーチ スペースの設定値 \(P.20-10 \)](#)

コーリングサーチスペースのコピー

コーリングサーチスペースをコピーして追加する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** メニューバーで **Route Plan > Class of Control > Calling Search Space** の順に選択します。
- ステップ 2** コピーするコーリングサーチスペースを見つけます。[P.20-2 の「コーリングサーチスペースの検索」](#)を参照してください。
- ステップ 3** コピーするコーリングサーチスペースの横にあるチェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** そのコーリングサーチスペースの **Copy** アイコンをクリックします。

ウィンドウに、コピーしたコーリングサーチスペースが表示されます。
- ステップ 5** Calling Search Space Name フィールドで名前を変更します。
- ステップ 6** 該当する設定値を更新します ([表 20-1](#) を参照)。
- ステップ 7** **Insert** をクリックして、新規コーリングサーチスペースを追加します。



ヒント

コーリングサーチスペースのコピーは、コーリングサーチスペースを見つけて表示し、**Copy** をクリックすることによっても実行できます。この場合は、コピーした後に、前述の[ステップ 6](#) および[ステップ 7](#) の手順を実行してください。

関連項目

- [コーリング サーチ スペースの検索 \(P.20-2 \)](#)
- [コーリング サーチ スペースの追加 \(P.20-4 \)](#)
- [コーリング サーチ スペースの更新 \(P.20-5 \)](#)
- [コーリング サーチ スペースの削除 \(P.20-8 \)](#)
- [コーリング サーチ スペースの設定値 \(P.20-10 \)](#)

コーリングサーチスペースの削除

コーリングサーチスペースを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

デバイス、回線 (DN)、変換パターンなどの項目が使用しているコーリングサーチスペースは、削除できません。コーリングサーチスペースを使用しているデバイス、回線、変換パターンなどの項目を検索するには、Calling Search Space Configuration ウィンドウの **Dependency Records** リンクをクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。使用中のコーリングサーチスペースを削除しようとする、Cisco CallManager はエラーメッセージを表示します。現在使用中のコーリングサーチスペースを削除する前に、次の作業の一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するコーリングサーチスペースを使用しているデバイス、回線、または変換パターンすべてに、別のコーリングサーチスペースを割り当てる。[P.55-2 の「Cisco CallManager へのデバイスの追加」](#)、[P.62-52 の「電話番号の設定」](#)、および [P.27-6 の「変換パターンの更新」](#)を参照してください。
- 削除するコーリングサーチスペースを使用しているデバイス、回線、または変換パターンを削除する。[第 55 章「デバイスの設定」](#)、[P.62-56 の「電話機からの電話番号の削除」](#)、および [P.27-8 の「変換パターンの削除」](#)を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** メニューバーで **Route Plan > Class of Control > Calling Search Space** の順に選択します。
- ステップ 2** 削除するコーリングサーチスペースを見つけます。[P.20-2 の「コーリングサーチスペースの検索」](#)を参照してください。

ステップ 3 削除するコーリング サーチ スペースのチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックします。

この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。

ステップ 4 コーリング サーチ スペースを削除するには、**OK** をクリックします。削除を取り消すには、**Cancel** をクリックします。



注意

コーリング サーチ スペースを削除するときは、削除するコーリング サーチ スペースが正しいか慎重に確認してください。削除したコーリング サーチ スペースを元に戻すことはできません。不用意に削除すると、削除したコーリング サーチ スペースを作成し直す必要があります。



ヒント

コーリング サーチ スペースの削除は、削除するコーリング サーチ スペースを見つけて表示し、**Delete** をクリックすることによっても実行できます。

関連項目

- [コーリング サーチ スペースの検索 \(P.20-2\)](#)
- [コーリング サーチ スペースの追加 \(P.20-4\)](#)
- [コーリング サーチ スペースの更新 \(P.20-5\)](#)
- [コーリング サーチ スペースのコピー \(P.20-6\)](#)
- [コーリング サーチ スペースの設定値 \(P.20-10\)](#)

■ コーリングサーチスペースの設定値

コーリングサーチスペースの設定値

表 20-1 では、コーリングサーチスペースの設定値について説明します。

表 20-1 コーリングサーチスペースの設定値



フィールド	説明
Calling Search Space Name	<p>名前を Calling Search Space Name フィールドに入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、および下線文字 (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。各コーリングサーチスペース名が、そのプランに固有の名前であることを確認してください。</p> <p> (注) コーリングサーチスペースには、内容を表す簡潔な名前を使用してください。通常、CompanynameLocationCalltype の形式が、内容を的確に表し、コーリングサーチスペースをすばやくかつ簡単に識別できる方式です。たとえば、CiscoDallasMetroCS は、Dallas の Cisco オフィスからの、LATA (Local Access and Transport Area) 間の無料コール用のコーリングサーチスペースとして特定できます。</p>
Description	Description フィールドに説明を入力します。この説明には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、および下線文字 (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。
Find Partitions containing	検索するパーティション名に含まれる文字を入力し、Find ボタンをクリックします。入力した文字と一致するパーティション名が Available Partitions ボックスに表示されます。

表 20-1 コーリング サーチ スペースの設定値 (続き)

フィールド	説明
Available Partitions	<p>Available Partitions リスト ボックスでパーティションを選択し、そのパーティションを Selected Partitions リスト ボックスに追加します。これには、この 2 つのリスト ボックス間にある矢印ボタンをクリックします。</p> <p>ある範囲のパーティションを一度に追加するには、その範囲内の最初のパーティションをクリックし、Shift キーを押した状態でその範囲内の最後のパーティションをクリックします。2 つのリスト ボックス間にある矢印ボタンをクリックして、その範囲のパーティションを追加します。</p> <p>連続していない複数のパーティションを追加するには、Control (Ctrl) キーを押した状態で複数のパーティションをクリックしていきます。2 つのリスト ボックス間にある矢印ボタンをクリックして、選択したパーティションを追加します。</p> <p> (注) パーティション名の長さによって、コーリング サーチ スペースに追加できるパーティションの最大数が制限されます。表 20-2 に、パーティション名が固定長である場合にコーリング サーチ スペースに追加できるパーティションの最大数の例を示します。</p>
Selected Partitions (ordered by highest priority)	<p>パーティションの優先順位を変更するには、Selected Partitions リスト ボックス内のパーティション名を選択します。そのリスト ボックスの右側にある矢印をクリックして、リスト内でそのパーティションを上下に移動させてください。</p>

■ コーリングサーチスペースの設定値

表 20-2 に、パーティション名が固定長である場合にコーリングサーチスペースに追加できるパーティションの最大数の例を示します。この最大数の計算方法の詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「パーティション名の制限」を参照してください。

表 20-2 コーリングサーチスペースのパーティション制限

パーティション名の長さ	パーティションの最大数
2 文字	170
3 文字	128
4 文字	102
5 文字	86
...	...
10 文字	46
15 文字	32

関連項目

- [コーリングサーチスペースの検索 \(P.20-2\)](#)
- [コーリングサーチスペースの追加 \(P.20-4\)](#)
- [コーリングサーチスペースの更新 \(P.20-5\)](#)
- [コーリングサーチスペースのコピー \(P.20-6\)](#)



ルート グループの設定

ルート グループの設定では、ゲートウェイおよびトランクが選択される順序を指定します。ルート グループにより、発信トランク選択用のゲートウェイとポートのリストに優先順位を付けることができます。

たとえば、2つの長距離通信事業者を使用している場合、通話料の安い通信事業者の長距離コールを優先させるように、ルート グループを追加できます。最初のトランクが使用不能の場合に限り、コールは、通話料の高い通信事業者の方にルート指定されます。

ルート グループの追加または削除、ルート グループへのデバイスの追加、ルート グループからのデバイスの削除については、次のトピックを参照してください。

- [ルート グループの検索 \(P.21-2\)](#)
- [ルート グループの追加 \(P.21-4\)](#)
- [ルート グループへのデバイスの追加 \(P.21-6\)](#)
- [ルート グループからのデバイスの削除 \(P.21-8\)](#)
- [ルート グループの更新 \(P.21-9\)](#)
- [ルート グループの削除 \(P.21-10\)](#)
- [ルート グループの設定値 \(P.21-12\)](#)

ルートグループの検索

ネットワーク内にはいくつかのルートグループが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の条件を指定して、特定のルートグループを見つけることができます。ルートグループを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザセッションでの作業中は、ルートグループの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ルートグループの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 Route Plan > Route/Hunt > Route Group の順に選択します。

Find and List Route Groups ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ドロップダウン リストボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注) データベースに登録されているルートグループをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに Find をクリックします。

検出されたルートグループのリストが、ルートグループ別に表示されます。



(注) 該当するルートグループの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Route Groups ウィンドウから複数のルートグループを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のルートグループをすべて削除できます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致するルートグループをクリックします。

選択したルートグループがウィンドウに表示されます。

関連項目

- [ルートグループの追加 \(P.21-4\)](#)
- [ルートグループへのデバイスの追加 \(P.21-6\)](#)
- [ルートグループからのデバイスの削除 \(P.21-8\)](#)
- [ルートグループの更新 \(P.21-9\)](#)
- [ルートグループの削除 \(P.21-10\)](#)
- [ルートグループの設定値 \(P.21-12\)](#)

ルートグループの追加

ルートグループを追加する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** Route Plan > Route/Hunt > Route Group の順に選択します。
 - ステップ 2** Add a New Route Group をクリックします。
 - ステップ 3** Route Group Name フィールドに名前を入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-) および下線文字 (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。各ルートグループ名が、そのルートプランに固有の名前であることを確認してください。



ワンポイント・アドバイス

ルートグループには、内容を簡潔に表す名前を使用してください。通常、CompanynameLocationGroup の形式が、内容を簡潔に表し、ルートグループをすばやくかつ簡単に識別できる方式です。たとえば、CiscoDallasAA1 は、Dallas の Cisco オフィス用の Cisco Access Analog ルートグループを特定します。

- ステップ 4** 適切な設定値を選択します (表 21-1 を参照)。



(注) 新しいルートグループを追加する前に、新しいルートグループに対して少なくとも 1 つのデバイスを選択しておく必要があります。

- ステップ 5** Insert をクリックして、このルートグループを追加します。
-

関連項目

- ルートグループの検索 (P.21-2)
- ルートグループへのデバイスの追加 (P.21-6)
- ルートグループからのデバイスの削除 (P.21-8)
- ルートグループの更新 (P.21-9)
- ルートグループの削除 (P.21-10)
- ルートグループの設定値 (P.21-12)
- ルートリストの追加 (P.22-5)
- ルートリストへのルートグループの追加 (P.22-8)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルートプランの概要」

ルートグループへのデバイスの追加

新規のルートグループまたは既存のルートグループに、デバイスを追加することができます。複数のルートグループにゲートウェイを追加できます。ルートグループにゲートウェイを追加すると、そのゲートウェイは Route Pattern Configuration ウィンドウに表示されません。既存のルートグループにデバイスを追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

この手順を実行する場合は、事前に少なくとも1つのゲートウェイおよびトランクのデバイスを指定しておく必要があります。デバイスが常駐できるのは1つのルートグループ内のみです。

手順

-
- ステップ 1** Route Plan > Route/Hunt > Route Group の順に選択します。
 - ステップ 2** デバイスを追加する先のルートグループを特定します。P.21-2の「[ルートグループの検索](#)」を参照してください。
 - ステップ 3** Available Devices リストボックスで追加するデバイスを選択し、Add to Route Group をクリックして、デバイスを Selected Devices リストボックスへ移動します。このルートグループへ追加する各デバイスに対して、この手順を繰り返します。
 - ステップ 4** Selected Devices リストボックスで、新しいデバイスがこのルートグループ内でアクセスされる順序を選択します。
 - ステップ 5** Update をクリックして、新しいデバイスを追加し、このルートグループのデバイス順序を更新します。
-

関連項目

- [ルートグループの検索 \(P.21-2\)](#)
- [ルートグループの追加 \(P.21-4\)](#)
- [ルートグループからのデバイスの削除 \(P.21-8\)](#)
- [ルートグループの更新 \(P.21-9\)](#)
- [ルートグループの削除 \(P.21-10\)](#)
- [ルートグループの設定値 \(P.21-12\)](#)
- [ルートリストの追加 \(P.22-5\)](#)
- [ルートリストへのルートグループの追加 \(P.22-8\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルートプランの概要」

ルートグループからのデバイスの削除

新規のルートグループまたは既存のルートグループから、デバイスを削除することができます。既存のルートグループからデバイスを削除する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** Route Plan > Route/Hunt > Route Group の順に選択します。
 - ステップ 2** 削除するデバイスが入っているルートグループを特定します。P.21-2の「[ルートグループの検索](#)」を参照してください。
 - ステップ 3** Selected Devices リストボックスで削除するデバイスを選択し、下矢印をクリックして、デバイスを Removed Devices リストボックスへ移動します。このルートグループから削除する各デバイスに対して、このステップを繰り返します。
 - ステップ 4** デバイスを削除するには、Update をクリックします。
-

関連項目

- [ルートグループの検索 \(P.21-2\)](#)
- [ルートグループの追加 \(P.21-4\)](#)
- [ルートグループへのデバイスの追加 \(P.21-6\)](#)
- [ルートグループの更新 \(P.21-9\)](#)
- [ルートグループの削除 \(P.21-10\)](#)
- [ルートグループの設定値 \(P.21-12\)](#)
- [ルートリストの追加 \(P.22-5\)](#)
- [ルートリストへのルートグループの追加 \(P.22-8\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「[ルートプランの概要](#)」

ルートグループの更新

ルートグループを更新する手順は、次のとおりです。

始める前に

次の手順を実行する場合、事前に更新するルートグループが設定されていることを確認してください。

手順

-
- ステップ 1** Route Plan > Route/Hunt > Route Group の順に選択します。
 - ステップ 2** 更新するルートグループを特定します。P.21-2 の「[ルートグループの検索](#)」を参照してください。
 - ステップ 3** 該当するフィールドを更新します（表 21-1 を参照）。
 - ステップ 4** Update をクリックします。
-

関連項目

- [ルートグループの検索](#) (P.21-2)
- [ルートグループの追加](#) (P.21-4)
- [ルートグループへのデバイスの追加](#) (P.21-6)
- [ルートグループからのデバイスの削除](#) (P.21-8)
- [ルートグループの削除](#) (P.21-10)
- [ルートグループの設定値](#) (P.21-12)
- [ルートリストの追加](#) (P.22-5)
- [ルートリストへのルートグループの追加](#) (P.22-8)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「[ルートプランの概要](#)」

ルートグループの削除

ルートグループを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

ルートリストが参照するルートグループは削除できません。ルートグループを使用しているルートリストを検索するには、Route Group Configuration ウィンドウの **Dependency Records** リンクをクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。使用されているルートグループを削除しようとすると、Cisco CallManager はエラーメッセージを表示します。現在使用中のルートグループを削除する場合は、事前に、次の作業を実行しておく必要があります。

- ルートグループを削除する前に、そのルートグループが属しているすべてのルートリストから、そのルートグループを削除する。[P.22-11 の「ルートリストからのルートグループの削除」](#)を参照してください。



ヒント

ルートグループとルートパターンを削除するには、まずルートパターンを削除し、次にルートリストを削除して、最後にルートグループを削除します。

手順

- ステップ 1** Route Plan > Route/Hunt > Route Group の順に選択します。
- ステップ 2** 削除するルートグループを特定します。[P.21-2 の「ルートグループの検索」](#)を参照してください。
- ステップ 3** 削除するルートグループの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックします。

ルートグループを削除すると取り消せないことを警告するダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4 ルートグループを削除するには、**OK** をクリックします。削除操作を取り消すには、**Cancel** をクリックします。**OK** をクリックした場合は、Cisco CallManager は、そのルートグループをルートグループリストから削除します。



(注) 該当するルートグループの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Route Groups ウィンドウから複数のルートグループを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のルートグループをすべて削除できます。

関連項目

- [ルートグループの検索 \(P.21-2\)](#)
- [ルートグループの追加 \(P.21-4\)](#)
- [ルートグループへのデバイスの追加 \(P.21-6\)](#)
- [ルートグループからのデバイスの削除 \(P.21-8\)](#)
- [ルートグループの更新 \(P.21-9\)](#)
- [ルートリストの追加 \(P.22-5\)](#)
- [ルートリストへのルートグループの追加 \(P.22-8\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルートプランの概要」

■ ルートグループの設定値


ルートグループの設定値

表 21-1 では、ルートグループの設定値について説明します。

表 21-1 ルートグループの設定値

フィールド	説明
ルートグループ情報	
Route Group Name	このルートグループの名前を入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、および下線文字 (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。各ルートグループ名が、そのルートプランに固有の名前であることを確認してください。
Distribution Algorithm	ドロップダウンリストボックスで、次の分散アルゴリズムのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • Top Down: この分散アルゴリズムを選択すると、ルートグループでアイドルまたは対応可能状態にある最初のメンバーから最後のメンバーまで、Cisco CallManager がメンバーに対してコールを分散します。 • Circular: この分散アルゴリズムを選択すると、Cisco CallManager は、アイドルまたは対応可能状態のメンバーに対するコールの分散を、ルートグループの ($n+1$) 番目のメンバーから開始します。n 番目のメンバーは、Cisco CallManager が最後にコールを延長したメンバーです。n 番目のメンバーが、ルートグループの最後のメンバーの場合、Cisco CallManager はルートグループの先頭からコールの分散を開始します。 デフォルト値は、 <i>Circular</i> です。

表 21-1 ルートグループの設定値 (続き)

フィールド	説明
ルートグループメンバー情報	
デバイスを検索してルートグループへ追加	
Device Name contains	<p>検索するデバイス名に含まれる文字を入力し、Find ボタンをクリックします。入力した文字と一致するデバイス名が Available Devices ボックスに表示されます。</p> <p> (注) 使用可能なデバイスをすべて検索するには、テキストボックスをブランクのままにして、Find ボタンをクリックします。</p>
Available Devices (select device, then select port below)	<p>Available Devices リスト ボックスでデバイスを選択し、Add to Route Group をクリックして、そのデバイスを Selected Devices リスト ボックスに追加します。</p> <p>QSIG プロトコルを使用するゲートウェイがルートグループに含まれている場合は、QSIG プロトコルを使用するゲートウェイのみがリストに表示されます。非 QSIG プロトコルを使用するゲートウェイがルートグループに含まれている場合は、非 QSIG プロトコルを使用するゲートウェイのみがリストに表示されます。</p> <p>QSIG ゲートウェイを含むルートリストにルートグループを追加した場合、H.323 ゲートウェイはリストには表示されません。</p>
Port(s)	<p>このデバイスが個々に設定可能なポートをサポートしている場合、そのポートを選択します (個々のポートの選択が可能なデバイスとして、Cisco Access Analog ゲートウェイ、Cisco MGCP Analog ゲートウェイ、TI CAS があります)。サポートしていない場合は、デフォルト値 (選択したデバイスによって、<i>All</i> または <i>None Available</i>) を選択します。使用可能なポートがないデバイスの場合 (<i>None Available</i>)、そのデバイスはすでにルートグループに追加されているか、またはルートグループに追加できない可能性があります。</p>

■ ルートグループの設定値

表 21-1 ルートグループの設定値（続き）

フィールド	説明
現在のルートグループメンバー	
Selected Partitions (ordered by highest priority)	<p>デバイスの優先順位を変更するには、Selected Devices リスト ボックス内のデバイス名を選択します。そのリスト ボックスの右側にある矢印をクリックして、リスト内でそのデバイスを上下に移動させてください。</p> <p>Selected Devices リスト ボックス内のデバイスの優先順位を逆転するには、Reverse Order of Selected Devices をクリックします。</p> <p>ルートグループ内のデバイスの順序の詳細については、 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルートプランの概説」を参照してください。</p>
Removed Devices (to be removed from Route Group when you click Update)	Selected Devices リスト ボックスでデバイスを選択し、そのデバイスを Removed Devices リスト ボックスに追加します。これには、この2つのリスト ボックス間にある矢印ボタンをクリックします。

関連項目

- [ルートグループの検索 \(P.21-2\)](#)
- [ルートグループの追加 \(P.21-4\)](#)
- [ルートグループへのデバイスの追加 \(P.21-6\)](#)
- [ルートグループからのデバイスの削除 \(P.21-8\)](#)
- [ルートグループの更新 \(P.21-9\)](#)
- [ルートグループの削除 \(P.21-10\)](#)
- [ルートリストの追加 \(P.22-5\)](#)
- [ルートリストへのルートグループの追加 \(P.22-8\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルートプランの概要」



ルートルISTの設定

ルートルISTは、優先順位が指定されている 1 組のルートルIST グループに関連付けられます。また、ルートルISTは、1 つ以上のルートルIST パターンに関連付けられ、そのルートルIST グループがアクセスされる順位を決定します。この順位は、発信コールに使用可能なデバイスを検索するときの進行を制御します。

Cisco CallManager の Release 4.1 以降では、ルートルISTにルートルIST グループだけを入れることができます。

各ルートルISTには、少なくとも 1 つのルートルIST グループを入れる必要があります。各ルートルIST グループには、少なくとも 1 つのデバイス、たとえば、使用可能なゲートウェイが含まれます。Cisco CallManager は、デバイス タイプに基づいて、各ルートルIST グループ内で、一部またはすべてのポートをリソースとして選択できます。一部のデバイス(たとえば、デジタル アクセス)では、すべてのポートの選択しかできません。

ルートルIST グループは、任意の数のルートルIST に追加できます。

ルートルIST の追加または削除、ルートルIST 内のルートルIST グループの追加、削除、または順序の変更をするには、次のトピックを参照してください。

- [ルートルIST の検索 \(P.22-2\)](#)
- [ルートルIST の追加 \(P.22-5\)](#)
- [ルートルIST へのルートルIST グループの追加 \(P.22-8\)](#)
- [ルートルIST からのルートルIST グループの削除 \(P.22-11\)](#)
- [ルートルIST 内のルートルIST グループの順位の変更 \(P.22-13\)](#)
- [ルートルIST の削除 \(P.22-15\)](#)

ルートリストの検索

ネットワーク内にはいくつかのルートリストが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の条件を指定して、特定のリストを見つけることができます。ルートリストを見つけるには、次の手順を使用します。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザセッションでの作業中は、ルートリストの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ルートリストの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 Route Plan > Route/Hunt > Route List の順に選択します。

Find and List Route Lists ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、ルートリストを検索します。

ステップ 2 最初の Find Route Lists where ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- Route List Name
- Description
- Pattern/Pilot Number



(注)

このドロップダウン リスト ボックスで選択する条件によって、検索時に生成されるルートリストの一覧のソート方法が決まります。たとえば、Description を選択すると、Description 列が結果リストの左側の列に表示されます。

2 番目の Find Route Lists where ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、**Find** をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注) データベースに登録されているルートリストをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。

検出されたルートリストの一覧が、次の項目別に表示されます。

- Route list name
- Description
- Status (状況)
- Enabled



(注) 該当するルートリストの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Route Lists ウィンドウから複数のルートリストを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のルートリストをすべて削除できます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致するルートリストをクリックします。

選択したルートリストがウィンドウに表示されます。

関連項目

- [ルート リストの追加 \(P.22-5 \)](#)
- [ルート リストへのルート グループの追加 \(P.22-8 \)](#)
- [ルート リストからのルート グループの削除 \(P.22-11 \)](#)
- [ルート リスト内のルート グループの順位の変更 \(P.22-13 \)](#)
- [ルート リストの削除 \(P.22-15 \)](#)

ルートリストの追加

ルートリストを追加する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** Route Plan > Route/Hunt > Route List の順に選択します。
- ステップ 2** Add a New Route List をクリックします。
- ステップ 3** Route List Name フィールドに名前を入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-) および下線文字 (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。各ルートリスト名が、そのルートプランに固有の名前であることを確認してください。



ワンポイント・アドバイス

ルートリストには、内容を簡潔に表す名前を使用してください。通常、CompanynameLocationCalltype の形式が、内容を簡潔に表し、ルートリストをすばやくかつ簡単に識別できる方式です。たとえば、CiscoDallasMetro は、Dallas の Cisco オフィスからの、LATA (Local Access Transport Area) 間の無料コール用のルートリストを特定します。

Cisco CallManager は、自動的に Description フィールドに説明を挿入します。ただし、このフィールドの編集は可能です。

- ステップ 4** ドロップダウン リストボックスから、Cisco CallManager グループを選択します。



(注) ルートリストは、グループで最初の CallManager に登録されます。これは、そのグループのプライマリ Cisco CallManager です。

■ ルート リストの追加



(注) Cisco CallManager が 1 つしか設定されていない Cisco CallManager グループを選択すると、次の警告が表示されます。

WARNING!The selected Cisco CallManager Group has only one Cisco CallManager configured.For the control process to have redundancy protection, please select a Cisco CallManager Group with more than one Cisco CallManager.

ステップ 5 Insert をクリックして、このルート リストを追加します。



(注) コールを受信させるため、このルート リストにルート グループを少なくとも 1 つ追加する必要があることを示すポップアップメッセージが表示されます。

Route List Configuration ウィンドウに、新しく追加されたルート リストが表示されます。

ステップ 6 新しいルート リストの Enable this Route List チェックボックスは、デフォルトでオンになっています。

このルート リストを使用不可にする場合は、このチェックボックスをオフにします。進行中のコールは影響を受けないが、このルート リストが追加のコールを受け付けなくなることを示す、ポップアップ ウィンドウが表示されます。

ステップ 7 新しいルート リストに少なくとも 1 つのルート グループを追加します。

このリストにルート グループを追加するには、**Add Route Group** をクリックし、P.22-8 の「[ルート リストへのルート グループの追加](#)」のステップ 4 ~ ステップ 8 を実行します。



(注) 着信側と発信側の変換情報については、ウィンドウの左側にある **Route Details for Route Groups** リンクをクリックしてください。この操作によって、Route Details Configuration ウィンドウが表示されます。

関連項目

- [ルートリストの検索 \(P.22-2\)](#)
- [ルートリストへのルートグループの追加 \(P.22-8\)](#)
- [ルートリスト内のルートグループの順位の変更 \(P.22-13\)](#)
- [ルートリストからのルートグループの削除 \(P.22-11\)](#)
- [ルートリストの削除 \(P.22-15\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルートプランの概要」

ルート リストへのルート グループの追加

新規のルート リストまたは既存のルート リストに、ルート グループを追加することができます。ルート グループは、1 つ以上のルート リストに組み込むことができます。既存のルート リストにルート グループを追加する手順は、次のとおりです。



(注)

QSIG プロトコルを使用する MGCP ゲートウェイを含むルート グループ (QSIG ルート グループ) と、H.323 プロトコルを使用するゲートウェイを含むルート グループ (H.323 ルート グループ) を、同じルート リストに追加することはできません。詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルート グループとルート リスト」を参照してください。

始める前に

この手順を実行する場合は、事前に少なくとも 1 つのルート グループを作成し、ルート リストを追加しておく必要があります。

手順

- ステップ 1** Route Plan > Route/Hunt > Route List の順に選択します。
- ステップ 2** ルート グループを追加する先のルート リストを特定します。P.22-2 の「[ルート リストの検索](#)」を参照してください。
- ステップ 3** Add Route Group をクリックして、ルート グループを追加します。

Route List Detail Configuration ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** Route Group ドロップダウン リスト ボックスから、ルート リストに追加するルート グループを選択します。



(注) ルートリストに QSIG ルートグループが含まれている場合、H.323 ルートグループはドロップダウン リスト ボックスに表示されません。ルートグループに H.323 ルートグループが含まれている場合、QSIG ルートグループはドロップダウン リスト ボックスに表示されません。

ステップ 5 このルート グループを介してルーティングされるコールについて、発信側の番号を操作する必要がある場合は、該当するフィールドで、発信側変換をセットアップします。



(注) 発信側変換の詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「発信側および着信側の変換」を参照してください。

ステップ 6 このルート グループを介してルーティングされるコールについて、ダイヤルされる数字を操作する必要がある場合は、該当するフィールドで、着信側変換をセットアップします。



(注) 着信側変換の詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「着信側番号の変換設定値」を参照してください。

ステップ 7 **Insert** をクリックして、ルート グループを追加します。

ウィンドウの左側にある Route List Details リストに、ルート グループの詳細情報が表示されます。

ステップ 8 このリストにルートグループをさらに追加するには、**Add Route Group** をクリックし、[ステップ 3](#) ~ [ステップ 7](#) を実行します。

ステップ 9 ルート リストへのルート グループの追加が終了したら、**Update** をクリックします。

■ ルートリストへのルートグループの追加

ステップ 10 Reset をクリックして、変更内容を有効にします。ポップアップ ウィンドウが表示されたら、OK をクリックします。

関連項目

- [ルートリストの追加 \(P.22-5\)](#)
- [ルートリストからのルートグループの削除 \(P.22-11\)](#)
- [ルートリスト内のルートグループの順位の変更 \(P.22-13\)](#)
- [ルートリストの削除 \(P.22-15\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルートプランの概要」

ルートリストからのルートグループの削除

新規のルートリストまたは既存のルートリストから、ルートグループを削除することができます。既存のルートリストからルートグループを削除する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** メニューバーから **Route Plan > Route/Hunt > Route List** の順に選択します。
- ステップ 2** 削除するルートグループが入っているルートリストを特定します。P.22-2 の「[ルートリストの検索](#)」を参照してください。
- ステップ 3** Selected Groups リストから、ルートグループ名を選択します。



(注) このリストから複数のルートグループを選択するには、**Shift** キーを押し、目的のルートグループをクリックしてください。

- ステップ 4** Selected Groups リストボックスの下にある下矢印をクリックして、選択したルートグループを Removed Groups リストに移動します。
- ステップ 5** ルートグループを削除するには、**Update** をクリックします。**OK** をクリックすると、ページがリフレッシュされたときに、そのルートグループがルートリストから削除されています。
- ステップ 6** **Reset** をクリックして、変更内容を有効にします。ポップアップウィンドウの **OK** をクリックします。

関連項目

- [ルートリストの検索 \(P.22-2\)](#)
- [ルートリストの追加 \(P.22-5\)](#)

■ ルート リストからのルート グループの削除

- ルート リストへのルート グループの追加 (P.22-8)
- ルート リスト内のルート グループの順位の変更 (P.22-13)
- ルート リストの削除 (P.22-15)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルート プランの概要」

ルートリスト内のルートグループの順位の変更

Cisco CallManager は、ルートリストに表示されている順に、ルートグループにアクセスします。ルートグループのアクセス順位を変更する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** Route Plan > Route/Hunt > Route List の順に選択します。
- ステップ 2** ルートグループの順位を変更するルートリストを特定します。P.22-2 の「[ルートリストの検索](#)」を参照してください。
- ステップ 3** Selected Groups リストから、ルートグループを選択します。
- ステップ 4** リスト内でルートグループを上下に移動させるには、ルートグループを選択して、リストボックスの右側にある上矢印または下矢印をクリックします。
- ステップ 5** Update をクリックします。



(注) 着信側と発信側の変換情報については、左側にある Route List Details リストのルートグループアイコンまたはルートグループ名をクリックしてください。この操作により、対応するルートグループの Route List Detail Configuration ウィンドウが表示されます。

- ステップ 6** Reset をクリックして、変更内容を有効にします。ポップアップ ウィンドウの OK をクリックします。

関連項目

- [ルートリストの検索 \(P.22-2\)](#)
- [ルートリストの追加 \(P.22-5\)](#)

■ ルート リスト内のルート グループの順位の変更

- ルート リストへのルート グループの追加 (P.22-8)
- ルート リストからのルート グループの削除 (P.22-11)
- ルート リストの削除 (P.22-15)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルート プランの概要」

ルートリストの削除

Cisco CallManager は、ルートリストをルートパターンに関連付けます。ルートリストがルートパターンに関連付けられている場合、そのリストは削除できません。ルートリストを使用しているルートパターンを検索するには、Route List Configuration ウィンドウの **Dependency Records** リンクをクリックします。

Dependency Records がシステムに対して使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。

Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。



ヒント

ルートグループとルートパターンを削除するには、まずルートパターンを削除し、次にルートリストを削除して、最後にルートグループを削除します。

ルートリストを削除する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** Route Plan > Route/Hunt > Route List の順に選択します。
- ステップ 2** 削除するルートリストを特定します。[P.22-2 の「ルートリストの検索」](#)を参照してください。
- ステップ 3** Delete をクリックします。

ルートリストを削除すると取り消せないことを警告するダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 4** ルートリストを削除するには、OK をクリックします。削除操作を取り消すには、Cancel をクリックします。

**注意**

ルート リストが 1 つ以上のルート パターンに関連付けられている場合、そのリストは削除できません。

関連項目

- [ルート リストの検索 \(P.22-2\)](#)
- [ルート リストの追加 \(P.22-5\)](#)
- [ルート リストへのルート グループの追加 \(P.22-8\)](#)
- [ルート リスト内のルート グループの順位の変更 \(P.22-13\)](#)
- [ルート リストからのルート グループの削除 \(P.22-11\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルート プランの概要」



ルート パターンの設定

ルート パターンは、アドレスを表す数字のストリングと、ルート リストまたはゲートウェイにコールをルート指定するように関連付けられた数字操作のセットから構成されています。このルート パターンは、ネットワークの設計に柔軟性をもたらします。ルート パターンは、ルート フィルタおよびルート リストと連動して、コールを特定のデバイスに誘導し、特定の数字パターンの組み込み、除外、または変更を行います。

ルート パターンの詳細については、『*Cisco CallManager システム ガイド*』の「ルート プランの概要」を参照してください。

ルート パターンを検索、追加、更新、コピー、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- [ルート パターンの検索 \(P.23-2\)](#)
- [ルート パターンの追加 \(P.23-5\)](#)
- [ルート パターンの更新 \(P.23-7\)](#)
- [ルート パターンのコピー \(P.23-8\)](#)
- [ルート パターンの削除 \(P.23-10\)](#)
- [ルート パターンの設定値 \(P.23-11\)](#)

ルート パターンの検索

ネットワーク内にはいくつかのルート パターンが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の条件を指定して、特定のルート パターンを見つけることができます。ルート パターンを見つけるには、次の手順を使用します。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、ルート パターンの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ルート パターンの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 Route Plan > Route/Hunt > Route Pattern の順に選択します。

Find and List Route Patterns ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン選択ボックスを使用して、ルート パターンを検索します。

ステップ 2 最初の Find Route Patterns where ドロップダウン選択ボックスから、Pattern、Description、または Partition を選択します。



(注)

このドロップダウン リスト ボックスで選択する条件によって、検索時に生成されるルート パターン リストのソート方法が決まります。たとえば、Description を選択すると、Description 列が結果リストの左側の列に表示されます。

ステップ 3 2 番目の Find Route Patterns where ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)

- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is not empty (非空白)
- is empty (空白)

ステップ 4 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、**Find** をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注) データベースに登録されているルート パターンをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。

検出されたルート パターンのリストが、次の項目別に表示されます。

- Route pattern icon
- Route pattern
- Partition
- Description
- Route Filter
- Gateway/Route List



(注) 該当するルート パターンの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Route Patterns ウィンドウから複数のルート パターンを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのルート パターンを削除できます。

ステップ 5 レコードのリストから、検索条件と一致するルート パターンをクリックします。

選択したルート パターンがウィンドウに表示されます。

関連項目

- [ルート パターンの追加 \(P.23-5 \)](#)
- [ルート パターンの更新 \(P.23-7 \)](#)
- [ルート パターンのコピー \(P.23-8 \)](#)
- [ルート パターンの削除 \(P.23-10 \)](#)
- [ルート パターンの設定値 \(P.23-11 \)](#)

ルート パターンの追加

ルート パターンを追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

Cisco CallManager で次の項目が設定されていることを確認してください。

- Gateway (ゲートウェイ)
- Route list (ルート リスト)
- Partition (<None> を使用しない場合)
- Route filter (<None> を使用しない場合)



ワンポイント・アドバイス

ゲートウェイに 8XXX を割り当てると、電話番号 8000 ~ 8999 がすべて、そのゲートウェイの外にルート指定されます。同様に、82XX は、電話番号 8200 ~ 8299 をルート指定します。ワイルドカードの詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「特殊文字と設定値」を参照してください。

手順

ステップ 1 Route Plan > Route/Hunt > Route Pattern の順に選択します。

ステップ 2 Add a New Route Pattern をクリックします。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 23-1 を参照)。

ステップ 4 Insert をクリックします。



(注) Insert をクリックし、ウィンドウがリフレッシュされた後、そのウィンドウの中の Gateway or Route List フィールドの横に、Edit リンクが表示されます。このリンクを使用すると、Gateway or Route List フィールドにゲートウェイが含まれているか、ルート リストが含まれているかに応じて、Gateway Configuration ウィンドウまたは Route List Configuration ウィンドウが確認のために表示されます。

関連項目

- [ルート パターンの検索 \(P.23-2 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルート パターンとハント パイロット内のワイルドカードと特殊文字」
- [ルート フィルタの追加 \(P.16-5 \)](#)
- [ルート パターンの更新 \(P.23-7 \)](#)
- [ルート パターンのコピー \(P.23-8 \)](#)
- [ルート パターンの削除 \(P.23-10 \)](#)
- [ルート パターンの設定値 \(P.23-11 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルート プランの概要」

ルート パターンの更新

ルート パターンを更新する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 Route Plan > Route/Hunt > Route Pattern の順に選択します。

ステップ 2 更新するルート パターンを見つけます。P.23-2 の「[ルート パターンの検索](#)」を参照してください。



(注) Gateway or Route List フィールドの値を変更する場合は、**Edit** リンクを選択する前に、**Update** をクリックしておく必要があります。Update をクリックしておかないと、直前の Gateway or Route List フィールドにリンクします。

ステップ 3 該当する設定値を更新します (P.23-11 の「[ルート パターンの設定値](#)」を参照)。

ステップ 4 Update をクリックします。

更新されたルート パターンが表示されます。

関連項目

- [ルート パターンの検索 \(P.23-2\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルート パターンとハント パイロット内のワイルドカードと特殊文字」
- [ルート フィルタの追加 \(P.16-5\)](#)
- [ルート パターンの追加 \(P.23-5\)](#)
- [ルート パターンのコピー \(P.23-8\)](#)
- [ルート パターンの削除 \(P.23-10\)](#)
- [ルート パターンの設定値 \(P.23-11\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルート プランの概要」

ルートパターンのコピー

ルートパターンをコピーする手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** Route Plan > Route/Hunt > Route Pattern の順に選択します。
- ステップ 2** コピーするルート パターンを見つけます。P.23-2 の「[ルートパターンの検索](#)」を参照してください。
- ステップ 3** コピーするルートパターンの横にあるチェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** そのルートパターンの Copy アイコンをクリックします。

ウィンドウに、そのルートパターンのコピーが表示されます。
- ステップ 5** 該当する設定値を更新します ([表 23-1](#) を参照)。
- ステップ 6** Insert をクリックして、新規ルートパターンを追加します。



(注) Insert をクリックし、ウィンドウがリフレッシュされた後、そのウィンドウの中の Gateway or Route List フィールドの横に、Edit リンクが表示されます。このリンクを使用すると、Gateway or Route List フィールドにゲートウェイが含まれているか、ルートリストが含まれているかに応じて、Gateway Configuration ウィンドウまたは Route List Configuration ウィンドウが確認のために表示されます。したがって、ルートグループが指定されている場合は、そのルートリストに含まれているルートグループが表示されます。ルートグループが指定されていない場合は、デバイスが表示されます。

**ヒント**

ルート パターンのコピーは、コピーするルートパターンを特定して表示し、**Copy** をクリックすることによっても実行できます。この場合は、コピーした後に、前述の**ステップ 5** および**ステップ 6** の手順を実行してください。

関連項目

- [ルート パターンの検索 \(P.23-2 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルート パターンとハント パイロット内のワイルドカードと特殊文字」
- [ルート フィルタの追加 \(P.16-5 \)](#)
- [ルート パターンの追加 \(P.23-5 \)](#)
- [ルート パターンの更新 \(P.23-7 \)](#)
- [ルート パターンの削除 \(P.23-10 \)](#)
- [ルート パターンの設定値 \(P.23-11 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルート プランの概要」

ルート パターンの削除

ルート パターンを削除する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** Route Plan > Route/Hunt > Route Pattern の順に選択します。
- ステップ 2** 削除するルート パターンを見つけます。P.23-2 の「ルート パターンの検索」を参照してください。
- ステップ 3** 削除するルート パターンのチェックボックスをオンにして、Delete Selected をクリックします。
- この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。
- ステップ 4** ルート パターンを削除するには、OK をクリックします。削除操作を取り消すには、Cancel をクリックします。



ヒント ルート パターンの削除は、削除するルート パターンを特定して表示し、Delete をクリックすることによっても実行できます。


関連項目

- [ルート パターンの検索 \(P.23-2\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルート パターンとハント パイロット内のワイルドカードと特殊文字」
- [ルート フィルタの追加 \(P.16-5\)](#)
- [ルート パターンの追加 \(P.23-5\)](#)
- [ルート パターンの更新 \(P.23-7\)](#)
- [ルート パターンのコピー \(P.23-8\)](#)
- [ルート パターンの設定値 \(P.23-11\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルート プランの概要」

ルート パターンの設定値

表 23-1 では、Route Pattern Configuration ウィンドウ内の使用可能なフィールドについて説明します。

表 23-1 ルート パターンの設定値

フィールド	説明
パターン定義	
Route Pattern	<p>数字とワイルドカード（スペースを使用しない）を含むルートパターンを入力します。たとえば、NANP では、通常のローカルアクセスの場合は 9.@ を、通常のプライベート ネットワーク 番号計画の場合は 8XXX を入力します。大文字の A、B、C、および D を指定できます。</p> <p> (注) 選択したパーティション、ルート フィルタ、および番号計画の組み合わせを使用するディレクトリルートパターンが固有のものであることを確認してください。重複エントリを示すエラーが表示された場合は、ルート パターン、変換パターン、電話番号、コールパーク番号、コールピックアップ番号、メッセージ受信のオン/オフ、または Meet Me 番号をチェックしてください。また、必要に応じてルート プランレポートもチェックしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ワイルドカードの詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルート パターンとハントパイロット内のワイルドカードと特殊文字」を参照してください。

■ ルート パターンの設定値

表 23-1 ルート パターンの設定値 (続き)





フィールド	説明
Partition	<p>パーティションを使用してルート パターンへのアクセスを制限する場合は、ドロップダウン リスト ボックスから適切なパーティションを選択します。ルート パターンへのアクセスを制限しない場合は、パーティションの代わりに <None> を選択します。パーティションの使用方法的詳細については、P.19-1 の「パーティションの設定」を参照してください。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するパーティションの数を設定することができます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで設定されたパーティションの数が 250 以上の場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リスト ボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Partition ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにパーティション名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるパーティションのリストで希望するパーティション名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、System > Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。</p> <p> (注) ルート パターン、ルート フィルタ、およびパーティションの組み合わせが、Cisco CallManager クラスタ内で固有であることを確認してください。</p>
Description	ルート パターンの説明を入力します。
Numbering Plan	番号計画を選択します。

表 23-1 ルート パターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
Route Filter	<p>ルート パターンにワイルドカード @ が含まれている場合は、ルート フィルタを選択できます。オプションでルート フィルタを選択すると、所定の番号パターンが制限されます。</p> <p>表示されるルート フィルタは、Numbering Plan ドロップダウン リスト ボックスで選択する番号計画によって異なります。</p> <p>ルート フィルタの数が 250 より多い場合は、ドロップダウン リスト ボックスの横に省略記号ボタン (...) が表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Route Filters ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにルート フィルタ名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるルート フィルタのリストで希望するルート フィルタ名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、System > Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。</p>
MLPP Precedence	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、このルート パターンに対する MLPP Precedence の設定を次の中から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Executive Override : MLPP コールに、一番高い優先度を設定します。 • Flash Override : MLPP コールに、2 番目に高い優先度を設定します。 • Flash : MLPP コールに、3 番目に高い優先度を設定します。 • Immediate : MLPP コールに、4 番目に高い優先度を設定します。 • Priority : MLPP コールに、5 番目に高い優先度を設定します。 • Routine : MLPP コールに、一番低い優先度を設定します。 • Default : 着信の優先レベルは上書きされず、そのまま渡されます。 <p> (注) 詳細については、『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「Multilevel Precedence and Preemption」の章の「優先順位」を参照してください。</p>

■ ルート パターンの設定値

表 23-1 ルート パターンの設定値 (続き)


フィールド	説明
Gateway or Route List	<p>ルート パターンを追加するゲートウェイまたはルート リストを選択します。</p> <p> (注) ゲートウェイがルート グループに含まれている場合、そのゲートウェイはドロップダウン リスト ボックスに表示されません。このドロップダウン リスト ボックスでゲートウェイが選択されると、Cisco CallManager はそのゲートウェイ内のポート全部を使用してこのルート パターンをルーティングまたはブロックします。この操作は、MGCP ゲートウェイには適用されません。</p>
Route Option	<p>この Route Option の指定内容が、このルート パターンをコールのルーティング (9.@ や 8[2-9]XX など) またはコールのブロックに使用するかどうかを示します。Route this pattern または Block this pattern オプション ボタンを選択してください。</p> <p>Block this pattern オプション ボタンを選択した場合、このルート パターンをコールのブロックに使用する理由を選択する必要があります。次のドロップダウン リスト ボックスから値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • No Error • Unallocated Number • Call Rejected • Number Changed • Invalid Number Format • Precedence Level Exceeded
Call Classification	<p>Call Classification は、このルート パターンを介してルート指定されるコールが、ローカル ネットワーク上にないか (OffNet) あるか (OnNet) を示します。デフォルト値は、OffNet です。ルート パターンを追加するときに、Provide Outside Dial Tone チェックボックスをオフにした場合は、Call Classification を OnNet に設定します。</p>

表 23-1 ルート パターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
Allow Device Override	このチェックボックスは、デフォルトでオフになっています。このチェックボックスをオンにすると、関連ゲートウェイまたはトランク上で、発信コールが OffNet または OnNet であると見なすように設定された Call Classification 設定値が使用されます。
Provide Outside Dial Tone	このチェックボックスは、外部ダイヤル トーンを提供する場合にオンにします。ネットワーク内のコールをルーティングする場合は、このチェックボックスをオフのままにしておきます。
Allow Overlap Sending	<p>オーバーラップ送信が有効になっている場合、Cisco CallManager は、コールを PSTN に渡すときに PSTN のオーバーラップ送信に依存して、収集する数字の数とコールのルーティング先を決定します。オーバーラップ送信をサポートしている PSTN にコールをルーティングするゲートウェイまたはルート リストに割り当てられていると思われる各ルートパターンに対して、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>Cisco CallManager はユーザにコードを求めるタイミングを決定できないため、CMC および FAC 機能はオーバーラップ送信をサポートしていません。Require Forced Authorization Code または Require Client Matter Code チェックボックスをオンにすると、Allow Overlap Sending チェックボックスは使用不可になります。</p>
Urgent Priority	ダイヤル プランにルート パターンが重複して含まれている場合、数字列をダイヤルして現在の一致を選択できる場合にも、Cisco CallManager は桁間タイマーが時間切れになるまでコールをルーティングしません。Cisco CallManager がすぐにコールをルーティングする必要がある場合は、このチェックボックスをオンにして、桁間タイミングを中断します。
Require Forced Authorization Code	<p>このルート パターンで強制許可コードを使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>Cisco CallManager はユーザにコードを求めるタイミングを決定できないため、FAC 機能はオーバーラップ送信をサポートしていません。Allow Overlap Sending チェックボックスをオンにすると、Require Forced Authorization Code チェックボックスは使用不可になります。</p>

■ ルートパターンの設定値

表 23-1 ルートパターンの設定値 (続き)



フィールド	説明
Authorization Level	<p>ルートパターンの許可レベルを入力します。このフィールドに指定する数値によって、このルートパターンを介して正常にコールをルート指定するために必要な最小限の許可レベルが決まります。</p> <p> ヒント 許可コードをアクティブにするには、Require Forced Authorization Code チェックボックスをオンにする必要があります。このチェックボックスをオンにしない場合、ルートパターンの挿入時に、許可コードをアクティブにできないことを知らせるメッセージが表示されます。コードをアクティブにするには、Cancel をクリックし、Require Forced Authorization Code チェックボックスをオンにして、Insert をクリックします。後でコードをアクティブにするには、OK をクリックします。</p>
Require Client Matter Code	<p>このルートパターンでクライアント マターコードを使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>Cisco CallManager はユーザにコードを求めるタイミングを決定できないため、CMC 機能はオーバーラップ送信をサポートしていません。Allow Overlap Sending チェックボックスをオンにすると、Require Client Matter Code チェックボックスは使用不可になります。</p>
発信側変換	<p>Use Calling Party's External Phone Number Mask</p> <p>発信コールで完全な外部電話番号を CLID (calling line ID) に使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。また、すべての電話機で External Phone Number Mask を設定することもできます。</p> <p> (注) ルートリスト内のルートグループに割り当てられる発信側変換設定値は、そのリストに関連したルートパターンに割り当てられている発信側変換設定値をすべて上書きします。</p>

表 23-1 ルート パターンの設定値 (続き)


フィールド	説明
Calling Party Transform Mask	<p>変換マスク値を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字 X、アスタリスク (*)、シャープ (#)、大文字の A、B、C、D、およびブランクです。このフィールドがブランクのときに、上記のフィールド (Use Calling Party's External Phone Number Mask) がオフの場合、発信側変換は行われません。詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「発信側番号の変換設定値」を参照してください。</p>
Prefix Digits (Outgoing Calls)	<p>Prefix Digits (Outgoing Calls) フィールドに、プレフィックス番号を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字、アスタリスク (*)、シャープ (#)、大文字の A、B、C、D、およびブランクです。</p> <p> (注) 付加されたプレフィックス番号は、割り当てられたデバイスにルート指定される電話番号に影響を与えません。</p>
Calling Line ID Presentation	<p>Cisco CallManager は補助的なサービスとして、CLIP/CLIR (Calling Line ID Presentation) を使用します。これは、コールごとに発信者の電話番号を許可、または制限します。</p> <p>このルートパターンに対して、Cisco CallManager が発信側電話番号を着信側の番号表示画面で表示するかどうかを選択します。</p> <p>発信側の回線 ID 表示を変更しない場合は、<i>Default</i> を選択します。Cisco CallManager で発信側の電話番号が表示されるようにする場合は、<i>Allowed</i> を選択します。Cisco CallManager が発信側の電話番号を表示しないようにする場合は、<i>Restricted</i> を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「発信側番号の変換設定値」の項の表 15-6 を参照してください。</p>

■ ルートパターンの設定値

表 23-1 ルートパターンの設定値（続き）

フィールド	説明
Calling Name Presentation	<p>Cisco CallManager は補助的なサービスとして、CNIP/CNIR（Calling Name Presentation）を使用します。これは、コールごとに発信者の名前を許可、または制限します。</p> <p>この変換パターンに対して、Cisco CallManager が発信側の名前を着信側の表示画面で表示するかどうかを選択します。</p> <p>発信側の名前表示を変更しない場合は、<i>Default</i> を選択します。Cisco CallManager で発信側の名前情報を表示させる場合は、<i>Allowed</i> を選択します。Cisco CallManager が発信側の名前情報を表示しないようにする場合は、<i>Restricted</i> を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager システムガイド』の「発信側番号の変換設定値」の項の表 15-6 を参照してください。</p>
接続側変換	
Connected Line ID Presentation	<p>Cisco CallManager は補助的なサービスとして、COLP/COLR（Connected Line ID Presentation）を使用します。これは、コールごとに発信者の電話番号を許可、または制限します。</p> <p>この変換パターンに対して、Cisco CallManager が接続側の電話番号を発信側の表示画面に表示するかどうかを選択します。</p> <p>接続側の回線 ID 表示を変更しない場合は、<i>Default</i> を選択します。接続側の電話番号を表示する場合は、<i>Allowed</i> を選択します。Cisco CallManager が接続側の電話番号を表示しないようにする場合は、<i>Restricted</i> を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager システムガイド』の「接続先情報の表示設定と制限設定」の項の表 15-9 を参照してください。</p>

表 23-1 ルート パターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
Connected Name Presentation	<p>Cisco CallManager は補助的なサービスとして、CONP/CONR (Connected Name Presentation) を使用します。これは、コールごとに着信側の名前を許可、または制限します。</p> <p>このルート パターンに対して、Cisco CallManager が接続側の名前を発信側の表示画面で表示するかどうかを選択します。</p> <p>接続側の名前表示を変更しない場合は、<i>Default</i> を選択します。接続側の名前を表示する場合は、<i>Allowed</i> を選択します。</p> <p>Cisco CallManager が接続側の名前を表示しないようにする場合は、<i>Restricted</i> を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『<i>Cisco CallManager システム ガイド</i>』の「接続先情報の表示設定と制限設定」の項の表 15-9 を参照してください。</p>
着信側変換	<p>Discard Digits ドロップダウン リスト ボックスから、このルート パターンに関連付ける数字破棄命令を選択します。表示される数字破棄命令は、Numbering Plan ドロップダウン リスト ボックスで選択する番号計画によって異なります。North American Numbering Plan の数字破棄命令の詳細については、『<i>Cisco CallManager システム ガイド</i>』の「数字破棄命令」を参照してください。</p> <p> (注) ルート リスト内のルート グループに割り当てられる着信側変換設定値は、そのリストに関連したルート パターンに割り当てられている着信側変換設定値をすべて上書きします。</p>
Called Party Transform Mask	<p>変換マスク値を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字 X、アスタリスク (*)、シャープ (#)、大文字の A、B、C、D、およびブランクです。このフィールドがブランクである場合、変換は行われません。Cisco CallManager は、ダイヤルされた通りの数字を正確に送信します。</p>

■ ルートパターンの設定値

表 23-1 ルートパターンの設定値 (続き)


フィールド	説明
Prefix Digits (Outgoing Calls)	<p>Prefix Digits (Outgoing Calls) フィールドに、プレフィックス番号を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字、アスタリスク (*)、シャープ (#)、大文字の A、B、C、D、およびブランクです。</p> <p> (注) 付加されたプレフィックス番号は、割り当てられたデバイスにルート指定される電話番号に影響を与えません。</p>
ISDN ネットワーク固有の機能情報要素	
Carrier Identification Code	<p>該当する通信事業者識別コード (0、3、または 4 桁) を Carrier Identification Code フィールドに入力します。通信事業者識別コードを使用すると、お客様は長距離電話会社のサービスにアクセスできます。</p> <p>次のリストは、よく使用される通信事業者識別コードの例です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ATT : 0288 • Sprint : 0333 • WorldCom/MCI : 0222 <p>NANP 通信事業者識別コードの完全なリストは、http://www.nanpa.com/ を参照してください。</p>
Network Service Protocol	Network Service Protocol ドロップダウン リスト ボックスから、着側ゲートウェイのプロトコルと一致する PRI プロトコルを選択します。
Network Service	適切なネットワーク サービスを選択します。この値は、Network Service Protocol フィールドで選択したネットワーク サービス プロトコルによって異なります。
Service Parameter Name	このフィールドには、選択したネットワーク サービスに関連するサービス パラメータ名が表示されます。ネットワーク サービスのサービス パラメータが存在しない場合、このフィールドには <Not Exist> が表示されます。

表 23-1 ルート パターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
Service Parameter Value	適切なサービス パラメータ値を入力します。有効な入力値は、0 ~ 9 の数字です。ネットワーク サービスのサービス パラメータが存在しない場合、このフィールドは Cisco CallManager Administration によって無効にされます。

関連項目

- [ルート パターンの検索 \(P.23-2 \)](#)
- [ルート パターンの追加 \(P.23-5 \)](#)
- [ルート パターンの更新 \(P.23-7 \)](#)
- [ルート パターンのコピー \(P.23-8 \)](#)
- [ルート パターンの削除 \(P.23-10 \)](#)

■ ルートパターンの設定値



回線グループの設定

回線グループの設定では、電話番号が選択される順序を指定します。Cisco CallManager は、コール分散アルゴリズムおよび Ring No Answer Reversion (RNAR) 設定に基づいて、回線グループのアイドルまたは対応可能状態のメンバーに対して、コールを分散します。

回線グループの追加または削除、回線グループへの電話番号の追加、回線グループからの電話番号の削除については、次のトピックを参照してください。

- [回線グループの検索 \(P.24-2\)](#)
- [回線グループの追加 \(P.24-4\)](#)
- [回線グループへのメンバーの追加 \(P.24-6\)](#)
- [回線グループからのメンバーの削除 \(P.24-8\)](#)
- [回線グループの更新 \(P.24-9\)](#)
- [回線グループの削除 \(P.24-10\)](#)
- [回線グループの設定値 \(P.24-12\)](#)

回線グループの検索

ネットワーク内にはいくつかの回線グループが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の条件を指定して、特定の回線グループを見つけることができます。回線グループを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、回線グループの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、回線グループの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 Route Plan > Route/Hunt > Line Group の順に選択します。

Find and List Line Groups ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ドロップダウン リストボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注)

データベースに登録されているすべての回線グループを検索するには、検索テキストを入力せずに Find をクリックしてください。

検出された回線グループのリストが、回線グループ別に表示されます。



(注) 該当する回線グループの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Line Groups ウィンドウから複数の回線グループを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべての回線グループを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致する回線グループをクリックします。

選択した回線グループがウィンドウに表示されます。

関連項目

- [回線グループの追加 \(P.24-4\)](#)
- [回線グループへのメンバーの追加 \(P.24-6\)](#)
- [回線グループからのメンバーの削除 \(P.24-8\)](#)
- [回線グループの更新 \(P.24-9\)](#)
- [回線グループの削除 \(P.24-10\)](#)
- [回線グループの設定値 \(P.24-12\)](#)

回線グループの追加

回線グループを追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

この手順を実行する場合は、事前に少なくとも 1 つの電話番号を指定しておく必要があります。

手順

ステップ 1 Route Plan > Route/Hunt > Line Group の順に選択します。

ステップ 2 Add a New Line Group をクリックします。

ステップ 3 Line Group Name フィールドに名前を入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.) ハイフン (-) および下線文字 (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。各回線グループ名が、そのルート プランに固有の名前であることを確認してください。



ワンポイント・アドバイス

回線グループには、内容を簡潔に表す名前を使用してください。通常、CompanynameLocationGroup の形式が、内容を簡潔に表し、回線グループをすばやくかつ簡単に識別できる方式です。たとえば、CiscoDallasAA1 は、Dallas にある Cisco オフィス用の Cisco Access Analog 回線グループを示します。

ステップ 4 適切な設定値を選択します (表 24-1 を参照)。



(注) 新しい回線グループを追加する前に、新しい回線グループに対して少なくとも 1 つの電話番号を選択しておく必要があります。

ステップ 5 Insert をクリックして、この回線グループを追加します。

関連項目

- [回線グループの検索 \(P.24-2\)](#)
- [回線グループへのメンバーの追加 \(P.24-6\)](#)
- [回線グループからのメンバーの削除 \(P.24-8\)](#)
- [回線グループの削除 \(P.24-10\)](#)
- [回線グループの設定値 \(P.24-12\)](#)
- [ルート リストの追加 \(P.22-5\)](#)
- [ルート リストへのルート グループの追加 \(P.22-8\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルート プランの概要」

回線グループへのメンバーの追加

新規または既存の回線グループに、メンバーを追加することができます。既存の回線グループにメンバーを追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

この手順を実行する場合は、事前に少なくとも 1 つの電話番号を指定しておく必要があります。

手順

-
- ステップ 1** Route Plan > Route/Hunt > Line Group の順に選択します。
 - ステップ 2** メンバーを追加する先の回線グループを特定します。P.24-2 の「回線グループの検索」を参照してください。
 - ステップ 3** 電話番号を特定する必要がある場合は、Route Partition ドロップダウン リストボックスからルートパーティションを選択し、Directory Number Contains フィールドに検索文字列を入力して、Find をクリックします。パーティションに属する電話番号をすべて検索するには、Directory Number Contains フィールドをプランクのままにして、Find をクリックします。

Available DN/Route Partition リストボックスに、一致する電話番号のリストが表示されます。
 - ステップ 4** Available DN/Route Partition リストボックスで追加する電話番号を選択し、Add to Line Group をクリックして、その電話番号を Selected DN/Route Partition リストボックスへ移動します。この回線グループに追加する各メンバーに対して、この手順を繰り返します。
 - ステップ 5** Selected DN/Route Partition リストボックスで、新しい電話番号がこの回線グループ内でアクセスされる順序を選択します。順序を変更するには、電話番号をクリックしてから、リストボックスの右側にある上矢印または下矢印を使用して、電話番号を移動します。

ステップ 6 Update をクリックして、新しい電話番号を追加し、この回線グループの電話番号の順序を更新します。

関連項目

- [回線グループの検索 \(P.24-2 \)](#)
- [回線グループの追加 \(P.24-4 \)](#)
- [回線グループからのメンバーの削除 \(P.24-8 \)](#)
- [回線グループの更新 \(P.24-9 \)](#)
- [回線グループの削除 \(P.24-10 \)](#)
- [回線グループの設定値 \(P.24-12 \)](#)
- [ルート リストの追加 \(P.22-5 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルート プランの概要」

回線グループからのメンバーの削除

新規または既存の回線グループから、メンバーを削除することができます。既存の回線グループから電話番号を削除する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** Route Plan > Route/Hunt > Line Group の順に選択します。
 - ステップ 2** 削除する電話番号が入っている回線グループを特定します。P.24-2 の「[回線グループの検索](#)」を参照してください。
 - ステップ 3** Selected DN/Route Partition リスト ボックスで削除する電話番号を選択し、リストボックスの下にある下矢印をクリックして、Removed DN/Route Partition リストボックスへ電話番号を移動します。この回線グループから削除する各メンバーに対して、この手順を繰り返してください。
 - ステップ 4** メンバーを削除するには、Update をクリックします。
-

関連項目

- [回線グループの検索](#) (P.24-2)
- [回線グループの追加](#) (P.24-4)
- [回線グループへのメンバーの追加](#) (P.24-6)
- [回線グループの更新](#) (P.24-9)
- [回線グループの削除](#) (P.24-10)
- [回線グループの設定値](#) (P.24-12)
- [ルート リストの追加](#) (P.22-5)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「[ルート プランの概要](#)」

回線グループの更新

回線グループを更新する手順は、次のとおりです。

始める前に

次の手順を実行する場合は、更新する回線グループが事前に設定されていることを確認してください。

手順

-
- ステップ 1** Route Plan > Route/Hunt > Line Group の順に選択します。
 - ステップ 2** 更新する回線グループを特定します。P.24-2 の「回線グループの検索」を参照してください。
 - ステップ 3** 該当するフィールドを更新します（表 24-1 を参照）。
 - ステップ 4** Update をクリックします。
-

関連項目

- [回線グループの検索 \(P.24-2\)](#)
- [回線グループの追加 \(P.24-4\)](#)
- [回線グループへのメンバーの追加 \(P.24-6\)](#)
- [回線グループからのメンバーの削除 \(P.24-8\)](#)
- [回線グループの削除 \(P.24-10\)](#)
- [回線グループの設定値 \(P.24-12\)](#)
- [ルート リストの追加 \(P.22-5\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルート プランの概要」

回線グループの削除

回線グループを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

1 つまたは複数のハント リストが参照している回線グループは、削除することができません。回線グループを使用しているハント リストを検索するには、Line Group Configuration ウィンドウの **Dependency Records** リンクをクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。使用されている回線グループを削除しようとすると、Cisco CallManager はエラー メッセージを表示します。現在使用中の回線グループを削除する場合は、事前に、次の作業を実行しておく必要があります。

- 回線グループを削除する前に、その回線グループが属しているすべてのハント リストから、その回線グループを削除する。[P.22-11 の「ルート リストからのルートグループの削除」](#)を参照してください。



ヒント

回線グループとハント パイロットを削除するには、まずハント パイロットを削除し、次にハント リストを削除して、最後に回線グループを削除します。

手順

- ステップ 1** Route Plan > Route/Hunt > Line Group の順に選択します。
- ステップ 2** 削除する回線グループを特定します。[P.24-2 の「回線グループの検索」](#)を参照してください。
- ステップ 3** 削除する回線グループの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックします。

回線グループを削除すると取り消せないことを警告するダイアログボックスが表示されます。

- ステップ 4** 回線グループを削除するには、**OK** をクリックします。削除操作を取り消すには、**Cancel** をクリックします。**OK** をクリックすると、Cisco CallManager により、回線グループが削除されます。



(注) 該当する回線グループの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Line Groups ウィンドウから複数の回線グループを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内の回線グループをすべて削除できます。

関連項目

- [回線グループの検索 \(P.24-2\)](#)
- [回線グループの追加 \(P.24-4\)](#)
- [回線グループへのメンバーの追加 \(P.24-6\)](#)
- [回線グループからのメンバーの削除 \(P.24-8\)](#)
- [回線グループの更新 \(P.24-9\)](#)
- [ルート リストの追加 \(P.22-5\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルート プランの概要」

回線グループの設定値

表 24-1 では、回線グループの設定値について説明します。

表 24-1 回線グループの設定値

フィールド	説明
回線グループ情報	
Line Group Name	この回線グループの名前を入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-) および下線文字 (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。各回線グループ名が、そのルート プランに固有の名前であることを確認してください。
RNA Reversion Timeout	コールの応答がない場合や、最初のハント オプション (<i>Try next member; then, try next group in Hunt List</i>) が選択されている場合に、この回線グループで次に対応可能またはアイドル状態のメンバー、または次の回線グループに対して、Cisco CallManager がコールの分散を開始するまでの時間を、秒単位で入力します。RNA Reversion Timeout は、回線グループ レベルで、すべてのメンバーに適用されます。

表 24-1 回線グループの設定値（続き）

フィールド	説明
Distribution Algorithm	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、回線グループ レベルで適用される次の分散アルゴリズムのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Top Down：この分散アルゴリズムを選択すると、回線グループでアイドルまたは対応可能状態にある最初のメンバーから最後のメンバーまで、Cisco CallManager がメンバーに対してコールを分散します。 • Circular：この分散アルゴリズムを選択すると、Cisco CallManager は、アイドルまたは対応可能状態のメンバーに対するコールの分散を、回線グループの ($n+1$) 番目のメンバーから開始します。n 番目のメンバーは、Cisco CallManager が最後にコールを延長したメンバーです。n 番目のメンバーが、回線グループの最後のメンバーの場合、Cisco CallManager は回線グループの先頭からコールの分散を開始します。 • Longest Idle Time：この分散アルゴリズムを選択すると、回線グループでアイドル時間が最長のメンバーから最短のメンバーまで、Cisco CallManager がアイドル状態のメンバーだけにコールを分散します。 • Broadcast：この分散アルゴリズムを選択すると、Cisco CallManager は、回線グループでアイドルまたは対応可能状態のすべてのメンバーに対して、同時にコールを分散します。Broadcast 分散アルゴリズムの使用に関するその他の制約事項については、Selected DN/Route Partition フィールドの説明にある注記を参照してください。

■ 回線グループの設定値

表 24-1 回線グループの設定値 (続き)

フィールド	説明
ハント オプション	
No Answer	<p>任意の分散アルゴリズムに対して、応答のない回線グループのメンバーにコールが分散されている場合に使用する Cisco CallManager のハント オプションを選択します。このオプションは、メンバーレベルで適用されます。ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Try next member; then, try next group in Hunt List : このハント オプションを選択すると、回線グループでアイドルまたは対応可能状態にある最初のメンバーから最後のメンバーまで、Cisco CallManager がメンバーに対してコールを分散します。分散に失敗した場合、Cisco CallManager はハント リスト内の次の回線グループに対して分散を試行します。 • Try next member, but do not go to next group : このハント オプションを選択すると、回線グループでアイドルまたは対応可能状態にある最初のメンバーから最後のメンバーまで、Cisco CallManager がメンバーに対してコールを分散します。現在の回線グループの最後のメンバーに到達すると、Cisco CallManager は分散を停止します。 • Skip remaining members, and go directly to next group : このハント オプションを選択すると、この回線グループの最初のメンバーに対する分散の試行時間が RNA reversion timeout の設定値を超過した場合、Cisco CallManager が残りのメンバーをスキップします。Cisco CallManager は、そのままハント リスト内の次の回線グループへと試行を継続します。 • Stop hunting : このハント オプションを選択すると、Cisco CallManager は、この回線グループの最初のメンバー、およびコールに応答しないメンバーに対してコールの分散を試行した後、ハントを停止します。

表 24-1 回線グループの設定値（続き）


フィールド	説明
Busy	<p>任意の分散アルゴリズムに対して、ビジー状態の回線グループのメンバーにコールが分散されている場合に使用する Cisco CallManager のハント オプションを選択します。ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Try next member; then, try next group in Hunt List : このハント オプションを選択すると、回線グループでアイドルまたは対応可能状態にある最初のメンバーから最後のメンバーまで、Cisco CallManager がメンバーに対してコールを分散します。分散に失敗した場合、Cisco CallManager はハント リスト内の次の回線グループに対して分散を試行します。 • Try next member, but do not go to next group : このハント オプションを選択すると、回線グループでアイドルまたは対応可能状態にある最初のメンバーから最後のメンバーまで、Cisco CallManager がメンバーに対してコールを分散します。現在の回線グループの最後のメンバーに到達すると、Cisco CallManager は分散を停止します。 • Skip remaining members, and go directly to next group : このハント オプションを選択すると、ビジー状態のメンバーがいた場合、Cisco CallManager はこの回線グループの残りのメンバーをスキップします。Cisco CallManager は、そのままハント リスト内の次の回線グループへと試行を継続します。 • Stop hunting : このハント オプションを選択すると、Cisco CallManager は、この回線グループでビジー状態の最初のメンバーに対してコールの分散を試行した後、ハントを停止します。

■ 回線グループの設定値

表 24-1 回線グループの設定値 (続き)

フィールド	説明
Not Available	<p>任意の分散アルゴリズムに対して、対応可能状態ではない回線グループのメンバーにコールが分散されている場合に使用する Cisco CallManager のハント オプションを選択します。Not Available 状態は、問題の DN(電話番号)に関連付けられているいずれの電話機も登録されていない場合に発生します。Not Available はまた、エクステンション モビリティが使用中で DN/ ユーザがログインされていない場合にも発生します。ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Try next member; then, try next group in Hunt List : このハント オプションを選択すると、回線グループでアイドルまたは対応可能状態にある最初のメンバーから最後のメンバーまで、Cisco CallManager がメンバーに対してコールを分散します。分散に失敗した場合、Cisco CallManager はハント リスト内の次の回線グループに対して分散を試行します。 • Try next member, but do not go to next group : このハント オプションを選択すると、回線グループでアイドルまたは対応可能状態にある最初のメンバーから最後のメンバーまで、Cisco CallManager がメンバーに対してコールを分散します。現在の回線グループの最後のメンバーに到達すると、Cisco CallManager は分散を停止します。 • Skip remaining members, and go directly to next group : このハント オプションを選択すると、対応可能状態にないメンバーがいた場合、Cisco CallManager はこの回線グループの残りのメンバーをスキップします。Cisco CallManager は、そのままハント リスト内の次の回線グループへと試行を継続します。 • Stop hunting : このハント オプションを選択すると、Cisco CallManager は、この回線グループで対応可能状態にない最初のメンバーに対してコールの分散を試行した後、ハントを停止します。

表 24-1 回線グループの設定値 (続き)

フィールド	説明
回線グループ メンバー情報	
電話番号を検索して回線グループへ追加	
Route Partition	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、この回線グループのルートパーティションを選択します。</p> <p>Find をクリックすると、Available DN/Route Partition リスト ボックスに、選択されたパーティションに属する電話番号 (DN) がすべて表示されます。</p>
Directory Number Contains	<p>検索する電話番号に含まれる文字を入力し、Find ボタンをクリックします。入力した文字と一致する電話番号が Available DN/Route Partition ボックスに表示されます。</p>
Available DN/Route Partition	<p>Available DN/Route Partition リスト ボックスで電話番号を選択し、Add to Line Group をクリックして、その電話番号を Selected DN/Route Partition リスト ボックスに追加します。</p>
現在の回線グループ メンバー	
Selected DN/Route Partition	<p>電話番号の優先順位を変更するには、Selected DN/Route Partition リスト ボックス内の電話番号を選択します。そのリスト ボックスの右側にある矢印をクリックして、リスト内でその電話番号を上下に移動させてください。</p> <p>Selected DN/Route Partition リスト ボックス内の電話番号の優先順位を逆転するには、Reverse Order of Selected DN's をクリックします。</p> <p>回線グループ内の電話番号の順序の詳細については、 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルート プランの概説」を参照してください。</p> <p> (注) 共有回線である DN を、Broadcast 分散アルゴリズムを使用する回線グループに配置しないでください。DN が Broadcast 分散アルゴリズムを使用する回線グループのメンバーである場合、Cisco CallManager では、DN が共有回線として設定されているデバイスで、共有回線である一部の DN を表示できません。</p>

■ 回線グループの設定値

表 24-1 回線グループの設定値 (続き)

フィールド	説明
Removed DN/Route Partition (to be removed from Line Group when you click Update)	Selected DN/Route Partition リスト ボックスで電話番号を選択し、その電話番号を Removed DN/Route Partition リスト ボックスに追加します。これには、この 2 つのリスト ボックス間にある下矢印をクリックします。

関連項目

- [回線グループの検索 \(P.24-2\)](#)
- [回線グループの追加 \(P.24-4\)](#)
- [回線グループへのメンバーの追加 \(P.24-6\)](#)
- [回線グループからのメンバーの削除 \(P.24-8\)](#)
- [回線グループの更新 \(P.24-9\)](#)
- [回線グループの削除 \(P.24-10\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルート プランの概要」



ハント リストの設定

ハント リストは、1組の回線グループを特定の順序で一覧表示します。また、ハント リストは、1つ以上のハント パイロットに関連付けられ、その回線グループがアクセスされる順位を決定します。この順位は、着信コールに使用可能な電話番号を検索するときの進行を制御します。

ハント リストは、回線グループによって定義された電話番号の集合から構成されます。Cisco CallManager が指定ハント リストを使用してルーティングすべきコールを判別すると、そのリストに指定されている回線グループの順位に基づいて、Cisco CallManager は最初に使用可能なデバイスを検出します。



(注) グループ コール ピックアップ機能は、ハント リストでは使用できません。

ハント リストには、回線グループだけを入れることができます。各ハント リストには、少なくとも1つの回線グループを入れる必要があります。各回線グループには、少なくとも1つの電話番号が含まれます。1つの回線グループが複数のハント リストに表示される場合があります。

ハント リストの追加または削除、リスト内の回線グループの追加、削除、または順序の変更をするには、次のトピックを参照してください。

- [ハント リストの検索 \(P.25-2\)](#)
- [ハント リストの追加 \(P.25-5\)](#)
- [ハント リストへの回線グループの追加 \(P.25-8\)](#)

■ ハント リストの検索

- [ハント リストからの回線グループの削除 \(P.25-10\)](#)
- [ハント リスト内の回線グループの順位の變更 \(P.25-12\)](#)
- [ハント リストの削除 \(P.25-13\)](#)

ハント リストの検索

ネットワーク内にはいくつかのハント リストが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の条件を指定して、特定のリストを見つけることができます。ハント リストを見つけるには、次の手順を使用します。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、ハント リストの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ハント リストの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 Route Plan > Route/Hunt > Hunt List の順に選択します。

Find and List Hunt Lists ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、ハント リストを検索します。

ステップ 2 最初の Find Hunt Lists where ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- Hunt List Name
- Description
- Pattern/Pilot Number



(注) このドロップダウン リスト ボックスで選択する条件によって、検索時に生成されるハント リストの一覧のソート方法が決まります。たとえば、Description を選択すると、Description 列が結果リストの左側の列に表示されます。

2 番目の Find Hunt Lists where ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、**Find** をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注) データベースに登録されているハント リストをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。

検出されたハント リストの一覧が、次の項目別に表示されます。

- Hunt list name
- Description
- Status (状況)
- Enabled



(注) 該当するハント リストの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Hunt Lists ウィンドウから複数のハント リストを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のハント リストをすべて削除できます。

■ ハント リストの検索

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致するハント リストをクリックします。

選択したハント リストがウィンドウに表示されます。

関連項目

- [ハント リストの追加 \(P.25-5\)](#)
- [ハント リストへの回線グループの追加 \(P.25-8\)](#)
- [ハント リストからの回線グループの削除 \(P.25-10\)](#)
- [ハント リスト内の回線グループの順位の変更 \(P.25-12\)](#)
- [ハント リストの削除 \(P.25-13\)](#)

ハントリストの追加

ハントリストを追加する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** Route Plan > Route/Hunt > Hunt List の順に選択します。
- ステップ 2** Add a New Hunt List をクリックします。
- ステップ 3** Hunt List Name フィールドに名前を入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定することができ、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-) および下線文字 (_) を任意に組み合わせて使用することが可能です。各ハントリスト名が、そのルートプランに固有の名前であることを確認してください。



ワンポイント・アドバイス

ハントリストには、内容を簡潔に表す名前を使用してください。通常、CompanynameLocationCalltype の形式が、内容を簡潔に表し、ハントリストをすばやくかつ簡単に識別できる方式です。たとえば、CiscoDallasMetro は、Dallas の Cisco オフィスからの、LATA (Local Access Transport Area) 間の無料コール用のハントリストを特定します。

Cisco CallManager は、自動的に Description フィールドに説明を挿入します。ただし、このフィールドの編集は可能です。

- ステップ 4** ドロップダウン リストボックスから、Cisco CallManager グループを選択します。



(注) ハントリストは、プライマリ CallManager として、CallManager グループ内で最初の CallManager に登録されます。

■ ハント リストの追加



(注) Cisco CallManager が 1 つしか設定されていない Cisco CallManager グループを選択すると、次の警告が表示されます。

WARNING!The selected Cisco CallManager Group has only one Cisco CallManager configured.For the control process to have redundancy protection, please select a Cisco CallManager Group with more than one Cisco CallManager.

ステップ 5 Insert をクリックして、このハント リストを追加します。



(注) コールを受信させるため、このハント リストに回線グループを少なくとも 1 つ追加する必要があることを示すポップアップメッセージが表示されます。

Hunt List ウィンドウに、新しく追加されたハント リストが表示されます。

ステップ 6 新しいハント リストの Enable this Hunt List チェックボックスは、デフォルトでオンになっています。

このハント リストを使用不可にする場合は、このチェックボックスをオフにします。進行中のコールは影響を受けないが、このハント リストが追加のコールを受け付けなくなることを示す、ポップアップ ウィンドウが表示されます。

ステップ 7 このハント リストをボイス メッセージ用に使用する場合は、For Voice Mail Usage チェックボックスをオンにします。

ステップ 8 新しいハント リストに少なくとも 1 つの回線グループを追加します。

このリストに回線グループを追加するには、**Add Line Group** をクリックし、[P.25-8 の「ハント リストへの回線グループの追加」のステップ 3 ~ ステップ 6](#) を実行します。

関連項目

- [ハントリストの検索 \(P.25-2\)](#)
- [ハントリストへの回線グループの追加 \(P.25-8\)](#)
- [ハントリスト内の回線グループの順位の变更 \(P.25-12\)](#)
- [ハントリストからの回線グループの削除 \(P.25-10\)](#)
- [ハントリストの削除 \(P.25-13\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルートプランの概要」

ハント リストへの回線グループの追加

新規のハント リストまたは既存のハント リストに、回線グループを追加することができます。回線グループは、1 つ以上のハント リストに組み込むことができます。既存のハント リストに回線グループを追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

この手順を実行する場合は、事前に 1 つ以上の回線グループを作成し、ハント リストを追加しておく必要があります。

手順

ステップ 1 Route Plan > Route/Hunt > Hunt List の順に選択します。

ステップ 2 回線グループを追加する先のハント リストを特定します。P.25-2 の「ハント リストの検索」を参照してください。

ステップ 3 Add Line Group をクリックして、回線グループを追加します。

Hunt List Detail Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 Line Group ドロップダウン リスト ボックスから、ハント リストに追加する回線グループを選択します。



(注) このハント リストをボイス メッセージ用に使用する場合、このハント リストに割り当てる (追加する) 回線グループのメンバーはすべて、ボイスメール ポートでなければなりません。

ステップ 5 Insert をクリックして、回線グループを追加します。

ウィンドウの左側にある Hunt List Details リストに、回線グループ名が表示されます。

- ステップ 6** このリストに回線グループをさらに追加するには、**Add Line Group** をクリックして、[ステップ 3](#) ~ [ステップ 5](#) を実行します。
- ステップ 7** ハントリストへの回線グループの追加が終了したら、**Update** をクリックします。
- ステップ 8** **Reset** をクリックして、ハントリストをリセットします。ポップアップウィンドウが表示されたら、**OK** をクリックします。
-

関連項目

- [ハントリストの追加 \(P.25-5\)](#)
- [ハントリストからの回線グループの削除 \(P.25-10\)](#)
- [ハントリスト内の回線グループの順位の変更 \(P.25-12\)](#)
- [ハントリストの削除 \(P.25-13\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルートプランの概要」

ハント リストからの回線グループの削除

新規のハント リストまたは既存のハント リストから、回線グループを削除することができます。既存のハント リストから回線グループを削除する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** メニューバーから **Route Plan > Route/Hunt > Hunt List** の順に選択します。
- ステップ 2** 削除する回線グループが入っているハント リストを特定します。P.25-2 の「[ハントリストの検索](#)」を参照してください。
- ステップ 3** Selected Groups リストから、回線グループ名を選択します。



(注) このリストから複数の回線グループを選択するには、**Shift** キーを押し、目的の回線グループをクリックしてください。

- ステップ 4** Selected Groups リスト ボックスの下にある下矢印をクリックして、選択した回線グループを Removed Groups リストに移動します。
- ステップ 5** 回線グループを削除するには、**Update** をクリックします。**OK** をクリックすると、ページがリフレッシュされたときに、その回線グループがハント リストから削除されています。
- ステップ 6** **Reset** をクリックして、変更内容を有効にします。ポップアップ ウィンドウの **OK** をクリックします。

関連項目

- [ハント リストの検索 \(P.25-2 \)](#)
- [ハント リストの追加 \(P.25-5 \)](#)
- [ハント リストへの回線グループの追加 \(P.25-8 \)](#)
- [ハント リスト内の回線グループの順位の変更 \(P.25-12 \)](#)
- [ハント リストの削除 \(P.25-13 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルート プランの概要」

ハント リスト内の回線グループの順位の変更

Cisco CallManager は、ハント リストに表示されている順に、回線グループにアクセスします。回線グループのアクセス順位を変更する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** Route Plan > Route/Hunt > Hunt List の順に選択します。
 - ステップ 2** 回線グループの順位を変更するハント リストを特定します。P.25-2 の「[ハント リストの検索](#)」を参照してください。
 - ステップ 3** Selected Groups リストから、回線グループを選択します。
 - ステップ 4** リスト内で回線グループを上下に移動させるには、回線グループを選択して、リスト ボックスの右側にある上矢印または下矢印をクリックします。
 - ステップ 5** Update をクリックします。
 - ステップ 6** Reset をクリックして、変更内容を有効にします。ポップアップ ウィンドウの OK をクリックします。
-

関連項目

- [ハント リストの検索 \(P.25-2\)](#)
- [ハント リストの追加 \(P.25-5\)](#)
- [ハント リストへの回線グループの追加 \(P.25-8\)](#)
- [ハント リストからの回線グループの削除 \(P.25-10\)](#)
- [ハント リストの削除 \(P.25-13\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルート プランの概要」

ハントリストの削除

Cisco CallManager は、回線グループおよびハントパイロットにハントリストを関連付けます。ただし、ハントリストが削除されても、回線グループおよびハントパイロットは削除されません。ハントリストを使用しているハントパイロットを検索するには、**Hunt List Configuration** ウィンドウの **Dependency Records** リンクをクリックします。Dependency Records がシステムに対して使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。



ヒント

回線グループとハントパイロットを削除するには、まずハントパイロットを削除し、次にハントリストを削除して、最後に回線グループを削除します。

ハントリストを削除する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** **Route Plan > Route/Hunt > Hunt List** の順に選択します。
- ステップ 2** 削除するハントリストを見つけます。[P.25-2 の「ハントリストの検索」](#)を参照してください。
- ステップ 3** **Delete** をクリックします。

ハントリストを削除すると取り消せないことを警告するダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 4** ハントリストを削除するには、**OK** をクリックします。削除操作を取り消すには、**Cancel** をクリックします。

■ ハント リストの削除

**注意**

ハント リストが 1 つ以上のハント パイロットに関連付けられている場合、そのリストは削除できません。

関連項目

- [ハント リストの検索 \(P.25-2\)](#)
- [ハント リストの追加 \(P.25-5\)](#)
- [ハント リストへの回線グループの追加 \(P.25-8\)](#)
- [ハント リスト内の回線グループの順位の変更 \(P.25-12\)](#)
- [ハント リストからの回線グループの削除 \(P.25-10\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルート プランの概要」



ハントパイロットの設定

ハントパイロットは、アドレスを表す数字のストリングと、ハントリストにコールをルート指定するように関連付けられた数字操作のセットから構成されています。このハントパイロットは、ネットワークの設計に柔軟性をもたらします。ハントパイロットは、ルートフィルタおよびハントリストと連動して、コールを特定のデバイスに誘導し、特定の数字パターンの組み込み、除外、または変更を行います。

ハントパイロットの詳細については、『*Cisco CallManager システム ガイド*』の「ルートプランの概要」を参照してください。

ハントパイロットを追加、更新、コピー、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- [ハントパイロットの検索 \(P.26-2\)](#)
- [ハントパイロットの追加 \(P.26-5\)](#)
- [ハントパイロットの更新 \(P.26-7\)](#)
- [ハントパイロットのコピー \(P.26-8\)](#)
- [ハントパイロットの削除 \(P.26-10\)](#)
- [ハントパイロットの設定値 \(P.26-11\)](#)

ハントパイロットの検索

ネットワーク内にはいくつかのハントパイロットが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の条件を指定して、特定のハントパイロットを見つけることができます。ハントパイロットを見つけるには、次の手順を使用します。



(注) Cisco CallManager Administration では、ブラウザセッションでの作業中は、ハントパイロットの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ハントパイロットの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 Route Plan > Route/Hunt > Hunt Pilot の順に選択します。

Find and List Hunt Pilots ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン選択ボックスを使用して、ハントパイロットを検索します。

ステップ 2 最初の Find Hunt Pilots where ドロップダウン選択ボックスから、Pattern、Description、または Partition を選択します。



(注) このドロップダウンリストボックスで選択する条件によって、検索時に生成されるハントパイロットのソート方法が決まります。たとえば、Description を選択すると、Description 列が結果リストの左側の列に表示されます。

ステップ 3 2 番目の Find Hunt Pilots where ドロップダウンリストボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)

- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is not empty (非空白)
- is empty (空白)

ステップ 4 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、**Find** をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注) データベースに登録されているハントパイロットをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。

検出されたハントパイロットのリストが、次の項目別に表示されます。

- Hunt pilot icon
- Hunt pilot
- Partition
- Description
- Route Filter
- Hunt List



(注) 該当するハントパイロットの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Hunt Pilots ウィンドウから複数のハントパイロットを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのハントパイロットを削除できます。

ステップ 5 レコードのリストから、検索条件と一致するハントパイロットをクリックします。

選択したハントパイロットがウィンドウに表示されます。

関連項目

- [ハントパイロットの追加 \(P.26-5\)](#)
- [ハントパイロットの更新 \(P.26-7\)](#)
- [ハントパイロットのコピー \(P.26-8\)](#)
- [ハントパイロットの削除 \(P.26-10\)](#)
- [ハントパイロットの設定値 \(P.26-11\)](#)

ハントパイロットの追加

ハントパイロットを追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

Cisco CallManager で次の項目が設定されていることを確認してください。

- Hunt list
- Partition (<None> を使用しない場合)
- Route filter (<None> を使用しない場合)



ワンポイント・アドバイス

ハントパイロットに 8XXX を割り当てると、電話番号 8000 ~ 8999 がすべてハントされます。同様に、82XX では、電話番号 8200 ~ 8299 がハントされます。ワイルドカードの詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「特殊文字と設定値」を参照してください。

手順

ステップ 1 Route Plan > Route/Hunt > Hunt Pilot の順に選択します。

ステップ 2 Add a New Hunt Pilot をクリックします。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 26-1 を参照)。

ステップ 4 Insert をクリックします。



(注) Insert をクリックし、ウィンドウがリフレッシュされた後、そのウィンドウの中の Hunt List フィールドの横に、Edit リンクが表示されます。このリンクを使用すると、Hunt List Configuration ウィンドウが確認のために表示され、そのハント リストに含まれている回線グループが表示されます。

関連項目

- [ハントパイロットの検索 \(P.26-2\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルートパターンとハントパイロット内のワイルドカードと特殊文字」
- [ルートフィルタの追加 \(P.16-5\)](#)
- [ハントパイロットの更新 \(P.26-7\)](#)
- [ハントパイロットのコピー \(P.26-8\)](#)
- [ハントパイロットの削除 \(P.26-10\)](#)
- [ハントパイロットの設定値 \(P.26-11\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルートプランの概要」

ハントパイロットの更新

ハントパイロットを更新する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** Route Plan > Route/Hunt > Hunt Pilot の順に選択します。
 - ステップ 2** 更新するハントパイロットを見つけます。P.26-2 の「ハントパイロットの検索」を参照してください。



(注) ハントリストを変更する場合は、Edit リンクを選択する前に、Update をクリックしておく必要があります。Update をクリックしておかないと、直前のハントリストにリンクします。

- ステップ 3** 該当する設定値を更新します(P.26-11 の「ハントパイロットの設定値」を参照)。
- ステップ 4** Update をクリックします。

更新されたハントパイロットが表示されます。

関連項目

- [ハントパイロットの検索 \(P.26-2\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルートパターンとハントパイロット内のワイルドカードと特殊文字」
- [ルートフィルタの追加 \(P.16-5\)](#)
- [ハントパイロットの追加 \(P.26-5\)](#)
- [ハントパイロットのコピー \(P.26-8\)](#)
- [ハントパイロットの削除 \(P.26-10\)](#)
- [ハントパイロットの設定値 \(P.26-11\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルートプランの概要」


ハントパイロットのコピー


ハントパイロットをコピーする手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** Route Plan > Route/Hunt > Hunt Pilot の順に選択します。
 - ステップ 2** コピーするハントパイロットを見つけます。P.26-2 の「[ハントパイロットの検索](#)」を参照してください。
 - ステップ 3** コピーするハントパイロットの横にあるチェックボックスをオンにします。
 - ステップ 4** そのハントパイロットの Copy アイコンをクリックします。

ウィンドウに、そのハントパイロットのコピーが表示されます。
 - ステップ 5** 該当する設定値を更新します（[表 26-1](#) を参照）。
 - ステップ 6** Insert をクリックして、新規ハントパイロットを追加します。

 **(注)** Insert をクリックし、ウィンドウがリフレッシュされた後、そのウィンドウの中の Hunt List フィールドの横に、Edit リンクが表示されます。このリンクを使用すると、Hunt List Configuration ウィンドウが確認のために表示され、そのハントリストに含まれている回線グループが表示されます。

 **ヒント** ハントパイロットのコピーは、コピーするハントパイロットを特定して表示し、Copy をクリックすることによっても実行できます。この場合は、コピーした後に、前述の**ステップ 5** および**ステップ 6** の手順を実行してください。

関連項目

- [ハントパイロットの検索 \(P.26-2\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルートパターンとハントパイロット内のワイルドカードと特殊文字」
- [ルートフィルタの追加 \(P.16-5\)](#)
- [ハントパイロットの追加 \(P.26-5\)](#)
- [ハントパイロットの更新 \(P.26-7\)](#)
- [ハントパイロットの削除 \(P.26-10\)](#)
- [ハントパイロットの設定値 \(P.26-11\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルートプランの概要」

ハントパイロットの削除

ハントパイロットを削除する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** Route Plan > Route/Hunt > Hunt Pilot の順に選択します。
- ステップ 2** 削除するハントパイロットを見つけます。P.26-2 の「ハントパイロットの検索」を参照してください。
- ステップ 3** 削除するハントパイロットのチェックボックスをオンにして、Delete Selected をクリックします。
- この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。
- ステップ 4** ハントパイロットを削除するには、OK をクリックします。削除操作を取り消すには、Cancel をクリックします。



ヒント

ハントパイロットの削除は、削除するハントパイロットを特定して表示し、Delete をクリックすることによっても実行できます。


関連項目

- [ハントパイロットの検索 \(P.26-2\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルートパターンとハントパイロット内のワイルドカードと特殊文字」
- [ルートフィルタの追加 \(P.16-5\)](#)
- [ハントパイロットの追加 \(P.26-5\)](#)
- [ハントパイロットの更新 \(P.26-7\)](#)
- [ハントパイロットのコピー \(P.26-8\)](#)
- [ハントパイロットの設定値 \(P.26-11\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルートプランの概要」

ハントパイロットの設定値

表 26-1 では、*Hunt Pilot Configuration* ウィンドウ内の使用可能なフィールドについて説明します。

表 26-1 ハントパイロットの設定値

フィールド	説明
パターン定義	
Hunt Pilot	<p>数字とワイルドカード(スペースを使用しない)を含むハントパイロットを入力します。たとえば、NANP では、通常のローカルアクセスの場合は 9.@ を、通常のプライベートネットワーク番号計画の場合は 8XXX を入力します。大文字の A、B、C、および D を指定できます。</p> <p> (注) 選択したパーティション、ルート フィルタ、および番号計画の組み合わせを使用する、ディレクトリハントパイロットが固有のものであることを確認してください。重複エントリを示すメッセージが表示された場合は、ハントパイロット、変換パターン、電話番号、コールパーク番号、コールピックアップ番号、メッセージ受信のオン / オフ、または Meet Me 番号をチェックしてください。また、必要に応じてルートプランレポートもチェックしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ワイルドカードの詳細については、『<i>Cisco CallManager システムガイド</i>』の「ルートパターンとハントパイロット内のワイルドカードと特殊文字」を参照してください。

■ ハントパイロットの設定値

表 26-1 ハントパイロットの設定値（続き）





フィールド	説明
Partition	<p>パーティションを使用してハントパイロットへのアクセスを制限する場合は、ドロップダウンリストボックスから適切なパーティションを選択します。ハントパイロットへのアクセスを制限しない場合は、パーティションに <None> を選択します。パーティションの使用方法的詳細については、P.19-1 の「パーティションの設定」を参照してください。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウンリストボックスで表示するパーティションの数を設定することができます。Max List Box Items エンタープライズパラメータで設定されたパーティションの数が 250 以上の場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウンリストボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Partition ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにパーティション名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるパーティションのリストで希望するパーティション名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リストボックスの最大項目を設定するには、System > Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAAdmin Parameters を選択します。</p> <p> (注) ハントパイロット、ルートフィルタ、およびパーティションの組み合わせが、Cisco CallManager クラスタ内で固有であることを確認してください。</p>
Description	ハントパイロットの説明を入力します。
Numbering Plan	番号計画を選択します。

表 26-1 ハントパイロットの設定値（続き）

フィールド	説明
Route Filter	<p>ハントパイロットにワイルドカード @ が含まれている場合は、ルートフィルタを選択できます。オプションでルートフィルタを選択すると、所定の番号パターンが制限されます。</p> <p>表示されるルートフィルタは、Numbering Plan ドロップダウンリストボックスで選択する番号計画によって異なります。</p> <p>ルートフィルタの数が 250 より多い場合は、ドロップダウンリストボックスの横に省略記号ボタン (...) が表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Route Filters ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにルートフィルタ名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるルートフィルタのリストで希望するルートフィルタ名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リストボックスの最大項目を設定するには、System > Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。</p>
MLPP Precedence	<p>ドロップダウンリストボックスで、このハントパイロットに対する MLPP Precedence の設定を次の中から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Executive Override : MLPP コールに、一番高い優先度を設定します。 • Flash Override : MLPP コールに、2 番目に高い優先度を設定します。 • Flash : MLPP コールに、3 番目に高い優先度を設定します。 • Immediate : MLPP コールに、4 番目に高い優先度を設定します。 • Priority : MLPP コールに、5 番目に高い優先度を設定します。 • Routine : MLPP コールに、一番低い優先度を設定します。 • Default : 着信の優先レベルは上書きされず、そのまま渡されます。 <p> (注) 詳細については、『Cisco CallManager 機能およびサービスガイド』の「Multilevel Precedence and Preemption」の「優先順位」を参照してください。</p>

■ ハントパイロットの設定値

表 26-1 ハントパイロットの設定値（続き）



フィールド	説明
Hunt List	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、設定するハントパイロットに関連付けるハントリストを選択します。</p> <p> (注) ボイスメールハントパイロットには、For Voice Mail Usage チェックボックスでオンになっているハントリストのみを指定することをお勧めします。指定されたハントリストの横の Edit リンクをクリックして、ハントリストを確認（または変更）します。</p>
Route Option	<p>Route Option の指定内容が、このハントパイロットをコールのルーティング（9.@ や 8[2-9]XX など）またはコールのブロックに使用するかどうかを示します。Route this pattern または Block this pattern オプション ボタンを選択してください。</p> <p>Block this pattern オプション ボタンを選択した場合、このハントパイロットをコールのブロックに使用する理由を選択する必要があります。次のドロップダウン リスト ボックスから値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • No Error • Unallocated Number • Call Rejected • Number Changed • Invalid Number Format • Precedence Level Exceeded
Provide Outside Dial Tone	<p>外部ダイヤルトーンは、Cisco CallManager がローカル ネットワーク外にコールをルーティングすることを示します。ローカル ネットワーク外にコールをルーティングする各ハントパイロットに対してこのチェックボックスをオンにし、発信側デバイスに外部ダイヤルトーンを提供します。ネットワーク内のコールをルーティングする場合は、このチェックボックスをオフのままにしておきます。</p>

表 26-1 ハントパイロットの設定値（続き）

フィールド	説明
Urgent Priority	<p>ダイヤル プランにハント リストが重複して含まれている場合、数字列をダイヤルして現在の一致を選択できる場合にも、Cisco CallManager は桁間タイマーが時間切れになるまでコールをルーティングしません。Cisco CallManager がすぐにコールをルーティングする必要がある場合は、このチェックボックスをオンにして、桁間タイミングを中断します。</p>
Hunt Forward Settings	
Forward Hunt No Answer	<p>ハント リストを介して分散されるコールに対して一定の時間応答がない場合、このフィールドでコールの転送方法を指定します。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> Use Personal Preferences : このチェックボックスをオンにして、コールをこのハントパイロットに転送した最初の着信番号に対して Call Forward No Coverage (CFNC) の設定値を使用可能にします。 <p>CFNC 設定値は、システム管理者が Directory Number Configuration ウィンドウで管理するコール転送の理由を指定します。電話番号へのコールが最初にカバレッジに転送され、カバレッジが残りわずかになったか時間切れになり、カバレッジの関連するハントパイロットが最後の転送先として Use Personal Preferences を指定している場合、コールは電話番号の Coverage/Destination フィールドの値に基づいて転送されます。</p> <p> (注) このチェックボックスがオンになっていると、Cisco CallManager は、Destination ボックスと Calling Search Space の設定値を無視します。</p> <ul style="list-style-type: none"> Destination : この設定値は、コールの転送先となる電話番号を示します。 Calling Search Space : この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。

■ ハントパイロットの設定値

表 26-1 ハントパイロットの設定値（続き）


フィールド	説明
Forward Hunt Busy	<p data-bbox="478 285 1244 350">ハント リストを介して分散されるコールが一定の時間ビジー状態の場合、このフィールドでコールの転送方法を指定します。</p> <p data-bbox="478 375 946 407">次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul data-bbox="491 431 1244 553" style="list-style-type: none"> • Use Personal Preferences : このチェックボックスをオンにして、コールをこのハント パイロットに転送した最初の着信番号に対して Call Forward No Coverage (CFNC) の設定値を使用可能にします。 <p data-bbox="525 570 1244 789">CFNC 設定値は、システム管理者が Directory Number Configuration ウィンドウで管理するコール転送の理由を指定します。電話番号へのコールが最初にカバレッジに転送され、カバレッジが残りわずかになったか時間切れになり、カバレッジの関連するハント パイロットが最後の転送先として Use Personal Preferences を指定している場合、コールは電話番号の Coverage/Destination フィールドの値に基づいて転送されます。</p> <p data-bbox="478 805 525 846"></p> <p data-bbox="478 846 1244 943">(注) このチェックボックスがオンになっていると、Cisco CallManager は、Destination ボックスと Calling Search Space の設定値を無視します。</p> <ul data-bbox="491 976 1244 1114" style="list-style-type: none"> • Destination : この設定値は、コールの転送先となる電話番号を示します。 • Calling Search Space : この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。
Maximum Hunt Timer	ハントの時間の最大値（秒）を入力します。

表 26-1 ハントパイロットの設定値（続き）

フィールド	説明
発信側変換 Use Calling Party's External Phone Number Mask	発信コールで完全な外部電話番号を CLID (calling line ID) に使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。また、すべての電話機で External Phone Number Mask を設定することもできます。  (注) ハント リスト内の回線グループに割り当てられる発信側変換設定値は、そのリストに関連したハントパイロットに割り当てられている発信側変換設定値をすべて上書きしません。
Calling Party Transform Mask	変換マスク値を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字 X、アスタリスク (*)、シャープ (#)、大文字の A、B、C、D、およびブランクです。このフィールドがブランクのときに、上記のフィールド (Use Calling Party's External Phone Number Mask) がオフの場合、発信側変換は行われません。詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「発信側番号の変換設定値」を参照してください。
Prefix Digits (Outgoing Calls)	Prefix Digits (Outgoing Calls) フィールドに、プレフィックス番号を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字、アスタリスク (*)、シャープ (#)、大文字の A、B、C、D、およびブランクです。  (注) 付加されたプレフィックス番号は、割り当てられたデバイスにルート指定される電話番号に影響を与えません。

■ ハントパイロットの設定値

表 26-1 ハントパイロットの設定値（続き）

フィールド	説明
Calling Line ID Presentation	<p>Cisco CallManager は補助的なサービスとして、CLIP/CLIR（Calling Line ID Presentation）を使用します。これは、コールごとに発信者の電話番号を許可、または制限します。</p> <p>このハントパイロットに対して、Cisco CallManager が発信側電話番号を着信側の番号表示画面で表示するかどうかを選択します。</p> <p>発信側の回線 ID 表示を変更しない場合は、<i>Default</i> を選択します。Cisco CallManager で発信側の電話番号が表示されるようにする場合は、<i>Allowed</i> を選択します。Cisco CallManager が発信側の電話番号を表示しないようにする場合は、<i>Restricted</i> を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『<i>Cisco CallManager システムガイド</i>』の「発信側番号の変換設定値」の項の表 15-6 を参照してください。</p>
Calling Name Presentation	<p>Cisco CallManager は補助的なサービスとして、CNIP/CNIR（Calling Name Presentation）を使用します。これは、コールごとに発信者の名前を許可、または制限します。</p> <p>このハントパイロットに対して、Cisco CallManager が発信側の名前を着信側の表示画面で表示するかどうかを選択します。</p> <p>発信側の名前表示を変更しない場合は、<i>Default</i> を選択します。Cisco CallManager で発信側の名前情報を表示させる場合は、<i>Allowed</i> を選択します。Cisco CallManager が発信側の名前情報を表示しないようにする場合は、<i>Restricted</i> を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『<i>Cisco CallManager システムガイド</i>』の「発信側番号の変換設定値」の項の表 15-6 を参照してください。</p>

表 26-1 ハントパイロットの設定値（続き）

フィールド	説明
接続側変換	
Connected Line ID Presentation	<p>Cisco CallManager は補助的なサービスとして、COLP/COLR (Connected Line ID Presentation) を使用します。これは、コールごとに発信者の電話番号を許可、または制限します。</p> <p>このハントパイロットに対して、Cisco CallManager が接続側電話番号を発信側の番号表示画面に表示するかどうかを選択します。</p> <p>接続側の回線 ID 表示を変更しない場合は、<i>Default</i> を選択します。接続側の電話番号を表示する場合は、<i>Allowed</i> を選択します。Cisco CallManager が接続側の電話番号を表示しないようにする場合は、<i>Restricted</i> を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『<i>Cisco CallManager システムガイド</i>』の「接続先情報の表示設定と制限設定」の項の表 15-9 を参照してください。</p>
Connected Name Presentation	<p>Cisco CallManager は補助的なサービスとして、CONP/CONR (Connected Name Presentation) を使用します。これは、コールごとに着信側の名前を許可、または制限します。</p> <p>このハントパイロットに対して、Cisco CallManager が接続側の名前を発信側の表示画面で表示するかどうかを選択します。</p> <p>接続側の名前表示を変更しない場合は、<i>Default</i> を選択します。接続側の名前を表示する場合は、<i>Allowed</i> を選択します。Cisco CallManager が接続側の名前を表示しないようにする場合は、<i>Restricted</i> を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『<i>Cisco CallManager システムガイド</i>』の「接続先情報の表示設定と制限設定」の項の表 15-9 を参照してください。</p>

■ ハントパイロットの設定値

表 26-1 ハントパイロットの設定値 (続き)




フィールド	説明
着信側変換 Discard Digits	<p>Discard Digits ドロップダウン リスト ボックスから、このハントパイロットに関連付ける数字破棄命令を選択します。表示される数字破棄命令は、Numbering Plan ドロップダウン リスト ボックスで選択する番号計画によって異なります。North American Numbering Plan の数字破棄命令の詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「数字破棄命令」を参照してください。</p> <p> (注) ハント リスト内の回線グループに割り当てられる着信側変換設定値は、そのリストに関連したハントパイロットに割り当てられている着信側変換設定値をすべて上書きしません。</p>
Called Party Transform Mask	<p>変換マスク値を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字 X、アスタリスク (*)、シャープ (#)、大文字の A、B、C、D、およびブランクです。このフィールドがブランクである場合、変換は行われません。Cisco CallManager は、ダイヤルされた通りの数字を正確に送信します。</p>
Prefix Digits (Outgoing Calls)	<p>Prefix Digits (Outgoing Calls) フィールドに、プレフィックス番号を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字、アスタリスク (*)、シャープ (#)、大文字の A、B、C、D、およびブランクです。</p> <p> (注) 付加されたプレフィックス番号は、割り当てられたデバイスにルート指定される電話番号に影響を与えません。</p>

表 26-1 ハントパイロットの設定値（続き）

フィールド	説明
AAR グループの設定値	
AAR Group	<p>ドロップダウンリストボックスから、自動代替ルーティング(AAR)を選択します。</p> <p> (注) このハントパイロットに対して AAR を使用可能にできるのは、回線グループのメンバーがすべて同じロケーションにある場合だけです。</p>
External Number Mask	<p>ハントパイロットの外部番号マスク値を入力します。</p> <p>Cisco CallManager はこのマスクを使用して、外部（発信）コールの CLID をフォーマットします。AAR が再ルーティングを開始すると、システムはこの外部番号マスクをハントパイロット番号に適用し、着信側の完全修飾ドメイン名を形成します。そのため、AAR は、帯域幅が足りない状況でも正しく再ルーティングできるようになります。</p>

関連項目

- [ハントパイロットの検索 \(P.26-2\)](#)
- [ハントパイロットの追加 \(P.26-5\)](#)
- [ハントパイロットの更新 \(P.26-7\)](#)
- [ハントパイロットのコピー \(P.26-8\)](#)
- [ハントパイロットの削除 \(P.26-10\)](#)

■ ハントパイロットの設定値



変換パターンの設定

Cisco CallManager は変換パターンを使用して、ダイヤルされた番号を操作した後でコールをルーティングします。場合によってシステムは、ダイヤルされた番号を使用しないことがあります。また、公衆電話交換網（PSTN）が、ダイヤルされた番号を認識できない場合もあります。

変換パターンを追加、更新、コピー、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- [変換パターンの検索 \(P.27-2\)](#)
- [変換パターンの追加 \(P.27-5\)](#)
- [変換パターンの更新 \(P.27-6\)](#)
- [変換パターンのコピー \(P.27-7\)](#)
- [変換パターンの削除 \(P.27-8\)](#)
- [変換パターンの設定値 \(P.27-10\)](#)

変換パターンの検索

ネットワーク内にはいくつかの変換パターンが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の条件を指定して、特定の変換パターンを見つけることができます。変換パターンを特定する手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザセッションでの作業中は、変換パターンの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、変換パターンの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 Route Plan > Translation Pattern の順に選択します。

Find and List Translation Patterns ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 最初のドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- Pattern (変換パターンの名前で検索する場合)
- Description (変換パターンの説明で検索する場合)
- Partition (パーティション名で検索する場合)



(注)

このドロップダウン リスト ボックスで選択する条件によって、検索時に生成される変換パターン リストのソート方法が決まります。たとえば、Description を選択すると、Description 列が結果リストの左側の列に表示されます。

2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)

- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、**Find** をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



(注) データベースに登録されている変換パターンをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。

検出された変換パターンのリストが、次の項目別に表示されます。

- Translation pattern icon
- Translation Pattern
- Partition
- Description
- Route filter (ルート フィルタ)



(注) 該当する変換パターンの横にあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、Find and List Translation Patterns ウィンドウから複数の変換パターンを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべての変換パターンを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、検索条件と一致する変換パターンをクリックします。

Translation Pattern Configuration ウィンドウに、選択した変換パターンが表示されます。

関連項目

- [変換パターンの追加 \(P.27-5 \)](#)
- [変換パターンの更新 \(P.27-6 \)](#)
- [変換パターンのコピー \(P.27-7 \)](#)
- [変換パターンの削除 \(P.27-8 \)](#)
- [変換パターンの設定値 \(P.27-10 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルート プランの概要」

変換パターンの追加

変換パターンを追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

変換パターンを追加する場合は、事前に、次の Cisco CallManager 項目を設定してください。

- Partition
- Route filter (ルート フィルタ)
- Calling Search Space (コーリング サーチ スペース)

手順

-
- ステップ 1** Route Plan > Translation Pattern の順に選択します。
 - ステップ 2** Add a New Translation Pattern をクリックします。
 - ステップ 3** 適切な設定値を入力します (表 27-1 を参照)。
 - ステップ 4** Insert をクリックします。
-

関連項目

- [変換パターンの検索 \(P.27-2 \)](#)
- [変換パターンの更新 \(P.27-6 \)](#)
- [変換パターンのコピー \(P.27-7 \)](#)
- [変換パターンの削除 \(P.27-8 \)](#)
- [変換パターンの設定値 \(P.27-10 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルート プランの概要」

変換パターンの更新

変換パターンを更新する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** Route Plan > Translation Pattern の順に選択します。
 - ステップ 2** 更新する変換パターンを見つけます。P.27-2 の「[変換パターンの検索](#)」を参照してください。
 - ステップ 3** 該当する設定値を更新します (P.27-10 の「[変換パターンの設定値](#)」を参照)。



(注) 選択したパーティション、ルートフィルタ、および番号計画の組み合わせを使用する変換パターンが固有のものであることを確認してください。重複エントリを示すエラーが表示された場合は、ルートパターンおよびハントパイロット、変換パターン、電話番号、コールパーク番号、コールピックアップ番号、または Meet Me 番号の設定ウィンドウをチェックしてください。

- ステップ 4** Update をクリックします。

ウィンドウに、更新された変換パターンが表示されます。

関連項目

- [変換パターンの検索 \(P.27-2 \)](#)
- [変換パターンの追加 \(P.27-5 \)](#)
- [変換パターンのコピー \(P.27-7 \)](#)
- [変換パターンの削除 \(P.27-8 \)](#)
- [変換パターンの設定値 \(P.27-10 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「[ルートプランの概要](#)」

変換パターンのコピー

変換パターンをコピーする手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** Route Plan > Translation Pattern の順に選択します。
 - ステップ 2** コピーする変換パターンを見つけます。P.27-2 の「[変換パターンの検索](#)」を参照してください。
 - ステップ 3** コピーする変換パターンの横にあるチェックボックスをオンにします。
 - ステップ 4** その変換パターンの Copy アイコンをクリックします。

ウィンドウに、その変換パターンのコピーが表示されます。
 - ステップ 5** 該当する設定値を更新します ([表 27-1](#) を参照)。
 - ステップ 6** Insert をクリックして、新しい変換パターンを追加します。
-

関連項目

- [変換パターンの検索 \(P.27-2 \)](#)
- [変換パターンの追加 \(P.27-5 \)](#)
- [変換パターンの更新 \(P.27-6 \)](#)
- [変換パターンの削除 \(P.27-8 \)](#)
- [変換パターンの設定値 \(P.27-10 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルート プランの概要」

変換パターンの削除

変換パターンを削除する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** Route Plan > Translation Pattern の順に選択します。
 - ステップ 2** 削除する変換パターンを見つけます。P.27-2 の「[変換パターンの検索](#)」を参照してください。
 - ステップ 3** 削除する変換パターンのチェックボックスをオンにして、Delete Selected をクリックします。

この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。
 - ステップ 4** 変換パターンを削除するには、OK をクリックします。削除操作を取り消すには、Cancel をクリックします。



注意

変換パターンを削除するときは、削除する変換パターンが正しいか慎重に確認してください。削除した変換パターンを元に戻すことはできません。不用意に削除すると、削除した変換パターンを作成し直す必要があります。



ヒント

変換パターンの削除は、削除する変換パターンを見つけて表示し、Delete をクリックすることによっても実行できます。

関連項目

- [変換パターンの検索 \(P.27-2 \)](#)
- [変換パターンの追加 \(P.27-5 \)](#)
- [変換パターンの更新 \(P.27-6 \)](#)
- [変換パターンのコピー \(P.27-7 \)](#)
- [変換パターンの設定値 \(P.27-10 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルート プランの概要」

変換パターンの設定値

表 27-1 では、Translation Pattern Configuration ウィンドウ内の使用可能なフィールドについて説明します。

表 27-1 変換パターンの設定値




フィールド	説明
パターン定義	
Translation Pattern	<p>Translation Pattern フィールドに、番号とワイルドカード（スペースを使用しない）を含む、変換パターンを入力します。たとえば、NANP では、通常のローカル アクセスの場合は 9.@ を、通常のプライベート ネットワーク番号計画の場合は 8XXX を入力します。大文字の A、B、C、および D を使用できます。このフィールドを空白のままにした場合は、Partition ドロップダウン リスト ボックスからパーティションを選択する必要があります。</p> <p> (注) 選択したパーティション、ルート フィルタ、および番号計画の組み合わせを使用する変換パターンが固有のものであることを確認してください。重複エントリを示すエラーが表示された場合は、ルート パターンおよびハントパイロット、変換パターン、電話番号、コールパーク番号、コールピックアップ番号、または Meet-Me 番号を確認してください。重複エントリを示すエラーが表示された場合のもう 1 つの方法として、ルート プラン レポートも確認してください。</p>

表 27-1 変換パターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
Partition	<p>パーティションを選択します。パーティションを割り当てない場合は、<None> を選択します。<None> を選択した場合は、Translation Pattern フィールドに値を入力する必要があります。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するパーティションの数を設定することができます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで設定された数よりもパーティションの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リスト ボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Partition ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにパーティション名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるパーティションのリストで希望するパーティション名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、System > Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。</p> <p> (注) 変換パターン、ルート フィルタ、およびパーティションの組み合わせが、Cisco CallManager クラスタ内で固有であることを確認してください。</p>
Description	変換パターンの説明を入力します。
Numbering Plan	番号計画を選択します。

■ 変換パターンの設定値

表 27-1 変換パターンの設定値 (続き)



フィールド	説明
Route Filter	<p>オプションのルート フィルタを選択すると、所定の番号パターンが制限されます。詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルート パターンとハント パイロット内のワイルドカードと特殊文字」、および P.16-1 の「ルート フィルタの設定」を参照してください。</p> <p>表示されるルート フィルタは、Numbering Plan ドロップダウン リスト ボックスで選択する番号計画によって異なります。</p> <p>ルート フィルタの数が 250 より多い場合は、ドロップダウン リスト ボックスの横に省略記号ボタン (...) が表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Route Filters ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにルート フィルタ名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるルート フィルタのリストで希望するルート フィルタ名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、System > Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。</p>

表 27-1 変換パターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
Calling Search Space	<p>必要に応じて、ドロップダウン リスト ボックスから、追加する変換パターン用のコーリング サーチ スペースを選択します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで設定された数よりもコーリング サーチ スペースの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リスト ボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Calling Search Space ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにコーリング サーチ スペース名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるコーリング サーチ スペースのリストで希望するコーリング サーチ スペース名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、System > Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。</p>

■ 変換パターンの設定値

表 27-1 変換パターンの設定値 (続き)


フィールド	説明
MLPP Precedence	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、この変換パターンに対する MLPP Precedence の設定を次の中から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Executive Override : MLPP コールに、一番高い優先度を設定します。 • Flash Override : MLPP コールに、2 番目に高い優先度を設定します。 • Flash : MLPP コールに、3 番目に高い優先度を設定します。 • Immediate : MLPP コールに、4 番目に高い優先度を設定します。 • Priority : MLPP コールに、5 番目に高い優先度を設定します。 • Routine : MLPP コールに、一番低い優先度を設定します。 • Default : 着信の優先レベルは上書きされず、そのまま渡されます。 <p> (注) 詳細については、『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「Multilevel Precedence and Preemption」の「優先順位」を参照してください。</p>
Route Option	<p>Route Option の指定内容が、この変換パターンをコールのルーティング (9.@ や 8[2-9]XX など) またはコールのブロックに使用するかどうかを示します。Route this pattern または Block this pattern オプション ボタンを選択してください。</p> <p>Block this pattern オプション ボタンを選択した場合、この変換パターンをコールのブロックに使用する理由を選択する必要があります。次のドロップダウン リスト ボックスから値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • No Error • Unallocated Number • Call Rejected • Number Changed • Invalid Number Format • Precedence Level Exceeded

表 27-1 変換パターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
Provide Outside Dial Tone	外部ダイヤルトーンは、Cisco CallManager がローカル ネットワーク外にコールをルーティングすることを示します。ネットワーク外にあると思われる各ルート パターンに対してこのチェックボックスをオンにします。
Urgent Priority	Cisco CallManager は、Urgent Priority を指定してすべての変換パターンを設定します。変換パターンの優先順位は変更できません。
発信側変換	
Use Calling Party's External Phone Number Mask	発信コールで完全な外部電話番号を CLID (calling line ID) に使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。
Calling Party Transform Mask	変換マスク値を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字 X、アスタリスク (*)、シャープ (#)、大文字の A、B、C、D、およびブランクです。このフィールドがブランクのときに、上記のフィールド (Use Calling Party's External Phone Number Mask) がオフの場合、発信側変換は行われません。詳細については、P.22-5 の「ルートの追加」を参照してください。
Prefix Digits (Outgoing Calls)	<p>プレフィックス番号を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字、アスタリスク (*)、シャープ (#)、大文字の A、B、C、D、およびブランクです。</p> <p> (注) 付加されたプレフィックス番号は、割り当てられたデバイスにルート指定される電話番号に影響を与えません。</p>

■ 変換パターンの設定値

表 27-1 変換パターンの設定値 (続き)




フィールド	説明
Calling Line ID Presentation	<p data-bbox="477 284 1247 386">Cisco CallManager は補助的なサービスとして、CLIP/CLIR (Calling Line ID Presentation) を使用します。これは、コールごとに発信者の電話番号を許可、または制限します。</p> <p data-bbox="477 407 1247 475">この変換パターンに対して、Cisco CallManager が発信側電話番号を着信側の番号表示画面で表示するかどうかを選択します。</p> <p data-bbox="477 496 1247 634">Calling Line ID Presentation を変更しない場合は、<i>Default</i> を選択します。Cisco CallManager で発信側の電話番号が表示されるようにする場合は、<i>Allowed</i> を選択します。Cisco CallManager が発信側の電話番号を表示しないようにする場合は、<i>Restricted</i> を選択します。</p> <p data-bbox="477 656 1247 758">このフィールドの詳細については、『<i>Cisco CallManager システム ガイド</i>』の「発信側番号の変換設定値」の項の表 15-6 を参照してください。</p> <p data-bbox="477 779 1247 1196">  (注) コール表示制限を設定するには、このパラメータおよび Connected Line ID Presentation パラメータを Ignore Presentation Indicators (internal calls only) デバイスレベルパラメータと組み合わせて使用します。同時に、これらの設定値では、各コールに対して発信側の回線または接続側の回線の表示情報を表示するか、制限するかを選択できます。Ignore Presentation Indicators (internal calls only) フィールドの詳細については、P.58-5 の「新規ユーザ デバイス プロファイルの追加」および P.62-15 の「電話機の設定値」の表 62-1 を参照してください。コール表示制限の詳細については、『<i>Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド</i>』の「Call Display Restrictions 機能」の章を参照してください。 </p>

表 27-1 変換パターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
Calling Name Presentation	<p>Cisco CallManager は補助的なサービスとして、CNIP/CNIR (Calling Name Presentation) を使用します。これは、コールごとに発信者の名前を許可、または制限します。</p> <p>この変換パターンに対して、Cisco CallManager が発信側の名前を着信側の表示画面で表示するかどうかを選択します。</p> <p>発信側の名前表示を変更しない場合は、<i>Default</i> を選択します。Cisco CallManager で発信側の名前情報を表示させる場合は、<i>Allowed</i> を選択します。Cisco CallManager が発信者名情報を表示しないようにする場合は、<i>Restricted</i> を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『<i>Cisco CallManager システム ガイド</i>』の「発信側番号の変換設定値」の項の表 15-6 を参照してください。</p>
接続側変換	
Connected Line ID Presentation	<p>Cisco CallManager は補助的なサービスとして、COLP/COLR (Connected Line ID Presentation) を使用します。これは、コールごとに発信者の電話番号を許可、または制限します。</p> <p>この変換パターンに対して、Cisco CallManager が接続側電話番号を発信側の番号表示画面に表示するかどうかを選択します。</p> <p>Connected Line ID Presentation を変更しない場合は、<i>Default</i> を選択します。接続側の電話番号を表示する場合は、<i>Allowed</i> を選択します。Cisco CallManager が接続側の電話番号を表示しないようにする場合は、<i>Restricted</i> を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『<i>Cisco CallManager システム ガイド</i>』の「接続先情報の表示設定と制限設定」の項の表 15-9 を参照してください。</p>

■ 変換パターンの設定値

表 27-1 変換パターンの設定値 (続き)

フィールド	説明
Connected Name Presentation	<p>Cisco CallManager は補助的なサービスとして、CONP/CONR (Connected Name Presentation) を使用します。これは、コールごとに着信側の名前を許可、または制限します。</p> <p>この変換パターンに対して、Cisco CallManager が接続側の名前を発信側の画面表示に表示するかどうかを選択します。</p> <p>接続側の名前表示を変更しない場合は、<i>Default</i> を選択します。接続側の名前を表示する場合は、<i>Allowed</i> を選択します。</p> <p>Cisco CallManager が接続側の名前を表示しないようにする場合は、<i>Restricted</i> を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager システムガイド』の「接続先情報の表示設定と制限設定」の項の表 15-9 を参照してください。</p>
着信側変換	
Discard Digits	<p>この変換パターンに関連付ける数字破棄命令を選択します。詳細については、『Cisco CallManager システムガイド』の「数字破棄命令」を参照してください。</p> <p></p> <p>(注) 表示される数字破棄命令は、Numbering Plan ドロップダウンリストボックスで選択する番号計画によって異なります。</p>
Called Party Transform Mask	<p>変換マスク値を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字 X、アスタリスク (*)、シャープ (#)、大文字の A、B、C、D、および空白です。このフィールドが空白である場合、変換は行われません。ダイヤルされた番号が、ダイヤルされたとおりに送信されます。</p>
Prefix Digits (Outgoing Calls)	<p>プレフィックス番号を入力します。NANP の有効な入力値は、0 ~ 9 の数字、ワイルドカード文字、アスタリスク (*)、シャープ (#)、大文字の A、B、C、D、および空白です。</p> <p></p> <p>(注) 付加されたプレフィックス番号は、割り当てられたデバイスにルート指定される電話番号に影響を与えません。</p>

関連項目

- [変換パターンの検索 \(P.27-2 \)](#)
- [変換パターンの追加 \(P.27-5 \)](#)
- [変換パターンの更新 \(P.27-6 \)](#)
- [変換パターンのコピー \(P.27-7 \)](#)
- [変換パターンの削除 \(P.27-8 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルート プランの概要」

■ 変換パターンの設定値



外部ルート プラン ウィザード

Cisco CallManager の管理者は、外部ルート プラン ウィザードを使用して、PSTN（公衆電話交換網）、PBX（構内交換機）、または他の Cisco CallManager システムへの外部ルーティングを容易に設定することができます。

このウィザードで外部ルート プランを生成する方法の詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルート プランの概要」を参照してください。

外部ルート プラン ウィザードを使用してルート プランをセットアップするには、次のトピックを参照してください。

- [外部ルート プランの作成 \(P.28-2\)](#)
- [ルーティング オプションの設定 \(P.28-3\)](#)
- [テナント情報の指定 \(P.28-5\)](#)
- [ロケーション情報の入力 \(P.28-6\)](#)
- [ゲートウェイの選択 \(P.28-8\)](#)
- [ゲートウェイ情報の指定 \(P.28-9\)](#)
- [外部ルート プランの生成 \(P.28-11\)](#)
- [外部ルート プランの確認 \(P.28-12\)](#)
- [外部ルート プランの完成 \(P.28-13\)](#)
- [外部ルート プランの削除 \(P.28-14\)](#)

外部ルート プランの作成

外部ルート プランの作成を開始する手順は、次のとおりです。

始める前に

外部ルート プラン ウィザードを使用する場合は、事前にすべてのゲートウェイを指定してください。新規ゲートウェイをセットアップするには、Cisco CallManager Administration で **Device > Gateway** の順に選択します。

手順

ステップ 1 Route Plan > External Route Plan Wizard の順に選択します。

ステップ 2 External Route Plan Wizard introduction ウィンドウ内の **Next** をクリックして、外部ルート プランを作成します。

関連項目

- ルーティング オプションの設定 (P.28-3)
- テナント情報の指定 (P.28-5)
- ロケーション情報の入力 (P.28-6)
- ゲートウェイの選択 (P.28-8)
- ゲートウェイ情報の指定 (P.28-9)
- 外部ルート プランの生成 (P.28-11)
- 外部ルート プランの確認 (P.28-12)
- 外部ルート プランの完成 (P.28-13)
- 外部ルート プランの削除 (P.28-14)

ルーティング オプションの設定

外部ルート プランにルーティング オプションを設定する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** 必要に応じて、Local call fallback、Toll bypass call fallback、Long distance call fallback、International call fallback、および Equal access suppression の各チェックボックスをオンにします。



(注) Local call fallback、Toll bypass call fallback、Long distance call fallback、または International call fallback を選択する場合、外部ルート プラン ウィザードには、関連したルート リストおよびハント リスト内に、リモート ゲートウェイと共にルート グループが含まれます。

- ステップ 2** Access code for toll bypass and fallback calls フィールドに、リモート ゲートウェイまたはローカル ゲートウェイにルーティングされるコール用のアクセス コードを入力します。数値のみを使用してください(多くのシステムでは、外部コールに 9 を使用します)。

Access code for toll bypass and fallback calls フィールドにアクセス コードが入力される場合、Cisco CallManager は、そのアクセス コードを、コール タイプに関連したルート グループのプレフィックス番号のエントリで使用します。



(注) このフィールドに入力されたアクセス コードは、ダイヤル プラン全体に適用されます。Cisco CallManager では、ダイヤル プランごとに 1 つのアクセス コードしか使用できません。

■ ルーティング オプションの設定

- ステップ 3** Access code for extensions served by a connected PBX フィールドに、Cisco CallManager と隣接 PBX の間のコール用のアクセス コードを入力します (多くのシステムでは、隣接 PBX システムへのコールに 8 を使用します)。

接続されている PBX が処理する内線番号に対してアクセス コードが入力される場合、そのアクセス コードの後にドット (.) を付けたものが、その内線番号に関連したルート パターンに付加されます。

- ステップ 4** Next をクリックします。
-

関連項目

- [外部ルート プランの作成 \(P.28-2\)](#)
- [テナント情報の指定 \(P.28-5\)](#)
- [ロケーション情報の入力 \(P.28-6\)](#)
- [ゲートウェイの選択 \(P.28-8\)](#)
- [ゲートウェイ情報の指定 \(P.28-9\)](#)
- [外部ルート プランの生成 \(P.28-11\)](#)
- [外部ルート プランの確認 \(P.28-12\)](#)
- [外部ルート プランの完成 \(P.28-13\)](#)
- [外部ルート プランの削除 \(P.28-14\)](#)

テナント情報の指定

外部ルート プラン用のテナント情報を追加する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** Tenant Name フィールドに、テナントの名前を入力します（通常、ルート プランが作成される組織の名前を使用してください）。



- (注)** テナント名は、コーリング サーチ スペース名とパーティション名に組み込まれるので、短い名前を使用するように推奨します。

- ステップ 2** Number of physical locations in the entire system フィールドに、その組織に関連する地理的なロケーションの数を入力します。このフィールドには、固有のエリアコードを使用する、システム内のすべての Cisco CallManager を反映しなければなりません。デフォルトでは、2 つのロケーションが指定されています。

- ステップ 3** Next をクリックします。

関連項目

- [外部ルート プランの作成 \(P.28-2 \)](#)
- [ルーティング オプションの設定 \(P.28-3 \)](#)
- [ロケーション情報の入力 \(P.28-6 \)](#)
- [ゲートウェイの選択 \(P.28-8 \)](#)
- [ゲートウェイ情報の指定 \(P.28-9 \)](#)
- [外部ルート プランの生成 \(P.28-11 \)](#)
- [外部ルート プランの確認 \(P.28-12 \)](#)
- [外部ルート プランの完成 \(P.28-13 \)](#)
- [外部ルート プランの削除 \(P.28-14 \)](#)

ロケーション情報の入力

Location Entry ウィンドウは、Tenant Information ウィンドウ内で指定されるロケーション数に対する情報を提供します。外部ルート プラン用のロケーション情報を追加する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 表示されるロケーションが現在のロケーションと異なる場合は、Location Name フィールドに、そのロケーションの名前を入力します。各ロケーション名が、そのロケーションが適用されるテナントに対して固有の名前であることを確認してください。ロケーション名には英数字のみを使用してください。

ステップ 2 Local Area Code(s) フィールドに、このロケーションで使用可能なローカル エリア コードを入力します (ローカル エリア コードは、呼び出しエリア内のすべてのエリア コードから構成されます。Cisco CallManager は、呼び出しエリア内のコールを、長距離コールとは見なしません)。

エリアに、複数のローカル (通話料無料) エリア コードがある場合、コンマを使用して、リスト内の各エリア コードを区切ってください。最初に 1 次ローカル エリア コードを入力し、次に 2 次ローカル エリア コードと 3 次ローカル エリア コードを入力します。



(注) 1 次ローカル エリア コードは、ローカル ルート パターンでプレフィックス番号を設定します。1 次エリア コードが正しい順序でリストされていない場合、ルート フィルタの生成に悪影響を及ぼす可能性があります。

ステップ 3 このロケーションでその組織のメイン番号である、7 桁または 10 桁の番号を入力します。

ステップ 4 このロケーションでローカル コールに必要な桁数を指定します。

ルート プラン ウィザードは、この情報を使用して、このロケーションに対して作成するルート リスト数を決定します。10 桁または 7 桁のダイヤルを選択する場合、ウィザードは、このロケーションに対して 1 つのルート リストを作成します。大都市ダイヤルを選択した場合、ウィザードは、そのロケーションに対して 2 つのルート リストを作成します。

ステップ 5 続けて他のロケーション用のロケーション情報を追加するには、[ステップ 1 ~ ステップ 4](#) を繰り返します。

関連項目

- [外部ルート プランの作成 \(P.28-2 \)](#)
- [ルーティング オプションの設定 \(P.28-3 \)](#)
- [テナント情報の指定 \(P.28-5 \)](#)
- [ゲートウェイの選択 \(P.28-8 \)](#)
- [ゲートウェイ情報の指定 \(P.28-9 \)](#)
- [外部ルート プランの生成 \(P.28-11 \)](#)
- [外部ルート プランの確認 \(P.28-12 \)](#)
- [外部ルート プランの完成 \(P.28-13 \)](#)
- [外部ルート プランの削除 \(P.28-14 \)](#)

ゲートウェイの選択

外部ルート プランに対してゲートウェイを選択する手順は、次のとおりです。



(注)

このウィンドウで既存のルート グループが使用しているゲートウェイを選択することはできません。

手順

- ステップ 1** すべてのロケーションでこのルート プランに関連付けられているゲートウェイすべてのチェックボックスをオンにします。
- ステップ 2** システムに定義されているゲートウェイをすべて組み込む場合は、**Select All** をクリックします。
- ステップ 3** 複数のゲートウェイを選択したときに、その選択をすべて解除する場合は、**Select None** をクリックします。



(注)

この手順を続行する場合は、事前に少なくとも 1 つのゲートウェイを選択しておく必要があります。

- ステップ 4** **Next** をクリックします。

関連項目

- [外部ルート プランの作成 \(P.28-2 \)](#)
- [ルーティング オプションの設定 \(P.28-3 \)](#)
- [テナント情報の指定 \(P.28-5 \)](#)
- [ロケーション情報の入力 \(P.28-6 \)](#)

- [ゲートウェイ情報の指定 \(P.28-9\)](#)
- [外部ルート プランの生成 \(P.28-11\)](#)
- [外部ルート プランの完成 \(P.28-13\)](#)
- [外部ルート プランの削除 \(P.28-14\)](#)

ゲートウェイ情報の指定

外部ルート プラン内のゲートウェイに対して、ゲートウェイ情報を追加する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** Location of the gateway ドロップダウン リスト ボックスで、ゲートウェイのロケーションを選択します。
 - ステップ 2** Type of carrier to which the gateway is connected ドロップダウン リスト ボックスで、このゲートウェイの接続タイプを選択します。
 - ステップ 3** コールがこのゲートウェイを介してルート指定されるときに、隣接スイッチに送信される、発信側番号を指定します。
 - ステップ 4** このゲートウェイが、Cisco CallManager アクセス コードを必要としない PBX に接続される場合は、Discard dialed access code チェックボックスをオンにします。
 - ステップ 5** 隣接 PBX に関連付けられる電話番号または内線番号の範囲を入力します。複数の入力項目を区切るには、コンマを使用してください。数字の範囲を指定するには、X ワイルドカード文字を使用してください。たとえば、PBX が内線番号 8000 ~ 8999 と 9000 ~ 9999 を処理する場合は、8XXX, 9XXX と入力して、指定された電話番号の範囲に対するルート パターンを作成します。

■ ゲートウェイ情報の指定



(注) 電話番号の範囲を指定すると、ウィザードは、入力された固有の範囲（ルート パターン）ごとに、1 つのルート リストを生成します。電話番号の範囲に対してアクセス コードを指定する場合に、Discard dialed access code チェックボックスをオンにしていないと、ウィザードは、入力された固有の範囲（ルート パターン）ごとに 1 つのルート リストを生成し、各ルート リストの前にそのアクセス コードとドット (.) を付けます。

ステップ 6 Next をクリックします。

ステップ 7 続けて他のゲートウェイに対してゲートウェイ情報を追加するには、[ステップ 1](#) ~ [ステップ 6](#) を繰り返します。

関連項目

- [外部ルート プランの作成 \(P.28-2\)](#)
- [ルーティング オプションの設定 \(P.28-3\)](#)
- [テナント情報の指定 \(P.28-5\)](#)
- [ロケーション情報の入力 \(P.28-6\)](#)
- [ゲートウェイの選択 \(P.28-8\)](#)
- [外部ルート プランの生成 \(P.28-11\)](#)
- [外部ルート プランの確認 \(P.28-12\)](#)
- [外部ルート プランの完成 \(P.28-13\)](#)
- [外部ルート プランの削除 \(P.28-14\)](#)

外部ルート プランの生成

次のアクションのいずれかを実行します。

- **Next** をクリックして、外部ルート プランを生成する。



(注) ルート プランの複雑性とシステム負荷に応じて、ウィザードが外部ルート プランを生成するには数分を要する場合があります。この生成中に、システムにさらに負荷を掛ける処理を開始しないでください。

- **Cancel** をクリックして、外部ルート プラン ウィザードがこのルート プランを生成しないようにする。



(注) **Cancel** をクリックすると、Cisco CallManager は、現在のルート プランに関連付けられているデータをすべて破棄します。この操作を取り消すことはできません。誤ってクリックした場合は、情報を再入力する必要があります。

関連項目

- [外部ルート プランの作成 \(P.28-2\)](#)
- [ルーティング オプションの設定 \(P.28-3\)](#)
- [テナント情報の指定 \(P.28-5\)](#)
- [ロケーション情報の入力 \(P.28-6\)](#)
- [ゲートウェイの選択 \(P.28-8\)](#)
- [ゲートウェイ情報の指定 \(P.28-9\)](#)
- [外部ルート プランの確認 \(P.28-12\)](#)
- [外部ルート プランの完成 \(P.28-13\)](#)
- [外部ルート プランの削除 \(P.28-14\)](#)

外部ルート プランの確認

外部ルート プランを確認する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1 外部ルート プラン ウィザードの状況レポートをチェックして、このルート プランに正しい要素が指定されていることを確認します。
- ステップ 2 Next をクリックして、外部ルート プランを完了します。



(注) 後で参照するために、状況レポートを印刷しておくことを推奨します。

状況レポートに表示されている情報に基づいて、その外部ルート プランに誤りがあると判断した場合は、外部ルート プラン ウィザードの最終ウィンドウに進みます。必要に応じて、この最終ウィンドウで、ルート プラン全体を削除できます。

関連項目

- [外部ルート プランの作成 \(P.28-2\)](#)
- [ルーティング オプションの設定 \(P.28-3\)](#)
- [テナント情報の指定 \(P.28-5\)](#)
- [ロケーション情報の入力 \(P.28-6\)](#)
- [ゲートウェイの選択 \(P.28-8\)](#)
- [ゲートウェイ情報の指定 \(P.28-9\)](#)
- [外部ルート プランの完成 \(P.28-13\)](#)
- [外部ルート プランの削除 \(P.28-14\)](#)

外部ルート プランの完成

次のアクションのいずれかを実行します。

- 外部ルート プラン ウィザードの状況レポートに表示されている情報が正しい場合は、**Finish** をクリックして、外部ルート プランを完成させる。
- 状況レポートに表示される情報に誤りがある場合は、**Delete External Route Plan** をクリックして、その外部ルート プラン ウィザードが生成したデータをすべて削除する。



注意

「Delete External Route Plan」をクリックすると、その外部ルート プラン ウィザードが生成したすべてのデータが削除されます。この操作を実行すると、元に戻すことができません。すべての外部ルート プラン情報を入力し直す必要があります。

関連項目

- [外部ルート プランの作成 \(P.28-2\)](#)
- [ルーティング オプションの設定 \(P.28-3\)](#)
- [テナント情報の指定 \(P.28-5\)](#)
- [ロケーション情報の入力 \(P.28-6\)](#)
- [ゲートウェイの選択 \(P.28-8\)](#)
- [ゲートウェイ情報の指定 \(P.28-9\)](#)
- [外部ルート プランの確認 \(P.28-12\)](#)
- [外部ルート プランの削除 \(P.28-14\)](#)

外部ルート プランの削除

ここでは、外部ルート プランを削除する方法について説明します。

外部ルート プラン ウィザードにより生成された要素がシステムで使用されている(たとえば、生成されたパーティションに Cisco IP Phone が属している)場合、削除機能は失敗します。生成された要素が使用されている場合、削除機能を使用する前に、それらの要素を使用しているシステム コンポーネントを、この外部ルート プランが生成したものでない要素に移しておく必要があります。



注意

この手順を実行すると、その外部ルート プラン ウィザードによって生成されたすべてのデータが削除されます。この操作を実行すると、元に戻すことができません。すべての外部ルート プラン情報を入力し直す必要があります。

手順

ステップ 1 Route Plan > External Route Plan Wizard の順に選択します。

ステップ 2 その外部ルート プラン ウィザードが生成したデータをすべて削除するには、Delete External Route Plan をクリックします。

関連項目

- [外部ルート プランの作成 \(P.28-2\)](#)
- [ルーティング オプションの設定 \(P.28-3\)](#)
- [テナント情報の指定 \(P.28-5\)](#)
- [ロケーション情報の入力 \(P.28-6\)](#)
- [ゲートウェイの選択 \(P.28-8\)](#)
- [ゲートウェイ情報の指定 \(P.28-9\)](#)
- [外部ルート プランの生成 \(P.28-11\)](#)
- [外部ルート プランの確認 \(P.28-12\)](#)
- [外部ルート プランの完成 \(P.28-13\)](#)



ルート プラン レポート

ルート プラン レポートとは、システム内のすべての割り当てられた（または割り当てられていない）電話番号（DN）、コールパーク（転送先保留）番号、コールピックアップ番号、会議番号、ルートパターン、変換パターン、メッセージウェイトイング インジケータ、ボイスメール ポート、および Cisco CallManager Attendant Console パイロット番号のリストです。ルート プラン レポートを使用して、Pattern/Directory Number、Partition、または Route Detail のフィールドをクリックすることにより、リストの一部または全部を表示すること、および関連する設定ウィンドウに直接進むことができます。

さらに、ルート プラン レポートを使用して、.csv ファイルにレポート データを保存し、他のアプリケーションに対してインポートを可能にすることもできます。この .csv ファイルには、電話機の電話番号（DN）、ルートパターン、パターンの使用方法、デバイス名、およびデバイスの説明を含む、Web ページよりも詳しい情報が入っています。

Cisco CallManager は、ルート プランを使用して、内部コールと外部 PSTN（公衆電話交換網）コールの両方をルート指定します。ルート プランの詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルート プランの概要」を参照してください。

ルート プラン レコードを表示するには、次のトピックを参照してください。

- [ルート プラン レコードの表示 \(P.29-2\)](#)
- [割り当てられていない電話番号の削除 \(P.29-5\)](#)
- [ファイル内のルート プラン レポートの表示 \(P.29-8\)](#)

ルートプランレコードの表示

この項では、ルートプランレコードを表示する手順について説明します。ネットワーク内にはいくつかのレコードが存在することがあるので、Cisco CallManager Administration では、固有の条件を指定して、特定のルートプランレコードを見つけることができます。カスタマイズされたルートプランレポートを生成する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 Route Plan > Route Plan Report の順に選択します。

Route Plan Report ウィンドウが表示されます。3 つのドロップダウン リストボックスを使用して、要件を満たすルートプランレポートを指定します。

ステップ 2 最初の Find where ドロップダウン リストボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- All Patterns
- Unassigned DN
- Call Park
- Conference
- Directory Number
- Translation Pattern
- Call Pickup Group
- Route Pattern
- Message Waiting
- Hunt Pilot
- Voice Mail Port

2 番目の Find where ドロップダウン リストボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- Pattern/Directory Number
- Partition

3 番目の Find where ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is not empty (非空白)
- is empty (空白)

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。

**ヒント**

データベースに登録されているルート プランをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。

**(注)**

ルート プラン レポートは、パターン / 電話番号、対応するパーティション / パターン タイプ、およびルートの詳細を表示します。Route Detail 列には、ルート リスト情報 (ルート グループおよび回線グループと関連ゲートウェイ、および使用ポート情報と一緒に) またはゲートウェイ情報が表示されます。

検出されたルート プランのリストが、次の項目別に表示されます。

- Pattern/Directory Number icon
- Pattern/Directory Number
- Partition
- Type
- Route Detail

■ ルートプランレコードの表示

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致するパターン / 電話番号のアイコン、名前、関連するパーティション、またはルートの詳細をクリックします。

選択したパターンがウィンドウに表示されます。

関連項目

- [ルートプランレポート \(P.29-1\)](#)
- [ファイル内のルートプランレポートの表示 \(P.29-8\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルートプランの概要」

割り当てられていない電話番号の削除

この項では、ルート プラン レポートから割り当てられていない電話番号を削除する手順について説明します。電話番号は、Cisco CallManager Administration の Directory Number Configuration ウィンドウで設定および削除されます。電話番号がデバイスまたは電話機から削除されても、その電話番号は Cisco CallManager データベース内に残っています。データベースから電話番号を削除するには、Route Plan Report ウィンドウを使用します。

手順

ステップ 1 Route Plan > Route Plan Report の順に選択します。

Route Plan Report ウィンドウが表示されます。3 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、すべての割り当てられていない電話番号を含むルート プラン レポートを指定します。

ステップ 2 電話番号の削除には、次の 3 つの方法があります。

- a. 削除する電話番号をクリックします。Directory Number Configuration ウィンドウが表示されたら、Delete をクリックします。
- b. 削除する電話番号の横にあるチェックボックスをオンにします。Delete Selected をクリックします。
- c. 検出された割り当てられていない電話番号をすべて削除するには、Delete all Found Items をクリックします。

電話番号を削除するかどうかを確認する、警告メッセージが表示されます。

ステップ 3 電話番号を削除するには、OK をクリックします。削除操作を取り消すには、Cancel をクリックします。

■ 割り当てられていない電話番号の更新

関連項目

- [ルートプランレポート \(P.29-1\)](#)
- [ルートプランレコードの表示 \(P.29-2\)](#)
- [電話番号の追加 \(P.62-52\)](#)
- [割り当てられていない電話番号の更新 \(P.29-6\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルートプランの概要」

割り当てられていない電話番号の更新

この項では、ルートプランレポートから、割り当てられていない電話番号の設定を更新する手順について説明します。電話番号は、Cisco CallManager Administration の Directory Number Configuration ウィンドウで設定および削除されます。電話番号がデバイスから削除されても、その電話番号は Cisco CallManager データベースに残っています。電話番号の設定を更新するには、Route Plan Report ウィンドウを使用します。

手順

ステップ 1 Route Plan > Route Plan Report の順に選択します。

Route Plan Report ウィンドウが表示されます。3 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、すべての割り当てられていない電話番号を含むルートプランレポートを指定します。

ステップ 2 更新する電話番号をクリックします。

Directory Number Configuration ウィンドウが表示されます。



(注) 電話番号およびパーティション以外の、電話番号の設定をすべて更新することができます。

ステップ3 コーリング サーチ スペースまたは転送オプションなど、必要に応じて内容を更新します。

ステップ4 Update をクリックします。

Directory Number Configuration ウィンドウが表示され、電話番号フィールドがブランクになります。

関連項目

- [ルートプランレポート \(P.29-1\)](#)
- [ルートプランレコードの表示 \(P.29-2\)](#)
- [電話番号の追加 \(P.62-52\)](#)
- [割り当てられていない電話番号の削除 \(P.29-5\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ルートプランの概要」

ファイル内のルートプランレポートの表示

ファイル .csv 内のルートプランレポートを表示する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 Route Plan > Route Plan Report の順に選択します。

Route Plan Report ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 View In File をクリックします。ダイアログボックスが表示されます。

このダイアログボックスから、そのファイルを保存するか、別のアプリケーションにインポートすることができます。

ステップ 3 Save をクリックします。

別のウィンドウが表示され、そのウィンドウで、必要なロケーションにこのファイルを保存できます。



(注) このファイルに別のファイル名を付けて保存することもできますが、ファイル名には、.csv 拡張子が必要です。

ステップ 4 ファイルを保存するロケーションを選択し、Save をクリックします。これで、指定されたロケーションにこのファイルが保存されます。

ステップ 5 保存した .csv ファイルのアイコンをダブルクリックすると、このファイルの内容が表示されます。

関連項目

- [ルートプランレポート \(P.29-1\)](#)
- [ルートプランレコードの表示 \(P.29-2\)](#)
- 『Cisco CallManager システムガイド』の「ルートプランの概要」



PART 4

サービスの設定





Cisco IPMA Configuration Wizard

Cisco IPMA Configuration Wizard を使用すると、短時間でエラーを出さずに IPMA を設定できます。管理者がこの設定ウィザードを正しく実行して完了すると、パーティション、コーリングサーチスペース、ルートポイント、および変換パターンが自動的に作成されます。また、IPMA マネージャ電話機、IPMA アシスタント電話機、およびその他すべてのユーザの電話機用の BAT テンプレートも作成されます。管理者は BAT テンプレートを使用して、マネージャ、アシスタント、およびその他すべてのユーザを設定できます。『*Cisco CallManager Bulk Administration Tool ユーザガイド*』を参照してください。

Cisco IPMA Configuration Wizard では、設定パラメータごとにウィンドウが表示されます。これらのウィンドウでは、情報がすでに設定されています。管理者が他の設定情報（たとえば、パーティション名）を使用する場合、設定済みの情報を適切な情報に変更することができます。

Cisco IPMA Configuration Wizard の使用方法の詳細については、『*Cisco CallManager 機能およびサービスガイド*』の「Cisco IPMA Configuration Wizard」を参照してください。



Cisco CallManager Attendant Console の設定

Cisco CallManager Attendant Console は、短縮ダイヤル ボタンとクイック ディレクトリ アクセスを含むグラフィカル ユーザ インターフェイスを使用して、電話番号の検索、回線状況の監視、およびコールの転送を実行するのを可能にするクライアント サーバ アプリケーションです。Attendant Console を使用すると、受付や庶務担当の方が担当部門または全社のコールを処理でき、また社員が自分の通話を管理することもできます。

Cisco CallManager Attendant Console の詳細と設定手順については、『*Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド*』の「Cisco CallManager Attendant Console」を参照してください。



Annunciator の設定

Annunciator は、Cisco Media Streaming Application サービスを使用する SCCP デバイスです。これを使用すると、Cisco IP Phone およびゲートウェイに事前に録音したアナウンス (.wav ファイル) を Cisco CallManager で再生できます。

Annunciator は、Cisco Multilevel Precedence Preemption と連携して動作し、Cisco CallManager はコールが失敗した理由を発信者に知らせることができます。Annunciator も転送されたコールと会議の一部のトーンを再生できます。

Annunciator を追加、更新、および削除するには、次のトピックを参照してください。

- [始める前に \(P.32-2\)](#)
- [Annunciator の検索 \(P.32-3\)](#)
- [Annunciator の追加 \(P.32-5\)](#)
- [Annunciator の更新 \(P.32-7\)](#)
- [Annunciator のコピー \(P.32-8\)](#)
- [Annunciator のリセット \(P.32-9\)](#)
- [Annunciator の削除 \(P.32-10\)](#)
- [Annunciator の設定値 \(P.32-12\)](#)
- [アナウンスのカスタマイズ \(P.32-13\)](#)

始める前に

Annunciator を設定する予定のサーバで Cisco IP Voice Media Streaming Application サービスを有効にしたことを確認してください。



ヒント

Cisco CallManager Serviceability で Cisco IP Media Streaming Application サービスをアクティブにすると、Cisco CallManager は自動的に Annunciator をデータベースに追加します。

サービスをアクティブにした後で、Annunciator デバイスは Cisco CallManager を登録します。パフォーマンス モニタ カウンタを見つけて Annunciator が存在するかどうかを確認します。

データベースからデバイスを削除した場合および Cisco IP Media Streaming Application サービスがまだアクティブになっている場合を除いて、手作業で Annunciator デバイスを追加しないことをお勧めします。



注意

Cisco IP Voice Media Streaming Application サービスを非アクティブにすると、Cisco CallManager は自動的に Annunciator デバイスをデータベースから削除します。

Annunciator の検索

Annunciator を検索する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 Service > Media Resource > Annunciator の順に選択します。

Find and List ウィンドウが表示されます。



ヒント

データベースに登録されている Annunciator をすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。

特定の Annunciator をすばやく検索するには、次の作業に従って検索条件を指定します。

ステップ 2 最初の Find Annunciators where ドロップダウン リスト ボックスから、Device Name、Device Pool、または Description のいずれかを選択します。



(注)

このドロップダウン リスト ボックスで選択する条件によって、検索時に生成される Annunciator リストのソート方法が決まります。たとえば、Device Pool を選択すると、Device Pool 列が結果リストの左側の列に表示されます。

ステップ 3 2 番目の Find Annunciators where ドロップダウン リスト ボックスから、検索条件のいずれかを選択します。

ステップ 4 必要に応じて適切な検索テキストを入力し、**Find** をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。

設定した Annunciator のリストが表示されます。

**ヒント**

該当する Annunciator の横にあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、Find and List Servers ウィンドウから複数の Annunciator を削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべての Annunciator を削除できます。

- ステップ 5** レコードのリストから、検索条件と一致する Annunciator アイコン、Description、または関連する Device Pool をクリックします。

選択した Annunciator がウィンドウに表示されます。

関連項目

- [Annunciator の追加 \(P.32-5 \)](#)
- [Annunciator の更新 \(P.32-7 \)](#)
- [Annunciator のコピー \(P.32-8 \)](#)
- [Annunciator のリセット \(P.32-9 \)](#)
- [Annunciator の削除 \(P.32-10 \)](#)
- [Annunciator の設定値 \(P.32-12 \)](#)

Annunciator の追加

Annunciator を追加する手順は、次のとおりです。



ヒント

Cisco CallManager Serviceability で Cisco IP Media Streaming Application サービスをアクティブにすると、Cisco CallManager は自動的に Annunciator デバイスをデータベースに追加します。デバイスを削除していない場合および Cisco IP Media Streaming Application サービスがまだアクティブになっている場合を除いて、手作業で Annunciator デバイスを追加しないことをお勧めします。

始める前に

Annunciator を追加する前に、次の作業が完了していることを確認します。

- Annunciator を設定する予定のサーバで Cisco IP Voice Media Streaming Application サービスを有効にする。
サービスのアクティブ化については、『*Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド*』を参照してください。
- 適切なサーバを設定する。
- デバイス プールを設定する。

手順

ステップ 1 Service> Media Resource> Annunciator の順に選択します。

Find and List annunciator ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ウィンドウの右上にある **Add a New Annunciator** リンクをクリックします。

Annunciator ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します（表 32-1 を参照）。

ステップ 4 Insert をクリックします。

変更を有効にするには、Annunciator デバイスをリセットする必要があることを確認するメッセージが表示されます。

ステップ 5 OK をクリックします。

関連項目

- [Annunciator の設定 \(P.32-1 \)](#)
- [Annunciator の検索 \(P.32-3 \)](#)
- [Annunciator の更新 \(P.32-7 \)](#)
- [Annunciator のコピー \(P.32-8 \)](#)
- [Annunciator のリセット \(P.32-9 \)](#)
- [Annunciator の削除 \(P.32-10 \)](#)
- [Annunciator の設定値 \(P.32-12 \)](#)

Annunciator の更新

Annunciator を更新する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 P.32-3 の「[Annunciator の検索](#)」の手順を使用して、Annunciator を見つけます。

ステップ 2 更新する Annunciator をクリックします。

ステップ 3 該当する設定値を更新します（[表 32-1](#) を参照）。

ステップ 4 Update をクリックします。

デバイスへのストリーミングがアイドル状態であるときに、変更内容が有効になることを確認するメッセージが表示されます。

ステップ 5 OK をクリックします。

ステップ 6 Reset ボタンをクリックします。

関連項目

- [Annunciator の検索](#)（P.32-3）
- [Annunciator の追加](#)（P.32-5）
- [Annunciator のコピー](#)（P.32-8）
- [Annunciator のリセット](#)（P.32-9）
- [Annunciator の削除](#)（P.32-10）
- [Annunciator の設定値](#)（P.32-12）

Annunciator のコピー

Annunciator をコピーする手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1 P.32-3 の「[Annunciator の検索](#)」の手順を使用して、Annunciator を見つけます。
 - ステップ 2 コピーする Annunciator をクリックします。
 - ステップ 3 Copy ボタンをクリックします。
 - ステップ 4 適切な設定値を入力します（[表 32-1](#) を参照）。
 - ステップ 5 Insert をクリックします。
-

関連項目

- [Annunciator の設定値](#)（P.32-12）
- [Annunciator の検索](#)（P.32-3）
- [Annunciator の追加](#)（P.32-5）
- [Annunciator の更新](#)（P.32-7）
- [Annunciator のリセット](#)（P.32-9）
- [Annunciator の削除](#)（P.32-10）

Annunciator のリセット

Annunciator をリセットする手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1 [P.32-3 の「Annunciator の検索」](#)の手順を使用して、Annunciator を見つけます。
 - ステップ 2 リセットする Annunciator をクリックします。
 - ステップ 3 Reset ボタンをクリックします。
 - ステップ 4 続行するには、OK をクリックします。
-

関連項目

- [Annunciator の設定値 \(P.32-12 \)](#)
- [Annunciator の検索 \(P.32-3 \)](#)
- [Annunciator の追加 \(P.32-5 \)](#)
- [Annunciator の更新 \(P.32-7 \)](#)
- [Annunciator のコピー \(P.32-8 \)](#)
- [Annunciator の削除 \(P.32-10 \)](#)

Annunciator の削除

Annunciator を削除する手順は、次のとおりです。

Annunciator がメディア リソース グループに割り当てられている場合、Annunciator を削除できません。Annunciator を使用しているメディア リソース グループを検索するには、Annunciator Configuration ウィンドウの **Dependency Records** リンクをクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。使用中の Annunciator を削除しようとすると、Cisco CallManager はエラー メッセージを表示します。現在使用されている Annunciator を削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除する Annunciator を使用するメディア リソース グループに異なる Annunciator を割り当てる。[P.38-8 の「メディア リソース グループの更新」](#)を参照してください。
- 削除する Annunciator を使用するメディア リソース グループを削除する。[P.38-12 の「メディア リソース グループの削除」](#)を参照してください。



注意

Cisco IP Voice Media Streaming Application サービスを非アクティブにすると、Cisco CallManager はデータベースに存在する Annunciator デバイスを自動的に削除します。

手順

ステップ 1 [P.32-3 の「Annunciator の検索」](#)の手順を使用して、Annunciator を見つけます。

ステップ 2 削除する Annunciator をクリックします。

ステップ 3 Delete をクリックします。

警告メッセージが表示されます。

ステップ 4 OK をクリックして、Annunciator を削除します。



関連項目

- [Annunciator の検索 \(P.32-3 \)](#)
- [Annunciator の追加 \(P.32-5 \)](#)
- [Annunciator の更新 \(P.32-7 \)](#)

Annunciator の設定値

表 32-1 では、Annunciator の設定値について説明します。

表 32-1 Annunciator の設定値

フィールド	説明
Host Server	Annunciator デバイスが ANN と一緒に存在しているサーバ名を自動的に追加されます。必要に応じて、異なるサーバを選択できます。
Annunciator Name	<p>デバイスが Cisco CallManager に登録される場合、このフィールドには使用される名前を指定します。最長 15 文字までの名前を文字列で入力します。</p> <p> 注意 文字、数字、ピリオド、ダッシュおよび下線のみを入力してください。</p>
Description	<p>最長 54 文字までの説明を文字列で入力します。デフォルトでは、Annunciator の名前が表示されます。</p> <p> 注意 文字、数字、ピリオド、ダッシュおよび下線のみを入力してください。</p>
Device Pool	Default を選択するか、または設定したデバイス プールのドロップダウン リストからデバイス プールを選択します。
Location	設定したロケーション リストからロケーションを選択します。

関連項目

- [Annunciator の検索 \(P.32-3\)](#)
- [Annunciator の追加 \(P.32-5\)](#)
- [Annunciator のコピー \(P.32-8\)](#)
- [Annunciator のリセット \(P.32-9\)](#)
- [Annunciator の更新 \(P.32-7\)](#)

アナウンスのカスタマイズ

シスコが提供しているアナウンス をカスタマイズする手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** 変更する予定のすべての wave ファイルのバックアップ コピーを保存します。
- ステップ 2** 既存のアナウンスの wave ファイルを C:\Program Files\Cisco\TFTPPath にある元の言語または国のディレクトリから一時ディレクトリにコピーします。一時ディレクトリのファイルを編集します。



注意

ファイル名にコーデック名がない基本のアナウンスの wave ファイルのみをコピーしてください。たとえば、ANNMLPP-BPA.wav ファイルです。

- ステップ 3** Microsoft Sound Recorder または Adobe の Adobe Audition などの音声編集ソフトウェアでファイルを編集します。



ヒント

必要に応じて、レコーディング スタジオからカスタムの録音を挿入できます。

- ステップ 4** Cisco MOH Audio Translator サービスが Cisco CallManager サーバで動作していることを確認します。
- ステップ 5** Service > **Service Parameters** の順に選択します。
- ステップ 6** Cisco MOH Audio Translator サービスが動作しているサーバを選択します。
- ステップ 7** Cisco MOH Audio Translator サービスを選択します。

■ アナウンスのカスタマイズ

ステップ 8 サービス パラメータ **Default MOH Volume Level** を -6 に変更します。このサービス パラメータを -6 に変更すると、アナウンスの音量が大きくなります。

ステップ 9 Cisco MOH Audio Translator サービスが動作しているサーバで、変更した wave ファイルを次のディレクトリにコピーします。

C:\Program Files\Cisco\MOH\DropMOHAudioSourceFilesHere

ファイルはサポートされているコーデックで 4 つの wave ファイルに変換されません。

ステップ 10 Cisco TFTP サービスを実行しているサーバ上で、5 つの .wav ファイルと 1 つの .xml ファイルを MOH ディレクトリから C:\Program Files\Cisco\TFTPPath にあるロケール ディレクトリに移動します。

たとえば、ロケールが適用されていれば、ファイルを次のディレクトリに移動できます。

C:\Program Files\Cisco\TFTPPath\English_United_States

**注意**

ファイルを移動しないと、サーバはファイルを有効な音楽オーディオ ソースと見なします。

ステップ 11 Cisco IP Voice Media Streaming Application サービスを実行しているすべてのサーバに 5 つの .wav ファイルと 1 つの .xml ファイルをコピーします。

ステップ 12 変更したアナウンスのファイルのバックアップを取ります。

**注意**

Cisco CallManager のアップグレード後にこれらのファイルを元に戻す必要があります。Cisco CallManager をアップグレードすると、これらのファイルは保持されません。

ステップ 13 ステップ 5 のサービス パラメータの値をデフォルトの -24 に更新します。この値を元に戻すと、Music On Hold に使用される音量は小さくなります。

関連項目

- 『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「Multilevel Precedence and Preemption」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Annunciator」

■ アナウンスのカスタマイズ



Conference Bridge の設定

Cisco CallManager 用の Conference Bridge は、ソフトウェアまたはハードウェアからなるアプリケーションです。これを使用すると、Ad Hoc 音声会議と Meet-Me 音声会議の両方が実現できます。どの方式の Conference Bridge も、複数の参加者による複数の会議を同時にサポートしています。

ハードウェア会議とソフトウェア会議の両方の Conference Bridge を同時にアクティブにすることができます。ソフトウェアとハードウェアのコンファレンスデバイスでは、サポートするストリーム数とコーデックのタイプが異なります。

Conference Bridge の詳細については、『*Cisco CallManager システム ガイド*』の「Conference Bridge」を参照してください。



(注) Conference Bridge 用のハードウェア モデルには、固有のメディア アクセス制御 (MAC) アドレスとデバイス プールの情報が組み込まれています。



(注) 選択する Conference Bridge のタイプによって、Cisco CallManager Administration に表示される Conference Bridge のフィールドが異なることに注意してください。

Conference Bridge を設定するには、次のトピックを参照してください。

- [Conference Bridge の検索 \(P.33-3 \)](#)
- [ソフトウェア コンファレンス デバイスの追加 \(P.33-6 \)](#)
- [ソフトウェア Conference Bridge の設定値 \(P.33-8 \)](#)
- [ハードウェア コンファレンス デバイスの追加 \(P.33-10 \)](#)
- [ハードウェア Conference Bridge の設定値 \(P.33-12 \)](#)
- [Cisco IOS Conference Bridge デバイスの追加 \(P.33-14 \)](#)
- [Cisco IOS Conference Bridge の設定値 \(P.33-16 \)](#)
- [Cisco Video Conference Bridge デバイスの追加 \(P.33-17 \)](#)
- [Cisco Video Conference Bridge の設定値 \(P.33-19 \)](#)
- [Cisco Conference Bridge \(WS-SVC-CMM\) デバイスの追加 \(P.33-21 \)](#)
- [Cisco Conference Bridge \(WS-SVC-CMM\) の設定値 \(P.33-23 \)](#)
- [コンファレンス デバイスの更新 \(P.33-25 \)](#)
- [コンファレンス デバイスの削除 \(P.33-27 \)](#)
- [Conference Bridge のパラメータの更新 \(P.33-29 \)](#)
- [Meet-Me Number/Pattern の追加 \(P.47-6 \)](#)
- [Meet-Me Number/Pattern の設定値 \(P.47-10 \)](#)
- [Meet-Me Number/Pattern の更新 \(P.47-7 \)](#)
- [Meet-Me Number/Pattern の削除 \(P.47-9 \)](#)

Conference Bridge の検索

ネットワーク内にはいくつかの Conference Bridge が存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の条件を指定して、特定の Conference Bridge を見つけることができます。Conference Bridge を見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、Conference Bridge の検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、Conference Bridge の検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 Service > Media Resource > Conference Bridge の順に選択します。

Find and List Conference Bridges ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、Conference Bridge を検索します。

ステップ 2 最初の Find Conference Bridges where ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- Name
- Description
- Device Pool



(注)

このドロップダウン リスト ボックスで選択する条件によって、検索時に生成される Conference Bridge リストのソート方法が決まります。たとえば、Description を選択すると、Description 列が結果リストの左側の列に表示されます。

2 番目の Find Conference Bridges where ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is not empty (非空白)
- is empty (空白)

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、**Find** をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



ヒント データベースに登録されている Conference Bridge をすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。

検出された Conference Bridge のリストが、次の項目別に表示されます。

- Conference Bridge icon
- Conference Bridge name
- Description
- Device Pool
- Status (状況)
- IP Address



(注) 該当する Conference Bridge の横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Conference Bridges ウィンドウから複数の Conference Bridge を削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべての Conference Bridge を削除できません。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致する Conference Bridge icon、Conference Bridge name、Description、または関連する Device Pool をクリックします。

選択した Conference Bridge がウィンドウに表示されます。

関連項目

- [ソフトウェア コンファレンス デバイスの追加 \(P.33-6 \)](#)
- [ハードウェア コンファレンス デバイスの追加 \(P.33-10 \)](#)
- [Cisco IOS Conference Bridge デバイスの追加 \(P.33-14 \)](#)
- [Cisco Video Conference Bridge デバイスの追加 \(P.33-17 \)](#)
- [Cisco Conference Bridge \(WS-SVC-CMM\) デバイスの追加 \(P.33-21 \)](#)
- [コンファレンス デバイスの更新 \(P.33-25 \)](#)
- [コンファレンス デバイスの削除 \(P.33-27 \)](#)
- [Conference Bridge のパラメータの更新 \(P.33-29 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Conference Bridge」

ソフトウェア コンファレンス デバイスの追加

ソフトウェア コンファレンス デバイスを追加する手順は、次のとおりです。Conference Bridge のハードウェアの設定については、P.33-10 の「[ハードウェア コンファレンス デバイスの追加](#)」を参照してください。

始める前に

次の条件を満たしていることを確認してから手順に進んでください。

- サーバが設定済みであること。P.2-1 の「[サーバの設定](#)」を参照してください。
- デバイス プールが設定済みであること。P.8-1 の「[デバイス プールの設定](#)」を参照してください。
- Cisco IP Voice Media Streaming Application サービスがサーバでアクティブになっていること。このオプションのサービスはサーバ上で実行されます。このサービスにより、ソフトウェア会議が可能になります。詳細については、『*Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド*』を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** Service > Media Resource > Conference Bridge の順に選択します。
 - ステップ 2** ウィンドウの右上にある Add a New Conference Bridge リンクをクリックします。
Conference Bridge Configuration ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 3** 適切な設定値を入力します (表 33-1 を参照)。
 - ステップ 4** Insert をクリックします。
 - ステップ 5** OK をクリックします。

ウィンドウがリフレッシュされ、追加したデバイスの情報が状況を含めて表示されます。

ステップ 6 Conference Bridge デバイスをリセットし、変更内容を適用するには、**Reset** ボタンをクリックします。

この操作を実行すると Conference Bridge デバイスがリセットされることを確認するメッセージが表示されます。

ステップ 7 **OK** をクリックします。

関連項目



- [Conference Bridge の検索 \(P.33-3 \)](#)
- [ソフトウェア Conference Bridge の設定値 \(P.33-8 \)](#)
- [ハードウェア コンファレンス デバイスの追加 \(P.33-10 \)](#)
- [Cisco IOS Conference Bridge デバイスの追加 \(P.33-14 \)](#)
- [Cisco Video Conference Bridge デバイスの追加 \(P.33-17 \)](#)
- [Cisco Conference Bridge \(WS-SVC-CMM\) デバイスの追加 \(P.33-21 \)](#)
- [コンファレンス デバイスの更新 \(P.33-25 \)](#)
- [コンファレンス デバイスの削除 \(P.33-27 \)](#)
- [Conference Bridge のパラメータの更新 \(P.33-29 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Conference Bridge」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ソフトウェア コンファレンス デバイス」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco CallManager Administration における Conference Bridge のタイプ」

■ ソフトウェア Conference Bridge の設定値

ソフトウェア Conference Bridge の設定値

表 33-1 では、ソフトウェア Conference Bridge の設定値について説明します。

表 33-1 ソフトウェア Conference Bridge の設定値

フィールド	説明
Conference Bridge Type	<p>Cisco Conference Bridge Software を選択します。</p> <p>このタイプの詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco CallManager Administration における Conference Bridge のタイプ」を参照してください。</p>
Host Server	<p>使用する Cisco IP Voice Media Streaming Application サービスが含まれているホスト サーバを選択します。</p> <p>使用するサーバがドロップダウン リスト ボックスに表示されない場合は、Cisco CallManager Serviceability を使用してそのサーバで Cisco IP Voice Media Streaming Application サービスをアクティブにする必要があります。</p> <p> ヒント サーバはソフトウェア Conference Bridge を 1 つだけ使用できます。</p>
Conference Bridge Name	<p>コンファレンス デバイスの名前を、15 文字以下の英数字で入力します。これは、必須フィールドです。</p> <p> (注) デバイス名が 15 文字を超えて指定されると、そのデバイスは、Cisco CallManager に正しく登録されません。</p>
Description	ソフトウェア コンファレンス デバイスの説明を入力します。
Device Pool	使用している Cisco CallManager グループの中で一番高い優先度をもつデバイス プールを選択するか、または Default を選択します。
Location	この Conference Bridge に適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションに None を設定すると、そのロケーションの機能では、この Conference Bridge が消費する帯域幅を把握しません。

関連項目

- [Conference Bridge の検索 \(P.33-3 \)](#)
- [ソフトウェア コンファレンス デバイスの追加 \(P.33-6 \)](#)
- [コンファレンス デバイスの削除 \(P.33-27 \)](#)
- [コンファレンス デバイスの更新 \(P.33-25 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Conference Bridge」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ソフトウェア コンファレンス デバイス」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco CallManager Administration における Conference Bridge のタイプ」

ハードウェア コンファレンス デバイスの追加

ハードウェア コンファレンス デバイスを追加する手順は、次のとおりです。Conference Bridge のソフトウェアの設定については、P.33-6 の「ソフトウェア コンファレンス デバイスの追加」を参照してください。

始める前に

デバイス プールを設定します。P.8-1 の「デバイス プールの設定」を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** Service > Media Resource > Conference Bridge の順に選択します。
 - ステップ 2** ウィンドウの右上にある Add a New Conference Bridge リンクをクリックします。

Conference Bridge Configuration ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 3** 適切な設定値を入力します (表 33-2 を参照)。
 - ステップ 4** Insert をクリックします。
 - ステップ 5** OK をクリックします。

ウィンドウがリフレッシュされ、追加したコンファレンス デバイスが表示されます。このデバイスは、ウィンドウの左側に表示されます。
 - ステップ 6** Conference Bridge デバイスをリセットし、変更内容を適用するには、Reset ボタンをクリックします。

この操作を実行すると Conference Bridge デバイスがリセットされることを確認するメッセージが表示されます。
 - ステップ 7** OK をクリックします。
-

関連項目

- [Conference Bridge の検索 \(P.33-3 \)](#)
- [ハードウェア Conference Bridge の設定値 \(P.33-12 \)](#)
- [ソフトウェア コンファレンス デバイスの追加 \(P.33-6 \)](#)
- [Cisco IOS Conference Bridge デバイスの追加 \(P.33-14 \)](#)
- [Cisco Video Conference Bridge デバイスの追加 \(P.33-17 \)](#)
- [Cisco Conference Bridge \(WS-SVC-CMM\) デバイスの追加 \(P.33-21 \)](#)
- [コンファレンス デバイスの更新 \(P.33-25 \)](#)
- [コンファレンス デバイスの削除 \(P.33-27 \)](#)
- [Conference Bridge のパラメータの更新 \(P.33-29 \)](#)
- [Meet-Me Number/Pattern の更新 \(P.47-7 \)](#)
- [Meet-Me Number/Pattern の追加 \(P.47-6 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Conference Bridge」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ソフトウェア コンファレンス デバイス」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco CallManager Administration における Conference Bridge のタイプ」

■ ハードウェア Conference Bridge の設定値

ハードウェア Conference Bridge の設定値

表 33-2 では、ハードウェア Conference Bridge の設定値について説明します。

表 33-2 ハードウェア Conference Bridge の設定値

フィールド	説明
Conference Bridge Type	<p>Cisco Conference Bridge Hardware を選択します。</p> <p>このタイプの詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco CallManager Administration における Conference Bridge のタイプ」を参照してください。</p>
MAC Address	<p>固有のデバイス MAC アドレスを入力します。MAC アドレスは、12 桁の 16 進数 (0 ~ 9、A ~ F) から構成されます。</p> <p>例</p> <p>1231123245AB</p>
Description	このフィールドは、指定された MAC アドレスから自動的に生成されます。
Device Pool	使用している Cisco CallManager グループの中で一番高い優先度をもつデバイス プールを選択するか、または Default を選択します。
Location	この Conference Bridge に適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションに <i>None</i> を設定すると、そのロケーションの機能では、この Conference Bridge が消費する帯域幅を把握しません。
Special Load Information	特別なロード情報を入力するか、ブランクのままにしてデフォルトを使用します。

関連項目

- [Conference Bridge の検索 \(P.33-3 \)](#)
- [ハードウェア コンファレンス デバイスの追加 \(P.33-10 \)](#)
- [コンファレンス デバイスの更新 \(P.33-25 \)](#)
- [コンファレンス デバイスの削除 \(P.33-27 \)](#)

- [Conference Bridge のパラメータの更新 \(P.33-29 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Conference Bridge」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ソフトウェア コンファレンス デバイス」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco CallManager Administration における Conference Bridge のタイプ」

Cisco IOS Conference Bridge デバイスの追加

Cisco IOS コンファレンス デバイスを追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

デバイス プールが設定済みであること。P.8-1 の「[デバイス プールの設定](#)」を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** Service > Media Resource > Conference Bridge の順に選択します。
 - ステップ 2** ウィンドウの右上にある Add a New Conference Bridge リンクをクリックします。

Conference Bridge Configuration ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 3** 適切な設定値を入力します (表 33-3 を参照)。
 - ステップ 4** Insert をクリックします。
 - ステップ 5** OK をクリックします。

ウィンドウがリフレッシュされ、追加したコンファレンス デバイスが表示されます。このデバイスは、ウィンドウの左側に表示されます。
 - ステップ 6** Conference Bridge デバイスをリセットし、変更内容を適用するには、Reset ボタンをクリックします。

この操作を実行すると Conference Bridge デバイスがリセットされることを確認するメッセージが表示されます。
 - ステップ 7** OK をクリックします。
-

関連項目

- [Conference Bridge の検索 \(P.33-3 \)](#)
- [ソフトウェア コンファレンス デバイスの追加 \(P.33-6 \)](#)
- [ハードウェア コンファレンス デバイスの追加 \(P.33-10 \)](#)
- [Cisco IOS Conference Bridge の設定値 \(P.33-16 \)](#)
- [Cisco Video Conference Bridge デバイスの追加 \(P.33-17 \)](#)
- [Cisco Conference Bridge \(WS-SVC-CMM\) デバイスの追加 \(P.33-21 \)](#)
- [コンファレンス デバイスの更新 \(P.33-25 \)](#)
- [コンファレンス デバイスの削除 \(P.33-27 \)](#)
- [Conference Bridge のパラメータの更新 \(P.33-29 \)](#)
- [Meet-Me Number/Pattern の更新 \(P.47-7 \)](#)
- [Meet-Me Number/Pattern の削除 \(P.47-9 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Conference Bridge」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco CallManager Administration」における Conference Bridge のタイプ

Cisco IOS Conference Bridge の設定値

表 33-3 では、Cisco IOS Conference Bridge の設定値について説明します。

表 33-3 Cisco IOS Conference Bridge の設定値

フィールド	説明
Conference Bridge Type	<p>Cisco IOS Conference Bridge または Cisco IOS Enhanced Conference Bridge を選択します。</p> <p>このタイプの詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco CallManager Administration における Conference Bridge のタイプ」を参照してください。</p>
Conference Bridge Name	ゲートウェイのコマンドライン インターフェイス (CLI) で既存の同じ名前を入力します。
Description	このフィールドは、指定した Conference Bridge 名から自動的に生成されます。
Device Pool	デバイス プールを選択するか、 Default を選択します。
Location	この Conference Bridge に適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションに <i>None</i> を設定すると、そのロケーションの機能では、この Conference Bridge が消費する帯域幅を把握しません。

関連項目

- [Conference Bridge の検索 \(P.33-3 \)](#)
- [Cisco IOS Conference Bridge デバイスの追加 \(P.33-14 \)](#)
- [コンファレンス デバイスの更新 \(P.33-25 \)](#)
- [コンファレンス デバイスの削除 \(P.33-27 \)](#)
- [Conference Bridge のパラメータの更新 \(P.33-29 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Conference Bridge」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco CallManager Administration における Conference Bridge のタイプ」

Cisco Video Conference Bridge デバイスの追加

Cisco Video Conference Bridge デバイスを追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

デバイス プールが設定済みであること。P.8-1 の「[デバイス プールの設定](#)」を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** Service > Media Resource > Conference Bridge の順に選択します。
 - ステップ 2** ウィンドウの右上にある Add a New Conference Bridge リンクをクリックします。

Conference Bridge Configuration ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 3** 適切な設定値を入力します (表 33-4 を参照)。
 - ステップ 4** Insert をクリックします。
 - ステップ 5** OK をクリックします。

ウィンドウがリフレッシュされ、追加したコンファレンス デバイスが表示されます。このデバイスは、ウィンドウの左側に表示されます。
 - ステップ 6** Conference Bridge デバイスをリセットし、変更内容を適用するには、Reset ボタンをクリックします。

この操作を実行すると Conference Bridge デバイスがリセットされることを確認するメッセージが表示されます。
 - ステップ 7** OK をクリックします。
-

関連項目

- [Conference Bridge の検索 \(P.33-3 \)](#)
- [ソフトウェア コンファレンス デバイスの追加 \(P.33-6 \)](#)
- [ハードウェア コンファレンス デバイスの追加 \(P.33-10 \)](#)
- [Cisco IOS Conference Bridge デバイスの追加 \(P.33-14 \)](#)
- [Cisco Video Conference Bridge の設定値 \(P.33-19 \)](#)
- [Cisco Conference Bridge \(WS-SVC-CMM\) デバイスの追加 \(P.33-21 \)](#)
- [コンファレンス デバイスの更新 \(P.33-25 \)](#)
- [コンファレンス デバイスの削除 \(P.33-27 \)](#)
- [Conference Bridge のパラメータの更新 \(P.33-29 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Conference Bridge」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco CallManager Administration における Conference Bridge のタイプ」
- *Cisco IP/VC 3511 MCU/Cisco IP/VC 3540 MCU モジュール アドミニストレータガイド*

Cisco Video Conference Bridge の設定値

表 33-4 では、Cisco Video Conference Bridge の設定値について説明します。

表 33-4 Cisco Video Conference Bridge の設定値

フィールド	説明
Conference Bridge Type	<p>Cisco Video Conference Bridge (IPVC-35xx) を選択します。</p> <p>このタイプの詳細については、『<i>Cisco CallManager システム ガイド</i>』の「Cisco CallManager Administration における Conference Bridge のタイプ」を参照してください。</p>
MAC Address	<p>固有のデバイス MAC アドレスを入力します。MAC アドレスは、12桁の 16 進数 (0 ~ 9、A ~ F) から構成されます。</p> <p>例</p> <p>1231123245AB</p>
Description	このフィールドは、指定した Conference Bridge 名から自動的に生成されます。
Device Pool	デバイス プールを選択するか、 Default を選択します。
Location	この Conference Bridge に適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションに <i>None</i> を設定すると、そのロケーションの機能では、この Conference Bridge が消費する帯域幅を把握しません。

プロダクト固有の設定値

Model-specific configuration(デバイス メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>Product-Specific Configuration の下にあるモデル固有のフィールドは、デバイス メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、Product Specific Configuration 見出しの右側にある i アイコンをクリックします。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のデバイスの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>
---	--

関連項目

- [Conference Bridge の検索 \(P.33-3 \)](#)
- [Cisco Video Conference Bridge デバイスの追加 \(P.33-17 \)](#)
- [コンファレンス デバイスの更新 \(P.33-25 \)](#)
- [コンファレンス デバイスの削除 \(P.33-27 \)](#)
- [Conference Bridge のパラメータの更新 \(P.33-29 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Conference Bridge」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco CallManager Administration における Conference Bridge のタイプ」
- *Cisco IP/VC 3511 MCU/Cisco IP/VC 3540 MCU モジュール アドミニストレータガイド*

Cisco Conference Bridge (WS-SVC-CMM) デバイスの追加

Cisco Conference Bridge (WS-SVC-CMM) デバイスを追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

デバイス プールが設定済みであること。P.8-1 の「[デバイス プールの設定](#)」を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** Service > Media Resource > Conference Bridge の順に選択します。
 - ステップ 2** ウィンドウの右上にある **Add a New Conference Bridge** リンクをクリックします。

Conference Bridge Configuration ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 3** 適切な設定値を入力します ([表 33-5](#) を参照)。
 - ステップ 4** **Insert** をクリックします。
 - ステップ 5** **OK** をクリックします。

ウィンドウがリフレッシュされ、追加したコンファレンス デバイスが表示されます。このデバイスは、ウィンドウの左側に表示されます。
 - ステップ 6** Conference Bridge デバイスをリセットし、変更内容を適用するには、**Reset** ボタンをクリックします。

この操作を実行すると Conference Bridge デバイスがリセットされることを確認するメッセージが表示されます。
 - ステップ 7** **OK** をクリックします。
-

関連項目

- [Conference Bridge の検索 \(P.33-3 \)](#)
- [ソフトウェア コンファレンス デバイスの追加 \(P.33-6 \)](#)
- [ハードウェア コンファレンス デバイスの追加 \(P.33-10 \)](#)
- [Cisco IOS Conference Bridge デバイスの追加 \(P.33-14 \)](#)
- [Cisco Video Conference Bridge デバイスの追加 \(P.33-17 \)](#)
- [Cisco Conference Bridge \(WS-SVC-CMM\) の設定値 \(P.33-23 \)](#)
- [コンファレンス デバイスの更新 \(P.33-25 \)](#)
- [コンファレンス デバイスの削除 \(P.33-27 \)](#)
- [Conference Bridge のパラメータの更新 \(P.33-29 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Conference Bridge」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco CallManager Administration における Conference Bridge のタイプ」
- *Cisco IP/VC 3511 MCU/Cisco IP/VC 3540 MCU モジュール アドミニストレータガイド*

Cisco Conference Bridge (WS-SVC-CMM) の設定値

表 33-5 では、Cisco Conference Bridge (WS-SVC-CMM) の設定値について説明します。

表 33-5 Cisco Conference Bridge (WS-SVC-CMM) の設定値

フィールド	説明
Conference Bridge Type	<p>Cisco Conference Bridge (WS-SVC-CMM) を選択します。</p> <p>このタイプの詳細については、『<i>Cisco CallManager システム ガイド</i>』の「Cisco CallManager Administration における Conference Bridge のタイプ」を参照してください。</p>
Conference Bridge Name	このフィールドは空白のままにします。このフィールドの値は、指定された MAC アドレスおよびサブユニットの値から自動的に生成されます。
Description	説明（最大 50 文字）を入力するか、空白のままにします。空白のままにすると、指定した MAC アドレスから自動的に生成されます。
MAC Address	<p>固有のデバイス MAC アドレスを入力します。MAC アドレスは、12 桁の 16 進数（0 ~ 9、A ~ F）から構成されます。</p> <p>例</p> <p>1231123245AB</p>
Subunit	ドロップダウン リスト ボックスから、Communication Media Module カード上の任意のロット用のドータ カードの値を選択します。
Device Pool	デバイス プールを選択するか、 Default を選択します。
Location	この Conference Bridge に適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションに <i>None</i> を設定すると、そのロケーションの機能では、この Conference Bridge が消費する帯域幅を把握しません。

Cisco Conference Bridge (WS-SVC-CMM) の設定値

表 33-5 Cisco Conference Bridge (WS-SVC-CMM) の設定値 (続き)

フィールド	説明
Maximum Capacity	ドータカード上の任意のサービスのストリームの最大数を選択します。ストリーム数の値には、32、64、96、および 128 を使用できます。各ドータカードに、選択した値と同じ数のポートがあることを確認してください。
プロダクト固有の設定値	
Model-specific configuration(デバイスメーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、Product Specific Configuration 見出しの右側にある i アイコンをクリックします。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のデバイスの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

関連項目

- [Conference Bridge の検索 \(P.33-3 \)](#)
- [Cisco Conference Bridge \(WS-SVC-CMM\) デバイスの追加 \(P.33-21 \)](#)
- [コンファレンス デバイスの更新 \(P.33-25 \)](#)
- [コンファレンス デバイスの削除 \(P.33-27 \)](#)
- [Conference Bridge のパラメータの更新 \(P.33-29 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Conference Bridge」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco CallManager Administration における Conference Bridge のタイプ」
- [Cisco IP/VC 3511 MCU/Cisco IP/VC 3540 MCU モジュール アドミニストレータ ガイド](#)

コンファレンス デバイスの更新

コンファレンス デバイスを更新する手順は、次のとおりです。

始める前に

次の条件を満たしていることを確認してから手順に進んでください。

- サーバが設定済みであること。P.2-1 の「[サーバの設定](#)」を参照してください。
- デバイス プールが設定済みであること。P.8-1 の「[デバイス プールの設定](#)」を参照してください。
- コンファレンス デバイスが設定済みであること。P.33-6 の「[ソフトウェア コンファレンス デバイスの追加](#)」を参照してください。
- ソフトウェア Conference Bridge に対して、Cisco IP Voice Media Streaming Application サービスをアクティブにする。『*Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド*』を参照してください。

手順

ステップ 1 P.33-3 の「[Conference Bridge の検索](#)」の手順を使用して、Conference Bridge を見つけます。

ステップ 2 更新する Conference Bridge をクリックします。

ステップ 3 該当する設定値を更新します (表 33-1、表 33-2、または表 33-3 を参照)。

ステップ 4 変更の終了後、Update をクリックします。

Conference Bridge をリセットすると、変更内容が有効になることを確認するメッセージが表示されます。

ステップ 5 OK をクリックします。

ステップ 6 Conference Bridge デバイスをリセットするには、Reset ボタンをクリックします。

この操作を実行すると Conference Bridge デバイスがリセットされることを確認するメッセージが表示されます。

ステップ 7 OK をクリックします。

関連項目

- [Conference Bridge の検索 \(P.33-3 \)](#)
- [ソフトウェア コンファレンス デバイスの追加 \(P.33-6 \)](#)
- [ハードウェア コンファレンス デバイスの追加 \(P.33-10 \)](#)
- [Cisco IOS Conference Bridge デバイスの追加 \(P.33-14 \)](#)
- [Cisco Video Conference Bridge デバイスの追加 \(P.33-17 \)](#)
- [Cisco Conference Bridge \(WS-SVC-CMM\) デバイスの追加 \(P.33-21 \)](#)
- [コンファレンス デバイスの削除 \(P.33-27 \)](#)
- [Conference Bridge のパラメータの更新 \(P.33-29 \)](#)
- [Meet-Me Number/Pattern の更新 \(P.47-7 \)](#)
- [Meet-Me Number/Pattern の削除 \(P.47-9 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Conference Bridge」

コンファレンス デバイスの削除

コンファレンス デバイスを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

メディア リソース グループ内の最後のデバイスは、削除できません。コンファレンス デバイスを使用しているメディア リソース グループを検索するには、Conference Bridge Configuration ウィンドウの **Dependency Records** リンクをクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。使用されているコンファレンス デバイスを削除しようとする、Cisco CallManager は警告メッセージを表示します。最後のデバイスを削除しようとする、Cisco CallManager は 2 番目のエラー メッセージを表示し、デバイスは削除されません。

現在使用されている、メディア リソース グループ内の最後のデバイスである Conference Bridge を削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除する Conference Bridge を使用しているメディア リソース グループに、別の Conference Bridge を割り当てる。[P.38-12 の「メディア リソース グループの削除」](#)を参照してください。
- 削除する Conference Bridge を使用しているメディア リソース グループを削除する。[P.38-12 の「メディア リソース グループの削除」](#)を参照してください。

手順

ステップ 1 [P.33-3 の「Conference Bridge の検索」](#)の手順を使用して、Conference Bridge を見つけます。

ステップ 2 削除する Conference Bridge をクリックします。

ステップ 3 Delete をクリックします。

次の警告メッセージが表示されます。

■ コンファレンス デバイスの削除

You are about to permanently delete this Conference Bridge. This action cannot be undone.
Continue?

ステップ 4 OK をクリックして、コンファレンス デバイスを削除します。

このデバイスがメディア リソース グループ内の最後のデバイスである場合は、2 番目のメッセージが表示され、Conference Bridge を削除できません。

ステップ 5 OK をクリックします。

関連項目

- [Conference Bridge の検索 \(P.33-3 \)](#)
- [ソフトウェア コンファレンス デバイスの追加 \(P.33-6 \)](#)
- [ハードウェア コンファレンス デバイスの追加 \(P.33-10 \)](#)
- [Cisco IOS Conference Bridge デバイスの追加 \(P.33-14 \)](#)
- [Cisco Video Conference Bridge デバイスの追加 \(P.33-17 \)](#)
- [Cisco Conference Bridge \(WS-SVC-CMM\) デバイスの追加 \(P.33-21 \)](#)
- [コンファレンス デバイスの更新 \(P.33-25 \)](#)
- [Conference Bridge のパラメータの更新 \(P.33-29 \)](#)
- [Meet-Me Number/Pattern の更新 \(P.47-7 \)](#)
- [Meet-Me Number/Pattern の削除 \(P.47-9 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Conference Bridge」

Conference Bridge のパラメータの更新

Conference Bridge のパラメータを更新する手順は、次のとおりです。



Cisco IP Voice Media Streaming Application サービスを非アクティブにすると、Cisco CallManager は Conference Bridge サービスのパラメータを削除します。サービスを非アクティブにしてから再びアクティブにすると、Cisco CallManager は、サービス パラメータをデフォルト値に設定します。

始める前に

次の条件を満たしていることを確認してから手順に進んでください。

- サーバが設定済みであること。P.2-1 の「[サーバの設定](#)」を参照してください。
- デバイス プールが設定済みであること。P.8-1 の「[デバイス プールの設定](#)」を参照してください。
- Cisco CallManager が設定済みであること。P.3-1 の「[Cisco CallManager の設定](#)」を参照してください。

手順

ステップ 1 Service > Media Resource > Conference Bridge の順に選択します。

ステップ 2 ウィンドウの右上にある **Conference Bridge Parameters** をクリックします。

Unicast で Ad Hoc 会議と Meet-Me 会議の両方に設定されるユーザ数の最大値が、Conference Bridge Parameters の見出しの下に表示されます。

ステップ 3 必要に応じてユーザの最大数を変更し、**Update** をクリックします。

関連項目

- [Conference Bridge の検索 \(P.33-3 \)](#)
- [ソフトウェア コンファレンス デバイスの追加 \(P.33-6 \)](#)
- [ハードウェア コンファレンス デバイスの追加 \(P.33-10 \)](#)
- [Cisco IOS Conference Bridge デバイスの追加 \(P.33-14 \)](#)
- [Cisco Video Conference Bridge デバイスの追加 \(P.33-17 \)](#)
- [Cisco Conference Bridge \(WS-SVC-CMM\) デバイスの追加 \(P.33-21 \)](#)
- [コンファレンス デバイスの更新 \(P.33-25 \)](#)
- [コンファレンス デバイスの削除 \(P.33-27 \)](#)
- [Meet-Me Number/Pattern の更新 \(P.47-7 \)](#)
- [Meet-Me Number/Pattern の削除 \(P.47-9 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Conference Bridge」



メディア ターミネーション ポイントの設定

メディア ターミネーション ポイント ソフトウェア デバイスを使用すると、Cisco CallManager は、SIP または H.323 エンドポイントまたは H.323 ゲートウェイ経由でルーティングされるコールをリレーできます。

メディア ターミネーション ポイントは、ソフトウェアのインストール中にサーバにインストールされる Cisco ソフトウェア アプリケーションです。メディア ターミネーション ポイント デバイスを設定するサーバ上で Cisco IP Voice Media Streaming App サービスをアクティブにして開始する必要があります。サービスのアクティブ化と開始については、『*Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド*』を参照してください。

データベースに定義されている各メディア ターミネーション ポイント デバイスは、Media Resource Manager (MRM; メディア リソース マネージャ) に登録されます。MRM は、システム内で使用可能なメディア ターミネーション ポイント デバイスの総数、および使用可能なリソースがあるデバイスを把握しています。

リソースの予約時に、MRM はリソース数を決定し、メディア リソース タイプ (この場合はメディア ターミネーション ポイント) および登録済みメディア ターミネーション ポイント デバイスのロケーションを特定します。MRM は、登録情報を使用して共有リソース テーブルを更新し、クラスタ内の他の Cisco CallManager に登録情報を伝搬します。

メディア ターミネーション ポイントとトランスコーダは同一の Cisco CallManager に登録できます。詳細については、[P.37-1 の「トランスコーダの設定」](#)を参照してください。

各メディア ターミネーション ポイントは、登録先の Cisco CallManager を、優先順に並べたリストを受け取ります。各メディア ターミネーション ポイントは、一度に 1 台の Cisco CallManager にしか登録できません。



Cisco CallManager では、SIP コールを行うのに、RFC 2833 DTMF 準拠のメディア ターミネーション ポイント デバイスが必要です。

メディア ターミネーション ポイントを追加、更新、および削除するには、次のトピックを参照してください。

- [メディア ターミネーション ポイントの検索 \(P.34-3\)](#)
- [メディア ターミネーション ポイントの追加 \(P.34-6\)](#)
- [メディア ターミネーション ポイントの更新 \(P.34-8\)](#)
- [メディア ターミネーション ポイントの削除 \(P.34-10\)](#)
- [ソフトウェア メディア ターミネーション ポイントの設定値 \(P.34-12\)](#)
- [Cisco IOS MTP の設定値 \(P.34-13\)](#)

メディア ターミネーション ポイントの検索

ネットワーク内にはいくつかのメディア ターミネーション ポイントが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の条件を指定して、特定のメディア ターミネーション ポイントを見つけることができます。メディア ターミネーション ポイントを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザセッションでの作業中は、メディア ターミネーション ポイントの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、メディア ターミネーション ポイントの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 Service > Media Resource > Media Termination Point の順に選択します。

Find and List Media Termination Points ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、メディア ターミネーション ポイントを検索します。

ステップ 2 最初の Find Media Termination Points where ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- Name
- Description
- Device Pool



(注)

このドロップダウン リスト ボックスで選択する条件によって、検索時に生成されるメディア ターミネーション ポイントのリストのソート方法が決まります。たとえば、Device Pool を選択すると、Device Pool 列が結果リストの左側の列に表示されます。

■ メディア ターミネーション ポイントの検索

2 番目の Find Media Termination Points where ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is not empty (非空白)
- is empty (空白)

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。

**ヒント**

データベースに登録されているメディア ターミネーション ポイントをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに Find をクリックします。

検出されたメディア ターミネーション ポイントのリストが、次の項目別に表示されます。

- Media Termination Point icon
- Media Termination Point name
- Description
- Device Pool
- Status (状況)
- IP Address

**(注)**

該当するメディア ターミネーション ポイントの横にあるチェックボックスをオンにして、Delete Selected をクリックすると、Find and List Media Termination Points ウィンドウから複数のメディア ターミネーション ポイントを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして Delete Selected をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのメディア ターミネーション ポイントを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致する Media Termination Point icon、Media Termination Point name、Description、または関連する Device Pool をクリックします。

選択したメディア ターミネーション ポイントがウィンドウに表示されます。

関連項目

- [メディア ターミネーション ポイントの追加 \(P.34-6\)](#)
- [トランスコーダの設定 \(P.37-1\)](#)
- [メディア ターミネーション ポイントの更新 \(P.34-8\)](#)
- [メディア ターミネーション ポイントの削除 \(P.34-10\)](#)
- [ソフトウェア メディア ターミネーション ポイントの設定値 \(P.34-12\)](#)
- [Cisco IOS MTP の設定値 \(P.34-13\)](#)

メディア ターミネーション ポイントの追加

メディア ターミネーション ポイントを追加する手順は、次のとおりです。



(注)

この手順を実行するには、Cisco CallManager Serviceability を使用して Cisco IP Voice Media Streaming App サービスをアクティブにする必要があります。サービスのアクティブ化については、『Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』を参照してください。

始める前に

次の条件を満たしていることを確認してから手順に進んでください。

- サーバが設定済みであること。
- デバイス プールが設定済みであること。
- SIP 用に RFC 2833 DTMF 準拠のメディア ターミネーション ポイント デバイスがあること。



(注)

メディア ターミネーション ポイントのアプリケーションごとに、1 つのメディア ターミネーション ポイント デバイスだけを追加してください。

手順

ステップ 1 Service > Media Resource > Media Termination Point の順に選択します。

Find and List Media Termination Point ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ウィンドウの右上にある **Add a New Media Termination Point** リンクをクリックします。

Media Termination Point ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 34-1 を参照)。

ステップ 4 Insert をクリックします。

変更を有効にするには、メディア ターミネーション ポイント デバイスをリセットする必要があることを確認するメッセージが表示されます。

ステップ 5 OK をクリックします。

関連項目

- [メディア ターミネーション ポイントの設定 \(P.34-1\)](#)
- [メディア ターミネーション ポイントの検索 \(P.34-3\)](#)
- [トランスコーダの設定 \(P.37-1\)](#)
- [トランスコーダの設定 \(P.37-5\)](#)
- [メディア ターミネーション ポイントの更新 \(P.34-8\)](#)
- [メディア ターミネーション ポイントの削除 \(P.34-10\)](#)
- [ソフトウェア メディア ターミネーション ポイントの設定値 \(P.34-12\)](#)
- [Cisco IOS MTP の設定値 \(P.34-13\)](#)

メディア ターミネーション ポイントの更新

メディア ターミネーション ポイントを更新する手順は、次のとおりです。



この手順を実行するには、Cisco CallManager Serviceability を使用して Cisco IP Voice Media Streaming App サービスをアクティブにする必要があります。サービスのアクティブ化については、『Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』を参照してください。

始める前に

次の条件を満たしていることを確認してから手順に進んでください。

- サーバが設定済みであること。
- デバイス プールが設定済みであること。
- メディアの停止ポイントが設定済みであること。

手順

ステップ 1 P.34-3 の「[メディア ターミネーション ポイントの検索](#)」の手順を使用して、メディア ターミネーション ポイントを見つけます。

ステップ 2 更新するメディア ターミネーション ポイントをクリックします。

ステップ 3 該当する設定値を更新します (表 34-1 を参照)。

ステップ 4 Update をクリックします。

デバイスへのストリーミングがアイドル状態であるときに、変更内容が有効になることを確認するメッセージが表示されます。

ステップ 5 OK をクリックします。

ステップ 6 Reset ボタンをクリックします。

Reset Device ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 7 メディア ターミネーション ポイント デバイスをシャットダウンしないで再起動するには、**Restart** ボタンをクリックします。メディア ターミネーション ポイント デバイスをシャットダウンしてから起動するには、**Reset** ボタンをクリックします。

関連項目

- [メディア ターミネーション ポイントの設定 \(P.34-1\)](#)
- [メディア ターミネーション ポイントの検索 \(P.34-3\)](#)
- [トランスコーダの設定 \(P.37-1\)](#)
- [メディア ターミネーション ポイントの追加 \(P.34-6\)](#)
- [メディア ターミネーション ポイントの削除 \(P.34-10\)](#)
- [ソフトウェア メディア ターミネーション ポイントの設定値 \(P.34-12\)](#)
- [Cisco IOS MTP の設定値 \(P.34-13\)](#)

メディア ターミネーション ポイントの削除

メディア ターミネーション ポイントを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

メディア リソース グループ内の最後のデバイスは、削除できません。メディア ターミネーション ポイントを使用しているメディア リソース グループを検索するには、Media Termination Point Configuration ウィンドウの **Dependency Records** リンクをクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されません。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。使用されているメディア ターミネーション ポイントを削除しようとすると、Cisco CallManager はメッセージを表示します。最後のデバイスを削除しようとすると、Cisco CallManager は 2 番目のエラー メッセージを表示し、デバイスは削除されません。

現在使用されている、メディア リソース グループ内の最後のデバイスであるメディア ターミネーション ポイントを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するメディア ターミネーション ポイントを使用しているメディア リソース グループに、別のメディア ターミネーション ポイントを割り当てる。[P.38-12 の「メディア リソース グループの削除」](#)を参照してください。
- 削除するメディア ターミネーション ポイントを使用しているメディア リソース グループを削除する。[P.38-12 の「メディア リソース グループの削除」](#)を参照してください。

手順

ステップ 1 [P.34-3 の「メディア ターミネーション ポイントの検索」](#)の手順を使用して、メディア ターミネーション ポイントを見つけます。

ステップ 2 削除するメディア ターミネーション ポイントをクリックします。

ステップ 3 Delete をクリックします。

次の警告メッセージが表示されます。

You are about to permanently delete this Media Termination Point. This action cannot be undone.

Continue?

ステップ 4 OK をクリックして、メディア ターミネーション ポイントを削除します。

このデバイスがメディア リソース グループ内の最後のデバイスである場合は、2 番目のメッセージが表示され、メディア ターミネーション ポイントを削除できません。

ステップ 5 OK をクリックします。

関連項目

- [メディア ターミネーション ポイントの設定 \(P.34-1\)](#)
- [メディア ターミネーション ポイントの検索 \(P.34-3\)](#)
- [トランスコーダの設定 \(P.37-1\)](#)
- [メディア ターミネーション ポイントの追加 \(P.34-6\)](#)
- [メディア ターミネーション ポイントの更新 \(P.34-8\)](#)

ソフトウェア メディア ターミネーション ポイントの設定値

表 34-1 では、ソフトウェア メディア ターミネーション ポイントの設定値について説明します。

表 34-1 ソフトウェア メディア ターミネーション ポイントの設定値

フィールド	説明
Media Termination Point Type	<p>Cisco Media Termination Point Software を選択します。</p> <p>このメディア ターミネーション ポイントのタイプの詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「メディア終端ポイント」を参照してください。</p>
Host Server	このフィールドは、Cisco Media Termination Point Software type 用に表示されます。メディア ターミネーション ポイントを実行するサーバを選択します。
Media Termination Point Name	メディア ターミネーション ポイントの名前を、15 文字以下の英数字で入力します。
Description	メディア ターミネーション ポイントの説明を入力します。
Device Pool	使用している Cisco CallManager グループの中で一番高い優先度をもつデバイス プールを選択するか、または Default を選択します。


関連項目

- [メディア ターミネーション ポイントの検索 \(P.34-3\)](#)
- [メディア ターミネーション ポイントの追加 \(P.34-6\)](#)
- [メディア ターミネーション ポイントの更新 \(P.34-8\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「メディア終端ポイント」

Cisco IOS MTP の設定値

表 34-2 では、Cisco IOS Media Termination Point の設定値について説明します。

表 34-2 Cisco IOS MTP の設定値

フィールド	説明
Media Termination Point Type	<p>Cisco IOS Enhanced Software Media Termination Point を選択します。</p> <p>このメディア ターミネーション ポイントのタイプの詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「メディア終端ポイント」を参照してください。</p>
Media Termination Point Name	<p>メディア ターミネーション ポイントの名前を、15 文字以下の英数字で入力します。</p> <p> ヒント ゲートウェイのコマンドライン インターフェイス (CLI) で既存の同じメディア ターミネーション ポイントの名前を入力してください。</p>
Description	メディア ターミネーション ポイントの説明を入力します。
Device Pool	使用している Cisco CallManager グループの中で一番高い優先度をもつデバイス プールを選択するか、または Default を選択します。

関連項目

- [メディア ターミネーション ポイントの検索 \(P.34-3\)](#)
- [メディア ターミネーション ポイントの追加 \(P.34-6\)](#)
- [メディア ターミネーション ポイントの更新 \(P.34-8\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「メディア終端ポイント」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「トランスコーダ」



Music On Hold オーディオソースの設定

統合 Music On Hold 機能を使用すると、オンネットとオフネットのユーザを保留にするとときに、ストリーミングソースから音楽を流すことができます。この機能には、次の動作があります。

- エンドユーザ保留
- ネットワーク保留（転送保留、会議保留、およびパーク保留を含む）

Music On Hold 設定は、Music On Hold オーディオソースと Music On Hold サーバの設定で構成されます。

Music On Hold Audio Source Configuration ウィンドウの使用の詳細については、『*Cisco CallManager 機能およびサービスガイド*』の「Music On Hold」の章を参照してください。



CHAPTER 36

Music On Hold サーバの設定

MOH サーバは、Music On Hold オーディオソースを提供し、Music On Hold オーディオソースを数多くのストリームに接続するソフトウェアアプリケーションです。MOH サーバは Cisco CallManager Music On Hold 機能で使用されます。

Music On Hold Server Configuration ウィンドウの使用方法の詳細については、『*Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド*』の「Music On Hold」の章を参照してください。



トランスコードの設定

Media Resource Manager (MRM) は、Cisco CallManager クラスタ内のトランスコードのリソース登録とリソース予約を行います。Cisco CallManager は、メディアターミネーションポイントとトランスコードの両方の登録、および 1 つのコール内でメディアターミネーションポイントとトランスコードの並行機能を同時にサポートしています。

2 つのデバイスが異なるコーデックを使用しており、普通には情報の交換ができない場合、Cisco CallManager は、エンドポイントデバイスのためにトランスコードを起動します。トランスコードは、コールに挿入されると、2 つの異なるコーデック間で情報交換が可能になるように、そのコーデック間でデータストリームを変換します。

トランスコード制御プロセスは、データベース内で定義されているトランスコードデバイスごとに作成されます。各トランスコードは、初期化される時に MRM に登録されます。MRM はトランスコードリソースのトラッキングを行い、リソースが使用可能かどうかをクラスタ全体に通知します。

トランスコードを設定するには、次のトピックを参照してください。

- [トランスコードの特定 \(P.37-2\)](#)
- [トランスコードの設定 \(P.37-5\)](#)
- [トランスコードの更新 \(P.37-6\)](#)
- [トランスコードのコピー \(P.37-7\)](#)
- [トランスコードのリセット \(P.37-8\)](#)
- [トランスコードの削除 \(P.37-9\)](#)
- [トランスコードの設定値 \(P.37-11\)](#)

トランスコーダの特定

ネットワーク内にはいくつかのトランスコーダが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の条件を指定して、特定のトランスコーダを見つけることができます。トランスコーダを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、トランスコーダの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、トランスコーダの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 Service > Media Resource > Transcoder の順に選択します。

Find and List Transcoders ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、トランスコーダを検索します。

ステップ 2 最初の Find Transcoders where ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- Name
- Description
- Device Pool



(注)

このドロップダウン リスト ボックスで選択する条件によって、検索時に生成されるトランスコーダ リストのソート方法が決まります。たとえば、Device Pool を選択すると、Device Pool 列が結果リストの左側の列に表示されます。

2 番目の Find Transcoders where ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is empty (空白)
- is not empty (非空白)

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



ヒント

データベースに登録されているトランスコーダをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。

検出されたトランスコーダのリストが、次の項目別に表示されます。

- Transcoder icon
- Transcoder name
- Description
- Device Pool
- Status (状況)
- IP Address



(注)

該当するトランスコーダの横にあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、Find and List Transcoders ウィンドウから複数のトランスコーダを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのトランスコーダを削除できます。

■ トランスコーダの特定

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致する Transcoder icon、Transcoder name、Description、または関連する Device Pool をクリックします。

選択したトランスコーダがウィンドウに表示されます。

関連項目

- [トランスコーダの設定 \(P.37-5\)](#)
- [トランスコーダの更新 \(P.37-6\)](#)
- [トランスコーダのコピー \(P.37-7\)](#)
- [トランスコーダのリセット \(P.37-8\)](#)
- [トランスコーダの削除 \(P.37-9\)](#)
- [トランスコーダの設定値 \(P.37-11\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「トランスコーダ」

トランスコーダの設定

トランスコーダを設定する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** Service > Media Resource > Transcoder の順に選択します。
 - ステップ 2** ウィンドウの右上にある **Add a New Transcoder** リンクをクリックします。
 - ステップ 3** 適切な設定値を入力します (表 37-1 を参照)。
 - ステップ 4** **Insert** をクリックします。

ウィンドウがリフレッシュされ、設定したトランスコーダに対して固有の情報が状況を含めて表示されます。

関連項目

- [トランスコーダの設定 \(P.37-1\)](#)
- [メディアターミネーションポイントの設定 \(P.34-1\)](#)
- [Conference Bridge の設定 \(P.33-1\)](#)
- [トランスコーダの特定 \(P.37-2\)](#)
- [トランスコーダの更新 \(P.37-6\)](#)
- [トランスコーダのコピー \(P.37-7\)](#)
- [トランスコーダのリセット \(P.37-8\)](#)
- [トランスコーダの削除 \(P.37-9\)](#)
- [トランスコーダの設定値 \(P.37-11\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「トランスコーダ」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco CallManager Administration におけるトランスコーダのタイプ」

トランスコードの更新

トランスコードを更新する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** P.37-2 の「トランスコードの特定」の手順を使用して、トランスコードを見つけます。
- ステップ 2** 更新するトランスコードを選択します。
- ステップ 3** 該当する設定値を更新します（表 37-1 を参照）。
- ステップ 4** Update をクリックします。
変更を有効にするには、事前にトランスコードをリセットする必要があることを確認するメッセージが表示されます。
- ステップ 5** OK をクリックします。
- ステップ 6** Reset ボタンをクリックします。続けるには、OK をクリックします。

関連項目

- [トランスコードの設定 \(P.37-1\)](#)
- [メディアターミネーションポイントの設定 \(P.34-1\)](#)
- [Conference Bridge の設定 \(P.33-1\)](#)
- [トランスコードの設定 \(P.37-5\)](#)
- [トランスコードの特定 \(P.37-2\)](#)
- [トランスコードのコピー \(P.37-7\)](#)
- [トランスコードのリセット \(P.37-8\)](#)
- [トランスコードの削除 \(P.37-9\)](#)
- [トランスコードの設定値 \(P.37-11\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「トランスコード」

トランスコードのコピー

トランスコードをコピーする手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [P.37-2 の「トランスコードの特定」](#)の手順を使用して、トランスコードを見つけます。
 - ステップ 2** Matching records リストから、コピーするトランスコードに対応する **Copy** アイコンをクリックします。
 - ステップ 3** **Insert** をクリックします。

ウィンドウがリフレッシュされ、新しいトランスコードがデータベースに追加されます。

関連項目

- [トランスコードの設定 \(P.37-1\)](#)
- [メディア ターミネーション ポイントの設定 \(P.34-1\)](#)
- [Conference Bridge の設定 \(P.33-1\)](#)
- [トランスコードの特定 \(P.37-2\)](#)
- [トランスコードの設定 \(P.37-5\)](#)
- [トランスコードの更新 \(P.37-6\)](#)
- [トランスコードのリセット \(P.37-8\)](#)
- [トランスコードの削除 \(P.37-9\)](#)
- [トランスコードの設定値 \(P.37-11\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「トランスコード」

トランスコードのリセット

トランスコードをリセットする手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 Service > Media Resource > Transcoder の順に選択します。

ステップ 2 Transcoders リストから、リセットするトランスコードを選択します。

ウィンドウがリフレッシュされ、選択したトランスコードが表示されます。

ステップ 3 Reset をクリックします。

Reset ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 4 OK をクリックします。

関連項目

- [トランスコードの設定 \(P.37-1\)](#)
- [メディアターミネーションポイントの設定 \(P.34-1\)](#)
- [Conference Bridge の設定 \(P.33-1\)](#)
- [トランスコードの設定 \(P.37-5\)](#)
- [トランスコードの特定 \(P.37-2\)](#)
- [トランスコードの更新 \(P.37-6\)](#)
- [トランスコードのコピー \(P.37-7\)](#)
- [トランスコードの削除 \(P.37-9\)](#)
- [トランスコードの設定値 \(P.37-11\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「トランスコード」

トランスコーダの削除

トランスコーダを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

メディア リソース グループに割り当てられているトランスコーダは、削除できません。トランスコーダを使用しているメディア リソース グループを検索するには、Transcoder Configuration ウィンドウの **Dependency Records** リンクをクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。使用されているトランスコーダを削除しようとする、Cisco CallManager はエラー メッセージを表示します。現在使用されているトランスコーダを削除する前に、割り当てられているメディア リソース グループからトランスコーダを削除する必要があります。

手順

-
- ステップ 1** [P.37-2 の「トランスコーダの特定」](#)の手順を使用して、トランスコーダを見つけます。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するトランスコーダを選択します。
ウィンドウがリフレッシュされ、選択したトランスコーダが表示されます。
- ステップ 3** **Delete** をクリックします。
このトランスコーダを完全に削除しようとしていること、およびこの操作は取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。
- ステップ 4** 続行するには、**OK** をクリックします。削除操作を取り消すには、**Cancel** をクリックします。
ウィンドウがリフレッシュされ、削除したトランスコーダが、トランスコーダ リストに表示されなくなります。
-

関連項目

- [トランスコードの設定 \(P.37-1 \)](#)
- [メディア ターミネーション ポイントの設定 \(P.34-1 \)](#)
- [Conference Bridge の設定 \(P.33-1 \)](#)
- [トランスコードの設定 \(P.37-5 \)](#)
- [トランスコードの特定 \(P.37-2 \)](#)
- [トランスコードの更新 \(P.37-6 \)](#)
- [トランスコードのコピー \(P.37-7 \)](#)
- [トランスコードの設定値 \(P.37-11 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「トランスコード」

トランスコーダの設定値

表 37-1 では、トランスコーダの設定値について説明します。

表 37-1 トランスコーダの設定値

フィールド	説明
Transcoder Type	適切なトランスコーダ タイプを選択します。 Cisco Media Termination Point Hardware、Cisco IOS Media Termination Point、Cisco IOS Enhanced Media Termination Point、または Cisco Media Termination Point (WS-SVC-CMM) のいずれかを選択してください。 これらのトランスコーダのタイプの詳細については、 『Cisco CallManager システム ガイド』の「トランスコーダ」を参照してください。
Device Name	このフィールドは、Cisco IOS Media Termination Point または Cisco IOS Enhanced Media Termination Point をトランスコーダのタイプとして選択した場合に表示されます。ゲートウェイのコマンドライン インターフェイス (CLI) で入力したトランスコーディングの同じ名前を入力します。
Transcoder Name	Cisco Media Termination Point (WS-SVC-CMM) トランスコーダの場合、この値は指定された MAC アドレスに基づいて入力されます。
Description	説明 (最大 50 文字) を入力するか、ブランクのままにします。ブランクのままにすると、指定した MAC アドレスまたはデバイス名から自動的に生成されます。
MAC Address	Cisco Media Termination Point Hardware または Cisco Media Termination Point (WS-SVC-CMM) の場合は、MAC アドレス (12 文字) を入力します。
Subunit	Cisco Media Termination Point (WS-SVC-CMM) トランスコーダの場合は、ドロップダウン リスト ボックスからサブユニットを選択します。
Device Pool	デバイス プールを選択します。選択したデバイス プールの詳細を表示するには、 View Details をクリックします。

■ トランスコードの設定値

表 37-1 トランスコードの設定値（続き）

フィールド	説明
Special Load Information	Special Load Information フィールドに特別のロード情報を入力するか、ブランクのままにしてデフォルトを使用します。文字、数字、ダッシュ、ドット（ピリオド）、および下線を指定できます。
Maximum Capacity	Cisco Media Termination Point (WS-SVC-CMM) トランスコードの場合は、ドロップダウン リスト ボックスから最大容量を選択します。
プロダクト固有の設定値	
Model-specific configuration(デバイスメーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>Product-Specific Configuration の下にあるモデル固有のフィールドは、デバイスメーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、Product Specific Configuration 見出しの右側にある i アイコンをクリックします。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のデバイスの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

関連項目

- [トランスコードの設定 \(P.37-5\)](#)
- [トランスコードの特定 \(P.37-2\)](#)
- [トランスコードの更新 \(P.37-6\)](#)
- [トランスコードのコピー \(P.37-7\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「トランスコード」



メディア リソース グループの 設定

メディア リソース管理は、メディア リソース グループとメディア リソース グループ リストによる処理を包含しています。メディア リソース管理にはメディア リソースの管理機構が備わっているので、クラスタ内のすべての Cisco CallManager がメディア リソースを共有できます。メディア リソースは、会議、トランスコーディング、メディア 終端、Annunciator、および Music On Hold の各サービスを提供します。

メディア リソース グループは、メディア サーバが論理グループを構成するように定義します。必要に応じて、メディア リソース グループを地理上のロケーションやサイトと関連付けることができます。また、サーバの使用方法やサービスのタイプ(ユニキャストまたはマルチキャスト)を制御するためのメディア リソース グループも必要に応じて作成できます。

次のタイプのデバイスを、1 つのメディア リソース グループにグループ化することができます。

- Conference Bridge (CFB)
- Media Termination Point (MTP)
- Music On Hold Server (MOH)
- Transcoder (XCODE)
- Annunciator (ANN)

メディア リソース グループを設定するには、次のトピックを参照してください。

- [メディア リソース グループの検索 \(P.38-3 \)](#)
- [メディア リソース グループの追加 \(P.38-6 \)](#)
- [メディア リソース グループの更新 \(P.38-8 \)](#)
- [メディア リソース グループのコピー \(P.38-10 \)](#)
- [メディア リソース グループの削除 \(P.38-12 \)](#)
- [メディア リソース グループの設定値 \(P.38-14 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「メディア リソースの概要」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「メディア リソース グループおよびメディア リソース グループ リストの設定チェックリスト」

メディア リソース グループの検索

ネットワーク内にはいくつかのメディア リソース グループが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の条件を指定して、特定のメディア リソース グループを見つけることができます。メディア リソース グループを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザセッションでの作業中は、メディア リソース グループの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、メディア リソース グループの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 Service > Media Resource > Media Resource Group の順に選択します。

Find and List Media Resource Group ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、メディア リソース グループを検索します。

ステップ 2 最初の Find Media Resource Groups where ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- Name
- Description



(注)

このドロップダウン リスト ボックスで選択する条件によって、検索時に生成されるメディア リソース グループ リストのソート方法が決まります。たとえば、Description を選択すると、Description 列が結果リストの左側の列に表示されます。

■ メディア リソース グループの検索

2 番目の Find Media Resource Groups where ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is empty (空白)
- is not empty (非空白)

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。

**ヒント**

データベースに登録されているメディア リソース グループをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに Find をクリックします。

検出されたメディア リソース グループのリストが、次の項目別に表示されます。

- Media Resource Group icon
- Media Resource Group name
- Description
- Multicast

**(注)**

該当するメディア リソース グループの横にあるチェックボックスをオンにして、Delete Selected をクリックすると、Find and List Media Resource Group ウィンドウから複数のメディア リソース グループを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして Delete Selected をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのメディア リソース グループを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致する Media Resource Group icon、Media Resource Group name、Description、または Multicast 設定をクリックします。

選択したメディア リソース グループがウィンドウに表示されます。

関連項目

- [メディア リソース グループの追加 \(P.38-6\)](#)
- [メディア リソース グループの更新 \(P.38-8\)](#)
- [メディア リソース グループのコピー \(P.38-10\)](#)
- [メディア リソース グループの削除 \(P.38-12\)](#)
- [メディア リソース グループの設定値 \(P.38-14\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「メディア リソースの概要」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「メディア リソース グループおよびメディア リソース グループ リストの設定チェックリスト」

メディア リソース グループの追加

メディア リソース グループを追加する手順は、次のとおりです。



メディア リソース グループから最初にリソースを除去しておく場合、またはメディア リソースが入っているメディア リソース グループを削除する場合を除いて、メディア リソース グループに含まれているメディア リソース (たとえば、Conference Bridge) は、削除できません。

手順

ステップ 1 Service > Media Resource > Media Resource Group の順に選択します。

ステップ 2 ウィンドウの右上にある **Add a New Media Resource Group** リンクをクリックします。

Media Resource Group Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 38-1 を参照)。

ステップ 4 **Insert** をクリックします。

Status が、*Ready* から *Insert completed* に変わります。これで、Media Resource Groups リストに、新規 Media Resource Group が追加されました。

関連項目

- [メディア リソース グループの検索 \(P.38-3\)](#)
- [メディア リソース グループの更新 \(P.38-8\)](#)
- [メディア リソース グループのコピー \(P.38-10\)](#)
- [メディア リソース グループの削除 \(P.38-12\)](#)

- [メディア リソース グループの設定値 \(P.38-14\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「メディア リソースの概要」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「メディア リソース グループおよびメディア リソース グループ リストの設定チェックリスト」

メディア リソース グループの更新

既存のメディア リソース グループを更新する手順は、次のとおりです。



(注)

メディア リソース グループから最初にリソースを除去しておく場合、またはメディア リソースが入っているメディア リソース グループを削除する場合を除いて、メディア リソース グループに含まれているメディア リソース (たとえば、Conference Bridge) は、削除できません。

手順

- ステップ 1 P.38-3 の「メディア リソース グループの検索」の手順を使用して、メディア リソース グループを見つけます。
- ステップ 2 更新するメディア リソース グループをクリックします。
- ステップ 3 適切な設定値を更新します (表 38-1 を参照)。



(注) デバイスを再起動すると、このメディア リソース グループに関連するデバイスがすべてリセットされます。Cisco CallManager が、影響を受けるゲートウェイ上のアクティブ コールを削除する可能性があります。

- ステップ 4 Update をクリックします。

Status が、Ready から Update completed に変わります。

- ステップ 5 メディア リソース グループ内のすべてのデバイス (使用可能なリソースと選択済みリソースの両方) を再起動するには、Restart Devices ボタンをクリックします。

関連項目

- [メディア リソース グループの検索 \(P.38-3 \)](#)
- [メディア リソース グループの追加 \(P.38-6 \)](#)
- [メディア リソース グループのコピー \(P.38-10 \)](#)
- [メディア リソース グループの削除 \(P.38-12 \)](#)
- [メディア リソース グループの設定値 \(P.38-14 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「メディア リソースの概要」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「メディア リソース グループおよびメディア リソース グループ リストの設定チェックリスト」

メディア リソース グループのコピー

既存のメディア リソース グループをコピーする手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** P.38-3 の「[メディア リソース グループの検索](#)」の手順を使用して、メディア リソース グループを見つけます。
- ステップ 2** Matching records リストから、コピーするメディア リソース グループに対応する Copy アイコンをクリックします。
- ステップ 3** 該当する設定値を更新します (表 38-1 を参照)。メディア リソース グループ内のすべてのデバイス (使用可能なリソースと選択済みリソースの両方) を再起動するには、Restart Devices ボタンをクリックします。



(注) 少なくとも Media Resource Group Name を変更する必要があります。



(注) デバイスを再起動すると、このメディア リソース グループに関連するデバイスがすべてリセットされます。Cisco CallManager が、影響を受けるゲートウェイ上のアクティブ コールを削除する可能性があります。

- ステップ 4** Insert をクリックします。

ウィンドウがリフレッシュされ、新しいメディア リソース グループがデータベースに追加されます。

関連項目

- [メディア リソース グループの検索 \(P.38-3 \)](#)
- [メディア リソース グループの追加 \(P.38-6 \)](#)
- [メディア リソース グループの更新 \(P.38-8 \)](#)
- [メディア リソース グループの削除 \(P.38-12 \)](#)
- [メディア リソース グループの設定値 \(P.38-14 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「メディア リソースの概要」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「メディア リソース グループおよびメディア リソース グループ リストの設定チェックリスト」

メディア リソース グループの削除

既存のメディア リソース グループを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

メディア リソース グループ リストに割り当てられているメディア リソース グループは、削除できません。メディア リソース グループを使用しているメディア リソース グループ リストを検索するには、Media Resource Group Configuration ウィンドウの **Dependency Records** リンクをクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。使用されているメディア リソース グループを削除しようとすると、Cisco CallManager はエラー メッセージを表示します。現在使用されているメディア リソース グループを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するメディア リソース グループを使用しているメディア リソース グループすべてに、別のメディア リソース グループ リストを割り当てる。[P.39-7 の「メディア リソース グループ リストの更新」](#)を参照してください。
- 削除するメディア リソース グループを使用しているメディア リソース グループ リストを削除する。[P.39-11 の「メディア リソース グループ リストの削除」](#)を参照してください。

手順

- ステップ 1** [P.38-3 の「メディア リソース グループの検索」](#)の手順を使用して、メディア リソース グループを見つけます。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するメディア リソース グループを選択します。
- ステップ 3** Delete ボタンをクリックします。

このメディア リソース グループを完全に削除しようとしていること、およびこの操作は取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。

ステップ 4 続行するには、**OK** をクリックします。削除操作を取り消すには、**Cancel** をクリックします。

選択されたメディア リソース グループが、メディア リソース グループ リストから削除されました。

関連項目

- [メディア リソース グループの検索 \(P.38-3\)](#)
- [メディア リソース グループの追加 \(P.38-6\)](#)
- [メディア リソース グループのコピー \(P.38-10\)](#)
- [メディア リソース グループの更新 \(P.38-8\)](#)
- [メディア リソース グループの設定値 \(P.38-14\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「メディア リソースの概要」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「メディア リソース グループおよびメディア リソース グループ リストの設定チェックリスト」

■ メディア リソース グループの設定値


メディア リソース グループの設定値

表 38-1 では、メディア リソース グループの設定に使用される設定値について説明します。

表 38-1 メディア リソース グループの設定値

フィールド	説明
Media Resource Group Name	これは必須フィールドで、Cisco CallManager がメディア リソース グループを識別するための固有の名前を入力します。この名前には、最長 50 文字まで指定できます。文字、数字、スペース、ダッシュ、ドット（ピリオド）、および下線を指定できます。
Description	メディア リソース グループの説明を入力します。この説明には、最長 50 文字を指定できます。説明には、二重引用符（"）、小なり（<）、大なり（>）、またはパーセント記号（%）が、含まれていないことを確認してください。
Devices for this Group	この領域は、メディア リソース グループのメディア リソースを定義するのに使用される Available Media Resources と Selected Media Resources の 2 つの画面区画から構成されます。
Available Media Resources	<p>メディア リソース グループに対して選択可能なメディア リソースが表示されます。このメディア リソースには、次のメディア リソース タイプが含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Conference Bridges (CFB) • Media Termination Points (MTP) • Music On Hold Servers (MOH) • Transcoders (XCODE) • Annunciator (ANN) <p>マルチキャスト用に設定されている Music On Hold サーバには、(MOH)[Multicast] というラベルが付いています。</p> <p>このメディア リソース グループのメディア リソースを追加するには、リストからメディア リソースを選択し、下矢印をクリックします。メディア リソースが追加されると、その名前が、Selected Media Resources に移動されます。</p>

表 38-1 メディア リソース グループの設定値 (続き)

フィールド	説明
Selected Media Resources	<p>メディア リソース グループに対して選択されたメディア リソースが表示されます。どのメディア リソースグループでも、少なくとも1つのメディア リソースを選択する必要があります。</p> <p>メディア リソースを削除 (選択解除) するには、その名前を選択し、上矢印をクリックします。</p>
Use Multicast for MOH Audio	<p>Music On Hold Audio 用のマルチキャストを使用するには、このチェックボックスをオンにします。マルチキャストを使用するには、Selected Media Resource の少なくとも1つが、マルチキャスト MOH サーバであることを確認してください。</p> <p> (注) システム管理者は、マルチキャスト オーディオ ソースを設定または作成する責任を負います。</p>

関連項目

- [メディア リソース グループの検索 \(P.38-3 \)](#)
- [メディア リソース グループの追加 \(P.38-6 \)](#)
- [メディア リソース グループの更新 \(P.38-8 \)](#)
- [メディア リソース グループのコピー \(P.38-10 \)](#)
- [メディア リソース グループの削除 \(P.38-12 \)](#)
- [メディア リソース グループ リストの設定 \(P.39-1 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「メディア リソースの概要」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「メディア リソース グループおよびメディア リソース グループ リストの設定チェックリスト」

■ メディア リソース グループの設定値



メディア リソース グループ リストの設定

メディア リソース管理は、メディア リソース グループとメディア リソース グループ リストによる処理を包含しています。メディア リソース管理にはメディア リソースの管理機構が備わっているので、クラスタ内のすべての Cisco CallManager がメディア リソースを共有できます。メディア リソースは、会議、トランスコーディング、メディア終端、Annunciator、および Music On Hold の各サービスを提供します。

メディア リソース グループ リストは、メディア リソース グループに優先順位を付けます。アプリケーションは、メディア リソース グループ リストで定義された優先順位に基づいて、使用可能なメディア リソースの中から、必要なメディア リソース、たとえば、Music On Hold サーバを選択します。

メディア リソース グループ リストを設定するには、次のトピックを参照してください。

- [メディア リソース グループ リストの検索 \(P.39-2\)](#)
- [メディア リソース グループ リストの追加 \(P.39-5\)](#)
- [メディア リソース グループ リストの更新 \(P.39-7\)](#)
- [メディア リソース グループ リストのコピー \(P.39-9\)](#)
- [メディア リソース グループ リストの削除 \(P.39-11\)](#)
- [メディア リソース グループ リストの設定値 \(P.39-13\)](#)

関連項目

- [メディア リソース グループの設定 \(P.38-1\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「メディア リソースの概要」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「メディア リソース グループおよびメディア リソース グループ リストの設定チェックリスト」

メディア リソース グループ リストの検索

ネットワーク内にはいくつかのメディア リソース グループ リストが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の条件を指定して、特定のメディア リソース グループ リストを見つけることができます。メディア リソース グループ リストを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、メディア リソース グループ リストの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、メディア リソース グループ リストの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 Service > Media Resource > Media Resource Group List の順に選択します。

Find and List Media Resource Group Lists ウィンドウが表示されます。ドロップダウン リスト ボックスを使用して、メディア リソース グループ リストを検索します。

ステップ 2 Find Media Resource Group Lists where Name ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件を選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)

- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is empty (空白)
- is not empty (非空白)

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、**Find** をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。

**ヒント**

データベースに登録されているメディア リソース グループ リストをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。

検出されたメディア リソース グループ リスト一覧が、次の項目別に表示されます。

- Media Resource Group List icon
- Media Resource Group List name

**(注)**

該当するメディア リソース グループ リストの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Media Resource Group Lists ウィンドウから複数のメディア リソース グループ リストを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのメディア リソース グループ リストを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致する Media Resource Group List icon または Media Resource Group List name をクリックします。

選択したメディア リソース グループ リストがウィンドウに表示されます。

関連項目

- [メディア リソース グループ リストの追加 \(P.39-5 \)](#)
- [メディア リソース グループ リストの更新 \(P.39-7 \)](#)
- [メディア リソース グループ リストのコピー \(P.39-9 \)](#)
- [メディア リソース グループ リストの削除 \(P.39-11 \)](#)
- [メディア リソース グループ リストの設定値 \(P.39-13 \)](#)
- [メディア リソース グループの設定 \(P.38-1 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「メディア リソースの概要」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「メディア リソース グループおよびメディア リソース グループ リストの設定チェックリスト」

メディア リソース グループ リストの追加

メディア リソース グループ リストを追加する手順は、次のとおりです。



割り当てられているメディア リソース グループ リストから、メディア リソース グループを最初に除去しておくか、メディア リソース グループ リストを削除する場合を除いて、メディア リソース グループ リストに割り当てられているメディア リソース グループは削除できません。

手順

ステップ 1 Service > Media Resource > Media Resource Group List の順に選択します。

ステップ 2 ウィンドウの右上にある **Add a New Media Resource Group List** リンクをクリックします。

Media Resource Group List Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 39-1 を参照)。

ステップ 4 **Insert** をクリックします。

Status が、*Ready* から *Insert completed* に変わります。これで、メディア リソース グループ リストに、新規のメディア リソース グループ リストが追加されました。

関連項目

- [メディア リソース グループ リストの検索 \(P.39-2\)](#)
- [メディア リソース グループ リストの更新 \(P.39-7\)](#)
- [メディア リソース グループ リストのコピー \(P.39-9\)](#)

■ メディア リソース グループ リストの追加

- [メディア リソース グループ リストの削除 \(P.39-11\)](#)
- [メディア リソース グループ リストの設定値 \(P.39-13\)](#)
- [メディア リソース グループの設定 \(P.38-1\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「メディア リソースの概要」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「メディア リソース グループおよびメディア リソース グループ リストの設定チェックリスト」

メディア リソース グループ リストの更新

既存のメディア リソース グループ リストを更新する手順は、次のとおりです。



(注)

割り当てられているメディア リソース グループ リストから、メディア リソース グループを最初に除去しておくか、メディア リソース グループ リストを削除する場合を除いて、メディア リソース グループ リストに割り当てられているメディア リソース グループは削除できません。

手順

- ステップ 1** P.39-2 の「[メディア リソース グループ リストの検索](#)」の手順を使用して、メディア リソース グループ リストを見つけます。
- ステップ 2** 更新するメディア リソース グループ リストをクリックします。
- ステップ 3** 該当する設定値を更新します (表 39-1 を参照)。メディア リソース グループ リスト内のすべてのデバイス (使用可能なメディア リソース グループと選択済みメディア リソース グループの両方) を再起動するには、**Restart Devices** ボタンをクリックします。



(注)

デバイスを再起動すると、このメディア リソース グループに関連するデバイスがすべてリセットされます。Cisco CallManager が、影響を受けるゲートウェイ上のアクティブ コールを削除する可能性があります。

- ステップ 4** **Update** をクリックします。

Status が、*Ready* から *Update completed* に変わります。

■ メディア リソース グループ リストの更新

- ステップ 5** メディア リソース グループ リスト内のすべてのデバイス (使用可能なメディア リソース グループと選択済みメディア リソース グループの両方) を再起動するには、**Restart Devices** ボタンをクリックします。
-

関連項目

- [メディア リソース グループ リストの検索 \(P.39-2 \)](#)
- [メディア リソース グループ リストの追加 \(P.39-5 \)](#)
- [メディア リソース グループ リストのコピー \(P.39-9 \)](#)
- [メディア リソース グループ リストの削除 \(P.39-11 \)](#)
- [メディア リソース グループ リストの設定値 \(P.39-13 \)](#)
- [メディア リソース グループの設定 \(P.38-1 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「メディア リソースの概要」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「メディア リソース グループおよびメディア リソース グループ リストの設定チェックリスト」

メディア リソース グループ リストのコピー

既存のメディア リソース グループ リストをコピーする手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** P.39-2 の「[メディア リソース グループ リストの検索](#)」の手順を使用して、メディア リソース グループ リストを見つけます。
- ステップ 2** Matching records リストから、コピーするメディア リソース グループ リストに対応する **Copy** アイコンをクリックします。
- ステップ 3** 該当する設定値を更新します（[表 39-1](#) を参照）。メディア リソース グループ リスト内のすべてのデバイス（使用可能なメディア リソース グループと選択済みメディア リソース グループの両方）を再起動するには、**Restart Devices** ボタンをクリックします。



(注) 少なくとも Media Resource Group List Name を変更する必要があります。



(注) デバイスを再起動すると、このメディア リソース グループに関連するデバイスがすべてリセットされます。Cisco CallManager が、影響を受けるゲートウェイ上のアクティブ コールを削除する可能性があります。

- ステップ 4** **Insert** をクリックします。

ウィンドウがリフレッシュされ、新しいメディア リソース グループがデータベースに追加されます。

関連項目

- [メディア リソース グループ リストの検索 \(P.39-2 \)](#)
- [メディア リソース グループ リストの追加 \(P.39-5 \)](#)
- [メディア リソース グループ リストの更新 \(P.39-7 \)](#)
- [メディア リソース グループ リストの削除 \(P.39-11 \)](#)
- [メディア リソース グループ リストの設定値 \(P.39-13 \)](#)
- [メディア リソース グループの設定 \(P.38-1 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「メディア リソースの概要」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「メディア リソース グループおよびメディア リソース グループ リストの設定チェックリスト」

メディア リソース グループ リストの削除

既存のメディア リソース グループ リストを削除する手順は、次のとおりです。



(注)

デバイス プールやデバイスに割り当てられたメディア リソース グループ リストは、削除できません。メディア リソース グループ リストに割り当てるデバイス プールやデバイスを最初に変更する必要があります。

手順

ステップ 1 P.39-2 の「[メディア リソース グループ リストの検索](#)」の手順を使用して、メディア リソース グループ リストを見つけます。

ステップ 2 一致するレコードのリストから、削除するメディア リソース グループ リストを選択します。

ステップ 3 Delete ボタンをクリックします。

このメディア リソース グループ リストを完全に削除しようとしていること、およびこの操作は取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。

ステップ 4 続行するには、OK をクリックします。削除操作を取り消すには、Cancel をクリックします。

選択されたメディア リソース グループ リストが、メディア リソース グループ リストの一覧から削除されました。

関連項目

- [メディア リソース グループ リストの検索 \(P.39-2 \)](#)
- [メディア リソース グループ リストの追加 \(P.39-5 \)](#)
- [メディア リソース グループ リストのコピー \(P.39-9 \)](#)
- [メディア リソース グループ リストの更新 \(P.39-7 \)](#)
- [メディア リソース グループ リストの設定値 \(P.39-13 \)](#)
- [メディア リソース グループの設定 \(P.38-1 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「メディア リソースの概要」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「メディア リソース グループおよびメディア リソース グループ リストの設定チェックリスト」

メディア リソース グループ リストの設定値

表 39-1 では、メディア リソース グループ リストの設定に使用される設定値について説明します。

表 39-1 メディア リソース グループ リストの設定値

フィールド	説明
Media Resource Group List Name	Cisco CallManager がメディア リソース グループ リストを識別するための固有の名前を入力します。これは必須フィールドです。この名前には、最長 50 文字まで指定できます。文字、数字、スペース、ダッシュ、ドット（ピリオド）、および下線を指定できます。
Available Media Resource Groups	<p>メディア リソース グループ リストに対して選択可能なメディア リソース グループが表示されます。このメディア リソース グループには、すでに定義されているメディア リソース グループだけが含まれます。</p> <p>このメディア リソース グループ リストのメディア リソース グループを追加するには、一覧からメディア リソース グループを選択し、2 つのペインの間にある下矢印をクリックします。</p> <p>メディア リソース グループが追加されると、その名前は、Selected Media Resource Groups に移動されます。</p>
Selected Media Resource Groups	<p>メディア リソース グループ リストに対して選択されたメディア リソース グループが表示されます。メディア リソース グループ リストごとに、少なくとも 1 つのメディア リソース グループを選択する必要があります。</p> <p>メディア リソース グループを削除（選択解除）するには、その名前を選択し、2 つのペインの間にある上矢印をクリックします。</p> <p>メディア リソース グループは優先順（高優先順位から低優先順位へ）に表示されているため、メディア リソース グループの優先順位を変更するには、このペインの右側にある上矢印と下矢印を使用する必要があります。優先順位を変更するには、リスト内でメディア リソース グループを選択し、上矢印または下矢印を使用して、その優先順位を変更します。</p>

関連項目

- [メディア リソース グループ リストの検索 \(P.39-2 \)](#)
- [メディア リソース グループ リストの追加 \(P.39-5 \)](#)
- [メディア リソース グループ リストの更新 \(P.39-7 \)](#)
- [メディア リソース グループ リストのコピー \(P.39-9 \)](#)
- [メディア リソース グループ リストの削除 \(P.39-11 \)](#)
- [メディア リソース グループの設定 \(P.38-1 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「メディア リソースの概要」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「メディア リソース グループおよびメディア リソース グループ リストの設定チェックリスト」



サービス パラメータの設定

Cisco CallManager のサービス パラメータは、選択したサーバ上で複数の異なるサービスの設定ができます。パラメータのリストと説明を表示するには、Service Parameters Configuration ウィンドウの右上にある **i** ボタンをクリックします。画面の上部にある特定のパラメータをクリックするとそのリストを表示することができます。

Cisco CallManager Serviceability を使用してサービスを非アクティブにした場合、Cisco CallManager は更新されたサービス パラメータ値をすべて保持します。サービスを再開すると、Cisco CallManager はサービス パラメータを変更後の値に設定します。



(注) アップグレード中のサービス パラメータ値の詳細については、『Cisco CallManager アップグレード手順』を参照してください。

Cisco CallManager のサービスの詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「サービス」を参照してください。

始める前に

次の条件を満たしていることを確認してから手順に進んでください。

- サーバが設定済みであること。詳細については、P.2-1 の「サーバの設定」を参照してください。
- サービスがアクティブであること。詳細については、『Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』を参照してください。

**注意**

サービス パラメータに変更を加えると、システムに障害を起こす原因となることがあります。変更する機能を熟知している場合、または Cisco TAC から特別の指示がある場合を除いて、サービス パラメータを変更しないようにシスコはお勧めします。

サービス パラメータを設定または表示するには、次のトピックを参照してください。

- [サーバ上のサービスに対するサービス パラメータの設定 \(P.40-3\)](#)
- [サービス用のパラメータの表示 \(P.40-5\)](#)

サーバ上のサービスに対するサービス パラメータの設定

特定のサーバ上の特定のサービスに対してサービス パラメータを設定する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** Service > Service Parameters の順に選択します。
- ステップ 2** Server ドロップダウン リスト ボックスから、サーバを選択します。
- ステップ 3** Service ドロップダウン リスト ボックスから、更新するパラメータが含まれているサービスを選択します。



(注) 設定するサービスがドロップダウン リスト ボックスに表示されない場合は、Cisco CallManager Serviceability を使用してサーバ上でサービスをアクティブにする必要があります。

Service Parameters Configuration ウィンドウが表示されます。

- ステップ 4** 適切なパラメータ値を更新します。サービスのこのインスタンスのサービス パラメータをすべてデフォルト値に設定するには、Set to Default ボタンをクリックします。

パラメータとその説明の一覧を表示するには、[図 40-1](#) に示すウィンドウの右上にある **i** ボタンをクリックします。画面の上部にある特定のパラメータを表示するには、Service Parameter Configuration ウィンドウ内でそのパラメータをクリックします。

■ サーバ上のサービスに対するサービス パラメータの設定

図 40-1 Service Parameter Configuration ウィンドウ



(注) 一部のサービスに含まれているサービス パラメータは、通常、変更する必要がありません。Service Parameter Configuration ウィンドウにアクセスするときに、これらのパラメータは自動的に表示されません。すべてのパラメータを表示するには、**Advanced** をクリックします。すべてのパラメータが表示された後に、基本的なパラメータをもう一度表示するには、**Condensed** をクリックします。**Advanced** ボタンが使用不可になっている場合は、そのサービスのすべてのパラメータがデフォルトで表示されています。

ステップ 5 **Update** をクリックします。

ウィンドウの内容が更新され、指定された変更内容でサービス パラメータが更新されます。

関連項目

- サービス用のパラメータの表示 (P.40-5)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「サービス」

サービス用のパラメータの表示

場合によっては、クラスタ内の全サーバ上で特定のサービスに属するサービスパラメータをすべて比較する必要があります。また、同期していないパラメータ（サーバによって値が異なるサービスパラメータ）または推奨値から変更したパラメータのみを表示しなければならない場合もあります。

クラスタ内の全サーバ上の特定のサービスのサービスパラメータを表示する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 Service > Service Parameters の順に選択します。

ステップ 2 Server ドロップダウン リスト ボックスから、サーバを選択します。

ステップ 3 Service ドロップダウン リスト ボックスから、クラスタ内の全サーバ上のサービスパラメータを表示するサービスを選択します。



(注) 設定するサービスがドロップダウン リスト ボックスに表示されない場合は、Cisco CallManager Serviceability を使用してサーバ上でサービスをアクティブにする必要があります。

ステップ 4 表示される Service Parameters Configuration ウィンドウで、Parameters for all servers をクリックします。

Parameters for All Servers ウィンドウが表示されます。現在のサービスの全パラメータがアルファベット順に一覧表示されます。パラメータ名の横には、各パラメータの推奨値が表示されます。パラメータ名の下には、そのパラメータが組み込まれているサーバのリストが表示されます。各サーバ名の横には、そのサーバにおけるパラメータの現在の値が表示されます。

あるパラメータのサーバ名または現在のパラメータ値をクリックすると、対応するサービスパラメータ ページにリンクして、値を変更することができます。Parameters for All Servers ウィンドウ間を移動するには、Previous および Next をクリックします。

■ サービス用のパラメータの表示

- ステップ 5** 同期していないサービス パラメータを表示するには、Parameters for All Servers ウィンドウの右上にある **Out of Sync Parameters for All Servers** をクリックします。

Out of Sync Parameters for All Servers ウィンドウが表示されます。現在のサービスについて、サーバによって異なる値を持つサービス パラメータがアルファベット順に表示されます。パラメータ名の横には、各パラメータの推奨値が表示されます。パラメータ名の下には、そのパラメータが組み込まれているサーバのリストが表示されます。各サーバ名の横には、そのサーバにおけるパラメータの現在の値が表示されます。

あるパラメータのサーバ名または現在のパラメータ値をクリックすると、対応するサービス パラメータ ページにリンクして、値を変更することができます。Out of Sync Parameters for All Servers ウィンドウ間を移動するには、**Previous** および **Next** をクリックします。

- ステップ 6** 推奨値から変更したサービス パラメータを表示するには、ウィンドウの右上にある **Modified Parameters for All Servers** をクリックします。

Modified Parameters for All Servers ウィンドウが表示されます。現在のサービスについて、推奨値とは異なる値を持つサービス パラメータがアルファベット順に表示されます。パラメータ名の横には、各パラメータの推奨値が表示されます。各パラメータ名の下には、推奨値とは異なる値を持つサーバのリストが表示されます。各サーバ名の横には、そのサーバにおけるパラメータの現在の値が表示されます。

あるパラメータのサーバ名または現在のパラメータ値をクリックすると、対応するサービス パラメータ ウィンドウにリンクして、値を変更することができます。Modified Parameters for All Servers ウィンドウ間を移動するには、**Previous** および **Next** をクリックします。

関連項目

- [サーバ上のサービスに対するサービス パラメータの設定 \(P.40-3 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「サービス」



PART 5

機能の設定





コール パーク

コール パーク (Call Park) 機能を使用すると、コールの保留操作をした後、Cisco CallManager システム内の別の電話機からその保留コールに応答することができます (たとえば、別のオフィスや会議室の電話機などです)。あるユーザに着信コールがあるときに、Park ソフトキーや Call Park ボタンを押して、そのコールをコール パーク番号に一時的に保留 (パーキング) させることができます。システム内の誰かが別の電話機からコール パーク番号をダイヤルすると、そのパーク中のコールに応答できます。

コール パーク機能の使用方法和設定方法の詳細については、『*Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド*』の「コールパークおよびディレクテッド コールパーク」の章を参照してください。



ディレクテッド コール パーク

ディレクテッド コール パーク (Directed Call Park) 機能を使用すると、パークされているコールを、ユーザが選択した使用可能なディレクテッド コール パーク番号に転送できます。ディレクテッド コール パーク番号は、Cisco CallManager の Directed Call Park Configuration ウィンドウで設定します。設定されたディレクテッド コール パーク番号はクラスタ全体で有効です。ディレクテッド コール パークの Busy Lamp Field (BLF) をサポートする電話機は、特定のディレクテッド コール パーク番号のビジジー/アイドル状況を監視するように設定できます。また、BLF を使用して、ディレクテッド コール パーク番号を短縮ダイヤルでコールすることもできます。

パークされているコールを取得するには、設定済み取得プレフィックス番号に続けて、パークされているコールのディレクテッド コール パーク番号をダイヤルします。

ディレクテッド コール パーク機能の使用方法和設定方法の詳細については、『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「コールパークおよびディレクテッド コールパーク」の章を参照してください。



コール ピックアップ グループ の設定

コール ピックアップを使用すると、自分以外の電話番号に着信するコールに
応答できます。別の電話機で着信音が鳴った場合は、この機能を使用して、その
コールを自分の電話機に転送できます。

Cisco IP Phone では、次の 3 つのタイプのコール ピックアップ機能を使用できま
す。

- コール ピックアップを使用すると、ユーザは、自分のコール ピックアップ
グループ内の着信コールを受けすることができます。ユーザが電話機でこの機能
をアクティブにすると、Cisco CallManager は、適切なコール ピックアップ
グループ番号を自動的にダイヤルします。

このタイプのコール ピックアップでは、コールを受けることができる他の
コール ピックアップグループメンバーに対するオーディオ通知および可視
通知を設定できます。Call Pickup Group Configuration ウィンドウで次の通知
パラメータを設定できます。

- 通知のタイプ (オーディオ、可視、両方、どちらも設定しない)
- 可視通知メッセージの内容 (着信側識別、発信側識別、両方、どちらも
設定しない)
- コールが元の着信側に着信してから、他のコール ピックアップ グル
ープメンバーに通知するまでの遅延時間 (秒)

電話機がアイドル状態または使用中のときに行うオーディオ通知のタイプ
を、Directory Number Configuration ウィンドウで設定できます。詳細につい
ては、P.62-60 の「[電話番号の設定値](#)」を参照してください。

- グループ コール ピックアップを使用すると、ユーザは、別のグループ内の着信コールを受けることができる。ユーザが電話機でこの機能をアクティブにすると、ユーザ自身が、適切なコール ピックアップ グループ番号をダイヤルする必要があります。
- 他グループ コール ピックアップを使用すると、ユーザは、コール ピックアップグループメンバーにダイヤルしないで（メンバーを知らなくても）、自分のグループに関連付けられたグループ内の着信コールを受けることができる。ユーザのグループに関連付けられたグループ内の電話機で呼び出し音が鳴ったときに、ユーザが電話機のこの機能をアクティブにしていると、Cisco CallManager によって自動的に、関連付けられたグループ内の着信コールが検索されます。Cisco CallManager 管理者は、Call Pickup Group Configuration ウィンドウで検索順序を指定します。P.43-10 の「他グループ コール ピックアップに関するピックアップグループの定義」および P.43-12 の「コールピックアップグループの設定値」を参照してください。

コールピックアップの詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「コールピックアップの概要」を参照してください。

次の各項では、この機能を設定する手順について説明します。

- コールピックアップグループ番号の検索 (P.43-3)
- コールピックアップグループの追加 (P.43-6)
- コールピックアップグループの更新 (P.43-8)
- コールピックアップグループの削除 (P.43-9)
- 他グループコールピックアップに関するピックアップグループの定義 (P.43-10)
- コールピックアップグループの設定値 (P.43-12)
- コールピックアップグループの電話番号への割り当て (P.43-17)

コールピックアップ機能の使用方法については、ご使用の電話機に付属の『Cisco IP Phone ユーザガイド』を参照してください。

コール ピックアップ グループ番号の検索

ネットワーク内にはいくつかのコール ピックアップ グループが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の条件を指定して、コール ピックアップ グループを見つけることができます。コール ピックアップ グループを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザセッションでの作業中は、コール ピックアップ番号の検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻る場合、検索を変更するかブラウザを閉じるまで、Cisco CallManager Administration によってコール ピックアップグループ設定が保持されます。

手順

ステップ 1 Feature > Call Pickup Group の順に選択します。

Find and List Call Pickup Groups ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、コール ピックアップグループを検索します。

ステップ 2 最初の Find Call Pickup Groups where ドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの条件を選択します。

- Call Pickup Group Number
- Call Pickup Group Name
- Partition



(注)

このドロップダウン リスト ボックスで選択する条件によって、検索時に生成されるコール ピックアップ グループ リストのソート方法が決まります。たとえば、Partition を選択すると、Partition 列が結果リストの左側の列に表示されます。

■ コール ピックアップ グループ番号の検索

2 番目の Find Call Pickup Groups where ドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの条件を選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is not empty (非空白)
- is empty (空白)

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。

**ヒント**

データベースに登録されているコール ピックアップ グループをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。

検出されたコール ピックアップ グループのリストが、次の情報とともに表示されます。

- Call Pickup Group Number
- Partition
- Call Pickup Group Name

Copy アイコンは、既存のコール ピックアップ グループの設定値に基づいて新規コール ピックアップ グループを作成するための画面にも表示されます。

**(注)**

該当するコール ピックアップ グループの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Call Pickup Groups 結果ウィンドウから複数のコール ピックアップ グループを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのコール ピックアップ グループを削除できます。電話番号および回線に割り当てられたコール ピックアップ グループは削除できません。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致するコール ピックアップ グループ番号、パーティション、またはコール ピックアップ グループ名をクリックします。

選択したコール ピックアップ グループがウィンドウに表示されます。

関連項目

- [コール ピックアップ グループの追加 \(P.43-6\)](#)
- [コール ピックアップ グループの更新 \(P.43-8\)](#)
- [コール ピックアップ グループの削除 \(P.43-9\)](#)
- [コール ピックアップ グループの設定値 \(P.43-12\)](#)

コール ピックアップ グループの追加

コール ピックアップ グループを Cisco CallManager データベースに追加する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 Feature > Call Pickup Group の順に選択します。

ステップ 2 ウィンドウの右上にある **Add a New Call Pickup Group** リンクをクリックします。

Call Pickup Group Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 43-1 を参照)。

ステップ 4 **Insert** をクリックして、新規コール ピックアップ グループをデータベースに保存します。

関連項目

- [コール ピックアップ グループの設定 \(P.43-1\)](#)
- [コール ピックアップ グループ番号の検索 \(P.43-3\)](#)
- [コール ピックアップ グループの更新 \(P.43-8\)](#)
- [コール ピックアップ グループの削除 \(P.43-9\)](#)
- [コール ピックアップ グループの設定値 \(P.43-12\)](#)
- [コール ピックアップ グループの電話番号への割り当て \(P.43-17\)](#)

コール ピックアップ グループのコピー

既存のコール ピックアップ グループの設定値に基づいて新規コール ピックアップ グループを作成する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 Feature > Call Pickup Group の順に選択します。



(注) Copy をクリックすると、Find and List Call Pickup Groups 結果ウィンドウからコール ピックアップ グループをコピーできます。また、Call Pickup Group Configuration ウィンドウからコール ピックアップ グループを選択して、手動で設定をコピーできます。

ステップ 2 Find and List Call Pickup Groups ウィンドウから、コピーするコール ピックアップ グループの横の Copy ボタンをクリックします。

Call Pickup Group Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 設定値を更新します (表 43-1 を参照)。新規データベース レコードを正常に作成するには、少なくとも Cisco CallManager 用のコール ピックアップ グループ名と番号を変更する必要があります。

ステップ 4 Insert をクリックして、新規コール ピックアップ グループをデータベースに保存します。

関連項目

- [コール ピックアップ グループの設定 \(P.43-1\)](#)
- [コール ピックアップ グループ番号の検索 \(P.43-3\)](#)
- [コール ピックアップ グループの更新 \(P.43-8\)](#)
- [コール ピックアップ グループの削除 \(P.43-9\)](#)

■ コール ピックアップ グループの更新

- [コール ピックアップ グループの設定値 \(P.43-12\)](#)
- [コール ピックアップ グループの電話番号への割り当て \(P.43-17\)](#)

コール ピックアップ グループの更新

コール ピックアップ グループを更新する手順は、次のとおりです。コール ピックアップ グループを更新すると、そのコール ピックアップ グループに割り当てられている電話番号がすべて、Cisco CallManager によって自動的に更新されます。

手順

-
- ステップ 1** [P.43-3 の「コール ピックアップ グループ番号の検索」](#)の手順を使用して、コール ピックアップ グループを見つけます。
 - ステップ 2** 更新するコール ピックアップ グループをクリックします。
 - ステップ 3** 該当するフィールドを更新します ([表 43-1](#) を参照)。
 - ステップ 4** 変更をデータベースに保存するため、**Update** をクリックします。
-

関連項目

- [コール ピックアップ グループの設定 \(P.43-1\)](#)
- [コール ピックアップ グループ番号の検索 \(P.43-3\)](#)
- [コール ピックアップ グループの追加 \(P.43-6\)](#)
- [コール ピックアップ グループの削除 \(P.43-9\)](#)
- [コール ピックアップ グループの設定値 \(P.43-12\)](#)
- [コール ピックアップ グループの電話番号への割り当て \(P.43-17\)](#)

コール ピックアップ グループの削除

Cisco CallManager データベースからコール ピックアップ グループを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

回線または電話番号に割り当てられたコール ピックアップ グループは削除できません。このコール ピックアップ グループを使用している電話番号のリストを表示するには、[Dependency Records](#) リンクをクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。それらの電話番号に対してコール ピックアップを再び使用可能にするには、各電話番号を新しいコール ピックアップ グループに割り当て直す必要があります。詳細については、[P.43-17 の「コール ピックアップ グループの電話番号への割り当て」](#)を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** [P.43-3 の「コール ピックアップ グループ番号の検索」](#)の手順を使用して、コール ピックアップ グループを見つけます。
 - ステップ 2** 削除するコール ピックアップ グループをクリックします。
 - ステップ 3** Delete をクリックします。

削除したコール ピックアップ グループは、コール ピックアップ グループのリストに表示されなくなります。

関連項目

- [コール ピックアップ グループの設定 \(P.43-1 \)](#)
- [コール ピックアップ グループ番号の検索 \(P.43-3 \)](#)
- [コール ピックアップ グループの追加 \(P.43-6 \)](#)

■ 他グループ コール ピックアップに関するピックアップ グループの定義

- コール ピックアップ グループの更新 (P.43-8)
- コール ピックアップ グループの電話番号への割り当て (P.43-17)

他グループ コール ピックアップに関するピックアップ グループの定義

この項では、ユーザのグループにコール ピックアップ グループを関連付けて、このグループへの着信コールに対して応答する方法を説明します。グループには最大 10 のコール ピックアップ グループを関連付けることができます。関連付けられたピックアップ グループへのコールに対しては、グループ リストに関連付けられた最初のピックアップ グループから順に、最後のピックアップ グループまで応答します。リストの編成は、Call Pickup Group Configuration ウィンドウで行うことができます (表 43-1 を参照)。



(注)

コール ピックアップ グループを保存すると、自分のグループが、関連グループのリストの先頭に自動的に追加されて表示されます。これにより、必要であれば 1 つのソフトキー (OPickup) を使用して自分のグループのコールと関連グループのコールを受けることができます。この際、自分のグループのコールが優先されます。

『Cisco CallManager システム ガイド』の「コール ピックアップの概要」の項も参照してください。

手順

- ステップ 1** P.43-3 の「コール ピックアップ グループ番号の検索」の手順を使用して、自分のグループを見つけます。
- ステップ 2** Call Pickup Group Configuration ウィンドウで、Associated Call Pickup Group Information 領域までスクロールします。

ステップ 3 該当するフィールドに情報を入力します (表 43-1 を参照)。

ステップ 4 Update をクリックします。

関連項目

- [コール ピックアップ グループ番号の検索 \(P.43-3\)](#)
- [コール ピックアップ グループの追加 \(P.43-6\)](#)
- [コール ピックアップ グループの更新 \(P.43-8\)](#)
- [コール ピックアップ グループの設定値 \(P.43-12\)](#)

■ コール ピックアップグループの設定値



コール ピックアップグループの設定値

表 43-1 では、コール ピックアップグループの設定値について説明します。

表 43-1 コール ピックアップグループの設定値

フィールド	説明
コール ピックアップグループ情報	
Call Pickup Group Name	最大で 30 文字の英数字を入力できます。たとえば、Operations と入力します。コール ピックアップグループ名は、コール ピックアップグループ番号と関連付けられます。コール ピックアップグループは、コール ピックアップグループ名で選択できます。
Call Pickup Group Number	追加するコール ピックアップグループに対する固有の電話番号(整数)を入力します。コール ピックアップグループは、コール ピックアップグループ番号で選択できます。

表 43-1 コール ピックアップ グループの設定値 (続き)

フィールド	説明
Partition	<p>パーティションを使用して、コール ピックアップ グループへのアクセスを制限する場合は、ドロップダウン リスト ボックスから、希望するパーティションを選択します。コール ピックアップ グループへのアクセスを制限しない場合は、ルート パーティションに <None> を選択します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するパーティションの数を設定することができます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで設定された数よりもパーティションの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リスト ボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Partition ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにパーティション名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるパーティションのリストで希望するパーティション名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、System > Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。</p> <p> (注) コール ピックアップ グループ番号とパーティションの組み合わせが、Cisco CallManager クラスタ内で固有であることを確認してください。</p>
コール ピックアップ グループ通知の設定値	
Call Pickup Group Notification Policy	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの通知タイプを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • No Alert • Audio Alert • Visual Alert • Audio and Visual Alert

■ コール ピックアップグループの設定値

表 43-1 コール ピックアップグループの設定値（続き）



フィールド	説明
Call Pickup Group Notification Timer (seconds)	コールが元の着信側に最初に着信してから、コール ピックアップグループの他のメンバーに通知するまでの遅延時間（秒）を入力します（1 ~ 300 の整数）。
コール ピックアップグループ通知のコール情報表示	
Calling Party Information	<p>コール ピックアップグループへの可視通知メッセージに、発信側の識別情報を含める場合には、このチェックボックスをオンにします。この設定は、Call Pickup Group Notification Policy が Visual Alert または Audio and Visual Alert に設定されている場合にのみ有効です。</p> <p>Calling Party Information と Called Party Information の両方の表示を選択した場合は、それぞれ最初の 11 文字のみが表示されます。いずれか一方のみの表示を選択した場合は、最初の 23 文字が表示されます。ただし、表示名に関連番号のない機能タグが含まれている場合（たとえば、Conference -> Alice）、文字数はこれに限定されません。</p> <p> (注) 複数のアクティブ通知アラートの場合、最新の可視アラートで以前の可視アラートが上書きされます。ユーザがコール ピックアップをアクティブにすると、そのユーザは受けることができる最初のコールに接続されます。ただし、そのコールが現在電話機に表示されている可視アラートでない場合でも接続されます。この不一致を避けるには、可視通知を使用する際に、発信側情報または着信側情報を表示しないようにします。この設定により、「Call(s) available for Pickup」という汎用メッセージが表示されます。Auto Call Pickup (AutoCallPickupEnabled サービス パラメータ) が無効に設定されている場合、ユーザは発信側識別情報を取得できません。詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「自動コール ピックアップ」を参照してください。</p>

表 43-1 コール ピックアップ グループの設定値 (続き)

フィールド	説明
Called Party Information	<p>コール ピックアップ グループへの可視通知メッセージに、元の着信側の識別情報を含める場合には、このチェックボックスをオンにします。この設定は、Call Pickup Group Notification Policy が Visual Alert または Audio and Visual Alert に設定されている場合にのみ有効です。</p> <p>Calling Party Information と Called Party Information の両方の表示を選択した場合は、それぞれ最初の 11 文字のみが表示されます。いずれか一方のみの表示を選択した場合は、最初の 23 文字が表示されます。ただし、表示名に関連番号のない機能タグが含まれている場合(たとえば、Conference -> Alice) 文字数はこれに限定されません。</p> <p> (注) 複数のアクティブ通知アラートの場合、最新の可視アラートで以前の可視アラートが上書きされます。しかし、ユーザがコール ピックアップをアクティブにすると、そのユーザは受けることができる最初のコールに接続されます。ただし、そのコールが現在電話機に表示されている可視アラートでない場合でも接続されます。この不一致を避けるには、可視通知を使用する際に発信側情報または着信側情報を表示しないようにします。この設定により、「Call(s) available for Pickup」という汎用メッセージが表示されます。Auto Call Pickup (AutoCallPickupEnabled サービス パラメータ) が無効に設定されている場合、ユーザは発信側識別情報を取得できません。詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「自動コール ピックアップ」を参照してください。</p>

■ コール ピックアップ グループの設定値

表 43-1 コール ピックアップ グループの設定値 (続き)

フィールド	説明
関連付けられたコール ピックアップ グループの情報: コール ピックアップ グループに追加するコール ピックアップ番号を検索する	
Partition	この表にあるコール ピックアップ グループ情報の Partition を参照してください。
Call Pickup Group Numbers Contain	検索するコール ピックアップ グループの DN の全体または一部を入力して、 Find をクリックします。
Available Call Pickup Group Numbers/ Partition	Associated Pickup Group Information 領域の関連コール ピックアップ グループ リストにメンバーを追加するには、このリストから DN/パーティションを選択して、 Add to Pickup Group をクリックします。 設定されるグループは、自動的に Current Pickup Group Members のリストに追加されます。これにより、OPickup ソフトキーを使用して独自のグループ内のコールを受けることができます。
関連付けられたコール ピックアップ グループの情報: 現在のピックアップ グループ メンバー	
Selected Call Pickup Group Numbers/ Partition	Call Pickup Numbers/Partition リスト表示の順序を変更するには、このボックスの右側にある上矢印と下矢印を使用して、順序を移動します。リストの順序を逆にするには、 Reverse Order of Selected Numbers をクリックします。このボックスから Removed Pickup Group Numbers/Partition ボックスにグループ番号 / パーティションを移動するには、このボックスの下にある上矢印と下矢印を使用します。
Removed Pickup Group Numbers/ Partition	グループ Call Pickup Group Numbers/Partition ボックスを移動するには、このボックスの上の上矢印と下矢印を使用します。

関連項目

- [コール ピックアップ グループの設定 \(P.43-1\)](#)
- [コール ピックアップ グループ番号の検索 \(P.43-3\)](#)
- [コール ピックアップ グループの追加 \(P.43-6\)](#)
- [コール ピックアップ グループの更新 \(P.43-8\)](#)

コール ピックアップ グループの電話番号への割り当て

コール ピックアップ グループを電話番号に割り当てる手順は、次のとおりです。コール ピックアップ グループに割り当てられている電話番号に限り、コール ピックアップとグループ コール ピックアップの両方を使用できます。

始める前に

コール ピックアップ グループを電話番号に割り当てるには、事前に、そのグループ用の番号を作成しておく必要があります。グループ用の番号を作成する手順については、P.43-6 の「[コール ピックアップ グループの追加](#)」を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** Device > Phone の順に選択します。
 - ステップ 2** コール ピックアップ グループに割り当てる電話機を検索するための検索条件を入力して、Find をクリックします。

検索条件と一致する電話機のリストが表示されます。
 - ステップ 3** コール ピックアップ グループ番号を割り当てる電話機を選択します。
 - ステップ 4** Directory Numbers リストから、コール ピックアップ グループ番号を割り当てられる電話番号を選択します。
 - ステップ 5** Call Pickup Group ドロップダウン リスト ボックスから、希望するコール ピックアップ グループ名を選択します。



ヒント

選択したコール ピックアップ グループについての詳細情報（コール ピックアップ グループ番号を含む）を表示するには、ドロップダウン リスト ボックスの横のカッコ内の View Details リンクをクリックします。

■ コール ピックアップグループの電話番号への割り当て

ステップ 6 変更をデータベースに保存するため、**Update** をクリックします。

関連項目

- [コール ピックアップグループの設定 \(P.43-1\)](#)
- [コール ピックアップグループ番号の検索 \(P.43-3\)](#)
- [コール ピックアップグループの追加 \(P.43-6\)](#)
- [コール ピックアップグループの更新 \(P.43-8\)](#)
- [コール ピックアップグループの削除 \(P.43-9\)](#)



Cisco IP Phone サービスの 設定

システム管理者は Cisco CallManager Administration を使用して、ユーザがサイトで登録できる Cisco IP Phone サービスのリストを設定し、保持します。Cisco IP Phone サービスは、複数の XML アプリケーションから構成されています。これらのアプリケーションにより、Cisco IP Phone 7970、7960、7940、7912 上に、テキストとグラフィックスを使用した対話式のコンテンツを表示することができます。



(注)

Cisco IP Phone 7912 および 7905 は、テキストベースの XML アプリケーションのみをサポートしています。

Cisco CallManager は、Cisco IP Phone サービスのサンプルアプリケーションを備えています。また、ご使用のサイトに合せてカスタマイズされた Cisco IP Phone アプリケーションを作成することもできます。

サービスのリストを設定すると、データベース内の電話機にサービスを追加して電話ボタンに割り当てることができます。Cisco CallManager Administration で、電話機とデバイス プロファイルの設定値を表示し、変更することができます。ユーザは、Cisco IP Phone User Options アプリケーションにログインし、システム管理者が設定した Cisco IP Phone 用のサービスに登録することができます。

ここでは、次の内容について説明します。

- [Cisco IP Phone サービスの検索 \(P.44-3 \)](#)
- [Cisco IP Phone サービスの追加 \(P.44-6 \)](#)
- [Cisco IP Phone サービスの更新 \(P.44-7 \)](#)
- [Cisco IP Phone サービスの削除 \(P.44-9 \)](#)
- [Cisco IP Phone サービスの設定値 \(P.44-11 \)](#)
- [Cisco IP Phone サービス パラメータの追加 \(P.44-12 \)](#)
- [Cisco IP Phone サービス パラメータの更新 \(P.44-14 \)](#)
- [Cisco IP Phone サービス パラメータの削除 \(P.44-16 \)](#)
- [Cisco IP Phone サービス パラメータの設定値 \(P.44-18 \)](#)

Cisco IP Phone サービスの検索

ネットワーク内にはいくつかの Cisco IP Phone サービスが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の条件を指定して、特定の Cisco IP Phone サービスを見つけることができます。Cisco IP Phone サービスを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、Cisco IP Phone サービスの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、Cisco IP Phone サービスのグループの検索設定は保持されません。

手順

ステップ 1 Feature > Cisco IP Phone Services の順に選択します。

Find and List IP Phone Services ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、Cisco IP Phone サービスを検索します。

ステップ 2 最初の Find Service where ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- IP Phone Service
- Description



(注)

このドロップダウン リスト ボックスで選択する条件によって、検索時に生成される Cisco IP Phone サービス リストのソート方法が決まります。たとえば、Description を選択すると、Description 列が結果リストの左側の列に表示されます。

2 番目の Find Service where ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、**Find** をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



ヒント データベースに登録されている Cisco IP Phone サービスをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。

検出された Cisco IP Phone サービスのリストが、次の項目別に表示されます。

- IP Phone Service icon
- IP Phone Service name
- Description



(注) 該当する Cisco IP Phone サービスの横にあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、Find and List IP Phone Services ウィンドウから複数の Cisco IP Phone サービスを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべての Cisco IP Phone サービスを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致する IP Phone Service name または Description をクリックします。

選択した Cisco IP Phone サービスがウィンドウに表示されます。

関連項目

- [Cisco IP Phone サービスの追加 \(P.44-6 \)](#)
- [Cisco IP Phone サービスの更新 \(P.44-7 \)](#)
- [Cisco IP Phone サービスの削除 \(P.44-9 \)](#)
- [Cisco IP Phone サービス パラメータの追加 \(P.44-12 \)](#)
- [Cisco IP Phone サービスの設定値 \(P.44-11 \)](#)

Cisco IP Phone サービスの追加

Cisco IP Phone サービスを追加する手順は、次のとおりです。



注意

Cisco IP Phone サービスは、サイトの Cisco CallManager サーバ上、または Cisco CallManager に関連付けられているサーバ、たとえば、TFTP サーバやディレクトリ データベース パブリッシャ サーバ上に設定しないでください。サーバを分離することにより、Cisco IP Phone サービスのアプリケーションのエラーが原因で、Cisco CallManager のパフォーマンスが影響を受けたり、コール処理サービスが中断される可能性がなくなります。

手順

ステップ 1 Feature > Cisco IP Phone Services の順に選択します。

ステップ 2 ウィンドウの右上にある **Add a New IP Phone Service** リンクをクリックします。
Cisco IP Phone Services Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 44-1 を参照)。

ステップ 4 Insert をクリックして、サービスを追加します。

サービスを追加すると、そのサービスに対してパラメータを追加し、設定することができます。詳細については、P.44-12 の「Cisco IP Phone サービス パラメータの追加」を参照してください。

関連項目

- [Cisco IP Phone サービスの検索 \(P.44-3\)](#)
- [Cisco IP Phone サービスの削除 \(P.44-9\)](#)
- [Cisco IP Phone サービスの更新 \(P.44-7\)](#)
- [Cisco IP Phone サービス パラメータの追加 \(P.44-12\)](#)
- [Cisco IP Phone サービスの設定値 \(P.44-11\)](#)

Cisco IP Phone サービスの更新

Cisco IP Phone サービスを更新する（たとえば、サービス URL やその他の情報を変更する）手順は、次のとおりです。



(注)

ユーザが加入している電話サービスに対して、サービス URL を変更したり、Cisco IP Phone サービス パラメータを削除したり、電話サービス パラメータの名前を変更したりする場合は、必ず、**Update Subscriptions** をクリックして、現在加入しているすべてのユーザを更新し、その変更内容を反映させてください。この操作を行わないと、ユーザは、サービスに再加入して、URL を正しく作成し直す必要があります。

手順

- ステップ 1** P.44-3 の「Cisco IP Phone サービスの検索」の手順を使用して、Cisco IP Phone サービスを検索します。
- ステップ 2** 更新する Cisco IP Phone サービスの名前または説明をクリックします。
- ステップ 3** 該当する設定値を更新します（表 44-1 を参照）。
- ステップ 4** 必要に応じて、パラメータを追加、更新、または削除します。P.44-12 の「Cisco IP Phone サービス パラメータの追加」、P.44-14 の「Cisco IP Phone サービス パラメータの更新」、および P.44-16 の「Cisco IP Phone サービス パラメータの削除」を参照してください。
- ステップ 5** Cisco IP Phone Services Configuration ウィンドウを更新して、変更内容を適用します。
 - サブスクリプションの後でサービスが変更された場合は、**Update Subscriptions** をクリックして、すべてのユーザ サブスクリプションを作成し直す。サブスクリプションを更新する必要があるのは、サービス URL を変更した場合、電話サービス パラメータを削除した場合、または電話サービス パラメータの名前を変更した場合です。

- 選択したサービスが最新で、ユーザ サブスクリプションを作成し直す必要がない場合は、**Update** をクリックする。
-

関連項目

- [Cisco IP Phone サービスの検索 \(P.44-3\)](#)
- [Cisco IP Phone サービスの追加 \(P.44-6\)](#)
- [Cisco IP Phone サービスの削除 \(P.44-9\)](#)
- [Cisco IP Phone サービス パラメータの追加 \(P.44-12\)](#)
- [Cisco IP Phone サービスの設定値 \(P.44-11\)](#)

Cisco IP Phone サービスの削除

Cisco IP Phone サービス パラメータを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

Cisco IP Phone サービスを削除すると、Cisco CallManager は、すべてのサービス情報、ユーザサブスクリプション、およびユーザサブスクリプションデータをデータベースから削除します。Cisco IP Phone サービスを使用しているデバイスを検索するには、Cisco IP Phone Service Configuration ウィンドウの **Dependency Records** リンクをクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。使用されている Cisco IP Phone サービスを削除しようとする、Cisco CallManager はエラー メッセージを表示します。現在使用されている Cisco IP Phone サービスを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除する Cisco IP Phone サービスを使用しているデバイスすべてに、別の Cisco IP Phone サービスを割り当てる。[P.62-12 の「電話機の更新」](#)を参照してください。
- 削除する Cisco IP Phone サービスを使用しているデバイスを削除する。[P.62-13 の「電話機の削除」](#)を参照してください。

手順

ステップ 1 [P.44-3 の「Cisco IP Phone サービスの検索」](#)の手順を使用して、Cisco IP Phone サービスを検索します。

ステップ 2 削除する Cisco IP Phone サービスの名前または説明をクリックします。

Cisco IP Phone Services Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 Delete をクリックします。

関連項目

- [Cisco IP Phone サービスの検索 \(P.44-3\)](#)
- [Cisco IP Phone サービスの追加 \(P.44-6\)](#)
- [Cisco IP Phone サービスの更新 \(P.44-7\)](#)
- [Cisco IP Phone サービスの設定値 \(P.44-11\)](#)

Cisco IP Phone サービスの設定値

表 44-1 では、Cisco IP Phone サービスの設定値について説明します。Cisco IP Phone サービス パラメータの設定値については、表 44-2 を参照してください。

表 44-1 Cisco IP Phone サービスの設定値

フィールド	説明
Service Name	Cisco IP Phone User Options アプリケーションの利用可能なサービスのメニューに表示される、サービスの名前を入力します。入力できるサービス名は最大 32 文字です。Character Set で、Japanese (Hankaku-Katakana) を選択すると、半角カタカナを使用することができます。全角文字を入力すると、"??" 疑問符に変換され正しく表示されません。また半角カタカナのサービス名は Japanese_Japan 以外のユーザ ロケールの電話機では正しく表示されませんので、ご注意ください。
Service Description	サービスが提供するコンテンツの説明を入力します。Character Set で、Japanese (Hankaku-Katakana) を選択すると、半角カタカナを使用することができます。全角文字を入力すると、"??" 疑問符に変換され正しく表示されません。
Service URL	Cisco IP Phone サービスのアプリケーションが置かれているサーバの URL を入力します。このサーバが、Cisco CallManager クラスタ内のサーバとは無関係であることを確認してください。Cisco CallManager サーバ、または Cisco CallManager に関連したサーバ、たとえば、TFTP サーバやディレクトリ データベース パブリッシャ サーバは指定しないでください。 サービスを使用するには、Cisco CallManager クラスタ内の電話機が、サーバとネットワーク接続する必要があります。
Character Set	Service Name と Description に英語以外の言語を使用している場合は、その言語の文字セットを使用します。間違った文字セットを選択すると、ユーザが入力するテキストは正しく表示されません。Character Set を変更すると、それまでの入力は消去されます。

関連項目

- [Cisco IP Phone サービスの検索 \(P.44-3\)](#)
- [Cisco IP Phone サービスの追加 \(P.44-6\)](#)
- [Cisco IP Phone サービスの更新 \(P.44-7\)](#)
- [Cisco IP Phone サービスの削除 \(P.44-9\)](#)

Cisco IP Phone サービス パラメータの追加

Cisco IP Phone サービス パラメータを追加し、設定する手順は、次のとおりです。パラメータを設定する前に、電話サービスを追加してください。サービスがパラメータを使用するかどうか、パラメータを設定する方法、およびオプションのパラメータを定義するかどうかについては、各 Cisco IP Phone サービスの資料を参照してください。

手順

- ステップ 1** P.44-3 の「Cisco IP Phone サービスの検索」の手順を使用して、Cisco IP Phone サービスを検索します。
- ステップ 2** Cisco IP Phone Services リストから、パラメータを追加するサービスを選択します。

Cisco IP Phone Services Configuration ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** Parameters リスト ボックスの右側にある New ボタンをクリックします。

Configure Cisco IP Phone Service Parameter ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 4** 適切な設定値を入力します (表 44-2 を参照)。
- ステップ 5** 新規パラメータを追加するには、Insert をクリックします。
- ステップ 6** 続けて他のパラメータを追加する場合は、必要に応じてステップ 4 およびステップ 5 を繰り返します。
- ステップ 7** 最後のパラメータを追加する場合は、Insert and Close をクリックします。

ステップ 8 Cisco IP Phone Services Configuration ウィンドウを更新して、変更内容を適用します。

- サブスクリプションの後でサービスが変更された場合は、**Update Subscriptions** をクリックして、すべてのユーザ サブスクリプションを作成し直す。サブスクリプションを更新する必要があるのは、サービス URL を変更した場合、電話サービス パラメータを削除した場合、または電話サービス パラメータの名前を変更した場合です。
- 選択したサービスが最新で、ユーザ サブスクリプションを作成し直す必要がない場合は、**Update** をクリックする。

関連項目

- [Cisco IP Phone サービスの検索 \(P.44-3\)](#)
- [Cisco IP Phone サービスの追加 \(P.44-6\)](#)
- [Cisco IP Phone サービスの削除 \(P.44-9\)](#)
- [Cisco IP Phone サービスの更新 \(P.44-7\)](#)
- [Cisco IP Phone サービス パラメータの更新 \(P.44-14\)](#)
- [Cisco IP Phone サービス パラメータの削除 \(P.44-16\)](#)
- [Cisco IP Phone サービス パラメータの設定値 \(P.44-18\)](#)

Cisco IP Phone サービス パラメータの更新

特定の Cisco IP Phone サービスのサービス パラメータを更新する手順は、次のとおりです。



ユーザが加入している電話サービスに対して、Cisco IP Phone サービス パラメータを削除したり、電話サービス パラメータの名前を変更したりする場合は、必ず、**Update Subscriptions** をクリックして、現在加入しているすべてのユーザを更新して、その変更内容を反映させてください。この操作を行わないと、ユーザは、サービスに再加入して、URL を正しく作成し直す必要があります。

手順

- ステップ 1** P.44-3 の「[Cisco IP Phone サービスの検索](#)」の手順を使用して、Cisco IP Phone サービスを検索します。
- ステップ 2** Cisco IP Phone Services リストから、更新する電話サービスを選択します。

Cisco IP Phone Services Configuration ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** Parameters リスト ボックスで、更新するパラメータの名前を選択します。
- ステップ 4** Edit をクリックします。
- ステップ 5** 該当する設定値を更新します ([表 44-2](#) を参照)。
- ステップ 6** 変更内容を適用するには、Update をクリックします。変更を適用した後、ダイアログをクローズするには、Update and Close をクリックします。

ステップ 7 Cisco IP Phone Services Configuration ウィンドウを更新して、変更内容を適用します。

- サブスクリプションの後でサービスが変更された場合は、**Update Subscriptions** をクリックして、すべてのユーザ サブスクリプションを作成し直す。サブスクリプションを更新する必要があるのは、サービス URL を変更した場合、電話サービス パラメータを削除した場合、または電話サービス パラメータの名前を変更した場合です。
- 選択したサービスが最新で、ユーザ サブスクリプションを作成し直す必要がない場合は、**Update** をクリックする。

関連項目

- [Cisco IP Phone サービスの検索 \(P.44-3\)](#)
- [Cisco IP Phone サービス パラメータの削除 \(P.44-16\)](#)
- [Cisco IP Phone サービスの設定値 \(P.44-11\)](#)
- [Cisco IP Phone サービス パラメータの設定値 \(P.44-18\)](#)

Cisco IP Phone サービス パラメータの削除

Cisco IP Phone サービス パラメータを削除する手順は、次のとおりです。



ユーザが加入している電話サービスに対して、電話サービス パラメータを削除したり、電話サービス パラメータの名前を変更したりする場合は、**Update Subscriptions** をクリックして、現在加入しているすべてのユーザを更新して、その変更内容を反映させる必要があります。この操作を行わないと、ユーザは、サービスに再加入して、URL を正しく作成し直す必要があります。

手順

- ステップ 1** P.44-3 の「Cisco IP Phone サービスの検索」の手順を使用して、Cisco IP Phone サービスを検索します。
- ステップ 2** Cisco IP Phone Services リストから、パラメータを削除する電話サービスを選択します。
- ステップ 3** Parameters リスト ボックスで、削除するパラメータの名前を選択します。
- ステップ 4** Delete をクリックします。
- ステップ 5** OK をクリックして、削除を確認します。
- ステップ 6** Cisco IP Phone Services Configuration ウィンドウを更新して、変更内容を適用します。
 - サブスクリプションの後でサービスが変更された場合は、**Update Subscriptions** をクリックして、すべてのユーザ サブスクリプションを作成し直す。サブスクリプションを更新する必要があるのは、サービス URL を変更した場合、電話サービス パラメータを削除した場合、または電話サービス パラメータの名前を変更した場合です。

- 選択したサービスが最新で、ユーザ サブスクリプションを作成し直す必要がない場合は、**Update** をクリックする。
-

関連項目

- [Cisco IP Phone サービス パラメータの更新 \(P.44-14 \)](#)
- [Cisco IP Phone サービス パラメータの追加 \(P.44-12 \)](#)
- [Cisco IP Phone サービスの検索 \(P.44-3 \)](#)
- [Cisco IP Phone サービスの削除 \(P.44-9 \)](#)
- [Cisco IP Phone サービス パラメータの設定値 \(P.44-18 \)](#)

Cisco IP Phone サービス パラメータの設定値

表 44-2 では、Cisco IP Phone サービス パラメータの設定値について説明します。

表 44-2 Cisco IP Phone サービス パラメータの設定値

フィールド	説明
Parameter Name	登録 URL の作成時に使用する正確なクエリー スtring パラメータ、たとえば、「symbol」を入力します。
Parameter Display Name	Cisco IP Phone User Options アプリケーションでユーザに対して表示される内容を表すパラメータ名、たとえば、「Ticker Symbol」を入力します。
Default Value	パラメータのデフォルト値を入力します。この値は、サービスの最初の登録時にユーザに対して表示されます（たとえば、「CSCO」）。
Parameter Description	パラメータの説明を入力します。ユーザは、サービスに登録する際、ここに入力されたテキストにアクセスできます。このパラメータの説明では、ユーザがそのパラメータに正しい値を入力するために役立つ情報や例を提供します。
Parameter is Required	登録を保存する前に、ユーザがこのパラメータにデータを入力する必要がある場合は、Parameter is Required チェックボックスをオンにします。
Parameter is a Password (mask contents)	Cisco IP Phone User Options アプリケーション内の入力内容を隠すことができます。したがって、実際にユーザが入力した内容ではなく、アスタリスクが表示されます。他人に見られなくないパスワードのパラメータなどに対して、使用することができます。パラメータの入力内容を隠すには、Cisco CallManager Administration の Configure Cisco IP Phone Service Parameter ウィンドウで、Parameter is a Password (mask contents) チェックボックスをオンにします。

Cisco IP Phone サービスの電話ボタンへの追加

Cisco IP Phone サービスを追加するだけでなく、電話機でユーザが使用できるように、サービス URL として設定されている電話ボタンにサービスを割り当てることができます。これを行うと、IP Phone のサービス ボタンを使用しないで、1 つのボタンでサービスにアクセスできます。

サービス URL にサービスを追加する手順は、次のとおりです。

1. Cisco CallManager にサービスを追加します (P.44-6 の「Cisco IP Phone サービスの追加」を参照)。
2. サービス URL ボタンを設定して、電話ボタン テンプレートをカスタマイズします (P.64-5 の「電話ボタン テンプレートの追加」を参照)。
3. カスタマイズした電話ボタン テンプレートを電話機に追加します (P.62-5 の「電話機の追加」を参照)。
4. サービスを電話機に登録します (P.62-43 の「Cisco IP Phone サービスの設定」を参照)。
5. サービス URL を電話ボタンに追加します (P.62-47 の「サービス URL ボタンの設定」を参照)。

関連項目

- Cisco IP Phone サービスの検索 (P.44-3)
- Cisco IP Phone サービスの追加 (P.44-6)
- Cisco IP Phone サービスの更新 (P.44-7)
- Cisco IP Phone サービスの削除 (P.44-9)
- Cisco IP Phone サービス パラメータの追加 (P.44-12)
- Cisco IP Phone サービス パラメータの更新 (P.44-14)
- Cisco IP Phone サービス パラメータの削除 (P.44-16)

■ Cisco IP Phone サービスの電話ボタンへの追加



クライアント マターコード (CMC)

Client Matter Code (CMC) 機能を使用すると、コール アカウンティングおよび支払請求可能なクライアントに対する課金を管理できます。クライアント マターコードでは、コードを入力して、コールが特定のクライアント マターに関連していることを指定する必要があります。クライアント マターコードは、コール アカウンティングおよび課金の目的で、カスタマー、学生、またはその他の人々に割り当てることができます。

CMC 機能では、ルート パターンを変更し、ダイヤル プランのドキュメントを更新して、各ルート パターンに対して使用可能または使用不可にした CMC を反映させる必要があります。

この機能の使用方法和設定方法の詳細については、『*Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド*』の「Client Matter Codes と Forced Authorization Codes」の章を参照してください。



Forced Authorization Code (FAC)

Forced Authorization Code (FAC) 機能を使用すると、特定のユーザが発信できるコールのタイプを調整できます。この機能では、コールが完了する前に電話機に有効な許可コードを入力する必要があります。

FAC 機能では、ルートパターンを変更し、ダイヤルプランのドキュメントを更新して、各ルートパターンに対して使用可能または使用不可にした FAC を反映させる必要があります。

この機能の使用方法和設定方法の詳細については、『*Cisco CallManager 機能およびサービスガイド*』の「Client Matter Codes と Forced Authorization Codes」の章を参照してください。



Meet-Me Number/Pattern の設定

Meet-Me 会議では、電話番号の割り当てが必要です。Cisco CallManager Administration は、ユーザがこの機能を利用できるように、一連の Meet-Me 会議電話番号をユーザに通知しておく必要があります。

ここでは、次の内容について説明します。

- [Meet-Me Number/Pattern の検索 \(P.47-2 \)](#)
- [Meet-Me Number/Pattern のコピー \(P.47-4 \)](#)
- [Meet-Me Number/Pattern の追加 \(P.47-6 \)](#)
- [Meet-Me Number/Pattern の更新 \(P.47-7 \)](#)
- [Meet-Me Number/Pattern の削除 \(P.47-9 \)](#)
- [Meet-Me Number/Pattern の設定値 \(P.47-10 \)](#)

Meet-Me Number/Pattern の検索

ネットワーク内にはいくつかの Meet-Me Number/Pattern が存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の条件を指定して、特定の Meet-Me Number/Pattern を見つけることができます。Meet-Me Number/Pattern を見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、Meet-Me Number/Pattern の検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、Meet-Me Number/Pattern の検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 Feature > Meet-Me Number/Pattern の順に選択します。

Find and List Meet-Me Numbers ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、Meet-Me Number/Pattern を検索します。

ステップ 2 最初の Find Number/Pattern where ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- Number
- Partition
- Description



(注)

このドロップダウン リスト ボックスで選択する条件によって、検索時に生成される Meet-Me Number/Pattern リストのソート方法が決まります。たとえば、Partition を選択すると、Partition 列が結果リストの左側の列に表示されます。

2 番目の Find Number/Pattern where ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、**Find** をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



ヒント

データベースに登録されている Meet-Me Number/Pattern をすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。

検出された Meet-Me Number/Pattern のリストが、次の項目別に表示されます。

- Meet-Me Number/Pattern icon
- Meet-Me Number/Pattern
- Partition
- Description



(注) 該当する Meet-Me Number/Pattern の横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Meet-Me Numbers ウィンドウから複数の Meet-Me Number/Pattern を削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内の Meet-Me Number/Pattern をすべて削除できます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致する Meet-Me Number/Pattern icon、番号、関連する Partition、または Description をクリックします。

選択した Meet-Me Number/Pattern がウィンドウに表示されます。

関連項目

- [Meet-Me Number/Pattern の追加 \(P.47-6 \)](#)
- [Meet-Me Number/Pattern の更新 \(P.47-7 \)](#)
- [Meet-Me Number/Pattern の削除 \(P.47-9 \)](#)
- [Meet-Me Number/Pattern の設定値 \(P.47-10 \)](#)

Meet-Me Number/Pattern のコピー

Meet-Me Number/Pattern をコピーする手順は、次のとおりです。

始める前に

次の条件を満たしていることを確認してから手順に進んでください。

- サーバが設定済みであること。P.2-1 の「[サーバの設定](#)」を参照してください。
- デバイス プールが設定済みであること。P.8-1 の「[デバイス プールの設定](#)」を参照してください。

手順

ステップ 1 Feature > Meet-Me Number/Pattern の順に選択します。

ステップ 2 P.47-2 の「[Meet-Me Number/Pattern の検索](#)」の手順を使用して、コピーする Meet-Me Number/Pattern を検索します。

ステップ 3 コピーする Meet-Me Number/Pattern をクリックします。

Meet-Me Number/Pattern Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 Copy をクリックします。

ステップ 5 適切な設定値を入力します ([表 47-1](#) を参照) 。

ステップ 6 Insert をクリックして、新規 Meet-Me Number/Pattern をデータベースに保存します。

関連項目

- [Meet-Me Number/Pattern の検索 \(P.47-2 \)](#)
- [Meet-Me Number/Pattern の更新 \(P.47-7 \)](#)
- [Meet-Me Number/Pattern の削除 \(P.47-9 \)](#)
- [ソフトウェア コンファレンス デバイスの追加 \(P.33-6 \)](#)
- [ハードウェア コンファレンス デバイスの追加 \(P.33-10 \)](#)
- [Cisco IOS Conference Bridge デバイスの追加 \(P.33-14 \)](#)
- [コンファレンス デバイスの更新 \(P.33-25 \)](#)
- [コンファレンス デバイスの削除 \(P.33-27 \)](#)
- [Conference Bridge のパラメータの更新 \(P.33-29 \)](#)
- [パーティションの設定 \(P.19-1 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Conference Bridge」

Meet-Me Number/Pattern の追加

Meet-Me Number/Pattern を追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

次の条件を満たしていることを確認してから手順に進んでください。

- サーバが設定済みであること。P.2-1 の「[サーバの設定](#)」を参照してください。
- デバイス プールが設定済みであること。P.8-1 の「[デバイス プールの設定](#)」を参照してください。

手順

ステップ 1 Feature > Meet-Me Number/Pattern の順に選択します。

ステップ 2 ウィンドウの右上にある **Add a New Meet-Me Number** リンクをクリックします。

Meet-Me Number/Pattern Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 47-1 を参照)。

ステップ 4 **Insert** をクリックして、新規 Meet-Me Number/Pattern をデータベースに保存します。

関連項目

- [Meet-Me Number/Pattern の検索](#) (P.47-2)
- [Meet-Me Number/Pattern の更新](#) (P.47-7)
- [Meet-Me Number/Pattern の削除](#) (P.47-9)
- [ソフトウェア コンファレンス デバイスの追加](#) (P.33-6)
- [ハードウェア コンファレンス デバイスの追加](#) (P.33-10)
- [Cisco IOS Conference Bridge デバイスの追加](#) (P.33-14)
- [コンファレンス デバイスの更新](#) (P.33-25)

- [コンファレンス デバイスの削除 \(P.33-27\)](#)
- [Conference Bridge のパラメータの更新 \(P.33-29\)](#)
- [パーティションの設定 \(P.19-1\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Conference Bridge」

Meet-Me Number/Pattern の更新

Meet-Me Number/Pattern を更新する手順は、次のとおりです。

始める前に

次の条件を満たしていることを確認してから手順に進んでください。

- サーバが設定済みであること。P.2-1 の「[サーバの設定](#)」を参照してください。
- デバイス プールが設定済みであること。P.8-1 の「[デバイス プールの設定](#)」を参照してください。
- Meet-Me Number/Pattern が設定済みであること。P.47-6 の「[Meet-Me Number/Pattern の追加](#)」を参照してください。

手順

ステップ 1 P.47-2 の「[Meet-Me Number/Pattern の検索](#)」の手順を使用して、Meet-Me Number/Pattern を検索します。

ステップ 2 更新する Meet-Me Number/Pattern をクリックします。

ステップ 3 該当する設定値を更新します (表 47-1 を参照)。



(注) 必要に応じて、番号またはパターンを変更することができます (たとえば、5000 を 500X に変更できます)。

ステップ 4 Update をクリックして、変更内容を保存します。

関連項目

- [ソフトウェア コンファレンス デバイスの追加 \(P.33-6 \)](#)
- [ハードウェア コンファレンス デバイスの追加 \(P.33-10 \)](#)
- [Cisco IOS Conference Bridge デバイスの追加 \(P.33-14 \)](#)
- [コンファレンス デバイスの更新 \(P.33-25 \)](#)
- [コンファレンス デバイスの削除 \(P.33-27 \)](#)
- [Conference Bridge のパラメータの更新 \(P.33-29 \)](#)
- [Meet-Me Number/Pattern の検索 \(P.47-2 \)](#)
- [Meet-Me Number/Pattern の追加 \(P.47-6 \)](#)
- [Meet-Me Number/Pattern の削除 \(P.47-9 \)](#)
- [パーティションの設定 \(P.19-1 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Conference Bridge」

Meet-Me Number/Pattern の削除

Meet-Me Number/Pattern を削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

次の条件を満たしていることを確認してから手順に進んでください。

- サーバが設定済みであること。
- デバイス プールが設定済みであること。
- Meet-Me Number/Pattern が設定済みであること。

手順

-
- ステップ 1** P.47-2 の「[Meet-Me Number/Pattern の検索](#)」の手順を使用して、Meet-Me Number/Pattern を検索します。
- ステップ 2** 削除する Meet-Me Number/Pattern をクリックします。
- ステップ 3** Delete をクリックします。
-

関連項目

- [ソフトウェア コンファレンス デバイスの追加 \(P.33-6\)](#)
- [ハードウェア コンファレンス デバイスの追加 \(P.33-10\)](#)
- [Cisco IOS Conference Bridge デバイスの追加 \(P.33-14\)](#)
- [コンファレンス デバイスの更新 \(P.33-25\)](#)
- [コンファレンス デバイスの削除 \(P.33-27\)](#)
- [Conference Bridge のパラメータの更新 \(P.33-29\)](#)
- [Meet-Me Number/Pattern の検索 \(P.47-2\)](#)
- [Meet-Me Number/Pattern の追加 \(P.47-6\)](#)
- [Meet-Me Number/Pattern の更新 \(P.47-7\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Conference Bridge」

Meet-Me Number/Pattern の設定値

表 47-1 では、Meet-Me Number/Pattern の設定値について説明します。

表 47-1 Meet-Me Number/Pattern の設定値

フィールド	説明
Directory Number or Pattern	Meet-Me の電話番号または番号の範囲 (たとえば、8000 ~ 8009) を入力します。
Description	Meet-Me Number/Pattern を説明する最大 30 文字の英数字を入力します。

表 47-1 Meet-Me Number/Pattern の設定値 (続き)

フィールド	説明
Partition	<p>パーティションを使用して Meet-Me Number/Pattern へのアクセスを制限する場合は、ドロップダウン リスト ボックスから適切なパーティションを選択します。</p> <p>Meet-Me Number/Pattern へのアクセスを制限しない場合は、パーティションに <None> を選択します。詳細については、P.19-1 の「パーティションの設定」を参照してください。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するパーティションの数を設定することができます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで設定された数よりもパーティションの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リスト ボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Partition ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにパーティション名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるパーティションのリストで希望するパーティション名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、System > Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。</p> <p> (注) Meet-Me Number/Pattern とパーティションの組み合わせが、Cisco CallManager クラスタ内で固有であることを確認してください。</p>

関連項目

- [Meet-Me Number/Pattern の検索 \(P.47-2 \)](#)
- [Meet-Me Number/Pattern の追加 \(P.47-6 \)](#)
- [Meet-Me Number/Pattern の更新 \(P.47-7 \)](#)
- [Meet-Me Number/Pattern の削除 \(P.47-9 \)](#)

■ Meet-Me Number/Pattern の設定値



デバイス モビリティ グループ の設定

デバイス モビリティ グループでは、デバイス モビリティ機能がサポートされています。デバイス モビリティ グループは、ネットワーク内の最高レベルの地理的なエンティティを表します。ネットワークのサイズとスコープに応じて、デバイス モビリティ グループは国、地域、都道府県、市などのエンティティを表します。たとえば、世界全体にネットワークを持つ企業は個々の国を表すデバイス モビリティ グループを選択し、国または地域にネットワークを持つ企業は都道府県や市を表すデバイス モビリティ グループを定義することがあります。

デバイス モビリティ グループを設定するには、次のトピックを参照してください。

- [デバイス モビリティ グループの検索 \(P.48-2\)](#)
- [デバイス モビリティ グループの追加 \(P.48-3\)](#)
- [デバイス モビリティ グループの更新 \(P.48-4\)](#)
- [デバイス モビリティ グループのコピー \(P.48-5\)](#)
- [デバイス モビリティ グループの削除 \(P.48-6\)](#)
- [デバイス モビリティ グループの設定値 \(P.48-7\)](#)

デバイス モビリティ機能の詳細については、『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「Cisco CallManager デバイス モビリティ」を参照してください。

デバイス モビリティ グループの検索

ネットワーク内にはいくつかのデバイス モビリティ グループが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の条件を指定して、特定のデバイス モビリティ グループを見つけることができます。デバイス モビリティ グループを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

ブラウザ セッションでの作業中、Cisco CallManager Administration では、デバイス モビリティ グループの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻る場合、検索を変更するかブラウザを閉じるまで、Cisco CallManager Administration によってデバイス モビリティ グループの検索設定が保持されます。

手順

ステップ 1 Feature > Device Mobility > Device Mobility Group の順に選択します。

Find and List Device Mobility Groups ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 デバイス モビリティ グループの検索条件を選択し、Find をクリックします。使用可能なデバイス モビリティ グループをすべて一覧表示するには、検索条件を空白のままにして、Find をクリックします。

関連項目

- [デバイス モビリティ グループの追加 \(P.48-3\)](#)
- [デバイス モビリティ グループの更新 \(P.48-4\)](#)
- [デバイス モビリティ グループのコピー \(P.48-5\)](#)
- [デバイス モビリティ グループの削除 \(P.48-6\)](#)
- [デバイス モビリティ グループの設定値 \(P.48-7\)](#)

デバイス モビリティ グループの追加

電話番号のデバイス モビリティ グループを追加する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** デバイス モビリティ グループを選択するか、**Add a New Device Mobility Group** リンクをクリックします。
 - ステップ 2** 適切な設定値を設定します (表 48-1 を参照)。
 - ステップ 3** 新規デバイス モビリティ グループを追加するには、**Insert** をクリックします。既存のデバイス モビリティ グループの設定を更新するには、**Update** をクリックします。
-

関連項目

- [デバイス モビリティ グループの検索 \(P.48-2\)](#)
- [デバイス モビリティ グループの更新 \(P.48-4\)](#)
- [デバイス モビリティ グループのコピー \(P.48-5\)](#)
- [デバイス モビリティ グループの削除 \(P.48-6\)](#)
- [デバイス モビリティ グループの設定値 \(P.48-7\)](#)

デバイス モビリティ グループの更新

既存のデバイス モビリティ グループを更新する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** P.48-2 の「[デバイス モビリティ グループの検索](#)」の手順に従って、コピーするデバイス モビリティ グループを見つけます。
- ステップ 2** [表 48-1](#) の説明に従って、デバイス モビリティ グループの設定を更新します。
- ステップ 3** Update をクリックします。
-

関連項目

- [デバイス モビリティ グループの検索 \(P.48-2\)](#)
- [デバイス モビリティ グループの追加 \(P.48-3\)](#)
- [デバイス モビリティ グループのコピー \(P.48-5\)](#)
- [デバイス モビリティ グループの削除 \(P.48-6\)](#)
- [デバイス モビリティ グループの設定値 \(P.48-7\)](#)

デバイス モビリティ グループのコピー

既存のデバイス モビリティ グループをコピーする手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** P.48-2 の「[デバイス モビリティ グループの検索](#)」の手順に従って、コピーするデバイス モビリティ グループを見つけます。
 - ステップ 2** コピーするプロファイルの横にあるコピー アイコンをクリックします。
 - ステップ 3** デバイス モビリティ グループの設定値の更新については、[表 48-1](#) を参照してください。
 - ステップ 4** Insert をクリックします。
-

関連項目

- [デバイス モビリティ グループの検索 \(P.48-2\)](#)
- [デバイス モビリティ グループの追加 \(P.48-3\)](#)
- [デバイス モビリティ グループの更新 \(P.48-4\)](#)
- [デバイス モビリティ グループの削除 \(P.48-6\)](#)
- [デバイス モビリティ グループの設定値 \(P.48-7\)](#)

デバイス モビリティ グループの削除

デバイス モビリティ グループが現在デバイス プールで使用中の場合は、削除できません。デバイス モビリティ グループを削除するには、Dependency Records から関連するデバイス プールを検索して、関連を解除してから、デバイス モビリティ グループを削除する必要があります。

手順

-
- ステップ 1** P.48-2 の「[デバイス モビリティ グループの検索](#)」の手順に従って、削除するデバイス モビリティ グループを見つけます。
 - ステップ 2** 削除するデバイス モビリティ グループの横にあるチェックボックスをオンにします。ウィンドウ内のすべてのデバイス モビリティ グループを選択するには、Matching Records タイトルバーのチェックボックスをオンにします。
 - ステップ 3** **Delete Selected** をクリックします。
 - ステップ 4** **OK** をクリックして、選択を確認します。
-

関連項目

- [デバイス モビリティ グループの検索](#) (P.48-2)
- [デバイス モビリティ グループの追加](#) (P.48-3)
- [デバイス モビリティ グループの更新](#) (P.48-4)
- [デバイス モビリティ グループのコピー](#) (P.48-5)
- [デバイス モビリティ グループの設定値](#) (P.48-7)

デバイス モビリティ グループの設定値

表 48-1 では、デバイス モビリティ グループの設定値について説明します。

表 48-1 デバイス モビリティ グループの設定値

フィールド	説明
Device Mobility Group Name	デバイス モビリティ グループを識別する名前を入力します。
Description	プロファイルの説明を記述します。

関連項目

- [デバイス モビリティ グループの検索 \(P.48-2\)](#)
- [デバイス モビリティ グループの追加 \(P.48-3\)](#)
- [デバイス モビリティ グループの更新 \(P.48-4\)](#)
- [デバイス モビリティ グループのコピー \(P.48-5\)](#)
- [デバイス モビリティ グループの削除 \(P.48-6\)](#)

■ デバイス モビリティ グループの設定値



デバイス モビリティ情報の設定

Device Mobility Info ウィンドウで、デバイス モビリティに使用するサブネットおよびデバイス プールを指定します。電話機を Cisco CallManager に登録すると、Device Mobility Info ウィンドウで指定され、デバイス プールの 1 つに関連付けられたデバイスの IP アドレスが、デバイス モビリティ サブネットと比較されます。

一致するサブネットが、デバイス モビリティを目的としたデバイスのホーム サブネットになります。

デバイス モビリティ情報を設定するには、次のトピックを参照してください。

- [デバイス モビリティ情報の検索 \(P.49-2\)](#)
- [デバイス モビリティ情報の追加 \(P.49-3\)](#)
- [デバイス モビリティ情報の更新 \(P.49-4\)](#)
- [デバイス モビリティ情報のコピー \(P.49-5\)](#)
- [デバイス モビリティ情報の削除 \(P.49-6\)](#)
- [デバイス モビリティ情報の設定値 \(P.49-7\)](#)

デバイス モビリティ機能の詳細については、『Cisco CallManager 機能およびサービスガイド』の「Cisco CallManager デバイス モビリティ」を参照してください。

デバイス モビリティ情報の検索

ネットワーク内にはいくつかのデバイス モビリティ情報レコードが存在することがあるので、Cisco CallManager Administration では、固有の条件を指定して、特定のデバイス モビリティ情報を見つけることができます。デバイス モビリティ情報を見つける手順は、次のとおりです。



(注) ブラウザ セッションでの作業中、Cisco CallManager Administration では、デバイス モビリティ情報の検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻る場合、検索を変更するかブラウザを閉じるまで、Cisco CallManager Administration によってデバイス モビリティ情報の検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 Feature > Device Mobility > Device Mobility Info の順に選択します。

Find and List Device Mobility Infos ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 デバイス モビリティ情報の検索条件を選択し、**Find** をクリックします。使用可能なデバイス モビリティ情報レコードをすべて一覧表示するには、検索条件を空白のままにして、**Find** をクリックします。

関連項目

- [デバイス モビリティ情報の追加 \(P.49-3\)](#)
- [デバイス モビリティ情報の更新 \(P.49-4\)](#)
- [デバイス モビリティ情報のコピー \(P.49-5\)](#)
- [デバイス モビリティ情報の削除 \(P.49-6\)](#)
- [デバイス モビリティ情報の設定値 \(P.49-7\)](#)

デバイス モビリティ情報の追加

デバイス モビリティ情報を追加する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** Feature > Device Mobility > Device Mobility Info の順に選択します。
 - ステップ 2** Add a New Device Mobility Info リンクをクリックします。
 - ステップ 3** 適切な設定値を設定します (表 49-1 を参照)。
 - ステップ 4** Insert をクリックします。
-

関連項目

- [デバイス モビリティ情報の検索 \(P.49-2\)](#)
- [デバイス モビリティ情報の更新 \(P.49-4\)](#)
- [デバイス モビリティ情報のコピー \(P.49-5\)](#)
- [デバイス モビリティ情報の削除 \(P.49-6\)](#)
- [デバイス モビリティ情報の設定値 \(P.49-7\)](#)

デバイス モビリティ情報の更新

既存のデバイス モビリティ情報レコードを更新する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** P.49-2 の「[デバイス モビリティ情報の検索](#)」の手順に従って、コピーするデバイス モビリティ情報を見つけます。
- ステップ 2** デバイス モビリティ情報の設定値の更新については、[表 49-1](#) を参照してください。
- ステップ 3** **Insert** をクリックします。
-

関連項目

- [デバイス モビリティ情報の検索](#) (P.49-2)
- [デバイス モビリティ情報の追加](#) (P.49-3)
- [デバイス モビリティ情報のコピー](#) (P.49-5)
- [デバイス モビリティ情報の削除](#) (P.49-6)
- [デバイス モビリティ情報の設定値](#) (P.49-7)

デバイス モビリティ情報のコピー

既存のデバイス モビリティ情報をコピーする手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** P.49-2 の「[デバイス モビリティ情報の検索](#)」の手順に従って、コピーするデバイス モビリティ情報を見つけます。
 - ステップ 2** コピーするプロファイルの横にあるコピー アイコンをクリックします。
 - ステップ 3** デバイス モビリティ情報の設定値の更新については、[表 49-1](#) を参照してください。
 - ステップ 4** **Insert** をクリックします。
-

関連項目

- [デバイス モビリティ情報の検索](#) (P.49-2)
- [デバイス モビリティ情報の追加](#) (P.49-3)
- [デバイス モビリティ情報の更新](#) (P.49-4)
- [デバイス モビリティ情報の削除](#) (P.49-6)
- [デバイス モビリティ情報の設定値](#) (P.49-7)

デバイス モビリティ情報の削除

現在デバイスで使用されているデバイス モビリティ情報を削除する場合、Cisco CallManager では、『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「Cisco CallManager デバイス モビリティ」の説明に従って、該当するデバイス モビリティ規則が再適用されます。

デバイス モビリティ情報レコードを削除する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** P.49-2 の「[デバイス モビリティ情報の検索](#)」の手順に従って、削除するデバイス モビリティ情報を見つけます。
 - ステップ 2** 削除するデバイス モビリティ レコードの横にあるチェックボックスをオンにします。ウィンドウ内のレコードをすべて選択するには、Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにします。
 - ステップ 3** **Delete Selected** をクリックします。
 - ステップ 4** **OK** をクリックして、選択を確認します。
-

関連項目

- [デバイス モビリティ情報の検索 \(P.49-2\)](#)
- [デバイス モビリティ情報の追加 \(P.49-3\)](#)
- [デバイス モビリティ情報の更新 \(P.49-4\)](#)
- [デバイス モビリティ情報のコピー \(P.49-5\)](#)
- [デバイス モビリティ情報の設定値 \(P.49-7\)](#)

デバイス モビリティ情報の設定値

表 49-1 では、デバイス モビリティ情報の設定値について説明します。

表 49-1 デバイス モビリティ情報の設定値

フィールド	説明
Name	デバイス モビリティ情報レコードを識別する名前を入力します。
Subnet	デバイス モビリティ サブネットを入力します。
Subnet mask	サブネットのサブネット マスクを入力します。
Available Device Pools	<p>2 つのリスト ボックス間の下矢印をクリックして、Available Device Pools リスト ボックスからデバイス プールを選択します。</p> <p>連続してリストされている複数のデバイス プールを追加するには、その範囲内の最初のデバイス プールをクリックし、Shift キーを押したままその範囲内の最後のデバイス プールをクリックします。2 つのリスト ボックス間にある下矢印ボタンをクリックして、選択したデバイス プールを追加します。</p> <p>連続してリストされていない複数のデバイス プールを追加するには、Ctrl キーを押したままデバイス プールをクリックしていきます。2 つのリスト ボックス間にある下矢印ボタンをクリックして、選択したデバイス プールを追加します。</p>
Selected Device Pools	デバイス モビリティ レコードから削除するデバイス プールを選択して、ダブルクリックするか上矢印を使用して、デバイス プールを Available Device Pool フィールドに戻します。

関連項目

- [デバイス モビリティ情報の検索 \(P.49-2\)](#)
- [デバイス モビリティ情報の追加 \(P.49-3\)](#)
- [デバイス モビリティ情報の更新 \(P.49-4\)](#)
- [デバイス モビリティ情報のコピー \(P.49-5\)](#)
- [デバイス モビリティ情報の削除 \(P.49-6\)](#)

■ デバイス モビリティ情報の設定値



Cisco ボイスメール ポートの設定

オプションのソフトウェアである Cisco Unity は、Cisco IP テレフォニー ソリューションの一環として利用され、ユーザがコールに応答できないときに、ボイスメッセージ機能を提供します。この項では Cisco ボイスメール ポートの追加、設定、更新、および削除に必要な手順について説明します。この手順は Cisco CallManager ウィンドウの Feature メニューから Voice Mail を選び、サブメニュー オプションを選択することによって実行できます。

Cisco Unity の設定の詳細については、『*Cisco CallManager 4.0 Integration Guide for Cisco Unity 4.0*』を参照してください。

Cisco Unity ボイスメール サーバに関連したポートは、Cisco Voice Mail Port Wizard を使用せずに、Cisco CallManager データベースに追加したり、削除したりすることができます。ここでは、次の内容について説明します。

- [Cisco ボイスメール ポートの検索 \(P.50-2\)](#)
- [Cisco ボイスメール ポートの追加 \(P.50-5\)](#)
- [Cisco ボイスメール ポートの削除 \(P.50-6\)](#)
- [Cisco ボイスメール ポートの更新 \(P.50-8\)](#)
- [既存の Cisco ボイスメール ポートのコピー \(P.50-9\)](#)
- [Cisco ボイスメール ポートの設定値 \(P.50-11\)](#)

Cisco ボイスメール ポートの検索

通常ネットワーク内にはいくつかの Cisco ボイスメール ポートが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の条件を指定して、特定の Cisco ボイスメール ポートを見つけることができます。Cisco ボイスメール ポートを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザセッションでの作業中は、Cisco ボイスメール ポートの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、Cisco ボイスメール ポートの検索設定は保持されません。

手順

ステップ 1 Feature > Voice Mail > Cisco Voice Mail Port の順に選択します。

Find and List Voice Mail Ports ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、Cisco ボイスメール ポートを検索します。

ステップ 2 最初の Find voice mail ports where ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- Device Name
- Description
- Directory Number
- Calling Search Space
- Device Pool



(注)

このドロップダウン リスト ボックスで選択する条件によって、検索時に生成される Cisco ボイスメール ポート リストのソート方法が決まります。たとえば、Device Pool を選択すると、Device Pool 列が結果リストの左側の列に表示されます。

2 番目の Find voice mail ports where ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is empty (空白)
- is not empty (非空白)

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



ヒント

データベースに登録されている Cisco ボイスメール ポートをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。

検出された Cisco ボイスメール ポートのリストが、次の項目別に表示されます。

- Voice Mail Port icon
- Device Name
- Description
- Device Pool
- Status (状況)
- IP Address



(注)

該当する Cisco ボイスメール ポートの横にあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、Find and List Voice Mail Ports ウィンドウから複数の Cisco ボイスメール ポートを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべての Cisco ボイスメール ポートを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致する Voice Mail Port icon、Device Name、Description、または関連する Device Pool をクリックします。

選択した Cisco ボイスメール ポートがウィンドウに表示されます。

関連項目

- [Cisco ボイスメール ポートの追加 \(P.50-5\)](#)
- [Cisco ボイスメール ポートの削除 \(P.50-6\)](#)
- [Cisco ボイスメール ポートの更新 \(P.50-8\)](#)
- [既存の Cisco ボイスメール ポートのコピー \(P.50-9\)](#)

Cisco ボイスメール ポートの追加

Cisco Unity ボイス メッセージ システムを Cisco CallManager に接続するには、Cisco CallManager データベースに Cisco ボイスメール ポートを追加する必要があります。



ヒント

新規 Cisco ボイスメール サーバとポートを追加したり、既存のサーバに複数のポートを追加するには、この項で説明されている手順のほかに、Cisco Voice Mail Port Wizard を使用することもできます。詳細については、[P.51-1](#) の「[Cisco ボイスメール ポート ウィザード](#)」を参照してください。

個々の Cisco ボイスメール ポートを Cisco CallManager データベースに追加する手順は、次の通りです。

手順

- ステップ 1** Feature > Voice Mail > Cisco Voice Mail Port の順に選択します。
- ステップ 2** ウィンドウの右上にある Add a New Voice Mail Port リンクをクリックします。
- ステップ 3** 適切な設定値を入力します (表 50-1 を参照)。
- ステップ 4** Insert をクリックして、新しい Cisco ボイスメール ポート デバイスを追加します。

関連項目

- [Cisco ボイスメール ポートの検索 \(P.50-2\)](#)
- [Cisco ボイスメール ポートの削除 \(P.50-6\)](#)
- [Cisco ボイスメール ポートの更新 \(P.50-8\)](#)
- [既存の Cisco ボイスメール ポートのコピー \(P.50-9\)](#)

- [Cisco ボイスメール ポートの設定値 \(P.50-11\)](#)
- [Cisco ボイスメール ポート ウィザード \(P.51-1\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity 設定チェックリスト」

Cisco ボイスメール ポートの削除

Cisco CallManager から Cisco ボイスメール ポートを 1 つ削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

電話番号が使用している Cisco ボイスメール ポートを削除すると、番号は Cisco CallManager データベース内に残ります。ボイスメール ポートを使用している電話番号を特定するには、Voice Mail Port Configuration ウィンドウの **Dependency Records** リンクをクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。

使用されているボイスメール ポートを削除しようとする、Cisco CallManager はエラー メッセージを表示します。現在使用されているボイスメール ポートを削除する前に、削除するボイスメール ポートを使用している電話番号すべてに別のボイスメール ポートを割り当ててください。[P.62-55 の「電話番号の更新」](#)を参照してください。

ボイスメール ポートを削除した後で、そのボイスメール ポートを使用していた電話番号を削除できます。[P.29-5 の「割り当てられていない電話番号の削除」](#)を参照してください。



ヒント

既存のサーバからポートを削除するには、この項で説明されている手順の代わりに、Cisco Voice Mail Port Wizard を使用することもできます。詳細については、[P.51-1 の「Cisco ボイスメール ポート ウィザード」](#)を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** P.50-2 の「Cisco ボイスメール ポートの検索」の手順を使用して、Cisco ボイスメール ポートを検索します。
- ステップ 2** 削除する Cisco ボイスメール ポートをクリックします。
- ステップ 3** Delete をクリックします。
-

関連項目

- [Cisco ボイスメール ポートの検索 \(P.50-2\)](#)
- [Cisco ボイスメール ポートの追加 \(P.50-5\)](#)
- [Cisco ボイスメール ポートの更新 \(P.50-8\)](#)
- [既存の Cisco ボイスメール ポートのコピー \(P.50-9\)](#)
- [Cisco ボイスメール ポートの設定値 \(P.50-11\)](#)
- [Cisco ボイスメール ポート ウィザード \(P.51-1\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity 設定チェックリスト」

Cisco ボイスメール ポートの更新

Cisco ボイスメール ポートを更新する（たとえば、Description の更新などの小規模な変更を加えるための）手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** P.50-2 の「Cisco ボイスメール ポートの検索」の手順を使用して、Cisco ボイスメール ポートを検索します。
 - ステップ 2** 更新する Cisco ボイスメール ポートを選択します。
 - ステップ 3** 該当する設定値を更新します（表 50-1 を参照）。
 - ステップ 4** Update をクリックします。
-

関連項目

- Cisco ボイスメール ポートの検索 (P.50-2)
- Cisco ボイスメール ポートの追加 (P.50-5)
- Cisco ボイスメール ポートの削除 (P.50-6)
- 既存の Cisco ボイスメール ポートのコピー (P.50-9)
- Cisco ボイスメール ポートの設定値 (P.50-11)
- Cisco ボイスメール ポート ウィザード (P.51-1)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity 設定チェックリスト」

既存の Cisco ボイスメール ポートのコピー

複数の同じような Cisco ボイスメール ポートを Cisco CallManager データベースに追加する場合は、1 つのポートを追加した後、その基本設定値をコピーして、別の Cisco ボイスメール ポートに適用できます。



ヒント

新規 Cisco ボイスメール サーバとポートを追加する場合、または複数のポートを既存のサーバに追加する場合は、この項で説明する手順よりも、Cisco Voice Mail Port Wizard を使用する方が簡単です。詳細については、P.51-1 の「Cisco ボイスメール ポート ウィザード」を参照してください。

Cisco ボイスメール ポートとその設定値をコピーする手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** P.50-2 の「Cisco ボイスメール ポートの検索」の手順を使用して、Cisco ボイスメール ポートを検索します。
- ステップ 2** Matching records リストから、コピーする Cisco ボイスメール ポートに対応する Copy アイコンをクリックします。
- ステップ 3** 該当する設定値を更新します (表 50-1 を参照)。



(注) Port Name フィールドと Directory Number フィールドを変更する必要があります。

- ステップ 4** Insert をクリックします。


関連項目

- [Cisco ボイスメール ポートの検索 \(P.50-2\)](#)
- [Cisco ボイスメール ポートの追加 \(P.50-5\)](#)
- [Cisco ボイスメール ポートの削除 \(P.50-6\)](#)
- [Cisco ボイスメール ポートの更新 \(P.50-8\)](#)
- [Cisco ボイスメール ポートの設定値 \(P.50-11\)](#)
- [Cisco ボイスメール ポート ウィザード \(P.51-1\)](#)

Cisco ボイスメール ポートの設定値

表 50-1 では、Cisco ボイスメール ポートの設定値について説明します。

表 50-1 Cisco ボイスメール ポートの設定値

フィールド	説明
デバイス情報	
Port Name	<p>Cisco ボイスメール ポートを識別する名前を入力します。Cisco ボイスメール上のポートそれぞれに、デバイスを追加する必要があります。24 個のポートがある場合は、24 個のデバイスを定義する必要があります。</p> <p>名前は 9 文字以内にしてください。</p> <p> (注) Cisco Unity では、この名前が CiscoUM-VI1 または Cisco UM-VI2 などの Unity Telephony Integration Manager (UTIM) コンフィギュレーション ファイルの名前と一致している必要があります。</p>
Description	デバイスの目的を明確にした説明を入力します。
Device Pool	デフォルト値または特定のデバイス プールを選択します。

Cisco ボイスメール ポートの設定値

表 50-1 Cisco ボイスメール ポートの設定値 (続き)


フィールド	説明
Calling Search Space	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、このデバイスからコールされる番号を見つけるために検索されるパーティションの集合から構成されます。登録者の番号およびネットワーク デバイスへのコールを可能にするコーリング サーチ スペースの名前を選択します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで設定された数よりもコーリング サーチ スペースの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リスト ボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Calling Search Space ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにコーリング サーチ スペース名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるコーリング サーチ スペースのリストで希望するコーリング サーチ スペース名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、System > Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。</p>
AAR Calling Search Space	<p>自動代替ルーティング (AAR) の実行時にデバイスが使用するコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号をルーティングする方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。</p>
Location	<p>デフォルト値 None を選択します。</p> <p>ロケーションは、このデバイスとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションを None に設定すると、そのロケーションの機能では、このデバイスが消費する帯域幅を把握しません。</p>

表 50-1 Cisco ボイスメール ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
Device Security Mode	<p>ドロップダウン リスト ボックスに、次のオプションが表示されません。</p> <ul style="list-style-type: none">• Use System Default : エンタープライズ パラメータの Device Security Mode に指定した値がボイスメール ポートで使用されます。• Non-secure : ボイスメール ポートではセキュリティ機能は使用されません。Cisco CallManager に対して TCP 接続が行われず。• Authenticated : Cisco CallManager は、ボイスメール ポートに対して完全性および認証を提供します。ボイスメール ポートと Cisco CallManager 間で、NULL/SHA を使用した TLS 接続が行われます。• Encrypted : Cisco CallManager は、ボイスメール ポートに対して完全性、認証、および暗号化を提供します。ボイスメール ポートと Cisco CallManager 間で、AES128/SHA を使用した TLS 接続が行われます。
電話番号の情報	
Directory Number	<p>このボイスメール ポートに関連する番号を入力します。このフィールドと Partition フィールドとの組み合わせが、固有のものであることを確認してください。</p>

Cisco ボイスメール ポートの設定値

表 50-1 Cisco ボイスメール ポートの設定値 (続き)



フィールド	説明
Partition	<p>この電話番号が属するパーティションを選択します。パーティションを使用しない場合は、<None> を選択してください。パーティションを選択する場合は、そのパーティションを含むコーリング サーチスペースを選択する必要があります。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するパーティションの数を設定することができます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで設定された数よりもパーティションの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リスト ボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Partition ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにパーティション名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるパーティションのリストで希望するパーティション名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、System > Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。</p>

表 50-1 Cisco ボイスメール ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
Calling Search Space	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、この電話番号からコールされる番号を見つけるために検索されるパーティションの集合から構成されます。パーティションを選択する場合は、そのパーティションを含むコーリング サーチ スペースを選択する必要があります。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで設定された数よりもコーリング サーチ スペースの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リスト ボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Calling Search Space ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにコーリング サーチ スペース名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるコーリング サーチ スペースのリストで希望するコーリング サーチ スペース名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、System > Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。</p>
Display (Internal Caller ID)	この回線からコールが行われるときに、着信側電話機に表示されるテキストを指定します。
AAR Group	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を None にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。

Cisco ボイスメール ポートの設定値

表 50-1 Cisco ボイスメール ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
External Number Mask	<p>外部 (発信) コールに対して、発信者 ID 情報をフォーマットするのに使用するマスクを指定します。このマスクには、最長 50 文字までを指定できます。発信者 ID 情報に表示する数字列を入力します。デバイスの電話番号を表すには、X を使用します。</p> <p>自動代替ルーティング (AAR) が帯域幅不足のためにコールをルーティングする場合、余裕のある帯域幅を使用できなければ、Cisco CallManager は、このフィールドの値を使用してコールを発信します。</p> <p>例</p> <p>DN 1000 (外部マスク 9728131000) は DN 1001 (外部マスク 2144131001) をコールします。帯域幅不足のためにコールがブロックされると、Cisco CallManager は、AAR プレフィックス番号を 2144131001 と一緒に使用して 1001 にコールを発信します。</p>

関連項目

- [Cisco ボイスメール ポートの検索 \(P.50-2\)](#)
- [Cisco ボイスメール ポートの追加 \(P.50-5\)](#)
- [Cisco ボイスメール ポートの削除 \(P.50-6\)](#)
- [Cisco ボイスメール ポートの更新 \(P.50-8\)](#)
- [既存の Cisco ボイスメール ポートのコピー \(P.50-9\)](#)
- [Cisco ボイスメール ポート ウィザード \(P.51-1\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity 設定チェックリスト」



Cisco ボイスメール ポート ウィザード

オプションのソフトウェアである Cisco Unity は、Cisco IP テレフォニー ソリューションの一環として利用され、ユーザがコールに回答できないときに、ボイス メッセージ機能を提供します。この章では、この両方のボイス メッセージ システムに対して、Cisco CallManager で Cisco ボイスメール ポートの追加と設定を行うために必要な手順について説明します。

Cisco Unity の設定の詳細については、『*Cisco CallManager 4.0 Integration Guide for Cisco Unity 4.0*』を参照してください。

ボイスメールと Cisco CallManager との接続性についての詳細については、『*Cisco CallManager システム ガイド*』の「ボイスメールの Cisco CallManager への接続性」を参照してください。

Cisco Voice Mail Port Wizard ツールを使用すると、Cisco CallManager 管理者は、Cisco ボイスメール サーバに関連付けられているポートを Cisco CallManager データベースに迅速に追加または削除できます。ここでは、次の内容について説明します。

- [新規の Cisco ボイスメール サーバとポートの追加 \(P.51-2\)](#)
- [既存の Cisco ボイスメール サーバへのポートの追加 \(P.51-9\)](#)
- [既存の Cisco ボイスメール サーバからのポートの削除 \(P.51-12\)](#)

新規の Cisco ボイスメール サーバとポートの追加

Cisco Voice Mail Port Wizard を使用して、新規の Cisco ボイスメール サーバとポートを Cisco CallManager データベースに追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

Cisco Voice Mail Port Wizard には、ボイスメール ポート用の一連の連続した電話番号が必要です。ボイスメール パイロット番号とそれに続く番号が使用可能であることを確認します。

手順

ステップ 1 Feature > Voice Mail > Cisco Voice Mail Port Wizard の順に選択します。

Cisco ボイスメール ポートが存在しない場合は、追加する Cisco ボイスメール サーバの名前を入力します（[ステップ 5](#) を参照）。ポートが存在する場合は、[ステップ 2](#) に進んでください。

ステップ 2 Create a new Cisco Voice Mail server and add ports to it を選択します。

ステップ 3 Next をクリックします。

ステップ 4 Cisco ボイスメール サーバの名前を入力します。



(注) Cisco Unity では、この名前が Unity Telephony Integration Manager (UTIM) コンフィギュレーション ファイルの名前（デフォルトは CiscoUM-VII）と一致している必要があります。このウィザードでは、ポートを追加する際、自動的に <port number> というサフィックスが付加されます。

ステップ 5 Next をクリックします。

Cisco Voice Mail Ports ウィンドウが表示されます。

ステップ 6 ドロップダウン リスト ボックスから、追加するポート数を選択します。

ステップ 7 Next をクリックします。

Cisco Voice Mail Device Information ウィンドウが表示されます。

ステップ 8 適切な設定値を入力します (表 51-1 を参照)。これらの設定値がすべての新規ポートに適用されます。

表 51-1 Voice Mail Port Wizard Device Information の設定値

フィールド	説明
Description	デバイスの目的を入力します。
Device Pool	デフォルト値 Default または定義されたデバイス プールを選択します。
Calling Search Space	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、この電話番号からコールされる番号を見つけるために検索されるパーティションの集合から構成されます。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで設定された数よりもコーリング サーチ スペースの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リスト ボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Calling Search Space ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにコーリング サーチ スペース名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるコーリング サーチ スペースのリストで希望するコーリング サーチ スペース名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、System > Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。</p>

■ 新規の Cisco ボイスメール サーバとポートの追加

表 51-1 Voice Mail Port Wizard Device Information の設定値 (続き)


フィールド	説明
Location	<p>デフォルト値 None または定義されたロケーションを選択します。</p> <p>ロケーションは、このデバイスとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションを <i>None</i> に設定すると、そのロケーションの機能では、このデバイスが消費する帯域幅を把握しません。</p>
Device Security Mode	<p>ドロップダウン リスト ボックスに、次のオプションが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Use System Default : エンタープライズ パラメータの Device Security Mode に指定した値がボイスメール ポートで使用されます。 • Non-secure : ボイスメール ポートではセキュリティ機能は使用されません。Cisco CallManager に対して TCP 接続が行われません。 • Authenticated : Cisco CallManager は、ボイスメール ポートに対して完全性および認証を提供します。ボイスメール ポートと Cisco CallManager 間で、NULL/SHA を使用した TLS 接続が行われます。 • Encrypted : Cisco CallManager は、ボイスメール ポートに対して完全性、認証、および暗号化を提供します。ボイスメール ポートと Cisco CallManager 間で、AES128/SHA を使用した TLS 接続が行われます。

ステップ 9 Next をクリックします。

Cisco Voice Mail Directory Numbers ウィンドウが表示されます。

ステップ 10 新規 Cisco ボイスメール サーバの電話番号設定を入力します (表 51-2 を参照)。

表 51-2 Voice Mail Port Wizard Directory Number の設定値

フィールド	説明
Beginning Directory Number	Cisco ボイスメール サーバにアクセスするためにコールする番号を入力します。新しいポートはそれぞれ、次に使用可能な電話番号を受け取ります。
Partition	<p data-bbox="478 418 1237 557">この一連の電話番号が属するパーティションを選択します。パーティションを使用しない場合は、None を選択してください。パーティションを選択する場合は、そのパーティションを含むコーリング検索スペースを選択する必要があります。</p> <p data-bbox="478 581 1237 930">Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウンリストボックスで表示するパーティションの数を設定することができます。Max List Box Items エンタープライズパラメータで設定された数よりもパーティションの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウンリストボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Partition ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにパーティション名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるパーティションのリストで希望するパーティション名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p data-bbox="478 954 1237 1092">  (注) リストボックスの最大項目を設定するには、System > Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。 </p>

■ 新規の Cisco ボイスメール サーバとポートの追加

表 51-2 Voice Mail Port Wizard Directory Number の設定値 (続き)


フィールド	説明
Calling Search Space	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、この電話番号からコールされる番号を見つけるために検索されるパーティションの集合から構成されます。</p> <p>パーティションを選択する場合は、そのパーティションを含むコーリング サーチ スペースを選択する必要があります。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで設定された数よりもコーリング サーチ スペースの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リスト ボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Calling Search Space ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにコーリング サーチ スペース名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるコーリング サーチ スペースのリストで希望するコーリング サーチ スペース名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、System > Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。</p>
Display	この回線へのコールが行われるときに、発信側の電話機に表示されるテキストを指定します。
AAR Group	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を None にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。

表 51-2 Voice Mail Port Wizard Directory Number の設定値 (続き)

フィールド	説明
External Number Mask	外部 (発信) コールに対して、発信者 ID 情報をフォーマットするのに使用するマスクを指定します。このマスクには、最長 50 文字までを指定できます。発信者 ID 情報に表示する数字列を入力します。デバイスの電話番号を表すには、X を使用します。

ステップ 11 Next をクリックします。

これらの電話番号を回線グループに追加するかどうかをたずねるウィンドウが表示されます。

ステップ 12 次の作業のいずれかを選択します。

- 電話番号を新規回線グループに追加する場合、[ステップ 13](#) に進みます。
- 電話番号を既存の回線グループに追加する場合、[ステップ 15](#) に進みます。
- 後で電話番号を回線グループに追加する場合、[ステップ 17](#) に進みます。

ステップ 13 「Yes.Add directory numbers to a **new** Line Group」オプションを選択して、Next をクリックします。

ステップ 14 Line Group ウィンドウに新規回線グループの名前を入力し、Next をクリックします。

Ready to Add Cisco Voice Mail Ports 要約ウィンドウが表示されます。以前のウィンドウで設定した設定値が要約ウィンドウに表示されます。Cisco Voice Mail Port Wizard は、自動的に正しい値を各ポートに割り当てます。

[ステップ 18](#) に進みます。

ステップ 15 「Yes.Add directory numbers to an **existing** Line Group」オプションを選択し、Next をクリックします。

ステップ 16 Line Group ウィンドウで、Line Group Name ドロップダウン リスト ボックスから回線グループを選択し、Next をクリックします。

■ 新規の Cisco ボイスメール サーバとポートの追加

Ready to Add Cisco Voice Mail Ports 要約ウィンドウが表示されます。以前のウィンドウで設定した設定値が要約ウィンドウに表示されます。Cisco Voice Mail Port Wizard は、自動的に正しい値を各ポートに割り当てます。

[ステップ 18](#) に進みます。

ステップ 17 「No.I will add them later」 オプションを選択し、**Next** をクリックします。

Ready to Add Cisco Voice Mail Ports 要約ウィンドウが表示されます。以前のウィンドウで設定した設定値が要約ウィンドウに表示されます。Cisco Voice Mail Port Wizard は、自動的に正しい値を各ポートに割り当てます。

ステップ 18 この情報が正しい場合は、**Finish** をクリックして、新しいポートを追加します。

表示された情報に誤りがある場合は、**Back** ボタンをクリックして、その情報を編集します。または **Cancel** をクリックして、ポートを追加せずに終了します。

ステップ 19 Cisco Voice Mail Port Wizard が指定した新規ボイスメール ポートの追加を終了した後に、Cisco Voice Mail Port Wizard Results ウィンドウが表示されます。

このウィンドウによって、これらの新規ボイスメール ポートを使用する前に完了しなければならないその他のステップがわかります。

次の手順

メッセージ受信のインディケータ (MWI) デバイスをセットアップしたことを確認してください。詳細については、『*Cisco CallManager システム ガイド*』の「Cisco Unity 設定チェックリスト」を参照してください。

関連項目

- [Cisco ボイスメール ポート ウィザード \(P.51-1\)](#)
- [既存の Cisco ボイスメール サーバへのポートの追加 \(P.51-9\)](#)
- [既存の Cisco ボイスメール サーバからのポートの削除 \(P.51-12\)](#)
- [メッセージ受信の設定 \(P.52-1\)](#)
- 『*Cisco CallManager システム ガイド*』の「Cisco Unity 設定チェックリスト」

既存の Cisco ボイスメール サーバへのポートの追加

Cisco Voice Mail Port Wizard を使用して、ポートを既存の Cisco ボイスメール サーバに追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

Cisco Voice Mail Port Wizard には、ボイスメール ポート用の一連の連続した電話番号が必要です。ボイスメール パイロット番号とそれに続く番号が使用可能であることを確認します。

ボイスメール パイロット番号は、Cisco ボイスメール サーバにアクセスするためにコールする番号を示します。

手順

ステップ 1 Feature > Voice Mail > Cisco Voice Mail Port Wizard の順に選択します。

ステップ 2 Add ports to an existing Cisco Voice Mail server を選択します。

ステップ 3 Next をクリックします。

Cisco Voice Mail Server ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 ドロップダウン リスト ボックスから、既存の Cisco ボイスメール サーバ (パイロット番号) の名前を選択し、Next をクリックします。

Cisco Voice Mail Ports ウィンドウが表示され、現在設定されているポート数が示されます。

ステップ 5 ドロップダウン リスト ボックスから、追加するポート数を選択し、Next をクリックします。

Cisco Voice Mail Directory Numbers ウィンドウでは、Cisco ボイスメール サーバへ追加したポートの設定情報を表示します。最後のポートに続く連続した電話番号が自動的に選択されます。また、Cisco ボイスメール パイロット電話番号と同じ

■ 既存の Cisco ボイスメール サーバへのポートの追加

Partition 設定値、Calling Search Space 設定値、Display 設定値、AAR Group 設定値、External Number Mask 設定値が使用されます。New Directory Numbers フィールドに、別の範囲の電話番号を入力することができます。

ステップ 6 ポート数を変更する必要がある場合は、**Back** ボタンをクリックします。

ステップ 7 **Next** をクリックします。

これらの電話番号を回線グループに追加するかどうかをたずねるウィンドウが表示されます。

ステップ 8 次の作業のいずれかを選択します。

- 電話番号を新規回線グループに追加する場合、[ステップ 9](#) へ進みます。
- 電話番号を既存の回線グループに追加する場合、[ステップ 11](#) へ進みます。
- 電話番号を回線グループにあとで追加する場合、[ステップ 13](#) へ進みます。

ステップ 9 「Yes.Add directory numbers to a **new** Line Group」オプションを選択して、**Next** をクリックします。

ステップ 10 Line Group ウィンドウに新規回線グループの名前を入力し、**Next** をクリックします。

Ready to Add Cisco Voice Mail Ports 要約ウィンドウが表示されます。以前のウィンドウで設定した設定値が要約ウィンドウに表示されます。Cisco Voice Mail Port Wizard は、自動的に正しい値を各ポートに割り当てます。

[ステップ 14](#) に進みます。

ステップ 11 「Yes.Add directory numbers to an **existing** Line Group」オプションを選択し、**Next** をクリックします。

ステップ 12 Line Group ウィンドウで、Line Group Name ドロップダウン リスト ボックスから回線グループを選択し、Next をクリックします。

Ready to Add Cisco Voice Mail Ports 要約ウィンドウが表示されます。以前のウィンドウで設定した設定値が要約ウィンドウに表示されます。Cisco Voice Mail Port Wizard は、自動的に正しい値を各ポートに割り当てます。

[ステップ 14](#) に進みます。

ステップ 13 「No.I will add them later」 オプションを選択し、Next をクリックします。

Ready to Add Cisco Voice Mail Ports 要約ウィンドウが表示されます。以前のウィンドウで設定した設定値が要約ウィンドウに表示されます。Cisco Voice Mail Port Wizard は、自動的に正しい値を各ポートに割り当てます。

ステップ 14 この情報が正しい場合は、Finish をクリックして、新しいポートを追加します。

表示された情報に誤りがある場合は、Back ボタンをクリックして、その情報を編集します。または Cancel をクリックして、ポートを追加しないで終了します。

関連項目

- [Cisco ボイスメール ポート ウィザード \(P.51-1\)](#)
- [新規の Cisco ボイスメール サーバとポートの追加 \(P.51-2\)](#)
- [既存の Cisco ボイスメール サーバからのポートの削除 \(P.51-12\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity 設定チェックリスト」

既存の Cisco ボイスメール サーバからのポートの削除

Cisco Voice Mail Port Wizard を使用して既存の Cisco ボイスメール サーバからポートを削除する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 Feature > Voice Mail > Cisco Voice Mail Port Wizard の順に選択します。

ステップ 2 Delete ports from an existing Cisco Voice Mail server を選択し、Next をクリックします。

Cisco Voice Mail Server ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 ドロップダウン リスト ボックスから、既存の Cisco ボイスメール サーバ (パイロット番号) の名前を選択し、Next をクリックします。

Cisco Voice Mail Ports ウィンドウが表示され、現在設定されているポート数を示します。

ステップ 4 ドロップダウン リスト ボックスから、削除するポート数を選択し、Next をクリックします。

Ready to Delete Cisco Voice Mail Ports 要約ウィンドウが表示されます。

削除するポートの情報が要約ウィンドウに表示されます。Cisco Voice Mail Port Wizard は、ポート番号と電話番号が連続するように自動的に更新します。

ステップ 5 この情報が正しい場合は、Finish をクリックして、選択されたポートを削除します。

表示された情報に誤りがある場合は、Back ボタンをクリックして、その情報を編集します。または Cancel をクリックして、ポートを削除しないで終了します。

関連項目

- [Cisco ボイスメール ポート ウィザード \(P.51-1\)](#)
- [新規の Cisco ボイスメール サーバとポートの追加 \(P.51-2\)](#)
- [既存の Cisco ボイスメール サーバへのポートの追加 \(P.51-9\)](#)
- 『*Cisco CallManager システム ガイド*』の「Cisco Unity 設定チェックリスト」

■ 既存の Cisco ボイスメール サーバからのポートの削除



メッセージ受信の設定

Message Waiting Configuration ウィンドウでは、メッセージ受信オン / オフの電話番号を定義できます。この電話番号は、ディレクトリ接続ベースのボイスメッセージシステムが、特定の Cisco IP Phone のメッセージ受信のインディケータを設定するかクリアするかを決定するのに使用します。

この項では、メッセージ受信の設定について説明します。

- [メッセージ受信番号の検索 \(P.52-2\)](#)
- [メッセージ受信の設定 \(P.52-5\)](#)
- [メッセージ受信の設定値 \(P.52-6\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ボイスメールの Cisco CallManager への接続性」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity 設定チェックリスト」

メッセージ受信番号の検索

ネットワーク内にはいくつかのメッセージ受信番号が存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の条件を指定して、特定のメッセージ受信番号を見つけることができます。メッセージ受信番号を見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、メッセージ受信番号の検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、メッセージ受信番号の検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 Feature > Voice Mail > Message Waiting の順に選択します。

Find and List Message Waiting Numbers ウィンドウが表示されます。3 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、メッセージ受信番号を検索します。

ステップ 2 最初の Find numbers where ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- Directory Number
- Partition
- Calling Search Space
- Description



(注)

このドロップダウン リスト ボックスで選択する条件によって、検索時に生成されるメッセージ受信番号リストのソート方法が決まります。たとえば、Partition を選択すると、Partition 列が結果リストの左側の列に表示されます。

2 番目の Find numbers where ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is empty (空白)
- is not empty (非空白)

Message Waiting Indicator is ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- Both
- On
- Off

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、**Find** をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



ヒント

データベースに登録されているメッセージ受信番号をすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。

検出されたメッセージ受信番号のリストが、次の項目別に表示されます。

- Message Waiting Indicator icon (オン時は緑色、オフ時は赤色)
- Directory Number
- Partition
- Calling Search Space
- Description

■ メッセージ受信番号の検索



(注) 該当するメッセージ受信番号の横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Message Waiting Numbers ウィンドウから複数のメッセージ受信番号を削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのメッセージ受信番号を削除できます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致する MWI アイコン、電話番号、関連するパーティション、またはコーリングサーチスペースをクリックします。

選択したメッセージ受信番号がウィンドウに表示されます。

関連項目

- [メッセージ受信の設定 \(P.52-5\)](#)
- [メッセージ受信の設定値 \(P.52-6\)](#)

メッセージ受信の設定

ボイス メッセージ システムで使用するメッセージ受信の設定手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 Feature > Voice Mail > Message Waiting の順に選択します。

ステップ 2 ウィンドウの右上にある **Add a New Message Waiting Number** リンクをクリックします。

Message Waiting Number Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します (表 52-1 を参照)。



(注) ボイス メッセージ システムでは、メッセージ待機表示をするためにメッセージ受信のインディケータ オン / オフ電話番号のみが使用されます。Cisco CallManager は、コールの受信にメッセージ受信オン / オフ番号を使用しないため、Display、Forward All、Forward Busy、および Forward No Answer フィールドは使用されません。

ステップ 4 **Insert** をクリックして、このデバイスをシステムに追加します。

関連項目

- [メッセージ受信番号の検索 \(P.52-2\)](#)
- [メッセージ受信の設定値 \(P.52-6\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ボイスメールの Cisco CallManager への接続性」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity 設定チェックリスト」



メッセージ受信の設定値

表 52-1 では、メッセージ受信の設定値について説明します。

表 52-1 メッセージ受信の設定値

フィールド名	説明
Message Waiting Number	Cisco Message Waiting の電話番号を入力します。この番号が Cisco CallManager 自動登録される番号の範囲内でないことを確認してください。
Description	メッセージ受信の電話番号を説明する最大 30 文字の英数字を入力します。
Message Waiting Indicator	On または Off をクリックします。

表 52-1 メッセージ受信の設定値（続き）

フィールド名	説明
Partition	<p>パーティションが使用されている場合は、ドロップダウン リストボックスから適切なパーティションを選択します。Message Waiting デバイスの電話番号へのアクセスを制限しない場合は、パーティションに <None> を選択します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウン リストボックスで表示するパーティションの数を設定することができます。Max List Box Items エンタープライズパラメータで設定された数よりもパーティションの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リストボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Partition ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにパーティション名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるパーティションのリストで希望するパーティション名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リストボックスの最大項目を設定するには、System > Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。</p> <p> (注) Message Waiting デバイスの電話番号とパーティションの組み合わせが、Cisco CallManager クラスタ内で固有であることを確認してください。</p>

■ メッセージ受信の設定値

表 52-1 メッセージ受信の設定値（続き）

フィールド名	説明
Calling Search Space	<p>パーティションとコーリング サーチ スペースが使用される場合、ドロップダウン リスト ボックスから、ランプをオンにするすべての電話機の DN のパーティションを含むコーリング サーチ スペースを選択します(電話機の DN に対して指定されるパーティションは、MWI デバイスが使用するコーリング サーチ スペース内になければなりません)。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで設定された数よりもコーリング サーチ スペースの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リスト ボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Calling Search Space ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにコーリング サーチ スペース名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるコーリング サーチ スペースのリストで希望するコーリング サーチ スペース名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、System > Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。</p>

関連項目

- [メッセージ受信番号の検索 \(P.52-2 \)](#)
- [メッセージ受信の設定 \(P.52-5 \)](#)
- [ボイスメール プロファイルの設定 \(P.54-1 \)](#)
- [電話番号の設定値 \(P.62-60 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity 設定チェックリスト」



Cisco ボイスメールパイロットの設定

ボイスメールパイロット番号は、ユーザが本人のボイスメッセージにアクセスするときにダイヤルする電話番号を指定します。Cisco CallManager は、ユーザが電話機上の Messages ボタンを押すと自動的にこのボイスメッセージ番号にダイヤルします。各ボイスメールパイロット番号は、異なったボイスメールメッセージングシステムに属することができます。

次のトピックでは、ボイスメールパイロットの設定について説明します。

- [Cisco ボイスメールパイロットの検索 \(P.53-2\)](#)
- [ボイスメールパイロット番号の設定 \(P.53-5\)](#)
- [ボイスメールパイロットの設定値 \(P.53-8\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ボイスメールの Cisco CallManager への接続性」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity 設定チェックリスト」

Cisco ボイスメールパイロットの検索

ネットワーク内にはいくつかの Cisco ボイスメールパイロットが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の条件を指定して、特定の Cisco ボイスメールパイロットを見つけることができます。Cisco ボイスメールパイロットを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザセッションでの作業中は、Cisco ボイスメールパイロットの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、Cisco ボイスメールパイロットの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 Feature > Voice Mail > Voice Mail Pilot の順に選択します。

Find and List Voice Mail Pilots ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウンリスト ボックスを使用して、Cisco ボイスメールパイロットを検索します。

ステップ 2 最初の Find voice mail pilots where ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- Description
- Voice Mail Pilot Number
- Calling Search Space



(注)

このドロップダウン リスト ボックスで選択する条件によって、検索時に生成される Cisco ボイスメールパイロットリストのソート方法が決まります。たとえば、Calling Search Space を選択すると、Calling Search Space 列が結果リストの左側の列に表示されます。

2 番目の Find voice mail pilots where ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is empty (空白)
- is not empty (非空白)

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、Find をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。

**ヒント**

データベースに登録されている Cisco ボイスメールパイロットをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。

検出された Cisco ボイスメールパイロットのリストが、次の項目別に表示されます。

- Voice Mail Pilot icon
- Description
- Pilot Number
- Calling Search Space

**(注)**

該当する Cisco ボイスメールパイロットの横にあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、Find and List Voice Mail Pilots ウィンドウから複数の Cisco ボイスメールパイロットを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべての Cisco ボイスメールパイロットを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致する Voice Mail Pilot icon、Device Name、Description、または関連する Device Pool をクリックします。

選択した Cisco ボイスメールパイロットがウィンドウに表示されます。

関連項目

- [ボイスメールパイロット番号の設定 \(P.53-5\)](#)
- [ボイスメールパイロットの設定値 \(P.53-8\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ボイスメールの Cisco CallManager への接続性」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity 設定チェックリスト」

ボイスメールパイロット番号の設定

ボイスメールパイロット番号を設定する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** Feature > Voice Mail > Voice Mail Pilot の順に選択します。
 - ステップ 2** ウィンドウの右上にある **Add a New Voice Mail Pilot** リンクをクリックします。
 - ステップ 3** 適切な設定値を設定します (表 53-1 を参照)。
 - ステップ 4** 新規ボイスメールパイロット番号を追加するには、**Insert** をクリックします。既存のボイスメールパイロット番号の設定を更新するには、**Update** をクリックします。
-

関連項目

- [Cisco ボイスメールパイロットの検索 \(P.53-2\)](#)
- [ボイスメールパイロットの設定値 \(P.53-8\)](#)
- [メッセージ受信の設定 \(P.52-1\)](#)
- [ボイスメールプロファイルの設定 \(P.54-1\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ボイスメールの Cisco CallManager への接続性」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity 設定チェックリスト」

ボイスメールパイロット番号の削除

ボイスメールパイロット番号を削除する手順は、次のとおりです。デフォルトやボイスメール以外のプロファイル番号は、削除できません。

始める前に

ボイスメールプロファイルが使用するボイスメールパイロット番号は、削除できません。ボイスメールパイロットを使用しているボイスメールプロファイルを検索するには、Voice Mail Pilot Configuration ウィンドウの **Dependency Records** リンクをクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されません。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。使用されているボイスメールパイロットを削除しようとする、Cisco CallManager はエラーメッセージを表示します。現在使用されているボイスメールパイロットを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するボイスメールパイロットを使用しているボイスメールプロファイルすべてに、別のボイスメールパイロットを割り当てる。[P.54-6 の「ボイスメールプロファイルの設定」](#)を参照してください。
- 削除するボイスメールパイロットを使用しているボイスメールプロファイル削除する。[P.54-4 の「ボイスメールプロファイルの削除」](#)を参照してください。

手順

ステップ 1 Feature > Voice Mail > Voice Mail Pilot の順に選択します。

ステップ 2 削除する Cisco ボイスメールパイロットをクリックします。

ステップ 3 Delete をクリックします。

確認のウィンドウが表示されます。



(注) デフォルトまたは *No Voice Mail* のパイロット番号を選択した場合、Delete ボタンは表示されません。

ステップ 4 ボイスメールパイロットを削除するには、**OK** をクリックします。削除操作を取り消すには、**Cancel** をクリックします。

ボイスメール プロファイルがこのボイスメールパイロット番号を使用している場合は、このボイスメールパイロット番号を使用しているボイスメール プロファイルの番号を示すメッセージが表示されます。

関連項目



- [Cisco ボイスメールパイロットの検索 \(P.53-2\)](#)
- [ボイスメールパイロット番号の設定 \(P.53-5\)](#)
- [メッセージ受信の設定 \(P.52-1\)](#)
- [ボイスメールプロファイルの設定 \(P.54-1\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ボイスメールの Cisco CallManager への接続性」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity 設定チェックリスト」

■ ボイスメールパイロットの設定値

ボイスメールパイロットの設定値

表 53-1 では、ボイスメールパイロットの設定値について説明します。

表 53-1 ボイスメールパイロットの設定値

フィールド	説明
Voice Mail Pilot Number	ボイスメールパイロット番号を識別する番号を入力します。
Description	パイロット番号の説明を記述します。
Calling Search Space	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、このパイロット番号からコールされる番号を見つけるために検索されるパーティションの集合から構成されます。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで設定された数よりもコーリング サーチ スペースの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リスト ボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Calling Search Space ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにコーリング サーチ スペース名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるコーリング サーチ スペースのリストで希望するコーリング サーチ スペース名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、System > Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。</p>
Make this the default Voice Mail Pilot for the system	<p>チェックボックスをオンにして、このパイロット番号をそのシステム の Voice Mail Pilot のデフォルトにします。</p> <p> (注) Default ボックスをオンにすると、このボイスメール パイロット番号は、現在のデフォルト パイロット番号を置き換えます。</p>

関連項目

- [Cisco ボイスメールパイロットの検索 \(P.53-2\)](#)
- [ボイスメールパイロット番号の設定 \(P.53-5\)](#)
- [メッセージ受信の設定 \(P.52-1\)](#)
- [ボイスメールプロファイルの設定 \(P.54-1\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ボイスメールの Cisco CallManager への接続性」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity 設定チェックリスト」

■ ボイスメールパイロットの設定値



ボイスメール プロファイルの設定

Cisco CallManager Administration の Voice Mail Profile Configuration ウィンドウによって、回線に関連したボイス メッセージ情報を定義できます。



(注) ボイスメール プロファイルは、デバイスではなく電話番号に割り当てられます。

次のトピックでは、ボイスメール プロファイルについて説明します。

- [ボイスメール プロファイルの検索 \(P.54-2\)](#)
- [ボイスメール プロファイルのコピー \(P.54-3\)](#)
- [ボイスメール プロファイルの削除 \(P.54-4\)](#)
- [ボイスメール プロファイルの設定 \(P.54-6\)](#)
- [ボイスメール プロファイルの設定値 \(P.54-7\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ボイスメールの Cisco CallManager への接続性」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity 設定チェックリスト」

ボイスメール プロファイルの検索

ネットワーク内にはいくつかのボイスメール プロファイルが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の条件を指定して、特定のボイスメール プロファイルを見つけることができます。ボイスメール プロファイルを見つける手順は、次のとおりです。



(注) Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、ボイスメール プロファイルの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ボイスメール プロファイルの検索設定は保持されま

手順

ステップ 1 Feature > Voice Mail > Voice Mail Profile の順に選択します。

Find and List Voice Mail Profiles ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ボイスメール プロファイルの検索条件を選択し、**Find** をクリックします。利用可能なボイスメール プロファイルをすべて一覧表示するには、検索条件を空白のままにして、**Find** をクリックします。

関連項目

- [ボイスメール プロファイルのコピー \(P.54-3\)](#)
- [ボイスメール プロファイルの削除 \(P.54-4\)](#)
- [ボイスメール プロファイルの設定 \(P.54-6\)](#)
- [ボイスメール プロファイルの設定値 \(P.54-7\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ボイスメールの Cisco CallManager への接続性」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity 設定チェックリスト」

ボイスメール プロファイルのコピー

既存のボイスメール プロファイルをコピーする手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1 P.54-2 の「ボイスメール プロファイルの検索」の手順に従って、コピーするボイスメール プロファイルを見つけます。
 - ステップ 2 コピーするプロファイルの横にあるコピー アイコンをクリックします。
 - ステップ 3 ボイスメール プロファイルの設定値を更新する場合は、表 54-1 を参照してください。
 - ステップ 4 Insert をクリックします。
-

関連項目

- [ボイスメール プロファイルの検索 \(P.54-2\)](#)
- [ボイスメール プロファイルの削除 \(P.54-4\)](#)
- [ボイスメール プロファイルの設定 \(P.54-6\)](#)
- [ボイスメール プロファイルの設定値 \(P.54-7\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ボイスメールの Cisco CallManager への接続性」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity 設定チェックリスト」

ボイスメール プロファイルの削除

ボイスメール プロファイルを削除する手順は、次のとおりです。デフォルト プロファイルやボイスメール以外のプロファイルは、削除できません。

始める前に

電話番号が使用するボイスメール プロファイルは、削除できません。ボイスメール プロファイルを使用している電話番号を検索するには、Voice Mail Profile Configuration ウィンドウの **Dependency Records** リンクをクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。使用されているボイスメール プロファイルを削除しようとする、Cisco CallManager はエラー メッセージを表示します。現在使用されているボイスメール プロファイルを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するボイスメール プロファイルを使用しているデバイスすべてに、別のボイスメール プロファイルを割り当てる。
- 削除するボイスメール プロファイルを使用しているデバイスを削除する。

手順

-
- ステップ 1** [P.54-2 の「ボイスメール プロファイルの検索」](#)の手順に従って、削除するボイスメール プロファイルを見つけます。
- ステップ 2** 削除するボイスメール プロファイルの横にあるチェックボックスをオンにします。ウィンドウ上のボイスメール プロファイルをすべて選択するには、Matching records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにします。
- ステップ 3** **Delete Selected** をクリックします。
-

関連項目

- [ボイスメール プロファイルの検索 \(P.54-2 \)](#)
- [ボイスメール プロファイルのコピー \(P.54-3 \)](#)
- [ボイスメール プロファイルの設定 \(P.54-6 \)](#)
- [ボイスメール プロファイルの設定値 \(P.54-7 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ボイスメールの Cisco CallManager への接続性」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity 設定チェックリスト」

ボイスメール プロファイルの設定

電話番号に対してボイスメール プロファイルを設定する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** ボイスメール プロファイルを選択するか、**Add a New Voice Mail Profile** リンクをクリックします。
- ステップ 2** 適切な設定値を設定します (表 54-1 を参照)。
- ステップ 3** 新規ボイスメール プロファイルを追加するには、**Insert** をクリックします。既存のボイスメール プロファイルの設定を更新するには、**Update** をクリックします。
-


関連項目

- [ボイスメール プロファイルの検索 \(P.54-2\)](#)
- [ボイスメール プロファイルのコピー \(P.54-3\)](#)
- [ボイスメール プロファイルの削除 \(P.54-4\)](#)
- [ボイスメール プロファイルの設定値 \(P.54-7\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ボイスメールの Cisco CallManager への接続性」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity 設定チェックリスト」

ボイスメール プロファイルの設定値

表 54-1 では、ボイスメール プロファイルの設定値について説明します。

表 54-1 ボイスメール プロファイルの設定値

フィールド	説明
Voice Mail Profile Name	Cisco ボイスメール プロファイルを識別する名前を入力します。
Description	プロファイルの説明を記述します。
Voice Mail Pilot	Voice Mail Pilot Configuration 内で指定された適切なボイスメール パイロット番号か、 Use Default 設定を選択します。
Voice Mail Box Mask	<p>自動登録された電話機用のボイスメール ボックス番号をフォーマットするのに使用するマスクを指定します。自動登録された電話機のディレクトリ回線から、コールをボイスメールに転送する場合、Cisco CallManager は、そのディレクトリ回線の Voice Mail Box フィールドに設定されている番号に、このマスクを適用します。</p> <p>たとえば、972813XXXX というマスクを指定した場合、電話番号 7253 のボイスメール ボックス番号は 9728137253 になります。マスクを入力しない場合、ボイスメール ボックス番号は電話番号と同じです（この例では 7253 です）。</p> <p>デフォルトでは、Cisco CallManager は、ボイスメール ボックス番号を電話番号と同じ値に設定します。詳細については、P.62-52 の「電話番号の設定」を参照してください。</p>
Make this the Default Voice Mail Profile for the System	<p>このチェックボックスをオンにして、このプロファイルをデフォルトにします。</p> <p> (注) Default ボックスをオンにすると、このボイスメール プロファイルは、現在のデフォルト プロファイルを置き換えます。</p>

■ ボイスメール プロファイルの設定値

関連項目

- [ボイスメール プロファイルの検索 \(P.54-2 \)](#)
- [ボイスメール プロファイルのコピー \(P.54-3 \)](#)
- [ボイスメール プロファイルの削除 \(P.54-4 \)](#)
- [ボイスメール プロファイルの設定 \(P.54-6 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ボイスメールの Cisco CallManager への接続性」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity 設定チェックリスト」



PART 6

デバイスの設定





デバイスの設定

Cisco CallManager では、テレフォニー ネットワーク内で次のデバイスを設定することができます。

- CTI ルート ポイント
- ゲートキーパー
- ゲートウェイ
- 電話機 (CTI ポートを含む)
- ボイスメール ポート
- トランク
- デバイス プロファイル、電話ボタン テンプレート、ソフトキー テンプレート、および CAPF Report などのデバイス設定

ここでは、次の内容について説明します。

- [Cisco CallManager へのデバイスの追加 \(P.55-2\)](#)
- [デバイスの再起動またはリセット \(P.55-2\)](#)

Cisco CallManager へのデバイスの追加

IP テレフォニー ネットワーク内のゲートウェイや Cisco IP Phone などのデバイスを使用する場合は、事前にそれらのデバイスを Cisco CallManager 設定データベースに追加しておく必要があります。これらのデバイスのいくつかは、Add a New Device ウィンドウを使用して追加できます。テレフォニー デバイスの追加手順については、次の各項を参照してください。

- [CTI ルート ポイントの追加 \(P.56-2 \)](#)
- [ゲートキーパーの追加 \(P.60-6 \)](#)
- [Cisco CallManager へのゲートウェイの追加 \(P.61-2 \)](#)
- [電話機の追加 \(P.62-5 \)](#)
- [トランクの追加 \(P.63-4 \)](#)

デバイスの再起動またはリセット

デバイス ウィンドウ内の Reset ボタンをクリックするか、デバイスに関連した Find and List ウィンドウ内で Reset アイコンをクリックすると、いつでもデバイスを再起動またはリセットすることができます。デバイスをシャットダウンしないで再起動するには、Restart ボタンをクリックします。デバイスをシャットダウンしてから起動するには、Reset ボタンをクリックします。デバイスをリセットまたは再起動しないで直前のウィンドウに戻るには、Close をクリックします。



ゲートウェイまたはトランクを再起動またはリセットすると、そのゲートウェイまたはトランクを使用している進行中のコールがすべて終了されます。それ以外のデバイスでは、コールが完了するまで待機してから、再起動またはリセットされます。



CTI ルート ポイントの設定

Computer Telephony Integration (CTI) ルート ポイントでは、仮想デバイスを指定します。この仮想デバイスは、アプリケーションが宛先変更を制御している多重同時コールを受信することができます。

ファースト パーティ コールを制御するために、アクティブな音声回線ごとに CTI ポートをオプションで追加できます (CTI アプリケーションがこれを決定します)。CTI ルート ポイントおよび CTI ポートを使用するアプリケーションには、Cisco SoftPhone、Cisco IP Auto Attendant、および Cisco IP Interactive Voice Response System があります。Cisco CallManager Administration に CTI ルート ポイントを追加した後、RIS Data Collector サービスからの情報が、CTI Route Point Configuration ウィンドウ内に表示されます。デバイスの IP アドレス、およびデバイスが登録されている Cisco CallManager の名前が利用可能であれば、表示されます。

これらのアプリケーションに関連した CTI ルート ポイントおよび CTI ポートの設定方法については、各アプリケーションに付属の資料とオンライン ヘルプを参照してください。

ここでは、次の内容について説明します。

- [CTI ルート ポイントの追加 \(P.56-2\)](#)
- [CTI ルート ポイントの変更 \(P.56-4\)](#)
- [CTI ルート ポイントの削除 \(P.56-5\)](#)
- [CTI ルート ポイントの検索 \(P.56-7\)](#)
- [CTI ルート ポイントのリセット \(P.56-9\)](#)
- [CTI ルート ポイントの設定値 \(P.56-11\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「コンピュータ テレフォニー統合」

CTI ルート ポイントの追加

CTI ルート ポイントを追加する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** Device > CTI Route Point の順に選択します。
 - ステップ 2** Add a New CTI Route Point リンクをクリックします。
 - ステップ 3** 適切な設定値を入力します (表 56-1 を参照)。
 - ステップ 4** Insert をクリックして、新規 CTI ルート ポイントを追加します。

回線 1 の電話番号を追加するように求められたら、OK をクリックして、電話番号を追加します。または、Cancel をクリックして、電話番号を追加せずに処理を続行します。電話番号の追加と設定の方法については、P.62-52 の「電話番号の追加」を参照してください。

Cisco CallManager Administration に CTI ルート ポイントを追加した後、RIS Data Collector サービスからの情報が、CTI Route Point Configuration ウィンドウ内に表示されます。使用可能な場合、デバイスの IP アドレスと、デバイスが登録されている Cisco CallManager の名前が、図 56-1 に示すように表示されます。

図 56-1 CTI Route Point Configuration ウィンドウ



関連項目

- [CTI ルート ポイントの設定 \(P.56-1\)](#)
- [CTI ルート ポイントの変更 \(P.56-4\)](#)
- [CTI ルート ポイントの削除 \(P.56-5\)](#)
- [CTI ルート ポイントの検索 \(P.56-7\)](#)
- [CTI ルート ポイントのリセット \(P.56-9\)](#)
- [CTI ルート ポイントの設定値 \(P.56-11\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「コンピュータ テレフォニー統合」

CTI ルートポイントの変更

CTI ルートポイントを変更する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 Device > CTI Route Point の順に選択します。

Find/List CTI Route Points ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 変更する CTI ルートポイントの検索に必要な検索条件を入力します。

ステップ 3 Find をクリックします。

ウィンドウの内容が更新され、指定された検索条件と一致する CTI ルートポイントが表示されます。

ステップ 4 設定値を変更する CTI ルートポイントの名前を選択します。

ウィンドウがリフレッシュされ、選択された CTI ルートポイントの現在の設定値が表示されます。

ステップ 5 該当する設定値を更新します (表 56-1 を参照)。

ステップ 6 Update をクリックして、変更内容を適用します。

ウィンドウの内容が更新され、新しい設定値が表示されます。

関連項目

- [CTI ルートポイントの設定 \(P.56-1\)](#)
- [CTI ルートポイントの追加 \(P.56-2\)](#)
- [CTI ルートポイントの削除 \(P.56-5\)](#)
- [CTI ルートポイントの検索 \(P.56-7\)](#)

- [CTI ルート ポイントのリセット \(P.56-9\)](#)
- [CTI ルート ポイントの設定値 \(P.56-11\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「コンピュータ テレフォニー統合」

CTI ルート ポイントの削除

CTI ルート ポイントを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

1 つ以上の電話番号に割り当てられた CTI ルート ポイントを削除できるので、CTI Route Point Configuration ウィンドウから **Dependency Records** リンクをクリックして、CTI ルート ポイントを使用している電話番号を決定する必要があります。Dependency Records がシステムで使用可能でない場合、Dependency Records - Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。使用されている CTI ルート ポイントを削除しようとする、Cisco CallManager はメッセージを表示します。

割り当てられている電話番号をもつ CTI ルート ポイントを削除する場合、Route Plan Report を使用して電話番号を検索できます。Route Plan Report を使用して電話番号を削除することもできます。

手順

ステップ 1 Device > CTI Route Point の順に選択します。

Find/List CTI Route Points ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 削除する CTI ルート ポイントの検索に必要な検索条件を指定します。

ステップ 3 Find をクリックします。

ウィンドウの内容が更新され、指定された検索条件と一致する CTI ルート ポイントのリストが表示されます。

■ CTI ルートポイントの削除

ステップ 4 次のアクションのいずれかを実行します。

- 削除する CTI ルートグループの横にあるチェックボックスをオンにし、**Delete Selected** をクリックする。
- ウィンドウ内の CTI ルートポイントをすべて削除する場合は、Matching records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにし、**Delete Selected** をクリックする。
- 削除する CTI ルートポイントの名前を選択して、現在の設定値を表示し、**Delete** をクリックする。

ステップ 5 OK をクリックすると、CTI ルートポイントが完全に削除されます。

関連項目

- [CTI ルートポイントの設定 \(P.56-1\)](#)
- [CTI ルートポイントの追加 \(P.56-2\)](#)
- [CTI ルートポイントの変更 \(P.56-4\)](#)
- [CTI ルートポイントの検索 \(P.56-7\)](#)
- [CTI ルートポイントのリセット \(P.56-9\)](#)
- [CTI ルートポイントの設定値 \(P.56-11\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「コンピュータ テレフォニー統合」

CTI ルート ポイントの検索

CTI ルート ポイントを検索し、一覧表示する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 **Device > CTI Route Point** の順に選択します。

Find and List Route Points ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 使用する検索条件を選択します。すべての項目を表示するには、検索テキストを入力しないか、検索条件として「Device Name is not empty」を使用します。

ステップ 3 **Find** をクリックします。

ウィンドウの内容が更新され、指定された検索条件と一致する CTI ルート ポイントのリストが表示されます。

ステップ 4 次の CTI ルート ポイントのリストを表示するには、**Next** をクリックします。



(注) Find and List Route Points ウィンドウから複数の CTI ルート ポイントを削除するには、適切な CTI ルート ポイントの横にあるチェックボックスをオンにし、**Delete Selected** をクリックします。複数の CTI ルート ポイントをリセットするには、適切な CTI ルート ポイントの横にあるチェックボックスをオンにして、**Reset Selected** をクリックします。Matching records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにすると、ウィンドウ内のすべての CTI ルート ポイントを選択できます。

関連項目

- [CTI ルートポイントの設定 \(P.56-1\)](#)
- [CTI ルートポイントの追加 \(P.56-2\)](#)
- [CTI ルートポイントの変更 \(P.56-4\)](#)
- [CTI ルートポイントの削除 \(P.56-5\)](#)
- [CTI ルートポイントのリセット \(P.56-9\)](#)
- [CTI ルートポイントの設定値 \(P.56-11\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「コンピュータテレフォニー統合」

CTI ルート ポイントのリセット

CTI ルート ポイントをリセットする手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 Device > CTI Route Point の順に選択します。

Find and List CTI Route Points ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 使用する検索条件を選択します。

ステップ 3 Find をクリックします。

検索条件に一致する CTI ルート ポイントが、[図 56-2](#) に示すようにウィンドウに表示されます。

図 56-2 Find and List CTI Route Points Configuration ウィンドウ



ステップ 4 リセットする CTI ルート ポイントの横にあるチェックボックスをオンにします。ウィンドウ内の CTI ルート ポイントをすべて選択するには、Matching records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにします。

ステップ 5 Reset Selected をクリックします。

Reset Device ダイアログが表示されます。

■ CTI ルート ポイントのリセット

ステップ 6 次のいずれかのボタンをクリックします。

- **Restart** : デバイスをシャットダウンしないで再起動する。
 - **Reset** : デバイスをシャットダウンしてから起動する。
 - **Close** : 何も実行しないで、Reset Device ダイアログを閉じる。
-


関連項目

- [CTI ルート ポイントの設定 \(P.56-1\)](#)
- [CTI ルート ポイントの追加 \(P.56-2\)](#)
- [CTI ルート ポイントの変更 \(P.56-4\)](#)
- [CTI ルート ポイントの削除 \(P.56-5\)](#)
- [CTI ルート ポイントの検索 \(P.56-7\)](#)
- [CTI ルート ポイントの設定値 \(P.56-11\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「コンピュータ テレフォニー統合」

CTI ルート ポイントの設定値

表 56-1 では、CTI ルート ポイントの設定値について説明します。

表 56-1 CTI ルート ポイントの設定値

フィールド	説明
Device Name	このデバイスに固有の識別子を、1 ~ 15 文字（英数字、ドット、ダッシュ、または下線を含む）で入力します。
Description	CTI ルート ポイントの内容を表す名前を入力します。
Device Pool	デバイス プールの名前を選択します。デバイス プールは、自動登録用の CallManager Group、Date/Time Group、Region、および Calling Search Space を含む、このデバイスのプロパティの集合を指定します。
Calling Search Space	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、コーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、収集された（発信）番号のルーティングする方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで設定された数よりもコーリング サーチ スペースの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リスト ボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Calling Search Space ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにコーリング サーチ スペース名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるコーリング サーチ スペースのリストで希望するコーリング サーチ スペース名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、System > Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。</p>

■ CTI ルート ポイントの設定値

表 56-1 CTI ルート ポイントの設定値 (続き)

フィールド	説明
Location	このルート ポイントに適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションに <i>None</i> を設定すると、そのロケーションの機能では、このルート ポイントが消費する帯域幅を把握しません。
Media Resource Group List	適切なメディア リソース グループ リストを選択します。メディア リソース グループ リストは、優先順位順に並べられたメディア リソース グループから構成されます。アプリケーションは、メディア リソース グループ リストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースの中から、必要なメディア リソース、たとえば、Music On Hold サーバを選択します。 <none> を選択すると、Cisco CallManager は、デバイス プールに定義されているメディア リソース グループを使用します。 詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「メディア リソースの管理」を参照してください。
User Hold Audio Source	アプリケーションが保留操作を開始するときに再生されるオーディオ ソースを指定するには、ドロップダウン矢印をクリックし、表示されるリストからオーディオ ソースを選択します。 オーディオ ソースを選択しない場合、Cisco CallManager は、デバイス プールに定義されているオーディオ ソースを使用します。または、デバイス プールがオーディオ ソース ID を指定していない場合は、システム デフォルトを使用します。 オーディオ ソースの定義は、Music On Hold Audio Source Configuration ウィンドウで行います。このウィンドウにアクセスするには、 Service > Music On Hold の順に選択してください。

表 56-1 CTI ルート ポイントの設定値 (続き)

フィールド	説明
Network Hold Audio Source	<p>ネットワークが保留動作を開始するときに再生されるオーディオソースを指定するには、ドロップダウン矢印をクリックし、表示されるリストからオーディオソースを選択します。</p> <p>オーディオソースを選択しない場合、Cisco CallManager は、デバイス プールに定義されているオーディオソースを使用します。または、デバイス プールがオーディオソース ID を指定していない場合は、システム デフォルトを使用します。</p> <p>オーディオソースの定義は、Music On Hold Audio Source Configuration ウィンドウで行います。このウィンドウにアクセスするには、Service > Music On Hold の順に選択してください。</p>

関連項目

- [CTI ルート ポイントの設定 \(P.56-1\)](#)
- [CTI ルート ポイントの追加 \(P.56-2\)](#)
- [CTI ルート ポイントの変更 \(P.56-4\)](#)
- [CTI ルート ポイントの削除 \(P.56-5\)](#)
- [CTI ルート ポイントの検索 \(P.56-7\)](#)
- [CTI ルート ポイントのリセット \(P.56-9\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「コンピュータ テレフォニー統合」

■ CTI ルートポイントの設定値



共通プロファイルの設定

共通プロファイルは、ユーザ固有のサービスと機能属性で構成されます。各デバイスが、ユーザ指向情報の共通プロファイルに関連付けられていることを確認してください。



(注)

現在、Device Pool ウィンドウには、ロケーションに関連する情報のみが含まれています。Common Profile ウィンドウに、すべてのユーザ指向情報が記録されません。

共通プロファイルを設定するには、次のトピックを参照してください。

- [共通プロファイルの検索 \(P.57-2\)](#)
- [共通プロファイルの追加 \(P.57-3\)](#)
- [共通プロファイルの更新 \(P.57-4\)](#)
- [共通プロファイルのコピー \(P.57-5\)](#)
- [共通プロファイルの削除 \(P.57-6\)](#)
- [共通プロファイルの設定値 \(P.57-8\)](#)

共通プロフィールの検索

ネットワーク内にはいくつかの共通プロフィールが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の条件を指定して、特定の共通プロフィールを見つけることができます。共通プロフィールを見つける手順は、次のとおりです。



(注) ブラウザセッションでの作業中、Cisco CallManager Administration では、共通プロフィールの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻る場合、検索を変更するかブラウザを閉じるまで、Cisco CallManager Administration によって共通プロフィールの検索設定は保持されません。

手順

ステップ 1 Device > Device Settings > Common Profile の順に選択します。

Find and List Common Profile ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 共通プロフィールの検索条件を選択し、**Find** をクリックします。使用可能な共通プロフィールをすべて一覧表示するには、検索条件を空白のままにして、**Find** をクリックします。

関連項目

- [共通プロフィールの追加 \(P.57-3\)](#)
- [共通プロフィールの更新 \(P.57-4\)](#)
- [共通プロフィールのコピー \(P.57-5\)](#)
- [共通プロフィールの削除 \(P.57-6\)](#)
- [共通プロフィールの設定値 \(P.57-8\)](#)

共通プロフィールの追加

デバイスの共通プロフィールを追加する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** 共通プロフィールを選択するか、**Add a New Common Profile** リンクをクリックします。
 - ステップ 2** 適切な設定値を設定します (表 57-1 を参照)。
 - ステップ 3** 新規共通プロフィールを追加するには、**Insert** をクリックします。既存の共通プロフィールの設定を更新するには、**Update** をクリックします。
-

関連項目

- [共通プロフィールの検索 \(P.57-2\)](#)
- [共通プロフィールの更新 \(P.57-4\)](#)
- [共通プロフィールのコピー \(P.57-5\)](#)
- [共通プロフィールの削除 \(P.57-6\)](#)
- [共通プロフィールの設定値 \(P.57-8\)](#)

共通プロファイルの更新

既存の共通プロファイルを更新する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [P.57-2](#) の「[共通プロファイルの検索](#)」の手順に従って、コピーする共通プロファイルを見つけます。
- ステップ 2** 共通プロファイルの設定値の更新については、[表 57-1](#) を参照してください。
- ステップ 3** **Insert** をクリックします。
-

関連項目

- [共通プロファイルの検索 \(P.57-2\)](#)
- [共通プロファイルの追加 \(P.57-3\)](#)
- [共通プロファイルのコピー \(P.57-5\)](#)
- [共通プロファイルの削除 \(P.57-6\)](#)
- [共通プロファイルの設定値 \(P.57-8\)](#)

共通プロファイルのコピー

既存の共通プロファイルをコピーする手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [P.57-2](#) の「[共通プロファイルの検索](#)」の手順に従って、コピーする共通プロファイルを見つけます。
 - ステップ 2** コピーするプロファイルの横にあるコピー アイコンをクリックします。
 - ステップ 3** 共通プロファイルの設定値を更新する場合は、[表 57-1](#) を参照してください。
 - ステップ 4** **Insert** をクリックします。
-

関連項目

- [共通プロファイルの検索 \(P.57-2\)](#)
- [共通プロファイルの削除 \(P.57-6\)](#)
- [共通プロファイルの追加 \(P.57-3\)](#)
- [共通プロファイルの設定値 \(P.57-8\)](#)

共通プロフィールの削除

共通プロフィールを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

デバイスが使用している共通プロフィールは削除できません。共通プロフィールを使用しているデバイスを検索するには、Common Profile Configuration ウィンドウの Dependency Records リンクをクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。使用されている共通プロフィールを削除しようとする、Cisco CallManager からメッセージが表示されます。現在使用されている共通プロフィールを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除する共通プロフィールを使用しているデバイスすべてに、別の共通プロフィールを割り当てる。
- 削除する共通プロフィールを使用しているデバイスを削除する。

手順

-
- ステップ 1** [P.57-2 の「共通プロフィールの検索」](#)の手順に従って、削除する共通プロフィールを見つけます。
 - ステップ 2** 削除する共通プロフィールの横にあるチェックボックスをオンにします。ウィンドウ内の共通プロフィールをすべて選択するには、Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにします。
 - ステップ 3** Delete Selected をクリックします。
 - ステップ 4** OK をクリックして、選択を確認します。
-

関連項目

- [共通プロファイルの検索 \(P.57-2\)](#)
- [共通プロファイルの追加 \(P.57-3\)](#)
- [共通プロファイルの更新 \(P.57-4\)](#)
- [共通プロファイルのコピー \(P.57-5\)](#)
- [共通プロファイルの設定値 \(P.57-8\)](#)

■ 共通プロフィールの設定値

共通プロフィールの設定値

表 57-1 では、共通プロフィールの設定値について説明します。

表 57-1 共通プロフィールの設定値





フィールド	説明
Common Profile Name	共通プロフィールを識別する名前を入力します。
Softkey Template	ドロップダウン リスト ボックスから、共通プロフィールのソフトキー テンプレートを選択します。
Network Hold MOH Audio Source	ネットワークが保留操作を開始するときに、music on hold (MOH) に使用するオーディオ ソースを選択します。
User Hold MOH Audio Source	ユーザが保留操作を開始したときに MOH に使用するオーディオ ソースを選択します。
User Locale	ドロップダウン リスト ボックスから、共通プロフィールのロケールを選択します。そのユーザ ロケールは、言語とフォントを含んだ、ユーザをサポートする一連の詳細情報を識別します。
	 <p>(注) ユーザがユーザ ロケールを選択しない場合は、Cisco CallManager clusterwide パラメータでデフォルト ユーザ ロケールとして指定されたロケールが適用されます。</p>

表 57-1 共通プロファイルの設定値（続き）

フィールド	説明
MLPP Indication	<p data-bbox="477 287 1247 386">この設定値で、デバイスが MLPP 優先コールを発信する場合、優先トーンを再生できるデバイスで MLPP 機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p data-bbox="477 410 1247 475">ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul data-bbox="490 500 1247 711" style="list-style-type: none"> • Default : デバイスは、MLPP Indication Status エンタープライズパラメータから MLPP Indication 設定値を継承します。 • Off : デバイスは、MLPP 優先コールの表示の制御も処理も行いません。 • On : デバイスは、MLPP 優先コールの表示の制御および処理を行います。 <p data-bbox="477 727 1247 865"> (注) MLPP Indication を Off または Default (デフォルトが Off の場合) に設定し、かつ、MLPP Preemption を Forceful に設定するという組み合わせは設定しないでください。</p> <p data-bbox="477 881 1247 1036"> (注) エンタープライズ パラメータまたはデバイス レベルで MLPP Indication をオンにすると、MLPP Indication をデバイスに対してオフ (上書き) にしない限り、回線に対する通常の Ring Setting が動作しません。</p>

■ 共通プロファイルの設定値

表 57-1 共通プロファイルの設定値（続き）

フィールド	説明
MLPP Preemption	<p>この設定値で、デバイスが MLPP 優先コールを発信する場合、進行中のコールに割り込みできるデバイスで MLPP 機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Default : デバイスは、MLPP Preemption Setting エンタープライズパラメータから MLPP Preemption 設定値を継承します。 • Disabled : デバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先するようにはしません。 • Forceful : デバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先するようになります。 <p> (注) MLPP Indication を Off または Default (デフォルトが Off の場合) に設定し、かつ、MLPP Preemption を Forceful に設定するという組み合わせは設定しないでください。</p>
MLPP Domain	<p>この共通プロファイルに関連付けられた MLPP ドメインに対応する、0 ~ FFFFFFF の 16 進数の値を入力します。このフィールドをブランクのままにした場合、このデバイスは、MLPP Domain Identifier エンタープライズパラメータに設定された値から MLPP ドメインを継承します。</p>

関連項目

- [共通プロファイルの検索 \(P.57-2\)](#)
- [共通プロファイルの追加 \(P.57-3\)](#)
- [共通プロファイルの更新 \(P.57-4\)](#)
- [共通プロファイルのコピー \(P.57-5\)](#)
- [共通プロファイルの削除 \(P.57-6\)](#)



デバイス プロファイルの設定

デバイス プロファイルは、特定のデバイスに関連付けられている一連の属性（サービスや機能）から構成されます。デバイス プロファイルには、名前、説明、電話テンプレート、アドオン モジュール、ソフトキー テンプレート、Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) 情報、電話番号、登録済みサービス、短縮ダイヤル情報などが含まれています。デバイス プロファイルには、自動生成とユーザの2種類があります。ユーザにユーザ デバイス プロファイルを割り当てると、ユーザがデバイスにログインしたときに、そのユーザに割り当てたユーザ デバイス プロファイルが、デフォルト ログイン デバイス プロファイルとしてそのデバイスにロードされます。ユーザ デバイス プロファイルが電話機にロードされると、電話機はそのデバイス プロファイルの属性を使用します。

ユーザ デバイス プロファイルは、特定のデバイスのデフォルト ログアウト デバイス プロファイルとして割り当てることができます。たとえば、ユーザが電話機からログアウトすると、ログアウト デバイス プロファイルが電話機にロードされ、ログアウト デバイス プロファイルの属性がその電話機に指定されます。Cisco CallManager Administration ウィンドウで、ユーザ デバイス プロファイルの作成、変更、削除を実行できます。ユーザ デバイス プロファイルがログアウト デバイス プロファイルとして使用されている場合は、ユーザ デバイス プロファイルを削除できません。

特殊なデバイス プロファイルである自動生成デバイス プロファイルは、Cisco CallManager エクステンション モビリティ用に電話機を設定して、Phone Configuration ウィンドウで「Use Current Settings」を選択した場合に生成されます。自動生成デバイス プロファイルは、ログアウト デバイス プロファイルとして特定の電話機に関連付けられます。

Cisco CallManager は、デバイス プロファイル デフォルトもサポートしています。ユーザ デバイス プロファイルが存在しない電話機のモデルにユーザがログインするときにはいつでも、デバイス プロファイル デフォルトを使用します。Cisco エクステンション モビリティをサポートする各電話機のモデルのデバイス プロファイル デフォルトを作成するには、Device Profile Default Configuration ウィンドウを使用します。デバイス プロファイル デフォルトの最大数は、Cisco CallManager エクステンション モビリティをサポートする電話機のモデルの数を超えることはできません。デバイス プロファイル デフォルトの詳細については、[第 59 章「デバイス プロファイル デフォルトの設定」](#)を参照してください。

デバイス プロファイルの検索と設定をするには、次のトピックを参照してください。

- [デバイス プロファイルの検索 \(P.58-3\)](#)
- [新規ユーザ デバイス プロファイルの追加 \(P.58-5\)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイルの更新 \(P.58-10\)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイルの削除 \(P.58-11\)](#)
- [自動生成されたデバイス プロファイルの更新 \(P.58-13\)](#)
- [自動生成デバイス プロファイル用の新規電話番号の設定 \(P.58-15\)](#)
- [電話番号の設定 \(P.62-52\)](#)
- [電話番号の設定値 \(P.62-60\)](#)

デバイス プロファイルの検索

Find and List Device Profile ウィンドウを使用して、デバイス プロファイルを検索する手順は、次のとおりです。Find and List 検索機能を使用すると、ユーザ デバイス プロファイル、自動生成デバイス プロファイル、または両方のタイプのプロフィールを検索することができます。この機能は、次のカテゴリに基づいて、あらゆるタイプのデバイス プロファイルを検索します。

- Profile name (プロフィール名)
- Description
- Device Type (デバイス タイプ)

手順

ステップ 1 Device > Device Settings > Device Profile の順に選択します。

Find and List Device Profile ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ドロップダウン リスト ボックスから、表示するデバイス プロファイルのタイプを特定するための検索テキストを選択し、**Find** をクリックします。



(注) データベースに登録されているデバイス プロファイルをすべて検索するには、検索テキストを入力しないで、ドロップダウン リストから All Device Profiles を選択し、**Find** をクリックします。また、検索条件として「Profile Name is not empty」を使用することもできます。

ウィンドウの内容が更新され、検索条件と一致するデバイス プロファイルが表示されます。

自動生成デバイス プロファイルまたはユーザ デバイス プロファイルに進む場合：

ステップ 3 検索条件と一致するレコードのリストから、デバイス プロファイルを選択します。

デバイス プロファイルを削除する場合：

ステップ 4 複数のデバイス プロファイルを一度に削除するには、最初の列にあるチェックボックスを使用します。リスト内の最初のチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックします。また、個々のユーザ デバイス プロファイルを選択して、別々に削除することもできます。



(注) 自動生成デバイス プロファイルは削除できません。ユーザ デバイス プロファイルは、電話機がログアウト プロファイルとして使用している場合は、削除できません。

関連項目

- [デバイス プロファイルの設定 \(P.58-1\)](#)
- [新規ユーザ デバイス プロファイルの追加 \(P.58-5\)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイルの更新 \(P.58-10\)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイルの削除 \(P.58-11\)](#)
- [自動生成されたデバイス プロファイルの更新 \(P.58-13\)](#)
- [自動生成デバイス プロファイル用の新規電話番号の設定 \(P.58-15\)](#)
- [電話番号の設定 \(P.62-52\)](#)
- [電話番号の設定値 \(P.62-60\)](#)

新規ユーザ デバイス プロファイルの追加

ユーザ デバイス プロファイルには、デバイス プロファイル名、説明、電話テンプレート、ユーザ ロケール、拡張モジュール、ソフトキー テンプレート、MLPP 情報、電話番号、登録済みのサービス、および短縮ダイヤル情報などの属性が入っています。ユーザ デバイス プロファイルを追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

電話ボタン テンプレートが設定済みであることを確認してから手順に進んでください。詳細については、P.64-5 の「電話ボタン テンプレートの追加」を参照してください。

手順

ステップ 1 Device > Device Settings > Device Profile の順に選択します。

Find and List Device Profile ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 Add a New User Device Profile リンクをクリックします。

User Device Profile Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 Device Type ドロップダウン リスト ボックスからデバイス タイプを選択します。

ステップ 4 User Device Profile Name フィールドに、固有の名前を入力します。この名前には、最長 50 文字まで指定できます。

ステップ 5 Description フィールドに、このユーザ デバイス プロファイルの説明を入力します。この特定のユーザ デバイス プロファイルを説明する内容を入力してください。

ステップ 6 ユーザが保留アクションを開始する場合に再生されるオーディオ ソースを指定するには、User Hold Audio Source フィールドの右側のドロップダウン矢印をクリックし、表示されたリストからオーディオ ソースを選択します。

■ 新規ユーザ デバイス プロファイルの追加

オーディオ ソースを選択しない場合、Cisco CallManager は、デバイス プールに定義されているオーディオ ソースを使用します。または、デバイス プールがオーディオ ソース ID を指定していない場合は、システム デフォルトを使用します。



(注) オーディオ ソースの定義は、Music On Hold Audio Source Configuration ウィンドウで行います。アクセスするには、**Service > Media Resource > Music On Hold Audio Source** の順に選択します。

ステップ 7 User Locale ドロップダウン リストから、そのデバイスで表示する言語を選択します。

ステップ 8 コール表示制限を設定して、内部コールが受信するすべての表示制限を無視するには、Ignore Presentation Indicators (internal calls only) チェックボックスをオンにします。



(注) この設定は、変換パターンレベルで発信側の回線 ID 表示と接続側の回線 ID 表示の設定を組み合わせて使用してください。同時に、これらの設定値では、コール表示制限を設定して、各コールに対して発信側の回線または接続側の回線の表示情報を選択的に表示、またはブロックできます。コール表示制限の詳細については、『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「Call Display Restrictions 機能」の章を参照してください。

ステップ 9 Phone Button Template ドロップダウン リストから、電話ボタン テンプレートを選択します。

ステップ 10 Softkey Template ドロップダウン リストから、表示するソフトキー テンプレートを選択します。

ステップ 11 拡張モジュール フィールドの拡張モジュール ドロップダウン リストから電話テンプレートを選択して、このデバイス プロファイル用の 1 つまたは 2 つの拡張モジュールを設定できます。



(注) 電話ボタン テンプレート フィールドの横にある View button list リンクを選択すると、いつでも電話ボタン リストを表示できます。別のダイアログボックスが表示され、その特定の拡張モジュール用の電話ボタンが表示されます。

ステップ 12 このユーザ デバイス プロファイルが MLPP 優先コールに使用される場合、このデバイス プロファイルに関連付けられている MLPP ドメインの値を、0 から FFFFFFFF までの 16 進数で入力します。このフィールドをブランクのままにした場合、このデバイス プロファイルは、MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータに設定された値から MLPP ドメインを引き継ぎます。

ステップ 13 このユーザ デバイス プロファイルを MLPP 優先コールに使用する場合、MLPP Indication 設定をデバイス プロファイルに割り当てます。優先トーンを再生できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその再生機能を使用するかどうかを指定します。

ドロップダウン リスト ボックスから設定を選択して、このデバイス プロファイルに割り当てます。オプションは次のとおりです。

- **Default** : このデバイス プロファイルは、関連するデバイスのデバイス プールから MLPP Indication 設定を引き継ぎます。
- **Off** : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示の制御も処理もしません。
- **On** : このデバイス プロファイルは、MLPP 優先コールの表示を制御し処理します。



(注) MLPP Indication を *Off* または *Default* (デフォルトは *Off* の場合) に設定し、かつ MLPP Preemption を *Forceful* に設定するという組み合わせで、デバイス プロファイルを設定することはできません。

■ 新規ユーザ デバイス プロファイルの追加

ステップ 14 このユーザ デバイス プロファイルを MLPP 優先コールに使用する場合、MLPP Preemption 設定をデバイス プロファイルに割り当てます。進行中のコールを優先できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその優先機能を使用するかどうかを指定します。

ドロップダウン リスト ボックスから設定を選択して、このデバイス プロファイルに割り当てます。オプションは次のとおりです。

- **Default** : このデバイス プロファイルは、関連するデバイスのデバイス プールから MLPP Preemption 設定を引き継ぎます。
- **Disabled** : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先しないようにします。
- **Forceful** : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先するようにします。



(注) MLPP Indication を *Off* または *Default* (デフォルトは *Off* の場合) に設定し、かつ MLPP Preemption を *Forceful* に設定するという組み合わせで、デバイス プロファイルを設定することはできません。

ステップ 15 Login User ID フィールドに、有効なログイン ユーザ ID を入力します。



(注) ログアウト プロファイルとしてユーザ デバイス プロファイルが使用される場合、その電話機に関連付けられるログイン ユーザ ID を指定します。ユーザがこのユーザ デバイス プロファイルからログアウトした後では、その電話機はこのログイン ユーザ ID に自動的にログインされます。



(注) Login User ID フィールドの横にある **Select Login User ID** リンクを選択して、有効なログイン ユーザ ID を容易に検索することができます。詳細については、[P.62-37](#) の「**ユーザ ID の検索**」を参照してください。

ステップ 16 Insert をクリックします。

ステップ 17 このユーザ デバイス プロファイルの回線 1 の電話番号を設定するように求めるダイアログボックスが表示されます。**OK** をクリックします。

Directory Number Configuration ウィンドウが表示されます。電話番号の設定の詳細については、[P.62-52](#) の「[電話番号の設定](#)」を参照してください。

ステップ 18 適切な設定値を入力します ([P.62-60](#) の「[電話番号の設定値](#)」を参照)。

ステップ 19 **Insert** をクリックします。

ダイアログボックスが表示され、ユーザ デバイス プロファイルが更新されたことを通知します。そのダイアログボックスでは、このプロファイルでの変更を有効にするためにデバイスに対しログアウトし再びログインする必要があることを通知します。**OK** をクリックします。

2 番目のダイアログボックスでは、現在のデバイスに電話番号が割り当てられたことを通知します。**OK** をクリックして、現在のユーザ デバイス プロファイルに戻ります。

関連項目

- [デバイス プロファイルの設定 \(P.58-1\)](#)
- [デバイス プロファイルの検索 \(P.58-3\)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイルの更新 \(P.58-10\)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイルの削除 \(P.58-11\)](#)
- [自動生成されたデバイス プロファイルの更新 \(P.58-13\)](#)
- [自動生成デバイス プロファイル用の新規電話番号の設定 \(P.58-15\)](#)
- [電話番号の設定 \(P.62-52\)](#)
- [電話番号の設定値 \(P.62-60\)](#)

ユーザ デバイス プロファイルの更新

ユーザ デバイス プロファイルを更新する手順は、次のとおりです。

始める前に

更新するユーザ デバイス プロファイルが Cisco CallManager で設定済みであることを確認してから、手順に進んでください。ユーザ デバイス プロファイルを設定するには、P.58-5 の「新規ユーザ デバイス プロファイルの追加」を参照してください。

手順

ステップ 1 更新するユーザ デバイス プロファイルを検索します。P.58-3 の「デバイス プロファイルの検索」を参照してください。

ステップ 2 User Device Profile Configuration ウィンドウから、そのユーザ デバイス プロファイルに必要な変更を加えます。次に、**Update** をクリックします。

変更内容が、このユーザ デバイス プロファイルに表示されます。



(注) ユーザ デバイス プロファイルに加えた変更を有効にするには、デバイスにログインする必要があります。

関連項目

- デバイス プロファイルの設定 (P.58-1)
- デバイス プロファイルの検索 (P.58-3)
- 新規ユーザ デバイス プロファイルの追加 (P.58-5)
- ユーザ デバイス プロファイルの削除 (P.58-11)
- 自動生成されたデバイス プロファイルの更新 (P.58-13)
- 自動生成デバイス プロファイル用の新規電話番号の設定 (P.58-15)
- 電話番号の設定 (P.62-52)
- 電話番号の設定値 (P.62-60)

ユーザ デバイス プロファイルの削除

ユーザ デバイス プロファイルを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

デバイス プロファイルがデバイスに割り当てられている場合、そのデバイス プロファイルは削除できません。デバイス プロファイルを使用しているデバイスを検索するには、Device Profile Configuration ウィンドウの **Dependency Records** リンクをクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されません。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。使用されているデバイス プロファイルを削除しようとする、Cisco CallManager はエラー メッセージを表示します。現在使用されているデバイス プロファイルを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するデバイス プロファイルを使用しているデバイスすべてに、別のデバイス プロファイルを割り当てる。
- 削除するデバイス プロファイルを使用しているデバイスを削除する。

手順

ステップ 1 削除するユーザ デバイス プロファイルを検索します。[P.58-3 の「デバイス プロファイルの検索」](#)を参照してください。

ステップ 2 User Device Profile Configuration ウィンドウで、**Delete** をクリックします。

この操作を実行すると取り消すことができないことを確認するメッセージが表示されます。

ステップ 3 デバイス プロファイルを削除するには、**OK** をクリックします。削除操作を取り消すには、**Cancel** をクリックします。

■ ユーザ デバイス プロファイルの削除



(注) ユーザ デバイス プロファイルが、デフォルトのログアウト デバイス プロファイルとして設定されている場合は、そのデバイス プロファイルを削除できません。ログアウト デバイス プロファイルを削除する場合は、そのデバイス プロファイルに対するログアウト デバイス プロファイルの指定を変更し、別のデバイス プロファイルをその電話機のログアウト デバイス プロファイルとして設定する必要があります。ユーザ デバイス プロファイルがログアウト デバイス プロファイルではなくなった後、削除できます。

関連項目

- [デバイス プロファイルの設定 \(P.58-1\)](#)
- [デバイス プロファイルの検索 \(P.58-3\)](#)
- [新規ユーザ デバイス プロファイルの追加 \(P.58-5\)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイルの更新 \(P.58-10\)](#)
- [自動生成されたデバイス プロファイルの更新 \(P.58-13\)](#)
- [自動生成デバイス プロファイル用の新規電話番号の設定 \(P.58-15\)](#)
- [電話番号の設定 \(P.62-52\)](#)
- [電話番号の設定値 \(P.62-60\)](#)

自動生成されたデバイス プロファイルの更新

ここでは、自動生成デバイス プロファイルの更新方法を説明します。自動生成デバイス プロファイルは変更できますが、削除したりプロファイル名を変更したりすることはできません。

始める前に

自動生成デバイス プロファイルが設定済みであること。詳細については、[P.62-12 の「電話機の更新」](#)と『*Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド*』の「自動生成されたデバイス プロファイル」を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** 更新する自動生成デバイス プロファイルを検索します。 [P.58-3 の「デバイス プロファイルの検索」](#)を参照してください。
- ステップ 2** Autogenerated Device Profile Configuration ウィンドウから、その自動生成デバイス プロファイルに必要な変更を加えます。次に、**Update** をクリックします。

変更内容が、この自動生成デバイス プロファイルに表示されます。



(注) 自動生成デバイス プロファイルに加えた変更を有効にするには、デバイスからログアウトする必要があります。

関連項目

- [デバイス プロファイルの設定 \(P.58-1\)](#)
- 『*Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド*』の「自動生成されたデバイス プロファイル」
- [デバイス プロファイルの検索 \(P.58-3\)](#)
- [新規ユーザ デバイス プロファイルの追加 \(P.58-5\)](#)

■ 自動生成されたデバイス プロファイルの更新

- ユーザ デバイス プロファイルの更新 (P.58-10)
- ユーザ デバイス プロファイルの削除 (P.58-11)
- 自動生成デバイス プロファイル用の新規電話番号の設定 (P.58-15)
- 電話番号の設定 (P.62-52)
- 電話番号の設定値 (P.62-60)

自動生成デバイス プロファイル用の新規電話番号の設定

自動生成されたデバイス プロファイルに対して、割り当てられた回線上で新規電話番号を追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

次の条件を満たしていることを確認してから手順に進んでください。

- 自動生成デバイス プロファイルが設定済みであること。詳細については、[P.62-12 の「電話機の更新」](#)を参照してください。
- 自動生成デバイス プロファイル用の新規電話番号を追加するには、Autogenerated Device Profile Configuration ウィンドウを使用する。詳細については、[P.58-3 の「デバイス プロファイルの検索」](#)を参照してください。

手順

- ステップ 1** Autogenerated Device Profile Configuration ウィンドウで、このウィンドウの左側にある電話番号のリストから、新しい DN を追加する回線を選択します。

Directory Number Configuration ウィンドウが表示されます。電話番号の設定の詳細については、[P.62-52 の「電話番号の設定」](#)を参照してください。

- ステップ 2** 適切な設定値を入力します ([P.62-60 の「電話番号の設定値」](#)を参照)。

- ステップ 3** **Insert** をクリックします。

ウィンドウの内容が更新され、設定された設定値が表示されます。



- (注)** Directory Number Configuration ウィンドウからデバイスの更新、削除、および再起動を行うには、これらの機能に対応するボタンをクリックすることもできます。電話番号を削除すると、回線からその電話番号が削除されます。この削除操作を元に戻すことはできません。

■ 自動生成デバイス プロファイル用の新規電話番号の設定

ステップ 4 Configure Device Profile リンクをクリックして、Autogenerated Device Profile ウィンドウに戻ります。

ウィンドウの左側の適切な回線に新しい電話番号が表示されます。



(注) 電話機の設定値を更新するときに、自動生成デバイス プロファイルにその電話機とは異なるデフォルト値がある場合、Phone Configuration Web ウィンドウからログアウト デバイス プロファイルとして <User Current Device Setting> を選択すると、そのデバイス プロファイルの設定値が上書きされます。



(注) Synchronization Between Auto Device Profile and Phone Configuration エンタープライズパラメータの値を True (デフォルト) に設定します。この設定により、電話機が更新されたときに、自動生成デバイス プロファイルも更新されることが確実にあります。

関連項目

- [デバイス プロファイルの設定 \(P.58-1\)](#)
- [デバイス プロファイルの検索 \(P.58-3\)](#)
- [新規ユーザ デバイス プロファイルの追加 \(P.58-5\)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイルの更新 \(P.58-10\)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイルの削除 \(P.58-11\)](#)
- [自動生成されたデバイス プロファイルの更新 \(P.58-13\)](#)
- [電話番号の設定 \(P.62-52\)](#)
- [電話番号の設定値 \(P.62-60\)](#)



デバイス プロファイル デフォルトの設定

ユーザ デバイス プロファイルが存在しない電話機のモデルにユーザがログインするときはいつでも、デバイス プロファイル デフォルトを使用します。Cisco エクステンション モビリティをサポートする各電話機のモデルのデバイス プロファイル デフォルトを作成するには、Device Profile Default Configuration ウィンドウを使用します。デバイス プロファイル デフォルトの最大数は、Cisco CallManager エクステンション モビリティをサポートする電話機のモデルの数を超えることはできません。

たとえば、ユーザ デバイス プロファイルのある Cisco IP Phone モデル 7960 に、ユーザがログインします。ユーザのユーザ デバイス プロファイルは、ユーザがログインした電話機にダウンロードされます。後で、同じユーザが、そのユーザのユーザ デバイス プロファイルのない Cisco IP Phone モデル 7940 にログインします。このような場合に、モデル 7940 用のデバイス プロファイル デフォルトが電話機にダウンロードされます。

デバイス プロファイル デフォルトは、特定のデバイスに関連付けられている一連の属性(サービスや機能)から構成されます。デバイス プロファイルには、デバイス タイプ、ユーザ ロケール、電話ボタン テンプレート、ソフトキー テンプレート、Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) 情報、および Cisco IP Phone サービスが含まれます。

デバイス プロファイル デフォルトの設定と更新を行うには、次のトピックを参照してください。

- [新規デバイス プロファイル デフォルトの追加 \(P.59-3\)](#)
- [デバイス プロファイル デフォルトの更新 \(P.59-5\)](#)
- [デバイス プロファイル デフォルトの削除 \(P.59-6\)](#)
- [サービスのデバイス プロファイル デフォルトへの登録 \(P.59-7\)](#)
- [デバイス プロファイル デフォルトの設定値 \(P.59-8\)](#)

新規デバイス プロファイル デフォルトの追加

デバイス プロファイル デフォルトには、デバイス タイプ、電話テンプレート、ユーザ ロケール、拡張モジュール、ソフトキー テンプレート、MLPP 情報、および登録済み Cisco IP Phone サービスなどの属性が含まれます。ユーザ プロファイル デフォルトを追加する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 **Device > Device Settings > Device Profile Default** の順に選択します。

Device Profile Default Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 **Add a New User Device Profile** リンクをクリックします。

ステップ 3 各フィールドを設定します (表 59-1 を参照)。

ステップ 4 **Insert** をクリックします。

デバイス プロファイルが Device Profile Default ペインに表示されます。

ステップ 5 **Subscribe/Unsubscribe Services** リンクをクリックして、Cisco IP Phone サービスをこのプロファイルに追加します。

Subscribe Cisco IP Phone services ウィンドウが表示されます。

ステップ 6 **Select a Service** ドロップダウン リスト ボックスから、プロファイルに追加するサービスを選択します。

ステップ 7 **Continue** をクリックします。

選択したサービスが、ウィンドウに表示されます。別のサービスを選択する場合は、**Back** をクリックし、ステップ 6 を繰り返します。

■ 新規デバイス プロファイル デフォルトの追加

ステップ 8 Subscribe をクリックします。

サービスが Subscribed Services リストに表示されます。

関連項目

- [デバイス プロファイル デフォルトの更新 \(P.59-5\)](#)
- [デバイス プロファイル デフォルトの削除 \(P.59-6\)](#)
- [サービスのデバイス プロファイル デフォルトへの登録 \(P.59-7\)](#)
- [デバイス プロファイル デフォルトの設定値 \(P.59-8\)](#)

デバイス プロファイル デフォルトの更新

デバイス プロファイル デフォルトを更新する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 Device > Device Settings > Device Profile Default の順に選択します。

ステップ 2 Device Profile Default ペインから、更新するデバイス プロファイルをクリックします。

Device Profile Default Configuration ウィンドウに、選択したプロファイルのプロファイル情報が表示されます。

ステップ 3 必要に応じてプロファイルに変更を加えます (表 59-1 を参照)。

ステップ 4 Update をクリックします。

関連項目

- [新規デバイス プロファイル デフォルトの追加 \(P.59-3\)](#)
- [デバイス プロファイル デフォルトの削除 \(P.59-6\)](#)
- [サービスのデバイス プロファイル デフォルトへの登録 \(P.59-7\)](#)
- [デバイス プロファイル デフォルトの設定値 \(P.59-8\)](#)

デバイス プロファイル デフォルトの削除

デバイス プロファイル デフォルトを削除する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** **Device > Device Settings > Device Profile Default** の順に選択します。
- ステップ 2** Device Profile Default ペインから、削除するデバイス プロファイルをクリックします。
- Device Profile Default Configuration ウィンドウに、選択したプロファイルのプロファイル情報が表示されます。
- ステップ 3** **Delete** をクリックします。
- この操作を実行すると取り消すことができないことを確認するメッセージが表示されます。
- ステップ 4** デバイス プロファイル デフォルトを削除するには、**OK** をクリックします。削除操作を取り消すには、**Cancel** をクリックします。
-

関連項目

- [新規デバイス プロファイル デフォルトの追加 \(P.59-3\)](#)
- [デバイス プロファイル デフォルトの更新 \(P.59-5\)](#)
- [サービスのデバイス プロファイル デフォルトへの登録 \(P.59-7\)](#)

サービスのデバイス プロファイル デフォルトへの登録

Cisco CallManager エクステンション モビリティなどのサービスをデバイス プロファイル デフォルトに登録するには、[P.44-6 の「Cisco IP Phone サービスの追加」](#)を参照してください。

関連項目

- [新規デバイス プロファイル デフォルトの追加 \(P.59-3\)](#)
- [デバイス プロファイル デフォルトの更新 \(P.59-5\)](#)
- [デバイス プロファイル デフォルトの削除 \(P.59-6\)](#)
- [デバイス プロファイル デフォルトの設定値 \(P.59-8\)](#)

■ デバイス プロファイル デフォルトの設定値

デバイス プロファイル デフォルトの設定値

表 59-1 では、Device Profile Default Configuration ウィンドウ内で使用可能なフィールドについて説明します。

表 59-1 デバイス プロファイル デフォルトの設定値





フィールド	説明
デバイス プロファイル デフォルト情報	
Device Type (デバイス タイプ)	このフィールドには、プロファイルが作成されるデバイス(IP Phone など)を指定します。
User Hold Audio Source	<p>ユーザが保留操作を開始するときに再生されるオーディオ ソースを指定するには、ドロップダウン矢印をクリックし、表示されるリストからオーディオ ソースを選択します。</p> <p>オーディオ ソースを選択しない場合、Cisco CallManager は、デバイス プールに定義されているオーディオ ソースを使用します。または、デバイス プールがオーディオ ソース ID を指定していない場合は、システム デフォルトを使用します。</p> <p> (注) オーディオ ソースの定義は、Music On Hold Audio Source Configuration ウィンドウで行います。このウィンドウにアクセスするには、Service > Music On Hold の順に選択してください。</p>

表 59-1 デバイス プロファイル デフォルトの設定値 (続き)



フィールド	説明
User Locale	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、その電話機ユーザ インターフェイスに関連したロケールを選択します。そのユーザ ロケールは、言語とフォントを含んだ、ユーザをサポートする一連の詳細情報を識別します。</p> <p>Cisco CallManager は、ローカリゼーションをサポートする電話機モデルに対してのみ、このフィールドを使用可能にします。</p> <p> (注) ユーザ ロケールが指定されない場合、Cisco CallManager はデバイス プールに関連付けられているユーザ ロケールを使用します。</p> <p> (注) 英語以外の言語で情報を (電話機に) 表示することをユーザが要求している場合は、ユーザ ロケールを設定する前に、ロケール インストーラがインストールされていることを確認します。Cisco IP Telephony Locale Installer の資料を参照してください。</p>
Ignore Presentation Indicators (internal calls only)	<p>コール表示制限を設定して、内部コールが受信するすべての表示制限を無視するには、Ignore Presentation Indicators (internal calls only) チェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) この設定は、変換パターンレベルで発信側の回線 ID 表示と接続側の回線 ID 表示の設定を組み合わせで使用してください。同時に、これらの設定値では、コール表示制限を設定して、各コールに対して発信側の回線または接続側の回線の表示情報を選択的に表示、またはブロックできます。コール表示制限の詳細については、『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「Call Display Restrictions 機能」の章を参照してください。</p>

■ デバイス プロファイル デフォルトの設定値

表 59-1 デバイス プロファイル デフォルトの設定値 (続き)


フィールド	説明
電話ボタン テンプレート情報	
Phone Button Template	適切な電話ボタン テンプレートを選択します。電話ボタン テンプレートは、電話機上のボタンの設定を決定し、各ボタンに使用される機能 (回線、短縮ダイヤルなど) を指定します。
ソフトキー テンプレート情報	
Softkey Template	適切なソフトキー テンプレートを選択します。ソフトキー テンプレートは、Cisco IP Phone におけるソフトキーの設定を決定します。割り当て済みのソフトキー テンプレートがデバイス プールに含まれている場合、このフィールドはブランクのままにします。
拡張モジュール情報	
Module 1	14 個のボタンをもつ 7914 拡張モジュールを選択するか、または何も選択しません。
Module 2	14 個のボタンをもつ 7914 拡張モジュールを選択するか、または何も選択しません。
Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) 情報	
MLPP Domain (たとえば、「0000FF」)	このデバイスに関連付けられている MLPP ドメインの値を、0 から FFFFFFFF までの 16 進数で入力します。このフィールドをブランクのままにした場合、このデバイスは、MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータに設定された値から MLPP ドメインを引き継ぎます。

表 59-1 デバイス プロファイル デフォルトの設定値 (続き)

フィールド	説明
MLPP Indication	<p>優先トーンを再生できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその再生機能を使用するかどうかを指定します (使用可能な場合)。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから設定を選択して、このデバイス プロファイル デフォルトを使用するデバイスに割り当てます。オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Default : このデバイスは、デバイス プールから MLPP Indication 設定を引き継ぎます。 • Off : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示の制御も処理もしません。 • On : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示を制御し処理します。 <p> (注) MLPP Indication を <i>Off</i> または <i>Default</i> (デフォルトが <i>Off</i> の場合) に設定し、かつ MLPP Preemption を <i>Forceful</i> に設定するという組み合わせで、デバイス プロファイル デフォルトを設定することはできません。</p> <p> (注) エンタープライズパラメータ、デバイス プール、またはデバイス レベルで MLPP Indication をオンにすると、MLPP Indication をデバイスに対してオフ (上書き) にしない限り、デバイスで回線に対する通常の Ring Setting が動作しません。</p>

■ デバイス プロファイル デフォルトの設定値

表 59-1 デバイス プロファイル デフォルトの設定値 (続き)

フィールド	説明
MLPP Preemption	<p>進行中のコールを優先できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその優先機能を使用するかどうかを指定します (使用可能な場合)。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスから設定を選択して、このデバイス プロファイル デフォルトを使用するデバイスに割り当てます。オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Default: このデバイスは、デバイス プールから MLPP Preemption 設定を引き継ぎます。 • Disabled: このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先しません。 • Forceful: このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先するようにします。 <p> (注) MLPP Indication を <i>Off</i> または <i>Default</i> (デフォルトが <i>Off</i> の場合) に設定し、かつ MLPP Preemption を <i>Forceful</i> に設定するという組み合わせで、デバイス プロファイル デフォルトを設定することはできません。</p>

関連項目

- [新規デバイス プロファイル デフォルトの追加 \(P.59-3\)](#)
- [デバイス プロファイル デフォルトの更新 \(P.59-5\)](#)
- [デバイス プロファイル デフォルトの削除 \(P.59-6\)](#)
- [サービスのデバイス プロファイル デフォルトへの登録 \(P.59-7\)](#)



ゲートキーパーの設定

ゲートキーパー デバイスは、Cisco Multimedia Conference Manager (MCM) とも呼ばれ、コール アドミッション制御、帯域幅割り当て、およびダイヤル パターン解決 (コール ルーティング) に使用される H.225 RAS (Registration, Admission, and Status Protocol) メッセージ セットをサポートしています。ゲートキーパーは、Cisco CallManager クラスタと H.323 ネットワークの間の通信のためにこれらのサービスを提供します。Cisco CallManager クラスタごとに、複数のゲートキーパー デバイスを設定できます。冗長化のために代替ゲートキーパーを設定することもできます。代替ゲートキーパーの設定の詳細については、MCM のマニュアルを参照してください。

ゲートキーパーの設定は、次の 2 つの要素から構成されます。

- Cisco CallManager の設定。各 Cisco CallManager クラスタは、1 つまたは複数のゲートキーパーに登録できます。この章では、Cisco CallManager サーバでゲートキーパーを設定する方法を説明します。また、Trunk Configuration ウィンドウでトランク デバイスを設定する必要があります。第 63 章「[トランクの設定](#)」を参照してください。
- ルータ上でのゲートキーパーの設定。この設定は、ゲートキーパーの役目をする Cisco IOS Multimedia Conference Manager (MCM) に適用されます。ゲートキーパー用に推奨されるプラットフォームは、Cisco IOS リリース 12.1(3)T 以上を搭載した Cisco 2600、3600、7200 ルータなどです。ゲートキーパーの設定については、MCM の資料を参照してください。代替ゲートキーパー設定は MCM でのみ行うので、Cisco CallManager での設定は必要ありません。

Cisco CallManager Administration でのゲートキーパーの設定については、次のトピックを参照してください。

- [ゲートキーパーの検索 \(P.60-3 \)](#)
- [ゲートキーパーの追加 \(P.60-6 \)](#)
- [ゲートキーパーの削除 \(P.60-7 \)](#)
- [ゲートキーパーの変更 \(P.60-9 \)](#)
- [ゲートキーパーのリセット \(P.60-10 \)](#)
- [ゲートキーパーの設定値 \(P.60-12 \)](#)

次のトピックには、ゲートキーパーに関連する追加情報が記載されています。

- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ゲートキーパーとトランク」
- *Cisco IP テレフォニー ネットワーク デザイン ガイド*
- Cisco IOS Multimedia Conference Manager (Command Reference) の資料

ゲートキーパーの検索

ネットワーク内にはいくつかのゲートキーパーが存在することがあるので、Cisco CallManager Administration では、固有の条件を指定して、特定のゲートキーパーを見つけることができます。ゲートキーパーを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザセッションでの作業中は、ゲートキーパーの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ゲートキーパーの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 Device > Gatekeeper の順に選択します。

Find and List Gatekeeper ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、ゲートキーパーを検索します。

ステップ 2 最初の Find gatekeepers where ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- Name
- Description



(注)

このドロップダウン リスト ボックスで選択する条件によって、検索時に生成されるゲートキーパー リストのソート方法が決まります。たとえば、Description を選択すると、Description 列が結果リストの左側の列に表示されます。

2 番目の Find gatekeepers where ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

■ ゲートキーパーの検索

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is not empty (非空白)
- is empty (空白)

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、**Find** をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



ヒント データベースに登録されているゲートキーパーをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。

検出されたゲートキーパーのリストが、次の項目別に表示されます。

- Gatekeeper icon
- Gatekeeper name
- Description



(注) 該当するゲートキーパーの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Gatekeeper ウィンドウから複数のゲートキーパーを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのゲートキーパーを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致する Gatekeeper icon、Gatekeeper name、または Description をクリックします。

選択したゲートキーパーがウィンドウに表示されます。

関連項目

- [ゲートキーパーの追加 \(P.60-6 \)](#)
- [ゲートキーパーの削除 \(P.60-7 \)](#)
- [ゲートキーパーの変更 \(P.60-9 \)](#)
- [ゲートキーパーのリセット \(P.60-10 \)](#)
- [ゲートキーパーの設定値 \(P.60-12 \)](#)

ゲートキーパーの追加

ゲートキーパー デバイスを追加する手順は、次のとおりです。



(注) Cisco CallManager クラスタごとに、複数のゲートキーパー デバイスを設定できます。

手順

ステップ 1 Device > Gatekeeper の順に選択します。

Find and List Gatekeeper Configuration ウィンドウが表示されます。

ウィンドウの右上にある **Add a New Gatekeeper** リンクをクリックします。

Gatekeeper Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 適切な設定値を入力します (表 60-1 を参照)。

ステップ 3 Insert をクリックして、新規ゲートキーパーを追加します。

ゲートキーパーがデータベースに追加されます。

関連項目

- [ゲートキーパーの検索 \(P.60-3\)](#)
- [ゲートキーパーの削除 \(P.60-7\)](#)
- [ゲートキーパーの変更 \(P.60-9\)](#)
- [ゲートキーパーのリセット \(P.60-10\)](#)
- [ゲートキーパーの設定値 \(P.60-12\)](#)

ゲートキーパーの削除

ゲートキーパーを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

1 つまたは複数のトランクに割り当てられているゲートキーパーは、削除できません。ゲートキーパーを使用しているトランクを検索するには、Gatekeeper Configuration ウィンドウの **Dependency Records** リンクをクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。使用されているゲートキーパーを削除しようとする、Cisco CallManager はエラー メッセージを表示します。現在使用されているゲートキーパーを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するゲートキーパーを使用しているトランクすべてに、別のゲートキーパーを割り当てる。[P.63-7 の「トランクの変更」](#)を参照してください。
- 削除するゲートキーパーを使用しているトランクを削除する。[P.63-5 の「トランクの削除」](#)を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** [P.60-3 の「ゲートキーパーの検索」](#)の手順を使用して、ゲートキーパーを見つけます。
 - ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するゲートキーパーを選択します。
 - ステップ 3** Delete ボタンをクリックします。

確認のダイアログボックスが表示されます。
 - ステップ 4** OK をクリックして、ゲートキーパーを削除します。
-

関連項目

- [ゲートキーパーの検索 \(P.60-3 \)](#)
- [ゲートキーパーの追加 \(P.60-6 \)](#)
- [ゲートキーパーの変更 \(P.60-9 \)](#)
- [ゲートキーパーのリセット \(P.60-10 \)](#)
- [ゲートキーパーの設定値 \(P.60-12 \)](#)

ゲートキーパーの変更

ゲートキーパーの設定値を変更する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** P.60-3 の「[ゲートキーパーの検索](#)」の手順を使用して、ゲートキーパーを見つけます。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、変更するゲートキーパーを選択します。
- ステップ 3** 該当する設定値を更新します（[表 60-1](#) を参照）。
- ステップ 4** Update をクリックして、変更内容を保存します。
- ページの内容が更新され、新しい設定値が表示されます。
- ステップ 5** 変更内容を有効にするために、必要に応じてゲートキーパーをリセットします。詳細については、[P.60-10 の「ゲートキーパーのリセット」](#)を参照してください。
-

関連項目

- [ゲートキーパーの検索](#) (P.60-3)
- [ゲートキーパーの追加](#) (P.60-6)
- [ゲートキーパーの削除](#) (P.60-7)
- [ゲートキーパーのリセット](#) (P.60-10)
- [ゲートキーパーの設定値](#) (P.60-12)

ゲートキーパーのリセット

ゲートキーパーのリセットによって、物理デバイスがリセットされるわけではありません。ゲートキーパーのリセットは、Cisco CallManager のゲートキーパーへの論理接続のリセットおよびゲートキーパーへの再登録が強制されます。再登録の間および再登録が正常終了するまで、このトランクを使用して行われるコールは、このゲートキーパーを使用しますが、失敗します。ゲートキーパーをリセットする手順は、次のとおりです。



(注) ゲートキーパーをリセットしても、ゲートキーパーが制御しているすべてのコールが終了するわけではありませんが、新しいコールは失敗を試みます。

手順

- ステップ 1** P.60-3 の「ゲートキーパーの検索」の手順を使用して、ゲートキーパーを見つけます。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、リセットするゲートキーパーを選択します。
- ステップ 3** Gatekeeper Device の設定値を変更した場合は、**Reset Gatekeeper** をクリックします。
Reset Device ダイアログが表示されます。
- ステップ 4** 次のいずれかの項目をクリックします。
 - **Restart**: コールを終了させることなく新しいゲートキーパー設定を反映させるために、内部ゲートキーパー デバイスを再起動する。
 - **Reset**: 内部ゲートキーパー デバイスをシャットダウンしてから再起動する。Cisco CallManager クラスタは、ゲートキーパーへの登録を解除 (URQ) した後、再登録 (RRQ) します。
 - **Close**: 何も実行しないで、Reset Device ダイアログを閉じる。

関連項目

- [ゲートキーパーの検索 \(P.60-3 \)](#)
- [ゲートキーパーの追加 \(P.60-6 \)](#)
- [ゲートキーパーの削除 \(P.60-7 \)](#)
- [ゲートキーパーの変更 \(P.60-9 \)](#)
- [ゲートキーパーの設定値 \(P.60-12 \)](#)

■ ゲートキーパーの設定値

ゲートキーパーの設定値

表 60-1 では、ゲートキーパーの設定値について説明します。

表 60-1 ゲートキーパーの設定値

フィールド	説明
ゲートキーパー情報	
Host Name/IP Address	<p>ゲートキーパーの IP アドレスまたはホスト名を入力します。これは必須フィールドです。</p> <p>Cisco CallManager クラスタごとに、複数のゲートキーパーを登録できます。</p>
Description	ゲートキーパーの内容を表す名前を入力します。
Registration Request Time to Live	<p>Cisco TAC から指示される場合を除いて、この値を変更しないでください。時間を秒数で入力します。デフォルト値は 60 秒です。</p> <p>Registration Request Time to Live フィールドは、ゲートキーパーが登録要求 (RRQ) を有効であるとみなす時間を指定します。キープアライブ RRQ は、RRQ Time to Live の期限が切れる前に、ゲートキーパーへ送信される必要があります。</p> <p>Cisco CallManager は、ゲートキーパーに RRQ を送信して、そのゲートキーパーに登録し、その後、そのゲートキーパーとの接続を保持します。ゲートキーパーは、要求の確認 (RCF) または拒否 (RRJ) を行います。</p>
Registration Retry Timeout	<p>Cisco TAC から指示される場合を除いて、この値を変更しないでください。時間を秒数で入力します。デフォルト値は 300 秒です。</p> <p>Registration Retry Timeout フィールドは、登録しようとして失敗した後、ゲートキーパーへの登録をやり直すまで、Cisco CallManager が待機する時間を指定します。</p>

表 60-1 ゲートキーパーの設定値 (続き)

フィールド	説明
Enable Device	このチェックボックスを使用すると、このゲートキーパーを Cisco CallManager に登録できます。デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっています。Cisco CallManager からゲートキーパーの登録を解除するには、このチェックボックスをオフにします。このフィールドを更新してから約 1 分以内に、ゲートキーパーの登録は解除されます。

関連項目

- [ゲートキーパーの検索 \(P.60-3\)](#)
- [ゲートキーパーの追加 \(P.60-6\)](#)
- [ゲートキーパーの削除 \(P.60-7\)](#)
- [ゲートキーパーのリセット \(P.60-10\)](#)
- [ゲートキーパーの変更 \(P.60-9\)](#)

■ ゲートキーパーの設定値



ゲートウェイの設定

Cisco CallManager は、Cisco IP Telephony ゲートウェイにより、非 IP 通信デバイスとの情報交換が可能になります。Cisco CallManager は、複数のタイプのゲートウェイをサポートしています (『Cisco CallManager システム ガイド』を参照)。

Cisco CallManager を使用した Cisco ゲートウェイの処理と設定については、次のトピックを参照してください。

- [Cisco CallManager へのゲートウェイの追加 \(P.61-2\)](#)
- [ゲートウェイの設定値 \(P.61-25\)](#)
- [ポートの設定値 \(P.61-101\)](#)
- [特定のゲートウェイの検索 \(P.61-110\)](#)
- [ゲートウェイとポートの変更 \(P.61-124\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco CallManager 音声ゲートウェイの概要」

Cisco CallManager へのゲートウェイの追加

Cisco CallManager でネットワーク内の IP テレフォニー ゲートウェイを管理するには、まず、各ゲートウェイを Cisco CallManager 設定データベースに追加する必要があります。ゲートウェイを追加する場合の手順、ウィンドウ、および設定値は、追加するゲートウェイのモデルによって異なります。

Cisco CallManager で新規ゲートウェイを追加する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** Device > Gateway の順に選択します。Find/List Gateways ウィンドウが表示されません。
 - ステップ 2** Add a New Gateway リンクをクリックします。Add a New Gateway ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 3** Gateway Type ドロップダウン リスト ボックスから、追加するゲートウェイのタイプを選択します。Device Protocol フィールドには、選択するゲートウェイのタイプにより自動的にデータが読み込まれる場合があります。
 - ステップ 4** Next をクリックします。
 - ステップ 5** 次の表で、設定するゲートウェイのタイプ用の手順をクリックします。正しい手順を選択した後、目的のゲートウェイのタイプに該当する設定値を入力するステップから始めます。
-

表 61-1 ゲートウェイ

ゲートウェイのタイプ	タイプ別の追加手順
Cisco Voice Gateway 200 (VG200)	Cisco IOS MGCP ゲートウェイの追加 (P.61-4)
Cisco IOS 269X、26XX、362X、364X、366X、3725、3745 ゲートウェイ	
Cisco 2801、2811、2821、2851、3825、3845 ゲートウェイ	
Cisco Catalyst 4000 Access Gateway Module	
Cisco Catalyst 4224 Voice Gateway Switch	
Communication Media Module	
Cisco IAD2420	Cisco IOS SCCP ゲートウェイの追加 (P.61-15)
Cisco IOS 26XX、269X、3725、3745 ゲートウェイ VG224 Gateway	
Cisco Catalyst 6000 E1 VoIP Gateway	IOS 以外の MGCP ゲートウェイの追加 (P.61-17)
Cisco Catalyst 6000 T1 VoIP Gateway	
Cisco DT-24+ または DE-30+ Digital Access Trunk Gateway	
H.323 モードで設定されたその他の Cisco IOS ゲートウェイ	Cisco IOS H.323 ゲートウェイの追加 (P.61-19)
Cisco Catalyst 6000 24 Port FXS Gateway	Analog Access ゲートウェイとポートの追加 (P.61-20)
Analog Access AS-2、AS-4、AS-8、AT-2、AT-4、AT-8	
Cisco VG248 Gateway	Cisco VG248 Analog Phone Gateway の追加 (P.61-22)

Cisco IOS MGCP ゲートウェイの追加

Cisco IOS MGCP ゲートウェイを Cisco CallManager に追加し、設定する手順を説明します。MGCP をサポートしている Cisco IOS ゲートウェイは、次のとおりです。

- CiscoVG200 Cisco IP Telephony Voice Gateway
- Cisco IOS 362x、364x、366x ゲートウェイ
- Cisco IOS 3725 および 3745 ゲートウェイ
- Cisco IOS 26xx および 269x ゲートウェイ
- Cisco 2801、2811、2821、2851、3825、3845 ゲートウェイ
- Cisco Catalyst 4000 Access Gateway Module
- Cisco Catalyst 4224 Voice Gateway Switch
- Communication Media Module
- Cisco IAD2400 ゲートウェイ



(注)

MRP/ASI ゲートウェイは、他の IOS MGCP ゲートウェイと同様、3 台の Cisco CallManager を含む Cisco CallManager グループとともに動作できます。しかし、ASI/MRP ゲートウェイのテストは、1 台のバックアップ Cisco CallManager だけを使用して実行されます。

始める前に

Cisco IOS MGCP ゲートウェイを Cisco CallManager とともに使用するよう設定するには、事前に Cisco IOS コマンドライン インターフェイス (CLI) を使用して、そのゲートウェイを設定しておく必要があります。ゲートウェイの設定に必要な手順とコマンドについては、ゲートウェイに付属の設定マニュアルを参照してください。

手順

ステップ 1 Device > Add a New Device の順に選択します。

Add a New Device ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 Device Type ドロップダウン リスト ボックスから、Gateway を選択し、Next をクリックします。

Add a New Gateway ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 Gateway Type ドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの MGCP ゲートウェイを選択します。

- VG200
- Cisco IOS 362x、364x、366x ゲートウェイ
- Cisco IOS 3725 および 3745 ゲートウェイ
- Cisco IOS 26xx ゲートウェイ
- Cisco 2801、2811、2821、2851、3825、3845 ゲートウェイ
- Cisco Catalyst 4000 Access Gateway Module
- Cisco Catalyst 4224 Voice Gateway Switch
- Communication Media Module
- Cisco IAD2420 ゲートウェイ



(注) Cisco Catalyst 6000 ゲートウェイも MGCP をサポートしていますが、設定が異なります。P.61-17 の「IOS 以外の MGCP ゲートウェイの追加」を参照してください。

ステップ 4 Device Protocol ドロップダウン リスト ボックスに MGCP デバイス プロトコルが表示されることを確認します。

Cisco IOS MGCP ゲートウェイは、ゲートウェイのモデル、および取り付けられているネットワーク モジュールと音声インターフェイス カード (VIC) のタイプに応じて、PSTN またはその他の IP 以外のデバイスとのインターフェイスを取るために、異なるデバイス プロトコルをサポートします。後続の Web ウィンドウには、これらのインターフェイスの設定が表示されます。

ステップ 5 Next をクリックします。MGCP Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 6 プロダクト固有の設定値も含めて、適切な設定値を入力し、各スロットに取り付けられているネットワーク モジュールのタイプを選択します (P.61-26 の「MGCP ゲートウェイの設定値」を参照)。

ステップ 7 Insert をクリックします。

MGCP Gateway Configuration ウィンドウが更新され、ドロップダウン リスト ボックスが表示されます。このリスト ボックスには、各ネットワーク モジュールの各サブユニットで、音声インターフェイス カード (VIC) のタイプを設定するためのオプションが表示されています。

選択項目は、MGCP Configuration ウィンドウで設定されるネットワーク モジュールのタイプに応じて異なります。

ステップ 8 ドロップダウン リスト ボックスから、各サブユニットに取り付けられている VIC のタイプを選択し、Update をクリックします。

ウィンドウが更新され、選択した VIC タイプ用のエンドポイント情報とポートを設定するためのリンクが追加されます。

ステップ 9 エンドポイント ID (たとえば、1/0/0) をクリックして、デバイス プロトコル情報を設定し、取り付けられている VIC のタイプ用のポートを追加します。

詳細については、次の手順を参照してください。

- [MGCP ゲートウェイへの FXS ポートの追加 \(P.61-8\)](#)

- MGCP ゲートウェイへの FXO ポートの追加 (P.61-10)
- MGCP ゲートウェイへの T1-CAS ポートの追加 (P.61-12)
- MGCP ゲートウェイへの T1 PRI または E1 PRI デバイスの追加 (P.61-13)
- MGCP ゲートウェイへの BRI ポートの追加 (P.61-14)

ステップ 10 ゲートウェイをリセットして、変更内容を適用します。

ステップ 11 必要に応じて、エンドポイント情報とポートを引き続き設定します。

ステップ 12 エンドポイントの設定とポートの追加が終了した後、MGCP ゲートウェイ デバイスをルート グループまたはルート リストに追加するか、ルート パターンをゲートウェイに割り当てて、コールがゲートウェイにルーティングされるようにする必要があります。



(注) MGCP ゲートウェイをルート パターンに追加する必要があるのは、発信コールの場合だけです。

MGCP ゲートウェイへのポートの追加

MGCP ゲートウェイで設定できるデバイス プロトコルとポート タイプは、取り付けられている音声インターフェイス カードのタイプによって異なります。ここでは、次の内容について説明します。

- [MGCP ゲートウェイへの FXS ポートの追加 \(P.61-8\)](#)
- [MGCP ゲートウェイへの FXO ポートの追加 \(P.61-10\)](#)
- [MGCP ゲートウェイへの T1-CAS ポートの追加 \(P.61-12\)](#)
- [MGCP ゲートウェイへの T1 PRI または E1 PRI デバイスの追加 \(P.61-13\)](#)
- [MGCP ゲートウェイへの BRI ポートの追加 \(P.61-14\)](#)

MGCP ゲートウェイへの FXS ポートの追加

Foreign Exchange Station (FXS) ポートは、任意の POTS デバイスとの接続に使用できます。MGCP ゲートウェイで FXS ポートを設定する手順は、次のとおりです。

始める前に

ポートを設定するには、事前に、MGCP ゲートウェイを追加しておく必要があります。詳細については、[P.61-4](#) の「[Cisco IOS MGCP ゲートウェイの追加](#)」を参照してください。

手順

- ステップ 1** **Device > Gateway** の順に選択して、Find/List Gateways ウィンドウを表示します。または、FXS ポートを追加する MGCP ゲートウェイがすでに見ついている場合は、[ステップ 4](#) に進んでください。
- ステップ 2** FXS ポートを追加する先の MGCP ゲートウェイを特定するために、適切な検索条件を入力します。
- ステップ 3** 目的のゲートウェイの名前をクリックして、その MGCP 設定値とエンドポイント ID を表示します。

ステップ 4 MGCP Configuration ウィンドウから、設定する FXS VIC のエンドポイント ID をクリックします。

ウィンドウの内容が更新され、Gateway Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 **Gateway Information** と **Port Information** に、適切な設定値を入力します。これらのフィールドの詳細については、次の各項を参照してください。

- [FXS/FXO ゲートウェイの設定値 \(P.61-30\)](#)
- [POTS ポートの設定値 \(P.61-101\)](#)

ステップ 6 **Insert** をクリックします。



(注) POTS ポートを追加した後、ウィンドウがリフレッシュされ、ウィンドウ左側のリストにその POTS ポートが表示されます。新しいポートの右側に、**Add DN** リンクが表示されます。

ステップ 7 **Add DN** をクリックして、POTS ポートに電話番号を追加します。または、別のタイプのポートを設定した場合は、[ステップ 9](#) に進んでください。



(注) DN の追加と設定の詳細については、[P.62-52](#) の「[電話番号の追加](#)」および [P.62-60](#) の「[電話番号の設定値](#)」を参照してください。

ステップ 8 ポートを追加したゲートウェイの MGCP Gateway Configuration メイン ウィンドウに戻るには、**Back to MGCP Configuration** をクリックします。

ステップ 9 ゲートウェイをリセットして、変更内容を適用します。

ステップ 10 [ステップ 4](#) ~ [ステップ 8](#) を繰り返して、他の FXS ポートを追加します。

関連項目

- [Cisco CallManager へのゲートウェイの追加 \(P.61-2 \)](#)
- [Cisco IOS MGCP ゲートウェイの追加 \(P.61-4 \)](#)
- [ポートの設定値 \(P.61-101 \)](#)

MGCP ゲートウェイへの FXO ポートの追加

Foreign Exchange Office (FXO) ポートは、セントラル オフィスまたは PBX との接続に使用できます。MGCP ゲートウェイ上で、ループ スタートまたはグラウンド スタート用に FXO ポートを追加し、設定する手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager は、すべてのループ スタート トランクには、Positive Disconnect Supervision (確実な接続解除監視) が無いものと想定します。Cisco CallManager サーバのフェールオーバー時にアクティブ コールを保持できるように、確実な接続解除監視を備えたトランクを、グラウンド スタートとして設定してください。

始める前に

ポートを設定するには、事前に、MGCP ゲートウェイを追加しておく必要があります。詳細については、[P.61-4 の「Cisco IOS MGCP ゲートウェイの追加」](#)を参照してください。

手順

- ステップ 1** **Device > Gateway** の順に選択して、Find/List Gateways ウィンドウを表示します。または、FXO ポートを追加する MGCP ゲートウェイがすでに見ついている場合は、[ステップ 4](#)に進んでください。
- ステップ 2** FXO ポートを追加する先の MGCP ゲートウェイを特定するために、適切な検索条件を入力し、**Find** をクリックします。検索結果が表示されます。

- ステップ 3** 目的のゲートウェイの名前をクリックして、その MGCP 設定値とエンドポイント ID を表示します。
- ステップ 4** MGCP Configuration ウィンドウから、設定する FXO ポートのエンドポイント ID をクリックします。
- ステップ 5** Port Type ドロップダウン リスト ボックスから、**Ground Start** か **Loop Start** のどちらかを選択します。



(注) VIC-2FXO ポートの両方のエンドポイント ID の同じポート タイプを選択する必要があります。異なるポート タイプを選択すると、メッセージが表示されます。

- ステップ 6** 次の各項の説明に従って、適切な **Gateway Configuration** および **Port Information** の設定値を入力します。
- [FXS/FXO ゲートウェイの設定値 \(P.61-30\)](#)
 - [ループ スタート ポートの設定値 \(P.61-104\)](#)
 - [グラウンド スタート ポートの設定値 \(P.61-106\)](#)
- ステップ 7** **Insert** をクリックします。
- ステップ 8** ポートを追加した先のゲートウェイの MGCP Gateway Configuration メイン ウィンドウに戻るには、**Back to Main Gateway Configuration** をクリックします。
- ステップ 9** 他の FXO ポートを追加するには、[ステップ 4](#) ~ [ステップ 7](#) を繰り返します。
- ステップ 10** ゲートウェイをリセットして、変更内容を適用します。

関連項目

- [Cisco CallManager へのゲートウェイの追加 \(P.61-2\)](#)
- [ポートの設定値 \(P.61-101\)](#)

MGCP ゲートウェイへの T1-CAS ポートの追加

MGCP ゲートウェイに T1-CAS ポートを追加する手順は、次のとおりです。

- ステップ 1** **Device > Gateway** の順に選択します。Find/List Gateways ウィンドウが表示されます。または、T1-CAS ポートを追加する MGCP ゲートウェイがすでに見ついている場合は、[ステップ 4](#) に進んでください。
- ステップ 2** T1-CAS ポートを追加する MGCP ゲートウェイを見つけるために適切な検索条件を入力します。
- ステップ 3** 目的のゲートウェイの名前をクリックして、その MGCP 設定値とエンドポイント ID を表示します。
- ステップ 4** MGCP Configuration ウィンドウから、設定する T1-CAS ポートのエンドポイント ID をクリックします。
- ステップ 5** ドロップダウン リスト ボックスから、**T1-CAS** プロトコルを選択します。
- ステップ 6** 適切な Gateway Configuration 設定値を入力します。詳細については、[P.61-70 の「T1-CAS ゲートウェイの設定値」](#)を参照してください。
- ステップ 7** **Insert** をクリックします。
- ステップ 8** **Add New Port** をクリックします。Port Configuration ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 9** Port Type ドロップダウン リスト ボックスから、ポート タイプを選択します。選択するポート タイプに該当する設定値については、[P.61-101 の「ポートの設定値」](#)を参照してください。
- ステップ 10** **Insert** または **Insert and Close** をクリックします。
- ステップ 11** ゲートウェイをリセットして、変更内容を適用します。

関連項目

- [Cisco CallManager へのゲートウェイの追加 \(P.61-2 \)](#)
- [ポートの設定値 \(P.61-101 \)](#)

MGCP ゲートウェイへの T1 PRI または E1 PRI デバイスの追加

-
- ステップ 1** **Device > Gateway** の順に選択して、Find/List Gateways ウィンドウを表示します。または、ポートを追加する MGCP ゲートウェイがすでに見ついている場合は、[ステップ 4](#) に進んでください。
- ステップ 2** T1 PRI または E1 PRI ポートを追加する MGCP ゲートウェイを見つけるために、適切な検索条件を入力します。
- ステップ 3** リストで目的のゲートウェイの名前をクリックして、選択したゲートウェイの設定情報を表示します。
- ステップ 4** MGCP Configuration ウィンドウから、設定する T1 ポートまたは E1 PRI ポートのエンドポイント ID をクリックします。
- ステップ 5** T1 PRI または E1 PRI デバイス プロトコルの設定値を設定します。フィールドの詳細については、[P.61-36](#) の「[E1/T1 PRI ゲートウェイの設定値](#)」を参照してください。
- ステップ 6** **Insert** をクリックします。
- ステップ 7** ゲートウェイをリセットして、変更内容を適用します。
-

関連項目

- [Cisco IOS MGCP ゲートウェイの追加 \(P.61-4 \)](#)
- [Cisco CallManager へのゲートウェイの追加 \(P.61-2 \)](#)
- [E1/T1 PRI ゲートウェイの設定値 \(P.61-36 \)](#)

MGCP ゲートウェイへの BRI ポートの追加

MGCP ゲートウェイで設定できるデバイス プロトコルとポート タイプは、取り付けられている音声インターフェイスカード (VIC) のタイプによって異なります。MGCP ゲートウェイに BRI ポートを追加する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** **Device > Gateway** の順に選択して、Find/List Gateways ウィンドウを表示します。または、ポートを追加する MGCP ゲートウェイがすでに見ついている場合は、[ステップ 4](#)に進んでください。
 - ステップ 2** BRI ポートを追加する MGCP ゲートウェイを見つけるために適切な検索条件を入力します。
 - ステップ 3** リストで目的のゲートウェイの名前をクリックして、選択したゲートウェイの設定情報を表示します。
 - ステップ 4** MGCP Configuration ウィンドウから、設定する BRI ポートのエンドポイント ID をクリックします。
 - ステップ 5** BRI デバイス プロトコルの設定値を設定します。フィールドの詳細については、[P.61-57](#) の「[BRI ゲートウェイの設定値](#)」を参照してください。
 - ステップ 6** **Insert** をクリックします。
 - ステップ 7** ゲートウェイをリセットして、変更内容を適用します。
-

関連項目

- 『*Cisco CallManager システム ガイド*』の「ゲートウェイの設定チェックリスト」
- [Cisco IOS MGCP ゲートウェイの追加 \(P.61-4 \)](#)
- [BRI ゲートウェイの設定値 \(P.61-57 \)](#)

Cisco IOS SCCP ゲートウェイの追加

Cisco IOS SCCP ゲートウェイを Cisco CallManager に追加し、設定する手順を説明します。SCCP をサポートしている Cisco IOS ゲートウェイは、次のとおりです。

- Cisco IOS 26xx および 269x ゲートウェイ
- Cisco IOS 3725 および 3745 ゲートウェイ
- Cisco VG224 Gateway

始める前に

事前に Cisco CallManager にゲートウェイを追加して、Cisco IOS SCCP ゲートウェイを設定します。続いて、Cisco IOS コマンドライン インターフェイス (CLI) を使用して、そのゲートウェイを設定します。ゲートウェイの設定に必要な手順とコマンドについては、ゲートウェイに付属の設定マニュアルを参照してください。

手順

ステップ 1 Device > Add a New Device の順に選択します。

Add a New Device ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 Device Type ドロップダウン リスト ボックスから、Gateway を選択し、Next をクリックします。

Add a New Gateway ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 Gateway Type ドロップダウン リスト ボックスから、次の SCCP ゲートウェイのいずれかを選択します。

- Cisco IOS 26xx および 269x ゲートウェイ
- Cisco IOS 3725 および 3745 ゲートウェイ
- Cisco VG224

- ステップ 4** Device Protocol ドロップダウン リスト ボックスから、SCCP デバイス プロトコルを選択します。

Cisco IOS SCCP ゲートウェイは、ゲートウェイのモデル、および取り付けられているネットワーク モジュールと音声インターフェイス カード (VIC) のタイプに応じて、PSTN またはその他の IP 以外のデバイスとのインターフェイスを取るために、SCCP をサポートします。後続の Web ウィンドウには、インターフェイスの設定が表示されます。

- ステップ 5** Next をクリックします。SCCP Configuration ウィンドウが表示されます。

- ステップ 6** プロダクト固有の設定値も含めて、適切な設定値を入力し、各スロットに取り付けられているネットワーク モジュールのタイプを選択します (P.61-96 の「Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値」を参照)。

- ステップ 7** Insert をクリックします。

SCCP Gateway Configuration ウィンドウが更新され、ドロップダウン リスト ボックスが表示されます。このリスト ボックスには、各ネットワーク モジュールの各サブユニットで、音声インターフェイス カード (VIC) のタイプを設定するためのオプションが表示されています。

選択項目は、SCCP Configuration ウィンドウで設定されるネットワーク モジュールのタイプに応じて異なります。

- ステップ 8** ドロップダウン リスト ボックスから、各サブユニットに取り付けられている VIC のタイプを選択し、Update をクリックします。

ウィンドウが更新され、選択した VIC タイプ用のエンドポイント情報とポートを設定するためのリンクが追加されます。

- ステップ 9** エンドポイント ID (たとえば、1/0/0) をクリックして、デバイス プロトコル情報を設定し、取り付けられている VIC のタイプ用のポートを追加し、SCCP ゲートウェイに FXS/BRI ポートを追加します。

- ステップ 10** ゲートウェイをリセットして、変更内容を適用します。

ステップ 11 必要に応じて、エンドポイント情報とポートを引き続き設定します。

IOS 以外の MGCP ゲートウェイの追加

次の IOS 以外の Cisco MGCP ゲートウェイを Cisco CallManager に追加する手順は、次のとおりです。

- Cisco DT-24+ Gateway
- Cisco DE-30+ Gateway
- Cisco Catalyst 6000 E1 VoIP Gateway
- Cisco Catalyst 6000 T1 VoIP Gateway

手順

ステップ 1 **Device > Add New Device** の順に選択します。

Add a New Device ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 Device Type ドロップダウン リスト ボックスから、**Gateway** を選択します。

Gateway Type ドロップダウン リスト ボックスから、次のデジタルゲートウェイのいずれかを選択します。

- Cisco DT-24+ Gateway
- Cisco DE-30+ Gateway
- Cisco Catalyst 6000 E1 VoIP Gateway
- Cisco Catalyst 6000 T1 VoIP Gateway

ステップ 3 ドロップダウン リスト ボックスから、選択したゲートウェイ上で設定するインターフェイスのタイプに適したデバイス プロトコルを選択します。選択可能な項目は、ゲートウェイのモデルに応じて異なります。

- DT-24+ または Cisco Catalyst 6000 T1 VoIP Gateway:Digital Access PRI (T1 PRI) または Digital Access T1 (T1-CAS) を選択する。
- DE-30+ または Cisco Catalyst E1 VoIP Gateway:Digital PRI (E1 PRI) を選択する。

ステップ 4 Next をクリックします。

Gateway Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 Digital T1 または E1 PRI インターフェイスを設定するか、Digital T1-CAS インターフェイスを設定するかに応じて、適切な設定値を入力します (次の各項を参照)。

- [E1/T1 PRI ゲートウェイの設定値 \(P.61-36\)](#)
- [T1-CAS ゲートウェイの設定値 \(P.61-70\)](#)

ステップ 6 Insert をクリックします。

ステップ 7 DT-24+ または Catalyst 6000 T1 VoIP Gateway で T1-CAS インターフェイスを設定する場合は、Add a New Port をクリックして、ポートを設定します。

[P.61-12 の「MGCP ゲートウェイへの T1-CAS ポートの追加」](#)を参照して、**ステップ 9** から処理を実行します。

ステップ 8 ゲートウェイをリセットして、変更内容を適用します。

関連項目

- [Cisco CallManager へのゲートウェイの追加 \(P.61-2\)](#)
- [E1/T1 PRI ゲートウェイの設定値 \(P.61-36\)](#)
- [T1-CAS ゲートウェイの設定値 \(P.61-70\)](#)

Cisco IOS H.323 ゲートウェイの追加

Cisco IOS H.323 ゲートウェイを Cisco CallManager に追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

Cisco IOS H.323 ゲートウェイを Cisco CallManager と連携させて使用するよう設定するには、事前に、Cisco IOS コマンドライン インターフェイス (CLI) を使用して、そのゲートウェイを設定しておく必要があります。MGCP ゲートウェイと比較すると、H.323 ゲートウェイの方が、ゲートウェイでの設定が多くなります。これは、H.323 ゲートウェイが、ダイヤル プランとルート パターンを保持する必要があるためです。ゲートウェイの設定に必要な手順とコマンドについては、ゲートウェイに付属の設定マニュアルを参照してください。

手順

- ステップ 1** Device > Add a New Device の順に選択します。

Add a New Device ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** Device Type ドロップダウン リスト ボックスから、Gateway を選択します。
- ステップ 3** Next をクリックします。

Add a New Gateway ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** Gateway Type ドロップダウン リスト ボックスから、H.323 Gateway を選択します。
- ステップ 5** Device Protocol ドロップダウン リスト ボックスに、H.225 デバイス プロトコルが表示されます。
- ステップ 6** Next をクリックします。
- ステップ 7** 適切な設定値を入力します (P.61-77 の「H.323 ゲートウェイの設定値」を参照)。

ステップ 8 Insert をクリックします。

ステップ 9 ゲートウェイをリセットして、変更内容を適用します。

関連項目

- [Cisco CallManager へのゲートウェイの追加 \(P.61-2 \)](#)
- [H.323 ゲートウェイの設定値 \(P.61-77 \)](#)

Analog Access ゲートウェイとポートの追加

次の非 Cisco Analog Access ゲートウェイを追加し、ポートを設定する手順は、次のとおりです。

- Cisco AS-2、AS-4、および AS-8 Gateway
- Cisco AT-2、AT-4、および AT-8 Gateway
- Cisco Catalyst 6000 24 Port FXS Gateway

手順

ステップ 1 Device > Add a New Device の順に選択します。

Add a New Device ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 Device Type ドロップダウン リスト ボックスから、Gateway を選択します。

ステップ 3 Next をクリックします。

Add a New Gateway ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 Gateway Type ドロップダウン リスト ボックスから、サポートされているアナログ ゲートウェイを選択します。

- Cisco AS-2、AS-4、および AS-8 Gateway
- Cisco AT-2、AT-4、および AT-8 Gateway
- Cisco Catalyst 6000 24 Port FXS Gateway

アナログ ゲートウェイを選択すると、そのゲートウェイに適したデバイス プロトコル（この場合は、Analog Access）が自動的に選択されます。

ステップ 5 Next をクリックします。

Gateway Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 6 適切な設定値を入力します（P.61-90 の「Analog Access ゲートウェイの設定値」を参照）。

ステップ 7 Insert をクリックします。

ステップ 8 Add New Port をクリックします。

Port Configuration ダイアログが、別のウィンドウに表示されます。

ステップ 9 ドロップダウン リスト ボックスから、設定するゲートウェイ モデルに応じて、POTS または Loop Start をポート タイプとして選択します。

ステップ 10 適切なポート設定値を入力します。次のトピックを参照してください。

- POTS ポートの設定値（P.61-101）
- ループ スタート ポートの設定値（P.61-104）

ステップ 11 Insert または Insert and Close をクリックします。

POTS ポートを追加した場合、ウィンドウの内容が更新され、ウィンドウの左側に、その POTS ポートが表示されます。新しいポートの右側に、Add DN リンクが表示されます。

ステップ 12 Add DN をクリックして、FXS ポートに電話番号を追加します。

電話番号の追加と設定については、[P.62-52](#) の「[電話番号の追加](#)」および [P.62-15](#) の「[電話機の設定値](#)」を参照してください。

ステップ 13 Reset Gateway をクリックして、変更内容を適用します。

関連項目

- [Cisco CallManager へのゲートウェイの追加 \(P.61-2 \)](#)
- [Analog Access ゲートウェイの設定値 \(P.61-90 \)](#)
- [Cisco VG248 Analog Phone Gateway の追加 \(P.61-22 \)](#)

Cisco VG248 Analog Phone Gateway の追加

Cisco VG248 Analog Phone Gateway は、ラック取り付け型のスタンドアロン 48-FXS ポート製品です。このゲートウェイを使用すると、複数の構内アナログ電話機、FAX マシン、モデム、ボイス メッセージ システムやスピーカフォンを、1 つの Cisco CallManager クラスタに登録することができます。

Cisco VG248 は、機能の拡張に備え、Skinny Client Control Protocol を使用して Cisco CallManager に接続されます。

Cisco CallManager は、Cisco VG248 を「Cisco VG248 Gateway」と呼ばれるゲートウェイ デバイスとして認識します。さらに、48 個のポートを、それぞれ「Cisco VGC Phone」と呼ばれる Cisco IP Phone に似た個別デバイスとして扱います。

Cisco VG248 Gateway を追加して、このゲートウェイにポートを追加および設定する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 Device > Add a New Device の順に選択します。

Add a New Device ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 Device Type ドロップダウン リスト ボックスから、Gateway を選択します。

ステップ 3 Next をクリックします。

Add a New Gateway ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 Gateway Type ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco VG248 Gateway を選択します。

ステップ 5 Next をクリックします。

Gateway Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 6 適切な設定値を入力します(P.61-94 の「Cisco VG248 Gateway の設定値」を参照)。

ステップ 7 Insert をクリックします。

Endpoint Identifiers リストにポート 00 ~ 48 が表示されます。

ステップ 8 1 つのポートをクリックします。

Phone Configuration ウィンドウに、VGCPPhone として電話機のモデルがリスト表示されます。Gateway Configuration ウィンドウから、MAC アドレスが自動的に見えるようになります。

ステップ 9 適切な設定値を入力します (P.62-15 の「電話機の設定値」を参照)。

ステップ 10 Insert をクリックします。

ステップ 11 ポートの電話番号を設定するには、ウィンドウの左側のリストから、VGC 回線をクリックします。

Directory Number Configuration ウィンドウが表示されます。電話番号の追加と設定の詳細については、[P.62-52 の「電話番号の追加」](#)を参照してください。

ステップ 12 さらにゲートウェイのポートを設定するには、**Gateway Configuration** リンクをクリックします。

Gateway Configuration ウィンドウが表示されます。別のポートについて電話機の設定値と電話番号を設定するには、[ステップ 8 ~ 11](#)を繰り返します。

ポート 01 を設定する場合は、Gateway Configuration ウィンドウに **Configure all Ports like Port 1** ボタンが表示されます。このボタンを使用すると、ポート 01 と同じパラメータおよび設定値で、ポート 02 ~ 48 を設定できます (ポート 02 ~ 48 が設定済みかどうかは関係ありません)。

ステップ 13 **Reset Phone** をクリックして、変更内容を適用します。

関連項目

- [Cisco CallManager へのゲートウェイの追加 \(P.61-2 \)](#)
- [Cisco VG248 Gateway の設定値 \(P.61-94 \)](#)
- [電話機の設定値 \(P.62-15 \)](#)
- [Cisco VG248 Analog Phone Gateway ソフトウェア コンフィギュレーション ガイド](#)

ゲートウェイの設定値

すべてのゲートウェイ設定フィールドの詳細な説明は、次のトピックを参照してください。

- [MGCP ゲートウェイの設定値 \(P.61-26 \)](#)
- [FXS/FXO ゲートウェイの設定値 \(P.61-30 \)](#)
- [E1/T1 PRI ゲートウェイの設定値 \(P.61-36 \)](#)
- [BRI ゲートウェイの設定値 \(P.61-57 \)](#)
- [T1-CAS ゲートウェイの設定値 \(P.61-70 \)](#)
- [H.323 ゲートウェイの設定値 \(P.61-77 \)](#)
- [Analog Access ゲートウェイの設定値 \(P.61-90 \)](#)
- [Cisco VG248 Gateway の設定値 \(P.61-94 \)](#)
- [Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値 \(P.61-96 \)](#)

ポート設定値の詳細については、[P.61-101 の「ポートの設定値」](#)を参照してください。



MGCP ゲートウェイの設定値

表 61-2 では、MGCP ゲートウェイの設定値について詳しく説明します。

表 61-2 MGCP ゲートウェイの設定値

フィールド	説明
MGCP Domain Name	<p>Cisco MGCP ゲートウェイを識別する名前を 64 文字以内で入力します。</p> <p>Domain Name Service (DNS) ホスト名が正しく解決されるように設定されている場合は、DNS ホスト名を使用します。それ以外の場合は、Cisco MGCP ゲートウェイ上で指定されているとおりのホスト名を使用します。</p> <p>IOS ゲートウェイ上で設定されているとおりのホスト名を使用する場合は、ここで入力する名前が、そのホスト名と正確に一致する必要があります。</p> <p>たとえば、ホスト名が vg200-1 に解決されるようにゲートウェイ上で設定され、IP ドメイン名が未設定の場合は、このフィールドにはホスト名を入力します（この場合、vg200-1）。</p> <p>ゲートウェイ上でホスト名が vg200-1 として設定され、IP ドメイン名が cisco.com として設定されている場合、このフィールドには vg200-1.cisco.com と入力します。</p>
Description	<p>デバイスの目的を明確にした説明を入力します。</p>
Cisco CallManager Group	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco CallManager 冗長グループを選択します。</p> <p>Cisco CallManager 冗長グループには、最高 3 台の Cisco CallManager を優先順に並べたリストが含まれています。リスト内の最初の Cisco CallManager が、プライマリ Cisco CallManager の役目をします。プライマリ Cisco CallManager が使用できないか、障害が起きた場合、ゲートウェイは、リスト内の次の Cisco CallManager に接続しようとしています。</p>

表 61-2 MGCP ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
Installed Voice Interface Cards	
	
(注)	VIC の開始ポート番号を指定する必要なものがあります。たとえば、Subunit 0 の VIC に 0 から始まるポートが 2 つ (0 と 1) ある場合、Subunit 1 の VIC では 1 より大きい番号から始まるポートが 2 つ (2 と 3、または 4 と 5) ある必要があります。
	
(注)	MGCP ゲートウェイのモデルごとに、正しいスロット数が表示されます (VG200 ゲートウェイには、1 つのスロットしかありません)。

■ ゲートウェイの設定値

表 61-2 MGCP ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
Module in Slot 0 Module in Slot 1 Module in Slot 2 Module in Slot 3 (以下、同様)	<p>選択した MGCP ゲートウェイで使用可能なスロットそれぞれに対して、取り付けられているモジュールのタイプを選択します。たとえば、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NM-1V : Subunit 0 に、FXS または FXO 用の音声インターフェイス カード (VIC) を 1 つ装備。NM-1V モジュールと VIC-2BRI-S/T-TE カードを併用すると、2 番目の BRI ポートがシャットダウンされるため、2 つのコールを行うことができます。 • NM-2V : FXS または FXO 用の VIC を、Subunit 0 と Subunit 1 に 1 つずつ、合計 2 つ装備。NM-2V モジュールと VIC-2BRI-S/T-TE カードを併用すると、4 つのコールを行うことができます。別の VIC が NM-2V の 2 番目のスロットにある場合、VIC-2BRI-S/T-TE の 2 番目のポートがシャットダウンします。 • NM-HDV : Subunit 0 に、T1-CAS、T1-PRI、または E1-PRI 用の VIC を 1 つ装備。 • NM-HAD : VIC を、Subunit 0、Subunit 1、および Subunit 2 に 1 つずつ、合計 3 つ装備。 • VWIC-SLOT : 次のいずれかのモジュール用のスロットを装備。VIC (FXS or FXO)、T1-CAS、T1-PRI、または E1-PRI 用のスロットを 1 つ装備。 • AIM-VOICE-30 : T1-CAS、T1-PRI、または E1-PRI 用の VIC を、Subunit 0 と Subunit 1 に 1 つずつ、合計 2 つ装備。 • WS-X6600-24FXS : FXS ポートを 24 個装備。 • WS-X6600-6T1 : T1 PRI または CAS 用のポートを 6 つ装備。 • WS-X6600-6E1 : E1 PRI 用のポートを 6 つ装備。 • WS-SVC-CMM-MS : ヨーロッパおよびその他の国の T1 インターフェイス用と E1 インターフェイス用に 1 つずつ、合計 2 つを装備。 • None : ネットワーク モジュールの装備なし。

表 61-2 MGCP ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
プロダクト固有の設定値	
Model-specific configuration (ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>Product-Specific Configuration の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、Product Specific Configuration 見出しの右側にある i アイコンをクリックします。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

関連項目

- [Cisco CallManager へのゲートウェイの追加 \(P.61-2 \)](#)
- [Cisco IOS MGCP ゲートウェイの追加 \(P.61-4 \)](#)
- [IOS 以外の MGCP ゲートウェイの追加 \(P.61-17 \)](#)
- [ゲートウェイとポートの更新 \(P.61-127 \)](#)

FXS/FXO ゲートウェイの設定値

表 61-3 では、FXS/FXO ゲートウェイの設定値について詳しく説明します。




(注)

VG200 ゲートウェイの場合、すべてのスイッチ エミュレーション タイプが、ネットワーク側をサポートしているわけではありません。ゲートウェイ スイッチ タイプの設定内容に応じて、ネットワーク側を設定できる場合と、できない場合があります。

表 61-3 FXS/FXO ゲートウェイの設定値

フィールド	説明
ゲートウェイ情報	
Description	<p>この表示専用フィールドには、Cisco CallManager が生成した、アナログ MGCP 記述を一意に識別する文字列が含まれています。</p> <p>次の例を参考にしてください。</p> <p>AALN/S0/SU1/1@domain.com</p> <p>このフィールドは、編集可能です。</p>
Device Pool	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なデバイス プールを選択します。</p> <p>デバイス プールは、デバイスの自動登録用の CallManager Group、Date/Time Group、Region、および Calling Search Space を含む、このデバイスのプロパティの集合を指定します。</p>

表 61-3 FXS/FXO ゲートウェイの設定値 (続き)


フィールド	説明
Call Classification	<p>FXO ゲートウェイの場合、このゲートウェイを使用している着信コールがネットワークをオフ (OffNet) またはオン (OnNet) と見なすかどうかを、このパラメータによって決定します。</p> <p>Call Classification フィールドが Use System Default に設定されている場合、Cisco CallManager clusterwide サービス パラメータの設定値 (Call Classification) により、ゲートウェイが OnNet または OffNet かどうか決定します。</p> <p>このフィールドは、コールが OnNet または OffNet の場合、それぞれの警告トーンを提供します。</p>
Calling Search Space	<p>ドロップダウン リストから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースでは、収集された (発信) 番号のルート指定方法を決定するために検索される、ルートパーティションの集合から構成されます。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで設定された数よりもコーリング サーチ スペースの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リスト ボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Calling Search Space ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにコーリング サーチ スペース名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるコーリング サーチ スペースのリストで、希望するコーリング サーチ スペース名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、System > Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。</p>

■ ゲートウェイの設定値

表 61-3 FXS/FXO ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
AAR Calling Search Space	Automated Alternate Routing (AAR; 自動代替ルーティング) の実行時にデバイスが使用するコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号をルーティングする方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。
Media Resource Group List	メディア リソース グループを優先順に並べたグループが表示されます。アプリケーションは、Media Resource List で定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから、必要なメディア リソース、たとえば、Music On Hold サーバを選択します。
Network Audio Hold Source	ネットワークが保留動作を開始するときに、このオーディオ ソースが再生されます。
Location	このデバイスに適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションに None を設定すると、そのロケーションの機能では、このデバイスが消費する帯域幅を把握しません。
AAR Group	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を None にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。

表 61-3 FXS/FXO ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
Network Locale	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、そのゲートウェイに関連したロケールを選択します。そのネットワーク ロケールは、特定ロケーションのハードウェアをサポートする一連の詳細情報を識別します。ネットワーク ロケールには、特定の地域でデバイスが使用するトーンおよび断続周期の定義が含まれています。</p> <p> (注) 関連するデバイスによってサポートされているインストール済みのネットワーク ロケールのみを選択してください。このリストにはこの設定に使用できるネットワーク ロケールがすべて示されていますが、そのすべてがインストールされているわけではありません。ファームウェアでサポートされていないネットワーク ロケールと関連付けられると、デバイスは起動できません。</p>
Signaling Packet Capture Mode (for Cisco IOS MGCP gateways only)	このフィールドを設定するのは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケット キャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。
Packet Capture Duration (for Cisco IOS MGCP gateways only)	このフィールドを設定するのは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケット キャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。

■ ゲートウェイの設定値

表 61-3 FXS/FXO ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
ポート情報	
Prefix DN (for FXS ports)	このトランクが着信コールで受け取る数字に追加される、プレフィックス番号を入力します。 Cisco CallManager は、まず、Num Digits 設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。
Num Digits (for FXS ports)	収集する有効数字の桁数 (0 ~ 32) を入力します。 Cisco CallManager は、有効数字をコールされた番号の右側 (最後の桁) からカウントします。 このフィールドは、着信コールの処理に使用されます。着信番号の最後の桁から数えた桁数を指定します。この桁数が、PRI スパンに着信するコールのルーティングに使用されます。Prefix DN を参照してください。
Expected Digits (for FXS ports)	トランクの着信側で必要な桁数を入力します。このフィールドはほとんど使用されないため、桁数が不明の場合は、デフォルト値 0 のままにしてください。
Port Direction (for FXO ports)	このポートをコールが通過する方向を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • Inbound : 着信コールのみの場合に使用します。 • Outbound : 発信コールのみの場合に使用します。 • Bothways : 着信コールと発信コールに使用します (デフォルト) 。
Attendant DN (for FXO ports)	着信コールを転送する先の電話番号を入力します (たとえば、ゼロ、または代表電話番号) 。

表 61-3 FXS/FXO ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
プロダクト固有の設定値	
Model-specific configuration(ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>Product-Specific Configuration の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、Product Specific Configuration 見出しの右側にある i アイコンをクリックします。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

関連項目

- [MGCP ゲートウェイへの FXS ポートの追加 \(P.61-8\)](#)
- [MGCP ゲートウェイへの FXO ポートの追加 \(P.61-10\)](#)
- [Cisco CallManager へのゲートウェイの追加 \(P.61-2\)](#)
- [Cisco IOS MGCP ゲートウェイの追加 \(P.61-4\)](#)
- [IOS 以外の MGCP ゲートウェイの追加 \(P.61-17\)](#)
- [ゲートウェイとポートの更新 \(P.61-127\)](#)

■ ゲートウェイの設定値

E1/T1 PRI ゲートウェイの設定値

表 61-4 では、E1/T1 PRI の設定値について詳しく説明します。




(注) 使用しているゲートウェイが QSIG プロトコルをサポートしているかどうかを確認するには、ゲートウェイの製品マニュアルを参照してください。Cisco CallManager での QSIG サポートについては、『Cisco CallManager システム ガイド』の「Q.Signaling (QSIG)」を参照してください。

表 61-4 E1/T1 PRI の設定値

フィールド	説明
デバイス情報	
Domain Name (MGCP ゲートウェイ)	MGCP ゲートウェイの場合、この表示専用フィールドには、Cisco CallManager が生成した、MGCP エンドポイントを一意に識別する文字列が入っています。 次の例を参考にしてください。 S1/DS1-0@VG200-2 S1 はスロット 1 を示し、DS1-0 はデジタル インターフェイスを示し、@VG200-2 は MGCP ドメイン名を示します。
MAC Address	ゲートウェイ デバイスの MAC アドレスを入力します。
Description	デバイスの目的を明確にした説明を入力します。
Device Pool	ドロップダウン リスト ボックスから、適切なデバイス プールを選択します。 デバイス プールは、デバイスの自動登録用の CallManager Group、Date/Time Group、Region、および Calling Search Space を含む、このデバイスのプロパティの集合を指定します。

表 61-4 E1/T1 PRI の設定値 (続き)


フィールド	説明
Call Classification	<p>このゲートウェイを使用している着信コールがネットワークをオフ (OffNet) またはオン (OnNet) と見なすかどうかを、このパラメータによって決定します。</p> <p>Call Classification フィールドが Use System Default に設定されている場合、Cisco CallManager clusterwide サービス パラメータの設定値 (Call Classification) により、ゲートウェイが OnNet または OffNet かどうかが決まります。</p> <p>このフィールドは、コールが OnNet または OffNet の場合、それぞれの警告トーンを提供します。</p>
Network Locale	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、そのゲートウェイに関連したロケールを選択します。そのネットワーク ロケールは、特定ロケーションのハードウェアをサポートする一連の詳細情報を識別します。ネットワーク ロケールには、特定の地域でデバイスが使用するトーンおよび断続周期の定義が含まれています。</p> <p> (注) 関連するデバイスによってサポートされているインストール済みのネットワーク ロケールのみを選択してください。このリストにはこの設定に使用できるネットワーク ロケールがすべて示されていますが、そのすべてがインストールされているわけではありません。ファームウェアでサポートされていないネットワーク ロケールと関連付けられると、デバイスは起動できません。</p>
Signaling Packet Capture Mode (for Cisco IOS MGCP gateways only)	<p>このフィールドを設定するのは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケット キャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>

■ ゲートウェイの設定値

表 61-4 E1/T1 PRI の設定値 (続き)

フィールド	説明
Packet Capture Duration (for Cisco IOS MGCP gateways only)	このフィールドを設定するのは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケット キャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。
Media Resource Group List	メディア リソース グループを優先順に並べたグループが表示されます。アプリケーションは、メディア リソース リストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから、必要なメディア リソース、たとえば、Music On Hold サーバを選択します。
Location	このデバイスに適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションに None を設定すると、そのロケーションの機能では、このデバイスが消費する帯域幅を把握しません。
AAR Group	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を None にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。
Load Information	ゲートウェイに適切なファームウェア ロード情報を入力します。 このフィールドに入力される値は、このゲートウェイ タイプのデフォルト ファームウェア ロードを上書きします。
V150 (subset)	v150 (subset) モデムのリレー サポートをゲートウェイで使用可能にするには、このボックスをオンにします。この機能は現在、ISDN-STE へのエンドツーエンドのセキュアなコールをサポートするために、IP-STE が使用します (T1 PRI および T1 CAS のみ)。 デフォルト値は、オフです。

表 61-4 E1/T1 PRI の設定値 (続き)

フィールド	説明
Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) 情報	
MLPP Domain (たとえば、「0000FF」)	このデバイスに関連付けられた MLPP ドメインに対応する 0 ~ FFFFFFFF の 16 進数の値を入力します。このフィールドを空白のままにすると、このデバイスの MLPP ドメインは、このデバイスのデバイス プールに設定された値から継承されます。デバイス プールに MLPP ドメインの設定がない場合、このデバイスの MLPP ドメインは、MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータに設定された値から継承されます。
MLPP Indication	<p>優先トーンを再生できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその再生機能を使用するかどうかを指定します (使用可能な場合)。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Default : このデバイスは、デバイス プールから MLPP Indication 設定を引き継ぎます。 • Off : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示の制御も処理もしません。 • On : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示を制御し処理します。 <p> (注) MLPP Indication を <i>Off</i> または <i>Default</i> (デフォルトが <i>Off</i> の場合) に設定し、かつ、MLPP Preemption を <i>Forceful</i> に設定するという組み合わせで、デバイスを設定することはできません。</p>

■ ゲートウェイの設定値

表 61-4 E1/T1 PRI の設定値 (続き)


フィールド	説明
MLPP Preemption	<p>進行中のコールを優先できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその優先機能を使用するかどうかを指定します (使用可能な場合)。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Default: このデバイスは、デバイス プールから MLPP Preemption 設定を引き継ぎます。 • Disabled: このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先しないようにします。 • Forceful: このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先するようにします。 <p> (注) MLPP Indication を <i>Off</i> または <i>Default</i> (デフォルトが <i>Off</i> の場合) に設定し、かつ、MLPP Preemption を <i>Forceful</i> に設定するという組み合わせで、デバイスを設定することはできません。</p>

表 61-4 E1/T1 PRI の設定値 (続き)


フィールド	説明
インターフェイス情報	
PRI Protocol Type	<p>スパン用の通信プロトコルを選択します。</p> <p>T1 PRI スパンには、通信事業者またはスイッチに応じて、複数のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • PRI 4ESS : AT&T 長距離電話会社。 • PRI 5E8 Custom : Cisco IP Phone。 • PRI 5E9 : AT&T ファミリー ローカル交換スイッチまたは通信事業者。 • PRI DMS : MCI ファミリー ローカル交換スイッチまたは通信事業者、カナダ ローカル交換通信事業者。 • PRI ETSI SC : T1 のヨーロッパ ローカル交換通信事業者。また、日本、台湾、韓国、香港のローカル交換。 • PRI NI2:AT&T ファミリー ローカル交換スイッチまたは通信事業者。 • PRI NTT : 日本の NTT 交換スイッチ。 • PRI ISO QSIG T1 : ISO QSIG を使用する PBX T1 専用トランク。 • PRI ISO QSIG E1 : ISO QSIG を使用する PBX E1 専用トランク。 <p>接続先のスイッチおよび推奨プロトコルを、次のように判別してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Nortel Meridian : DMS、5E8 Custom • Lucent Definity : 4ESS または 5E8 • Madge (Teleos) box : 5E8 Teleos • Intecom PBX : 5E8 Intecom

■ ゲートウェイの設定値

表 61-4 E1/T1 PRI の設定値 (続き)

フィールド	説明
Protocol Side	<p>適切な Protocol Side を選択します。この設定値は、ゲートウェイが Central Office/Network デバイスに接続されるか、User デバイスに接続されるかを指定します。</p> <p>PRI 接続の両側で、反対の設定値を使用していることを確認してください。たとえば、PBX に接続されているときに、その PBX が Protocol Side として User を使用する場合は、このデバイスには Network を選択してください。一般に、セントラルオフィス接続では、このオプションに User を使用します。</p>
Channel Selection Order	<p>チャネルまたはポートが使用可能になる順序、つまり、最初のポート (最小番号のポート) から最後のポート (最大番号のポート) への順序か、最後のポートから最初のポートへの順序かを選択します。</p> <p>有効な入力値には、TOP_DOWN (最初から最後) または BOTTOM_UP (最後から最初) があります。どちらのポート順序を使用すべきか不明な場合は、TOP_DOWN を選択してください。</p>
Channel IE Type	<p>次の値のいずれかを選択して、チャネル選択がチャネルマップとして提示されるか、スロットマップとして提示されるかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Timeslot Number : B チャネルの使用は、常に実際のタイムスロットマップ形式 (E1 の場合は 1-15 および 17-31 など)。 • Slotmap : B チャネルの使用は、常にスロットマップ形式。 • Use Number When 1B : チャネルの使用は、1 つの B チャネルの場合はチャネルマップ形式で、複数の B チャネルが存在する場合はスロットマップ形式。 • Continuous Number : E1 論理チャネル番号として、連続しない実際のタイムスロット番号 (1-15 および 17-31) ではなく、連続するスロット番号 (1-30) を設定します。

表 61-4 E1/T1 PRI の設定値 (続き)


フィールド	説明
PCM Type	デジタル エンコーディング形式を指定します。次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • a-law : ヨーロッパおよびその他の地域で使用。 • mu-law : 北米、香港、台湾、および日本で使用。
Delay for first restart (1/8 sec ticks)	スパンがインサービスになる速度を入力します。システム上で複数の PRI スパンが使用可能であるときに、Inhibit Restarts at PRI Initialization チェックボックスがオンになっていない場合、この遅延が発生します。たとえば、最初の 5 個のカードを 0 に設定し、次の 5 個のカードを 16 に設定します (カードをイン サービスにするには、2 秒待ってください)。
Delay between restarts (1/8 sec ticks)	再起動間の時間を入力します。Inhibit Restarts チェックボックスがオフになっている場合、PRI RESTART が送信されるときに、この遅延が発生します。
Inhibit restarts at PRI initialization	RESTART メッセージまたは SERVICE メッセージは、PRI スパン上のポートの状況を確認します。RESTART メッセージも SERVICE メッセージも送信されない場合、Cisco CallManager は、ポートがイン サービスであると見なします。 このチェックボックスがオフになっている場合、D チャネルは、別の PRI の D チャネルと正常に接続されると、RESTART メッセージまたは SERVICE メッセージを送信します。
Enable status poll	このチェックボックスをオンにすると、Cisco CallManager の拡張サービス パラメータ (Change B-Channel Maintenance Status) を使用可能にできます。このサービス パラメータによって、MGCP T1/E1 PRI ゲートウェイのサービスから、リアルタイムで個々の B チャネルを使用することができます。 このチェックボックスをオフにすると、サービス パラメータ「Change B-Channel Maintenance Status」を使用不可にできます。
	 (注) デフォルトでは、このフィールドはオフです。

■ ゲートウェイの設定値

表 61-4 E1/T1 PRI の設定値 (続き)

フィールド	説明
コールルーティング情報	
着信コール	
Significant Digits	<p>収集する有効数字の桁数を選択します (0 ~ 32、または All)。Cisco CallManager は、有効数字をコールされた番号の右側 (最後の桁) からカウントします。All を選択した場合、Cisco CallManager は着信番号を切り捨てません。</p> <p>EXAMPLE Digits received are 123456. Significant digits setting is 4. Digits translated are 3456.</p> <p>このフィールドは、着信コールの処理に使用されます。着信番号の最後の桁から数えた桁数を指定します。この桁数が、PRI スパンに着信するコールのルーティングに使用されます。Prefix DN を参照してください。</p>

表 61-4 E1/T1 PRI の設定値 (続き)

フィールド	説明
Calling Search Space	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースでは、収集された (発信) 番号のルート指定方法を決定するために検索される、ルートパーティションの集合を指定します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで設定された数よりもコーリング サーチ スペースの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リスト ボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Calling Search Space ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにコーリング サーチ スペース名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるコーリング サーチ スペースのリストで、希望するコーリング サーチ スペース名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、System > Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。</p>
AAR Calling Search Space	<p>自動代替ルーティング (AAR) の実行時にデバイスが使用するコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号をルーティングする方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。</p>
Prefix DN	<p>このトランクが着信コールで受け取る数字に追加される、プレフィックス番号を入力します。</p> <p>Cisco CallManager は、まず、Num Digits 設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。</p>

■ ゲートウェイの設定値

表 61-4 E1/T1 PRI の設定値 (続き)

フィールド	説明
発信コール	
Calling Line ID Presentation	<p>Cisco CallManager で、発信側の電話番号を表示させるか制限するかを選択します。</p> <p>Calling Line ID Presentation を変更しない場合は、<i>Default</i> を選択します。Cisco CallManager が発信コールで「許可された発信側の回線 ID」を送信するようにする場合は、<i>Allowed</i> を選択します。</p> <p>Cisco CallManager が発信コールで「制限された発信側の回線 ID」を送信するようにする場合は、<i>Restricted</i> を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「発信側番号の変換設定値」の項の表 15-6 を参照してください。</p>
Calling Party Selection	<p>ゲートウェイ上のすべての発信コールは、電話番号情報を送信できません。どの電話番号が送信されるかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Originator : 発信側デバイスの電話番号を送信します。 • First Redirect Number : 転送デバイスの電話番号を送信します。 • Last Redirect Number : 最後にコールを転送するデバイスの電話番号を送信します。 • First Redirecting Party (External) : 外部電話マスクが適用されている、最初の転送デバイスの電話番号を送信します。 • Last Redirecting Party (External) : 外部電話マスクが適用されている、最後の転送デバイスの電話番号を送信します。

表 61-4 E1/T1 PRI の設定値 (続き)

フィールド	説明
Called party IE number type unknown	<p>着信側電話番号内の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager は、着信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定は、着信側電話番号が国別以外の番号計画に符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CallManager : Cisco CallManager が、電話番号のタイプを設定します。 • International : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • National : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • Unknown : ダイヤルプランが不明です。

■ ゲートウェイの設定値

表 61-4 E1/T1 PRI の設定値 (続き)

フィールド	説明
Calling party IE number type unknown	<p>発信側電話番号内の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager は、発信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定値は、発信側電話番号が国別以外の番号計画に符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CallManager : Cisco CallManager が、電話番号のタイプを設定します。 • International : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • National : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • Unknown : ダイヤルプランが不明です。

表 61-4 E1/T1 PRI の設定値 (続き)



フィールド	説明
Called Numbering Plan	<p>着信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager は、着信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。また、国別タイプ以外の番号として、ルーティングを使用して PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CallManager: Cisco CallManager が、電話番号内の Numbering Plan を設定します。 • ISDN: 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • National Standard: 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • Private: プライベートネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。 • Unknown: ダイヤルプランが不明です。

■ ゲートウェイの設定値

表 61-4 E1/T1 PRI の設定値 (続き)

フィールド	説明
Calling Numbering Plan	<p>発信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager は、発信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。また、国別タイプ以外の番号として、ルーティングを使用して PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CallManager: Cisco CallManager が、電話番号内の Numbering Plan を設定します。 • ISDN: 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • National Standard: 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • Private: プライベートネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。 • Unknown: ダイヤルプランが不明です。
Number of digits to strip	<p>発信コール上で除去される桁数 (0 ~ 32) を選択します。</p> <p>たとえば、8889725551234 がダイヤルされ、除去される桁数が 3 である場合、Cisco CallManager は発信番号から 888 を除去します。</p>

表 61-4 E1/T1 PRI の設定値 (続き)

フィールド	説明
Caller ID DN	<p>発信側の回線 ID に使用するパターン (0 ~ 24 桁) を入力します。</p> <p>たとえば、北米では次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 555XXXX = 可変の発信側の回線 ID。ここで、X は内線番号に相当します。この番号が指定されていない場合、CO は、エリアコードと共にこの番号を追加します。 5555000 = 固定の発信側の回線 ID。コールの発信元の正確な内線番号の代わりに、Corporate 番号を送信する場合に使用してください。この番号が指定されていない場合、CO は、エリアコードと共にこの番号を追加します。
SMDI Base Port	T1 スパンの最初の SMDI ポート番号を入力します。
タイプ固有の情報	
Display IE Delivery	<p>発信側と接続された側のネーム デリバリ サービスに対する SETUP および NOTIFY メッセージ (DMS プロトコルの場合) 内で、表示情報要素 (IE) のデリバリを可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p></p> <p>(注) デフォルトでは、このチェックボックスはオンです。</p>
Redirecting Number IE Delivery : Outbound	<p>Call Forward が発生したときに、コールの最初の転送番号および転送理由を示すために、Cisco CallManager からの Redirecting Number IE を送信 SETUP メッセージに含めるには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>送信 SETUP メッセージから最初の転送番号と転送理由を除外するには、チェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合のみで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p> <p></p> <p>(注) デフォルトでは、このチェックボックスはオンです。</p>

■ ゲートウェイの設定値

表 61-4 E1/T1 PRI の設定値 (続き)


フィールド	説明
Redirecting Number IE Delivery : Inbound	<p>Cisco CallManager に対する受信 SETUP メッセージの Redirecting Number IE を受理するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>Cisco CallManager に対する受信 SETUP メッセージの Redirecting Number IE を除外するには、チェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合のみで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) デフォルトでは、このチェックボックスはオンです。</p>
Send Extra Leading Character in DisplayIE	<p>DisplayIE フィールドに特殊先行文字バイト (ASCII 以外の表示不能なバイト) を含める場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>DisplayIE フィールドからこの文字バイトを除外する場合は、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>このチェックボックスが適用されるのは、DMS-100 プロトコルと DMS-250 プロトコルに限られます。</p> <p>デフォルトでは、この設定値は使用不可 (チェックボックスはオフになっています)。</p>

表 61-4 E1/T1 PRI の設定値 (続き)

フィールド	説明
Setup non-ISDN Progress Indicator IE Enable	<p>デフォルトでは、この設定値は使用不可 (チェックボックスはオフになっています)。</p> <p>ユーザが発信コール上でリングバック音を受信しない場合だけ、この設定値を使用可能にします。</p> <p>この設定値が有効である場合、Cisco CallManager は、Progress Indicator フィールドが non-ISDN に設定されているデジタル ゲートウェイ (つまり、H.323 以外) に、Q.931 Setup メッセージを送信します。</p> <p>このメッセージは、Cisco CallManager ゲートウェイが non-ISDN であること、および宛先デバイスがインバンド リングバックを再生しなければならないことを、宛先デバイスに通知します。</p> <p>この問題は、通常、デジタル ゲートウェイを使用して PBX に接続される Cisco CallManager に関連しています。</p>
MCDN Channel Number Extension Bit Set to Zero	<p>チャンネル番号拡張ビットを 0 に設定するには、チェックボックスをオンにします。この拡張ビットを 1 に設定するには、チェックボックスをオフにします。</p> <p>この設定は、DMS-100 プロトコルだけに適用されます。</p>

■ ゲートウェイの設定値

表 61-4 E1/T1 PRI の設定値 (続き)


フィールド	説明
Send Calling Name in Facility IE	<p>Facility IE フィールドにある発信側の名前を送信するには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、Cisco CallManager はこのチェックボックスをオフにします。</p> <p>この機能は、ISDN 発信側のネーム デリバリー用に使用可能になっている PRI インターフェイスを持つプライベート ネットワークに対して設定します。このチェックボックスがオンの場合、発信側の名前は SETUP または FACILITY メッセージの Facility IE に送られるため、名前を着信側のデバイス上に表示できます。</p> <p>この機能を設定できるのは、プライベート ネットワーク内の PRI トランクだけです。PSTN に接続された PRI トランクには、この機能を設定しないでください。</p> <p> (注) このフィールドが適用されるのは、NI2 プロトコルに限られます。</p>
Interface Identifier Present	<p>Interface Identifier が存在することを指定するには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、Cisco CallManager はこのチェックボックスをオフにします。</p> <p>この設定値は、SETUP、CALL PROCEEDING、ALERTING、および CONNECT メッセージの Channel Identification 情報要素内で、デジタル アクセス ゲートウェイ用の DMS-100 プロトコルだけに適用されます。</p>
Interface Identifier Value	<p>PBX プロバイダーから入手した値を入力します。</p> <p>このフィールドが適用されるのは、DMS-100 プロトコルに限られません。有効値の範囲は 0 ~ 255 です。</p>

表 61-4 E1/T1 PRI の設定値 (続き)

フィールド	説明
Connected Line ID Presentation (QSIG Inbound Call)	<p>Cisco CallManager で、接続された側の電話番号を着信側の電話機に表示させるか、ブロックさせるかを選択します。</p> <p>このフィールドは、QSIG プロトコルを使用しているゲートウェイのみに適用されます。ゲートウェイは、この設定を着信コールのみに適用します。</p> <p>Connected Line ID Presentation を変更しない場合は、<i>Default</i> を選択します。Cisco CallManager が「許可された接続側の回線 ID」を送信して、接続された側の番号を発信側に表示できるようにする場合は、<i>Allowed</i> を選択します。Cisco CallManager が「制限された接続側の回線 ID」を送信して、接続された側の番号を発信側に表示されるのをブロックする場合は、<i>Restricted</i> を選択します。</p> <p>このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager システムガイド』の「接続先情報の表示設定と制限設定」の項の表 15-9 を参照してください。</p>
UUIE の設定値	
Passing Precedence Level Through UUIE	<p>MLPP 情報が PRI 4ESS UUIE フィールドを通過できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。このボックスは、DRSN スイッチとの相互作用に使用されます。</p> <p>PRI 4ESS の PRI Protocol Type 値がこのゲートウェイに指定されている場合に限り、システムによってこのチェックボックスが使用可能になります。</p> <p>デフォルト値は、オフです。</p>
Security Access Level	<p>セキュリティ アクセス レベルの値を入力します。有効値は 00 ~ 99 です。Passing Precedence Level Through UUIE チェックボックスがオンの場合に限り、このフィールドを使用できます。デフォルト値は 2 です。</p>

■ ゲートウェイの設定値

表 61-4 E1/T1 PRI の設定値（続き）

フィールド	説明
プロダクト固有の設定値	
Model-specific configuration (ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>Product-Specific Configuration の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、Product Specific Configuration 見出しの右側にある i アイコンをクリックします。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

関連項目

- [IOS 以外の MGCP ゲートウェイの追加 \(P.61-17 \)](#)
- [Cisco CallManager へのゲートウェイの追加 \(P.61-2 \)](#)
- [ゲートウェイとポートの更新 \(P.61-127 \)](#)
- [ゲートウェイの設定値 \(P.61-25 \)](#)
- [MGCP ゲートウェイへの BRI ポートの追加 \(P.61-14 \)](#)

BRI ゲートウェイの設定値

表 61-5 では、BRI の設定値について詳しく説明します。

表 61-5 BRI の設定値


フィールド	説明
デバイス情報	
End-Point Name (MGCP ゲートウェイ)	<p>MGCP ゲートウェイの場合、この表示専用フィールドには、Cisco CallManager が生成した、MGCP エンドポイントを一意に識別する文字列が入っています。</p> <p>次の例を参考にしてください。</p> <p>BRI/S1/SU0/P0@SC3640.cisco.com</p> <p>S1 はスロット 1、SU0 はサブユニット 0、P0 はポート 0 を示し、@SC3640.cisco.com は MGCP ドメイン名を示します。</p>
Description	デバイスの目的を明確にした説明を入力します。
Device Pool	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なデバイス プールを選択します。</p> <p>このデバイスに対して、デバイス プールは、デバイスの自動登録用の CallManager Group、Date/Time Group、Region、および Calling Search Space を含むプロパティの集合を指定します。</p>
Call Classification	<p>このゲートウェイを使用している着信コールがネットワークをオフ (OffNet) またはオン (OnNet) と見なすかどうかを、このパラメータによって決定します。</p> <p>Call Classification フィールドが Use System Default に設定されている場合、Cisco CallManager clusterwide サービス パラメータの設定値 (Call Classification) により、ゲートウェイが OnNet または OffNet かどうかが決まります。</p> <p>このフィールドは、コールが OnNet または OffNet の場合、それぞれの警告トーンを提供します。</p>

■ ゲートウェイの設定値

表 61-5 BRI の設定値 (続き)

フィールド	説明
Network Locale	ドロップダウン リスト ボックスから、そのゲートウェイに関連したロケールを選択します。そのネットワーク ロケールは、特定ロケーションのハードウェアをサポートする一連の詳細情報を識別します。ネットワーク ロケールには、特定の地域でデバイスが使用するトーンおよび断続周期の定義が含まれています。
Signaling Packet Capture Mode (for Cisco IOS MGCP gateways only)	このフィールドを設定するのは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケット キャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。
Packet Capture Duration (for Cisco IOS MGCP gateways only)	このフィールドを設定するのは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケット キャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。
Media Resource Group List	メディア リソース グループを優先順に並べたグループが表示されます。アプリケーションは、メディア リソース リストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから、必要なメディア リソース、たとえば、Music On Hold サーバを選択します。
Location	このデバイスに適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションに None を設定すると、そのロケーションの機能では、このデバイスが消費する帯域幅を把握しません。
AAR Group	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を None にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。
Load Information	ゲートウェイに適切なファームウェア ロード情報を入力します。 このフィールドに入力される値は、このゲートウェイ タイプのデフォルト ファームウェア ロードを上書きします。

表 61-5 BRI の設定値 (続き)

フィールド	説明
インターフェイス情報	
BRI Protocol Type	スパン用の通信プロトコルを選択します。 BRI-NET3
Protocol Side	適切な Protocol Side を選択します。この設定値は、ゲートウェイが Central Office/Network デバイスに接続されるか、User デバイスに接続されるかを指定します。  (注) BRI は User Side だけをサポートします。
Channel Selection Order	チャネルまたはポートが使用可能になる順序、つまり、最初のポート (最小番号のポート) から最後のポート (最大番号のポート) への順序か、最後のポートから最初のポートへの順序かを選択します。 有効な入力値には、TOP_DOWN (最初から最後) または BOTTOM_UP (最後から最初) があります。どちらのポート順序を使用すべきか不明な場合は、TOP_DOWN を選択してください。
PCM Type	デジタル エンコーディング形式を指定します。次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • a-law : ヨーロッパおよびその他の地域で使用。 • mu-law : 北米、香港、台湾、および日本で使用。
Delay for First Restart (1/8 sec ticks)	スパンがインサービスになる速度を入力します。システム上で複数の BRI スパンが使用可能であるときに、Inhibit Restarts at BRI Initialization チェックボックスがオンになっていない場合、この遅延が発生します。たとえば、最初の 5 個のカードを 0 に設定し、次の 5 個のカードを 16 に設定します (カードをイン サービスにするには、2 秒待ってください)。
Delay Between Restarts (1/8 sec ticks)	再起動間の時間を入力します。Inhibit Restarts チェックボックスがオフになっている場合、BRI RESTART が送信されるときに、この遅延が発生します。

■ ゲートウェイの設定値

表 61-5 BRI の設定値 (続き)


フィールド	説明
Inhibit Restarts at BRI Initialization	<p>RESTART メッセージは、BRI スパン上のポートの状況を確認します。RESTART メッセージが送信されない場合、Cisco CallManager は、ポートがイン サービスであると見なします。</p> <p>このチェックボックスがオフになっている場合、データ リンクは、別の BRI データ リンクと正常に接続されると、RESTART メッセージを送信します。</p>
Enable Status Poll	<p>Debug ウィンドウに B チャネルの状況を表示するには、このチェックボックスをオンにします。</p>
Establish Datalink on First Call	<p>ゲートウェイが Cisco CallManager に登録されると、Cisco CallManager はゲートウェイへのデータ リンクを確立します。</p> <p>最初のコールで Terminal Endpoint Identifier (TEI; 端末エンドポイント ID) が決まるようにゲートウェイおよびスイッチを設定する場合、チェックボックスをオンにすると、最初のコールでデータ リンクを確立できます。</p> <p> (注) デフォルトでは、このチェックボックスはオフです。</p>

表 61-5 BRI の設定値 (続き)

フィールド	説明
コールルーティング情報	
着信コール	
Significant Digits	<p>収集する有効数字の桁数を選択します (0 ~ 32、または All)。Cisco CallManager は、有効数字をコールされた番号の右側 (最後の桁) からカウントします。All を選択した場合、Cisco CallManager は着信番号を切り捨てません。</p> <p>EXAMPLE Digits received are 123456. Significant digits setting is 4. Digits translated are 3456.</p> <p>このフィールドは、着信コールの処理に使用されます。着信番号の最後の桁から数えた桁数を指定します。この桁数が、BRI スパンに着信するコールのルーティングに使用されます。Prefix DN を参照してください。</p>
Calling Search Space	適切なコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースでは、収集された (発信) 番号のルート指定方法を決定するために検索される、ルートパーティションの集合を指定します。
AAR Calling Search Space	自動代替ルーティング (AAR) の実行時にデバイスが使用するコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号をルーティングする方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。
Prefix DN	<p>このトランクが着信コールで受け取る数字に追加される、プレフィックス番号を入力します。</p> <p>Cisco CallManager は、まず、Num Digits 設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。</p>

■ ゲートウェイの設定値

表 61-5 BRI の設定値 (続き)

フィールド	説明
発信コール	
Calling Party Presentation	<p>Cisco CallManager が発信者 ID を送信するか、またはブロックするかを選択します。</p> <p>発信側の表示を変更しない場合は、<i>Default</i> を選択します。Cisco CallManager が発信者 ID を送信するようにする場合は、<i>Allowed</i> を選択します。Cisco CallManager が発信者 ID を送信しないようにする場合は、<i>Restricted</i> を選択します。</p>
Calling Party Selection	<p>ゲートウェイ上のすべての発信コールは、電話番号情報を送信できません。どの電話番号が送信されるかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Originator : 発信側デバイスの電話番号を送信します。 • First Redirect Number : 転送デバイスの電話番号を送信します。 • Last Redirect Number : 最後にコールを転送するデバイスの電話番号を送信します。 • First Redirecting Party (External) : 外部電話マスクが適用されている、最初の転送デバイスの電話番号を送信します。 • Last Redirecting Party (External) : 外部電話マスクが適用されている、最後の転送デバイスの電話番号を送信します。

表 61-5 BRI の設定値 (続き)

フィールド	説明
Called party IE number type unknown	<p>着信側電話番号内の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager は、着信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定は、着信側電話番号が国別以外の番号計画タイプに符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none">• CallManager : Cisco CallManager が、電話番号のタイプを設定します。• International : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。• National : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。• Unknown : ダイヤルプランが不明です。• Subscriber : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。

■ ゲートウェイの設定値

表 61-5 BRI の設定値 (続き)

フィールド	説明
Calling party IE number type unknown	<p>発信側電話番号内の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager は、発信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定値は、発信側電話番号が国別以外の番号計画タイプに符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CallManager : Cisco CallManager が、電話番号のタイプを設定します。 • International : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • National : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • Unknown : ダイヤルプランが不明です。 • Subscriber : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。

表 61-5 BRI の設定値 (続き)


フィールド	説明
Called Numbering Plan	<p>着信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager は、着信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。また、国別タイプ以外の番号として、ルーティングを使用して PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CallManager: Cisco CallManager が、電話番号内の Numbering Plan を設定します。 • ISDN: 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • National Standard: 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • Private: プライベートネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。 • Unknown: ダイヤルプランが不明です。 • Subscriber: 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。

■ ゲートウェイの設定値

表 61-5 BRI の設定値 (続き)

フィールド	説明
Calling Numbering Plan	<p>発信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager は、発信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。また、国別タイプ以外の番号として、ルーティングを使用して PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CallManager: Cisco CallManager が、電話番号内の Numbering Plan を設定します。 • ISDN: 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • National Standard: 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • Private: プライベートネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。 • Unknown: ダイヤルプランが不明です。 • Subscriber: 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。
Number of digits to strip	<p>発信コール上で除去される桁数 (0 ~ 32) を選択します。</p> <p>たとえば、8889725551234 がダイヤルされ、除去される桁数が 3 である場合、Cisco CallManager は発信番号から 888 を除去します。</p>

表 61-5 BRI の設定値 (続き)

フィールド	説明
Caller ID DN	<p>発信者 ID に使用するパターン (0 ~ 24 桁) を入力します。</p> <p>たとえば、北米では次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 555XXXX = 可変発信者 ID。ここで、X は内線番号を表します。この番号が指定されていない場合、CO は、エリア コードと共にこの番号を追加します。 5555000 = 固定の発信者 ID。コールの発信元の正確な内線番号の代わりに、Corporate 番号を送信する場合に使用してください。この番号が指定されていない場合、CO は、エリア コードと共にこの番号を追加します。
BRI Protocol Type 固有の情報	
Redirecting Number IE Delivery : Outbound	<p>Call Forward が発生したときに、コールの最初の転送番号および転送理由を示すために、Cisco CallManager からの Redirecting Number IE を送信 SETUP メッセージに含めるには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>送信 SETUP メッセージから最初の転送番号と転送理由を除外するには、チェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合のみで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) デフォルトでは、このチェックボックスはオンです。</p>

■ ゲートウェイの設定値

表 61-5 BRI の設定値 (続き)


フィールド	説明
Redirecting Number IE Delivery : Inbound	<p>Cisco CallManager に対する受信 SETUP メッセージの Redirecting Number IE を受理するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>Cisco CallManager に対する受信 SETUP メッセージの Redirecting Number IE を除外するには、チェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合のみで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) デフォルトでは、このチェックボックスはオンです。</p>
Setup non-ISDN Progress Indicator IE Enable	<p>デフォルトでは、この設定値は使用不可 (チェックボックスはオフになっています)。</p> <p>ユーザが発信コール上でリングバック音を受信しない場合だけ、この設定値を使用可能にします。</p> <p>この設定値が有効である場合、Cisco CallManager は、Progress Indicator フィールドが non-ISDN に設定されているデジタル ゲートウェイ (つまり、H.323 以外) に、Q.931 Setup メッセージを送信します。</p> <p>このメッセージは、Cisco CallManager ゲートウェイが non-ISDN であること、および宛先デバイスがインバンド リングバックを再生しなければならないことを、宛先デバイスに通知します。</p> <p>この問題は、通常、デジタル ゲートウェイを使用して PBX に接続される Cisco CallManager に関連しています。</p>

表 61-5 BRI の設定値 (続き)

フィールド	説明
プロダクト固有の設定値	
Model-specific configuration(ゲートウェイメーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>Product-Specific Configuration の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイメーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、Product Specific Configuration 見出しの右側にある i アイコンをクリックします。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

関連項目

- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「MGCP BRI コール接続」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「MGCP BRI ゲートウェイの設定 チェックリスト」

■ ゲートウェイの設定値

T1-CAS ゲートウェイの設定値

表 61-6 では、T1-CAS の設定値について詳しく説明します。

表 61-6 T1-CAS の設定値

フィールド	説明
MAC Address (IOS 以外のゲートウェイ)	ゲートウェイの MAC アドレスを入力します。MAC アドレスは、ハードウェア デバイスを一意に識別します。 12 桁の 16 進文字の値を入力する必要があります。
Domain Name	MGCP ゲートウェイの場合、この表示専用フィールドには、Cisco CallManager が生成した、MGCP デジタル インターフェイスを一意に識別する文字列が含まれています。 次の例を参考にしてください。 S1/DS1-0@VG200-2 S1 はスロット 1 を示し、DS1-0 はデジタル インターフェイスを示し、@VG200-2 は MGCP ドメイン名を示します。



(注) MAC アドレスかドメイン名の、どちらか適用される方を入力してください。

Description	デバイスの目的を明確にした説明を入力します。
Device Pool	ドロップダウン リスト ボックスから、適切なデバイス プールを選択します。 デバイス プールは、デバイスの自動登録用の CallManager Group、Date/Time Group、Region、および Calling Search Space を含む、このデバイスのプロパティの集合を指定します。

表 61-6 T1-CAS の設定値 (続き)

フィールド	説明
Call Classification	<p>このゲートウェイを使用している着信コールがネットワークをオフ (OffNet) またはオン (OnNet) と見なすかどうかを、このパラメータによって決定します。</p> <p>Call Classification フィールドが Use System Default に設定されている場合、Cisco CallManager clusterwide サービス パラメータの設定値 (Call Classification) により、ゲートウェイが OnNet または OffNet かどうかが決まります。</p> <p>このフィールドは、コールが OnNet または OffNet の場合、それぞれの警告トーンを提供します。</p>
Media Resource Group List	<p>メディア リソース グループを優先順に並べたグループが表示されます。アプリケーションは、Media Resource List で定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから、必要なメディア リソース、たとえば、Music On Hold サーバを選択します。</p>

■ ゲートウェイの設定値

表 61-6 T1-CAS の設定値 (続き)



フィールド	説明
Calling Search Space	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースでは、収集された (発信) 番号のルート指定方法を決定するために検索される、ルートパーティションの集合を指定します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで設定された数よりもコーリング サーチ スペースの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リスト ボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Calling Search Space ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにコーリング サーチ スペース名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるコーリング サーチ スペースのリストで、希望するコーリング サーチ スペース名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、System > Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。</p>
AAR Calling Search Space	<p>自動代替ルーティング (AAR) の実行時にデバイスが使用するコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号をルーティングする方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。</p>
Location	<p>このデバイスに適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションに None を設定すると、そのロケーションの機能では、このデバイスが消費する帯域幅を把握しません。</p>

表 61-6 T1-CAS の設定値 (続き)

フィールド	説明
AAR Group	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を None にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。
MLPP Domain (たとえば「0000FF」)	このデバイスに関連付けられた MLPP ドメインに対応する 0 ~ FFFFFFFF の 16 進数の値を入力します。このフィールドをブランクのままにすると、このデバイスの MLPP ドメインは、このデバイスのデバイス プールに設定された値から継承されます。デバイス プールに MLPP ドメインの設定がない場合、このデバイスの MLPP ドメインは、MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータに設定された値から継承されます。
MLPP Indication	<p>優先トーンを再生できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその再生機能を使用するかどうかを指定します (使用可能な場合)。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Default : このデバイスは、デバイス プールから MLPP Indication 設定を引き継ぎます。 • Off : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示の制御も処理もしません。 • On : このデバイスは、MLPP 優先コールの表示を制御し処理します。 <p> (注) MLPP Indication を <i>Off</i> または <i>Default</i> (デフォルトが <i>Off</i> の場合) に設定し、かつ、MLPP Preemption を <i>Forceful</i> に設定するという組み合わせで、デバイスを設定することはできません。</p>

■ ゲートウェイの設定値

表 61-6 T1-CAS の設定値 (続き)



フィールド	説明
MLPP Preemption	<p>進行中のコールを優先できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその優先機能を使用するかどうかを指定します (使用可能な場合)。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Default: このデバイスは、デバイス プールから MLPP Preemption 設定を引き継ぎます。 • Disabled: このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先しないようにします。 • Forceful: このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先するようにします。 <p> (注) MLPP Indication を <i>Off</i> または <i>Default</i> (デフォルトが <i>Off</i> の場合) に設定し、かつ、MLPP Preemption を <i>Forceful</i> に設定するという組み合わせで、デバイスを設定することはできません。</p>
Handle DTMF Precedence Signals	このゲートウェイが特殊な DTMF 信号を MLPP 優先レベルとして解釈できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。
Load Information	ゲートウェイに適切なファームウェア ロード情報を入力します。 このフィールドに入力された値は、このゲートウェイのデフォルト値を上書きします。
Port Selection Order	チャンネルまたはポートが発信コールに割り当てられる順序、つまり、最初のポート (最小番号のポート) から最後のポート (最大番号のポート) への順序か、最後のポートから最初のポートへの順序かを選択します。 有効な入力値は、TOP_DOWN (最初から最後) または BOTTOM_UP (最後から最初) です。どちらのポート順序を使用すべきか不明な場合は、TOP_DOWN を選択してください。

表 61-6 T1-CAS の設定値 (続き)

フィールド	説明
Digit Sending	<p>アウトダイヤル用に、次の Digit Sending タイプのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • DTMF : Dual-Tone Multifrequency (2 重トーン多重周波数)。通常のプッシュホン式ダイヤリング。 • MF : Multifrequency (多重周波数)。 • PULSE : パルス (ロータリー) ダイヤリング。
Network Locale	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、そのゲートウェイに関連したロケールを選択します。そのネットワーク ロケールは、特定ロケーションのハードウェアをサポートする一連の詳細情報を識別します。ネットワーク ロケールには、特定の地域でデバイスが使用するトーンおよび断続周期の定義が含まれています。</p> <p> (注) 関連するデバイスによってサポートされているインストール済みのネットワーク ロケールのみを選択してください。このリストにはこの設定に使用できるネットワーク ロケールがすべて示されていますが、そのすべてがインストールされているわけではありません。ファームウェアでサポートされていないネットワーク ロケールと関連付けられると、デバイスは起動できません。</p>
Signaling Packet Capture Mode (for Cisco IOS MGCP gateways only)	<p>このフィールドを設定するのは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケット キャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>
Packet Capture Duration (for Cisco IOS MGCP gateways only)	<p>このフィールドを設定するのは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケット キャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>
SMDI Base Port	<p>T1 スパンの最初の SMDI ポート番号を入力します。</p>

■ ゲートウェイの設定値

表 61-6 T1-CAS の設定値 (続き)

フィールド	説明
V150 (subset)	v150 (subset) モデムのリレー サポートをゲートウェイで使用可能にするには、このボックスをオンにします。この機能は現在、ISDN-STE へのエンドツーエンドのセキュアなコールをサポートするために、IP-STE が使用します (T1 PRI および T1 CAS のみ)。 デフォルト値は、オフです。
プロダクト固有の設定値	
Model-specific configuration(ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	Product-Specific Configuration の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。 フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、 Product Specific Configuration 見出しの右側にある i アイコンをクリックします。 詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。

関連項目

- [Cisco CallManager へのゲートウェイの追加 \(P.61-2\)](#)
- [IOS 以外の MGCP ゲートウェイの追加 \(P.61-17\)](#)
- [ゲートウェイとポートの更新 \(P.61-127\)](#)
- [ゲートウェイの設定値 \(P.61-25\)](#)

H.323 ゲートウェイの設定値

表 61-7 では、H.323 ゲートウェイの設定値について説明します。

表 61-7 H.323 ゲートウェイの設定値

フィールド	説明
デバイス情報	
Device Name	デバイスを識別するために Cisco CallManager が使用する固有の名前を入力します。IP アドレスまたはホスト名をデバイス名として使用します。
Description	デバイスの目的を明確にした説明を入力します。
Device Pool	ドロップダウン リスト ボックスから、適切なデバイス プールを選択します。 デバイス プールは、デバイスの自動登録用の CallManager Group、Date/Time Group、Region、および Calling Search Space を含む、このデバイスのプロパティの集合を指定します。
Call Classification	このゲートウェイを使用している着信コールがネットワークをオフ (OffNet) またはオン (OnNet) と見なすかどうかを、このパラメータによって決定します。 Call Classification フィールドが Use System Default に設定されている場合、Cisco CallManager clusterwide サービス パラメータの設定値 (Call Classification) により、ゲートウェイが OnNet または OffNet かどうかが決まります。 このフィールドは、コールが OnNet または OffNet の場合、それぞれの警告トーンを提供します。
Media Resource Group List	メディア リソース グループを優先順に並べたグループが表示されます。アプリケーションは、メディア リソース グループ リストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから、必要なメディア リソース、たとえば、Music On Hold サーバを選択します。

■ ゲートウェイの設定値

表 61-7 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)


フィールド	説明
Location	このデバイスに適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションに None を設定すると、そのロケーションの機能では、このデバイスが消費する帯域幅を把握しません。
AAR Group	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を None にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。
Tunneled Protocol	H.323 ゲートウェイを使用して、H.323 シグナリング メッセージ内の H.323 以外のプロトコル情報を Cisco CallManager から他の Annex M.1 準拠の H.323 PINX にトランスポート (トンネル) する場合は、 QSIG オプションを選択します。QSIG トンネルは、次の機能をサポートします: Call Completion、Call Diversion、Call Transfer、Identification Services、Message Waiting Indication、および Path Replacement。  (注) Annex M.1 機能とサードパーティ ベンダーとの互換性については、『Cisco CallManager Compatibility Matrix』を参照してください。
Signaling Port	このフィールドは H.323 デバイスのみに適用されます。このデバイスが使用する H.225 シグナリング ポートの値を指定します。 デフォルト値は 1720 です。有効値は 1 ~ 65535 です。

表 61-7 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
Media Termination Point Required	<p>H.323 がサポートしない機能 (たとえば、保留や転送) をインプリメントするのに、メディア ターミネーション ポイントを使用するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>H.323 クライアント、および H.245 Empty Capabilities Set メッセージをサポートしない H.323 デバイスだけに、このチェックボックスを使用してください。</p> <p>メディア ターミネーション ポイントを使用するためにこのチェックボックスをオンにして、このデバイスがビデオ コールのエンドポイントになっている場合、そのコールは必ずオーディオとして動作します。</p>
Retry Video Call as Audio	<p>このチェックボックスは、コールを受信するビデオ エンドポイントのみに適用されます。</p> <p>このチェックボックスはデフォルトでオンになっています。このデバイスは、ビデオ コールをコール制御に送信して再ルーティングする直前に、オーディオ コールとして (ビデオ コールとして接続できない場合) そのビデオ コールをリトライします。</p> <p>このチェックボックスをオフにすると、ビデオとして接続に失敗したビデオ コールは、オーディオ コールとしての確立を試行しません。この場合、コールはコール制御に失敗します。コール制御はルート / ハント リスト内でコールを再ルーティングします。自動代替ルーティング (AAR) が設定済みで使用可能であれば、コール制御はルート リストとハント リスト間でもコールを再ルーティングします。</p>

■ ゲートウェイの設定値

表 61-7 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)




フィールド	説明
Wait for Far End H.245 Terminal Capability Set	<p>このフィールドは H.323 デバイスのみに適用されます。</p> <p>このチェックボックスはデフォルトでオンになっています。Cisco CallManager が遠端 H.245 Terminal Capability Set を受信した後に、H.245 Terminal Capability Set に送信するように指定します。Cisco CallManager がケイパビリティ交換を実行するように指定するには、このチェックボックスをオフにします。</p>  <p>(注) H.323 エンドポイントと H.320 エンドポイント間の ISDN コールに、H.320 ゲートウェイ経由のコールを可能にするには、このチェックボックスをオフにします。</p>
Path Replacement Support	<p>このチェックボックスが表示されるのは、Tunneled Protocol ドロップダウン リスト ボックスで QSIG オプションを選択した場合です。この設定は QSIG トンネル (Annex M.1) と連動し、パス変換を使用するコールに H.323 以外の情報を確実に送信します。</p>  <p>(注) デフォルト設定では、このチェックボックスはオフです。QSIG Tunneled Protocol オプションを選択した場合、このチェックボックスは自動的にオンになります。</p>
Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) 情報	
MLPP Domain (たとえば、「0000FF」)	<p>このデバイスに関連付けられた MLPP ドメインに対応する 0 ~ FFFFFFFF の 16 進数の値を入力します。このフィールドをブランクのままにすると、このデバイスの MLPP ドメインは、このデバイスのデバイス プールに設定された値から継承されます。デバイス プールに MLPP ドメインの設定がない場合、このデバイスの MLPP ドメインは、MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータに設定された値から継承されます。</p>
MLPP Indication	この設定は、このデバイス タイプで使用できません。
MLPP Preemption	この設定は、このデバイス タイプで使用できません。

表 61-7 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)


フィールド	説明
コールルーティング情報	
着信コール	
Significant Digits	<p>有効数字は、着信コールで保持される最終数字の桁数を表します。この設定値は、着信コールの処理に使用されます。H.323 デバイスに着信するコールのルーティングに使用される数字の桁数を指定します。</p> <p>収集する有効数字の桁数を選択します (0 ~ 32)。Cisco CallManager は、コールされた番号の右側 (最後の桁) から有効数字をカウントします。</p>
Calling Search Space	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースでは、収集された (発信) 番号をルーティングする方法を決定するために検索されるルートパーティションの集合を指定します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで設定された数よりもコーリング サーチ スペースの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リスト ボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Calling Search Space ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにコーリング サーチ スペース名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるコーリング サーチ スペースのリストで、希望するコーリング サーチ スペース名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、System > Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。</p>

■ ゲートウェイの設定値

表 61-7 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
AAR Calling Search Space	Automated Alternate Routing (AAR; 自動代替ルーティング) の実行時にデバイスが使用するコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号をルーティングする方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。
Prefix DN	着信コールの着信側番号に追加されるプレフィックス番号を入力します。 Cisco CallManager は、まず、Significant Digits 設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。
Redirecting Number IE Delivery: Inbound	Cisco CallManager に対する受信 SETUP メッセージの Redirecting Number IE を受理するには、このチェックボックスをオンにします。 Cisco CallManager に対する受信 SETUP メッセージの Redirecting Number IE を除外するには、チェックボックスをオフにします。 ボイスメッセージ統合のみで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。 デフォルトでは、H.323 ゲートウェイ用のチェックボックスはオンになっています。

表 61-7 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
Enable Inbound FastStart	<p>着信コールで H.323 FastStart コール接続を可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルトでは、H.323 ゲートウェイ用のチェックボックスはオフになっています。</p> <p>クラスタ間コールの場合、他のクラスタの Cisco CallManager サーバで Enable Inbound FastStart チェックボックスをオンにして、外部 FastStart を機能させる必要があります。</p> <p> (注) 他のクラスタの Cisco CallManager 3.3(2) サーバをサポート バッチ B で更新した場合、3.3(2)spB が内部 FastStart 機能をクラスタ間トランクでサポートしないため、内部 FastStart を使用可能にしないでください。</p>
発信コール	<p>ゲートウェイ上のすべての発信コールは、電話番号情報を送信できます。このフィールドは、送信される電話番号を決定します。</p> <p>次のオプションのいずれかを選択して、どの電話番号が送信されるかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Originator : 発信側デバイスの電話番号を送信します。 • First Redirect Number : 転送デバイスの電話番号を送信します。 • Last Redirect Number : 最後にコールを転送するデバイスの電話番号を送信します。 • First Redirecting Party (External) : 外部電話マスクが適用されている、最初の転送デバイスの電話番号を送信します。 • Last Redirecting Party (External) : 外部電話マスクが適用されている、最後の転送デバイスの電話番号を送信します。

■ ゲートウェイの設定値

表 61-7 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
Calling Party Presentation	<p>Cisco CallManager が発信側の回線 ID を送信するか、またはブロックするかを選択します。</p> <p>Cisco CallManager が発信側の回線 ID を送信するようにする場合は、Allowed を選択します。</p> <p>Cisco CallManager が発信側の回線 ID を送信しないようにする場合は、Restricted を選択します。</p>
Called party IE number type unknown	<p>着信側電話番号内の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager は、着信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定は、着信側電話番号が国別タイプ以外の番号計画タイプに符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CallManager : Cisco CallManager が、電話番号のタイプを設定します。 • International : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • National : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • Unknown : ダイヤリングプランが不明の場合に指定します。

表 61-7 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
Calling party IE number type unknown	<p>発信側電話番号内の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager は、発信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定値は、発信側電話番号が国別タイプ以外の番号計画タイプに符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CallManager : Cisco CallManager が、電話番号のタイプを設定します。 • International : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • National : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • Unknown : ダイヤリングプランが不明の場合に指定します。

表 61-7 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
Called Numbering Plan	<p>着信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager は、着信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定は、着信側番号計画が国別タイプ以外の番号計画に符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CallManager: Cisco CallManager が、電話番号内の Numbering Plan を設定します。 • ISDN: 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • National Standard: 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • Private: プライベートネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。 • Unknown: ダイヤリングプランが不明の場合に指定します。

表 61-7 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
Calling Numbering Plan	<p>発信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager は、発信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定は、発信側番号計画が国別タイプ以外の番号計画に符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CallManager: Cisco CallManager が、電話番号内の Numbering Plan を設定します。 • ISDN: 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • National Standard: 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • Private: プライベートネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。 • Unknown: ダイヤリングプランが不明の場合に指定します。
Caller ID DN	<p>発信側の回線 ID に使用するパターン (0 ~ 24 桁) を入力します。</p> <p>たとえば、北米では次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 555XXXX = 可変の発信側の回線 ID。ここで、X は内線番号に相当します。この番号が指定されていない場合、CO は、エリアコードと共にこの番号を追加します。 • 5555000 = 固定の発信側の回線 ID。コールの発信元の正確な内線番号の代わりに、Corporate 番号を送信する場合に使用してください。この番号が指定されていない場合、CO は、エリアコードと共にこの番号を追加します。

■ ゲートウェイの設定値

表 61-7 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)



フィールド	説明
Display IE Delivery	<p>発信側と着信側のネーム デリバリ サービスに対する SETUP、CONNECT、および NOTIFY メッセージ内で、表示 IE のデリバリを可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっています。</p>
Redirecting Number IE Delivery: Outbound	<p>Call Forward が発生したときに、コールの最初の転送番号および転送理由を示すために、Cisco CallManager からの Redirecting Number IE を送信 SETUP メッセージに含めるには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>送信 SETUP メッセージから最初の転送番号と転送理由を除外するには、チェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合のみで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルトでは、H.323 ゲートウェイ用のチェックボックスはオンになっています。</p>
Enable Outbound FastStart	<p>発信コールで H.323 FastStart 機能を使用可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルトでは、H.323 ゲートウェイまたはトランク用のチェックボックスはオフになっています。</p> <p> (注) Enable Outbound FastStart チェックボックスがオンの場合、Media Termination Point Required、Media Resource Group List、および Codec for Outbound FastStart を設定する必要があります。</p>

表 61-7 H.323 ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
Codec For Outbound FastStart	<p data-bbox="478 285 1235 350">発信 FastStart コール用に H.323 デバイスと共に使用するため、次のいずれかのコーデックを選択します。</p> <ul data-bbox="489 375 888 659" style="list-style-type: none"><li data-bbox="489 375 888 407">• G711 mu-law 64K (デフォルト)<li data-bbox="489 415 888 448">• G711 a-law 64K<li data-bbox="489 456 888 488">• G723<li data-bbox="489 496 888 529">• G729<li data-bbox="489 537 888 570">• G729AnnexA<li data-bbox="489 578 888 610">• G729AnnexB<li data-bbox="489 618 888 651">• G729AnnexA-AnnexB <p data-bbox="478 675 1235 805"> (注) Enable Outbound FastStart チェックボックスがオンの場合、発信 FastStart コールをサポートしているコーデックを選択する必要があります。</p>

関連項目

- [Cisco IOS H.323 ゲートウェイの追加 \(P.61-19\)](#)
- [ゲートウェイとポートの更新 \(P.61-127\)](#)
- [ゲートウェイの設定値 \(P.61-25\)](#)

■ ゲートウェイの設定値


Analog Access ゲートウェイの設定値

表 61-8 では、Analog Access ゲートウェイ (Cisco AS-2、AS-4、AS-8 ゲートウェイ、および Cisco AT-2、AT-4、AT-8 ゲートウェイ) の設定値について説明します。

表 61-8 Analog Access ゲートウェイの設定値

フィールド	説明
MAC Address	<p>ゲートウェイの MAC アドレスを入力します。MAC アドレスは、ハードウェア デバイスを一意に識別します。</p> <p>12 桁の 16 進文字の値を入力する必要があります。</p>
Description	<p>デバイスの目的を明確にした説明を入力します。</p>
Device Pool	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なデバイス プールを選択します。</p> <p>デバイス プールは、デバイスの自動登録用の CallManager Group、Date/Time Group、Region、および Calling Search Space を含む、このデバイスのプロパティの集合を指定します。</p>
Call Classification	<p>このゲートウェイを使用している着信コールがネットワークをオフ (OffNet) またはオン (OnNet) と見なすかどうかを、このパラメータによって決定します。</p> <p>Call Classification フィールドが Use System Default に設定されている場合、Cisco CallManager clusterwide サービス パラメータの設定値 (Call Classification) により、ゲートウェイが OnNet または OffNet かどうかが決まります。</p> <p>このフィールドは、コールが OnNet または OffNet の場合、それぞれの警告トーンを提供します。</p>
Load Information	<p>ゲートウェイ用のカスタム ソフトウェアに適切なロード情報を入力します。</p> <p>このフィールドに入力された値は、このゲートウェイのデフォルト値を上書きします。</p>

表 61-8 Analog Access ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
Network Locale	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、そのゲートウェイに関連したロケールを選択します。そのネットワーク ロケールは、特定ロケーションのハードウェアをサポートする一連の詳細情報を識別します。ネットワーク ロケールには、特定の地域でデバイスが使用するトーンおよび断続周期の定義が含まれています。</p> <p> (注) 関連するデバイスによってサポートされているインストール済みのネットワーク ロケールのみを選択してください。このリストにはこの設定に使用できるネットワーク ロケールがすべて示されていますが、そのすべてがインストールされているわけではありません。ファームウェアでサポートされていないネットワーク ロケールと関連付けられると、デバイスは起動できません。</p>
Signaling Packet Capture Mode (for Cisco IOS MGCP gateways only)	このフィールドを設定するのは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケット キャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。
Packet Capture Duration (for Cisco IOS MGCP gateways only)	このフィールドを設定するのは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイに関する暗号化されたシグナリング情報のトラブルシューティングが必要な場合だけです。パケット キャプチャリングを設定すると、コール処理中断の原因となります。このフィールドの詳細については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。
Location	このデバイスに適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションに None を設定すると、そのロケーションの機能では、このデバイスが消費する帯域幅を把握しません。
AAR Group	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を None にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。

■ ゲートウェイの設定値

表 61-8 Analog Access ゲートウェイの設定値 (続き)


フィールド	説明
Calling Search Space	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースでは、収集された (発信) 番号のルート指定方法を決定するために検索される、パーティションの集合を指定します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで設定された数よりもコーリング サーチ スペースの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リスト ボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Calling Search Space ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにコーリング サーチ スペース名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるコーリング サーチ スペースのリストで、希望するコーリング サーチ スペース名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、System > Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。</p>
AAR Calling Search Space	Automated Alternate Routing (AAR; 自動代替ルーティング) の実行時にデバイスが使用するコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号をルーティングする方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。
Media Resource Group List	メディア リソース グループを優先順に並べたグループが表示されます。アプリケーションは、メディア リソース グループ リストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから、必要なメディア リソース、たとえば、Music On Hold サーバを選択します。

表 61-8 Analog Access ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
Network Hold Audio Source	ネットワークが保留動作を開始するときに、このオーディオソースが再生されます。
User Hold Audio Source	ユーザが保留操作を開始するときに、このオーディオソースが再生されます。
Port Selection Order	ポートが選択される順序を選択します。どちらのポート順序を使用すべきか分からない場合は、TOP_DOWN を選択してください。 <ul style="list-style-type: none"> • TOP_DOWN: ポート 1 からポート 8 まで降順にポートを選択します。 • BOTTOM_UP: ポート 8 からポート 1 まで昇順にポートを選択します。
MLPP Domain (たとえば、「0000FF」)	このデバイスに関連付けられた MLPP ドメインに対応する 0 ~ FFFFFFFF の 16 進数の値を入力します。このフィールドを空白のままにすると、このデバイスの MLPP ドメインは、このデバイスのデバイス プールに設定された値から継承されます。デバイス プールに MLPP ドメインの設定がない場合、このデバイスの MLPP ドメインは、MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータに設定された値から継承されます。
MLPP Indication	この設定は、このデバイス タイプで使用できません。
MLPP Preemption	この設定は、このデバイス タイプで使用できません。
プロダクト固有の設定値	
Model-specific configuration (ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>Product-Specific Configuration の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、Product Specific Configuration 見出しの右側にある i アイコンをクリックします。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

■ ゲートウェイの設定値

関連項目

- [Analog Access ゲートウェイとポートの追加 \(P.61-20 \)](#)
- [Cisco VG248 Analog Phone Gateway の追加 \(P.61-22 \)](#)
- [ゲートウェイとポートの更新 \(P.61-127 \)](#)
- [ゲートウェイの設定値 \(P.61-25 \)](#)

Cisco VG248 Gateway の設定値

表 61-9 では、Cisco VG248 Gateway の設定値について説明します。

表 61-9 Cisco VG248 Gateway の設定値

フィールド	説明
MAC Address	<p>Cisco VG248 のメディア アクセス制御 (MAC) アドレスの最後の 10 桁を入力します。</p> <p>Cisco VG248 Analog Phone Gateway 用の MAC アドレスは 1 つしかありませんが、Cisco CallManager はすべてのデバイスについて固有の MAC アドレスを要求します。MAC アドレスの 10 桁だけを入力すると、Cisco CallManager はゲートウェイ用の MAC アドレスを使用し、それに追加情報を加えて VGC 電話機用の MAC アドレスを作成することができます。</p> <p>各デバイスの MAC アドレス変換では、MAC アドレスの末尾 (番号の右側) に 2 桁のポート番号が追加され、MAC アドレスの先頭に VGC が追加されます。</p> <p>EXAMPLE MAC Address for the Cisco VG248 is 0039A44218 the MAC address for registered port 12 in Cisco CallManager is VGC0039A4421812</p>
Description	Cisco CallManager は、MAC アドレスの直前に VGCGW を追加することにより、この情報を自動的に提供します。
Load Information	設定中の Cisco VG248 のファームウェアバージョンを入力するか、ブランクのままにしてデフォルトを使用します。

表 61-9 Cisco VG248 Gateway の設定値 (続き)

フィールド	説明
Installed Ports	
48 PORTS	エンドポイント ID のリストから、VGC_Phone ポートを設定するためのポートを 1 つ選択します。
プロダクト固有の設定	
プロダクト固有の設定情報については、ヘルプ用の i ボタンを押してください。VG248 Gateway の詳細については、『Cisco VG248 Analog Phone Gateway ソフトウェア コンフィギュレーション ガイド』を参照してください。	

関連項目

- [Analog Access ゲートウェイとポートの追加 \(P.61-20\)](#)
- [ゲートウェイとポートの更新 \(P.61-127\)](#)
- [Cisco VG248 Analog Phone Gateway ソフトウェア コンフィギュレーション ガイド](#)

Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値

表 61-10 では、Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値について説明します。

表 61-10 Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値

フィールド	説明
MAC Address (last 10 Characters)	<p>ゲートウェイのメディア アクセス制御 (MAC) アドレスの最後の 10 桁を入力します。<i>sccp local</i> IOS コマンドがゲートウェイで指定するインターフェイスの MAC アドレスを使用します。数字 (0 ~ 9) および A ~ F の大文字を指定できます。</p> <p>各デバイスの MAC アドレス変換では、MAC アドレスの末尾 (番号の右側) にスロット、サブユニット、およびポートの 3 桁のマッピングが追加されます。</p> <p>EXAMPLE MAC Address for the gateway is 0006D7E5C7 The MAC address in Cisco CallManager is 0006D7E5C7281 where 281 is the three-digit mapping of the slot/subunit/port. The values 2,8 and 1 can be hex digits and each do not necessarily correspond to slot, subunit and port values.</p> <p>電話機のデバイス タイプを示すため、MAC アドレスの前に次の 2 文字が挿入されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • BR : BRI 電話機 • AN : アナログ電話機 <p>また、ゲートウェイ名に対して SKIGW も挿入されます。</p>
Description	<p>Cisco CallManager は、MAC アドレスの直前に SKIGW を追加することにより、この情報を自動的に提供します。説明は上書きできます。</p>

表 61-10 Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
Cisco CallManager Group	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco CallManager 冗長グループを選択します。</p> <p>Cisco CallManager 冗長グループには、最高 3 台の Cisco CallManager を優先順に並べたリストが含まれています。リスト内の最初の Cisco CallManager が、プライマリ Cisco CallManager の役目をします。プライマリ Cisco CallManager が使用できないか、障害が起きた場合、ゲートウェイは、リスト内の次の Cisco CallManager に接続しようとします。</p>

Installed Voice Interface Cards

- (注) VIC の開始ポート番号を指定する必要なものがあります。たとえば、Subunit 0 の VIC に 0 から始まるポートが 2 つ (0 と 1) ある場合、Subunit 1 の VIC では 1 より大きい番号から始まるポートが 2 つ (2 と 3、または 4 と 5) する必要があります。



- (注) SCCP ゲートウェイのモデルごとに、正しいスロット数が表示されます。

表 61-10 Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
Module in Slot 0 Module in Slot 1 Module in Slot 2 Module in Slot 3 (以下、同様)	<p>選択した SCCP ゲートウェイで使用可能なスロットそれぞれに対して、取り付けられているモジュールのタイプを選択します。次のモジュールがサポートされます。</p> <p>ネットワーク モジュール (VIC スロットあり):</p> <ul style="list-style-type: none"> • NM-2V : FXS-SCCP 用の VIC を、Subunit 0 と Subunit 1 に 1 つずつ、合計 2 つ装備。 • NM-HD-2V : FXS-SCCP または BRI-NT/TE-SCCP 用の VIC スロットを、Subunit 0 と Subunit 1 に 1 つずつ、合計 2 つ装備。 • NM-HD-2VE : FXS-SCCP または BRI-NT/TE-SCCP 用の VIC スロットを、Subunit 0 と Subunit 1 に 1 つずつ、合計 2 つ装備。 <p>ネットワーク モジュール (VIC スロットなし):</p> <ul style="list-style-type: none"> • NM-HDA-4FXS : VIC なしで直接 4 つの FXS を装備。最大 2 つまでの拡張モジュール EM-HDA-8FXS で拡張することにより、FXS ポートを 16 個サポートできます。 • EM-HDA-8FXS : NM-HDA-4FXS の拡張モジュール。 <p>音声インターフェイス カード:</p> <ul style="list-style-type: none"> • VIC-2FXS • VIC-4FXS • VIC2-2FXS • VIC2-2BRI-NT/TE

表 61-10 Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値 (続き)

フィールド	説明
	<p>スロット レベルには、次の 4 つのオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NM-2V : 2 つのサブユニットのオプション (VIC-2FXS-SCCP) • NM-HD-2V : 2 つのサブユニットのオプション (VIC-4FXS-SCCP、VIC2-2FXS-SCCP、VIC2-2BRI-NT/TE-SCCP) • NM-HD-2VE : 2 つのサブユニットのオプション (VIC-4FXS-SCCP、VIC2-2FXS-SCCP、VIC2-2BRI-NT/TE-SCCP) • NM-HDA : 3 つのサブユニットのオプション (NM-HDA-4FXS-SCCP、EM-8FXS-EM0-SCCP、EM-8FXS-EM1-SCCP) <p>NM-HDA には、正式な VIC はありません。VIC2-2BRI-NT/TE は BRI SCCP 電話機専用の VIC です。Vg224 GW は他のすべてと異なります。</p> <p>次のオプションは、1 つのスロットだけをサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ANALOG : 1 つのサブユニットのオプション (24FXS-SCCP)。24 個の FXS ポートをサポート。 <p>オプション None は、ネットワーク モジュールが装備されていないことを意味します。</p>
プロダクト固有の設定	
Model-specific configuration (ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>Product-Specific Configuration の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、Product Specific Configuration 見出しの右側にある i アイコンをクリックします。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

関連項目

- [Cisco CallManager へのゲートウェイの追加 \(P.61-2 \)](#)
- [Cisco IOS SCCP ゲートウェイの追加 \(P.61-15 \)](#)
- [ゲートウェイとポートの更新 \(P.61-127 \)](#)

ポートの設定値

すべてのポート タイプ設定フィールドの詳細については、次の各トピックの表を参照してください。

- [POTS ポートの設定値 \(P.61-101 \)](#)
- [ループ スタート ポートの設定値 \(P.61-104 \)](#)
- [グラウンド スタート ポートの設定値 \(P.61-106 \)](#)
- [E & M ポートの設定値 \(P.61-108 \)](#)

ゲートウェイの設定値の詳細については、[P.61-25 の「ゲートウェイの設定値」](#)を参照してください。

POTS ポートの設定値

[表 61-11](#) では、POTS ポートの設定値について説明します。

表 61-11 POTS ポートの設定値

フィールド	説明
Port Type	Port Type ドロップダウン リスト ボックスから、 POTS を選択します。
Port Number End Port Number	<p>Port Number フィールドと End Port Number フィールドに値を設定して、追加および設定するポートが、使用可能なポート全部であるか、1 つのポートであるか、ある範囲のポートであるかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ポートの範囲を指定するには、Port Number と End Port Number に適切な値を選択します。 • 1 つのポートを作成するには、Port Number フィールドと End Port Number フィールドに同じ番号を選択します。 • 使用可能なすべてのポートを追加するには、Port Number フィールドと End Port Number フィールドの両方に All Ports を選択します。

■ ポートの設定値

表 61-11 POTS ポートの設定値 (続き)




フィールド	説明
Port Direction	<p>このポートをコールが通過する方向を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Inbound : 着信コールのみの場合に使用します。 • Outbound : 発信コールのみの場合に使用します。 • Bothways : 着信コールと発信コールに使用します(デフォルト)。
Audio Signal Adjustment into IP Network	<p>ポート アプリケーション タイプに関連した受信オーディオ信号に適用されるゲインまたはロスを指定します。</p> <p> (注) ゲインの設定が不適切だと、エコーが聞こえる場合があります。この設定を調整する場合は注意してください。</p>
Audio Signal Adjustment from IP Network	<p>ポート アプリケーション タイプに関連した送信オーディオ信号に適用されるゲインまたはロスを指定します。</p> <p> (注) ゲインの設定が不適切だと、エコーが聞こえる場合があります。この設定を調整する場合は注意してください。</p>
Prefix DN	<p>このトランクが着信コールで受け取る数字に追加される、プレフィックス番号を入力します。</p> <p>Cisco CallManager は、Num Digits 設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。</p>
Num Digits	<p>収集する有効数字の桁数 (0 ~ 32) を入力します。</p> <p>Cisco CallManager は、コールされた番号の右側 (最後の桁) から有効数字をカウントします。</p> <p>このフィールドは、着信コールの処理に使用されます。着信番号の最後の桁から数えた桁数を指定します。この桁数が、PRI スパンに着信するコールのルーティングに使用されます。Prefix DN を参照してください。</p>
Expected Digits	<p>トランクの着信側で必要な桁数を入力します。このフィールドはほとんど使用されないため、桁数が不明の場合は、デフォルト値 0 のままにしてください。</p>

表 61-11 POTS ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
Call Restart Timer (1000-5000 ms)	Call Restart Timer (1000 ~ 5000ms)。ms は、ミリ秒単位の時間を示します。
Offhook Validation Timer (100-1000ms)	Offhook Validation Timer (100 ~ 1000ms)。ms は、ミリ秒単位の時間を示します。
Onhook Validation Timer (100-1000ms)	Onhook Validation Timer (100 ~ 1000ms)。ms は、ミリ秒単位の時間を示します。
Hookflash Timer (100 - 1500 ms)	Hookflash Timer (100 ~ 1500ms)。ms は、ミリ秒単位の時間を示します。
SMDI Port Number (0-4096)	<p>ボイス メッセージ システムに接続するアナログ アクセス ポートに、このフィールドを使用します。</p> <p>SMDI Port Number は、アナログ アクセス ポートが接続される先のボイス メッセージ システム上にある、実際のポート番号と同じ番号を設定してください。</p> <p> (注) ボイス メッセージ システムが正しく動作するために、通常、ボイスメールの論理ポートは物理ポートと一致している必要があります。</p>

プロダクト固有の設定値

Model-specific configuration (ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>Product-Specific Configuration の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、Product Specific Configuration 見出しの右側にある i アイコンをクリックします。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>
---	--

■ ポートの設定値

関連項目

- [MGCP ゲートウェイへの T1-CAS ポートの追加 \(P.61-12 \)](#)
- [Analog Access ゲートウェイとポートの追加 \(P.61-20 \)](#)
- [ゲートウェイの設定値 \(P.61-25 \)](#)
- [Cisco CallManager へのゲートウェイの追加 \(P.61-2 \)](#)

ループ スタート ポートの設定値

表 61-12 では、ループ スタート ポートの設定値について説明します。

表 61-12 ループ スタート ポートの設定値

フィールド	説明
Port Type	Port Type ドロップダウン リスト ボックスから、 Loop Start を選択します。
Beginning Port Number Ending Port Number	<p>Port Number フィールドと End Port Number フィールドに値を設定して、追加および設定するポートが、使用可能なポート全部であるか、1 つのポートであるか、ある範囲のポートであるかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ポートの範囲を指定するには、Port Number と End Port Number に適切な値を選択します。 • 1 つのポートを作成するには、Port Number フィールドと End Port Number フィールドに同じ番号を選択します。 • 使用可能なすべてのポートを追加するには、Port Number フィールドと End Port Number フィールドの両方に All Ports を選択します。
Port Direction	<p>このポートをコールが通過する方向を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Inbound：着信コールのみの場合に使用します。 • Outbound：発信コールのみの場合に使用します。 • Both Ways：着信コールと発信コールに使用します。
Attendant DN	着信コールを転送する先の電話番号を入力します(たとえば、ゼロ、または代表電話番号)。

表 61-12 ループ スタート ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
プロダクト固有の設定値	
Model-specific configuration(ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>Product-Specific Configuration の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、Product Specific Configuration 見出しの右側にある i アイコンをクリックします。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

関連項目

- [MGCP ゲートウェイへの T1-CAS ポートの追加 \(P.61-12 \)](#)
- [ゲートウェイの設定値 \(P.61-25 \)](#)
- [Cisco CallManager へのゲートウェイの追加 \(P.61-2 \)](#)

グラウンド スタート ポートの設定値

表 61-13 では、グラウンド スタート ポートの設定値について説明します。

表 61-13 グラウンド スタート ポートの設定値

フィールド	説明
Port Type	Port Type ドロップダウン リスト ボックスから、 Ground Start を選択します。
Port Number End Port Number	<p>Port Number フィールドと End Port Number フィールドに値を設定して、追加および設定するポートが、使用可能なポート全部であるか、1 つのポートであるか、ある範囲のポートであるかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ポートの範囲を指定するには、Port Number と End Port Number に適切な値を選択します。 • 1 つのポートを作成するには、Port Number フィールドと End Port Number フィールドに同じ番号を選択します。 • 使用可能なすべてのポートを追加するには、Port Number フィールドと End Port Number フィールドの両方に All Ports を選択します。
Port Direction	<p>このポートをコールが通過する方向を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Inbound：着信コールのみの場合に使用します。 • Outbound：発信コールのみの場合に使用します。 • Both Ways：着信コールと発信コールに使用します。
Attendant DN	着信コールを転送する先の番号を入力します（たとえば、ゼロ、または代表電話番号）。

表 61-13 グラウンド スタート ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
プロダクト固有の設定値	
Model-specific configuration(ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>Product-Specific Configuration の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、Product Specific Configuration 見出しの右側にある i アイコンをクリックします。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

関連項目

- [MGCP ゲートウェイへの T1-CAS ポートの追加 \(P.61-12\)](#)
- [ゲートウェイの設定値 \(P.61-25\)](#)
- [Cisco CallManager へのゲートウェイの追加 \(P.61-2\)](#)

■ ポートの設定値

E & M ポートの設定値

E & M (Ear and Mouth) ポートは、PBX トランク回線 (専用回線) の接続を可能にします。E & M は、2 線式、4 線式、および 6 線式の電話機とトランクのインターフェイス用のシグナリング技術です。

表 61-14 では、E & M ポートの設定値について説明します。

表 61-14 E & M ポートの設定値

フィールド	説明
Port Type	Port Type ドロップダウン リスト ボックスから、EANDM を選択します。
Port Number End Port Number	<p>Port Number フィールドと End Port Number フィールドに値を設定して、追加および設定するポートが、使用可能なポート全部であるか、1 つのポートであるか、ある範囲のポートであるかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ポートの範囲を指定するには、Port Number と End Port Number に適切な値を選択します。 • 1 つのポートを作成するには、Port Number フィールドと End Port Number フィールドに同じ番号を選択します。 • 使用可能なすべてのポートを追加するには、Port Number フィールドと End Port Number フィールドの両方に All Ports を選択します。
Port Direction	<p>このポートをコールが通過する方向を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Inbound : 着信コールのみの場合に使用します。 • Outbound : 発信コールのみの場合に使用します。 • Both Ways : 着信コールと発信コールに使用します。
Digit Sending	<p>アウトダイヤル用に、次の Digit Sending タイプのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • DTMF : Dual-Tone Multifrequency (2 重トーン多重周波数)。通常のプッシュホン式ダイヤリング。 • MF : Multifrequency (多重周波数) • PULSE : パルス (ロータリー) ダイヤリング。

表 61-14 E & M ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
Prefix DN	<p>着信コールの着信側番号に追加されるプレフィックス番号を入力します。</p> <p>Cisco CallManager は、まず、Num Digits 設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。</p>
Num Digits	<p>収集する有効数字の桁数を選択します (0 ~ 32)。Cisco CallManager は、コールされた番号の右側 (最後の桁) から有効数字をカウントします。</p> <p>このフィールドは、Sig Digits チェックボックスがオンである場合に使用します。このフィールドは、着信コールの処理に使用されます。着信番号の最後の桁から数えた桁数を指定します。この桁数が、PRI スパンに着信するコールのルーティングに使用されます。Prefix DN および Sig Digits を参照してください。</p>
Expected Digits	<p>トランクの着信側に必要な桁数を入力します。このフィールドはほとんど使用されないため、桁数が不明の場合は、デフォルト値 0 のままにしてください。</p>

プロダクト固有の設定値

Model-specific configuration (ゲートウェイ メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<p>Product-Specific Configuration の下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。</p> <p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、Product Specific Configuration 見出しの右側にある i アイコンをクリックします。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のゲートウェイの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>
---	--

関連項目

- [MGCP ゲートウェイへの T1-CAS ポートの追加 \(P.61-12\)](#)
- [ゲートウェイの設定値 \(P.61-25\)](#)
- [Cisco CallManager へのゲートウェイの追加 \(P.61-2\)](#)

特定のゲートウェイの検索

ネットワーク内には無数のゲートウェイが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の条件を指定して、特定のゲートウェイを見つけることができます。固有のゲートウェイを特定するには、次のトピックを参照してください。

- [デバイス名による検索 \(P.61-110\)](#)
- [説明による検索 \(P.61-112\)](#)
- [電話番号およびルート パターンによる検索 \(P.61-114\)](#)
- [コーリング サーチ スペースによる検索 \(P.61-116\)](#)
- [デバイス プールによる検索 \(P.61-118\)](#)
- [ルート グループによる検索 \(P.61-120\)](#)
- [デバイス タイプによる検索 \(P.61-122\)](#)



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、ゲートウェイの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ゲートウェイの検索設定は保持されます。

デバイス名による検索

特定のゲートウェイのデバイス名が分かっている場合、または Cisco CallManager に登録されているゲートウェイすべてのリストを表示する場合の手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 Device > Gateway の順に選択します。

Find and List Gateways ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ドロップダウン リストボックスから **Device Name** を選択し、その後、次のいずれかの条件を選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is not empty (非空白)
- is empty (空白)

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。ページごとに表示する項目数を指定することも、エンドポイントを表示または非表示するかどうかを指定することもできます。

ステップ 4 **Find** をクリックします。

検出されたゲートウェイのリストが、次の項目別に表示されます。

- Device icon (デバイス アイコン)
- Device Name
- Description (説明)(該当する場合)
- Device pool (デバイス プール)(該当する場合)
- Status (状況)
- IP Address



(注) ゲートウェイの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Gateways ウィンドウから複数のゲートウェイを削除できます。また、**Reset Selected** をクリックすると、複数のゲートウェイをリセットできます。Matching records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにすると、ウィンドウ内のゲートウェイをすべて選択できます。

関連項目

- [説明による検索 \(P.61-112 \)](#)
- [電話番号およびルート パターンによる検索 \(P.61-114 \)](#)
- [コーリング サーチ スペースによる検索 \(P.61-116 \)](#)
- [デバイス プールによる検索 \(P.61-118 \)](#)
- [ルート グループによる検索 \(P.61-120 \)](#)
- [デバイス タイプによる検索 \(P.61-122 \)](#)

説明による検索

Cisco CallManager に登録されている特定のゲートウェイの Description フィールドで使用されているキーワードが分かっている場合の手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 Device > Gateway の順に選択します。

Find and List Gateways ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ドロップダウン リストボックスから **Description** を選択し、その後、次のいずれかの条件を選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is not empty (非空白)
- is empty (空白)

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。ページごとに表示する項目数を指定することも、エンドポイントを表示または非表示するかどうかを指定することもできます。

ステップ 4 Find をクリックします。

検出されたゲートウェイのリストが、次の項目別に表示されます。

- Device icon (デバイス アイコン)
- Description (説明)(該当する場合)
- Device Name
- Device Pool
- Status (状況)
- IP Address



(注) ゲートウェイの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Gateways ウィンドウから複数のゲートウェイを削除できます。また、**Reset Selected** をクリックすると、複数のゲートウェイをリセットできます。Matching records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにすると、ウィンドウ内のゲートウェイをすべて選択できます。

関連項目

- [デバイス名による検索 \(P.61-110 \)](#)
- [電話番号およびルート パターンによる検索 \(P.61-114 \)](#)
- [コーリング サーチ スペースによる検索 \(P.61-116 \)](#)
- [デバイス プールによる検索 \(P.61-118 \)](#)
- [ルート グループによる検索 \(P.61-120 \)](#)
- [デバイス タイプによる検索 \(P.61-122 \)](#)

電話番号およびルート パターンによる検索

Cisco CallManager に登録され、特定の内線番号または内線番号の範囲に割り当てられるゲートウェイを見つける手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 Device > Gateway の順に選択します。

Find and List Gateways ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ドロップダウン リスト ボックスから DN/Route Pattern を選択し、次のいずれかの条件を選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is not empty (非空白)
- is empty (空白)

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。ページごとに表示する項目数を指定することも、エンドポイントを表示または非表示するかどうかを指定することもできます。

ステップ 4 Find をクリックします。

検出されたゲートウェイのリストが、次の項目別に表示されます。

- Extension (内線番号)
- Partition
- Device icon (デバイス アイコン)
- Device Name
- Description (説明)(該当する場合)
- Status (状況)

- IP Address



(注) ゲートウェイの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Gateways ウィンドウから複数のゲートウェイを削除できます。また、**Reset Selected** をクリックすると、複数のゲートウェイをリセットできます。Matching records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにすると、ウィンドウ内のゲートウェイをすべて選択できます。

関連項目

- [デバイス名による検索 \(P.61-110\)](#)
- [説明による検索 \(P.61-112\)](#)
- [コーリング サーチ スペースによる検索 \(P.61-116\)](#)
- [デバイス プールによる検索 \(P.61-118\)](#)
- [ルート グループによる検索 \(P.61-120\)](#)
- [デバイス タイプによる検索 \(P.61-122\)](#)

コーリング サーチ スペースによる検索

コーリング サーチ スペースに割り当てられ、Cisco CallManager に登録されているゲートウェイを見つける手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 Device > Gateway の順に選択します。

Find and List Gateways ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ドロップダウン リスト ボックスから **Calling Search Space** を選択し、その後、次のいずれかの条件を選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is not empty (非空白)
- is empty (空白)

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。ページごとに表示する項目数を指定することも、エンドポイントを表示または非表示するかどうかを指定することもできます。



ヒント Find ボタンの下にあるドロップダウン リスト ボックスから既存のコーリング サーチ スペースを選択して、検索できます。この操作によって、選択したコーリング サーチ スペースの名前が自動的に Find フィールドに追加されます。

ステップ 4 Find をクリックします。

検出されたゲートウェイのリストが、次の項目別に表示されます。

- Calling Search Space
- Device icon (デバイス アイコン)
- Device Name
- Description (説明)(該当する場合)
- Status (状況)
- IP Address



(注) ゲートウェイの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Gateways ウィンドウから複数のゲートウェイを削除できます。また、**Reset Selected** をクリックすると、複数のゲートウェイをリセットできます。Matching records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにすると、ウィンドウ内のゲートウェイをすべて選択できます。

関連項目

- [デバイス名による検索 \(P.61-110 \)](#)
- [説明による検索 \(P.61-112 \)](#)
- [電話番号およびルート パターンによる検索 \(P.61-114 \)](#)
- [デバイス プールによる検索 \(P.61-118 \)](#)
- [ルート グループによる検索 \(P.61-120 \)](#)
- [デバイス タイプによる検索 \(P.61-122 \)](#)

デバイス プールによる検索

特定のデバイス プールに割り当てられ、Cisco CallManager に登録されているゲートウェイを見つける手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 Device > Gateway の順に選択します。

Find and List Gateways ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ドロップダウン リスト ボックスから Device Pool を選択し、その後、次のいずれかの条件を選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is not empty (非空白)
- is empty (空白)

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。ページごとに表示する項目数を指定することも、エンドポイントを表示または非表示するかどうかを指定することもできます。



ヒント

Find ボタンの下にあるドロップダウン リスト ボックスから既存のデバイス プールを選択して、検索できます。この操作によって、選択したデバイス プールの名前が自動的に Find フィールドに追加されます。

ステップ 4 Find をクリックします。

検出されたゲートウェイのリストが、次の項目別に表示されます。

- Device Pool
- Device icon (デバイス アイコン)
- Device Name
- Description (説明)(該当する場合)
- Status (状況)
- IP Address



(注) ゲートウェイの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Gateways ウィンドウから複数のゲートウェイを削除できます。また、**Reset Selected** をクリックすると、複数のゲートウェイをリセットできます。Matching records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにすると、ウィンドウ内のゲートウェイをすべて選択できます。

関連項目

- [デバイス名による検索 \(P.61-110 \)](#)
- [説明による検索 \(P.61-112 \)](#)
- [電話番号およびルート パターンによる検索 \(P.61-114 \)](#)
- [コーリング サーチ スペースによる検索 \(P.61-116 \)](#)
- [ルート グループによる検索 \(P.61-120 \)](#)
- [デバイス タイプによる検索 \(P.61-122 \)](#)

ルート グループによる検索

特定のルート グループに割り当てられ、Cisco CallManager に登録されているゲートウェイを見つける手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 Device > Gateway の順に選択します。

Find and List Gateways ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ドロップダウン リスト ボックスから **Route Group** を選択し、その後、次のいずれかの条件を選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is not empty (非空白)
- is empty (空白)

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。ページごとに表示する項目数を指定することも、エンドポイントを表示または非表示するかどうかを指定することもできます。



ヒント

Find ボタンの下にあるドロップダウン リスト ボックスから、既存のルート グループを選択して、検索できます。この操作によって、選択したルート グループの名前が自動的に Find フィールドに追加されます。

ステップ 4 Find をクリックします。

検出されたゲートウェイのリストが、次の項目別に表示されます。

- Route Group (Priority) (ルート グループ (優先順位))
- Device icon (デバイス アイコン)
- Device name (port) (デバイス名 (ポート))
- Description (説明) (該当する場合)
- Status (状況)
- IP Address



(注) 該当するゲートウェイの横にあるチェックボックスをオンにすると、Find and List Gateways ウィンドウから複数のゲートウェイを削除またはリセットできます。ゲートウェイを削除する場合は **Delete Selected** を、ゲートウェイをリセットする場合は **Reset Selected** をクリックします。Matching records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにすると、ウィンドウ内のゲートウェイをすべて選択できます。

関連項目

- [デバイス名による検索 \(P.61-110 \)](#)
- [説明による検索 \(P.61-112 \)](#)
- [電話番号およびルート パターンによる検索 \(P.61-114 \)](#)
- [コーリング サーチ スペースによる検索 \(P.61-116 \)](#)
- [デバイス プールによる検索 \(P.61-118 \)](#)
- [デバイス タイプによる検索 \(P.61-122 \)](#)

デバイス タイプによる検索

特定のゲートウェイのデバイス タイプが分かっている場合、または特別なデバイス タイプのゲートウェイをすべて表示する場合の手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 Device > Gateway の順に選択します。

Find and List Gateways ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ドロップダウン リスト ボックスから **Device Type** を選択し、次のいずれかの条件を選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is not empty (非空白)
- is empty (空白)

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。ページごとに表示する項目数を指定することも、エンドポイントを表示または非表示するかどうかを指定することもできます。



ヒント

Find ボタンの下にあるドロップダウン リスト ボックスから既存のデバイス タイプを選択して、検索できます。この操作によって、選択したデバイス タイプの名前が自動的に Find フィールドに追加されます。

ステップ 4 Find をクリックします。

検出されたゲートウェイのリストが、次の項目別に表示されます。

- Device Type (デバイス タイプ)
- Device icon (デバイス アイコン)
- Device Name
- Description (説明)(該当する場合)
- Status (状況)
- IP Address



(注) ゲートウェイの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Gateways ウィンドウから複数のゲートウェイを削除できます。また、**Reset Selected** をクリックすると、複数のゲートウェイをリセットできます。Matching records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにすると、ウィンドウ内のゲートウェイをすべて選択できます。

関連項目

- [デバイス名による検索 \(P.61-110 \)](#)
- [説明による検索 \(P.61-112 \)](#)
- [電話番号およびルート パターンによる検索 \(P.61-114 \)](#)
- [コーリング サーチ スペースによる検索 \(P.61-116 \)](#)
- [デバイス プールによる検索 \(P.61-118 \)](#)
- [ルート グループによる検索 \(P.61-120 \)](#)

ゲートウェイとポートの変更

Cisco CallManager を使用して、ゲートウェイ タイプに関係なく、同様に次のタスクを実行します。

- [Dependency Records の使用方法 \(P.61-124 \)](#)
- [ゲートウェイの削除 \(P.61-124 \)](#)
- [ゲートウェイのリセットと再起動 \(P.61-126 \)](#)
- [ゲートウェイとポートの更新 \(P.61-127 \)](#)

Dependency Records の使用方法

ゲートウェイとポートは、パーティション、デバイス プール、電話番号など、さまざまな設定情報を使用します。ゲートウェイやポートを更新または削除する場合は、Dependency Records リンクを使用すると、事前にゲートウェイやポートに関する設定情報を検索できます。このリンクの詳細については、[付録 A 「Dependency Records」](#)を参照してください。

ゲートウェイの削除

Cisco CallManager からゲートウェイを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

ルート グループが使用しているゲートウェイを削除しようとする、Cisco CallManager はメッセージを表示します。ゲートウェイを使用しているルート グループを検索するには、Gateway Configuration ウィンドウの **Dependency Records** リンクをクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されません。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。現在使用されているゲートウェイを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するゲートウェイを使用しているルート グループすべてに、別のゲートウェイを割り当てる。[P.21-6 の「ルート グループへのデバイスの追加」](#)を参照してください。

- 削除するゲートウェイを使用しているルート グループを削除する。
[P.21-10 の「ルートグループの削除」](#)を参照してください。

手順

ステップ 1 Device > Gateway の順に選択します。

Find and List Gateways ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 特定のゲートウェイを見つけるために、検索条件を入力します。

ステップ 3 Find をクリックします。

検索条件と一致し、検出されたゲートウェイのリストが表示されます。

ステップ 4 削除するゲートウェイの横にあるチェックボックスをオンにします。

ステップ 5 Delete Selected をクリックします。

この操作を実行すると取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。

ステップ 6 ゲートウェイを削除するには、OK をクリックします。削除操作を取り消すには、Cancel をクリックします。



ヒント

Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして Delete Selected をクリックすると、ウィンドウ内のゲートウェイをすべて削除できます。

関連項目

- [Cisco CallManager へのゲートウェイの追加 \(P.61-2\)](#)
- [特定のゲートウェイの検索 \(P.61-110\)](#)

ゲートウェイのリセットと再起動

Cisco CallManager を使用してゲートウェイをリセットまたは再起動する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 **Device > Gateway** の順に選択します。

Find and List Gateways ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 特定のゲートウェイを見つけるために、検索条件を入力します。

ステップ 3 **Find** をクリックします。

検索条件と一致し、検出されたゲートウェイのリストが表示されます。

ステップ 4 リセットするゲートウェイの横にあるチェックボックスをオンにします。

ステップ 5 **Reset Gateway** をクリックします。

Reset Gateway(s) ウィンドウが表示されます。

ステップ 6 次のいずれかの項目をクリックします。

- **Restart** : デバイスをシャットダウンしないで再起動する。
- **Reset** : デバイスをシャットダウンしてから起動する。
- **Close** : 何の処理も実行せずに前のウィンドウに戻る。



(注) H323 ゲートウェイの再起動やリセットは、ゲートウェイをハードウェア的に再起動またはリセットするのではなく、Cisco CallManager によってロードされた設定を初期化するだけです。H323 以外のタイプのゲートウェイをリセットすると、Cisco CallManager が、そのゲートウェイを使用しているコールを自動的に終了します。H323 以外のタイプのゲートウェイを再起動すると、Cisco CallManager が、そのゲートウェイを使用しているコールを保持しようとします。

関連項目

- [特定のゲートウェイの検索 \(P.61-110\)](#)
- [ゲートウェイとポートの更新 \(P.61-127\)](#)

ゲートウェイとポートの更新

Cisco CallManager からゲートウェイの更新、またはゲートウェイ ポートの再設定を行う手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 Device > Gateway の順に選択します。

Find and List Gateways ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 特定のゲートウェイを見つけるために、検索条件を入力します。

ステップ 3 Find をクリックします。

検出されたデバイスが表示されます。

■ ゲートウェイとポートの変更

ステップ 4 更新するゲートウェイの **Device Name** をクリックします。

Gateway Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 適切なゲートウェイまたはポートの設定値を更新します(次のトピックを参照)。

ゲートウェイ ポートにアクセスするには、そのゲートウェイ ポートのアイコンをクリックするか、選択されたゲートウェイの設定ウィンドウの左側にある MGCP エンドポイントのリンクをクリックします。

- [MGCP ゲートウェイの設定値 \(P.61-26\)](#)
- [FXS/FXO ゲートウェイの設定値 \(P.61-30\)](#)
- [E1/T1 PRI ゲートウェイの設定値 \(P.61-36\)](#)
- [T1-CAS ゲートウェイの設定値 \(P.61-70\)](#)
- [Analog Access ゲートウェイの設定値 \(P.61-90\)](#)
- [ポートの設定値 \(P.61-101\)](#)

ステップ 6 **Update** をクリックします。

ステップ 7 ゲートウェイをリセットして、変更内容を適用します。

関連項目

- [Cisco CallManager へのゲートウェイの追加 \(P.61-2\)](#)
- [特定のゲートウェイの検索 \(P.61-110\)](#)
- [ゲートウェイのリセットと再起動 \(P.61-126\)](#)
- [ゲートウェイの削除 \(P.61-124\)](#)



Cisco IP Phone の設定

Cisco IP Phone は、多くの機能を備えた電話機であり、IP ネットワークに直接接続できます。Cisco CallManager Administration の Phone Configuration ウィンドウを使用して、次の Cisco IP Phone およびデバイスを設定することができます。

- Cisco IP Phone 7900 ファミリー
- Cisco IP Phone モデル 30 VIP
- Cisco IP Phone モデル 12 SP+
- H.323 クライアント
- Computer Telephony Integration (CTI) ポート
- Cisco IP Communicator
- Cisco ATA 186 および Cisco ATA 188 電話アダプタ
- Cisco VG248 ポート (アナログ電話機)



(注) 管理者は、Cisco VG248 ゲートウェイの設定を Cisco CallManager Administration の Gateway Configuration ウィンドウから実行します。このウィンドウから、ゲートウェイ アナログ電話ポートを設定します (この設定では、Phone Configuration ウィンドウが表示されます)。VG248 ポートを更新する場合は、Phone Configuration ウィンドウを使用します。次の手順は、この電話機タイプの更新または削除に適用されます。Cisco VG248 Gateway の設定情報については、[P.61-1 の「ゲートウェイの設定」](#)を参照してください。

Cisco CallManager Administration に Cisco IP Phone を追加すると、RIS Data Collector サービスからの情報が Phone Configuration ウィンドウに表示されます。デバイスの IP アドレス、およびデバイスが登録されている Cisco CallManager の名前が利用可能であれば、表示されます。

次のトピックでは、Cisco CallManager Administration における Cisco IP Phone に関する作業と設定について説明しています。

- [Cisco IP Phone の設定 \(P.62-3 \)](#)
- [ゲートウェイの設定 \(P.61-1 \)](#)
- [電話機の検索 \(P.62-50 \)](#)
- [電話番号の設定 \(P.62-52 \)](#)
- [電話ボタン テンプレートの設定 \(P.64-1 \)](#)
- [電話機の設定値 \(P.62-15 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話機設定チェックリスト」

Cisco IP Phone の設定

Cisco CallManager データベースに電話機を追加する方法には、自動登録を使用した自動的な追加、Phone Configuration ウィンドウを使用した手作業による追加、または Cisco Bulk Administration Tool (BAT) を使用したグループ単位の追加があります。

自動登録を使用可能にすると、IP テレフォニー ネットワークに Cisco IP Phone を接続するときに、その IP Phone を Cisco CallManager データベースに自動的に追加できます。自動登録時に、Cisco CallManager は、次に使用可能な電話番号を順に電話機に割り当てます。しかし、自動登録を使用したくない場合もあります。たとえば、特定の電話番号を電話機に割り当てたい場合です。



(注)

自動登録は、小規模の設定や試験運用に限定して使用することをお勧めします。クラスタ全体のセキュリティ モードをセキュア モードに設定すると、Cisco CallManager が自動登録を使用不可にします。

自動登録を使用しない場合は、手作業で Cisco CallManager データベースに電話機を追加するか、BAT を使用する必要があります。BAT というプラグイン アプリケーションを使用すると、システム管理者は、多数の Cisco IP Phone に対して追加、変更、および削除の操作を一括して実行することができます。BAT の使用法の詳細については、『*Cisco CallManager Bulk Administration Tool ユーザ ガイド*』を参照してください。

Cisco IP Phone を Cisco CallManager Administration に追加すると、RIS Data Collector サービスによって、デバイス名、登録状況、およびその電話機が登録された Cisco CallManager の IP アドレスが Phone Configuration ウィンドウに表示されます。

H.323 クライアント、CTI ポート、および他のデバイスと共に、電話機を Cisco CallManager Administration で設定する方法については、次のトピックを参照してください。

- [Cisco IP Phone の設定 \(P.62-1\)](#)
- [ゲートウェイの設定 \(P.61-1\)](#)
- [電話機の MAC アドレスの表示 \(P.62-4\)](#)

- 電話機の追加 (P.62-5)
- 電話機の削除 (P.62-13)
- 電話機のリセット (P.62-10)
- 電話機の更新 (P.62-12)
- 既存の電話機のコピー (P.62-8)
- 電話機の設定値 (P.62-15)
- 短縮ダイヤル ボタンの設定 (P.62-38)
- 短縮ダイヤルの設定値 (P.62-39)
- サービス URL ボタンの設定 (P.62-47)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco IP Phone」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話機設定チェックリスト」

電話機の MAC アドレスの表示

Media Access Control (MAC; メディア アクセス制御) アドレスは、Cisco IP Phone またはその他のハードウェア デバイスを識別する固有の 12 桁の 16 進数から構成されています。電話機の底に貼ってあるラベルに、この番号が記載されています (たとえば、Cisco IP Phone 7900 ファミリー モデルの場合は 000B6A409C405、Cisco IP Phone モデル SP 12+ および 30 VIP の場合は SS-00-0B-64-09-C4-05)。Cisco CallManager では、MAC アドレスは、Cisco IP Phone デバイス設定の必須フィールドです。Cisco CallManager フィールドに MAC アドレスを入力するときは、スペースとダッシュを使用しないでください。また、ラベル上の MAC アドレスの前にある「SS」は入力しないでください。

Cisco IP Phone の MAC アドレスやその他の設定値を表示する方法の詳細については、該当の電話機モデルの『Cisco IP Phone アドミニストレーション ガイド for Cisco CallManager』を参照してください。Cisco IP Phone モデル 12 Series、および Cisco IP Phone モデル 30 Series または Cisco VG248 Gateway の MAC アドレスを表示するには、次の作業を実行します。

- Cisco IP Phone モデル 12 SP+ および 30 VIP : ** を押して、LCD ディスプレイの 2 行目に MAC アドレスを表示する。
- Cisco VG248 電話ポート : MAC アドレスは、Cisco CallManager Administration の Gateway Configuration ウィンドウからエンドポイントを指定する。設定の詳細については、P.61-1 の「ゲートウェイの設定」を参照してください。

- Cisco IP Communicator : Cisco IP Communicator アプリケーションをインストールするクライアント PC のネットワーク インターフェイスから MAC アドレスを取得する。

関連項目

- [Cisco IP Phone の設定 \(P.62-1 \)](#)
- [ゲートウェイの設定 \(P.61-1 \)](#)
- [電話機の追加 \(P.62-5 \)](#)
- [電話機の更新 \(P.62-12 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco IP Phone」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話機設定チェックリスト」
- [Cisco IP Communicator アドミニストレーション ガイド](#)

電話機の追加

Cisco IP Phone を使用する前に、次の手順に従って、その電話機を Cisco CallManager に追加する必要があります。また、この手順に従って、H.323 クライアント、CTI ポート、Cisco ATA 186 および Cisco ATA 188 電話アダプタ、または Cisco IP Communicator を設定することもできます。H.323 クライアントの代わりに、Microsoft NetMeeting クライアントも使用できます。CTI ポートは、Cisco CallManager アプリケーション、たとえば、Cisco SoftPhone や Cisco AutoAttendant が使用する仮想デバイスを示します。



(注)

Cisco VG248 電話ポートは、Cisco CallManager Administration の Gateway Configuration ウィンドウから追加されます。設定の詳細については、[P.61-1 の「ゲートウェイの設定」](#)を参照してください。



ワンポイント・アドバイス

電話ボタンおよびソフトキーの非標準テンプレートを使用する場合は、そのテンプレートを設定した後に電話機を追加する必要があります。設定の詳細については、[P.64-5 の「電話ボタン テンプレートの追加」](#)および [P.65-5 の「非標準ソフトキー テンプレートの追加」](#)を参照してください。

手順

ステップ 1 Device > Add a Device の順に選択します。

Add a New Device ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 Device Type ドロップダウン リスト ボックスから **Phone** を選択し、Next をクリックします。

Add a New Phone ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 Phone type ドロップダウン リストから、適切な電話機タイプまたはデバイスを選択し、Next をクリックします。電話機タイプの選択後にそのタイプを変更することはできません。

Phone Configuration ウィンドウが表示されます。



(注) Add a New Phone ウィンドウの Phone type ドロップダウン リスト ボックスでは、IP Phone の名前に Gigabit IP Phone の「G」が含まれていません (たとえば、Cisco 7970G)。ただし、モデル名に G を含む IP Phone はサポートされています。

ステップ 4 適切な設定値を入力します (表 62-1 を参照)。

選択された電話機タイプに該当する設定値だけが、ウィンドウに表示されます。

ステップ 5 Owner User ID が必要な場合は、そのフィールドにユーザ ID を入力します。詳細については、P.62-37 の「ユーザ ID の検索」を参照してください。

ステップ 6 Insert をクリックします。

電話機がデータベースに追加されたことを知らせるメッセージが表示されます。

ステップ 7 この電話機に電話番号を追加するには、**OK** をクリックし、Directory Number Configuration ウィンドウに適切な設定値を入力します (P.62-60 の「[電話番号の設定値](#)」を参照)。Phone Configuration ウィンドウに戻るには、**Cancel** をクリックします。

Cisco CallManager Administration に Cisco IP Phone を追加すると、RIS Data Collector サービスからの情報が Phone Configuration ウィンドウに表示されます。使用可能な場合、デバイスの IP アドレス、およびデバイスが登録されている Cisco CallManager の名前が、[図 62-1](#) に示すように表示されます。

図 62-1 Phone Configuration ウィンドウ



ステップ 8 電話機が自動的に追加されます。Reset Phone ボタンの詳細については、[P.62-10](#) の「[電話機のリセット](#)」を参照してください。

次の手順

この電話機に短縮ダイヤル ボタンを設定するには、[P.62-38](#) の「[短縮ダイヤル ボタンの設定](#)」を参照してください。この電話機のサービスを設定するには、[P.62-43](#) の「[Cisco IP Phone サービスの設定](#)」を参照してください。この電話機のサービス URL ボタンを設定するには、[P.44-19](#) の「[Cisco IP Phone サービスの電話ボタンへの追加](#)」を参照してください。

関連項目

- [Cisco IP Phone の設定 \(P.62-1 \)](#)
- [ゲートウェイの設定 \(P.61-1 \)](#)
- [電話機のリセット \(P.62-10 \)](#)
- [電話番号の追加 \(P.62-52 \)](#)
- [電話機の削除 \(P.62-13 \)](#)
- [電話機の更新 \(P.62-12 \)](#)
- [電話機の設定値 \(P.62-15 \)](#)
- [ユーザ ID の検索 \(P.62-37 \)](#)
- [短縮ダイヤル ボタンの設定 \(P.62-38 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco IP Phone」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話機設定チェックリスト」

既存の電話機のコピー

類似している電話機を Cisco CallManager データベースに手作業で追加する場合は、1 つの電話機を追加した後、その基本設定値をコピーして、他の電話機に適用できます。新しい電話機をデータベースに追加する場合は、事前に、少なくともメディア アクセス制御 (MAC) アドレスを変更しておく必要があります。

電話機の設定値をコピーする手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 Device > Phone の順に選択します。

Find and List Phones ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 特定の電話機を見つけるには、検索条件を入力し、Find をクリックします。

検索条件と一致する電話機のリストが表示されます。

ステップ 3 設定値のコピー元となる電話機の Copy アイコンをクリックします。

Phone Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 新しい電話機の MAC アドレスを入力します。



(注) MAC アドレスの入手の詳細については、[P.62-4](#) の「[電話機の MAC アドレスの表示](#)」を参照してください。

ステップ 5 該当する設定値を更新します ([表 62-1](#) を参照)。

ステップ 6 Insert をクリックします。

電話機がデータベースに追加されたことを知らせるメッセージが表示されます。

ステップ 7 この電話機に電話番号を追加するには、**OK** をクリックし、Directory Number Configuration ウィンドウに適切な設定値を入力します ([P.62-60](#) の「[電話番号の設定値](#)」を参照)。Phone Configuration ウィンドウに戻るには、**Cancel** をクリックします。

関連項目

- [Cisco IP Phone の設定 \(P.62-1 \)](#)
- [電話機の検索 \(P.62-50 \)](#)
- [電話機の追加 \(P.62-5 \)](#)
- [電話機のリセット \(P.62-10 \)](#)
- [電話機の更新 \(P.62-12 \)](#)
- [電話機の削除 \(P.62-13 \)](#)
- [電話機の設定値 \(P.62-15 \)](#)
- [短縮ダイヤル ボタンの設定 \(P.62-38 \)](#)
- [電話番号の追加 \(P.62-52 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco IP Phone」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話機設定チェックリスト」

電話機のリセット

電話番号の追加、または設定値の更新を行った後、変更内容を有効にするために、Cisco IP Phone をリセットする必要はありません。Cisco CallManager が自動的にリセットを実行します。ただし、次の手順に従えば、いつでも Cisco IP Phone をリセットできます。



(注) コールが進行中の場合は、そのコールが終了した後に電話機がリセットされます。

手順

ステップ 1 Device > Phone の順に選択します。

Find and List Phones ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 特定の電話機を見つけるには、検索条件を入力し、Find をクリックします。

検索条件と一致する電話機のリストが表示されます (図 62-2)。

図 62-2 Find and List Phones ウィンドウ

Matching record(s) 1 to 20 of 1703
Real-time Information Service returned information for 20 of 20 devices listed below.

<input type="checkbox"/>	Device Name	Description	Device Pool	Status	IP Address	Copy
<input type="checkbox"/>	SEP000196BFF752	Auto 1594	Default	Not Registered	10.35.5.151	
<input type="checkbox"/>	SEP000196BFF75C	Auto 2010	Default	Not Registered	10.35.5.164	
<input type="checkbox"/>	SEP000196BFF75D	Auto 2225	Default	Not Registered	10.35.7.109	
<input type="checkbox"/>	SEP000196BFF75E	Auto 1691	Default	Not Registered	10.35.6.158	
<input type="checkbox"/>	SEP000196BFF75F	Auto 1073	Default	Not Registered	10.35.6.84	
<input type="checkbox"/>	SEP000196BFF760	Auto 1789	Default	Not Registered	10.35.5.86	
<input type="checkbox"/>	SEP000196BFF761	Auto 2042	Default	Not Registered	10.35.4.215	

ステップ 3 リセットする電話機の横にあるチェックボックスをオンにします。ウィンドウ内の電話機をすべて選択するには、`matching records` タイトルバーにあるチェックボックスをオンにします。

ステップ 4 `Reset Selected` をクリックします。

`Reset Device` ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 次のいずれかのボタンをクリックします。

- **Restart** : 選択されたデバイスをシャットダウンせずに、再起動する (Cisco CallManager に電話機を再登録する)
- **Reset** : 選択されたデバイスをシャットダウンした後、再度立ち上げる (電話機の完全なシャットダウンと再初期化を実行する)
- **Close** : 選択されたデバイスの再起動やリセットを実行せずに、前のウィンドウに戻る。

関連項目

- [Cisco IP Phone の設定 \(P.62-1\)](#)
- [電話機の追加 \(P.62-5\)](#)
- [電話機の更新 \(P.62-12\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco IP Phone」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話機設定チェックリスト」

電話機の更新

Cisco CallManager Administration を使用して Cisco IP Phone を更新する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 **Device > Phone** の順に選択します。

Find and List Phones ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 特定の電話機を見つけるには、検索条件を入力し、**Find** をクリックします。

検索条件と一致する電話機のリストが表示されます。

ステップ 3 リストから、更新する電話機の名前をクリックします。

Phone Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 該当する設定値を更新します (表 62-1 を参照)。

ステップ 5 **Update** をクリックします。

電話機に接続中のコールがなければ、更新内容は電話機に自動的に追加されます。接続中のコールがある場合は、そのコールが接続解除されたときに初めてリセットが実行されます。詳細については、P.62-10 の「電話機のリセット」を参照してください。

関連項目

- [Cisco IP Phone の設定 \(P.62-1 \)](#)
- [ゲートウェイの設定 \(P.61-1 \)](#)
- [電話機の追加 \(P.62-5 \)](#)
- [電話機のリセット \(P.62-10 \)](#)
- [電話機の設定値 \(P.62-15 \)](#)
- [短縮ダイヤル ボタンの設定 \(P.62-38 \)](#)
- [短縮ダイヤルの設定値 \(P.62-39 \)](#)
- [電話機の検索 \(P.62-50 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco IP Phone」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話機設定チェックリスト」

電話機の削除

Cisco CallManager Administration を使用して Cisco IP Phone を削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

電話機を削除する前に、その電話機に関連付けられた電話番号を削除する必要があるかどうかを決定します。電話機を削除する前に電話番号を削除するには、[P.62-56 の「電話機からの電話番号の削除」](#)を参照してください。電話機を削除する前に電話番号を削除しない場合は、電話機が削除された後も、電話番号は Cisco CallManager データベースに保持されます。データベースから電話番号を削除するには、[P.29-5 の「割り当てられていない電話番号の削除」](#)を参照してください。

電話機に割り当てられている電話番号は、Phone Configuration ウィンドウの Directory Numbers 領域で確認できます。Phone Configuration ウィンドウから **Dependency Records** リンクをクリックすることもできます。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。

手順

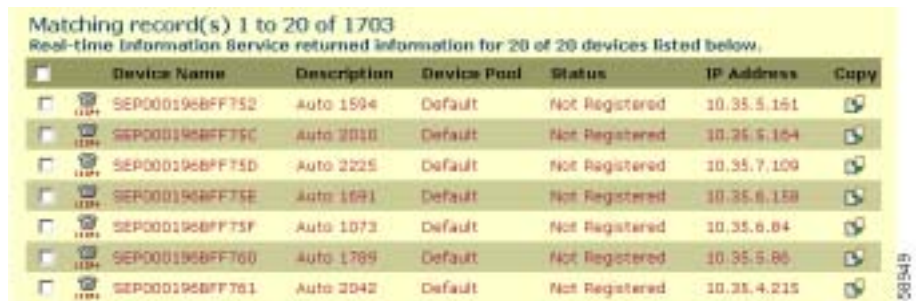
ステップ 1 Device > Phone の順に選択します。

Find and List Phones ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 特定の電話機を見つけるには、検索条件を入力し、Find をクリックします。

検索条件と一致する電話機のリストが表示されます (図 62-3)。

図 62-3 Find and List Phones ウィンドウ



Device Name	Description	Device Pool	Status	IP Address	Copy
SEP000196BFF752	Auto 1594	Default	Not Registered	10.35.5.151	Copy
SEP000196BFF75C	Auto 2010	Default	Not Registered	10.35.5.154	Copy
SEP000196BFF75D	Auto 2225	Default	Not Registered	10.35.7.109	Copy
SEP000196BFF75E	Auto 1691	Default	Not Registered	10.35.6.159	Copy
SEP000196BFF75F	Auto 1073	Default	Not Registered	10.35.6.84	Copy
SEP000196BFF760	Auto 1769	Default	Not Registered	10.35.5.86	Copy
SEP000196BFF761	Auto 2042	Default	Not Registered	10.35.4.215	Copy

ステップ 3 次のアクションのいずれかを実行します。

- 削除する電話機の横にあるチェックボックスをオンにし、Delete Selected をクリックする。
- matching records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにし、Delete Selected をクリックして、ウィンドウ内の電話機をすべて削除する。
- 削除する電話機の名前をリストから選択して、現在の設定値を表示し、Delete をクリックする。

ステップ 4 OK をクリックして、確認します。

関連項目

- [Cisco IP Phone の設定 \(P.62-1 \)](#)
- [ゲートウェイの設定 \(P.61-1 \)](#)
- [電話機の検索 \(P.62-50 \)](#)
- [電話機の追加 \(P.62-5 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco IP Phone」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話機設定チェックリスト」

電話機の設定値

表 62-1 では、Phone Configuration ウィンドウ内で使用可能な設定値について説明します。



Product-Specific Configuration セクションには、電話機のメーカーによって指定されたモデル固有のフィールドが含まれています。Cisco CallManager は、これらのフィールドにデフォルト値を動的に取り込みます。

フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、Product Specific Configuration 見出しの右側にある「i」アイコンをクリックします。

詳細な情報が必要な場合は、設定する個々の電話機の資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。

表 62-1 電話機の設定値

フィールド	説明
デバイス情報	
MAC Address	<p>Cisco IP Phone (ハードウェア電話機のみ) を識別するメディア アクセス制御 (MAC) アドレスを入力します。この値が 12 桁の 16 進文字から構成されていることを確認してください。</p> <p>ご使用の電話機の MAC アドレスにアクセスする方法については、該当の電話機モデルの『Cisco IP Phone アドミニストレーション ガイド for Cisco CallManager』を参照してください。</p> <p>Cisco VG248 Analog Phone Gateway</p> <p>Cisco VG248 ゲートウェイの MAC アドレスは、Cisco CallManager Administration の Gateway Configuration ウィンドウからエンドポイントを指定します。設定の詳細については、P.61-1 の「ゲートウェイの設定」を参照してください。</p> <p>Cisco VG248 Analog Phone Gateway には、MAC アドレスが 1 つしかありません。48 個のすべてのポートが、同じ MAC アドレスを共有します。Cisco CallManager には、すべてのデバイスに固有の MAC アドレスが必要です。</p> <p>Cisco CallManager は、各デバイスの MAC アドレスを次のように変換します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • MAC アドレスの先頭 2 桁を除去します。 • MAC アドレスを左に 2 桁シフトします。 • MAC アドレスの末尾 (番号の右側) に 2 桁のポート番号を追加します。 <p>EXAMPLE</p> <pre>MAC Address for the Cisco VG248 is 000039A44218 the MAC address for registered port 12 in the Cisco CallManager is 0039A4421812</pre>

表 62-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
Device Name	ソフトウェアベースの電話機、H.323 クライアント、および CTI ポートを識別する名前を入力します。この値には、1 ~ 15 文字 (英数字、ドット、ダッシュ、または下線を含む) を指定できます。
Description	<p>デバイスの目的を指定します。このフィールドには、ユーザ名 (たとえば、John Smith) または電話機のロケーション (たとえば、Lobby) を入力できます。</p> <p>Cisco VG248 ゲートウェイでは、VGC<mac address> でこの記述が開始されます。</p>
Owner User ID	<p>この電話機に割り当てられる人のユーザ ID を入力します。ユーザ ID のリストから選択する場合は、Select User ID リンクをクリックします。ユーザ ID は、このデバイスから発信されるコールの Call Detail Record (CDR; 呼詳細レコード) に記録されます。</p> <p> (注) エクステンション モビリティを使用する場合、このフィールドは設定しないでください。エクステンション モビリティはデバイス オーナーをサポートしてないためです。</p>
Device Pool	<p>この電話機を割り当てるデバイス プールを選択します。デバイス プールには、電話機のデバイスおよびロケーションに関連する情報が含まれています。</p> <p>デバイス プールの設定値を確認するには、View Details リンクをクリックします。</p>
Common Profile	<p>この電話機を割り当てる共通プロファイルを選択します。共通プロファイルには、特定のユーザに関連付けられた属性 (サービスや機能) が含まれます。</p> <p>共通プロファイルの設定値を確認するには、View Details リンクをクリックします。</p>

表 62-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
Calling Search Space	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、ダイヤルされた番号のルート指定方法を決定するために検索されるパーティションの集合から構成されます。デバイスのコーリング サーチ スペースと電話番号のコーリング サーチ スペースは併用されます。電話番号の CSS はデバイスの CSS に優先します。詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「パーティションおよびコール検索スペース」を参照してください。</p> <p>電話機のコーリング サーチ スペースの設定情報については、P.62-84 の「Calling Search Space」を参照してください。</p>
AAR Calling Search Space	<p>Automated Alternate Routing (AAR; 自動代替ルーティング) の実行時にデバイスが使用するコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号をルーティングする方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。電話機のコーリング サーチ スペースの設定情報については、P.62-84 の「Calling Search Space」を参照してください。</p>
Media Resource Group List	<p>適切なメディア リソース グループ リストを選択します。メディア リソース グループ リストは、優先順位順に並べられたメディア リソース グループから構成されます。アプリケーションは、メディア リソース グループ リストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースの中から、必要なメディア リソース、たとえば、Music On Hold サーバを選択します。</p> <p><none> を選択すると、Cisco CallManager は、デバイス プールに定義されているメディア リソース グループを使用します。</p> <p>詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「メディア リソースの管理」を参照してください。</p>

表 62-1 電話機の設定値 (続き)



フィールド	説明
User Hold Audio Source	<p>ユーザが保留操作を開始するときに再生されるオーディオソースを指定するには、ドロップダウン矢印をクリックして、リストからオーディオソースを選択します。</p> <p>オーディオソースを選択しない場合、Cisco CallManager は、デバイスプールに定義されているオーディオソースを使用します。または、デバイスプールがオーディオソース ID を指定していない場合は、システムデフォルトを使用します。</p> <p> (注) オーディオソースの定義は、Music On Hold Audio Source Configuration ウィンドウで行います。このウィンドウにアクセスするには、Service > Music On Hold の順に選択してください。</p>
Network Hold Audio Source	<p>ネットワークで保留動作を開始するときに再生されるオーディオソースを指定するには、ドロップダウン矢印をクリックして、リストからオーディオソースを選択します。</p> <p>オーディオソースを選択しない場合、Cisco CallManager は、デバイスプールに定義されているオーディオソースを使用します。または、デバイスプールがオーディオソース ID を指定していない場合は、システムデフォルトを使用します。</p> <p> (注) オーディオソースの定義は、Music On Hold Audio Source Configuration ウィンドウで行います。このウィンドウにアクセスするには、Service > Music On Hold の順に選択してください。</p>
Location	<p>この Cisco IP Phone に適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションを「None」に設定すると、そのロケーションの機能では、この Cisco IP Phone が消費する帯域幅を把握しません。</p>

表 62-1 電話機の設定値 (続き)



フィールド	説明
AAR Group	<p>このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループが指定されていない場合、Cisco CallManager はデバイス プールまたは回線に関連付けられている AAR グループを使用します。</p>
User Locale	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、その電話機ユーザ インターフェイスに関連したロケールを選択します。そのユーザ ロケールは、言語とフォントを含んだ、ユーザをサポートする一連の詳細情報を識別します。</p> <p>Cisco CallManager は、ローカリゼーションをサポートする電話機モデルに対してのみ、このフィールドを使用可能にします。</p> <p> (注) ユーザ ロケールが指定されない場合、Cisco CallManager はデバイス プールに関連付けられているユーザ ロケールを使用します。</p> <p> (注) ユーザが英語以外の言語で情報を (電話機に) 表示する必要がある場合は、ユーザ ロケールを設定する前に、ロケール インストーラがインストールされていることを確認します。Cisco IP Telephony Locale Installer の資料を参照してください。</p>

表 62-1 電話機の設定値 (続き)




フィールド	説明
Network Locale	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、その電話に関連したロケールを選択します。ネットワーク ロケールには、特定の地域で電話機が使用するトーンおよび断続周期の定義が含まれています。</p> <p>Cisco CallManager は、ローカリゼーションをサポートする電話機モデルに対してのみ、このフィールドを使用可能にします。</p> <p> (注) ネットワーク ロケールが指定されない場合、Cisco CallManager はデバイス プールに関連付けられているネットワーク ロケールを使用します。</p> <p> (注) ユーザが国別のトーンを (電話機で) 再生する必要がある場合は、ネットワーク ロケールを設定する前に、ロケールがインストールされていることを確認します。Cisco IP Telephony Locale Installer の資料を参照してください。</p>
Device Security Mode	<p>このフィールドは、電話機モデルが認証または暗号化をサポートしている場合のみ表示されます。ドロップダウン リスト ボックスにある次のオプションの中から、デバイスに設定するモードを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Use System Default : エンタープライズ パラメータの Device Security Mode に指定した値が電話機で使用されます。 • Non-secure : 電話機のセキュリティ機能は動作しません。Cisco CallManager に対して TCP 接続が行われます。 • Authenticated : Cisco CallManager は、電話機に対して完全性および認証を提供します。NULL/SHA を使用した TLS 接続が行われます。 • Encrypted : Cisco CallManager は、電話機に対して完全性、認証、および暗号化を提供します。AES128/SHA を使用した TLS 接続が行われます。 <p> ヒント ドロップダウン リスト ボックスのオプションが表示されるのは、電話機モデルがデバイス セキュリティ モードをサポートしている場合だけです。電話機モデルが暗号化をサポートしていない場合、オプションは表示されません。</p>

表 62-1 電話機の設定値 (続き)


フィールド	説明
Signal Packet Capture Mode	<p>暗号化のトラブルシューティング専用の設定。パケット キャプチャリングは、高い CPU 使用率およびコール処理中断の原因となります。ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> Real-Time Mode : Cisco CallManager は、復号化または非暗号化されたメッセージを、セキュア チャネル経由で解析デバイスへ送信します。Cisco CallManager とデバッグ ツール (IREC) 間で TLS 接続が行われます。認証を行った後、Cisco CallManager は接続されたすべてのリアルタイム デバッグ ツールへと SCCP メッセージを送信します。この動作は、パケット キャプチャリングを設定した選択されたデバイスに限り行われます。 このモードにより、ネットワークでのスニффイングがなくなります。 Batch Processing Mode : Cisco CallManager が復号化または非暗号化されたメッセージをファイルに書き込み、システムが各ファイルを暗号化します。システムは毎日、新しい暗号化鍵を持つ新しいファイルを作成します。Cisco CallManager は、ファイルを 7 日間保存し、また安全な場所でファイルを暗号化する鍵も保存します。Cisco CallManager は C:\Program Files\Cisco\PktCap にファイルを保存します。単一のファイルにはタイム スタンプ、送信元 IP アドレス、宛先 IP アドレス、SCCP メッセージ長、および SCCP メッセージが含まれます。デバッグ ツールは、HTTPS、管理者のユーザ名とパスワード、および指定日を使用して、キャプチャされたパケットを含む単一の暗号化されたファイルを要求します。さらに鍵情報も要求し、暗号化された圧縮ファイルを復号化します。 <p> ヒント これらのオプションの詳細については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>
Packet Capture Duration	<p>暗号化のトラブルシューティング専用の設定。パケット キャプチャリングは、高い CPU 使用率およびコール処理中断の原因となります。</p> <p>このフィールドには、パケット キャプチャリングの 1 つのセッションに割り当てる最大分数を指定します。デフォルト値は 60 です。</p>

表 62-1 電話機の設定値 (続き)


フィールド	説明
Built In Bridge	<p>Built In Bridge ドロップダウン リスト ボックスを使用することにより、割り込み機能の組み込み Conference Bridge を使用可能または使用不可にします (<i>On</i>、<i>Off</i>、または <i>Default</i> を選択する)。</p> <p> (注) Cisco IP Phone モデル 7940 および 7960 では、2 つのメディア ストリーム暗号化または SRTP ストリームを同時にサポートすることはできません。この条件によって動作が不安定にならないよう、システムでは、デバイス セキュリティ モードが Encrypted に設定されたときは、モデル 7940 および 7960 の組み込みブリッジを自動的に使用不可にします。</p> <p>設定の詳細については、『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「割り込みとプライバシー」を参照してください。また、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』も参照してください。</p>
Privacy	<p>Privacy を必要とする各電話機について、Privacy ドロップダウン リスト ボックスで <i>On</i> を選択します。設定の詳細については、『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「割り込みとプライバシー」を参照してください。</p>

表 62-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
Device Mobility Mode	<p>このデバイスのデバイス モビリティ機能をオンまたはオフにします。</p> <p>次のデバイス モビリティ パラメータの現在の値を表示するには、View Current Settings をクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco CallManager Group • Roaming device pool • Location • Region • Network Locale • AAR Group • AAR Calling Search Space • Device Calling Search Space • Media Resource Group List • SRST <p>設定の詳細については、『<i>Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド</i>』の「Cisco CallManager デバイス モビリティ」を参照してください。</p>
Signaling Port	<p>このフィールドは H.323 デバイスのみに適用されます。このデバイスが使用する H.225 シグナリング ポートの値を指定します。</p> <p>デフォルト値は 1720 です。有効値の範囲は 1 ~ 65535 です。</p>

表 62-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
Retry Video Call as Audio	<p>このチェックボックスは、コールを受信するビデオ エンドポイントのみに適用されます。この電話機が、ビデオとして接続しないコールを受信すると、そのコールはオーディオ コールとして接続しようとしません。</p> <p>このチェックボックスはデフォルトでオンになっています。このデバイスは、ビデオ コールをコール制御に送信して再ルーティングする直前に、オーディオ コールとして (ビデオ コールとして接続できない場合) そのビデオ コールをリトライします。</p> <p>このチェックボックスをオフにすると、ビデオとして接続に失敗したビデオ コールは、オーディオ コールとしての確立を試行しません。この場合、コールはコール制御に失敗し、コール制御は Automatic Alternate Routing (AAR) およびルート / ハント リスト経由でコールをルーティングします。</p>
Ignore Presentation Indicators (internal calls only)	<p>コールごとにコール表示制限を設定するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、Cisco CallManager は内部コールが受信するすべての表示制限を無視します。</p> <p>この設定は、変換パターンレベルで発信側の回線 ID 表示と接続側の回線 ID 表示の設定を組み合わせで使用してください。同時に、これらの設定値では、コール表示制限を設定して、各コールに対して発信側の回線または接続側の回線の表示情報を選択的に表示、またはブロックできます。</p> <p>発信側の回線 ID 表示と接続側の回線 ID 表示のパラメータの詳細については、P.27-10 の「変換パターンの設定値」の表 27-1 を参照してください。</p> <p>コール表示制限の詳細については、『Cisco CallManager 機能およびサービスガイド』の「Call Display Restrictions 機能」の章を参照してください。</p>

Cisco IP Phone の設定

表 62-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
Wait for Far End H.245 Terminal Capability Set	このフィールドは H.323 デバイスのみに適用されます。 このチェックボックスでは、Cisco CallManager が遠端 H.245 Terminal Capability Set を受信した後に、その H.245 Terminal Capability Set を送信するように指定します。このチェックボックスはデフォルトでオンになっています。Cisco CallManager がケイバビリティ交換を実行するように指定するには、このチェックボックスをオフにします。
電話ボタン テンプレート情報	
Phone Button Template	適切な電話ボタン テンプレートを選択します。電話ボタン テンプレートは、電話機上のボタンの設定を決定し、各ボタンに使用される機能 (回線、短縮ダイヤルなど) を指定します。 Cisco CallManager は、H.323 クライアントと CTI ポートに対しては、このフィールドを使用不可にします。
ソフトキー テンプレート情報	
Softkey Template	適切なソフトキー テンプレートを選択します。ソフトキー テンプレートは、Cisco IP Phone におけるソフトキーの設定を決定します。割り当て済みのソフトキー テンプレートが共通プロファイルに含まれている場合、このフィールドはブランクのままにします。
拡張モジュール情報	
Module 1	適切な拡張モジュールを選択するか、または何も選択しません。
Module 2	適切な拡張モジュールを選択するか、または何も選択しません。
ファームウェア ロード情報 (ブランクのままにして、デフォルトを使用)	
Phone Load Name	Cisco IP Phone 用のカスタム ソフトウェアを入力します。 このフィールドに入力される値は、現在のモデルのデフォルト値を上書きします。詳細については、P.6-1 の「デバイス デフォルトの設定」を参照してください。 Cisco IP Phone ソフトウェアおよび設定の詳細については、該当の電話機モデルの『Cisco IP Phone アドミニストレーション ガイド for Cisco CallManager 4.1』を参照してください。

表 62-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
Module 1 Load Name	<p>適切な拡張モジュール用のカスタム ソフトウェアを入力します (該当する場合)。</p> <p>このフィールドに入力される値は、現在のモデルのデフォルト値を上書きします。ファームウェア ロードがモジュール ロードと一致していることを確認してください。</p>
Module 2 Load Name	<p>2 番目の拡張モジュール用のカスタム ソフトウェアを入力します (該当する場合)。</p> <p>このフィールドに入力される値は、現在のモデルのデフォルト値を上書きします。ファームウェア ロードがモジュール ロードと一致していることを確認してください。</p>
Cisco IP Phone : External Data Locations (ブランクのままにして、デフォルトを使用)	
Information	Information (i) ボタンのヘルプ テキストのロケーション (URL) を入力します。デフォルト値を受け入れるには、このフィールドをブランクのままにします。
Directory	電話機がディレクトリ情報を取得する際の取得元となるサーバを入力します。デフォルト値を受け入れるには、このフィールドをブランクのままにします。
Messages	このフィールドはブランクのままにします (Cisco CallManager では使用されません)。
Services	Cisco IP Phone サービスのロケーション (URL) を入力します。
Authentication Server	<p>電話機の Web サーバに対する要求を検証するために、この電話機が使用する URL を入力します。認証 URL を指定しない場合、認証を必要とする Cisco IP Phone 上の拡張機能は動作しません。</p> <p>デフォルトでは、この URL は、インストール時に設定された Cisco IP Phone User Options ウィンドウにアクセスします。</p> <p>デフォルト値を受け入れるには、このフィールドをブランクのままにします。</p>

表 62-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
Proxy Server	<p>電話機の HTTP クライアントから、ローカル以外のホスト アドレスにアクセスする HTTP 要求を代理処理するのに使用されるホストとポート (たとえば、proxy.cisco.com:80) を入力します。</p> <p>電話機が、サービスで URL (たとえば、www.cisco.com) を受信するときに、cisco.com ドメインで設定されていない場合、その電話機は、その URL へのアクセスにプロキシ サーバを使用します。電話機が cisco.com ドメインで設定されている場合、その URL と同じドメイン内にあるので、その電話機は、プロキシを使用せずにその URL にアクセスします。</p> <p>この URL を設定しない場合、電話機は URL に直接接続を試みます。</p> <p>デフォルト値を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p>
Idle	<p>Idle Timer フィールドで指定された時間の間、Cisco IP Phone が使用されなかった場合に、その電話機のディスプレイに表示される URL を入力します。たとえば、電話機が 5 分間使用されなかったときに、LCD 上にロゴを表示できます。</p> <p>デフォルト値を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p>
Idle Timer (seconds)	<p>Idle フィールドに指定された URL を表示するまでに経過する時間 (秒数) を入力します。</p> <p>Idle URL Timer エンタープライズ パラメータの値を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p>

表 62-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
エクステンション モビリティ (デバイス プロファイル) 情報	
Enable Extension Mobility Feature	この電話機でエクステンション モビリティをサポートする場合は、このチェックボックスをオンにします。
Log Out Profile	このフィールドは、Cisco CallManager エクステンション モビリティを使用してデバイスにログインしているユーザがない場合にデバイスが使用するデバイス プロファイルを指定します。ドロップダウン選択ボックスから、オプションを選択します。オプションには、Use Current Device Settings と Select a User Device Profile があります。Select a User Device Profile を選択すると、すでに設定されているユーザ デバイス プロファイルの選択を要求する設定ウィンドウが表示されます。
Log In User ID	このフィールドは、ユーザがログインするまでブランクのままです。ユーザが Cisco CallManager エクステンション モビリティを使用してデバイスにログインすると、ユーザ ID がこのフィールドに表示されます。
Log In Time	このフィールドは、ユーザがログインするまでブランクのままです。ユーザがエクステンション モビリティを使用してデバイスにログインすると、ユーザのログイン時刻がこのフィールドに表示されます。
Log Out Time	このフィールドは、ユーザがログインするまでブランクのままです。ユーザが Cisco CallManager エクステンション モビリティを使用してデバイスにログインすると、システムがユーザをログアウトする予定時刻がこのフィールドに表示されます。
Logout	このボタンは、ユーザが Cisco CallManager エクステンション モビリティを使用してデバイスにログインしている場合に表示されます。ユーザを手動でログアウトする場合は、このボタンをクリックします。

表 62-1 電話機の設定値 (続き)


フィールド	説明
Certificate Authority Proxy Function (CAPF) 情報	
Certificate Operation	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • No Pending Operation : 認証操作が行われなことを示します (デフォルト設定)。 • Install/Upgrade : 電話機にローカルで存在している有効な証明書を新規にインストールまたは更新します。 • Delete : 電話機にローカルで存在している有効な証明書を削除します。 • Troubleshoot : ローカルで有効な証明書 (LSC) または製造元でインストールされる証明書 (MIC) を元に戻して、CAPF トレース ファイルの認証証明書を表示できるようにします。いずれの証明書タイプも電話機に存在する場合、Cisco CallManager は各証明書タイプに 1 つずつ、合計 2 つのトレース ファイルを作成します。 <p>Troubleshooting オプションを選択すると、電話機に存在する LSC または MIC を確認できます。</p>
Authentication Mode	<p>このフィールドで、電話機を CAPF で認証する方法を選択できます。ローカルで有効な証明書をインストール、更新、削除、またはトラブルシューティングする場合、または製造元でインストールされる証明書で認証する場合は、このフィールドを使用します。ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • By Authentication String • By Null String • By Existing Certificate (LSC に優先) • By Existing Certificate (MIC に優先) <p> ヒント これらの設定の詳細および警告については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド Release 4.1』で説明しています。認証モードを設定する前に、マニュアルを参照してください。</p>

表 62-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
Authentication String	<p>Authentication Mode ドロップダウン リスト ボックスで By Authentication String オプションを選択した場合、このフィールドが適用されます。手動で文字列を入力、または Generate String ボタンをクリックすると文字列が生成されます。文字列が 4 ~ 10 桁であることを確認してください。</p> <p>ローカルで有効な証明書をインストール、更新、削除、またはトラブルシューティングするには、電話機のユーザまたは管理者が電話機に認証文字列を入力する必要があります。</p>
Generate String	CAPF で認証文字列を自動的に生成する場合は、このボタンをクリックします。4 ~ 10 桁の認証文字列が Authentication String フィールドに表示されます。
Key Size (bits)	ドロップダウン リスト ボックスから、証明書の鍵サイズを選択します。デフォルトの設定値は 1024 です。他のオプションには、512 および 2048 があります。
Operation Completes by**	<p>このフィールドは Certificate Operation の Install/Upgrade、Delete、および Troubleshoot オプションをサポートし、操作を完了させる日付および時刻を指定します。</p> <p>表示される値はパブリッシャ データベース サーバ用です。</p>
Certificate Operation Status	このフィールドは、認証操作の進行状況を表示します。たとえば、<operation type> pending、failed、または successful です。ここで、operation type は Certificate Operation の Install/Upgrade、Delete、または Troubleshoot オプションを表します。このフィールドの情報は変更できません。

表 62-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
H.323 情報	
Outgoing Caller ID Pattern	電話機への着信コールの発信者 ID に使用するパターンを 0 ~ 24 桁で入力します。
Calling Party Selection	<p>ゲートウェイ上の発信コールで送信される電話番号を選択します。</p> <p>次のオプションは、どの電話番号が送信されるかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Originator : 発信側デバイスの電話番号を送信します。 • First Redirect Number : 転送デバイスの電話番号を送信します。 • Last Redirect Number : 最後にコールを転送するデバイスの電話番号を送信します。 • First Redirect Number (External) : リダイレクト元のデバイスの外部電話番号を送信します。 • Last Redirect Number (External) : コールをリダイレクトする最後のデバイスの外部電話番号を送信します。
Calling Party Presentation	<p>Cisco CallManager が発信者 ID を送信するか、またはブロックするかを選択します。</p> <p>Cisco CallManager が発信者 ID を送信するようにする場合は、Allowed を選択します。</p> <p>Cisco CallManager が発信者 ID を送信しないようにする場合は、Restricted を選択します。</p>
Display IE Delivery	<p>発信側と着信側のネーム デリバリ サービスに対する SETUP および CONNECT メッセージ内で、表示 Information Element (IE; 情報要素) のデリバリを可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルト設定では、このチェックボックスはオンです。</p>

表 62-1 電話機の設定値 (続き)



フィールド	説明
Redirecting Number IE Delivery - Outbound	<p>Call Forward が発生したときに、コールの最初の転送番号および転送理由を示すために、Cisco CallManager からの Redirecting Number IE を送信 SETUP メッセージに含めるには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>送信 SETUP メッセージから最初の転送番号と転送理由を除外するには、チェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合のみで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) デフォルト設定では、このチェックボックスはオフです。</p>
Redirecting Number IE Delivery - Inbound	<p>Cisco CallManager に対する受信 SETUP メッセージの Redirecting Number IE を受理するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>Cisco CallManager に対する受信 SETUP メッセージの Redirecting Number IE を除外するには、チェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合のみで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) デフォルトでは、このチェックボックスはオフです。</p>

表 62-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
Media Termination Point Required	<p>H.323 がサポートしない機能 (たとえば、保留や転送) をインプリメントするために、メディア ターミネーション ポイントを使用するかどうかを指定します。</p> <p>機能をインプリメントするためにメディア ターミネーション ポイントを使用する場合は、Media Termination Point Required チェックボックスをオンにします。機能をインプリメントするためにメディア ターミネーション ポイントを使用しない場合は、Media Termination Point Required チェックボックスをオフにします。</p> <p>このチェックボックスは、H.323 クライアント、および H.245 Empty Capabilities Set をサポートしていない H.323 デバイスにのみ使用してください。または、メディア ストリーミングを 1 つのソースで終了させる場合に使用してください。</p> <p>メディア ターミネーション ポイントを使用するためにこのチェックボックスをオンにして、このデバイスがビデオ コールのエンドポイントになっている場合、そのコールは必ずオーディオになります。</p>
Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) 情報	
MLPP Domain	<p>このデバイスに関連付けられた MLPP ドメインに対応する 0 ~ FFFFFFFF の 16 進数の値を入力します。このフィールドを空白のままにすると、このデバイスの MLPP ドメインは、このデバイスのデバイス プールに設定された値から継承されます。デバイス プールに MLPP ドメインの設定がない場合、このデバイスの MLPP ドメインは、MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータに設定された値から継承されます。</p>

表 62-1 電話機の設定値（続き）



フィールド	説明
MLPP Indication	<p>優先トーンを再生できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその再生機能を使用するかどうかを指定します（使用可能な場合）。</p> <p>ドロップダウン リストボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Default：このデバイスは、その MLPP Indication 設定をこのデバイスのデバイス プールから継承します。 • Off：このデバイスは、MLPP 優先コールの表示の制御も処理もしません。 • On：このデバイスは、MLPP 優先コールの表示を制御し処理します。 <p> (注) MLPP Indication を <i>Off</i> または <i>Default</i> (デフォルトが <i>Off</i> の場合) に設定し、かつ MLPP Preemption を <i>Forceful</i> に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。</p> <p> (注) エンタープライズ パラメータ、デバイス プール、またはデバイス レベルで MLPP Indication をオンにすると、MLPP Indication をデバイスに対してオフ（上書き）にしない限り、デバイスで回線に対する通常の Ring Setting が動作しません。</p>

表 62-1 電話機の設定値 (続き)


フィールド	説明
MLPP Preemption	<p>進行中のコールを優先できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその優先機能を使用するかどうかを指定します (使用可能な場合)。</p> <p>ドロップダウン リストボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当ててる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Default : このデバイスは、その MLPP Preemption 設定をこのデバイスのデバイス プールから継承します。 • Disabled : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先しないようにします。 • Forceful : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先するようにします。 <p> (注) MLPP Indication を <i>Off</i> または <i>Default</i> (デフォルトが <i>Off</i> の場合) に設定し、かつ MLPP Preemption を <i>Forceful</i> に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。</p>
ゲートキーパー情報	
Gatekeeper Name	このフィールドには、H.323 クライアントを制御するゲートキーパーの名前を指定します。H.323 クライアントにより設定にゲートキーパーが指定される前に、ゲートキーパーが Cisco CallManager で設定されていることを確認してください。デフォルトは空白です。
E.164	常に固有の E.164 番号を使用します。ヌル値は使用しないでください。
Technology Prefix	このフィールドには、ゾーンでエンドポイントの機能を表す # 記号で終わる番号を指定します。Zone 経由の設定を使用できる場合、このフィールドには影響がありません。デフォルト値は 1#* です。ヌル値は使用しないでください。
Zone	このフィールドには、ゲートキーパーが管理するゾーンのゾーン名を指定します。H.323 クライアントおよびトランクに同じゾーン名を使用しないでください。また、ヌル値は使用しないでください。
Gatekeeper Controlled H.323 Client	H.323 クライアントのゲートキーパー制御を可能にするには、このチェックボックスをオンにします。

表 62-1 電話機の設定値 (続き)

フィールド	説明
プロダクト固有の設定 : 「i」 ボタンのヘルプによって提供される情報	
Model-specific configuration (デバイス メーカーによって 指定される、モデル固有の 設定フィールド)	<p>フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、Product Specific Configuration 見出しの右側にある i アイコンをクリックします。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のデバイスの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。</p>

ユーザ ID の検索

ユーザ ID を検索するには、Select Login User ID リンクを選択します。

手順

ステップ 1 設定ウィンドウから、**Select User ID** リンクをクリックします。

User ID Lookup ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 使用するユーザ ID の最初の数文字を **User IDs begin with** フィールドに入力し、**Find** をクリックします。

入力したパターンと一致するユーザ ID がすべて **User IDs found** フィールドに表示されます。

ステップ 3 目的のユーザ ID を選択し、**Select and Close** または **Select** ボタンをクリックします。



ヒント コール処理の速度に影響を与えないように、ユーザ ID を入力する際はできるだけ多くの文字を入力することをお勧めします。

設定ウィンドウが開いて、選択したユーザ ID が表示されます。

短縮ダイヤル ボタンの設定

ユーザに短縮ダイヤル ボタンを提供する場合、または短縮ダイヤル ボタンが特定のユーザに割り当てられていない電話機を設定する場合は、Cisco CallManager Administration を使用して、電話機に短縮ダイヤル ボタンを設定します。ユーザは、Cisco IP Phone User Options Menu を使用して、電話機の短縮ダイヤル ボタンを変更できます。

手順

-
- ステップ 1** Phone Configuration ウィンドウから、ウィンドウの上部にある **Add/Update Speed Dials** リンクをクリックします。



(注) Phone Configuration ウィンドウを表示するには、**Device > Phone** の順に選択してください。検索条件を入力し、**Find** をクリックします。短縮ダイヤル ボタンを設定する電話機を選択します。

- ステップ 2** 適切な設定値を入力します (表 62-2 を参照)。

- ステップ 3** 変更内容を適用するには、**Update** をクリックします。または、変更内容を適用した後にダイアログボックスを閉じるには、**Update and Close** をクリックします。
-

関連項目

- [Cisco IP Phone の設定 \(P.62-1 \)](#)
- [電話機のリセット \(P.62-10 \)](#)
- [電話番号の追加 \(P.62-52 \)](#)
- [電話番号の更新 \(P.62-55 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco IP Phone」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話機能」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話機設定チェックリスト」

短縮ダイヤルの設定値

表 62-2 では、短縮ダイヤル ボタンの設定値について説明します。Configure Speed-Dial Setting ダイアログボックスには、2 つのセクションがあります。電話機の短縮ダイヤルの設定、およびボタンに関連付けられていない短縮ダイヤルの設定に関するセクションです。表 62-2 の説明は両方のセクションに適用されます。

電話機の短縮ダイヤルの設定

電話機の物理的なボタンの設定を行います。

ボタンに関連付けられていない短縮ダイヤルの設定

固定短縮ダイヤルでアクセスするための短縮ダイヤル番号の設定を行います。合計 99 個の短縮ダイヤル ボタンがシステムにより提供されています。



(注)

一部の Cisco IP Phone は固定短縮ダイヤルをサポートしていません。該当の電話機のユーザ ガイドを参照してください。

表 62-2 短縮ダイヤルの設定値

フィールド	説明
Speed Dial	このフィールドで、電話機または Cisco IP Phone Expansion Module 7914 上の短縮ダイヤル ボタン（たとえば、1、2、3、4 など）を指定するか、または固定短縮ダイヤルに使用する短縮ダイヤル インデックスを指定します。
Number	ユーザが短縮ダイヤル ボタンを押したときにシステムによってダイヤルされる番号を入力します。
Label	短縮ダイヤル ボタンに対して表示されるテキストを入力します。 Cisco CallManager は、Cisco IP Phone 7910 に対してはこのフィールドを使用不可にします。Character Set で、Japanese (Hankaku-Katakana) を選択すると、半角カタカナを使用することができます。全角文字を入力すると、"?" 疑問符に変換され正しく表示されません。また半角カタカナの Label は、Japanese_Japan 以外のユーザ ロケールの電話機では正しく表示されませんので、ご注意ください。

Character Set

短縮ダイヤル ボタンに表示する言語の文字セット（アルファベットおよびその他の文字）を選択します。

関連項目

- [Cisco IP Phone の設定 \(P.62-1 \)](#)
- [電話番号の追加 \(P.62-52 \)](#)
- [電話番号の更新 \(P.62-55 \)](#)
- [短縮ダイヤル ボタンの設定 \(P.62-38 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco IP Phone」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話機能」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話機設定チェックリスト」

ディレクテッド コールパークの Busy Lamp Field 設定値の設定

ディレクテッド コールパーク番号のビジー / アイドル状況を監視し、この番号を短縮ダイヤルでコールする場合は、Cisco CallManager Administration を使用して、ディレクテッド コールパーク Busy Lamp Field (BLF) をサポートする電話機モデルのディレクテッド コールパーク BLF を設定します。

手順

- ステップ 1** Phone Configuration ウィンドウから、ウィンドウの上部にある **Add/Update Busy Lamp Field** リンクをクリックします。



- (注)** Phone Configuration ウィンドウを表示するには、**Device > Phone** の順に選択してください。検索条件を入力し、**Find** をクリックします。BLF を設定する電話機を選択します。

- ステップ 2** 適切な設定値を入力します（[表 62-3](#) を参照）。

- ステップ 3** 変更内容を適用するには、**Update** をクリックします。または、変更内容を適用した後にダイアログボックスを閉じるには、**Update and Close** をクリックします。

関連項目

- [Cisco IP Phone の設定 \(P.62-1 \)](#)
- [電話機のリセット \(P.62-10 \)](#)
- [電話番号の追加 \(P.62-52 \)](#)
- [電話番号の更新 \(P.62-55 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco IP Phone」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話機能」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話機設定チェックリスト」
- 『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「ディレクテッドコールパーク」

BLF の設定値

表 62-3 では、Busy Lamp Field の設定値について説明します。Configure Busy Lamp Field Settings ダイアログボックスには、電話機の Busy Lamp Field Settings、およびボタンに関連付けられていない Busy Lamp Field Settings の 2 つのセクションがあります。表 62-3 の説明は両方のセクションに適用されます。

電話機の Busy Lamp Field Settings

電話機の物理的なボタンの設定を行います。

ボタンに関連付けられていない Busy Lamp Field Settings

固定短縮ダイヤルでアクセスする BLF 番号の設定を行います。



(注)

一部の Cisco IP Phone は固定短縮ダイヤルをサポートしていません。該当の電話機のユーザ ガイドを参照してください。

表 62-3 BLF の設定値

フィールド	説明
Busy Lamp Field	このフィールドには、電話機または Cisco IP Phone Expansion Module 7914 上の BLF ボタン（たとえば、1、2、3、4 など）を指定するか、または固定短縮ダイヤルの BLF インデックスを指定します。
Directed Call Park Number: Partition	ユーザが BLF ボタンを押したときにシステムによってダイヤルされる番号 / パーティションを入力します。
Label	BLF ボタンに対して表示されるテキストを入力します。 Cisco CallManager は、Cisco IP Phone 7910 に対してはこのフィールドを使用不可にします。Character Set で、Japanese (Hankaku-Katakana) を選択すると、半角カタカナを使用することができます。全角文字を入力すると、"?" 疑問符に変換され正しく表示されません。また半角カタカナの Label は、Japanese_Japan 以外のユーザ ロケールの電話機では正しく表示されませんので、ご注意ください。

Character Set

短縮ダイヤル ボタンに表示する言語の文字セット（アルファベットおよびその他の文字）を選択します。

関連項目

- [Cisco IP Phone の設定 \(P.62-1\)](#)
- [電話番号の追加 \(P.62-52\)](#)
- [電話番号の更新 \(P.62-55\)](#)
- [短縮ダイヤル ボタンの設定 \(P.62-38\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco IP Phone」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話機能」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話機設定チェックリスト」
- 『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「ディレクテッドコールパーク」

Cisco IP Phone サービスの設定

ユーザは、Cisco IP Phone 7960、7960、および 7940 から情報サービス（たとえば、天気、株価など）またはその他の利用可能なサービスにアクセスできます。システム管理者は、Cisco CallManager Administration を使用して、電話機で使用可能なサービスをセットアップすることができます。ユーザは、Cisco IP Phone User Options Menu を使用して、サービスを変更できます。Cisco IP Phone User Options Menu については、ご使用の電話機モデルの『Cisco IP Phone ユーザガイド』を参照してください。Cisco CallManager Administration におけるサービス保持の詳細については、P.44-1 の「Cisco IP Phone サービスの設定」を参照してください。

サービスへの加入

電話機用の新規サービスに登録する手順は、次のとおりです。

始める前に

Cisco CallManager にサービスを追加してください。詳細については、P.44-6 の「Cisco IP Phone サービスの追加」を参照してください。

手順

ステップ 1 Device > Phone の順に選択します。

Find and List Phones ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 特定の電話機を見つけるには、検索条件を入力し、Find をクリックします。

検索条件と一致する電話機のリストが表示されます。

ステップ 3 サービスを追加する電話機を選択します。

Phone Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 ウィンドウの右上にある **Subscribe/Unsubscribe Services** リンクをクリックします。

ステップ 5 Select a Service ドロップダウン リスト ボックスから、電話機に追加するサービスを選択します。

ステップ 6 **Continue** をクリックします。

ウィンドウが開いて、選択したサービスが表示されます。別のサービスを選択する場合は、**Back** をクリックし、[ステップ 5](#) を繰り返します。

ステップ 7 必須パラメータを持つサービスの場合は、表示されているフィールドにその情報を入力します。

ステップ 8 **Subscribe** をクリックします。

サービスが **Subscribed Services** リストに表示されます。

関連項目

- [電話機のリセット \(P.62-10 \)](#)
- [サービスの更新 \(P.62-45 \)](#)
- [サービスの加入解除 \(P.62-46 \)](#)
- [Cisco IP Phone サービスの追加 \(P.44-6 \)](#)
- 『*Cisco CallManager システム ガイド*』の「[電話機設定チェックリスト](#)」

サービスの更新

サービスを更新する手順は、次のとおりです。必要に応じて、サービス名とサービスパラメータ値を更新できます。

手順

ステップ 1 Device > Phone の順に選択します。

Find and List Phones ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 特定の電話機を見つけるには、検索条件を入力し、Find をクリックします。

検索条件と一致する電話機のリストが表示されます。

ステップ 3 サービスを更新する電話機を選択します。

Phone Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 ウィンドウの右上にある **Subscribe/Unsubscribe Services** リンクをクリックします。

ステップ 5 Subscribed Services リストから、サービスを選択します。

ステップ 6 該当するパラメータを更新し、Update をクリックします。

関連項目

- [Cisco IP Phone の設定 \(P.62-1 \)](#)
- [電話機のリセット \(P.62-10 \)](#)
- [サービスの加入解除 \(P.62-46 \)](#)
- [Cisco IP Phone サービスの追加 \(P.44-6 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話機設定チェックリスト」

サービスの加入解除

サービスの登録を解除する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 Device > Phone の順に選択します。

Find and List Phones ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 電話機を特定するための検索条件を入力し、Find をクリックします。

検索条件と一致する電話機のリストが表示されます。

ステップ 3 サービスを削除する電話機を選択します。

Phone Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 ウィンドウの右上にある **Subscribe/Unsubscribe Services** リンクをクリックします。

ステップ 5 Subscribed Services リストから、サービスを選択します。

ステップ 6 Unsubscribe をクリックします。

サービスの加入を解除するかどうかを確認する、警告メッセージが表示されません。

ステップ 7 登録を解除するには、OK をクリックします。元の設定値に戻すには、Cancel をクリックします。

関連項目

- [Cisco IP Phone の設定 \(P.62-1\)](#)
- [電話機のリセット \(P.62-10\)](#)
- [サービスへの加入 \(P.62-43\)](#)
- [Cisco IP Phone サービスの追加 \(P.44-6\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話機設定チェックリスト」

サービス URL ボタンの設定

ユーザは、Cisco IP Phone 7960、7960、および 7940 から情報サービス（たとえば、天気、株価など）またはその他の利用可能なサービスにアクセスできます。Cisco CallManager Administration を使用して、電話ボタンで利用できるようにサービスを設定した後に、その電話機の該当のボタンを設定できます。ユーザは、Cisco IP Phone User Options Menu を使用して、サービスを変更できます。Cisco IP Phone User Options Menu については、ご使用の電話機モデルの『Cisco IP Phone ユーザガイド』を参照してください。Cisco CallManager Administration におけるサービス保持の詳細については、[P.44-1](#) の「Cisco IP Phone サービスの設定」を参照してください。

サービス URL ボタンの追加

電話機にサービス URL ボタンを設定する手順は、次のとおりです。

始める前に

始める前に、次の設定を行う必要があります。

- Cisco CallManager にサービスを追加してください。詳細については、[P.44-6](#) の「Cisco IP Phone サービスの追加」を参照してください。
- 電話ボタン テンプレートにサービス URL ボタンを設定してください。詳細については、[P.64-5](#) の「電話ボタン テンプレートの追加」を参照してください。
- サービスに加入してください。[P.62-43](#) の「Cisco IP Phone サービスの設定」を参照してください。

手順

ステップ 1 Device > Phone の順に選択します。

Find and List Phones ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 特定の電話機を見つけるには、検索条件を入力し、Find をクリックします。

検索条件と一致する電話機のリストが表示されます。

ステップ 3 サービス URL ボタンを追加する電話機を選択します。

Phone Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 ウィンドウの右上にある Add/Update Service URL Buttons リンクをクリックします。

ステップ 5 Service ドロップダウン リスト ボックスから、電話機に追加するサービスを選択します。

ステップ 6 電話ボタンにサービスを追加するには、Update をクリックします。
または、Update and Close をクリックして電話ボタンにサービスを追加し、Phone Configuration ウィンドウに戻ります。

関連項目

- [電話機のリセット \(P.62-10 \)](#)
- [サービスの更新 \(P.62-45 \)](#)
- [サービスの加入解除 \(P.62-46 \)](#)
- [Cisco IP Phone サービスの追加 \(P.44-6 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話機設定チェックリスト」

サービス URL ボタンの更新

サービス URL ボタンを更新する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 Device > Phone の順に選択します。

Find and List Phones ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 特定の電話機を見つけるには、検索条件を入力し、Find をクリックします。

検索条件と一致する電話機のリストが表示されます。

ステップ 3 サービス URL ボタンを更新する電話機を選択します。

Phone Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 ウィンドウの右上にある Add/Update Service URL Buttons リンクをクリックします。

ステップ 5 Service ドロップダウン リストから、サービスを選択します。

ステップ 6 電話ボタンのサービスを更新するには、Update をクリックします。
または、Update and Close をクリックして電話ボタンのサービスを更新し、Phone Configuration ウィンドウに戻ります。

関連項目

- [Cisco IP Phone の設定 \(P.62-1 \)](#)
- [電話機のリセット \(P.62-10 \)](#)
- [サービスの加入解除 \(P.62-46 \)](#)
- [Cisco IP Phone サービスの追加 \(P.44-6 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話機設定チェックリスト」

電話機の検索

ネットワーク内には多数の Cisco IP Phone があります。Cisco CallManager を使用すると、指定した条件に基づいて電話機を検索できます。Cisco CallManager データベース内で特定の Cisco IP Phone を検索する手順は、次のとおりです。



(注) Cisco VG248 Gateway は、電話機の検索では表示されません。Cisco CallManager Administration の Find and List Phones ウィンドウから Cisco VG248 Analog Phone ポートを検索できます。Cisco VG248 Gateway の設定情報については、[P.61-1 の「ゲートウェイの設定」](#)を参照してください。



ヒント

検索の制限方法については、『*Cisco CallManager システム ガイド*』の「電話機の検索」を参照してください。



(注) Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、電話機の検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、電話機の検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 Device > Phone の順に選択します。

Find and List Phones ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 電話機を特定するのに使用するフィールドを選択します。



(注) データベースに登録されている電話機をすべて検索するには、フィールドのリストから Device Name を選択し、パターンのリストから「is not empty」を選択します。次に、**Find** をクリックしてください。

ステップ 3 テキスト検索に該当する検索パターンを選択します。

ステップ 4 Find フィールドに検索テキスト（ある場合）を入力します。

ステップ 5 検索文字列にワイルドカード検索を選択するには、Allow wildcards チェックボックスをオンのままにします。ワイルドカード検索を行わない場合は、このチェックボックスをオフにします。ワイルドカード検索の詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話機の検索」を参照してください。



(注) Allow wildcards チェックボックスをオンにして、特殊文字が含まれる電話番号やパターンを検索すると、期待される結果が返されません。

ステップ 6 Find をクリックします。

条件と一致するデバイスのリストが表示されます。**ステップ 2** で選択したフィールドによって、リストのソート方法が決まります。

このウィンドウには、このウィンドウ内のデバイスの合計数も表示されます。

ステップ 7 検出されたデバイスの次のセットを表示するには、Next をクリックします。



(注) 該当する電話機の横にあるチェックボックスをオンにして、Delete Selected をクリックすると、Find and List Phones ウィンドウから複数の電話機を削除できます。また、Reset Selected をクリックすると、複数の電話機をリセットできます。matching records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにすると、ウィンドウ内の電話機をすべて選択できます。

関連項目

- [Cisco IP Phone の設定 \(P.62-3 \)](#)
- [ゲートウェイの設定 \(P.61-1 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco IP Phone」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話機設定チェックリスト」

電話番号の設定

Cisco CallManager Administration を使用して、特定の電話機に割り当てる電話番号の設定および変更を行います。ここでは、電話番号の追加、削除、および更新について説明します。

Directory Number Configuration ウィンドウを使用して、次の作業を実行します。

- 電話番号の追加または削除。
- コール転送、コール ピックアップ、コール ウェイティング、および Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) オプションの設定。
- 回線からコールが行われるときに、着信側電話機に表示されるテキストを指定する。
- 呼び出し音の設定。
- Cisco Unity ユーザのボイスメールボックスの設定。

関連項目

- [電話番号の追加 \(P.62-52\)](#)
- [電話機からの電話番号の削除 \(P.62-56\)](#)
- [電話番号の更新 \(P.62-55\)](#)
- [Cisco Unity ボイスメールボックスの作成 \(P.62-58\)](#)
- [電話番号の設定値 \(P.62-60\)](#)
- [割り当てられていない電話番号の削除 \(P.29-5\)](#)

電話番号の追加

特定の電話機に電話番号を追加する手順は、次のとおりです。電話番号を追加すると同時に、コール転送、コール ピックアップ、および MLPP の各電話機能を設定できます。

始める前に

電話番号を追加する場合は、事前に Cisco CallManager に Cisco IP Phone を追加する必要があります。詳細については、[P.62-5 の「電話機の追加」](#)を参照してください。

**ヒント**

電話番号にパターン（たとえば 352XX など）を割り当てることができます。電話番号にパターンを割り当てるときは、ユーザが混乱しないように、電話番号設定フィールド（Line Text Label、Display (Internal Caller ID)、および External Phone Number Mask）にテキストや数字を追加します。たとえば、Line Text Label と Internal Caller ID にはユーザの名前を追加し、External Number Mask には外部の回線番号を追加します。このようにすれば、発信情報に 352XX ではなく John Chan と表示されます。

手順

ステップ 1 Device > Phone の順に選択します。

Find and List Phones ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 電話機を特定するための検索条件を入力し、Find をクリックします。

検索条件と一致する電話機のリストが表示されます。

ステップ 3 電話番号を追加する先のデバイス名をクリックします。

Phone Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 Directory Numbers リストで、割り当てられていない回線（Line 1、Line 2 など）をクリックします。

Directory Number Configuration ウィンドウが表示されます。

**ヒント**

2 回線では足りない場合は、電話機タイプ（たとえば Cisco IP Phone モデル 7960 など）に対応する電話ボタン テンプレートを変更することによって、回線を増やすことができます。ただし、2 回線までしかサポートしていない電話機タイプ（Cisco IP Phone モデル 7902 など）もあります。

■ 電話番号の設定

ステップ 5 適切な設定値を入力します (表 62-4 を参照)。

ステップ 6 Add をクリックします。

電話番号がデータベースに追加され、デバイスに割り当てられたことを知らせるメッセージが表示されます。

ステップ 7 Phone Configuration ウィンドウを表示するには、**OK** をクリックします。Directory Number Configuration ウィンドウに戻るには、**Cancel** をクリックします。

ステップ 8 変更内容を電話機に自動的に適用するために、**OK** をクリックします。ただし、**Reset Phone** をクリックすることもできます。詳細については、P.62-10 の「[電話機のリセット](#)」を参照してください。



(注) デバイスは、速やかに再起動します。この再起動プロセス中に、ゲートウェイ上のコールがシステムによって終了される場合があります。

関連項目

- [Cisco IP Phone の設定 \(P.62-1 \)](#)
- [電話機の検索 \(P.62-50 \)](#)
- [電話機の追加 \(P.62-5 \)](#)
- [電話機からの電話番号の削除 \(P.62-56 \)](#)
- [電話番号の更新 \(P.62-55 \)](#)
- [電話番号の設定値 \(P.62-60 \)](#)
- [割り当てられていない電話番号の削除 \(P.29-5 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco IP Phone」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話機能」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話機設定チェックリスト」

電話番号の更新

特定の電話機に割り当てられた電話番号を更新する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 Device > Phone の順に選択します。

Find and List Phones ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 電話機を特定するための検索条件を入力します。

検索条件と一致する電話機のリストが表示されます。

ステップ 3 更新する電話機の名前をクリックします。

Phone Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 Directory Numbers リストから、更新する回線をクリックします。

Directory Number Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 該当する設定値を更新します (表 62-4 を参照)。

ステップ 6 Update をクリックします。

ステップ 7 変更内容を電話機に自動的に適用するために、OK をクリックします。ただし、Reset Devices をクリックすることもできます。詳細については、P.62-10 の「電話機のリセット」を参照してください。



(注) デバイスは、速やかに再起動します。この再起動プロセス中に、ゲートウェイ上のコールが Cisco CallManager によって終了される場合があります。

関連項目

- [Cisco IP Phone の設定 \(P.62-1 \)](#)
- [ゲートウェイの設定 \(P.61-1 \)](#)
- [電話機の検索 \(P.62-50 \)](#)
- [電話機の追加 \(P.62-5 \)](#)
- [電話番号の追加 \(P.62-52 \)](#)
- [電話機からの電話番号の削除 \(P.62-56 \)](#)
- [電話番号の設定値 \(P.62-60 \)](#)
- [割り当てられていない電話番号の削除 \(P.29-5 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco IP Phone」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話機能」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話機設定チェックリスト」

電話機からの電話番号の削除

特定の電話機から電話番号を削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

使用されている電話番号を削除しようとする、Cisco CallManager は警告メッセージを表示します。電話番号を使用している回線グループを検索するには、Directory Number Configuration ウィンドウの **Dependency Records** リンクをクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。

電話機から電話番号を削除しても、Cisco CallManager 内にはその番号がまだ残っています。電話機に関連付けられている電話番号のリストを表示するには、Route Plan Report メニュー オプションを使用します。詳細については、[P.29-5 の「割り当てられていない電話番号の削除」](#)を参照してください。

手順

ステップ 1 Device > Phone の順に選択します。

Find and List Phones ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 電話機を特定するための検索条件を入力し、Find をクリックします。

検索条件と一致する電話機のリストが表示されます。

ステップ 3 削除する電話番号を含むデバイス名を選択します。

Phone Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 Directory Numbers リストから、削除する回線を選択します。

Directory Number Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 Remove from Device をクリックします。

ステップ 6 OK をクリックして、電話機からその電話番号を削除することを確認します。

その電話番号が削除された状態で、Phone Configuration ウィンドウが再表示されます。変更内容が電話機に自動的に適用されます。ただし、Reset Phone をクリックすることもできます。詳細については、P.62-10 の「電話機のリセット」を参照してください。

関連項目

- [Cisco IP Phone の設定 \(P.62-1 \)](#)
- [電話機の検索 \(P.62-50 \)](#)
- [電話番号の追加 \(P.62-52 \)](#)
- [電話番号の更新 \(P.62-55 \)](#)

- 電話機のリセット (P.62-10)
- 割り当てられていない電話番号の削除 (P.29-5)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco IP Phone」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話機設定チェックリスト」

Cisco Unity ボイスメールボックスの作成

Directory Number Configuration ウィンドウの Create Voice Mailbox リンクを使用すると、管理者は Cisco CallManager Administration から個々に Cisco Unity ボイスメールボックスを作成できます。

始める前に

- Unity の管理者が適切なソフトウェアをインストールしていることを確認する (Cisco CallManager サーバの Voice Mailbox asp ページのインストールを含む)。『Cisco CallManager 4.1 Integration Guide for Cisco Unity 4.0』を参照してください。
- 管理者は、ボイス メッセージ サービス用に Cisco CallManager を設定する必要があります。『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity 設定チェックリスト」を参照してください。
- 管理者は Cisco Unity サーバを設定する必要があります。Unity のマニュアルを参照してください。
- Cisco Unity Cisco CallManager Integrated Voice Mailbox Configuration が Cisco Unity サーバで使用可能になっていることを確認する。『Cisco CallManager 4.1 Integration Guide for Cisco Unity 4.0』を参照してください。
- Cisco RIS Data Collector サービスがアクティブになっていることを確認する。『Cisco CallManager Serviceability システム ガイド』および『Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド』を参照してください。
- Directory Number Configuration ウィンドウで、Voice Mail Profile が設定され、パイロット番号を含んでいること、または None に設定されていることを確認する。Voice Mail Profile が No Voice Mail に設定されている場合、Create Voice Mailbox リンクは表示されません。



(注)

User Configuration ウィンドウにも Create Voice Mailbox リンクがあります。

手順

ステップ 1 Directory Number Configuration ウィンドウでボイスメールボックスを設定するには、**Create Voice Mailbox** リンクをクリックします。

Configure Cisco Unity Voice Mailbox ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 2 Configure Cisco Unity Voice Mailbox のフィールドを設定するには、
『Cisco CallManager 4.1 Integration Guide for Cisco Unity 4.0』の手順を実行してください。

関連項目

- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity Cisco CallManager 統合メールボックス設定」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity 設定チェックリスト」

電話番号の設定値

表 62-4 では、Directory Number Configuration ウィンドウ内の使用可能なフィールドについて説明します。表 62-5 では、Directory Number Configuration ウィンドウの Directory Number Status 領域について説明します。

表 62-4 電話番号の設定値




フィールド	説明
Directory Number	
Directory Number	<p>ダイヤル可能な電話番号を入力します。この値には、数字とルートパターンのワイルドカード、および特殊文字 ((.) と (@) を除く) を指定できます。</p> <hr/> <p> (注) 電話番号としてパターンが使用されている場合、電話機の表示、およびダイヤルされた電話機への発信者 ID の表示には、数字以外の文字が含まれます。このような表示を避けるために、Display (Internal Caller ID)、Line Text Label、および External Phone Number Mask に値を入力することをお勧めします。表 62-4 では、これらのフィールドについて説明します。</p> <hr/> <p>入力する電話番号が、複数のパーティションに表示される場合があります。</p> <hr/> <p> (注) JTAPI または TAPI アプリケーションでデバイスを制御したりモニタしたりする場合は、そのデバイスに同一の電話番号を持つ複数のインスタンス (パーティションは異なる) を設定しないでください。</p> <hr/> <p>電話番号の隣にある Shared Line は、その電話番号が、同一パーティションの複数のデバイスに表示されることを意味します。詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話番号」を参照してください。</p>

表 62-4 電話番号の設定値 (続き)



フィールド	説明
Partition	<p>この電話番号が属するパーティションを選択します。Directory Number フィールドに入力する電話番号が、選択したパーティション内で固有のものであることを確認してください。電話番号へのアクセスを制限しない場合は、パーティションに <None> を選択します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するパーティションの数を設定することができます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで設定された数よりもパーティションの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リスト ボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Partition ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにパーティション名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるパーティションのリストで目的のパーティション名をクリックして、OK をクリックします。</p> <p> (注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、System > Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。</p>
Active	<p>Directory Number Configuration ウィンドウにこのチェックボックスを表示するには、Route Plan Report ウィンドウから、割り当てられていない電話番号にアクセスします。このチェックボックスをオンにすると、この電話番号へのコールを転送できるようになります (転送が設定されている場合)。このチェックボックスをオフにすると、Cisco CallManager はその電話番号を無視します。</p>
Update Directory Number of All Devices Sharing This Line	<p>このチェックボックスは、共有回線の電話番号に対してのみ使用します。この電話番号を共有するすべてのデバイスの電話番号を変更するには、このチェックボックスをオンにします。このデバイスの電話番号またはパーティションだけを変更するには、このチェックボックスをオフのままにします (この電話番号を共有するその他のデバイスは変更されません)。</p>

■ 電話番号の設定

表 62-4 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
Directory Number Settings	
Voice Mail Profile	<p>Voice Mail Profile Configuration に定義されているボイスメール プロファイルのリストから選択します。</p> <p>最初のオプションは、<None> で、Voice Mail Profile Configuration で設定された現在のデフォルト ボイスメール プロファイルです。</p>
Calling Search Space	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。選択された値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。P.62-84 の「Calling Search Space」を参照してください。</p> <p>コーリング サーチ スペースは、Forward All、Forward Busy、Forward No Answer、および Forward on Failure の電話番号に対して設定できます。</p> <p>Forward All Calling Search Space フィールドを <None> に設定すると、ユーザが Cisco IP Phone User Options ウィンドウ、または電話機の CFwdAll ソフトキーを使用してコールを転送したときに、Cisco CallManager が回線と電話機のコーリング サーチ スペースを使用します。</p> <p>ユーザが自分の電話機でコールを転送することを制限する場合は、Forward All Calling Search Space フィールドから、制限するコーリング サーチ スペースを選択する必要があります。たとえば、2 つのコーリング サーチ スペース (Building および PSTN) があるとします。Building コーリング サーチ スペースでは、建物内でのコールのみをユーザに許可します。PSTN コーリング サーチ スペースでは、建物内と建物外のコールをユーザに許可します。電話機を Building コーリング サーチ スペースに割り当て、電話機の回線を PSTN コーリング サーチ スペースに割り当てます。</p>

表 62-4 電話番号の設定値（続き）

フィールド	説明
	<p>Call Forward All コーリング サーチ スペースを <None> に設定すると、Cisco CallManager は、PSTN または Building コーリング サーチ スペース内の任意の番号にコールを転送できます。ユーザが建物外の番号にコールを転送できないようにするには、Call Forward All コーリング サーチ スペースを Building に設定します。</p> <p>詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「パーティションおよびコール検索スペース」を参照してください。</p>
User Hold Audio Source	ユーザが保留操作を開始したときに再生されるオーディオソースを選択します。
Network Hold Audio Source	ネットワークが保留操作を開始したときに再生されるオーディオソースを選択します。
Auto Answer	<p>次のいずれかを選択し、この電話番号の Auto Answer 機能をアクティブにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Auto Answer Off < デフォルト > • ヘッドセットでの Auto Answer • スピーカフォンでの Auto Answer (Intercom) <p> (注) ヘッドセットでの Auto Answer またはスピーカフォンでの Auto Answer を選択する場合は、ヘッドセットまたはスピーカフォンが使用可能であることを確認します。</p> <p> (注) 共有回線を持つデバイスには Auto Answer を設定しないでください。</p>

■ 電話番号の設定

表 62-4 電話番号の設定値 (続き)


フィールド	説明
AAR 設定	
AAR	<p>このフィールド行の設定値では、宛先に到達するのに帯域幅が不十分な場合のコールの処理を指定します。これらのコールは自動代替ルーティング (AAR) により処理され、AAR Destination Mask または Voice Mail にルーティングされます。</p> <p>次の値のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Voice Mail : Voice Mail Profile Configuration ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。 <p> (注) このチェックボックスがオンになっていると、Cisco CallManager は、Coverage/Destination ボックスと Calling Search Space の設定値を無視します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • AAR Destination Mask : ダイアルする AAR Destination を決定するため、外部電話番号マスクの代わりにこの設定を使用します。 • AAR Group : 帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を None にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。 • AAR Keep Call History : コールの AAR レッグを Call Forwarding History に保持するかどうかを決定します。 <ul style="list-style-type: none"> - 「Remove this destination from the call forwarding history」を選択すると、コールの AAR レッグはコール履歴に保持されません。 - 「Retain this destination in the call forwarding history」を選択すると、コールの AAR レッグはコール履歴に保持されます。 <p>電話番号設定のデフォルトでは、コールの AAR レッグがコール履歴に保持されます。つまり、ボイス メッセージ システムへの AAR 転送によって、ユーザに対してボイス メッセージを残すように要求します。</p>

表 62-4 電話番号の設定値（続き）


フィールド	説明
Call Forward and Pickup Settings	
Forward All	<p>このフィールドの行の設定値は、電話番号がコールをすべて転送するように設定されている場合の、この電話番号へのコールの転送処理を指定します。Calling Search Space フィールドは、ユーザが電話機から Call Forward All をアクティブにしたときに入力される、Forward All 宛先を検証するために使用されます。また、Calling Search Space フィールドは、Call Forward All 宛先にコールを転送するためにも使用されます。</p> <p>次の値のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Voice Mail : Voice Mail Profile Configuration ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。 <p> (注) このチェックボックスがオンになっていると、Cisco CallManager は、Coverage/Destination ボックスと Calling Search Space の設定値を無視します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Coverage/Destination : この設定値は、すべてのコールの転送先となる電話番号を示します。外部宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用してください。 • Calling Search Space : この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。

表 62-4 電話番号の設定値 (続き)







フィールド	説明
Forward Busy Internal	<p>このフィールドの行の設定値は、電話番号がビジー状態の場合の、この電話番号への内部コールの転送処理を指定します。コール転送先および Calling Search Space フィールドを使用して、コールを転送先に転送します。</p> <p>次の値のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Voice Mail: 内部コールに対して Voice Mail Profile Configuration ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。 <hr/> <p> (注) このチェックボックスをオンにすると、ボイスメールパイロットのコーリングサーチスペースが使用されます。Cisco CallManager では、Destination ボックスおよび Calling Search Space の設定値は無視されます。Calling Search Space に None を設定すると、元のデバイスのコーリングサーチスペースが使用されます。</p> <hr/> <p> (注) 内部コールに対してこのチェックボックスがオンになっている場合、システムにより外部コールの Voice Mail チェックボックスが自動的にオンとなります。外部コールをボイスメッセージシステムに転送しない場合、外部コールの Voice Mail チェックボックスをオフにする必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Coverage/Destination: 外部宛先を含む、ダイヤル可能な電話番号をすべて使用します。 <hr/> <p> (注) 内部コールに対して Coverage/Destination の値を入力すると、システムにより外部コールの Coverage/Destination フィールドにこの値が自動的にコピーされます。別の宛先に外部コールを転送する場合は、外部コールの Coverage/Destination フィールドに別の値を入力する必要があります。</p>

表 62-4 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
	<ul style="list-style-type: none"> Calling Search Space : この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。 <p> (注) 内部コールに対して Calling Search Space を選択した場合、システムにより外部コールの Calling Search Space 設定にこの値が自動的にコピーされます。別のコーリング サーチ スペースに外部コールを転送する場合は、外部コールの Calling Search Space ドロップダウン リスト ボックスで別の設定値を選択する必要があります。</p>
Forward Busy External	<p>このフィールドの行の設定値は、電話番号がビジー状態の場合の、この電話番号への外部コールの転送処理を指定します。コール転送先および Calling Search Space フィールドを使用して、コールをコール転送先に転送します。</p> <p>次の値のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> Voice Mail: 外部コールに対して Voice Mail Profile Configuration ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。 <p> (注) このチェックボックスをオンにすると、ボイスメールパイロットのコーリング サーチ スペースが使用されます。Cisco CallManager では、Destination ボックスおよび Calling Search Space の設定値は無視されます。Calling Search Space に None を設定すると、元のデバイスのコーリング サーチ スペースが使用されます。</p> <p> (注) 内部コールに対して Voice Mail チェックボックスがオンになっている場合、システムにより外部コールの Voice Mail チェックボックスが自動的にオンとなります。外部コールをボイスメッセージシステムに転送しない場合、外部コールの Voice Mail チェックボックスをオフにする必要があります。</p>

電話番号の設定

表 62-4 電話番号の設定値（続き）




フィールド	説明
	<ul style="list-style-type: none"> • Coverage/Destination : 外部宛先を含む、ダイヤル可能な電話番号をすべて使用します。 <p> (注) 内部コールに対して Coverage/Destination の値を入力すると、システムにより外部コールの Coverage/Destination フィールドにこの値が自動的にコピーされます。別の宛先に外部コールを転送する場合は、外部コールの Coverage/Destination フィールドに別の値を入力する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Calling Search Space : この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。 <p> (注) 内部コールに対して Calling Search Space を選択した場合、システムにより外部コールの Calling Search Space 設定にこの値が自動的にコピーされます。別のコーリングサーチスペースに外部コールを転送する場合は、外部コールの Calling Search Space ドロップダウン リスト ボックスで別の設定値を選択する必要があります。 </p>
Forward No Answer Internal	<p>このフィールドの行の設定値は、電話番号が応答しない場合の、この電話番号への内部コールの転送処理を指定します。コール転送先および Calling Search Space フィールドを使用して、コールをコール転送先に転送します。次の値のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Voice Mail : Voice Mail Profile Configuration ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。 <p> (注) このチェックボックスをオンにすると、ボイスメールパイロットのコーリングサーチスペースが使用されます。Cisco CallManager では、Destination ボックスおよび Calling Search Space の設定値は無視されます。Calling Search Space に None を設定すると、元のデバイスのコーリングサーチスペースが使用されます。</p>

表 62-4 電話番号の設定値 (続き)



フィールド	説明
	<p> (注) 内部コールに対してこのチェックボックスがオンになっている場合、内部コール (Call Forward UnRegistered) および外部コール (Call Forward No Answer および Call Forward UnRegistered) の Voice Mail チェックボックスが自動的にオンに設定されます。内部コール (Call Forward UnRegistered) および外部コール (Call Forward No Answer および Call Forward UnRegistered) をボイスメッセージ システムに転送しない場合、対応する Voice Mail チェックボックスをオフにする必要があります。</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> • Coverage/Destination : この設定値は、コールに回答がないときに、内部コールの転送先となる電話番号を示します。外部宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用してください。 <p> (注) 内部コールに対して Coverage/Destination の値を入力すると、この値が、内部コール (Call Forward UnRegistered) および外部コール (Call Forward No Answer および Call Forward UnRegistered) の Coverage/Destination フィールドに自動的にコピーされます。内部コール (Call Forward UnRegistered) または外部コール (Call Forward No Answer および Call Forward UnRegistered) を別の宛先に転送する場合は、対応する Coverage/Destination フィールドに別の値を入力する必要があります。</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> • Calling Search Space : この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスに適用されます。 <p>内部コールに対して Calling Search Space を選択すると、この設定値が、内部コール (Call Forward UnRegistered) および外部コール (Call Forward No Answer および Call Forward UnRegistered) の Calling Search Space 設定に自動的にコピーされます。内部コール (Call Forward UnRegistered) または外部コール (Call Forward No Answer および Call Forward UnRegistered) を別のコーリングサーチスペースに転送する場合は、対応する Calling Search Space ドロップダウン リスト ボックスで別の設定値を選択する必要があります。</p>

表 62-4 電話番号の設定値（続き）




フィールド	説明
Forward No Answer External	<p>このフィールドの行の設定値は、電話番号が応答しない場合の、この電話番号への外部コールの転送処理を指定します。コール転送先および Calling Search Space フィールドを使用して、コールをコール転送先に転送します。次の値のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Voice Mail : Voice Mail Profile Configuration ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。 <p> (注) このチェックボックスをオンにすると、ボイスメールパイロットのコーリングサーチスペースが使用されます。Cisco CallManager では、Destination ボックスおよび Calling Search Space の設定値は無視されます。Calling Search Space に None を設定すると、元のデバイスのコーリングサーチスペースが使用されます。</p> <p> (注) 内部コールに対してこのチェックボックスがオンになっている場合、システムにより外部コールの Voice Mail チェックボックスが自動的にオンとなります。外部コールをボイスメッセージシステムに転送しない場合、外部コールの Voice Mail チェックボックスをオフにする必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Coverage/Destination : この設定値は、コールに応答がないときに、外部コールの転送先となる電話番号を示します。外部宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用してください。 <p> (注) 内部コールに対して Coverage/Destination の値を入力すると、システムにより外部コールの Coverage/Destination フィールドにこの値が自動的にコピーされます。別の宛先に外部コールを転送する場合は、外部コールの Coverage/Destination フィールドに別の値を入力する必要があります。</p>

表 62-4 電話番号の設定値（続き）



フィールド	説明
	<ul style="list-style-type: none"> Calling Search Space : この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。 <p> (注) 内部コールに対して Calling Search Space を選択した場合、システムにより外部コールの Calling Search Space 設定にこの値が自動的にコピーされます。別のコーリング サーチ スペースに外部コールを転送する場合は、外部コールの Calling Search Space ドロップダウン リスト ボックスで別の設定値を選択する必要があります。</p>
Forward No Coverage Internal	<p>このフィールドは、CTI ルート ポイントおよび CTI ポートのみにも適用されます。コール転送先および Calling Search Space フィールドを使用して、コールをコール転送先に転送します。次の値のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> Voice Mail : Voice Mail Profile Configuration ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。 <p> (注) このチェックボックスがオンになっていると、Cisco CallManager は、Coverage/Destination ボックスと Calling Search Space の設定値を無視します。内部コールに対してこのチェックボックスがオンになっている場合、システムにより外部コールの Voice Mail チェックボックスが自動的にオンとなります。外部コールをボイス メッセージ システムに転送しない場合、外部コールの Voice Mail チェックボックスをオフにする必要があります。</p>

表 62-4 電話番号の設定値 (続き)



フィールド	説明
	<ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="454 289 1241 410">• Coverage/Destination : この設定値は、内部無接続コールの転送先の電話番号を指定します(該当の電話番号を制御するアプリケーションが動作していない場合)。外部宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用してください。 <p data-bbox="444 431 489 467"></p> <p data-bbox="435 472 1241 621">(注) 内部コールに対して Coverage/Destination の値を入力すると、システムにより外部コールの Coverage/Destination フィールドにこの値が自動的にコピーされます。別の宛先に外部コールを転送する場合は、外部コールの Coverage/Destination フィールドに別の値を入力する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="454 667 1241 724">• Calling Search Space : この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。 <p data-bbox="444 745 489 781"></p> <p data-bbox="435 786 1241 967">(注) 内部コールに対して Calling Search Space を選択した場合、システムにより外部コールの Calling Search Space 設定にこの値が自動的にコピーされます。別のコーリング サーチ スペースに外部コールを転送する場合は、外部コールの Calling Search Space ドロップダウン リスト ボックスで別の設定値を選択する必要があります。</p>

表 62-4 電話番号の設定値 (続き)




フィールド	説明
Forward No Coverage External	<p data-bbox="440 284 1247 386">このフィールドは、CTI ルート ポイントおよび CTI ポートのみに適用されます。コール転送先および Calling Search Space フィールドを使用して、コールをコール転送先に転送します。次の値のいずれかを指定します。</p> <ul data-bbox="454 410 1247 472" style="list-style-type: none"> • Voice Mail : Voice Mail Profile Configuration ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。 <p data-bbox="440 480 489 516"></p> <p data-bbox="440 521 1247 735">(注) このチェックボックスがオンになっていると、Cisco CallManager は、Coverage/Destination ボックスと Calling Search Space の設定値を無視します。内部コールに対してこのチェックボックスがオンになっている場合、システムにより外部コールの Voice Mail チェックボックスが自動的にオンとなります。外部コールをボイス メッセージ システムに転送しない場合、外部コールの Voice Mail チェックボックスをオフにする必要があります。</p> <ul data-bbox="454 776 1247 898" style="list-style-type: none"> • Coverage/Destination : この設定値は、内部無接続コールの転送先の電話番号を指定します(該当の電話番号を制御するアプリケーションが動作していない場合)。外部宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用してください。 <p data-bbox="440 906 489 941"></p> <p data-bbox="440 946 1247 1101">(注) 内部コールに対して Coverage/Destination の値を入力すると、システムにより外部コールの Coverage/Destination フィールドにこの値が自動的にコピーされます。別の宛先に外部コールを転送する場合は、外部コールの Coverage/Destination フィールドに別の値を入力する必要があります。</p> <ul data-bbox="454 1141 1247 1203" style="list-style-type: none"> • Calling Search Space : この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。 <p data-bbox="440 1211 489 1247"></p> <p data-bbox="440 1252 1247 1433">(注) 内部コールに対して Calling Search Space を選択した場合、システムにより外部コールの Calling Search Space 設定にこの値が自動的にコピーされます。別のコーリング サーチ スペースに外部コールを転送する場合は、外部コールの Calling Search Space ドロップダウン リスト ボックスで別の設定値を選択する必要があります。</p>

表 62-4 電話番号の設定値 (続き)







フィールド	説明
Forward Unregistered Internal	<p data-bbox="440 285 1244 386">この行の設定値では、デバイスが登録されていない電話番号にルーティングされる、内部コールの転送処理を指定します。次の値のいずれかを指定します。</p> <ul data-bbox="454 412 1244 472" style="list-style-type: none"> • Voice Mail : Voice Mail Profile Configuration ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。 <hr/> <p data-bbox="440 488 489 526"> (注) このチェックボックスがオンになっていると、Cisco CallManager は、Coverage/Destination ボックスと Calling Search Space の設定値を無視します。内部コールに対してこのチェックボックスがオンになっている場合、システムにより外部コールの Voice Mail チェックボックスが自動的にオンとなります。外部コールをボイス メッセージ システムに転送しない場合、外部コールの Voice Mail チェックボックスをオフにする必要があります。</p> <hr/> <ul data-bbox="454 818 1244 878" style="list-style-type: none"> • Coverage/Destination : 外部宛先を含む、ダイヤル可能な電話番号をすべて使用します。 <hr/> <p data-bbox="440 894 489 932"> (注) 内部コールに対して Coverage/Destination の値を入力すると、システムにより外部コールの Coverage/Destination フィールドにこの値が自動的にコピーされます。別の宛先に外部コールを転送する場合は、外部コールの Coverage/Destination フィールドに別の値を入力する必要があります。</p> <hr/> <ul data-bbox="454 1133 1244 1193" style="list-style-type: none"> • Calling Search Space : この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。 <hr/> <p data-bbox="440 1209 489 1247"> (注) 内部コールに対して Calling Search Space を選択した場合、システムにより外部コールの Calling Search Space 設定にこの値が自動的にコピーされます。別のコーリング サーチ スペースに外部コールを転送する場合は、外部コールの Calling Search Space ドロップダウン リスト ボックスで別の設定値を選択する必要があります。</p>

表 62-4 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
Forward Unregistered External	<p data-bbox="440 284 1247 386">この行の設定値では、デバイスが登録されていない電話番号にルーティングされる、外部コールの転送処理を指定します。次の値のいずれかを指定します。</p> <ul data-bbox="454 410 1247 472" style="list-style-type: none"> • Voice Mail : Voice Mail Profile Configuration ウィンドウ内の設定値を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。 <hr/> <p data-bbox="440 488 494 521"> (注) このチェックボックスがオンになっていると、Cisco CallManager は、Coverage/Destination ボックスと Calling Search Space の設定値を無視します。内部コールに対してこのチェックボックスがオンになっている場合、システムにより外部コールの Voice Mail チェックボックスが自動的にオンとなります。外部コールをボイス メッセージ システムに転送しない場合、外部コールの Voice Mail チェックボックスをオフにする必要があります。</p> <hr/> <ul data-bbox="454 816 1247 878" style="list-style-type: none"> • Coverage/Destination : 外部宛先を含む、ダイヤル可能な電話番号をすべて使用します。 <hr/> <p data-bbox="440 894 494 927"> (注) 内部コールに対して Coverage/Destination の値を入力すると、システムにより外部コールの Coverage/Destination フィールドにこの値が自動的にコピーされます。別の宛先に外部コールを転送する場合は、外部コールの Coverage/Destination フィールドに別の値を入力する必要があります。</p> <hr/> <ul data-bbox="454 1133 1247 1195" style="list-style-type: none"> • Calling Search Space : この設定値は、この電話番号を使用しているデバイスすべてに適用されます。 <hr/> <p data-bbox="440 1211 494 1243"> (注) 内部コールに対して Calling Search Space を選択した場合、システムにより外部コールの Calling Search Space 設定にこの値が自動的にコピーされます。別のコーリング サーチ スペースに外部コールを転送する場合は、外部コールの Calling Search Space ドロップダウン リスト ボックスで別の設定値を選択する必要があります。</p>

■ 電話番号の設定

表 62-4 電話番号の設定値 (続き)



フィールド	説明
No Answer Ring Duration (seconds)	<p>このフィールドは Call Forward No Answer Destination と併用し、電話機で呼び出し音が鳴ってから転送が開始されるまでの時間を示すタイマーを設定します。この設定をブランクのままにすると、Cisco CallManager サービスパラメータの Forward No Answer Timer に設定された値が使用されます。</p> <p> 注意 デフォルトでは、Cisco CallManager は、No Answer Ring Duration の時間よりも T301 タイマーの時間を長くします。T301 タイマーの設定時間が No Answer Ring Duration よりも先に時間切れになった場合は、コールが終了し、コール転送が行われません。この動作を選択する場合は、No Answer Ring Duration の時間を T301 タイマーよりも大きくするように設定できます。T301 タイマーについては、Service > Service Parameter の順に選択します。ウィンドウで、サーバ、Cisco CallManager サービス、およびパラメータを選択します。</p>
Call Pickup Group	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、指定されたパーティション内でこの電話番号を割り当てる先のコール ピックアップ グループの名前を選択します。</p> <p> ヒント 選択したコール ピックアップ グループについての詳細情報を表示するには (コール ピックアップ グループ番号を含む) ドロップダウン リスト ボックスの横のカッコ内の View Details リンクをクリックします。</p>
MLPP Alternate Party Settings	
Target (Destination)	<p>この電話番号が優先コールを受信し、この番号とそのコール転送先が優先コールに 응답しない場合に MLPP 優先コールが誘導される番号を入力します。</p> <p>この値には、数字、シャープ (#)、アスタリスク (*) を指定できます。</p>

表 62-4 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
Calling Search Space	ドロップダウン リスト ボックスから、代替パーティのターゲット (宛先) 番号に関連付けられたコーリング サーチ スペースを選択します。電話番号のコーリング サーチ スペースの設定情報については、 P.62-84 の「Calling Search Space」 を参照してください。
No Answer Ring Duration	秒数 (4 ~ 60) を指定します。この電話番号とそのコール転送先が MLPP 優先コールに回答しない場合、ここで指定した秒数が経過すると、MLPP 優先コールがこの電話番号の代替パーティに誘導されます。 この設定をブランクのままにすると、Cisco CallManager エンタープライズパラメータの Precedence Alternate Party Timeout に設定された値が使用されます。

Line Settings for All Devices

Alerting Name	<p>発信者の電話機に表示させる名前 (警告名) を入力します。</p> <p>この設定は QSIG プロトコルの Identification Service をサポートし、共有および非共有の電話番号に適用されます。共有の回線表示を持つ電話番号に警告名を設定すると、着側 PINX で電話機の呼び出し音が鳴った時に、システムが次の作業を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 電話番号に割り当てられた発信者の名前を転送します。 • 変換パターン (制限がある場合) に設定された Connected Name Restrictions (CONR) を適用します。ルート パターン設定に応じて、発信 PINX が CONR を変更する場合があります。 <p>警告名を設定しない場合、発信者の電話機に「Name Not Available」と表示される場合があります。Display (Internal Caller ID) フィールドに名前を入力しない場合、Alerting Name フィールド内の情報が Display (Internal Caller ID) フィールドに表示されます。</p>
---------------	---

■ 電話番号の設定

表 62-4 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
Line Settings for This Device	
Display (Internal Caller ID)	<p>着側に表示されるテキスト。このフィールドをブランクのままにすると、内線番号が表示されます。</p> <p>最長 30 文字の英数字を使用してください。Character Set で、Japanese (Hankaku-Katakana) を選択すると、半角カタカナを使用することができます。全角文字を入力すると、”?” 疑問符に変換され正しく表示されません。また、半角カタカナの Display (Internal Caller ID) は、着側の電話機のユーザ ロケールが Japanese_Japan 以外の場合には、正しく表示されませんので、ご注意ください。通常、ユーザ名または電話番号を使用します。電話番号を使用した場合、コールを受信した人は発信者の固有 ID を見ることができない場合があります。</p> <p>右側のチェックボックスをオンにし、Propagate selected ボタンをクリックしない限り、設定は現在のデバイスだけに適用されます (右側にあるチェックボックス表示は、この電話番号を他のデバイスが共有しているときにのみ表示されます)。</p>
Line Text Label	<p>このフィールドは、回線の表示に電話番号を示さないようにする場合に限り使用します。回線 / 電話機の組み合わせに対し電話番号を識別するテキストを入力します。Character Set で、Japanese (Hankaku-Katakana) を選択すると、英数字の他に半角カタカナを使用することができます。全角文字を入力すると、”?” 疑問符に変換され正しく表示されません。また、半角カタカナの Line Text Label は、電話機のユーザ ロケールが Japanese_Japan 以外の場合には、正しく表示されませんので、ご注意ください。複数の電話番号をモニタする秘書や担当者がそれらの電話番号を識別できるように、所属長の氏名、部門名、または他の適切な情報の入力をお勧めします。</p> <p>右側のチェックボックス (Update Shared Device Settings と呼ばれる) をオンにし、Propagate selected ボタンをクリックしない限り、設定は現在のデバイスだけに適用されます (右側にあるチェックボックス表示は、この電話番号を他のデバイスが共有しているときにのみ表示されます)。</p>

表 62-4 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
External Phone Number Mask	<p>この回線からのコールの発信時に発信者 ID 情報の送信に使用される電話番号 (またはマスク) を指定します。</p> <p>最長 24 桁の数字および「X」文字を入力できます。X は、電話番号を表し、パターンの末尾に指定する必要があります。たとえば、マスクを 972813XXXX に指定する場合、内線番号 1234 からの外部コールには、発信者 ID が 9728131234 と表示されます。</p> <p>右側のチェックボックス (Update Shared Device Settings と呼ばれる) をオンにし、Propagate selected ボタンをクリックしない限り、設定は現在のデバイスだけに適用されます (右側にあるチェックボックス表示は、この電話番号を他のデバイスが共有しているときにのみ表示されます)。</p>
Message Waiting Lamp Policy	<p>このフィールドでは、受話器のランプの点灯に関するポリシーを設定します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • システムポリシーを使用 (電話番号は、サービスパラメータ「メッセージ受信のランプポリシー」の設定を参照します) • 点灯およびプロンプト • プロンプトのみ • 点灯のみ • なし <p>右側のチェックボックス (Update Shared Device Settings と呼ばれる) をオンにし、Propagate selected ボタンをクリックしない限り、設定は現在のデバイスだけに適用されます (右側にあるチェックボックス表示は、この電話番号を他のデバイスが共有しているときにのみ表示されます)。</p>

■ 電話番号の設定

表 62-4 電話番号の設定値 (続き)



フィールド	説明
Ring Setting (Phone Idle)	<p>このフィールドでは、着信コールが受信され、そのデバイスにそれ以外のアクティブなコールがない場合に、回線の表示に対するリング設定値を設定します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Use system default • Disable • Flash only • Ring once • Ring <p>右側のチェックボックス (Update Shared Device Settings と呼ばれる) をオンにし、Propagate selected ボタンをクリックしない限り、設定は現在のデバイスだけに適用されます (右側にあるチェックボックス表示は、この電話番号を他のデバイスが共有しているときにのみ表示されます)。</p> <p> (注) エンタープライズ パラメータ、デバイス プール、またはデバイス レベルで MLPP Indication をオンにすると、MLPP Indication をデバイスに対してオフ (上書き) にしない限り、デバイスで回線に対する通常の Ring Setting が動作しません。</p>

表 62-4 電話番号の設定値 (続き)

フィールド	説明
Ring Setting (Phone Active)	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、この電話機で別回線に別のアクティブなコールがある場合に使用するリング設定を選択します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Use system default • Disable • Flash only • Ring once • Ring • Beep only <p>右側のチェックボックス (Update Shared Device Settings と呼ばれる) をオンにし、Propagate selected ボタンをクリックしない限り、設定は現在のデバイスだけに適用されます (右側にあるチェックボックス表示は、この電話番号を他のデバイスが共有しているときにのみ表示されます)。</p> <p> (注) エンタープライズ パラメータ、デバイス プール、またはデバイス レベルで MLPP Indication をオンにすると、MLPP Indication をデバイスに対してオフ (上書き) にしない限り、デバイスで回線に対する通常の Ring Setting が動作しません。</p>
Call Pickup Group Audio Alert Setting (Phone Idle)	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、電話機がアイドル状態のときに行われるコール ピックアップのオーディオ通知のタイプを選択します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Use System Default • Disable • Ring Once

■ 電話番号の設定

表 62-4 電話番号の設定値 (続き)




フィールド	説明
Call Pickup Group Audio Alert Setting (Phone Active)	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、電話機が使用中のときに行われるコール ピックアップのオーディオ通知のタイプを選択します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Use System Default • Disable • Beep Only
Multiple Call/Call Waiting Settings	
Maximum Number of Calls	<p>デバイスの回線に最大 200 コールまで設定できます。デバイスに設定されるコールの合計数が、この制限要因になります。ある回線に対してコールの数を設定すると、別の回線で利用できるコールの数はそれだけ少なくなります。</p> <p>デフォルト値は 4 です。電話機が各回線に複数のコールを設定できない場合、デフォルト値は 2 です。</p> <p>CTI ルート ポイントの場合、各ポートに最大 10,000 コールまで設定できます。デフォルト値は 5000 コールです。このフィールドは、Busy Trigger フィールドと併用します。</p> <p> (注) デフォルトでは、CTI ルート ポイントに設定可能なアクティブコールの最大数は 5000 コールになっていますが、シスコでは、コールの最大数をルート ポイントあたり 200 以下に設定することをお勧めします。この設定により、システムパフォーマンスの低下を防ぐことができます。CTI アプリケーションで 200 を超えるコールが必要な場合は、複数の CTI ルート ポイントを設定することをお勧めします。</p> <p> ヒント 共用回線が表示されるデバイスに対して、この設定がどのように機能するかを確認するには、『Cisco CallManager システム ガイド』の「共有回線の表示」を参照してください。</p>

表 62-4 電話番号の設定値（続き）

フィールド	説明
Busy Trigger	<p>この設定は、Maximum Number of Calls および Call Forward Busy と連携し、回線で使用されるコールの最大数を決定します。たとえば、Maximum Number of Calls に 50、Busy Trigger に 40 をそれぞれ設定した場合、41 番目の着信コールは、ビジーのために拒否されます（Call Forward Busy が設定されている場合は転送されます）。この回線が共有されている場合は、すべての回線がビジーになった後に着信コールが拒否されます。</p> <p>このフィールドは、CTI ルート ポイントの Maximum Number of Calls と併用します。デフォルト値は 4500 コールです。</p> <p> ヒント 共用回線が表示されるデバイスに対して、この設定がどのように機能するかを確認するには、『Cisco CallManager システムガイド』の「共有回線の表示」を参照してください。</p>
Forwarded Call Information Display	
Caller Name	このチェックボックスをオンにすると、コール転送時に発信者名が表示されます。
Redirected Number	このチェックボックスをオンにすると、コール転送時にリダイレクトされた番号が表示されます。
Caller Number	このチェックボックスをオンにすると、コール転送時に発信者 ID が表示されます。
Dialed Number	このチェックボックスをオンにすると、コール転送時に最初にダイヤルされた番号が表示されます。

Character Set

Line Text Label と Display (CallerID) を表示する言語を選択します。

Calling Search Space

Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスに表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで設定された数よりもコーリング サーチ スペースの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リスト ボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Calling Search Space ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにコーリング サーチ スペース名の一部を入力します。コーリング サーチ スペースのリストで希望するコーリング サーチ スペース名をクリックし、OK をクリックします。



(注)

リスト ボックスの最大項目を設定するには、System > Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。

Directory Number Status

表 62-5 では、Directory Number Configuration ウィンドウの Directory Number Status 領域について説明します。

表 62-5 Directory Number Status

フィールド	説明
Used By	このフィールドには、電話番号が属する回線グループまたは Cisco CallManager Attendant Console ハント グループのリストが表示されます。
Associated With	このフィールドには、電話番号が関連付けられているデバイスのリストが表示されます。

関連項目

- [回線グループの設定 \(P.24-1 \)](#)
- [Cisco IP Phone の設定 \(P.62-1 \)](#)
- [ゲートウェイの設定 \(P.61-1 \)](#)
- [電話機のリセット \(P.62-10 \)](#)
- [電話番号の追加 \(P.62-52 \)](#)
- [電話番号の更新 \(P.62-55 \)](#)
- [割り当てられていない電話番号の削除 \(P.29-5 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco IP Phone」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話機能」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話機設定チェックリスト」



トランクの設定

ゲートキーパー（つまり、ホールセール ネットワークやゲートキーパーによって制御されるクラスタ間トランク）への論理ルート、ゲートキーパーによって制御されないクラスタ間トランクへの論理ルート、または SIP ネットワークへの論理ルートを設定するには、トランク デバイスを使用します。次の使用可能なトランク タイプからいずれかを選択してください。

- H.225 トランク（ゲートキーパー制御）
- クラスタ間トランク（ゲートキーパー制御）
- クラスタ間トランク（ゲートキーパー非制御）
- SIP トランク

Cisco CallManager トランクの設定については、次のトピックを参照してください。

- [トランクの検索 \(P.63-2\)](#)
- [トランクの追加 \(P.63-4\)](#)
- [トランクの削除 \(P.63-5\)](#)
- [トランクの変更 \(P.63-7\)](#)
- [トランクのリセット \(P.63-9\)](#)
- [トランクの設定値 \(P.63-11\)](#)

次のトピックには、トランクに関する追加情報が記載されています。

- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「コール アドミッション制御」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ゲートキーパーとトランク」

- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco CallManager 内でのゲートキーパーとトランクの設定」
- Cisco IP テレフォニー ネットワーク デザイン ガイド

トランクの検索

ネットワーク内には複数のトランクが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の条件を指定してトランクを検索することができます。Cisco CallManager データベース内で特定のトランクを検索する手順は、次のとおりです。



(注) Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、トランクの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、トランクの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 Device > Trunk の順に選択します。

Find and List Trunks ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 トランクの特定に使用するフィールドを選択します。



(注) データベースに登録されているトランクをすべて検索するには、フィールドのリストから Device Name を選択し、パターンのリストから「is not empty」を選択します。次に、**Find** をクリックしてください。

ステップ 3 テキスト検索に該当する検索パターンを選択します。テキスト検索を実行しない場合は、「is empty」を選択します。

ステップ 4 Find フィールドに、検索テキスト（ある場合）を入力します。

ステップ 5 [ステップ 2](#) でコーリング サーチ スペースまたはデバイス プールを選択した場合は、データベース内で使用可能なオプションが表示されます。Find ボタンの下にあるドロップダウン リスト ボックスから、これらのオプションのいずれかを選択できます。

ステップ 6 Find をクリックします。

条件と一致するデバイスのリストが表示されます。[ステップ 2](#) で選択したフィールドによって、リスト内のデバイスのソート方法が決まります。

このウィンドウは、このウィンドウ内のデバイスとウィンドウの合計数もリストします。

ステップ 7 検出されたデバイスの次のセットを表示するには、Next をクリックします。



(注) トランクの横にあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、Find and List Trunks ウィンドウから複数のトランクを削除できます。また、**Reset Selected** をクリックすると、複数のトランクをリセットできます。Matching records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにすると、ウィンドウ内のトランクをすべて選択できます。

関連項目

- [トランクの追加 \(P.63-4\)](#)
- [トランクの削除 \(P.63-5\)](#)
- [トランクの変更 \(P.63-7\)](#)
- [トランクのリセット \(P.63-9\)](#)
- [トランクの設定値 \(P.63-11\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ゲートキーパーとトランク」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco CallManager 内でのゲートキーパーとトランクの設定」

トランクの追加

トランク デバイスを追加する手順は、次のとおりです。



(注) Cisco CallManager クラスタ 1 つに複数のトランク デバイスを設定できます。

手順

- ステップ 1** Device > Trunk の順に選択します。
- ステップ 2** Add a New Trunk を選択します。
- ステップ 3** ドロップダウン リストから、追加するトランクのタイプを選択し、Next をクリックします。
- ステップ 4** 表示されている Trunk Configuration ウィンドウで、ゲートキーパーによって制御された H.225 トランク、ゲートキーパーによって制御されたクラスタ間トランク、およびゲートキーパーによって制御されないクラスタ間トランクに対して適切な設定値を入力します (表 63-1 を参照)。SIP トランクの場合は、適切な設定値を入力します (表 63-2 を参照)。
- ステップ 5** Insert をクリックして、新規トランクを追加します。

ページが更新され、Trunks リストに新規トランクの名前が表示されます。

関連項目

- [トランクの検索 \(P.63-2\)](#)
- [トランクの削除 \(P.63-5\)](#)
- [トランクの変更 \(P.63-7\)](#)
- [トランクのリセット \(P.63-9\)](#)
- [トランクの設定値 \(P.63-11\)](#)

- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ゲートキーパーとトランク」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco CallManager 内でのゲートキーパーとトランクの設定」

トランクの削除

トランクを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

1 つまたは複数のルートパターンに割り当てられているトランクは、削除できません。トランクを使用しているルートパターンを検索するには、Trunk Configuration ウィンドウの **Dependency Records** リンクをクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。使用されているトランクを削除しようとする、Cisco CallManager はメッセージを表示します。現在使用されているトランクを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除するトランクを使用しているルートパターンすべてに、別のトランクを割り当てる。[P.23-7 の「ルートパターンの更新」](#)を参照してください。
- 削除するトランクを使用しているルートパターンを削除する。[P.23-10 の「ルートパターンの削除」](#)を参照してください。

手順

ステップ 1 Device > Trunk の順に選択します。

Find and List Trunks ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 検索条件を入力し、Find をクリックして、特定のトランクを見つけます。

検索条件と一致するトランクのリストが表示されます。

■ トランクの削除

ステップ 3 次のアクションのいずれかを実行します。

- 削除するトランクの横にあるチェックボックスをオンにし、**Delete Selected** をクリックする。
- **Matching records** タイトルバーにあるチェックボックスをオンにし、**Delete Selected** をクリックして、ウィンドウ内のトランクをすべて削除する。
- 削除するトランクの名前をリストから選択して、現在の設定値を表示し、**Delete** をクリックする。

確認ダイアログが表示されます。

ステップ 4 **OK** をクリックして、トランクを削除します。

関連項目

- [トランクの検索 \(P.63-2\)](#)
- [トランクの追加 \(P.63-4\)](#)
- [トランクの変更 \(P.63-7\)](#)
- [トランクのリセット \(P.63-9\)](#)
- [トランクの設定値 \(P.63-11\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ゲートキーパーとトランク」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco CallManager 内でのゲートキーパーとトランクの設定」

トランクの変更

トランクの設定値を変更する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 Device > Trunk の順に選択します。

Find and List Trunks ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 検索条件を入力し、Find をクリックして、特定のトランクを見つけます。

検索条件と一致するトランクのリストが表示されます。

ステップ 3 リストから、更新するトランクの名前をクリックします。

Trunk Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 該当する設定値を更新します (H.225 トランクおよびクラスタ間トランクの場合は表 63-1、SIP トランクの場合は表 63-2 を参照)。

ステップ 5 Update をクリックします。

ページの内容が更新され、新しい設定値が表示されます。

ステップ 6 Reset Trunk をクリックして、トランクをリセットまたは再起動し、新しい設定値を適用します。



(注)

トランクをリセットすると、そのトランクを使用している進行中のコールがすべて終了されます。ゲートウェイを再起動すると、そのゲートウェイを使用している進行中のコールを保持しようとします。それ以外のデバイスでは、コールが完了するまで待機してから、再起動またはリセットされます。H.323 または SIP デバイスの再起動やリセットは、ハードウェアを物理的に再起動またはリセットするのではなく、Cisco CallManager によってロードされた設定を初期化するだけです。

関連項目

- [トランクの検索 \(P.63-2\)](#)
- [トランクの追加 \(P.63-4\)](#)
- [トランクの削除 \(P.63-5\)](#)
- [トランクのリセット \(P.63-9\)](#)
- [トランクの設定値 \(P.63-11\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ゲートキーパーとトランク」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco CallManager 内でのゲートキーパーとトランクの設定」

トランクのリセット

トランクをリセットする手順は、次のとおりです。



注意

デバイスをリセットすると、そのデバイスのコールが欠落することがあります。

手順

ステップ 1 Device > Trunk の順に選択します。

Find and List Trunks ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 検索条件を入力し、Find をクリックして、特定のトランクを見つけます。

検索条件と一致するトランクのリストが表示されます。

ステップ 3 リストから、リセットするトランクの名前をクリックします。

Trunk Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 トランク デバイスの設定値を変更した後に、Reset Trunk をクリックします。

Reset Device ダイアログが表示されます。

ステップ 5 次のいずれかの項目をクリックします。

- **Restart** : トランク デバイスをシャットダウンしないで再起動する。
- **Reset** : 内部トランク デバイスをシャットダウンしてから再起動する。トランクがゲートキーパーによって制御されている場合、Cisco CallManager クラスタは、トランクへの登録を解除 (URQ) した後、再登録 (RRQ) します。
- **Close** : 何も実行しないで、Reset Device ダイアログを閉じる。

■ トランクのリセット


関連項目

- [トランクの検索 \(P.63-2\)](#)
- [トランクの追加 \(P.63-4\)](#)
- [トランクの削除 \(P.63-5\)](#)
- [トランクの変更 \(P.63-7\)](#)
- [トランクの設定値 \(P.63-11\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ゲートキーパーとトランク」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco CallManager 内でのゲートキーパーとトランクの設定」

トランクの設定値

表 63-1 では、ゲートキーパーによって制御された H.225 トランク、ゲートキーパーによって制御されたクラスタ間トランク、およびゲートキーパーによって制御されないクラスタ間トランクの各設定値について説明します（表 63-2 では、SIP トランクの設定値について説明します）。

表 63-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値

フィールド	説明
デバイス情報	
Device Name	このトランクに固有の識別子を入力します。
Description	トランクの記述名を入力します。
Device Pool	トランク用に適切なデバイス プールを選択します。 トランク用のデバイス プールは、トランクがコールの負荷を動的に分散するために使用する Cisco CallManager のリストを指定します。
	 (注) トランクのデバイス プールに属さない Cisco CallManager に登録された電話機からのコールは、さまざまな発信コールに対してこのデバイス プールのさまざまな Cisco CallManager を使用します。Cisco CallManager ノードの選択は、順不同で行われます。 トランクのデバイス プールに属している Cisco CallManager に登録された電話機からのコールは、その Cisco CallManager が起動し動作していれば、発信コールに対して同じ Cisco CallManager ノードを使用します。

■ トランクの設定値

表 63-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
Call Classification	<p>このトランクを経由する着信コールがネットワークをオフ (OffNet) またはオン (OnNet) と見なすかどうかを、このパラメータによって決定します。</p> <p>Call Classification フィールドが Use System Default に設定されている場合、Cisco CallManager clusterwide サービス パラメータの設定値 (Call Classification) により、トランクが OnNet または OffNet かどうか決定します。</p> <p>このフィールドは、コールが OnNet または OffNet の場合、それぞれの警告トーンを提供します。</p> <p>発信コールを OnNet または OffNet として分類するには、このパラメータと Route Pattern Configuration ウィンドウでの設定を併用します。</p>
Media Resource Group List	<p>メディア リソース グループを優先順に並べたグループが表示されます。アプリケーションは、メディア リソース グループ リストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから、必要なメディア リソース、たとえば、Music On Hold サーバを選択します。</p>
Location	<p>トランクに適したロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションと中央ロケーション (つまり、ハブ) との間のコールに使用可能な合計帯域幅を指定します。ロケーションを None に設定すると、無制限に使用可能な帯域幅を指定することになります。</p>
AAR Group	<p>このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を None にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。</p>

表 63-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
Tunneled Protocol	<p>このドロップダウン リスト ボックスは、H.225 トランク、ゲートキーパー制御のトランク、およびゲートキーパー非制御のトランクに対して表示されます。</p> <p>トランクを使用して、H.323 シグナリング メッセージ内の H.323 以外のプロトコル情報を Cisco CallManager から他の Aneex M.1 準拠の H.323 PINX にトランスポート (トンネル) する場合は、QSIG オプションを選択します。QSIG トンネルは、次の機能をサポートします: Call Completion、Call Diversion、Call Transfer、Identification Services、Message Waiting Indication、および Path Replacement。</p>
Media Termination Point Required	<p>H.323 がサポートしない機能 (たとえば、保留や転送) をインプリメントするために、メディアターミネーションポイントを使用するかどうかを指定します。</p> <p>機能をインプリメントするためにメディアターミネーションポイントを使用する場合は、Media Termination Point Required チェックボックスをオンにします。機能をインプリメントするためにメディアターミネーションポイントを使用しない場合は、Media Termination Point Required チェックボックスをオフにします。</p> <p>このチェックボックスは、H.323 クライアント、および H.245 Empty Capabilities Set をサポートしていない H.323 デバイスにのみ使用してください。または、メディアストリーミングを 1 つのソースで終了させる場合に使用してください。</p> <p>メディアターミネーションポイントを使用するためにこのチェックボックスをオンにして、発信側と着信側のどちらか一方または両方がビデオエンドポイントになっている場合、そのコールは必ずオーディオとして動作します。</p>

■ トランクの設定値

表 63-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)



フィールド	説明
Retry Video Call as Audio	<p>このチェックボックスは、コールを受信するビデオ エンドポイントのみに適用されます。トランクの場合、このチェックボックスは Cisco CallManager から受信されたコールには適用されますが、Wide Area Network (WAN; ワイドエリア ネットワーク) から受信されたコールには適用されません。</p> <p>このチェックボックスはデフォルトでオンになっています。このデバイスは、ビデオ コールをコール制御に送信して再ルーティングする直前に、オーディオ コールとして (ビデオ コールとして接続できない場合) そのビデオ コールをリトライします。</p> <p>このチェックボックスをオフにすると、ビデオとして接続に失敗したビデオ コールは、オーディオ コールとしての確立を試行しません。この場合、コールはコール制御に失敗し、コール制御は Automatic Alternate Routing (AAR) およびルート / ハント リスト経由でコールをルーティングします。</p>
Wait for Far-End H.245 Terminal Capability Set (H.225 トランクのみ)	<p>このフィールドは H.323 デバイスのみに適用されます。</p> <p>このチェックボックスでは、Cisco CallManager が遠端 H.245 Terminal Capability Set を受信した後に、その H.245 Terminal Capability Set を送信するように指定します。このチェックボックスはデフォルトでオンになっています。Cisco CallManager がケイバビリティ交換を実行するように指定するには、このチェックボックスをオフにします。</p>
Path Replacement Support	<p>このチェックボックスは、Tunneled Protocol ドロップダウン リストボックスから QSIG オプションを選択した場合に、H.225 トランク、ゲートキーパー制御のトランク、およびゲートキーパー非制御のトランクに対して表示されます。この設定は QSIG トンネル (Annex M.1) と連動し、パス変換を使用するコールに H.323 以外の情報を確実に送信します。</p> <p> (注) デフォルト設定では、このチェックボックスはオフです。QSIG Tunneled Protocol オプションを選択した場合、このチェックボックスは自動的にオンになります。</p>

表 63-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
コールルーティング情報	
着信コール	
Significant Digits	<p>有効数字は、着信コールで保持される最終数字の桁数を表します。このフィールドは、着信コールの処理に使用されます。H.323 デバイスに着信するコールのルーティングに使用される数字の桁数を指定します。</p> <p>収集する有効数字の桁数を選択します (0 ~ 32)。Cisco CallManager は、コールされた番号の右側 (最後の桁) から有効数字をカウントします。</p>
Calling Search Space	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なトランクのコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースは、収集された (発信) 番号のルーティング方法を決定するために検索されるルートパーティションの集合を指定します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリングサーチスペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズパラメータで設定された数よりもコーリングサーチスペースの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リスト ボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Calling Search Space ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにコーリングサーチスペース名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるコーリングサーチスペースのリストで、希望するコーリングサーチスペース名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リストボックスの最大項目を設定するには、System > Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。</p>
AAR Calling Search Space	<p>自動代替ルーティング (AAR) の実行時にデバイスが使用するコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号をルーティングする方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。</p>

■ トランクの設定値

表 63-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)


フィールド	説明
Prefix DN	<p>着信コールの着信側番号に追加されるプレフィックス番号を入力します。</p> <p>Cisco CallManager は、まず、Significant Digits 設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。</p>
Redirecting Number IE Delivery - Inbound	<p>Cisco CallManager に対する受信 SETUP メッセージの Redirecting Number IE を受取するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>Cisco CallManager に対する受信 SETUP メッセージの Redirecting Number IE を除外するには、チェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合のみで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) デフォルトでは、このチェックボックスはオンです。Tunneled Protocol ドロップダウン リスト ボックスで QSIG オプションを選択した場合は、このチェックボックスをオンにできません。</p>
Enable Inbound FastStart	<p>着信コールで H.323 FastStart コール接続を可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルトでは、H.323 ゲートウェイ用のチェックボックスはオフになっています。</p> <p>クラスタ間コールの場合、他のクラスタの Cisco CallManager サーバで Enable Inbound FastStart チェックボックスをオンにして、外部 FastStart を機能させる必要があります。</p> <p>他のクラスタの Cisco CallManager 3.3(2) サーバをサポート パッチ B で更新した場合、3.3(2)spB が内部 FastStart 機能をクラスタ間トランクでサポートしないため、内部 FastStart を使用可能にしないでください。</p>

表 63-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
発信コール	
Calling Party Selection	<p>ゲートウェイ上の発信コールで送信される電話番号を選択します。</p> <p>次のオプションは、どの電話番号が送信されるかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Originator : 発信側デバイスの電話番号を送信します。 • First Redirect Number : 転送デバイスの電話番号を送信します。 • Last Redirect Number : 最後にコールを転送するデバイスの電話番号を送信します。 • First Redirect Number (External) : リダイレクト元のデバイスの外部電話番号を送信します。 • Last Redirect Number (External) : コールをリダイレクトする最後のデバイスの外部電話番号を送信します。
Calling Line ID Presentation	<p>Cisco CallManager は、着信側の番号表示画面での発信側番号の表示を制御するために、補足サービスとして Calling Line ID Presentation(CLIP) を使用します。</p> <p>CLIP の設定を変更しない場合は、Default を選択します。発信側番号情報を表示する場合は、Allowed を選択します。発信側番号情報を表示しない場合は、Restricted を選択します。</p>

■ トランクの設定値

表 63-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
Called party IE number type unknown	<p>着信側電話番号内の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager は、着信側電話番号 (DN) のタイプを設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定は、着信側電話番号が国別以外の番号計画タイプに符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco CallManager : Cisco CallManager が電話番号のタイプを設定します。 • Unknown : ダイヤリングプランが不明の場合に使用します。 • National : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • International : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • Subscriber : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。

表 63-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値（続き）

フィールド	説明
Calling party IE number type unknown	<p>発信側電話番号内の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager は、発信側電話番号（DN）のタイプを設定します。ダイヤルプラン（たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン）について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定値は、発信側電話番号が国別以外の番号計画タイプに符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco CallManager : Cisco CallManager が電話番号のタイプを設定します。 • Unknown : ダイヤリングプランが不明の場合に使用します。 • National : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • International : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • Subscriber : 短縮登録者番号を使用して登録者にダイヤルしている場合に使用します。

■ トランクの設定値

表 63-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
Called Numbering Plan	<p>着信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager は、着信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定は、着信側番号計画が国別以外の番号計画に符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco CallManager : Cisco CallManager が電話番号の Numbering Plan を設定します。 • ISDN : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • National Standard : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • Private: プライベートネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。 • Unknown : ダイヤリングプランが不明の場合に使用します。

表 63-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
Calling Numbering Plan	<p>発信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager は、発信側 DN の番号計画を設定します。ダイヤルプラン (たとえば、NANP やヨーロッパのダイヤルプラン) について十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager は、ヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないので、ヨーロッパでは、デフォルト値の変更が必要になる場合があります。この設定は、発信側番号計画が国別以外の番号計画に符号化されることを期待する PBX への接続時にも変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco CallManager : Cisco CallManager が電話番号の Numbering Plan を設定します。 • ISDN : 使用国のダイヤリングプラン以外の地域でダイヤルする場合に使用します。 • National Standard : 使用国のダイヤリングプランの地域内でダイヤルする場合に使用します。 • Private: プライベートネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。 • Unknown : ダイヤリングプランが不明の場合に使用します。
Caller ID DN	<p>トランクからの発信コールで、発信者 ID をフォーマットするのに使用するパターンを、0 ~ 24 桁で入力します。</p> <p>たとえば、北米では次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 555XXXX = 可変発信者 ID。ここで、X は内線番号を表します。この番号が指定されていない場合、セントラル オフィス (CO) は、エリアコードと共にこの番号を追加します。 • 5555000 = 固定発信者 ID。コールの発信元の正確な内線番号の代わりに、Corporate 番号を送信する場合に使用します。この番号が指定されていない場合、CO は、エリアコードと共にこの番号を追加します。

■ トランクの設定値

表 63-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)



フィールド	説明
Display IE Delivery	<p>発信側と着信側のネーム デリバリ サービスに対する SETUP および CONNECT メッセージ内で、表示 Information Element (IE; 情報要素) のデリバリを可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) デフォルト設定では、このチェックボックスはオンです。Tunneled Protocol ドロップダウン リスト ボックスで QSIG オプションを選択した場合は、このチェックボックスをオンにできません。</p>
Redirecting Number IE Delivery - Outbound	<p>Call Forward が発生したときに、コールの最初の転送番号および転送理由を示すために、Cisco CallManager からの Redirecting Number IE を送信 SETUP メッセージに含めるには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>送信 SETUP メッセージから最初の転送番号と転送理由を除外するには、チェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合のみで Redirecting Number IE を使用します。ボイスメッセージ システムが Redirecting Number IE をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) デフォルト設定では、このチェックボックスはオンです。Tunneled Protocol ドロップダウン リスト ボックスで QSIG オプションを選択した場合は、このチェックボックスをオンにできません。</p>
Enable Outbound FastStart	<p>発信コールで H.323 FastStart 機能を使用可能にするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルトでは、H.323 ゲートウェイまたはトランク用のチェックボックスはオフになっています。</p> <p>Enable Outbound FastStart チェックボックスがオンの場合、Media Termination Point Required、Media Resource Group List、および Codec for Outbound FastStart を設定する必要があります。</p>

表 63-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
Codec For Outbound FastStart	<p>発信 FastStart コール用に H.323 デバイスと共に使用するため、次のいずれかのコーデックを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • G711 mu-law 64K (デフォルト) • G711 a-law 64K • G723 • G729 • G729AnnexA • G729AnnexB • G729AnnexA-AnnexB <p>Enable Outbound FastStart チェックボックスがオンの場合、発信 FastStart コールをサポートしているコーデックを選択する必要があります。</p>
ゲートキーパー情報	
(ゲートキーパーによって制御された H.225 トランクまたはクラスタ間トランク)	
Gatekeeper Name	このトランクを制御するゲートキーパーを選択します。
Terminal Type	<p>このトランクが制御するデバイスすべてのタイプを指定します。</p> <p>通常のトランク コール アドミッション制御には、このフィールドに常に Gateway を設定します。</p>

■ トランクの設定値

表 63-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
Technology Prefix	<p>ゲートキーパーで gw-type-prefix を設定するときに、各 Cisco CallManager の IP アドレスを入力する必要をなくするために使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> このフィールドをブランクのままにする (デフォルト値) 場合は、ゲートキーパーで gw-type-prefix コマンドを入力するときに、ゲートキーパーに登録できる各 Cisco CallManager の IP アドレスを指定する必要があります。 このフィールドを使用する場合は、ここで入力した値が、ゲートキーパーの gw-type-prefix コマンドで指定した <i>type-prefix</i> 値と正確に一致することを確認します。 <p>たとえば、このフィールドをブランクのままにした場合、IP アドレス 10.1.1.2 と 11.1.1.3 を持つ 2 つの Cisco CallManager があるときは、ゲートキーパーで次の gw-type-prefix コマンドを入力します。</p> <pre>gw-type-prefix 1#* default-technology gw ip 10.1.1.2 gw ip 11.1.1.3</pre> <p>このフィールドに 1#* を入力した場合、ゲートキーパーで次の gw-type-prefix コマンドを入力します。</p> <pre>gw-type-prefix 1#* default-technology</pre>

表 63-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値（続き）

フィールド	説明
Zone	<p>Cisco CallManager が登録されるゲートキーパーに関して特定ゾーンを要求するには、このオプション フィールドを使用します。Zone は、このゾーンと別のゾーンとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> このフィールドに値を入力しない場合は、ゲートキーパー上の zone subnet コマンドによって、Cisco CallManager が登録されるゾーンが決まります。大部分の設定では、デフォルト値をお勧めします。 ゲートキーパー上の特定のゾーンに Cisco CallManager を登録する場合は、zone コマンドを使用してゲートキーパー上で設定されたゾーン名と正確に一致する値を入力します。このフィールドにゾーン名を指定すると、ゲートキーパーに登録される各 Cisco CallManager に対して、zone subnet コマンドを入力する必要がなくなります。 <p>詳細については、使用しているゲートキーパーのコマンド リファレンス マニュアルを参照してください。</p>

リモート Cisco CallManager 情報

（ゲートキーパーによって制御されないクラスタ間トランク）



（注） Cisco CallManager では、この項のエントリが、指定した順序で使用されないことがあります。Cisco CallManager では、HostNames が解決される順序に基づいてこの情報の順序が変更される場合があります。ユーザが RTMT Device Search または SOAP RisPort インターフェイスを使用してクラスタ間トランクの「リモート Cisco CallManager」を表示する場合、表示される情報が Cisco CallManager Administration の場合と異なることがあります。3 つの Cisco CallManager サーバの順序が異なることがあったり、または Cisco CallManager Administration デバイスの Web ページでホスト名として表されているサーバが、RTMT Device Search または SOAP RisPort で、対応する IP アドレスに変更されることがあります。

Server 1 IP Address/Host Name	このトランクがアクセスする最初のリモート Cisco CallManager の IP アドレスまたはホスト名を入力します。
-------------------------------	--

■ トランクの設定値

表 63-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)




フィールド	説明
Server 2 IP Address/Host Name	<p>このトランクがアクセスする 2 番目のリモート Cisco CallManager の IP アドレスまたはホスト名を入力します。</p> <p> (注) ゲートキーパーによって制御されないこのクラスタ間トランクが、ゲートキーパーによって制御されないリモートクラスタ間トランクのデバイスプールにアクセスし、そのデバイスプールに 2 番目の Cisco CallManager ノードがある場合は、このフィールドに 2 番目のリモート Cisco CallManager の IP アドレスとホスト名を入力する必要があります。</p>
Server 3 IP Address/Host Name	<p>このトランクがアクセスする 3 番目のリモート Cisco CallManager の IP アドレスまたはホスト名を入力します。</p> <p> (注) ゲートキーパーによって制御されないこのクラスタ間トランクが、ゲートキーパーによって制御されないリモートクラスタ間トランクのデバイスプールにアクセスし、そのデバイスプールに 3 番目の Cisco CallManager ノードがある場合は、このフィールドに 3 番目のリモート Cisco CallManager の IP アドレスとホスト名を入力する必要があります。</p>
Multilevel Precedence and Preemption (MLPP)	
MLPP Domain	<p>このデバイスに関連付けられた MLPP ドメインに対応する 0 ~ FFFFFFFF の 16 進数の値を入力します。このフィールドをブランクのままにすると、このデバイスの MLPP ドメインは、このデバイスのデバイスプールに設定された値から継承されます。デバイスプールに MLPP ドメインの設定がない場合、このデバイスの MLPP ドメインは、MLPP Domain Identifier エンタープライズパラメータに設定された値から継承されます。</p>

表 63-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値（続き）

フィールド	説明
MLPP Indication	<p>優先トーンを再生できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその再生機能を使用するかどうかを指定します（使用可能な場合）。</p> <p>ドロップダウン リストボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Default：このデバイスは、その MLPP Indication 設定をこのデバイスのデバイス プールから継承します。 • Off：このデバイスは、MLPP 優先コールの表示の制御も処理もしません。 • On：このデバイスは、MLPP 優先コールの表示を制御し処理します。 <p> (注) MLPP Indication を <i>Off</i> または <i>Default</i> (デフォルトが <i>Off</i> の場合) に設定し、かつ MLPP Preemption を <i>Forceful</i> に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。</p>

■ トランクの設定値

表 63-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)



フィールド	説明
MLPP Preemption(323 ICT では使用不可)	<p data-bbox="440 287 1247 350">進行中のコールを優先できるデバイスが MLPP 優先コールの発信時にその優先機能を使用するかどうかを指定します (使用可能な場合)。</p> <p data-bbox="440 375 1247 438">ドロップダウン リストボックスにある次のオプションの中から、デバイスに割り当てる設定を選択します。</p> <ul data-bbox="454 462 1247 673" style="list-style-type: none"> • Default : このデバイスは、その MLPP Preemption 設定をこのデバイスのデバイス プールから継承します。 • Disabled : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先しないようにします。 • Forceful : このデバイスは、優先順位の高いコールの完了に必要な場合、優先順位の低いコールを優先するようにします。 <p data-bbox="440 690 1247 824"> (注) MLPP Indication を <i>Off</i> または <i>Default</i> (デフォルトが <i>Off</i> の場合) に設定し、かつ MLPP Preemption を <i>Forceful</i> に設定するという組み合わせでデバイスを設定することはできません。</p> <p data-bbox="440 841 1247 971"> (注) 現在、Trunk ウィンドウでは、MLPP Preemption フラグが有効になっていません。ロケーションでは、MLPP Preemption フラグに基づいて優先順位ロジックが制御されます。</p>

表 63-1 H.225 トランクとクラスタ間トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
UUIE の設定値	
Passing Precedence Level Through UUIE	<p>MLPP 情報が、ゲートキーパーによって制御されないトランク全体で UUIE フィールドを通過できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。このボックスを使用して、複数の Cisco CallManager クラスタで DRSN スイッチを相互使用できるようにします。</p> <p>このチェックボックスは、ゲートキーパーによって制御されないクラスタ間トランクに対してのみ有効です。</p> <p>デフォルト値は、オフです。</p>
Security Access Level	<p>セキュリティ アクセス レベルの値を入力します。有効な値は 00 ~ 99 です。デフォルト値は 2 です。</p> <p>このフィールドは、Passing Precedence Level Through UUIE チェックボックスが、ゲートキーパーによって制御されないクラスタ間トランクに対してオンになっている場合にのみ使用できます。</p>

■ トランクの設定値

表 63-2 では、SIP トランクの設定値について説明します。

表 63-2 SIP トランクの設定値


フィールド	説明
デバイス情報	
Device Name	このトランクに固有の識別子を入力します。
Description	トランクの記述名を入力します。
Device Pool	<p>トランク用に適切なデバイス プールを選択します。</p> <p>トランク用のデバイス プールは、トランクがコールの負荷を動的に分散するために使用する Cisco CallManager のリストを指定します。</p> <p> (注) トランクのデバイス プールに属さない Cisco CallManager に登録された電話機からのコールは、さまざまな発信コールに対してこのデバイス プールのさまざまな Cisco CallManager を使用します。Cisco CallManager ノードの選択は、順不同で行われます。</p> <p>トランクのデバイス プールに属している Cisco CallManager に登録された電話機からのコールは、その Cisco CallManager が起動し動作していれば、発信コールに対して同じ Cisco CallManager ノードを使用します。</p>
Call Classification	<p>このトランクを経由する着信コールがネットワークをオフ (OffNet) またはオン (OnNet) と見なすかどうかを、このパラメータによって決定します。</p> <p>Call Classification フィールドが Use System Default に設定されている場合、Cisco CallManager clusterwide サービス パラメータの設定値 (Call Classification) により、トランクが OnNet または OffNet かどうか決定します。</p> <p>このフィールドは、コールが OnNet または OffNet の場合、それぞれの警告トーンを提供します。</p> <p>発信コールを OnNet または OffNet として分類するには、このパラメータと Route Pattern Configuration ウィンドウでの設定を併用します。</p>

表 63-2 SIP トランクの設定値 (続き)


フィールド	説明
Media Resource Group List	メディア リソース グループを優先順に並べたグループが表示されます。アプリケーションは、メディア リソース グループ リストで定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから、必要なメディア リソース、たとえば、Music On Hold サーバを選択します。
Location	トランクに適したロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションと中央ロケーション (つまり、ハブ) との間のコールに使用可能な合計帯域幅を指定します。ロケーションを None に設定すると、無制限に使用可能な帯域幅を指定することになります。
AAR Group	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を None にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。
Media Termination Point Required	このチェックボックスはデフォルトでオンになっており、オフにすることはできません。SIP の機能性、および RFC 2833 RTP Payload for DTMF Digits, Telephony Tones and Telephony Signals との準拠性を実現するには、RFC 2833 準拠のメディア ターミネーション ポイントが必要です。
Destination Address	このフィールドには、プロキシ サーバの IP アドレス、Fully Qualified Domain Name (FQDN; 完全修飾ドメイン名)、または Domain Name System Server (DNS SRV; ドメイン ネーム システム サーバ) アドレスを指定します。このフィールドは発信コールのみに適用されます。着信コールは宛先アドレスを使用しません。
Destination Address is an SRV	宛先アドレスに DNS SRV アドレスを指定する場合に、このチェックボックスをオンにします。
Destination Port	宛先ポートを選択します。このフィールドに入力する値は、必ず 1024 ~ 65535 の範囲で一意的なポートを指定してください。 宛先アドレスが DNS SRV ポートの場合、値を入力する必要はありません。デフォルトの 5060 は SIP ポートを示します。

■ トランクの設定値

表 63-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
Incoming Port	着信ポートを選択します。このフィールドには、1024 ~ 65535 の範囲で一意のポートを入力できます。着信 TCP および UDP SIP メッセージに使用するデフォルトのポート番号は 5060 です。
Outgoing Transport Type	UDP または TCP の任意の発信トランスポート モードを指定します。
Preferred Originating Codec	任意の発信コーデックを指定します。
コールルーティング情報	
着信コール	
Significant Digits	有効数字は、着信コールで保持される最終数字の桁数を表します。このフィールドは、着信コールの処理に使用されます。SIP デバイスに着信するコールのルーティングに使用される数字の桁数を指定します。 収集する有効数字の桁数を選択します (0 ~ 32)。Cisco CallManager は、コールされた番号の右側 (最後の桁) から有効数字をカウントします。
Connected Line ID Presentation	Cisco CallManager は、接続された側の番号を発信側に提供するために、補足サービスとして Connected Line ID Presentation (COLP) を使用します。SIP トランク レベルの設定は、call-by-call 設定に優先します。 接続された回線の情報を Cisco CallManager が送信するようにする場合は、Allowed を選択します。Allowed がデフォルトです。 接続された回線の情報を Cisco CallManager が送信しないようにする場合は、Restricted を選択します。
Connected Name Presentation	Cisco CallManager は、接続された側の名前を発信側に提供するために、補足サービスとして Connected Name ID Presentation (CONP) を使用します。SIP トランク レベルの設定は、call-by-call 設定に優先します。 接続された名前を Cisco CallManager が送信するようにする場合は、Allowed を選択します。Allowed がデフォルトです。 接続された名前を Cisco CallManager が送信しないようにする場合は、Restricted を選択します。

表 63-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
Calling Search Space	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なトランクのコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースは、収集された(発信)番号のルーティング方法を決定するために検索されるルートパーティションの集合を指定します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリングサーチスペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズパラメータで設定された数よりもコーリングサーチスペースの数が多い場合、省略記号ボタン (...) がドロップダウン リスト ボックスの横に表示されます。... ボタンをクリックすると、Select Calling Search Space ウィンドウが表示されます。List items where Name contains フィールドにコーリングサーチスペース名の一部を入力します。Select item to use ボックスに表示されるコーリングサーチスペースのリストで、希望するコーリングサーチスペース名をクリックし、OK をクリックします。</p> <p> (注) リストボックスの最大項目を設定するには、System > Enterprise Parameters の順に選択し、CCMAdmin Parameters を選択します。</p>
AAR Calling Search Space	<p>自動代替ルーティング (AAR) の実行時にデバイスが使用するコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された(発信)番号をルーティングする方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。</p>
Prefix DN	<p>着信コールの着信側番号に追加されるプレフィックス番号を入力します。</p> <p>Cisco CallManager は、まず、Significant Digits 設定値に従って番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。</p>

■ トランクの設定値

表 63-2 SIP トランクの設定値 (続き)



フィールド	説明
Redirecting Number Delivery - Inbound	<p>Cisco CallManager に対する受信 INVITE メッセージの Redirecting Number を受領するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>Cisco CallManager に対する受信 INVITE メッセージの Redirecting Number を除外するには、チェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合のみで Redirecting Number を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) デフォルトでは、このチェックボックスはオフです。</p>
発信コール	
Calling Party Selection	<p>ゲートウェイ上の発信コールで送信される電話番号を選択します。</p> <p>次のオプションは、どの電話番号が送信されるかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Originator : 発信側デバイスの電話番号を送信します。 • First Redirect Number : 転送デバイスの電話番号を送信します。 • Last Redirect Number : 最後にコールを転送するデバイスの電話番号を送信します。 • First Redirect Number (External) : リダイレクト元のデバイスの外部電話番号を送信します。 • Last Redirect Number (External) : コールをリダイレクトする最後のデバイスの外部電話番号を送信します。
Calling Line ID Presentation	<p>Cisco CallManager は、発信側の番号を提供するために、補足サービスとして Calling Line ID Presentation (CLIP) を使用します。SIP トランクレベルの設定は、call-by-call 設定に優先します。</p> <p>発信側番号情報を Cisco CallManager が送信するようにする場合は、Allowed を選択します。Allowed がデフォルトです。</p> <p>発信側番号情報を Cisco CallManager が送信しないようにする場合は、Restricted を選択します。</p>

表 63-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
Calling Name Presentation	<p>Cisco CallManager は、発信側の名前を提供するために、補足サービスとして Calling Name ID Presentation (CNIP) を使用します。SIP トランクレベルの設定は、call-by-call 設定に優先します。</p> <p>発信側名前情報を Cisco CallManager が送信するようにする場合は、Allowed を選択します。Allowed がデフォルトです。</p> <p>発信側名前情報を Cisco CallManager が送信しないようにする場合は、Restricted を選択します。</p>
Caller ID DN	<p>トランクからの発信コールで、発信者 ID をフォーマットするのに使用するパターンを、0 ~ 24 桁で入力します。</p> <p>たとえば、北米では次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none">• 555XXXX = 可変発信者 ID。ここで、X は内線番号を表します。この番号が指定されていない場合、セントラル オフィス (CO) は、エリアコードと共にこの番号を追加します。• 5555000 = 固定発信者 ID。コールの発信元の正確な内線番号の代わりに、Corporate 番号を送信する場合に使用します。この番号が指定されていない場合、CO は、エリアコードと共にこの番号を追加します。
Caller Name	<p>このフィールドで選択した値は、発信元の Cisco CallManager デバイスから受信された発信者名を上書きします。</p>

■ トランクの設定値

表 63-2 SIP トランクの設定値 (続き)

フィールド	説明
Redirecting Number Delivery - Outbound	<p>Call Forward が発生したときに、コールの最初の着信側番号および転送理由を示すために、Cisco CallManager からの Redirecting Number を送信 INVITE メッセージに含めるには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>送信 INVITE メッセージから最初の転送番号と転送理由を除外するには、チェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイスメッセージ統合のみで Redirecting Number を使用します。ボイスメッセージシステムが Redirecting Number をサポートするように設定した場合は、チェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) デフォルト設定では、このチェックボックスはオフです。</p>
Multilevel Precedence and Preemption (MLPP)	
MLPP Domain	<p>このデバイスに関連付けられた MLPP ドメインに対応する 0 ~ FFFFFFFF の 16 進数の値を入力します。このフィールドをブランクのままにすると、このデバイスの MLPP ドメインは、このデバイスのデバイス プールに設定された値から継承されます。デバイス プールに MLPP ドメインの設定がない場合、このデバイスの MLPP ドメインは、MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータに設定された値から継承されません。</p>

関連項目

- [トランクの検索 \(P.63-2\)](#)
- [トランクの追加 \(P.63-4\)](#)
- [トランクの削除 \(P.63-5\)](#)
- [トランクのリセット \(P.63-9\)](#)
- [トランクの変更 \(P.63-7\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ゲートキーパーとトランク」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco CallManager 内でのゲートキーパーとトランクの設定」



電話ボタン テンプレートの設定

Cisco CallManager には、デフォルトの電話ボタン テンプレートがいくつか組み込まれています。電話機を追加するときに、これらのテンプレートから 1 つを選んで電話機に割り当てることができます。あるいは、テンプレートを新規に作成することができます。

テンプレートを新規に作成したものを使用すると、共通するボタン設定を大量の電話機に容易に割り当てることができます。たとえば、ある会社で会議機能を使用しない場合は、このボタンを別の機能（たとえば、短縮ダイヤル）に割り当て直すテンプレートを作成し、電話機にその機能を容易に割り当てることができます。

どの電話機にも、最低 1 回線が割り当てられていることを確認してください。通常、この回線は「ボタン 1」です。Cisco IP Phone のモデルによっては、追加回線を電話機に割り当てることができます。また、電話機には、一般に短縮ダイヤルや自動転送などのいくつかの機能がありますが、Cisco IP Phone でもこれらの機能はそれぞれのボタンに割り当てられます。

次の各項では、電話ボタン テンプレートの使用について説明します。

- [デバイス デフォルトの更新 \(P.6-2\)](#)
- [電話ボタン テンプレートの検索 \(P.64-3\)](#)
- [電話ボタン テンプレートの追加 \(P.64-5\)](#)
- [電話ボタンの設定値 \(P.64-7\)](#)
- [電話ボタン テンプレートの変更 \(P.64-8\)](#)

- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話ボタン テンプレート」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話機設定チェックリスト」

電話ボタン テンプレートの検索

ネットワーク内にはいくつかの電話ボタン テンプレートが存在することがあるので、Cisco CallManager Administration では、固有の条件を指定して、特定の電話ボタン テンプレートを見つけることができます。電話ボタン テンプレートを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、電話ボタン テンプレートの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、電話ボタン テンプレートの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 Device > Device Settings > Phone Button Template の順に選択します。

Find and List Phone Button Templates ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、電話ボタン テンプレートを検索します。

ステップ 2 最初の Find phone button templates where name ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)

2 番目の Find where phone button template is ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- Both
- Standard
- Non-Standard

■ 電話ボタン テンプレートの検索

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、**Find** をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。

**ヒント**

データベースに登録されている電話ボタン テンプレートをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。

検出された電話ボタン テンプレートのリストが、次の項目別に表示されます。

- Phone Button Template icon
- Phone Button Template Name

**(注)**

該当する電話ボタン テンプレートの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Phone Button Templates ウィンドウから複数の非標準電話ボタン テンプレートを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべての電話ボタン テンプレートを削除できます。削除できる電話ボタン テンプレートは、左側の列にチェックボックスが表示されているものだけです。それ以外の電話ボタン テンプレートはすべて、標準の読み取り専用テンプレートとして機能します。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致する Phone Button Template icon、Phone Button Template Name、または Description をクリックします。

選択した電話ボタン テンプレートがウィンドウに表示されます。

関連項目

- [デバイス デフォルトの更新 \(P.6-2\)](#)
- [電話ボタン テンプレートの追加 \(P.64-5\)](#)
- [電話ボタンの設定値 \(P.64-7\)](#)
- [電話ボタン テンプレートの変更 \(P.64-8\)](#)

- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話ボタン テンプレート」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話機設定チェックリスト」

電話ボタン テンプレートの追加

Cisco CallManager には、Cisco IP Phone の各モデルに対応したデフォルト テンプレートが複数組み込まれています。電話機を追加するときに、これらのテンプレートのいずれかを電話機に割り当てることができます。または、独自のテンプレートを作成することもできます。

始める前に

電話ボタン テンプレートをカスタムで作成する場合は、電話ボタン テンプレートの新規作成ガイドライン（『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話ボタン テンプレートのカスタマイズのガイドライン」）を参照してください。

手順

ステップ 1 Device > Device Settings > Phone Button Template の順に選択します。

Find and List Phone Button Templates ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ウィンドウの右上にある Add a New Phone Button Template リンクをクリックします。

Phone Button Template Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 Phone Button Template ドロップダウン リスト ボックスから、テンプレートを選択し、Copy をクリックして新しいテンプレートを作成します。

新しいテンプレートは、既存のテンプレートからまったく同じものがコピーされます。新しいテンプレートに新しい名前を割り当てる必要があります。オリジナルのテンプレートとは異なるテンプレートが必要な場合には、この新規のテンプレートを変更する必要があります。

■ 電話ボタン テンプレートの追加

ステップ 4 該当する設定値を更新します (表 64-1 を参照)。

ステップ 5 **Insert** をクリックして、新規のテンプレートを追加します。

ステップ 6 **View Button Layout** リンクをクリックして、ボタン レイアウトを確認します。


関連項目

- [電話ボタン テンプレートの検索 \(P.64-3\)](#)
- [電話ボタン テンプレートの変更 \(P.64-8\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話ボタン テンプレートのカスタマイズのガイドライン」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話機設定チェックリスト」

電話ボタンの設定値

表 64-1 では、電話ボタンの設定値について説明します。

表 64-1 電話ボタンの設定値

フィールド	説明
Button Template Name	テンプレートを識別するために Cisco CallManager が使用する固有の名前を入力します。
Feature	テンプレートに指定する電話ボタンの機能を選択します。利用可能な機能には、Speed Dial、Line、None、Privacy、Service URL があります。  (注) デフォルト電話ボタン テンプレートのボタン機能は、変更できません。
Label	ボタンの説明を入力します。

関連項目

- [デバイス デフォルトの更新 \(P.6-2\)](#)
- [電話ボタン テンプレートの検索 \(P.64-3\)](#)
- [電話ボタン テンプレートの追加 \(P.64-5\)](#)
- [電話ボタン テンプレートの変更 \(P.64-8\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話ボタン テンプレート」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話機設定チェックリスト」

電話ボタン テンプレートの変更

管理者が作成したカスタム テンプレートは変更できます。また、カスタム電話ボタン テンプレートのラベルも変更できます。デフォルト テンプレートのボタンの機能は、変更できません。

カスタム テンプレートの名前変更、カスタム テンプレートの更新による機能、回線、短縮ダイヤルの追加または削除、および使用しなくなったテンプレートの削除を実行する手順は、次のとおりです。

電話機 (Cisco IP Phone モデル 7960) のテンプレートを作成する場合は、自動登録中にその電話機のデフォルト テンプレートを変更できます。P.6-2 の「[デバイス デフォルトの更新](#)」を参照してください。

関連項目

- [電話ボタン テンプレートの検索 \(P.64-3\)](#)
- [電話ボタン テンプレートの名前変更 \(P.64-8\)](#)
- [電話ボタン テンプレートの削除 \(P.64-10\)](#)
- [電話ボタン テンプレートの更新 \(P.64-12\)](#)

電話ボタン テンプレートの名前変更

電話ボタン テンプレートの名前を変更する手順は、次のとおりです。テンプレート自体の名前を変更しても、そのテンプレートを使用している電話機に影響を与えることはありません。このテンプレートを使用する Cisco IP Phone はすべて、テンプレートの名前が変更された後も、このテンプレートを引き続き使用します。

手順

- ステップ 1** [P.64-3 の「電話ボタン テンプレートの検索」](#)の手順を使用して、電話ボタン テンプレートを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、名前を変更する電話ボタン テンプレートを選択します。



(注) 名前を変更できる電話ボタン テンプレートは、左側の列にチェックボックスが表示されているものだけです。それ以外の電話ボタン テンプレートはすべて、標準の読み取り専用テンプレートとして機能します。

Phone Button Template Configuration ページが表示されます。

ステップ 3 Button Template Name フィールドに、新しい名前を入力します。

ステップ 4 Update をクリックします。

テンプレートが再表示され、新しい名前を表示します。

関連項目

- [電話ボタン テンプレートの検索 \(P.64-3\)](#)
- [電話ボタン テンプレートの追加 \(P.64-5\)](#)
- [電話ボタン テンプレートの削除 \(P.64-10\)](#)
- [電話ボタン テンプレートの更新 \(P.64-12\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話ボタン テンプレートのカスタマイズのガイドライン」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話機設定チェックリスト」

電話ボタン テンプレートの削除

電話ボタン テンプレートを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

システム内の電話機に現在割り当てられていない電話テンプレートを削除することができます。少なくとも 1 つのデバイスまたはデバイス プロファイルが割り当てられているテンプレート、またはモデルのデフォルト テンプレート (Device Defaults Configuration ウィンドウに指定されているもの) は、削除できません。

電話ボタン テンプレートを使用しているデバイスを検索するには、Phone Button Template Configuration ウィンドウの **Dependency Records** リンクをクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。使用されている電話ボタン テンプレートを削除しようとする、Cisco CallManager はエラー メッセージを表示します。現在使用されている電話ボタン テンプレートを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除する電話ボタン テンプレートを使用しているデバイスすべてに、別の電話ボタン テンプレートを割り当てる。[P.62-12 の「電話機の更新」](#)を参照してください。
- 削除する電話ボタン テンプレートを使用しているデバイスを削除する。[P.62-13 の「電話機の削除」](#)を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** [P.64-3 の「電話ボタン テンプレートの検索」](#)の手順を使用して、電話ボタン テンプレートを検索します。
 - ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除する電話ボタン テンプレートを選択します。



(注) 削除できる電話ボタン テンプレートは、左側の列にチェックボックスが表示されているものだけです。それ以外の電話ボタン テンプレートはすべて、標準の読み取り専用テンプレートとして機能します。

Phone Button Template Configuration ページが表示されます。

ステップ 3 Delete をクリックします。

そのテンプレートを削除するかどうか確認するメッセージが表示されます。

ステップ 4 OK をクリックして、テンプレートを削除します。

そのテンプレートが削除されたことを確認するメッセージが表示されます。

ステップ 5 OK をクリックして、処理を続行します。

関連項目

- [電話ボタン テンプレートの検索 \(P.64-3\)](#)
- [電話ボタン テンプレートの追加 \(P.64-5\)](#)
- [電話ボタン テンプレートの更新 \(P.64-12\)](#)
- [電話ボタン テンプレートの名前変更 \(P.64-8\)](#)

電話ボタン テンプレートの更新

カスタム電話ボタン テンプレートを更新することにより、機能を追加または削除したり、回線と短縮ダイヤルを追加または削除したり、機能、回線、短縮ダイヤルを電話機上の別のボタンに割り当てることができます。デフォルト電話テンプレートのボタン ラベルは変更することができますが、ボタンの機能は変更できません。電話テンプレートを更新する場合には、必ず、影響を受けるユーザにその変更を知らせてください。

電話ボタン テンプレートを更新する手順は、次のとおりです。



(注) テンプレートを更新すると、その変更は、そのテンプレートを使用するすべての電話機に反映されます。

手順

ステップ 1 P.64-3 の「電話ボタン テンプレートの検索」の手順を使用して、電話ボタン テンプレートを検索します。

ステップ 2 一致するレコードのリストから、更新する電話ボタン テンプレートを選択します。



(注) 更新できる電話ボタン テンプレートは、左側の列にチェックボックスが表示されているものだけです。それ以外の電話ボタン テンプレートはすべて、標準の読み取り専用テンプレートとして機能します。

Phone Button Template Configuration ページが表示されます。

ステップ 3 該当する設定値を更新します (表 64-1 を参照)。

ステップ 4 Update をクリックします。

変更が割り当てられたテンプレートが表示されます。



(注) テンプレートの更新後、そのテンプレートを使用しているデバイスを再起動する必要があります。

ステップ 5 Restart Devices をクリックして、更新された電話ボタン テンプレートを適用します。

関連項目

- [電話ボタン テンプレートの検索 \(P.64-3\)](#)
- [電話ボタン テンプレートの追加 \(P.64-5\)](#)
- [電話ボタン テンプレートの削除 \(P.64-10\)](#)
- [電話ボタン テンプレートの名前変更 \(P.64-8\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話ボタン テンプレートのカスタマイズのガイドライン」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話機設定チェックリスト」

Cisco IP Phone Expansion Module 7914 Phone ボタン テンプレートの設定

標準 7960 電話ボタン テンプレートを使用して、Cisco IP Phone Expansion Module 7914 の電話ボタン テンプレートを作成できます。手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 P.64-3 の「電話ボタン テンプレートの検索」の手順を使用して、電話ボタン テンプレートを検索します。

ステップ 2 一致するレコードのリストから、標準 7960 電話ボタン テンプレートを見つけて、Copy アイコンをクリックします。

ステップ 3 該当する設定値を更新します (表 64-1 を参照)。



(注) Button Template Name に、Expansion Module 7914 の固有な名前を入力します。

ステップ 4 Insert をクリックします。

関連項目

- [電話ボタン テンプレートの検索 \(P.64-3\)](#)
- [電話ボタン テンプレートの追加 \(P.64-5\)](#)
- [電話ボタンの設定値 \(P.64-7\)](#)
- [電話ボタン テンプレートの名前変更 \(P.64-8\)](#)
- [電話ボタン テンプレートの削除 \(P.64-10\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話機能」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話ボタン テンプレートのカスタマイズのガイドライン」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「電話機設定チェックリスト」



65 CHAPTER ソフトキー テンプレートの設定

管理者は、ソフトキー テンプレートの設定を使用して、Cisco IP Phone（たとえば、モデル 7960 など）がサポートしているソフトキーを管理することができます。Cisco CallManager がサポートしているソフトキー テンプレートには、標準と非標準の 2 つのタイプがあります。ソフトキーをサポートしているアプリケーションには、1 つまたは複数の標準ソフトキー テンプレートが関連付けられています。たとえば、Cisco IPMA には、Standard IPMA Assistant、Standard IPMA Manager、および Standard IPMA Manager Shared Mode の各ソフトキー テンプレートが関連付けられています。標準ソフトキー テンプレートは変更できません。

管理者は、ソフトキー テンプレートの設定を使用して、非標準ソフトキー テンプレートをコピー、更新、または削除することができます。

次の各項では、ソフトキー テンプレートを設定する方法について詳しく説明します。

- [ソフトキー テンプレートの検索 \(P.65-2\)](#)
- [非標準ソフトキー テンプレートの追加 \(P.65-5\)](#)
- [非標準ソフトキー テンプレートへのアプリケーション ソフトキーの追加 \(P.65-7\)](#)
- [非標準ソフトキー テンプレートにおけるソフトキーの位置の設定 \(P.65-9\)](#)
- [ソフトキー テンプレートの変更 \(P.65-11\)](#)
- [IP Phone へのソフトキー テンプレートの割り当て \(P.65-16\)](#)

ソフトキー テンプレートの検索

ネットワーク内にはいくつかのソフトキー テンプレートが存在することがあるので、Cisco CallManager Administration では、固有の条件を指定して、特定のソフトキー テンプレートを見つけることができます。ソフトキー テンプレートを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco CallManager Administration では、ブラウザ セッションでの作業中は、ソフトキー テンプレートの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、ソフトキー テンプレートの検索設定は保持されます。

手順

ステップ 1 Device > Device Settings > Softkey Template の順に選択します。

Find and List Softkey Templates ウィンドウが表示されます。3 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、ソフトキー テンプレートを検索します。

ステップ 2 最初の Find softkey templates where ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- Name
- Description



(注)

このドロップダウン リスト ボックスで選択する条件によって、検索時に生成されるソフトキー テンプレート リストのソート方法が決まります。たとえば、Description を選択すると、Description 列が結果リストの左側の列に表示されます。

2 番目の Find softkey templates where ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)

3 番目の Find softkey templates where ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- Both
- Standard
- Non-Standard

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、**Find** をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。

**ヒント**

データベースに登録されているソフトキー テンプレートをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。

検出されたソフトキー テンプレートのリストが、次の項目別に表示されます。

- Softkey Template icon
- Softkey Template Name
- Description

**(注)**

該当するソフトキー テンプレートの横にあるチェックボックスをオンにして、**Delete Selected** をクリックすると、Find and List Softkey Templates ウィンドウから複数のソフトキー テンプレートを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのソフトキー テンプレートを削除できます。

■ ソフトキー テンプレートの検索

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致する Softkey Template icon、Softkey Template Name、または Description をクリックします。

選択したソフトキー テンプレートがウィンドウに表示されます。

関連項目

- [非標準ソフトキー テンプレートの追加 \(P.65-5 \)](#)
- [非標準ソフトキー テンプレートへのアプリケーション ソフトキーの追加 \(P.65-7 \)](#)
- [非標準ソフトキー テンプレートにおけるソフトキーの位置の設定 \(P.65-9 \)](#)
- [ソフトキー テンプレートの変更 \(P.65-11 \)](#)

非標準ソフトキー テンプレートの追加

Cisco CallManager には、コール処理およびアプリケーション用の標準ソフトキー テンプレートが組み込まれています。カスタム非標準ソフトキー テンプレートを作成する場合は、標準テンプレートをコピーし、必要に応じてそれを変更します。

手順

ステップ 1 Device > Device Settings > Softkey Template の順に選択します。

Find and List Softkey Templates ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ウィンドウの右上にある Add a New Softkey Template リンクをクリックします。

Softkey Template Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 ドロップダウン リスト ボックスから、ソフトキー テンプレートを選択し、Copy をクリックして新しいテンプレートを作成します。

Softkey Template Configuration ウィンドウが再表示され、固有のソフトキー テンプレート名、説明、およびそのソフトキーに関連付けるアプリケーションを入力するためのフィールドが表示されます。

ステップ 4 Softkey Template Name フィールドに、ソフトキー テンプレートを識別するための固有の名前を入力します。

ステップ 5 テンプレートの使用方法についての説明を入力します。

ステップ 6 Insert ボタンをクリックします。

標準テンプレートがコピーされ、再表示された Softkey Template Configuration ウィンドウに追加の設定オプションが示されます。

■ 非標準ソフトキー テンプレートの追加

- ステップ 7** 非標準ソフトキー テンプレートにその他のアプリケーション ソフトキーを追加する方法については、P.65-7 の「[非標準ソフトキー テンプレートへのアプリケーション ソフトキーの追加](#)」を参照してください。
- ステップ 8** Cisco IP Phone の LCD スクリーン上でソフトキーの位置を設定する方法については、P.65-9 の「[非標準ソフトキー テンプレートにおけるソフトキーの位置の設定](#)」を参照してください。
- ステップ 9** Update ボタンをクリックして、設定を保存します。
-

関連項目

- [ソフトキー テンプレートの検索 \(P.65-2\)](#)
- [非標準ソフトキー テンプレートへのアプリケーション ソフトキーの追加 \(P.65-7\)](#)
- [非標準ソフトキー テンプレートにおけるソフトキーの位置の設定 \(P.65-9\)](#)
- [ソフトキー テンプレートの変更 \(P.65-11\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ソフトキー テンプレート」

非標準ソフトキー テンプレートへのアプリケーション ソフトキーの追加

Cisco CallManager には、コール処理およびアプリケーション用の標準ソフトキー テンプレートが組み込まれています。カスタム非標準ソフトキー テンプレートを作成する場合は、標準テンプレートをコピーし、必要に応じてそれを変更します。作成した非標準ソフトキー テンプレートにアプリケーション ソフトキーを追加する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 P.65-2 の「ソフトキー テンプレートの検索」の手順を使用して、ソフトキー テンプレートを検索します。

ステップ 2 一致するレコードのリストから、アプリケーション ソフトキーを追加するソフトキー テンプレートを選択します。



(注) 変更できるソフトキー テンプレートは、左側の列にチェックボックスが表示されているものだけです。それ以外のソフトキー テンプレートはすべて、標準の読み取り専用テンプレートです。

Softkey Template Configuration ページが表示されます。

ステップ 3 非標準ソフトキー テンプレートにその他のアプリケーション ソフトキーを追加するために、**Add Application** ボタンをクリックします。

Add Application ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 非標準ソフトキー テンプレートに追加する標準ソフトキー テンプレートを選択します。

■ 非標準ソフトキー テンプレートへのアプリケーションソフトキーの追加

ステップ 5 Insert または Insert and Close ボタンをクリックします。

選択した標準ソフトキー テンプレートに関連するソフトキーが、非標準ソフトキー テンプレートの末尾に追加されます。重複するソフトキーは自動的に削除されます。特定のコール状態のソフトキーの数が 16 を超えると、そのコール状態のオプションのソフトキーが削除されます（最後の方から順に）。オプションのソフトキーが削除された後もソフトキーの数が 16 を超える場合は、エラーが表示されます。

ステップ 6 Update ボタンをクリックして、ソフトキー セットの設定を保存します。

ステップ 7 ソフトキー テンプレートの更新を電話機で有効にするために、Restart Devices ボタンをクリックします。

関連項目

- [ソフトキー テンプレートの検索 \(P.65-2\)](#)
- [非標準ソフトキー テンプレートの追加 \(P.65-5\)](#)
- [非標準ソフトキー テンプレートにおけるソフトキーの位置の設定 \(P.65-9\)](#)
- [ソフトキー テンプレートの変更 \(P.65-11\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ソフトキー テンプレート」

非標準ソフトキー テンプレートにおけるソフトキーの位置の設定

Cisco CallManager には、コール処理およびアプリケーション用の標準ソフトキー テンプレートが組み込まれています。カスタム非標準ソフトキー テンプレートを作成する場合は、標準テンプレートをコピーし、必要に応じてそれを変更します。作成した非標準ソフトキー テンプレートで各コール状態に対するソフトキーの位置を設定する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 P.65-2 の「ソフトキー テンプレートの検索」の手順を使用して、ソフトキー テンプレートを検索します。

ステップ 2 一致するレコードのリストから、ソフトキーの位置を設定するソフトキー テンプレートを選択します。



(注) 変更できるソフトキー テンプレートは、左側の列にチェックボックスが表示されているものだけです。それ以外のソフトキー テンプレートはすべて、標準の読み取り専用テンプレートです。

Softkey Template Configuration ページが表示されます。

ステップ 3 Cisco IP Phone の LCD スクリーンにおけるソフトキーの位置を設定するために、**Configure Softkey Layout** リンクをクリックします。

Softkey Layout Configuration ウィンドウが表示されます。ウィンドウの左側の Call States リストに、IP Phone の各 Cisco CallManager コール状態が示されます。

ステップ 4 コール状態に対するソフトキー位置を設定するために、Call States リストからコール状態を選択します。

■ 非標準ソフトキー テンプレートにおけるソフトキーの位置の設定

Softkey Layout Configuration ウィンドウが再表示され、選択したコール状態に該当するソフトキーが Unselected Softkeys フィールドと Selected Softkeys フィールドに表示されます。

**ヒント**

ソフトキーに関連するブレースホルダーを作成する場合は、Undefined ソフトキーを追加します。この操作によって、追加したソフトキーは、すべてのコール状態で同じソフトキー位置に置かれます。

- ステップ 5** あるリストから別のリストへソフトキーを移動するには、右矢印と左矢印を使用します。
- ステップ 6** Selected Softkeys の位置を再調整するには、上矢印と下矢印を使用します。
- ステップ 7** Update ボタンをクリックして、ソフトキー セットの設定を保存します。
- ステップ 8** Softkey Template Configuration リンクをクリックして、Softkey Template Configuration ウィンドウに戻ります。
- ステップ 9** Update ボタンをクリックして、設定を保存します。
- ステップ 10** ソフトキー テンプレートの更新を電話機で有効にするために、Restart Devices ボタンをクリックします。

関連項目

- [ソフトキー テンプレートの検索 \(P.65-2\)](#)
- [非標準ソフトキー テンプレートの追加 \(P.65-5\)](#)
- [非標準ソフトキー テンプレートへのアプリケーション ソフトキーの追加 \(P.65-7\)](#)
- [ソフトキー テンプレートの変更 \(P.65-11\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ソフトキー テンプレート」

ソフトキー テンプレートの変更

作成したカスタム非標準ソフトキー テンプレートに変更を加えることができます。

- [ソフトキー テンプレートの名前変更 \(P.65-11 \)](#)
- [ソフトキー テンプレートの削除 \(P.65-12 \)](#)
- [ソフトキー テンプレートの更新 \(P.65-14 \)](#)

関連項目

- [ソフトキー テンプレートの検索 \(P.65-2 \)](#)
- [非標準ソフトキー テンプレートの追加 \(P.65-5 \)](#)
- [非標準ソフトキー テンプレートへのアプリケーション ソフトキーの追加 \(P.65-7 \)](#)
- [非標準ソフトキー テンプレートにおけるソフトキーの位置の設定 \(P.65-9 \)](#)

ソフトキー テンプレートの名前変更

作成した非標準ソフトキー テンプレートの名前を変更する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [P.65-2 の「ソフトキー テンプレートの検索」](#)の手順を使用して、ソフトキー テンプレートを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、名前を変更するソフトキー テンプレートを選択します。



(注) 名前を変更できるソフトキー テンプレートは、左側の列にチェックボックスが表示されているものだけです。それ以外のソフトキー テンプレートはすべて、標準の読み取り専用テンプレートです。

■ ソフトキー テンプレートの変更

Softkey Template Configuration ページが表示されます。

ステップ 3 Softkey Template Name フィールドに、新しい名前を入力します。

ステップ 4 Update ボタンをクリックします。

Softkey Template Configuration ウィンドウが再表示され、新しいソフトキー テンプレート名が表示されます。

関連項目

- [ソフトキー テンプレートの検索 \(P.65-2\)](#)
- [非標準ソフトキー テンプレートの追加 \(P.65-5\)](#)
- [ソフトキー テンプレートの変更 \(P.65-11\)](#)
- [ソフトキー テンプレートの削除 \(P.65-12\)](#)
- [ソフトキー テンプレートの更新 \(P.65-14\)](#)

ソフトキー テンプレートの削除

作成した非標準ソフトキー テンプレートを削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

デバイスまたは共通プロファイルに現在割り当てられている非標準ソフトキー テンプレートは削除できません。非標準ソフトキー テンプレートを使用しているデバイスおよび共通プロファイルを検索するには、Softkey Configuration ウィンドウの **Dependency Records** リンクをクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、[P.A-4 の「Dependency Records へのアクセス」](#)を参照してください。使用されている非標準ソフトキー テンプレートを削除しようとする、Cisco CallManager はエラーメッセージを表示します。現在使用されている非標準ソフトキー テンプレートを削除する場合は、事前に、次の作業のどちらか一方または両方を実行しておく必要があります。

- 削除する非標準ソフトキー テンプレートを使用しているデバイスまたは共通プロファイルすべてに、別のソフトキー テンプレートを割り当てる。P.62-12 の「電話機の更新」を参照してください。
- 削除する非標準ソフトキー テンプレートを使用しているデバイスを削除する。P.62-13 の「電話機の削除」を参照してください。

手順

ステップ 1 P.65-2 の「ソフトキー テンプレートの検索」の手順を使用して、ソフトキー テンプレートを検索します。

ステップ 2 一致するレコードのリストから、削除するソフトキー テンプレートを選択します。



(注) 削除できるソフトキー テンプレートは、左側の列にチェックボックスが表示されているものだけです。それ以外のソフトキー テンプレートはすべて、標準の読み取り専用テンプレートです。

Softkey Template Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 Delete ボタンをクリックします。

そのテンプレートを削除するかどうか確認するメッセージが表示されます。

ステップ 4 OK ボタンをクリックします。

ソフトキー テンプレートが削除された状態で、Softkey Template Configuration ウィンドウが再表示されます。

■ ソフトキー テンプレートの変更

関連項目

- [ソフトキー テンプレートの検索 \(P.65-2 \)](#)
- [非標準ソフトキー テンプレートの追加 \(P.65-5 \)](#)
- [ソフトキー テンプレートの変更 \(P.65-11 \)](#)
- [ソフトキー テンプレートの名前変更 \(P.65-11 \)](#)
- [ソフトキー テンプレートの更新 \(P.65-14 \)](#)

ソフトキー テンプレートの更新

作成した非標準ソフトキー テンプレートを更新する手順は、次のとおりです。テンプレート名、説明、サポートされているアプリケーション ソフトキー、およびソフトキー レイアウトは更新できます。

手順

- ステップ 1** [P.65-2 の「ソフトキー テンプレートの検索」](#)の手順を使用して、ソフトキー テンプレートを検索します。
- ステップ 2** 一致するレコードのリストから、更新するソフトキー テンプレートを選択します。



(注) 更新できるソフトキー テンプレートは、左側の列にチェックボックスが表示されているものだけです。それ以外のソフトキー テンプレートはすべて、標準の読み取り専用テンプレートです。

Softkey Template Configuration ウィンドウが表示されます。

- ステップ 3** 変更 (たとえば、アプリケーション ソフトキー セットまたはソフトキー レイアウトの追加) する設定を更新します。 [P.65-7 の「非標準ソフトキー テンプレートへのアプリケーション ソフトキーの追加」](#)および [P.65-9 の「非標準ソフトキー テンプレートにおけるソフトキーの位置の設定」](#)を参照してください。

ステップ 4 Update ボタンをクリックします。

ソフトキー テンプレートが更新された状態で、Softkey Template Configuration ウィンドウが再表示されます。



(注) ソフトキー テンプレートの更新後、そのテンプレートを使用しているデバイスを再起動する必要があります。

ステップ 5 Restart Devices ボタンをクリックして、更新されたソフトキー テンプレートを適用します。

関連項目

- [ソフトキー テンプレートの検索 \(P.65-2\)](#)
- [非標準ソフトキー テンプレートの追加 \(P.65-5\)](#)
- [ソフトキー テンプレートの変更 \(P.65-11\)](#)
- [ソフトキー テンプレートの名前変更 \(P.65-11\)](#)
- [ソフトキー テンプレートの削除 \(P.65-12\)](#)

IP Phone へのソフトキー テンプレートの割り当て

IP Phone へのソフトキー テンプレートの割り当ては、IP Phone の設定時に行われます。標準ソフトキー テンプレートおよび非標準ソフトキー テンプレートを割り当てることができます。ソフトキー テンプレートを電話機に割り当てするには、次の 2 つの方法があります。

- ソフトキー テンプレートを共通プロファイルに割り当て、Phone Configuration ウィンドウで、その共通プロファイルを電話機に割り当てる。
- Phone Configuration ウィンドウのソフトキー テンプレート フィールドを使用して、ソフトキー テンプレートを電話機に割り当てる。電話機に割り当てられた共通プロファイルにすでにソフトキー テンプレートが指定されている場合は、Phone Configuration ウィンドウのソフトキー テンプレート フィールドはブランクにしておきます。

共通プロファイルおよび電話機を設定する方法の詳細については、[P.57-1](#) の「[共通プロファイルの設定](#)」および [P.62-5](#) の「[電話機の追加](#)」を参照してください。

ソフトキーの英日対応表

この章で説明した画面では、ソフトキーは英語で表示されます。日本語表示の IP Phone のレイアウトを変更する場合は、表 65-1 を参考にしてください。

表 65-1 ソフトキー英日対応表

英	日	英	日
<<	<<	Main	メイン
AbbrDial	短縮 (タンシュク)	MCID	迷惑呼 (メイワクコ)
Acct	アカウント	MeetMe	ミー トミー
Alpha	Alpha	Message	メッセージ
Answer	応答 (オウトウ)	Monitor	モニタ
Back	戻る (モドル)	MonOff	モニタオフ
Barge	割込み (ワリコミ)	more	次へ (ツギへ)
CallBack	折返し (オリカエシ)	NewCall	発信 (ハッシン)
Cancel	キャンセル	Next	次へ (ツギへ)
cBarge	C 割込 (C ワリコミ)	No	No
CFwdALL	不在 (フザイ)	Number	番号 (バンゴウ)
CFwdBusy	話中 (ワチュウ)	Ok	OK
CFwdNoAnswer	無応答 (ムオウトウ)	Park	パーク
Clear	クリア	PickUp	ピック
Close	トジル	Play	再生 (サイセイ)
ConfList	参加者 (サンカシャ)	Preview	プレビュー
Confrn	会議 (カイギ)	Private	非通知 (ヒツウチ)
Default	デフォルト	QRT	品質 (ヒンシツ)
Delete	削除 (サクジョ)	Redial	リダイヤル
Dial	ダイヤル	Remove	サクジョ
DirTrfr	D 転送 (D テンソウ)	Restore	復元 (フクゲン)
DivAll	アシスタント	Resume	復帰 (フッキ)
DND	サイレント	Retry	再試行
Down	ダウン	RmLstC	ドロップ

表 65-1 ソフトキー英日対応表 (続き)

英	日	英	日
Edit	編集 (ヘンシュウ)	Save	保存 (ホゾン)
EditDial	編集 (ヘンシュウ)	Search	検索 (ケンサク)
EndCall	終了 (シュウリョウ)	Select	選択 (センタク)
Enter	入力	SetWtch	モニタ
Erase	削除 (サクジョ)	Show Me	ヒョウジ
Exit	終了 (シュウリョウ)	Stop	中止 (チュウシ)
Factory	ファクトリ	Submit	サブミット
Flash	フラッシュ	Transfer (Trnsfer)	転送 (テンソウ)
GPickUp	G ピック	TrnsfVM	VM 転送 (VM テンソウ)
Hold	保留 (ホリユウ)	Unlock	解除 (カイジョ)
iDivert	即転送 (ソクテンソウ)	Up	アップ
ImmDiv	即転送 (ソクテンソウ)	Update	更新 (コウシン)
Info	情報 (ジョウホウ)	Validate	確認 (カクニン)
Intrcpt	キャッチ	VidMode	ビデオ
Join	参加 (サンカ)	Yes	Yes
Links	リンク	OPickUp	他 Grp (ソノタ Grp)
Lock	ロック		
Login	ログイン		



CAPF レポートの生成

Phone Configuration ウィンドウまたは Bulk Administration Tool で Certificate Authority Proxy Function (CAPF) を設定すると、CAPF レポートを生成して次の作業を実行できます。

- 認証操作状況の表示
- 認証文字列の表示
- リストされたデバイスの認証モードを表示

CAPF レポートを生成すると、レポートを CSV ファイルで表示できます。

CAPF レポートの生成の詳細については、『*Cisco CallManager セキュリティ ガイド 4.1*』を参照してください。



PART 7

ユーザの設定





新規ユーザの追加

Cisco CallManager Administration の [ユーザの設定] ウィンドウを使用すると、システム管理者は、Cisco CallManager のユーザに関する情報を追加、検索、表示、および保持することができます。次のトピックでは、ユーザ ディレクトリ情報の管理について説明します。

- [ユーザの追加 \(P.67-2 \)](#)
- [Cisco Unity ボイスメールボックスの作成 \(P.67-3 \)](#)
- [ユーザの設定値 \(P.67-5 \)](#)
- [ユーザ パスワードの変更 \(P.67-10 \)](#)
- [PIN の変更 \(P.67-12 \)](#)
- [アプリケーション プロファイルの設定 \(P.67-13 \)](#)
- [ユーザとデバイスとの関連付け \(P.67-13 \)](#)
- [自動アテンダント プロファイルの関連付け \(P.67-15 \)](#)
- [Cisco CallManager エクステンション モビリティ プロファイルの関連付け \(P.67-16 \)](#)
- [Cisco IP SoftPhone プロファイルの関連付け \(P.67-17 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ユーザ ディレクトリ情報の管理」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ユーザ ディレクトリ管理の設定 チェックリスト」



(注) Cisco CallManager Administration が Microsoft Active Directory (AD) と統合されている場合、Cisco CallManager Administration からユーザ パスワードを設定または更新することはできません。詳細については、『*Installing the Cisco Customer Directory Configuration Plugin for Cisco CallManager Release 4.2 (1)*』を参照してください。

ユーザの追加

ユーザを追加する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 User > Add a New User の順に選択します。



(注) [ページの表示] ドロップダウン リスト ボックスで別の言語を選択すると、[ユーザの設定] ウィンドウの言語を一時的に変更できます。ただし、この言語の変更は、現在の Web セッションにしか適用されません。次にログインしたときには、[ユーザの設定] ウィンドウはデフォルトの言語で表示されます。

ステップ 2 適切な設定値を入力します (表 67-1 を参照)。

ステップ 3 ユーザ情報の入力を完了したら、変更内容を保存し、[挿入] をクリックしてユーザを追加します。

次の手順

このユーザにデバイスを関連付ける場合は、後述の「[ユーザとデバイスとの関連付け](#)」の手順に進みます。

関連項目

- Cisco Unity ボイスメールボックスの作成 (P.67-3)
- ユーザの設定値 (P.67-5)
- ユーザ パスワードの変更 (P.67-10)
- PIN の変更 (P.67-12)
- アプリケーション プロファイルの設定 (P.67-13)
- ユーザとデバイスとの関連付け (P.67-13)
- Global Directory の検索 (P.68-1)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ユーザ ディレクトリ管理の設定 チェックリスト」

Cisco Unity ボイスメールボックスの作成

[ユーザの設定] ウィンドウの [ボイスメールボックスの作成] リンクを使用すると、管理者は Cisco CallManager Administration から個々に Cisco Unity ボイスメールボックスを作成できます。



(注) [ボイスメールボックスの作成] リンクは、Unity の管理者が適切なソフトウェアをインストールおよび設定した場合に限り、表示されます。『Cisco CallManager 4.2 Integration Guide for Cisco Unity 4.0』を参照してください。

始める前に

- 管理者は、ボイス メッセージ用に Cisco CallManager を設定する必要がある。『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity 設定チェックリスト」を参照してください。
- 管理者は Cisco Unity サーバを設定する必要がある。Cisco Unity のマニュアルを参照してください。
- Cisco Unity Cisco CallManager Integrated Voice Mailbox Configuration が Cisco Unity サーバで使用可能になっていることを確認する。『Cisco CallManager 4.2 Integration Guide for Cisco Unity 4.0』を参照してください。

- Cisco RIS Data Collector サービスがアクティブになっていることを確認する。『Cisco CallManager Serviceability システム ガイド』および『Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド』を参照してください。
- [ボイスメールボックスの作成] リンクが表示される前に、デバイスとユーザを関連付ける。リンクは [プライマリ内線] フィールドの横に表示されません。
- [ボイスメールボックスの作成] リンクを表示するために、ボイスメールプロフィールとプライマリ内線の電話番号が関連付けられていることを確認する。P.62-52 の「電話番号の追加」を参照してください。



(注)

Directory Number Configuration ウィンドウにも [ボイスメールボックスの作成] リンクがあります。

手順

- ステップ 1** User Configuration ウィンドウで、ユーザにデバイスを関連付けます (P.67-13 の「ユーザとデバイスとの関連付け」を参照)。

関連付けるデバイスの [プライマリ内線] オプション ボタンをクリックします。

- ステップ 2** ボイスメールボックスを設定するには、[ボイスメールボックスの作成] リンクをクリックします。

Configure Cisco Unity Voice Mailbox ダイアログボックスが表示されます。

- ステップ 3** Configure Cisco Unity Voice Mailbox のフィールドを設定するには、『Cisco CallManager 4.2 Integration Guide for Cisco Unity 4.0』の手順に従います。

関連項目

- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity Cisco CallManager 統合メールボックス設定」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco Unity 設定チェックリスト」

ユーザの設定値

表 67-1 では、ユーザの設定値について説明します。追加情報については、[P.67-8](#) の「ディレクトリで使用可能な文字」を参照してください。

表 67-1 ユーザの設定値

フィールド	説明
名	ユーザの名を入力します。名には半角英数文字しか使用できません。特殊文字 (= , + , < , > , # , ; , \ , , , ") およびブランクを使用できます。
姓	ユーザの姓を入力します。姓には半角英数文字しか使用できません。特殊文字 (= , + , < , > , # , ; , \ , , , ") およびブランクを使用できます。
ユーザ ID	ユーザの識別名を入力します。Cisco CallManager では、ユーザ ID の作成後の変更はできません。ユーザ ID には半角英数文字しか使用できません。特殊文字 (= , + , < , > , # , ; , \ , , , ") およびブランクを使用できます。
ユーザパスワード	ユーザパスワードとなる 5 文字以上の英数字を入力します。特殊文字 (= , + , < , > , # , ; , \ , , , ") およびブランクを使用できます。
パスワードの確認	ユーザパスワードをもう一度入力します。
PIN	Personal Identification Number (PIN; 個人識別番号) となる 5 文字以上の英数字を入力します。PIN には、数字しか使用できません。
PIN の確認	PIN をもう一度入力します。
電話番号	ユーザの電話番号を入力します。特殊文字 ((,) , および -) を使用できます。
マネージャのユーザ ID	ユーザのマネージャ ID の名前を入力します。入力するマネージャのユーザ ID は、ディレクトリ内にユーザとして指定済みでなければなりません。
部署名	ユーザの所属部門の情報 (たとえば、所属部門の番号や名称など) を入力します。部署名には半角英数文字しか使用できません。

■ ユーザの設定値

表 67-1 ユーザの設定値 (続き)




フィールド	説明
ユーザ ロケール	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、そのユーザに関連したロケールを選択します。そのユーザ ロケールは、言語とフォントを含んだ、ユーザをサポートする一連の詳細情報を識別します。</p> <p>Cisco CallManager は、このロケールをエクステンション モビリティおよび Cisco IP Phone User Options に使用します。Cisco CallManager エクステンション モビリティ ログオンでは、ここに指定されているロケールが、デバイスおよびデバイス プロファイルの設定よりも優先されます。Cisco CallManager エクステンション モビリティ ログオフでは、Cisco CallManager は、デフォルト デバイス プロファイルに指定されたユーザ ロケールを使用します。</p> <p> (注) ユーザ ロケールを選択しない場合は、Cisco CallManager サービスパラメータでデフォルト ユーザ ロケールとして指定されているロケールが適用されます。</p>
CTI アプリケーションの使用を有効にする	<p>ユーザが Computer Telephony Integration (CTI; コンピュータ テレフォニー インテグレーション) アプリケーションを使用できるように設定するには、この Enable CTI Application Use チェックボックスをオンにします。</p>
CTI スーパープロバイダを有効にする	<p>このオプションを有効にすると、関連付けられている CTI アプリケーションで、システム内のすべての CTI 制御可能デバイスを制御および監視できます。このフィールドを有効にする必要があるかどうかは、アプリケーション要件によって決まります (対応するアプリケーションのマニュアルを参照)。</p> <p> (注) [CTI アプリケーションの使用を有効にする] チェックボックスもオンにする必要があります。</p>

表 67-1 ユーザの設定値 (続き)

フィールド	説明
コールパーク取得を許可する	このオプションを有効にすると、関連付けられている CTI アプリケーションで、Call Park DN からのコールに対して監視および応答できます。このフィールドを有効にする必要があるかどうかは、アプリケーション要件によって決まります (対応するアプリケーションのマニュアルを参照)。
コーリングパーティ番号の修正を有効にする	このオプションを有効にすると、関連付けられている CTI アプリケーションで、コールを宛先に転送するときの電話番号を変更できます。転送先が受信する電話番号は、アプリケーションにより提供されます。このフィールドを有効にする必要があるかどうかは、アプリケーション要件によって決まります (対応するアプリケーションのマニュアルを参照)。Cisco Emergency Responder (CER) は、このオプションを有効にする必要があるアプリケーション例の 1 つです。
割り当てられた PC	このフィールドは、Cisco SoftPhone および Cisco CallManager Attendant Console のユーザに必須のフィールドであり、ユーザが追加された後に表示されます。
プライマリ内線	このフィールドは、ユーザが追加された後に表示され、ユーザのプライマリ電話番号を表します。ユーザにデバイスを関連付ける場合は、プライマリ回線を選択しません。ユーザは電話機に複数の回線を設定できます。 システムが Unity Integration に対して設定されている場合、[ボイスメールボックスの作成] リンクが表示されます。
制御されたデバイス	このフィールドは、ユーザが追加された後に表示されます。デバイスが関連付けられた後に、このフィールドには、ユーザが制御する説明情報 (たとえば、MAC アドレスなど) が表示されます。
認証プロキシの権限を有効にする	このフィールドは、Cisco CallManager エクステンション モビリティによるユーザの認証プロキシの権限が有効になっている場合に必須のフィールドであり、ユーザが追加された後に表示されます。認証プロキシの権限の機能が有効になっている場合は、このフィールドには True が表示され、無効になっている場合は、False が表示されます。

■ ユーザの設定値

表 67-1 ユーザの設定値 (続き)

フィールド	説明
制御されたデバイス プロファイル	このフィールドは、ユーザが追加された後に表示されます。 Cisco CallManager エクステンション モビリティに設定されたユーザに関連付けられた、制御されたデバイス プロファイルのリストが、このフィールドに表示されます。
ページの表示	ドロップダウン リスト ボックスから、[ユーザの設定] ウィンドウの言語 (電話機の表示言語) を選択します。この言語が表示されるのは、現在の Web セッションのみです。次回にログインしたときに、[ユーザの設定] ウィンドウはデフォルトの言語で表示されます。  (注) 適切なロケール インストーラをダウンロードおよびインストールし、目的の言語を選択します。

ディレクトリで使用可能な文字



注意

DC Directory、Netscape Directory、または Active Directory で 127 文字を超える 非 ISO-Latin1 文字を使用すると、ディレクトリ データベース エラーが発生する可能性があります。Cisco CallManager Release 3.3 以降では、すべての ISO-Latin1 (ISO-8859-1) 文字、およびすべての非 ISO-Latin1 文字をディレクトリで使用できますが、0 ~ 127 文字の範囲で入力する必要があります。

Cisco CallManager は、Cisco CallManager Administration の [ユーザの設定] ウィンドウでは ISO-Latin1 文字と ASCII 文字しかサポートしていません。

ロケール インストーラをダウンロードすると、Cisco CallManager Administration の [ユーザの設定] ウィンドウ内のフィールド名は、選択した言語で表示できます。ただし、Cisco CallManager は、これらのフィールド、および、このウィンドウへのアクセスに必要なすべてのアカウントとパスワードに対して、0 ~ 127 文字の範囲の ISO-Latin1 (ISO-8859-1) 文字と非 ISO-Latin1 文字しかサポートしていません。文字の許容範囲を超えるデータを入力すると、ダイアログボックスが表示され、ISO-Latin1 文字と非 ISO-Latin1 文字を使用して 0 ~ 127 文字の範囲でデータを入力するように指示されます。

関連項目

- [ユーザの追加 \(P.67-2\)](#)
- [ユーザ パスワードの変更 \(P.67-10\)](#)
- [PIN の変更 \(P.67-12\)](#)
- [ユーザとデバイスとの関連付け \(P.67-13\)](#)
- 『*Installing the Cisco Customer Directory Configuration Plugin for Cisco CallManager Release 4.2 (1)*』 の 「Password Management Features」

ユーザパスワードの変更

Global Directory 内のユーザのユーザパスワードを変更する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** Global Directory から、パスワードを変更するユーザを選択します (P.68-1 の「Global Directory の検索」を参照)。
- [ユーザの設定] ウィンドウが表示され、選択したユーザの情報が示されます。
- ステップ 2** [ユーザパスワード] フィールドの横にある [変更...] ボタンをクリックします。
- [変更するパスワード] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 3** [ユーザパスワード] フィールドに、新しいパスワードを入力します。
- ステップ 4** [パスワードの確認] フィールドに、新しいパスワードを再入力します。
- ステップ 5** [更新して閉じる] をクリックします。
-



注意

統合エンタープライズ ディレクトリ (組み込み DC Directory の反対) では、定期的なパスワード有効期限切れなどのパスワード管理機能が設定可能な場合があります。ただし、システムに対する重大なアクセスを中断することがないよう、CCMAdministrator、CCMSysUser、IPMASysUser、および Cisco CallManager アプリケーションで作成および使用する他のすべてのシステム ユーザについては、パスワードの有効期限を設定しないでください。これらのユーザのパスワードは、有効期限を設けずに設定する必要があります。

関連項目

- [ユーザの追加 \(P.67-2 \)](#)
- [PIN の変更 \(P.67-12 \)](#)
- [Global Directory の検索 \(P.68-1 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ユーザ ディレクトリ管理の設定 チェックリスト」
- 『Installing the Cisco Customer Directory Configuration Plugin for Cisco CallManager Release 4.2 (1)』の「Password Management Features」

PIN の変更

Global Directory 内のユーザの個人識別番号 (PIN) を変更する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 Global Directory から、PIN を変更するユーザを選択します (P.68-1 の「Global Directory の検索」を参照)。

[ユーザの設定] ウィンドウが表示され、選択したユーザの情報が示されます。

ステップ 2 PIN フィールドの横にある [変更 ...] ボタンをクリックします。

[変更する PIN] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 3 PIN フィールドに、新しい PIN を入力します。

ステップ 4 [PIN の確認] フィールドに、新しい PIN を再入力します。

ステップ 5 [更新して閉じる] をクリックします。

関連項目

- [ユーザの追加 \(P.67-2\)](#)
- [ユーザパスワードの変更 \(P.67-10\)](#)
- [Global Directory の検索 \(P.68-1\)](#)

アプリケーション プロファイルの設定

新しいユーザの追加後、[ユーザの設定] ウィンドウの左側にある [アプリケーション プロファイル] ペインに一覧表示された各アプリケーションのプロファイルを設定できます。各ユーザはこれらのプロファイルを使用して、電話機の機能、Cisco IPMA、Cisco CallManager エクステンション モビリティ、自動アテンダント、および Cisco IP SoftPhone の機能を個別に設定することができます。

始める前に

ユーザがデータベース内で設定されていることを確認します。詳細については、P.68-1 の「[Global Directory の検索](#)」を参照してください。

関連項目

- [ユーザとデバイスとの関連付け \(P.67-13 \)](#)
- [自動アテンダント プロファイルの関連付け \(P.67-15 \)](#)
- [Cisco CallManager エクステンション モビリティ プロファイルの関連付け \(P.67-16 \)](#)
- [Cisco IP SoftPhone プロファイルの関連付け \(P.67-17 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco IP Manager Assistant プロファイル」

ユーザとデバイスとの関連付け

ユーザを追加した後では、ユーザはコントロール権を持つデバイスを割り当てることができます。電話機などの一部のデバイスは、ユーザが制御できます。CTI ポートなどのその他のデバイスは、ユーザとして指定されるアプリケーションによって制御できます。ユーザが電話機のコントロール権を持つ場合、その電話機の特定の設定値（たとえば、短縮ダイヤルや自動転送）を制御できます。



(注)

H.323 デバイスなど、CTI で制御できないデバイスの場合は、使用可能なデバイスのリストにあるデバイス アイコンの横にアスタリスク (*) が表示されます。すべてのデバイスの関連付け動作は、機能が設定されているデバイス タイプに関係なく同一になっています。

■ アプリケーション プロファイルの設定

始める前に

ユーザにデバイスを割り当てるには、そのユーザの [ユーザの設定] ウィンドウにアクセスする必要があります。既存ユーザの情報にアクセスする方法については、P.68-1 の「[Global Directory の検索](#)」を参照してください。[ユーザの設定] ウィンドウが表示された後で、デバイスを割り当てる手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** [アプリケーション プロファイル] ペインで、[**デバイスの割り当て**] をクリックします。
- ステップ 2** 必要に応じて、[使用可能なデバイス一覧のフィルタ] セクションに検索条件を入力して使用可能なデバイスのリストを限定し、[**デバイスの選択**] をクリックします。
- ステップ 3** そのユーザに関連付ける 1 つ以上のデバイスのチェックボックスをオンにします。そのデバイスの [**プライマリ内線**] にあるオプション ボタンをクリックすると、そのユーザが割り当てられているデバイスから、1 つのプライマリ内線番号を割り当てることができます。
- ステップ 4** 割り当てを完了したら、[**選択の更新**] をクリックして、ユーザにデバイスを割り当てます。
-

関連項目

- [ユーザの追加 \(P.67-2 \)](#)
- [Global Directory の検索 \(P.68-1 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「デバイスの関連付け」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ユーザ ディレクトリ管理の設定 チェックリスト」

自動アテンダント プロファイルの関連付け

Automated Attendant (AA; 自動アテンダント) サービスは、着信コールに应答して、発信者にユーザ名または内線番号を入力するように求めます。AA は、ディレクトリをスキャンし、ユーザ名または内線番号との一致を見つけ、発信者を適切なエンドポイントに転送します。

始める前に

ユーザに自動アテンダント プロファイルを関連付けるには、そのユーザの[ユーザの設定]ウィンドウにアクセスする必要があります。既存ユーザの情報にアクセスする方法については、[P.68-1 の「Global Directory の検索」](#)を参照してください。[ユーザの設定]ウィンドウが表示された後で、プロファイルを関連付ける手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [アプリケーション プロファイル]ペインで、[自動アテンダント]を選択します。

ステップ 2 [名前のダイヤル方法]フィールドに、アテンダントの名前を入力します (LastFirstM)。たとえば、John Quincy Smith の場合は、SmithJohnQ と入力します。

同じ名前または同じ数値のマッピングが発生した場合、重複キーであることを知らせるプロンプトが表示されます。この時点で、ユーザ名を変更するか(ニックネームを使用するか、ミドルネームのイニシャルを除去して)、重複を許可することができます。

ステップ 3 [挿入]をクリックします。

関連項目

- [ユーザの追加 \(P.67-2 \)](#)
- [Global Directory の検索 \(P.68-1 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco CallManager Auto Attendant プロファイル」

■ アプリケーション プロファイルの設定

- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ユーザ ディレクトリ管理の設定 チェックリスト」

Cisco CallManager エクステンション モビリティ プロファイルの関連付け

Cisco CallManager エクステンション モビリティを使用すると、Cisco IP Phone 7940 または Cisco IP Phone 7960 を一時的にユーザの電話機として使用できるよう設定することができます。ユーザが電話機にログインすると、そのユーザのエクステンション モビリティ（回線と短縮ダイヤル番号を含む）が、その電話機上に置かれます。この機能は、ユーザの IP フォンが恒常的に割り当てられていない環境で主に使用されます。

エクステンション モビリティをユーザに関連付けるには、そのユーザの [ユーザの設定] ウィンドウにアクセスする必要があります。既存ユーザの情報にアクセスする方法については、[P.68-1](#) の「[Global Directory の検索](#)」を参照してください。ユーザに対して Cisco CallManager エクステンション モビリティを設定し関連付ける方法については、『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「Cisco CallManager エクステンション モビリティ」を参照してください。

関連項目

- [ユーザの追加 \(P.67-2 \)](#)
- [Global Directory の検索 \(P.68-1 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ユーザ ディレクトリ管理の設定 チェックリスト」
- 『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「ユーザへのユーザ デバイス プロファイルの関連付け」

Cisco IP SoftPhone プロファイルの関連付け

デバイス（回線）を Cisco IP SoftPhone としてユーザに関連付けることができます。この機能によって、ユーザはデスクトップ PC を使用して、コールの発信と受信、および IP Phone の制御を行うことができます。

Cisco IP SoftPhone の詳細については、『*Cisco IP SoftPhone Administrator Guide*』を参照してください。

始める前に

ユーザにデスクトップ PC を関連付けるには、そのユーザの[ユーザの設定]ウィンドウにアクセスする必要があります。既存ユーザの情報にアクセスする方法については、P.68-1 の「[Global Directory の検索](#)」を参照してください。[ユーザの設定]ウィンドウが表示された後で、PC を関連付ける手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [アプリケーション プロファイル] ペインで、**SoftPhone** を選択します。

SoftPhone ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [割り当てられた PC] フィールドに、デスクトップ PC の IP アドレスまたはホスト名を入力します。



(注) [割り当てられた PC] フィールドには、バーチャル会議とのコラボレーションに必要なエントリを入力する必要があります。

ステップ 3 [挿入] をクリックします。

[ユーザの設定] ウィンドウが表示されます。



(注) 電話回線をスタンドアロン モードで使用するために、[CTI アプリケーションの使用を有効にする] チェックボックスをオンにします。

ステップ 4 [更新] をクリックします。

関連項目

- [ユーザの追加 \(P.67-2 \)](#)
- [Global Directory の検索 \(P.68-1 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco IP SoftPhone プロファイル」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ユーザ ディレクトリ管理の設定 チェックリスト」



Global Directory の検索

Cisco CallManager の Global Directory には、Cisco CallManager ディレクトリ内のすべてのユーザの情報が含まれています。Cisco CallManager は、Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) を使用して、ユーザ情報を含んでいるディレクトリと情報を交換します。シスコは、Cisco CallManager でこの組み込みディレクトリをサポートしています。その主な目的は、デバイスとユーザとの関連を維持することです。

基本検索または詳細検索のどちらかを使用して、システム管理者は Global Directory にアクセスすることができます。

新規ユーザの追加と設定の詳細については、[P.67-1 の「新規ユーザの追加」](#)を参照してください。

次のトピックでは、Global Directory の検索について説明します。

- [基本検索の使用方法 \(P.68-2\)](#)
- [詳細検索の使用方法 \(P.68-4\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Global Directory 検索のヒント」

基本検索の使用方法

基本検索ユーティリティは、名、姓、およびユーザ ID の各フィールドの中から、検索条件として入力された文字列と一致するものを探します。たとえば、検索フィールドに「li」と入力した場合、検索結果には、その文字列と一致する名、姓、またはユーザ ID を持つユーザが表示されます。2 つ以上の文字列をスペースで区切って入力すると、各文字列が 3 つの検索フィールドのいずれかと一致するものを探します。



ヒント

Cisco CallManager による検索フィールドの使用方法の詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「基本検索」を参照してください。

Global Directory の基本検索エンジンの使用手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 User > Global Directory の順に選択します。

[ユーザ情報 基本検索] ウィンドウが表示されます。



(注) [ページの表示] ドロップダウン リスト ボックスで別の言語を選択すると、[ユーザの設定] ウィンドウの言語を一時的に変更できます。ただし、この言語の変更は、現在の Web セッションにしか適用されません。次にログインしたときには、[ユーザの設定] ウィンドウはデフォルトの言語で表示されます。

ステップ 2 [ユーザ検索] フィールドに検索対象のユーザの名、姓、ユーザ ID、またはそれらの情報の一部を入力し、[検索] をクリックします。

ステップ 3 その結果表示される名前一致リストから、必要な名前を選択して、そのユーザについての固有情報を入手します。

次の手順

このユーザ情報を変更するには、該当するフィールドを更新して(P.67-5 の「[ユーザの設定値](#)」を参照) [更新] をクリックします。

このユーザとデバイスとの割り当てを表示または変更する場合の詳細については、P.67-13 の「[ユーザとデバイスとの関連付け](#)」を参照してください。

関連項目

- [ユーザの追加](#) (P.67-2)
- [ユーザとデバイスとの関連付け](#) (P.67-13)
- [詳細検索の使用方法](#) (P.68-4)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Global Directory 検索のヒント」

詳細検索の使用方法

詳細検索ユーティリティを使用すると、4 つの検索フィールドと内蔵の Boolean ロジックを使用して検索条件を入力することで、複雑な検索を実行することができます。1 つのフィールドに 2 つ以上の名前または文字列をスペースで区切って入力すると、指定した条件のいずれかと一致するものが検索されます。たとえば、「john jerry」と入力すると、検索エンジンは、名が John または Jerry であるユーザすべてを返します。1 つの文字列を 2 つ以上の検索フィールドに入力すると、両方の条件と一致するものが検索されます。たとえば、名に「Ling」、姓に「Chu」と入力すると、名前が Ling Chu というユーザが検索エンジンから返されます。



ヒント

Cisco CallManager による検索フィールドの使用方法の詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「詳細検索」を参照してください。

Global Directory 詳細検索エンジンを使用する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 User > Global Directory の順に選択します。

ステップ 2 [詳細検索] をクリックします。

[ユーザ情報 詳細検索] ウィンドウが表示されます。



(注) [ページの表示] ドロップダウン リスト ボックスで別の言語を選択すると、[ユーザの設定] ウィンドウの言語を一時的に変更できます。ただし、この言語の変更は、現在の Web セッションにしか適用されません。次にログインしたときには、[ユーザの設定] ウィンドウはデフォルトの言語で表示されます。

ステップ 3 該当するフィールドに、検索対象のユーザの名、姓、ユーザ ID、または部署名の検索条件を入力します。

ステップ 4 [検索] をクリックします。



(注) 検索結果を絞り込む場合は、[検索の絞り込み] をクリックします。絞り込み検索では、絞り込む検索条件を入力してから、[検索] をクリックするか、[リセット] をクリックして、直前の検索条件をフィールドに取り込むことができます。入力したすべての検索条件をフィールドから削除するには、[クリア] をクリックします。

ステップ 5 希望するユーザが検索リストに表示されたときは、そのユーザ ID または名前をクリックして、[ユーザの設定] ウィンドウを表示します。

次の手順

このユーザ情報を変更するには、該当するフィールドを更新して (表 67-1 を参照) [更新] をクリックします。

このユーザとデバイスとの割り当てを表示または変更する場合の詳細については、P.67-13 の「ユーザとデバイスとの関連付け」を参照してください。

関連項目

- [ユーザの追加 \(P.67-2\)](#)
- [ユーザとデバイスとの関連付け \(P.67-13\)](#)
- [基本検索の使用方法 \(P.68-2\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Global Directory 検索のヒント」

■ 詳細検索の使用方法



Multilevel Administration の設定

Multilevel Administration (MLA) を使用すると、フル アクセス権を持つユーザは、Cisco CallManager の管理者に対してさまざまなレベルの管理アクセス権を設定できます。フル アクセス権を持つユーザが、機能グループ、ユーザグループ、およびユーザグループのアクセス特権を設定します。一般的には、フル アクセス権を持つユーザが Cisco CallManager Administration への他のユーザのアクセス権を設定します。

アクセス権には、フル アクセス権、読み取り専用アクセス権、およびアクセス権なし、という 3 つのレベルがあります。各レベルの違いは次のとおりです。

- フル アクセス権を持つユーザは、そのユーザのユーザグループにフル アクセス権が設定されている機能グループに属する Cisco CallManager Administration ウィンドウを表示および変更することができます。
- 読み取り専用アクセス権を持つユーザは、そのユーザのユーザグループに読み取り専用アクセス権が設定されている機能グループに属する Cisco CallManager Administration ウィンドウを表示することができます。ただし、読み取り専用アクセス権を持つユーザは、専用アクセス権しか持たない管理ウィンドウに対して変更を行うことはできません。読み取り専用アクセス権を持つユーザの場合、Cisco CallManager は、すべてのボタンをグレイアウトし、Cisco CallManager の設定情報を変更するためのアイコンを使用不可にします。
- アクセス権なしのユーザは、そのユーザのユーザグループにアクセス権がない機能グループに属する Cisco CallManager Administration ウィンドウを表示することも変更することもできません。

MLA を設定するには、次のトピックを参照してください。

- [MLA の使用可能化 \(P.69-3 \)](#)
- [機能グループ \(P.69-5 \)](#)
- [ユーザグループ \(P.69-9 \)](#)
- [ユーザグループの特権 \(P.69-15 \)](#)
- [MLA のエンタープライズパラメータの設定 \(P.69-18 \)](#)
- [MLA の終了 \(P.69-20 \)](#)

関連項目

- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「機能グループ」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ユーザグループ」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ユーザグループのアクセス特権」

MLA の使用可能化

MLA の設定を実行する前に、Cisco CallManager Administration で MLA を使用可能にする手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** Cisco CallManager Administration をインストールした後に、次の URL を使用して、Cisco CallManager Administration および Cisco CallManager Serviceability にアクセスします。

<http://<CCMServer>/ccmadmin>

<CCMServer> には、Cisco CallManager サーバの IP アドレスまたは名前を指定します。

- ステップ 2** **User > Access Rights > Configure MLA Parameters** の順に選択します。

MLA Enterprise Parameter Configuration ウィンドウが表示されます。

- ステップ 3** Enable MultiLevelAdmin エンタープライズパラメータを変更するには、右側のドロップダウン リスト ボックスをクリックし、**True** を選択します。

- ステップ 4** 「New password for CCMAdministrator」プロンプトで新しいパスワードを入力し、「Confirm password for CCMAdministrator」プロンプトでパスワードを再入力します。

- ステップ 5** **Update** をクリックします。

変更内容を有効するために、クラスタ内のすべての Cisco CallManager システムの Web サーバを再起動するように指示するメッセージが表示されます。

関連項目

- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ログイン認証」
- [機能グループ \(P.69-5 \)](#)
- [ユーザグループ \(P.69-9 \)](#)
- [ユーザグループの特権 \(P.69-15 \)](#)
- [MLA のエンタープライズパラメータの設定 \(P.69-18 \)](#)
- [MLA の終了 \(P.69-20 \)](#)

機能グループ

機能グループは、Cisco CallManager Administration ウィンドウのグループで構成されます。通常は、Cisco CallManager Administration の主要な各メニュー項目に基づいて、標準（デフォルト）の機能グループが形成されます。ただし、Cisco CallManager Administration ウィンドウで構成されるカスタム機能グループを作成することもできます。次のトピックでは、機能グループの追加、更新、削除について説明しています。

- [機能グループの追加 \(P.69-5 \)](#)
- [機能グループの更新 \(P.69-6 \)](#)
- [機能グループの削除 \(P.69-7 \)](#)

関連項目

- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「機能グループ」
- [MLA の使用可能化 \(P.69-3 \)](#)
- [ユーザグループ \(P.69-9 \)](#)
- [ユーザグループの特権 \(P.69-15 \)](#)
- [MLA のエンタープライズパラメータの設定 \(P.69-18 \)](#)
- [MLA の終了 \(P.69-20 \)](#)

機能グループの追加

Cisco CallManager Administration に機能グループを追加する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 User > Access Rights > Functional Group の順に選択します。

Functional Group Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 Functional Group Name フィールドに、新しい機能グループの名前を入力します。

■ 機能グループ

ステップ 3 新しい機能グループに含めるメニューの横にあるチェックボックスをオンにします。

デフォルトでは、このメニュー項目をクリックすると、メニュー項目に関連するサブメニュー ウィンドウがすべて選択されます。

ステップ 4 新しい機能グループから特定のサブメニュー ウィンドウを除外するには、除外対象のサブメニュー項目の横にあるチェックボックスをオンにします。

ステップ 5 **Insert** をクリックします。

追加した機能グループの名前が、左側の Functional Groups リストにアルファベット順に表示されます。

関連項目

- [機能グループの更新 \(P.69-6\)](#)
- [機能グループの削除 \(P.69-7\)](#)
- [ユーザグループ \(P.69-9\)](#)
- [ユーザグループの特権 \(P.69-15\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「機能グループ」

機能グループの更新

Cisco CallManager Administration の機能グループを更新する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 **User > Access Rights > Functional Group** の順に選択します。

Functional Group Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 左側の Functional Groups リストで、更新する機能グループの名前をクリックします。



(注) 標準機能グループは、更新も削除もできません。

選択した機能グループが表示されます。

ステップ 3 選択した機能グループ内で更新するメニューまたはサブメニューの横にあるチェックボックスをオンにします。

ステップ 4 Update をクリックします。

関連項目

- [機能グループの追加 \(P.69-5 \)](#)
- [機能グループの削除 \(P.69-7 \)](#)
- [ユーザグループ \(P.69-9 \)](#)
- [機能グループ \(P.69-5 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「機能グループ」

機能グループの削除

Cisco CallManager Administration から機能グループを削除する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 User > Access Rights > Functional Group の順に選択します。

Functional Group Configuration ウィンドウが表示されます。

■ 機能グループ

ステップ 2 左側の Functional Groups リストで、削除する機能グループの名前をクリックします。



(注) 標準機能グループは、削除できません。

選択した機能グループが表示されます。

ステップ 3 Delete をクリックします。

削除の確認を求めるメッセージが表示されます。

ステップ 4 OK をクリックします。

ウィンドウがリフレッシュされます。このとき、左側の Functional Groups リストに、削除した機能グループは表示されません。

関連項目

- [機能グループの追加 \(P.69-5 \)](#)
- [機能グループの更新 \(P.69-6 \)](#)
- [ユーザグループ \(P.69-9 \)](#)
- [ユーザグループの特権 \(P.69-15 \)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「機能グループ」

ユーザグループ

ユーザグループは、ディレクトリユーザで構成されます。ユーザは、複数のユーザグループに属することができます。ユーザグループを追加した後に、ユーザをユーザグループに追加します。続いて、ユーザグループに特権を割り当てることもできます。ユーザが複数のユーザグループに属している場合、そのユーザの有効な特権は、MLA のアクセス権のエンタープライズパラメータによって決まります。

次のトピックでは、ユーザグループの追加と削除、ユーザグループへのユーザの追加、およびユーザグループからのユーザの削除について説明します。

- [ユーザグループの追加 \(P.69-9 \)](#)
- [ユーザグループの削除 \(P.69-10 \)](#)
- [ユーザグループへのユーザの追加 \(P.69-11 \)](#)
- [ユーザグループからのユーザの削除 \(P.69-13 \)](#)

関連項目

- 『Cisco CallManager システムガイド』の「ユーザグループ」
- [MLA の使用可能化 \(P.69-3 \)](#)
- [機能グループ \(P.69-5 \)](#)
- [ユーザグループの特権 \(P.69-15 \)](#)
- [MLA のエンタープライズパラメータの設定 \(P.69-18 \)](#)
- [MLA の終了 \(P.69-20 \)](#)

ユーザグループの追加

Cisco CallManager Administration にユーザグループを追加する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 User > Access Rights > User Group の順に選択します。

User Group Configuration ウィンドウが表示されます。

■ ユーザグループ

ステップ 2 User Group Name フィールドに、新しいユーザグループの名前を入力します。

ステップ 3 Insert をクリックします。

追加したユーザグループの名前が、左側の User Groups リストにアルファベット順に表示されます。

ステップ 4 このユーザグループにユーザを追加します。P.69-11 の「ユーザグループへのユーザの追加」を参照してください。

ステップ 5 このユーザグループに特権を割り当てます。P.69-15 の「ユーザグループへの特権の割り当て」を参照してください。

関連項目

- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ユーザグループ」
- ユーザグループへのユーザの追加 (P.69-11)
- ユーザグループの削除 (P.69-10)
- 機能グループ (P.69-5)
- ユーザグループの特権 (P.69-15)

ユーザグループの削除

Cisco CallManager Administration からユーザグループを削除する手順は、次のとおりです。この手順を実行すると、ユーザグループが完全に削除されます。ユーザグループから特定のユーザのみを削除するには、P.69-13 の「ユーザグループからのユーザの削除」を参照してください。

手順

ステップ 1 User > Access Rights > User Group の順に選択します。

User Group Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 左側の User Groups リストで、削除するユーザグループの名前をクリックします。

選択したユーザグループが表示されます。このユーザグループのユーザがアルファベット順に一覧表示されます。

ステップ 3 グループを完全に削除する場合は、Delete Group をクリックします。

関連項目

- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ユーザグループ」
- [ユーザグループの追加 \(P.69-9 \)](#)
- [ユーザグループからのユーザの削除 \(P.69-13 \)](#)
- [機能グループ \(P.69-5 \)](#)
- [ユーザグループの特権 \(P.69-15 \)](#)

ユーザグループへのユーザの追加

Cisco CallManager Administration のユーザグループにユーザを追加する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 User > Access Rights > User Group の順に選択します。

User Group Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 左側の User Groups リストで、ユーザを追加するユーザグループの名前をクリックします。

選択したユーザグループが表示されます。現在そのユーザグループに属しているユーザが、グループの Users に一覧表示されます。

■ ユーザグループ

ステップ 3 Add a User to Group をクリックします。

User Group Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 User Search フィールドにユーザ名を入力し、Search をクリックします。



(注) ユーザを検索するには、さまざまな方法があります。ユーザの名、姓、またはユーザ ID を入力できます。それらの値を入力する代わりに、フィールドをブランクのままにすれば、すべてのユーザを表示することができます。

指定したユーザがデータベースに存在する場合は、そのユーザのレコードが表示されます。検索結果のリストに表示されたユーザの数が多過ぎる場合には、Refine Search をクリックして検索条件を絞り込んだ後に、もう一度このステップを実行します。

ステップ 5 検索結果のリストで、このユーザ グループに追加するユーザの横にあるチェックボックスをオンにします。検索結果のリストが複数のウィンドウになった場合は、下部のリンクを使用するとさらに結果を表示できます。

ステップ 6 Add Selected をクリックします。

User Group Configuration ウィンドウが再表示されます。このとき、グループ リストの Users には、追加したユーザが一覧表示されます。



(注) ユーザを追加した後、ユーザの名前の横にあるキー アイコンをクリックすると、そのユーザの特権を表示できます。

関連項目

- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ユーザグループ」
- ユーザグループからのユーザの削除 (P.69-13)
- ユーザグループの追加 (P.69-9)
- ユーザグループの削除 (P.69-10)
- 機能グループ (P.69-5)
- ユーザグループの特権 (P.69-15)

ユーザグループからのユーザの削除

Cisco CallManager Administration のユーザグループからユーザを削除する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 User > Access Rights > User Group の順に選択します。

User Group Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 左側の User Groups リストで、ユーザを削除するユーザグループの名前をクリックします。

選択したユーザグループが表示されます。現在そのユーザグループに属しているユーザが、グループの Users に一覧表示されます。

ステップ 3 このユーザグループから削除するユーザの名前の横にあるチェックボックスをオンにします。

ステップ 4 Delete Selected をクリックします。

削除の確認を求めるメッセージが表示されます。

■ ユーザグループ

ステップ 5 OK をクリックします。

User Group が再表示されます。このとき、グループリストの Users には、削除したユーザが表示されません。

関連項目

- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ユーザグループ」
- [ユーザグループへのユーザの追加 \(P.69-11\)](#)
- [ユーザグループの追加 \(P.69-9\)](#)
- [ユーザグループの削除 \(P.69-10\)](#)
- [機能グループ \(P.69-5\)](#)
- [ユーザグループの特権 \(P.69-15\)](#)

ユーザグループの特権

フル アクセス権を持つユーザは、ユーザグループに機能グループへのアクセス特権を割り当てることができます。

ユーザグループに特権を割り当てするには、次のトピックを参照してください。

- [ユーザグループへの特権の割り当て \(P.69-15 \)](#)
- [特権レポートの表示 \(P.69-16 \)](#)
- [ユーザの特権の表示 \(P.69-17 \)](#)

関連項目

- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ユーザグループのアクセス特権」
- [MLA の使用可能化 \(P.69-3 \)](#)
- [機能グループ \(P.69-5 \)](#)
- [ユーザグループ \(P.69-9 \)](#)
- [MLA のエンタープライズパラメータの設定 \(P.69-18 \)](#)
- [MLA の終了 \(P.69-20 \)](#)

ユーザグループへの特権の割り当て

Cisco CallManager Administration のユーザグループに特権を割り当てる手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 User > Access Rights > Assigning Privileges to User Group の順に選択します。

Assign Privileges to User Group ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 特権を割り当てるユーザグループの名前をクリックします。

選択したユーザグループに関連付けられた機能グループが一覧表示されます。同時に、各機能グループに対するアクセス特権が表示されます。

■ ユーザグループの特権

ステップ 3 このユーザグループのユーザに割り当てる特権レベルを機能グループごとに選択します。ドロップダウンリストから、No Access、Read Only、Full Access のいずれかを選択します。

ステップ 4 Update をクリックします。

関連項目

- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ユーザグループのアクセス特権」
- [特権レポートの表示 \(P.69-16\)](#)
- [機能グループ \(P.69-5\)](#)
- [ユーザグループ \(P.69-9\)](#)

特権レポートの表示

この項では、特権レポートを表示する方法について説明します。特権レポートには、すべてのユーザグループに割り当てられている機能グループごとの特権が表示されます。各ユーザグループは、特権レポートの左側の行見出しになります。各機能グループは、特権レポートの列見出しになります。つまり、ユーザグループは上から下へアルファベット順に表示され、機能グループは左から右へアルファベット順に表示されます。

特権レポートを表示する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 User > Access Rights > Assigning Privileges to User Group の順に選択します。

Assign Privileges to User Group ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 View Privileges Report をクリックします。

Privileges Report ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 特権の割り当てに戻るには、**Back to Assign Privileges** をクリックします。

関連項目

- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ユーザグループのアクセス特権」
- [ユーザグループへの特権の割り当て \(P.69-15\)](#)
- [機能グループ \(P.69-5\)](#)
- [ユーザグループ \(P.69-9\)](#)

ユーザの特権の表示

この項では、ユーザに割り当てられている特権を表示する方法について説明します。ユーザに割り当てられている特権を表示する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 **User > Access Rights > User Group** の順に選択します。

User Group Configuration ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 左側の User Groups リストで、特権を表示する対象のユーザが属しているユーザグループの名前をクリックします。

選択したユーザグループが表示されます。このユーザグループのユーザが一覧表示されます。

ステップ 3 特権を表示する対象のユーザの横にあるキー アイコンをクリックします。

そのユーザの特権レポートが表示されます。

関連項目

- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ユーザグループのアクセス特権」
- ユーザグループへの特権の割り当て (P.69-15)
- 機能グループ (P.69-5)
- ユーザグループ (P.69-9)

MLA のエンタープライズパラメータの設定

フルアクセス権を持つユーザは、multilevel administration access のエンタープライズパラメータを設定できます。MLA のエンタープライズパラメータを設定する手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Customer Directory Configuration Plugin を実行後、すべてのユーザおよびユーザグループを新しいディレクトリに移動するように、MLA を設定する必要があります。詳細については、『Installing the Cisco Customer Directory Configuration Plugin for Cisco CallManager Release 4.2』を参照してください。

手順

- ステップ 1** User > Access Rights > Configure MLA Parameters の順に選択します。

Configure MLA Parameters ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** User Group Base エンタープライズパラメータを変更するには、User Group Base に値を入力します。
- ステップ 3** Administrative User Base エンタープライズパラメータを変更するには、Administrative User Base に値を入力します。
- ステップ 4** Debug Level エンタープライズパラメータを変更するには、ドロップダウン リスト ボックスから Debug Level の値を選択します。

- ステップ 5** Effective Access Privileges For Overlapping User Groups エンタープライズパラメータを変更するには、ドロップダウン リスト ボックスから値を選択します。
- ステップ 6** Effective Access Privileges For Overlapping Functional Groups エンタープライズパラメータを変更するには、ドロップダウン リスト ボックスから値を選択します。
- ステップ 7** Enable MultiLevelAdmin エンタープライズパラメータを変更するには、ドロップダウン リスト ボックスから値を選択します。
- ステップ 8** User Cache Flush Timeout (Minutes) エンタープライズパラメータを変更するには、ドロップダウン リスト ボックスから値を選択します。
- ステップ 9** Update をクリックします。



(注) Enable MultiLevelAdmin または User Cache Flush Timeout (Minutes) パラメータの値を変更する場合、変更を有効にするために、クラスタ内のすべての Cisco CallManager システムの Web ブラウザを再起動することを要求するメッセージが表示されます。

関連項目

- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ログイン認証」
- [MLA の使用可能化 \(P.69-3 \)](#)
- [機能グループ \(P.69-5 \)](#)
- [ユーザグループ \(P.69-9 \)](#)
- [ユーザグループの特権 \(P.69-15 \)](#)
- [MLA の終了 \(P.69-20 \)](#)

MLA の終了

Cisco CallManager Administration で MLA の設定を実行した後は、許可されないユーザが MLA 機能にアクセスできないようにブラウザを閉じてください。

関連項目

- [MLA の使用可能化 \(P.69-3 \)](#)
- [機能グループ \(P.69-5 \)](#)
- [ユーザグループ \(P.69-9 \)](#)
- [ユーザグループの特権 \(P.69-15 \)](#)
- [MLA のエンタープライズパラメータの設定 \(P.69-18 \)](#)



PART 8

アプリケーションの設定





プラグインの設定

アプリケーション プラグインによって、Cisco CallManager の機能がさまざまに拡張されます。たとえば、Cisco CallManager Attendant Console プラグインによって、受け付け担当者は、迅速にコールに応答し、コールを組織内に転送することができます。また、JTAPI プラグインによって、コンピュータが、Java Telephony Application Programming Interface(JTAPI)を使用して Cisco CallManager にアクセスするアプリケーションのホストとなることができます。

Cisco Customer Directory Configuration Plugin の詳細情報は、『*Cisco Customer Directory 設定用プラグインのインストールおよびその設定*』の最新オンライン版を参照してください。

この章は、次の項で構成されています。

- [プラグインのインストール \(P.70-2 \)](#)
- [プラグイン URL 更新 \(P.70-3 \)](#)
- [プラグイン URL 更新の設定値 \(P.70-4 \)](#)

プラグインのインストール



ヒント

Cisco CallManager をアップグレードした後は、Cisco CDR Analysis and Reporting プラグインを除くすべてのプラグインを再インストールする必要があります。

プラグインをインストールする場合は、インストール先のサーバで動作している侵入検知やアンチウィルスのサービスをすべて事前に使用不可にしておいてください。

プラグインをインストールする手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 Application > Install Plugins の順に選択します。

Install Plugins ページに、使用可能なすべてのプラグイン アプリケーションが表示されます。

ステップ 2 インストールするプラグインの横にあるアイコンをクリックします。

ステップ 3 プラグインをダウンロードするには、**Run this program from its current location or Save this program to disk** をクリックします。

ステップ 4 インストール ウィザードの指示に従って、インストールを実行します。

関連項目

- [プラグインの設定 \(P.70-1\)](#)
- [プラグイン URL 更新 \(P.70-3\)](#)

プラグイン URL 更新

Cisco CallManager のインストール プロセス中、Plugins テーブルに追加されたレコードは、Application ドロップダウン メニューを構築するために Administration アプリケーションが使用する URL を指定します。構築される URL の基礎となるのは、インストール時の Domain Name Server (DNS; ドメイン ネーム サーバ) です。DNS が変更されても、URL は更新されません。

プラグイン URL の DNS を更新する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 Application > Update Plugin URL の順に選択します。

Update Plugin URL ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ドロップダウン リスト ボックスから、プラグイン タイプを選択します。

ステップ 3 ドロップダウン リスト ボックスから、プラグイン名を選択します。

ステップ 4 Host Name/IP Address フィールドに、DNS 名を入力します。

ステップ 5 Update ボタンをクリックします。

関連項目

- [プラグインの設定 \(P.70-1\)](#)
- [プラグインのインストール \(P.70-2\)](#)

プラグイン URL 更新の設定値

表 70-1 では、プラグイン URL 更新の設定値について説明します。

表 70-1 プラグイン URL 更新の設定値

フィールド	説明
Plugin Type	ドロップダウン リスト ボックスから、DNS 名を変更するプラグイン タイプ、たとえば、アプリケーションまたはインストールを選択します。
Plugin Name	ドロップダウン リスト ボックスから、DNS 名を変更するプラグイン名、たとえば、Bulk Administration Tool や Cisco CallManager Attendant Console などを選択します。
URL	URL は自動的に表示されます。
DNS Name	DNS 名には英数字のみを使用します。



PART 9

付録





Dependency Records

この付録では、Cisco CallManager Administration 内の Dependency Records のウィンドウについて説明します。このウィンドウを使用すると、データベース内のどのレコードが特定のレコードを使用するかを判別できます。たとえば、どのデバイス（CTI ルート ポイントや電話機など）が特定のコーリング サーチ スペースを使用するかを判別できます。

Cisco CallManager からレコードを削除する必要がある場合、Dependency Records を使用すると、削除するレコードと関連付けられたレコードを表示することができます。次に、関連付けられたレコードを、別のレコードと関連付けるように再設定できます。

この付録は、次の項で構成されています。

- [Dependency Records の使用可能化 \(P.A-2\)](#)
- [Dependency Records の使用不可 \(P.A-3\)](#)
- [Dependency Records へのアクセス \(P.A-4\)](#)
- [Dependency Records ボタン \(P.A-6\)](#)

Dependency Records の使用可能化

Dependency Records にアクセスするには、まず Dependency Records を使用可能にする必要があります。システムでは、Dependency Records はデフォルトで使用不可になっています。Dependency Records を使用可能にする手順は、次のとおりです。



注意

Dependency Records 機能を使用可能にすると、CPU 使用率が高くなります。このタスクは、通常よりも低い優先度で実行され、ダイヤル プランの規模や複雑さ、CPU 速度、他のアプリケーションでの CPU 要求により、完了するまでに時間がかかる場合があります。

手順

- ステップ 1** System > Enterprise Parameters の順に選択します。
- ステップ 2** ウィンドウの CCMAAdmin Parameters 領域にスクロールします。
- ステップ 3** Enable Dependency Records ドロップダウン リスト ボックスから、True を選択します。

Dependency Records を使用可能にした場合の影響について説明するメッセージが、ダイアログボックスに表示されます。OK をクリックする前に、この情報をよく読んでください。
- ステップ 4** OK をクリックします。

フィールドに False が表示されます。
- ステップ 5** Update をクリックします。
- ステップ 6** 使用中のブラウザをいったん閉じてから、ブラウザを開き直します。この操作により、パラメータがシステム全体で有効になります。

Dependency Records の使用不可

Dependency Records を使用可能にした後に、システムで CPU 使用率の問題が発生している場合には、Dependency Records を使用不可にすることができます（システムでは、Dependency Records はデフォルトで使用不可になっています）。Dependency Records を使用不可にする手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 System > Enterprise Parameters の順に選択します。

ステップ 2 ウィンドウの CCMAAdmin Parameters 領域にスクロールします。

ステップ 3 Enable Dependency Records ドロップダウン リスト ボックスから、False を選択します。

Dependency Records に関するメッセージが、ダイアログボックスに表示されます。OK をクリックする前に、この情報をよく読んでください。

ステップ 4 OK をクリックします。

フィールドに False が表示されます。

ステップ 5 Update をクリックします。

ステップ 6 使用中のブラウザをいったん閉じてから、ブラウザを開き直します。この操作により、パラメータがシステム全体で有効になります。

Dependency Records へのアクセス

Cisco CallManager の設定ウィンドウから Dependency Records にアクセスするには、**Dependency Records** リンクをクリックします。Dependency Records - Summary ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、Cisco CallManager の設定ウィンドウに表示されたレコードを使用するレコードの数とタイプが表示されます。



(注) Dependency Records が有効になっていない場合は、Dependency Records - Summary ウィンドウにメッセージが表示されます(レコードに関する情報は表示されません)。Dependency Records を使用可能にするには、[P.A-2 の「Dependency Records の使用可能化」](#)を参照してください。

たとえば、Device Pool Configuration ウィンドウに Default デバイス プールが表示されている場合、Dependency Records リンクをクリックすると、Dependency Records - Summary ウィンドウに、そのデバイス プールを使用するレコードがすべて表示されます ([図 A-1](#) を参照)。

図 A-1 Dependency Records - Summary の例

The screenshot shows a window titled "Dependency Records - Summary" for "Device Pool: Default". It states "40 Record(s) are using Device Pool: Default" and includes buttons for "Refresh", "Close", and "Close and go Back". Below is a table with the following data:

Record Count	Record Type
27	Device Defaults
2	Phone
3	Gateway
1	Cisco Voice Mail Port
7	Trunk

Dependency Records の詳細情報を表示するには、表示対象のレコードをクリックします（たとえば、トランク レコードをクリックします）。Dependency Records - Detail ウィンドウが表示されます（図 A-2 を参照）。元の設定ウィンドウに戻るには、Back to <設定ウィンドウ名> リンクをクリックします。

図 A-2 Dependency Records - Detail の例

Device Name	Description
name23	name23
name2345566	name2345566
name234566	name234566
newlatest	newlatest
name234	name234
sptest	sptest
ewinterCluster	ewinterCluster

Summary ウィンドウに戻るには、ウィンドウの上部にある **Back to Summary** リンクをクリックします。

レコードの設定ウィンドウを表示するには、レコードをクリックします。そのレコードの設定ウィンドウが表示されます。たとえば、図 A-2 に示されている name23 トランク レコードをクリックすると、Trunk Configuration ウィンドウに、name23 トランクに関する情報が表示されます。

Dependency Records ボタン

Dependency Records - Summary ウィンドウには、次の 3 つのボタンが表示され
ます。

- Refresh : ウィンドウを現在の情報で更新する。
- Close : ウィンドウを閉じる。ただし、Dependency Records リンクをクリックした Cisco CallManager の設定ウィンドウには戻らない。
- Close and Go Back : ウィンドウを閉じ、Dependency Records リンクをクリックした Cisco CallManager の設定ウィンドウに戻る。



Cisco CallManager からのサブスクリバ サーバの削除

Cisco CallManager クラスタからサブスクリバ サーバを削除するには、Cisco CallManager Administration の Server Configuration ウィンドウを使用します。ただし、この削除操作では、Cisco CallManager Administration データベースからサブスクリバ サーバが削除されますが、サーバの依存関係がすべて削除されるわけではありません。

システムからサーバを完全に削除するには、次の手順を実行する必要があります。

1. サーバからすべての依存関係を削除します。たとえば、Cisco CallManager サービスを削除します。P.2-7 の「[サーバの削除](#)」を参照してください。



ヒント

依存関係を表示するには、Server Configuration ウィンドウの **Dependency Records** リンクをクリックします。

2. Cisco CallManager Administration からサーバを削除します。P.2-7 の「[サーバの削除](#)」を参照してください。
3. データベースから SQL 複製情報を削除するスクリプト ファイルを実行します。P.B-2 の「[SQL 複製情報の削除](#)」を参照してください。
4. Cisco CallManager クラスタがローカル DC Directory と統合されている場合は、パブリッシャから DCD 複製許諾契約を削除するスクリプト ファイルを実行します。P.B-4 の「[冗長 DCD 複製許諾契約の削除](#)」を参照してください。

SQL 複製情報の削除

Cisco CallManager Administration によってサーバが削除されたら、SQL 複製情報を削除するスクリプト ファイルを実行します。パブリッシャ用およびサブスクリバサーバ用の適切なスクリプト ファイルを実行します。



ヒント

P.B-5 の例 B-1 および P.B-6 の例 B-2 にあるスクリプト ファイルの内容をメモ帳のようなテキスト ファイルにコピーし、.bat 拡張子で保存します (たとえば、*removesubscription.bat* と *removeserverfromDB.bat*)。

パブリッシャの RemoveServerFromDB.bat スクリプトの実行

削除対象のサブスクリバを含むクラスタの Cisco CallManager パブリッシャサーバから RemoveServerFromDB.bat スクリプト ファイルを実行します。このスクリプトは、任意のディレクトリのコマンド プロンプトから実行します。



ヒント

スクリプトの実行手順を確認するには、パラメータなしでスクリプトを実行します。

パブリッシャサーバの任意のディレクトリから、次のコマンドを入力します。

```
< スクリプトを保存してあるパス >:\RemoveServerFromDB "server" "database"  
"name_of_server_to_delete_from_database connection string"
```



ヒント

データベース接続文字列の名前を探すには、**Service > Service Parameters** に移動し、Cisco Database Layer Monitor を選択して、**Advanced** をクリックします。その結果、Database Connection String フィールドに名前が表示されます (たとえば、*DSN=CiscoCallManager;Server=ABC2*)。

コマンド プロンプトからこのコマンドを実行すると、エラー メッセージが表示され、個別のエラー ログ ファイルは生成されません。

スクリプト ファイルの内容を確認するには、P.B-5 の「[RemoveServerFromDB.bat スクリプト ファイルの内容](#)」を参照してください。

サブスクリイバの RemoveSubscription.bat スクリプトの実行

削除対象の Cisco CallManager サブスクリイバ サーバから RemoveSubscription.bat スクリプト ファイルを実行します。このスクリプトは、任意のディレクトリのコマンド プロンプトから実行します。



ヒント

スクリプトの実行手順を確認するには、パラメータなしでスクリプトを実行します。

サブスクリイバ サーバの任意のディレクトリから、次のコマンドを入力します。

<スクリプトを保存してあるパス>:\RemoveSubscription “server” “database”

コマンド プロンプトからこのコマンドを実行すると、エラー メッセージが表示され、個別のエラー ログ ファイルは生成されません。

スクリプト ファイルの内容を確認するには、P.B-6 の「[RemoveSubscription.bat スクリプト ファイルの内容](#)」を参照してください。

冗長 DCD 複製許諾契約の削除

クラスタからサブスクリバ サーバが削除されたら、clean_publisher スクリプトを実行して、パブリッシャ DCD から DCD 複製情報を消去します。このスクリプトは、パブリッシャ サーバのみで実行されます。

Cisco CallManager Release 3.3 以降でこのスクリプトを入手できます。このスクリプトは、Cisco Directory コンポーネントのインストール時に Cisco CallManager サーバにインストールされます。

パブリッシャ サーバの任意のディレクトリから、次のコマンドを入力します。

```
c:\Clean_publisher.cmd
```

このスクリプト ファイルは、削除されたすべてのサブスクリバの複製許諾契約をパブリッシャ DCD から削除します。このとき、既存のデータが削除されたり変更されたりすることはありません。



(注)

管理者が、Clean_publisher.cmd スクリプトを実行せずにサーバを削除した後に、元のクラスタに対して同じホスト名でサーバを追加し直した場合、サブスクリバ DCD の設定に使用される DCD スクリプトは、サーバへの Cisco CallManager の Directory のインストール時に、以前の DCD 複製許諾契約をパブリッシャ DCD データベースから消去します。

RemoveServerFromDB.bat スクリプト ファイルの内容

例 B-1 に、パブリッシャ サーバから SQL 複製情報を削除するスクリプト ファイルの内容を示します。

例 B-1 スクリプト ファイルの内容

```
@echo off
@if "%3x" == "x" goto Usage
echo Install stored procedure in database %2

echo USE %2 > temp.sql
echo GO >> temp.sql
echo sp_dropsubscription @publication = %2, @subscriber = '%3', @article='all' >> temp.sql
echo GO >> temp1.sql
osql -S %1 -d %2 -E -e -i temp1.sql

del temp1.sql

goto end1
:Usage
@echo Usage: RemoveServerFromDB "server" "database"
"name_of_server_to_delete_from_ProcessNode.Name"
@echo Example: RemoveServerFromDB . CCM0300 fred.cisco.com
:end
```

RemoveSubscription.bat スクリプト ファイルの内容

例 B-2 に、サブスクリバ サーバから SQL 複製情報を削除するスクリプト ファイルの内容を示します。

例 B-2 スクリプト ファイルの内容

```
@echo off
@if "%2x" == "x" goto Usage
echo Install stored procedure in database %2

echo sp_removedbreplication @dbname = %2 > templ.sql
echo GO >> templ.sql
osql -S %1 -d %2 -E -e -i templ.sql

del templ.sql

goto endd
:Usage
@echo Usage: RemoveSubscription "server" "database"
@echo Example: RemoveSubscription . CCM0300
:endd
```




Cisco Unity ボイスメール ポートの調整

Cisco CallManager 3.3(3) から Cisco CallManager 4.0(1) への移行には、ボイスメールポート設定の調整が必要です。この付録では、Cisco CallManager Release 4.1 へのアップグレードにおいて Cisco Unity ボイスメールポートに必要な変更について説明します。ここでは、次の内容について説明します。

- [Cisco Unity ボイスメールポートの変更 \(P.C-2\)](#)
- [Cisco CallManager 4.0 以降のリリースへのアップグレード後の変更 \(P.C-2\)](#)
- [Cisco CallManager 4.0 以降のリリースにアップグレードする前の作業 \(P.C-4\)](#)
- [Cisco Unity フェールオーバー ボイスメールポートのセットアップ \(P.C-4\)](#)

Cisco Unity ボイスメール ポートの変更

この項では、Cisco CallManager での様々なボイスメール ポートの設定について説明します。Cisco CallManager 3.3(x) から Cisco CallManager 4.0 以降のリリースへの移行により、ボイスメール ポートの設定が正しく移行されることを確認するために実行するシナリオおよび手順を使用します。この項では、Cisco CallManager 3.3(x) でのボイスメール ポート設定、および Cisco CallManager 4.0 以降のリリースへ移行した後に予想される設定について説明します。また、システムを Cisco CallManager 4.0 以降のリリースにアップグレードした後で実行するボイス メッセージ システムの変更についても説明します。

ここでは、次の内容について説明します。

- Cisco CallManager 4.0 以降のリリースへのアップグレード後の変更 (P.C-2)
- Cisco CallManager 4.0 以降のリリースにアップグレードする前の作業 (P.C-4)
- Cisco Unity フェールオーバー ボイスメール ポートのセットアップ (P.C-4)

Cisco CallManager 4.0 以降のリリースへのアップグレード後の変更

いくつかの項目を再設定して、セットアップしたシナリオ タイプに応じてオリジナルのボイスメール ポート機能を保持する必要があります。また、この項の説明に従ってセットアップを変更する必要があります。

セットアップが受ける影響

最後のボイスメール ポートがルート パターン (ゲートウェイまたはクラスタ間 トランク (ICT)) へ転送されると、アップグレード後にこの設定が消滅します。クラスタ間トランクまたはゲートウェイをルート グループに追加して、ボイスメール パイロット番号に付加されたルート パターンの対応するルート / ハント リストに、ルート グループを追加する必要があります。ルート グループには、ルート / ハント リストの最後のメンバーが表示されます。



(注)

Broadcast 分散アルゴリズムと Cisco Unity のボイスメール ポートの実行との併用はお勧めしません。

回線グループの転送および Cisco Unity フェールオーバー

推奨される Cisco Unity フェールオーバー ボイスメール ポートのセットアップを使用している場合は、ボイスメール ポートに使用される回線グループに対して次の値を設定する必要があります。

- No Answer：残りのメンバーをスキップして、直接次のグループへ進む。
- Busy：次のメンバーに進むが、次のグループへは進まない。
- Not Available：残りのメンバーをスキップして、直接次のグループへ進む。

このマニュアル全体の様々なシナリオでは、これらの値に関する固有の情報について説明しています。

最後のボイスメール ポートがオペレータに対して設定され、オペレータが Call Forward No Answer (CFNA) および Call Forward Busy (CFB) をボイスメール パイロットに戻すように設定されている場合、CFB または CFNA を同じボイスメッセージ システムに戻すことができなくなります。オペレータ回線を含む回線グループを、ボイスメール ハント リストに追加できます。

アップグレード後、システムによって、フェールオーバー ボイスメール ポートがある回線グループが、ハント リスト パイロット番号に関連付けられたルート / ハント リストに配置されます。最初の設定に基づいて、ハント オプションを手動で選択する必要があります。

アップグレード後の変更内容

Cisco CallManager の前のバージョンから Cisco CallManager 4.0 以降のリリースへアップグレードすると、次の現象が発生する場合があります。

- Cisco Voice Mail Port Configuration ウィンドウに転送フィールドがない。
- ボイスメール ポートが回線グループ、ルート / ハント リスト、およびハント パイロット番号を使用している。データベースに既存のボイスメール ポートのセットアップがある場合、これらのエンティティはアップグレード後に自動的に作成されます。最初の設定に基づいて、ハント オプションを選択する必要があります。
- パイロット番号に最初のボイスメール ポートと同じ番号を持つルート パターンが別のパーティションで表示される。パイロット番号に使用されるパーティションは、本来、最初のボイスメール ポートに関連付けられたパーティションだったものです。

■ Cisco Unity ボイスメール ポートの変更

- ボイスメール ポートが、システムによってアップグレード処理中に新しく作成されたパーティションに配置される。
- MWI および発信コールに使用されるボイスメール ポートが、システムによって別の回線グループ、ルート / ハントリスト、およびハントリストパイロット番号に配置される。

Cisco CallManager 4.0 以降のリリースにアップグレードする前の作業

移行を正確に実行するには、ボイスメール ポートで次の手順を実行してください。

1. **重要:** 発信コールおよびメッセージ受信のインディケータだけに使用されるボイスメール ポートに設定されたコール転送をすべて削除してください。

Cisco Unity フェールオーバー ボイスメール ポートのセットアップ

サポートされるフェールオーバー設定は 2 つあります。これらのフェールオーバー設定については、White Paper『*Cisco CallManager Port Configuration for Cisco Unity Failover (Cisco Unity Versions 4.0 and 3.1(2) and Later)*』に記載されています。

この項では、Cisco CallManager 3.3(x) の設定例および Cisco CallManager 4.0 以降のリリースへのアップグレード後の各設定の類似点の概要について説明します。Cisco CallManager バージョン 4.0 以降のリリースへアップグレード後、一部の設定を手動で行う必要があります。また、これらの変更の概要についても説明します。

ここでは、次の内容について説明します。

- [Cisco CallManager 3.3\(x\) での Cisco Unity フェールオーバーの設定 1 \(推奨\) \(P.C-5\)](#)
- [Cisco CallManager 4.0 以降のリリースへ移行後の Cisco Unity フェールオーバーの設定 1 \(推奨\) \(P.C-6\)](#)
- [1 つの Cisco CallManager クラスタを持つ 1 台の Cisco Unity サーバ \(P.C-8\)](#)
- [Cisco CallManager 3.3\(x\) で 1 つの Cisco CallManager クラスタを持つ 1 台の Cisco Unity サーバ \(P.C-8\)](#)
- [Cisco CallManager 4.0 以降のリリースへ移行後に 1 つの Cisco CallManager クラスタを持つ 1 台の Cisco Unity サーバ \(P.C-9\)](#)

Cisco CallManager 3.3(x) での Cisco Unity フェールオーバーの設定 1 (推奨)

この例では、各サーバで 4 つのポートが着信コールを処理し、2 つのポートが発信コールおよび MWI を処理します。PhoneCSS には、登録者の電話機に割り当てられたパーティションおよび VMPilotNumberPT が含まれます。

VMRestrictedCSS には VMRestrictedPT だけが含まれ、VM ポートだけに割り当てられます。

プライマリ Cisco Unity サーバの VM ポートの設定例は次のとおりです。

```
Port 1: (Line: 2001) Device Settings - CSS = PhoneCSS
Port 1: (Line: 2001) Directory Number Settings - Partition =
VMPilotNumberPT, CSS = VMRestrictedCSS
Ports 2 to 6: (Lines: 2002-2006) Device Settings - CSS = PhoneCSS
Ports 2 to 6: (Lines: 2002-2006) Directory Number Settings - Partition
= VMRestrictedPT, CSS = VMRestrictedCSS
Ports 1 to 6: (Lines: 2001-2006) Call Forwarding Settings on Busy and
No Answer CSS = VMRestrictedCSS
Line: 2001, CFNA = 3001, CFB = 2002
Line: 2002, CFNA = 3001, CFB = 2003
Line: 2003, CFNA = 3001, CFB = 2004
Line: 2004, CFNA = 3001, CFB = 2001
Line: 2005, CFNA = 2001, CFB = Blank (for outbound calls and MWI)
Line: 2006, CFNA = 2001, CFB = Blank (for outbound calls and MWI)
```

セカンダリ Cisco Unity サーバの VM ポートの設定例を次に示します (ポートがすべて使用中または Ring No Answer (RNA) の場合、コールがオペレータに送信されない)。

```
Ports 1 to 6: (Lines: 3001-3006) Device Settings - CSS = PhoneCSS
Ports 1 to 6: (Lines: 3001-3006) Directory Number Settings - Partition
= VMRestrictedPT, CSS = VMRestrictedCSS
Ports 1 to 6: (Lines: 3001-3006) Call Forwarding Settings on Busy and
No Answer CSS = VMRestrictedCSS
Line: 3001, CFNA = 3002, CFB = 3002
Line: 3002, CFNA = 3003, CFB = 3003
Line: 3003, CFNA = 3004, CFB = 3004
Line: 3004, CFNA = 3001, CFB = 3001
Line: 3005, CFNA = 3001, CFB = Blank (for outbound calls and MWI)
Line: 3006, CFNA = 3001, CFB = Blank (for outbound calls and MWI)
```

セカンダリ Cisco Unity サーバの VM ポートの設定例を次に示します（ポートがすべて使用中または RNA の場合、コールがオペレータに送信される）。

```
Ports 1 to 6: (Lines: 3001-3006) Device Settings - CSS = PhoneCSS
Ports 1 to 6: (Lines: 3001-3006) Directory Number Settings - Partition
= VMRestrictedPT, CSS = VMRestrictedCSS
Ports 1 to 6: (Lines: 3001-3006) Call Forwarding Settings on Busy and
No Answer CSS = VMRestrictedCSS
Line: 3001, CFNA = 3002, CFB = 3002
Line: 3002, CFNA = 3003, CFB = 3003
Line: 3003, CFNA = 3004, CFB = 3004
Line: 3004, CFNA = operator DN, CFB = operator DN
Line: 3005, CFNA = 3001, CFB = Blank (for outbound calls and MWI)
Line: 3006, CFNA = 3001, CFB = Blank (for outbound calls and MWI)
```

Cisco CallManager 4.0 以降のリリースへ移行後の Cisco Unity フェールオーバーの設定 1（推奨）

この例では、各サーバで 4 つのポートが着信コールを処理し、2 つのポートが発信コールおよび MWI を処理します。PhoneCSS には、登録者の電話機に割り当てられたパーティションおよび VMPilotNumberPT が含まれます。

VMRestrictedCSS には VMRestrictedPT だけが含まれ、VM ポートだけに割り当てられます。VMPilotPartition が自動的に作成され、ボイスメール ポートに割り当てられます。

プライマリ Cisco Unity サーバの VM ポートの設定例を次に示します。

```
Ports 1 to 6: (Lines: 2001-2006) Device Settings - CSS = PhoneCSS
Ports 1 to 6: (Lines: 2001-2006) Directory Number Settings - Partition
= VMPilotPartition, CSS = VMRestrictedCSS
```

セカンダリ Cisco Unity サーバの VM ポートの設定例を次に示します。

```
Ports 1 to 6: (Lines: 3001-3006) Device Settings - CSS = PhoneCSS
Ports 1 to 6: (Lines: 3001-3006) Directory Number Settings - Partition
= VMPilotPartition, CSS = VMRestrictedCSS
```

回線グループの設定例を次に示します (ポートがすべて使用中または RNA の場合、コールはオペレータに送信されない)。

1. Line Group Name: LG2001 は 2001 ~ 2004 を含み、次の設定値を持ちます。

No Answer: Skip remaining members, and go directly to next group
(Because this setting is not the default, you must set it manually.)

Busy: Try next member, but do not go to next group (Because this setting is not the default, you must set it manually.)

Not Available: Skip remaining members, and go directly to next group (Because this setting is not the default, you must set it manually.)

2. Line Group Name: LG3001 は 3001 ~ 3004 を含み、次の設定値を持ちます。

No Answer: Try next member, but do not go to next group

Busy: Try next member, but do not go to next group

Not Available: Try next member, but do not go to next group

これらの値は、アップグレード後に必ず手動で設定してください。

回線グループの設定例を次に示します (ポートがすべて使用中または RNA の場合、コールはオペレータに送信される)。



(注) 着信回線グループだけを設定し、ダイヤルアウトした回線グループはそのままにしてください。

1. Line Group Name: LG2001 は 2001 ~ 2004 を含み、次の設定値を持ちます。

No Answer: Skip remaining members, and go directly to next group

Busy: Try next member, but do not go to next group

Not Available: Skip remaining members, and go directly to next group

これらの値は、アップグレード後に必ず手動で設定してください。

2. Line Group Name: LG3001 は 3001 ~ 3004 を含み、次の設定値を持ちます。

No Answer: Try next member, but do not go to next group

Busy: Try next member, but do not go to next group

Not Available: Skip remaining members, and go directly to next group

これらの値は、アップグレード後に必ず手動で設定してください。

Cisco Unity ボイスメール ポートの変更

3. Line Group Name: Operator は、オペレータの内線(たとえば 1000)を含みます。

```
No Answer: Try next member, but do not go to next group
Busy: Try next member, but do not go to next group
Not Available: Try next member, but do not go to next group
```

アップグレード後、ハント リストは自動的に次のように設定されます。

```
Hunt List Name: HL2001, includes Line Groups LG2001 and LG3001, and
operator LG if used, in this order.
```

アップグレード後、ハント パイロットは自動的に次のように設定されます。

```
Hunt Pilot: 2001, Partition: VMPilotNumberPT, Hunt List: HL2001
```

1 つの Cisco CallManager クラスタを持つ 1 台の Cisco Unity サーバ

この項では、1 台の Cisco Unity サーバおよび 1 つの Cisco CallManager クラスタでのボイスメール ポートの設定の概要について説明します。ここでは、次の設定例について説明します。

- [Cisco CallManager 3.3\(x\) で 1 つの Cisco CallManager クラスタを持つ 1 台の Cisco Unity サーバ \(P.C-8\)](#)
- [Cisco CallManager 4.0 以降のリリースへ移行後に 1 つの Cisco CallManager クラスタを持つ 1 台の Cisco Unity サーバ \(P.C-9\)](#)

Cisco CallManager 3.3(x) で 1 つの Cisco CallManager クラスタを持つ 1 台の Cisco Unity サーバ

この例では、ボイスメール ポートが次のように設定されます。

```
Port 1: (Line: 2001) Device Settings - CSS = PhoneCSS
Port 1: (Line: 2001) Directory Number Settings - Partition =
VMPilotNumberPT, CSS = VMRestrictedCSS
Ports 2 to 6: (Lines: 2002-2006) Device Settings - CSS = PhoneCSS
Ports 2 to 6: (Lines: 2002-2006) Directory Number Settings - Partition
= VMRestrictedPT, CSS = VMRestrictedCSS
Ports 1 to 6: (Lines: 2001-2006) Call Forwarding Settings on Busy and
No Answer CSS = VMRestrictedCSS
Line: 2001, CFNA = 2002, CFB = 2002
Line: 2002, CFNA = 2003, CFB = 2003
Line: 2003, CFNA = 2004, CFB = 2004
Line: 2004, CFNA = 2001, CFB = 2001
Line: 2005, CFNA = 2001, CFB = Blank (for outbound calls and MWI)
Line: 2006, CFNA = 2001, CFB = Blank (for outbound calls and MWI)
```


Cisco CallManager 4.0 以降のリリースへ移行後に 1 つの Cisco CallManager クラスタを持つ 1 台の Cisco Unity サーバ

この例では、ボイスメール ポートが次のように設定されます。

```
Ports 1 to 6: (Lines: 2001-2006) Device Settings - CSS = PhoneCSS
Ports 1 to 6: (Lines: 2001-2006) Directory Number Settings - Partition
= VMPilotPartition, CSS = VMRestrictedCSS
```

回線グループは、次のように設定されます。

Line Group Name: LG2001 は 2001 ~ 2004 を含み、次の設定値を持ちます。

```
No Answer: Try next member, but do not go to next group
Busy: Try next member, but do not go to next group
Not Available: Try next member, but do not go to next group
```

発信ポートに次の回線グループを作成します。

```
LG2005, include 2005 and 2006
```

これらの回線グループを次の値で設定します。

```
No Answer: Stop hunting. (Because this setting is not the default,
you must set it manually.)
Busy: Stop hunting. (Because this setting is not the default, you
must set it manually.)
Not Available: Stop hunting. (Because this setting is not the
default, you must set it manually.)
```

ハント リストは、次のように設定されます。

```
Hunt List Name: HL2001, includes Line Groups LG2001
Hunt List Name: HL2004, includes Line Groups LG2004 and LG2001, in
that order
Hunt List Name: HL2005, includes Line Groups LG2005 and LG2001, in
that order
```

ハントパイロットは、次のように設定されます。

```
Hunt Pilot: 2001, Partition: VMPilotNumberPT, Hunt List: HL2001
```




A

AA 67-15

AAR

設定 14-1

Analog Access ゲートウェイとポート

追加 61-20

Annunciator 32-1

検索 32-3

更新 32-7

削除 32-10

設定 32-1

設定値 (表) 32-12

Automated Attendant (AA) 67-15

B

BRI

ゲートウェイ設定 61-57

ポート、追加 61-14

Busy Lamp Field

設定 62-40

C

call waiting

設定値 62-82

Cisco CallManager

主な機能 1-2

概要 1-1

グループ

検索 4-3

更新 4-6

コピー 4-8

削除 4-9

設定値 (表) 4-11

設定の概要 4-1

追加 4-5

検索 3-2

更新 3-7

コンポーネントのバージョン 3-14

サーバ設定 2-1

削除 3-8

参考情報 1-10

参照 1-3

設定 3-1

設定値 (表) 3-10

追加 3-5

利点 1-2

Cisco CallManager アドミニストレーション ガイド

関連資料 xxx

対象読者 xxviii

表記法 xxxi

- マニュアルの構成 xxix
- 目的 xxviii
- Cisco CallManager コンポーネントのバージョン 3-14
- Cisco CallManager サブスクリバ
 - 削除 B-1
- Cisco CallManager の概要 1-1
- Cisco IP Manager Assistant (IPMA)
 - プロキシ回線の設定ウィザード 30-1
- Cisco IP Phone
 - MAC アドレスの表示 62-4
 - 既存のコピー 62-8
 - 検索と一覧表示 62-50
 - 更新 62-12
 - 削除 62-13
 - 設定 62-3
 - 設定の概要 62-1
 - 追加 62-5
 - テンプレート、電話機のボタン
 - 設定 64-1
 - 電話番号 62-52
 - リセット 62-10
- Cisco IP Phone サービス
 - Dependency Records 44-9
 - 加入 62-43
 - 加入解除 62-46
 - 更新 62-45
 - サービス パラメータの更新 44-14
 - サービス パラメータの削除 44-16
 - サービス パラメータの追加 44-12
 - サービスの検索 44-3
 - サービスの更新 44-7
 - サービスの削除 44-9
 - サービスの追加 44-6
 - 設定 44-1, 62-43
 - 設定値 (表) 44-11
 - パラメータ設定値 (表) 44-18
- Cisco IP SoftPhone
 - ユーザ情報 67-17
- Cisco Unity
 - Cisco CallManager 4.0 以降へのアップグレード C-2, C-4
 - フェールオーバー ボイスメール ポートのセットアップ C-4
 - ボイスメール ポートの調整 C-1
 - ボイスメール ポートの変更 C-2
 - ユーザ設定のボイスメールボックス 67-3
- Cisco Unity ボイスメール ポート
 - フェールオーバー C-4
- Cisco Unity ボイスメールボックス
 - 電話番号 62-58
- Cisco uOne
 - MWI デバイス、設定 52-5
- Cisco Voice Mail
 - Port Wizard Device Information の設定値 51-3
 - Port Wizard Directory Number の設定値 51-5
 - ウィザードを使用するポートの削除 51-12
 - ウィザードを使用するポートの追加 51-9
 - 新規サーバとポートの追加 51-2
 - 設定 50-1
 - プロファイルの設定 54-1
 - ポートウィザードの設定 51-1
 - ポートの検索 50-2
 - ポートの更新 50-8
 - ポートのコピー 50-9
 - ポートの削除 50-6

- ポートの設定値 (表) 50-11
- ポートの追加 50-5
- メッセージ受信の設定 52-1
- メッセージ受信番号の検索 52-2
- Cisco ボイスメールパイロット
 - 検索 53-2
 - 削除 53-6
 - 設定 53-1, 53-5
- CMLocal Date/Time Group 5-1
- Conference Bridge
 - Cisco Conference Bridge (WS-SVC-CMM) の設定値 (表) 33-23
 - Cisco Conference Bridge (WS-SVC-CMM) の追加 33-21
 - Cisco IOS Video Conference Bridge デバイスの追加 33-17
 - Cisco IOS 設定値 (表) 33-16
 - Cisco IOS デバイスの追加 33-14
 - Cisco Video の設定値 (表) 33-19
 - Conference Bridge パラメータの更新 33-29
 - Meet-Me Number/Pattern の検索 47-2
 - Meet-Me Number/Pattern の更新 47-7
 - Meet-Me Number/Pattern のコピー 47-4
 - Meet-Me Number/Pattern の削除 47-9
 - Meet-Me Number/Pattern の追加 47-6
 - 検索 33-3
 - コンファレンス デバイスの更新 33-25
 - コンファレンス デバイスの削除 33-27
 - 設定 33-1
 - ソフトウェア デバイスの追加 33-6
 - ソフトウェアの設定値 (表) 33-8
 - ハードウェア デバイスの追加 33-10
 - ハードウェアの設定値 (表) 33-12
- CTI
 - Find and List CTI Route Points Configuration ウィンドウ (図) 56-9
 - Route Point Configuration ウィンドウ (図) 56-2
 - ルートポイント
 - 検索 56-7
 - 削除 56-5
 - 設定 56-1
 - 設定値 (表) 56-11
 - 追加 56-2
 - 変更 56-4
 - リセット 56-9
- CTI ポート
 - 既存のコピー 62-8
 - 追加 62-5
- D
 - Date/Time Group
 - 検索 5-3
 - 更新 5-7
 - 削除 5-8
 - 設定 5-1
 - 設定値 (表) 5-10
 - 追加 5-5
 - Dependency Records
 - Cisco IP Phone サービス 44-9
 - アクセス A-4
 - エンタープライズパラメータ A-2
 - 概要 A-1
 - 使用可能化 A-2
 - 使用不可 A-3

- ボイスメールパイロット番号 53-6
 - ボイスメールプロファイル 54-4
 - ボイスメールポート 50-6
 - ボタン A-6
 - ユーザデバイスプロファイル 58-11
 - ルートフィルタ 16-14
- E**
- E1 PRI ポート 61-13
- F**
- FXO ポート 61-10
 - FXS ポート 61-8
- G**
- Global Directory
 - Advanced Search 68-4
 - Basic Search 68-2
 - LDAP 68-1
 - 概要 68-1
 - Global Directory を使用する検索 68-1
- H**
- H.323、ゲートウェイの追加 61-19
 - HTTPS
 - Secure Sockets Layer 上の HTTP 1-5
- I**
- IP Phone、Cisco
 - 設定 62-3
 - 設定の概要 62-1
 - IP Phone サービス、Cisco
 - 加入 62-43
 - 加入解除 62-46
 - 更新 62-45
 - 設定 62-43
 - IP アドレス 2-1
 - ISDN BRI、ゲートウェイ設定 61-57
 - ISDN、ゲートウェイ設定 61-36
- L**
- LDAP パラメータ 9-1
- M**
- Max list box エンタープライズパラメータ
 - コーリングサーチスペース 62-84
 - Media Termination Point (MTP) 34-1
 - Meet-Me Number/Pattern
 - 検索 47-2
 - 更新 47-7
 - コピー 47-4
 - 削除 47-9
 - 設定 47-1
 - 設定値(表) 47-10
 - 追加 47-6
 - MGCP
 - Cisco IOS、追加 61-4

- FXO ポート、追加 61-10
- FXS ポート、追加 61-8
- IOS 以外のゲートウェイ、追加 61-17
- T1 PRI または E1 PRI ポート、追加 61-13
- T1-CAS ポート 61-12
- ゲートウェイ、追加 61-4
- ポート、追加 61-8
- MGCP BRI
 - 参考情報 61-57
- MTP
 - 検索 34-3
 - 更新 34-8
 - 削除 34-10
 - 設定 34-1
 - ソフトウェアの設定値 (表) 34-12
 - 追加 34-6
 - ハードウェアの設定値 (表) 34-13
- Multilevel Administration (MLA)
 - エンタープライズパラメータの設定 69-18
 - 機能グループ 69-5
 - 機能グループの更新 69-6
 - 機能グループの削除 69-7
 - 機能グループの追加 69-5
 - 終了 69-20
 - 使用可能化 69-3
 - 特権レポート 69-16
 - ユーザグループ 69-9
 - ユーザグループからのユーザの削除 69-13
 - ユーザグループの削除 69-10
 - ユーザグループの追加 69-9
 - ユーザグループの特権 69-15
 - ユーザグループへの特権の割り当て 69-15
- ユーザグループへのユーザの追加 69-11
- ユーザの特権 69-17
- 説明 69-1
- MWI
 - MWI デバイスの設定値 (表) 52-6
 - uOne 用の MWI デバイス 52-5
- N
 - Number/Pattern、Meet-Me
 - 検索 47-2
 - 更新 47-7
 - コピー 47-4
 - 削除 47-9
 - 追加 47-6
- P
 - PRI、ゲートウェイ設定 61-36
- S
 - SCCP
 - Cisco IOS、追加 61-15
 - ゲートウェイ、追加 61-15
 - SRST
 - 検索 13-2
 - 更新 13-5
 - コピー 13-6
 - 削除 13-7
 - 設定 13-1
 - 設定値 (表) 13-9
 - 追加 13-4

- Survivable Remote Site Telephony (SRST)
 設定 13-1
- T
- T1 PRI ポート 61-13
 T1-CAS ポート、追加 61-12
- U
- uOne、Cisco
 MWI デバイス、設定 52-5
- V
- Video
 Conference Bridge 33-17
 Voice Gateway 61-1
 Voice Mail
 Port Wizard Device Information の設定値 51-3
 Port Wizard Directory Number の設定値 51-5
 ウィザードを使用するポートの削除 51-12
 ウィザードを使用するポートの追加 51-9
 新規サーバとポートの追加 51-2
 設定 50-1
 プロファイルの設定 54-1
 ポート ウィザードの設定 51-1
 ポートの検索 50-2
 ポートの更新 50-8
 ポートのコピー 50-9
 ポートの削除 50-6
 ポートの設定値 (表) 50-11
 ポートの追加 50-5
- メッセージ受信の設定 52-1
 メッセージ受信番号の検索 52-2
- あ
- アドミSSION制御
 ロケーションを使用する実装 10-1
 アプリケーション プロファイル 67-13
- え
- エクステンション モビリティ、ユーザ情報
 67-16
 エンタープライズ パラメータ
 Dependency Records A-2
 設定 9-1
- か
- 回線グループ
 検索 24-2
 更新 24-9
 削除 24-10
 設定 24-1
 設定値 (表) 24-12
 追加 24-4
 デバイスの削除 24-8
 デバイスの追加 24-6
 外部電話番号マスク 11-7
 外部ルート プラン ウィザード
 外部ルート プランの確認 28-12
 外部ルート プランの完成 28-13
 外部ルート プランの削除 28-14

外部ルート プランの作成 28-2
 外部ルート プランの生成 28-11
 ゲートウェイ情報の指定 28-9
 ゲートウェイの選択 28-8
 設定 28-1
 テナント情報の指定 28-5
 ルーティング オプションの設定 28-3
 ロケーション情報の入力 28-6
 カスタム電話ボタン テンプレート
 7914 Expansion Module の設定 64-14
 検索 64-3
 更新 64-12
 削除 64-10
 追加 64-5
 名前変更 64-8
 変更 64-8
 関連資料 xxx

き

キーパッド テンプレート、設定 64-1

機能グループ

更新 69-6
 削除 69-7
 説明 69-5
 追加 69-5

共通プロファイル

検索 57-2
 更新 57-4
 コピー 57-5
 削除 57-6
 設定 57-1

設定値 (表) 57-8

追加 57-3

<

グループ

Cisco CallManager

設定 4-1

設定値 (表) 4-11

日付と時刻

概要 5-1

設定値 (表) 5-10

グループ コール ピックアップ

グループの設定値 (表) 43-12

グループ番号の検索 43-3

グループ番号の更新 43-8

グループ番号の削除 43-9

グループ番号の追加 43-6, 43-7

設定 43-1

電話番号のグループへの割り当て 43-17

け

ゲートウェイ

Analog Access ゲートウェイ、追加 61-20

Analog Access の設定値 (表) 61-90

BRI の設定値 (表) 61-57

Cisco IOS SCCP ゲートウェイの設定値 (表)
61-96

Cisco VG224/VG248 analog gateway、追加
61-22

Cisco VG224/VG248 アナログ ポート、追加
61-22

Cisco VG248 設定値 (表) 61-94
 E & M ポートの設定値 (表) 61-108
 E1/T1 設定値 (表) 61-36
 FSX/FXO 設定値 (表) 61-30
 H.323 設定値 (表) 61-77
 H.323、追加 61-19
 IOS 以外の、追加 61-17
 ISDN 61-36
 ISDN BRI 61-57
 MGCP
 Cisco IOS、追加 61-4
 FXO ポート、追加 61-10
 FXS ポート、追加 61-8
 T1 PRI または E1 PRI ポート、追加
 61-13
 T1-CAS ポート、追加 61-12
 設定値 (表) 61-26
 ポート、追加 61-8
 MGCP BRI
 設定 61-57
 ポート、追加 61-14
 POTS ポートの設定値 (表) 61-101
 PRI 61-36
 SCCP
 Cisco IOS、追加 61-15
 T1-CAS 設定値 (表) 61-70
 外部ルート プラン ウィザードを使用するゲート
 ウェイ情報指定 28-9
 外部ルート プラン ウィザードを使用する選択
 28-8
 グラウンド スタート ポートの設定値 (表)
 61-106

検索

コーリング サーチ スペースによる
 61-116
 説明による 61-112
 デバイス タイプによる 61-122
 デバイス プールによる 61-118
 デバイス名による 61-110
 電話番号による 61-114
 ルート グループによる 61-120
 検索と一覧表示 61-110
 更新 61-127
 再起動 61-126
 削除 61-124
 設定 61-1
 設定値 (表) 61-25
 追加 61-2
 変更 61-124
 ポート、追加 61-20
 ポートの設定値 (表) 61-101
 リセット 61-126
 ルート パターンによる検索 61-114
 ループ スタート ポートの設定値 (表)
 61-104
 ゲートキーパー
 検索 60-3
 削除 60-7
 設定 60-1
 設定値 (表) 60-12
 追加 60-6
 変更 60-9
 リセット 60-10

- こ
- コーリングサーチスペース
 - 検索 20-2
 - 更新 20-5
 - コピー 20-6
 - 削除 20-8
 - 設定 20-1
 - 設定値(表) 20-10
 - 追加 20-4
 - ドロップダウン リスト ボックスでの表示を設定 62-84
 - コールパーク
 - 説明 41-1
 - コールピックアップ
 - グループの設定値(表) 43-12
 - グループ番号の検索 43-3
 - グループ番号の更新 43-8
 - グループ番号の削除 43-9
 - グループ番号の追加 43-6, 43-7
 - 設定 43-1
 - 通知 43-1
 - 電話番号のグループへの割り当て 43-17
 - コール表示制限
 - デバイス プロファイル デフォルトでの設定 59-9
 - 電話機の設定 62-25
 - 変換パターンでの設定 27-16
 - ユーザ デバイス プロファイルでの設定 58-6
 - コンポーネントのバージョン 3-14
- さ
- サーバ
 - 検索 2-2
 - 更新 2-6
 - 削除 2-7
 - 設定 2-1
 - 設定値(表) 2-9
 - 追加 2-4
 - サービス
 - Cisco IP Phone 設定値(表) 44-11
 - Cisco IP Phone パラメータ設定値(表) 44-18
 - 設定
 - Cisco IP Phone サービスの検索 44-3
 - Cisco IP Phone サービスの更新 44-7
 - Cisco IP Phone サービスの削除 44-9
 - Cisco IP Phone サービスの追加 44-6
 - サービス URL ボタン
 - 更新 62-49
 - 追加 62-47
 - サービスパラメータ
 - サービス用の設定 40-3
 - サービス用の表示 40-5
 - 設定 40-1
 - Cisco IP Phone サービスの更新 44-14
 - Cisco IP Phone サービスの削除 44-16
 - Cisco IP Phone サービスの追加 44-12
 - 設定ウィンドウ(図) 40-4
 - 削除
 - Cisco CallManager サブスクリイバ B-1
 - サブスクリイバ
 - 削除 B-1

参照

- Cisco CallManager 1-3
- Java ランタイム環境 1-4
- セキュリティ
 - ハイパーテキスト転送プロトコル 1-5

し

- 時間帯 5-1
 - 検索 17-2
 - 更新 17-5
 - コピー 17-6
 - 削除 17-7
 - 設定 17-1
 - 設定値 (表) 17-9
 - 追加 17-4
- 自動生成デバイス プロファイル
 - 電話番号の設定 58-15
- 自動代替ルーティング グループ
 - 検索 14-3
 - 更新 14-6
 - 削除 14-7
 - 設定 14-1
 - 設定値 (表) 14-9
 - 追加 14-5
- 自動登録
 - 自動登録番号の再使用 11-9
 - 使用可能化 11-2
 - 使用不可 11-5
 - 設定 11-1
 - 設定値 (表) 11-6

資料

- 関連 xxx

そ

ソフトキー テンプレート

- 更新 65-14
- 削除 65-12
- 設定 65-1
- 名前変更 65-11
- 割り当て 65-16

た

タイム スケジュール

- 検索 18-2
- 更新 18-5
- コピー 18-6
- 削除 18-8
- 設定 18-1
- 設定値 (表) 18-10
- 追加 18-4

ダイヤル規則

- 更新 15-3
- 削除 15-4
- 設定 15-1
- 追加 15-2
- 変更 15-3
- 優先順位の変更 15-5

他グループ コール ピックアップ

- 設定 43-1

- 短縮ダイヤル
 - 設定値 (表) 62-39, 62-41, 62-42
- 短縮ダイヤル ボタン
 - 設定 62-38
- て
- ディレクテッドコールパーク
 - 説明 42-1
- ディレクトリ
 - Cisco Unity ボイスメールボックス 67-3
 - 使用可能な文字 67-8
- デバイス
 - Cisco IP Phone
 - 設定 62-3
 - 設定の概要 62-1
 - MWI 設定値 (表) 52-6
 - 共通特性の指定 8-1
 - ゲートウェイ 61-1
 - ゲートキーパー、設定 60-1
 - 再起動またはリセット 55-2
 - 設定 55-1
 - 追加 55-2
 - デフォルト以外のファームウェア ロード使用
 - 6-5
 - トランク、設定 63-1
- デバイス デフォルト
 - 更新 6-2
 - 設定 6-1
 - 設定値 (表) 6-4
- デバイス プール
 - 検索 8-2
 - 更新 8-7
- 削除 8-8
- 設定 8-1
- 設定値 (表) 8-9
- 追加 8-5
- デバイス プロファイル
 - 検索 58-3
 - 自動生成デバイス プロファイル用の電話番号
 - の設定 58-15
 - 自動生成プロファイルの更新 58-13
 - 設定 58-1
 - ユーザ プロファイルの更新 58-10
 - ユーザ プロファイルの削除 58-11
 - ユーザの追加 58-5
- デバイス プロファイル デフォルト
 - 更新 59-5
 - サービスの登録 59-7
 - 削除 59-6
 - 設定 59-1
 - 設定値 59-8
 - 追加 59-3
- デバイス モビリティ グループ
 - 検索 48-2
 - 更新 48-4
 - コピー 48-5
 - 削除 48-6
 - 設定 48-1
 - 設定値 (表) 48-7
 - 追加 48-3
- デバイス モビリティ 情報
 - 検索 49-2
 - 更新 49-4
 - コピー 49-5
 - 削除 49-6

- 設定 49-1
- 設定値 (表) 49-7
- 追加 49-3
- デフォルト
- デバイス
 - 更新 6-2
 - 設定 6-1
 - 設定値 (表) 6-4
 - ファームウェア ロードを使用しない 6-5
- 電話機
 - Cisco IP Phone サービス
 - サービス パラメータの更新 44-14
 - サービス パラメータの削除 44-16
 - サービス パラメータの追加 44-12
 - サービスの検索 44-3
 - サービスの更新 44-7
 - サービスの削除 44-9
 - サービスの追加 44-6
 - 設定 44-1
 - 設定値 (表) 44-11
 - パラメータ設定値 (表) 44-18
 - Find and List Phones ウィンドウ (図)
 - 削除 62-14
 - リセット 62-10
 - MAC アドレスの表示 62-4
 - 既存のコピー 62-8
 - 検索と一覧表示 62-50
 - 更新 62-12
 - 削除 62-13
 - 設定ウィンドウ (図) 62-7
 - 設定値 (表) 62-15
 - 追加 62-5
 - 電話番号、設定 62-52
 - リセット 62-10
 - 電話番号
 - call waiting の設定値 62-82
 - 更新 62-55
 - コーリング サーチ スペースのリスト 62-84
 - 設定 62-52
 - 設定値 (表) 62-60
 - 追加 62-52
 - 電話機からの削除 62-56
 - 割り当てられていない~の更新 29-6
 - 割り当てられていない~の削除 29-5
 - 電話番号の設定
 - Cisco Unity ボイスメールボックスの作成 62-58
 - 電話ボタン テンプレート
 - 7914 Expansion Podule 64-14
 - 検索 64-3
 - 更新 64-12
 - 削除 64-10
 - 設定 64-1
 - 設定値 (表) 64-7
 - 追加 64-5
 - 名前変更 64-8
 - 変更 64-8
- と
- 特権
 - ユーザグループ 69-15
 - ユーザグループへの割り当て 69-15
 - ユーザの~の表示 69-17
 - レポートの表示 69-16

- ドメイン ネーム システム (DNS) 2-1
- トランク
 - 検索と一覧表示 63-2
 - 削除 63-5
 - 設定 63-1
 - 設定値 (表) 63-11
 - 追加 63-4
 - 変更 63-7
 - リセット 63-9
- トランスコーダ
 - 概要 37-1
 - 更新 37-6
 - コピー 37-7
 - 削除 37-9
 - 設定 37-2, 37-5
 - 設定値 (表) 37-11
- は
- パーティション
 - 検索 19-2, 19-12
 - 更新 19-5
 - 削除 19-6
 - 設定 19-1
 - 設定値 (表) 19-8
 - 追加 19-4
- パラメータ
 - LDAP 9-1
 - MLA のエンタープライズ パラメータの設定
 - MLA の設定 69-18
 - エンタープライズ 9-1
 - サービス用の設定 40-3
- サービス用の表示 40-5
 - 設定 40-1
- ハントパイロット
 - 検索 26-2
 - 更新 26-7
 - コピー 26-8
 - 削除 26-10
 - 設定 26-1
 - 設定値 (表) 26-11
 - 追加 26-5
- ハントリスト
 - 回線グループの削除 25-10
 - 回線グループの順位の変更 25-12
 - 回線グループの追加 25-8
 - 検索 25-2
 - 削除 25-13
 - 設定 25-1
 - 追加 25-5
- ひ
- 非標準ソフトキー テンプレート
 - アプリケーション ソフトキーの追加 65-7
 - 検索 65-2
 - ソフトキーの位置 65-9
 - 追加 65-5
- 表記法 xxxi
- ふ
- ファームウェア ロード、デフォルト以外のデバイス 6-5

物理ロケーション

- 検索 12-2
- 更新 12-4
- コピー 12-5
- 削除 12-6
- 設定 12-1
- 設定値 (表) 12-7
- 追加 12-3

プラグイン

- インストレーション 70-2
- 設定 70-1

へ

変換パターン

- 検索 27-2
- 更新 27-6
- コピー 27-7
- 削除 27-8
- 設定 27-1
- 設定値 (表) 27-10
- 追加 27-5

ほ

ボイスメールパイロット

- 検索 53-2
- 削除 53-6
- 設定 53-1, 53-5
- 設定値 (表) 53-8

ボイスメールパイロット番号

- Dependency Records 53-6

ボイスメール プロファイル

- Dependency Records 54-4
- 一覧表示 54-2
- 検索 54-2
- コピー 54-3
- 削除 54-4
- 設定値 (表) 54-7

ボイスメール ポート

- Dependency Records 50-6

ボイスメール ポートの調整

- Cisco Unity C-1

ボイスメール ポートの変更

- Cisco Unity C-2

ポート

- Cisco ボイスメールの更新 50-8
- 検索 50-2
- 更新 61-127
- コピー 50-9
- 削除 50-6
- 追加 50-5
- 変更 61-124

ま

マニュアル

- 対象読者 xxviii
- 表記法 xxxi
- マニュアルの構成 xxix
- 目的 xxviii
- マニュアルの構成 xxix

め

メディア リソース グループ

- 検索 38-3
- 更新 38-8
- コピー 38-10
- 削除 38-12
- 設定 38-1
- 設定値 (表) 38-14
- 追加 38-6

メディア リソース グループ リスト

- 検索 39-2
- 更新 39-7
- コピー 39-9
- 削除 39-11
- 設定 39-1
- 設定値 (表) 39-13
- 追加 39-5

ゆ

ユーザ ID

- 検索 62-37

ユーザ グループ

- 削除 69-10
- 説明 69-9
- 追加 69-9
- 特権 69-15
- 特権の割り当て 69-15
- 特権レポートの表示 69-16
- ユーザの削除 69-13
- ユーザの追加 69-11
- ユーザの特権の表示 69-17

ユーザ デバイス プロファイル

- Dependency Records 58-11

ユーザ情報

- Automated Attendant 67-15
- PIN の変更 67-12
- SoftPhone、Cisco IP 67-17
- アプリケーション プロファイル 67-13
- エクステンション モビリティ 67-16
- 新規ユーザの概要 67-1
- 設定値 (表) 67-5, 70-4
- ユーザ パスワードの変更 67-10
- ユーザとデバイスの関連付け 67-13
- ユーザの追加 67-2

ユーザの設定

- Cisco Unity ボイスメールボックス 67-3
- 使用可能な文字 67-8

り

リージョン

- 検索 7-2
- 更新 7-7
- 削除 7-8
- 設定 7-1
- 設定値 (表) 7-10
- 追加 7-4

る

ルート グループ

- 検索 21-2
- 更新 21-9

- 削除 21-10
- 設定値 (表) 21-12
- 追加 21-4
- デバイスの削除 21-8
- デバイスの追加 21-6
- ルート パターン
 - 検索 23-2
 - 更新 23-7
 - コピー 23-8
 - 削除 23-10
 - 設定 23-1
 - 設定値 (表) 23-11
 - 追加 23-5
- ルート フィルタ
 - Dependency Records 16-14
 - 演算子
 - 説明 16-18
 - 説明 (表) 16-19
 - クローズ (文節) の削除 16-12
 - クローズ (文節) の追加 16-10
 - 検索 16-3
 - 更新 16-6
 - コピー 16-7
 - 削除 16-14
 - 設定 16-1
 - 設定値 (表) 16-9
 - タグ
 - 説明 16-16
 - 説明 (表) 16-17
 - 追加 16-5
- ルート プラン
 - 外部ルート プラン ウィザード 28-1
 - 外部ルート プラン ウィザードを使用する確認 28-12
 - 外部ルート プラン ウィザードを使用する完成 28-13
 - 外部ルート プラン ウィザードを使用する削除 28-14
 - 外部ルート プラン ウィザードを使用する生成 28-11
- レポート
 - 設定 29-1
 - ファイル内の表示 29-8
 - レコードを表示 29-2
 - 割り当てられていない電話番号の更新 29-6
 - 割り当てられていない電話番号の削除 29-5
- ルート リスト
 - 検索 22-2
 - 削除 22-15
 - 設定 22-1
 - 追加 22-5
 - ルート グループの削除 22-11
 - ルート グループの順位の変更 22-13
 - ルート グループの追加 22-8
- ろ
- ロケーション
 - 検索 10-3
 - 更新 10-7
 - 削除 10-8
 - 設定 10-1
 - 設定値 (表) 10-11
 - 帯域幅の再同期化 10-10

追加 10-5

わ

割り当てられていない電話番号

更新 29-6

削除 29-5